EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO
3 1761 03008 0758

大正八年十月十二日印刷
大正八年十月十五日發行

不許複製

編輯兼發行者 早稲田大學出版部
右代表者 種村宗八
東京府豐多摩郡戸塚町大字下戸塚五十八番地

印刷者 渡邊八太郎
東京市牛込區榎町七番地

印刷所 日清印刷株式會社

發行所 早稲田大學出版部
東京市牛込區早稲田
振替東京一一二三番

ものは、權利盡くれば交疎なりと、甫瑕の如きは卽ち是れなり、甫瑕は鄭君を刧殺して、厲公を入らしむと雖も、厲公は終に甫瑕の勞を賞せずして、之を殺せり、甫瑕は晉の里克と、何ぞ異ならんや、甫瑕里克は、共に叛亂の臣なり、其の誅を免れざるも宜なり、然れども、臣節を守ること晉の荀息の如きは、其の身死するも、其の君奚齊を存する能はず、是に由りて觀れば、國變の從り來る所は、蓋し亦其の故多きなり、

【字解】　權利、其の一時の利害なり、今日の法律上に於ける權利と其の意義を異にす、

史記國字解第三卷終

丘、鄭城京、十六年、鄭伐韓、敗韓兵於負黍、二十年、韓趙魏列爲諸侯、二十三年、鄭圍韓之陽翟、二十五年、鄭君殺其相子陽、

【講義】繻公の十五年に、韓の景侯は鄭を伐ち、雍丘を取る、鄭は京に築城す、十六年に、鄭は韓を伐ち、韓兵を負黍に敗る、二十年に、韓魏趙は列して諸侯と爲る、二十三年に、鄭は韓の陽翟を圍む、二十五年に、繻公は其の國相子陽を殺す、

【字解】雍丘、今の河南開封府杞縣に屬す、京、本篇の莊公條下に在り、負黍、今の河南汝寧府に屬す、陽翟、今の河南開封府禹州に在り、

二十七年、子陽之黨、共弒繻公駘、而立幽公弟乙、爲君、是爲鄭君、鄭君乙立二年、鄭負黍反、復歸韓、十一年、韓伐鄭、取陽城、二十一年、韓哀侯滅鄭、幷其國、

【講義】繻公の二十七年に、子陽の黨は共に謀りて、繻公を弑し、幽公の弟乙を立て、君と爲す、是を鄭君とす、鄭君乙立ちて二年に、鄭の曩に侵略したる負黍は、反きて韓に復歸す、十一年に、韓は鄭を伐ち、陽城を取る、二十一年に、韓の哀侯は、鄭を滅し、其の國を韓に入る、

【字解】負黍、前節に在り、陽城、負黍に近し、

太史公曰、語有之、以權利合者、權利盡而交疎、甫瑕是也、甫瑕雖以劫殺鄭子、內厲公、厲公終背而殺之、此與晉之里克、何異、守節如荀息、身死、而不能存奚齊、變所從來、亦多故矣、

【講義】太史公曰く、語に之れ有り、權利を以て合ふ

【字解】親戚、父母なり、少子、末子なり、

八年、晉范中行氏反レ晉、告二急於鄭一、鄭救レ之、晉伐レ鄭、敗二鄭軍於鐵一、十四年、宋景公滅レ曹、二十年、齊田常弑二其君簡公一、而常相二於齊一、二十二年、楚惠王滅レ陳、孔子卒、二十六年、晉知伯伐レ鄭、取二九邑一、三十七年、聲公卒、子哀公易立、

【講義】聲公の八年に、晉の六卿相爭ひ、范氏及び中行氏は、知韓魏趙の四氏と攻戰す、范中行の兩氏は、遂に晉に反き、危急を鄭に告ぐ、鄭は之を救ふ、晉は鄭を伐ち、鄭軍を鐵に敗る、十四年に、宋の景公は曹を滅す、二十年に、齊の田常は其の君簡公を弑し、田常は齊に宰相たり、二十二年に、楚の惠王は陳を滅す、是の年に、孔子卒す、二十六年に、晉の知伯は鄭を伐ち、九縣を取る、三十七年に、聲公卒す、子哀公易立つ、

【字解】鐵、晉の地なり、今の直隷大名府に屬す、曹、陳、各其の世家に詳なり、

哀公八年、鄭人弑二哀公一、而立二聲公弟丑一、是爲二共公一、共公三年、晉滅二知伯一、三十年、共公卒、子幽公已立、幽公元年、韓武子伐レ鄭、殺二幽公一、鄭人立二幽公弟駘一、是爲二繻公一、

【講義】哀公の八年に、鄭人は哀公を弑して、聲公の弟丑を立つ、是を共公と爲す、共公三年に、晉は知伯を滅す、三十年に、共公卒す、子幽公已立つ、幽公の元年に、韓武子は鄭を伐ち、幽公を殺す、鄭人は幽公の弟駘を立つ、是を繻公とす、

【字解】韓武子、韓の世家に詳なり、

繻公十五年、韓景侯伐レ鄭、取二雍

【字解】六卿、晉の世家に詳解せり、

六年、鄭火、公欲禳之、子産曰、不如脩徳、八年、楚太子建來奔、十年、太子建與晉謀襲鄭、鄭殺建、建子勝奔呉、十一年、定公如晉、晉與鄭謀、誅周亂臣、入敬王于周、十三年、定公卒、子獻公蠆立、

【講義】定公の六年に、鄭は其の首都に大火有り、定公は之を禳はんと欲す、子産曰く、災を禳ふは、徳を修むるに若かず、八年に、楚の太子建は亡げて鄭に入る、十年に、楚の太子建は晉と謀りて、鄭を襲はんとす、鄭は建を殺す、建の子勝は呉に奔る、十一年に、定公は晉に往く、晉は鄭と謀りて、周の叛亂の徒を誅伐し、敬王を周に入らしむ、十三年に、定公卒し、子獻公蠆立つ、

獻公十三年卒、子聲公勝立、當是時、晉六卿彊、侵奪鄭、鄭遂弱、聲公五年、鄭相子産卒、鄭人皆哭泣、悲之如亡親戚、子産者、鄭成公少子也、爲人仁、愛人事君、忠厚、孔子嘗過鄭、與子産如兄弟云、及聞子産死、孔子爲泣曰、古之遺愛也、兄事子産、

【講義】獻公の十三年に、獻公卒す、子聲公勝立つ、是の時に當り、晉の六卿は強くして、鄭を侵し、其の地を奪ふこと多し、鄭は遂に弱小となる、聲公の五年に、鄭の宰相子産卒す、鄭人皆哭泣し、父母の喪を悲むが如し、子産は鄭の成公の末子なり、其の性質は、仁厚にして人を愛し、君に事ふる忠惇なり、孔子は嘗て鄭に至り、子産と相親しむ、兄弟の如しと云ふ、子産の死するや、孔子は之を聞き涕泣し曰く、子産は古人仁愛の遺風なりと、蓋し孔子は子産に兄事したり、

平公及叔嚮曰、善、博物君子也、厚爲之禮於子產、

【講義】晉の平公及び叔向は曰く、善し、博學の君子なりと、子產の說に敬服し、厚く子產を禮遇したり、

【字解】嚮、向に通ず、博物、博く萬物の理に通ずるなり、

二十七年、夏、鄭簡公朝晉、冬畏楚靈王之彊、又朝楚、子產從、二十八年、鄭君病、使子產會諸侯、與楚靈王盟於申、誅齊慶封、三十六年、簡公卒、子定公寧立、秋、定公朝晉昭公、

【講義】簡公の二十七年夏に、簡公は晉に入朝す、其年冬に、簡公は楚の靈王の强きを畏れ、楚に入朝す、子產隨行す、二十八年に、簡公病む、子產をして諸侯に會せしめ、楚の靈王と申に盟ふ、楚は齊の慶封を誅す、三十六年に、簡公卒す、子定公寧立つ、此の年秋に、定公は晉の昭公に朝覲す、

【字解】申、慶封、楚の世家に詳解せり、

定公元年、楚公子棄疾、弑其君靈王而自立、爲平王、欲行德諸侯、歸靈王所侵鄭地于鄭、四年、晉昭公卒、其六卿彊、公室卑、子產謂韓宣子曰、爲政必以德、毋忘所以立、

【講義】定公の元年に、楚の公子棄疾は、其の君靈王を弑して自立し、平王と爲る、乃ち德を諸侯に行はんと欲し、靈王の侵略したる鄭の地を、鄭に返還す、四年に、晉の昭公卒す、是の時に當り、晉は六卿强し、公室卑し、子產は韓宣子に謂ひ曰く、國政を行ふ、必らず德を以てせよ、國政の立つ所以を忘るゝ勿れと、

【字解】大夏、周の世に於ける晉の地なり、今の山西太原太原縣なり、參、水星なり、唐、晉なり、商、殷なり、季世、夏殷を經たる唐の嗣君なり、大叔、唐叔虞なり、已、武王を指す、而、女なり、

昔、金天氏有裔子、曰昧、爲玄冥師、生允格臺駘、臺駘能業其官、宣汾洮、障大澤、以處太原、帝用嘉之、國之汾川、沈姒蓐黃實守其祀、今晉主汾川而滅之、由是觀之、則臺駘汾洮神也、

【講義】子產は、更に臺駘を說明して曰く、古昔の帝者金天氏は末子有り、昧と曰ふ、水官の長たり、允格臺駘を生む、臺駘は能く其父の官を守り汾水洮水を疏通し、大澤に陂塘し、以て荒漠なる原野に居れり、堯帝は之を嘉賞し、之を汾水の邊に封じて、國を建つ、沈、姒、蓐、黃の四國は、實に此の臺駘の祭祀を守れり、今や、晉は汾水を領して、此の四國を滅したり、是に由りて觀れば、臺駘は汾洮兩水の神靈なり、

【字解】裔、裔に同じ、末なり、玄冥、水なり、宣、流通なり、障、堤防なり、太原、汾川、共に春秋戰國に於ける晉の要地なり、

然、是二者、不害君身、山川之神、則水旱之菑、禜之、日月星辰之神、則雪霜風雨、不時、禜之、若君疾、飲食哀樂女色所生也、

【講義】子產は竟に其の說を結びて曰く、然らば、此の實沈臺駘の兩者は、君の身に害せざるを見るべし、蓋し山川の神は、水旱の災有れば、之を祭る、日月星辰の神は、雪霜風雨の時節に相應せざる場合に、之を祭る、今や君の疾の若きは、飲食哀樂女色の生じたる所のみ、

【字解】菑、災なり、禜、祭るなり、山川之神、臺駘なり、星辰之神、實沈なり、

季曰實沈、居曠林、不相能也、日操干戈、以相征伐、后帝弗臧、遷閼伯於商丘、主辰、商人是因、故辰爲商星、

【講義】子產は對へて曰く、昔時高辛氏に、二子有り、長を閼伯と曰ひ、季を實沈と曰ふ、荒漠なる林野に居り、相和せず、日に干戈を執り、以て相征伐す、帝堯は之を善しと思惟せず、閼伯を商丘に遷し、辰星を主り祀らしむ、商人は是に因る、故に辰を商星と爲す、

【字解】高辛氏、堯帝の前の帝なり、后帝、後帝なり、堯を指す、臧、善なり、商丘、周の世に於ける宋の地なり、辰、火星なり、商人、宋人なり、

遷實沈于大夏、主參、唐人是因、服事夏商、其季世曰唐叔虞、當武王邑姜方娠大叔、夢帝謂己、余命而子曰虞、乃與之唐、屬之參、而蕃育其子孫、及生、有文在其掌、曰虞、遂以命之、及成王滅唐、而國太叔焉、故參爲晉星、由是觀之、則實沈參神也、

【講義】子產は尙其の對を進めて曰く、帝堯は實沈を大夏に遷し、參星を主り祀らしむ、唐人は是に因り、夏殷の二代に服從す、其の季世を唐叔虞と曰ふ、周の武王の后なる邑姜が、唐叔虞を孕むに當り、天帝は武王の夢に入り告げて曰く、余は汝の子を命名して、虞と曰はん、乃ち之に唐の地を與へ、之を參星に屬せしめて、其の子孫を蕃育せしめんと、既にして邑姜は、男子を生む、其の子の掌の筋は、虞の字の形を成す、武王は遂に之に命名して、虞と曰ふ、成王は唐を滅して、其の地を唐叔虞に與へ、之を建て晉國とす、故に、參星は晉星たり、是に由りて觀れば、實沈は參星の神靈なり、

與ふ、子產は之を辭して三縣を受けたり、

二十二年、吳使延陵季子於鄭、見子產如舊交、謂子產曰、鄭之執政者侈、難將至、政將及子、子爲政、必以禮、不然鄭將敗、子產厚遇季子、

【講義】簡公の二十二年に、吳は延陵の季子を鄭に使す、季子は子產に面會して、舊來の交友の如し、子產に謂ひ曰く、鄭の政事を行ふものは皆侈る、故に、禍は至らんとす、政事は子の手に歸せん、子は政事を執るに至らば、必らず禮を以て上下の序を正せよ、然らざるときは、鄭の敗亡を見んと、子產は季子を厚遇したり、

【字解】禮、尊卑貴賤の秩序を正して、其の僭越驕侈を制するに在り、

二十三年、諸公子、爭寵相殺、又欲殺子產、公子或諫曰、子產仁人、鄭所以存者子產也、勿殺、乃止、

【講義】簡公の二十三年に、諸公子は君の寵幸を爭ひて相殺し、子產を殺さんと欲す、公子或は諫めて曰く、子產は仁人なり、鄭の存在する所以は、子產に在り、殺す勿れと、乃ち子產を殺すことを止めたり、

二十五年、鄭使子產於晉、問平公疾、平公曰、卜而曰、實沈臺駘爲祟、史官莫知、敢問、

【講義】簡公の二十五年に、鄭は子產を晉に使し、晉の平公の疾を問ふ、平公曰く、卜者は實沈臺駘が祟を爲すと云へり、然れども、史官は之を知る無し、敢て問ふ、

對曰、高辛氏有二子、長曰閼伯、

楚盟、子駟畏誅、故兩親晉楚、

【講義】簡公の元年に、諸公子は相謀りて、宰相子駟を誅せんと欲す、子駟は之を覺り、却て諸公子を誅し盡す、二年、晉は鄭を伐つ、鄭は晉と盟ふ、晉兵乃ち去る、其の年の冬に、鄭は更に楚と盟ふ、蓋し子駟は誅を畏る、故に晉楚兩國に親交したり、

三年、相子駟欲自立爲君、公子子孔、使尉止殺相子駟而代之、子孔又欲自立、子産曰、子駟爲不可、誅之、今又效之、是亂無時息也、於是子孔從之、而相鄭、

【講義】簡公の三年に、宰相子駟は自立して君と爲らんと欲す、是に於て、公子子孔は尉止をして子駟を殺さしめ、自から之に代る、既にして、子孔は更に自立せんと欲す、子産曰く、子駟は不可を爲す、故に之を誅す、然るに、今更に子駟に倣ふ、是れ國亂は時に息む無きなりと、子孔は乃ち子産の言に從ひて、鄭に宰相たり、

簡公四年、晉怒鄭與楚盟、伐鄭、鄭與盟、楚共王救鄭、敗晉兵、簡公欲與晉平、楚又囚鄭使者、十二年、簡公怒相子孔專國權、誅之、而以子産爲卿、十九年、簡公如晉、請衛君還、而封子産以六邑、子産讓、受其三邑、

【講義】簡公の四年に、晉は鄭が楚と盟ひたるを怒り、鄭を伐つ、鄭は晉と盟ふ、楚の共王は鄭を救ひ、晉兵を敗る、簡公は晉と和親せんと欲す、楚は鄭の使者を囚ふ、十二年に、簡公は宰相子孔が國權を專にするを怒り、之を誅す、而して子産を以て卿と爲す、十九年に、簡公は晉に往き、衛君の赦免を請ひ、衛君をして其の國に還らしむ、而して子産の功を賞し、六縣を

君と爲す、其の年の四月に、晉は鄭が君を立てたるを聞き、乃ち成公を放還す、鄭人は成公の歸るを聞き、亦其の君繻を殺して、成公を迎ふ、晉兵退去す、

十年、背晉盟、盟於楚、晉厲公怒、發兵伐鄭、楚共王救鄭、晉楚戰鄢陵、楚兵敗、晉射傷楚共王目、俱罷而去、

【講義】成公の十年に、鄭は晉の盟に背き楚に盟ふ、晉の厲公怒り、兵を發して鄭を伐つ、楚の共王は鄭を救ふ、晉楚鄢陵に戰ふ、楚兵敗る、晉は射て、楚の共王の目を傷ふ、晉楚は各其の兵を收めて去る、

【字解】鄢陵、鄭の地なり、晉楚の兩世家に詳なり、

十三年、晉悼公伐鄭、兵於洧上、鄭城守、晉亦去、十四年、成公卒、子惲立、是爲釐公、釐公五年、鄭相子駟朝釐公、釐公不禮、子駟怒、使厨人藥殺釐公、赴諸侯曰、釐公暴病卒、立釐公子嘉、嘉時年五歲、是爲簡公、

【講義】成公の十三年に、晉の悼公は鄭を伐ち、洧水の上に軍す、鄭は城守す、晉軍乃ち去る、十四年に成公卒す、子惲立つ、是を釐公とす、釐公の五年に、鄭の宰相子駟は、釐公に朝禮す、釐公は之に禮せず、子駟怒り、厨人をして釐公を毒殺せしめ、諸侯に告げて曰く、釐公は暴に病み卒すと、乃ち釐公の子嘉を立つ、嘉は此の時に年五齡なり、是を簡公とす、

【字解】藥、毒なり、赴、告なり、洧、キと讀む、溱水に連りたる鄭の名水なり、

簡公元年、諸公子謀、欲誅相子駟、子駟覺之、反盡誅諸公子、二年、晉伐鄭、鄭與盟、晉去、冬又與

弟輪於楚、自訟、訟不直、楚囚輪、於是、鄭悼公來與晉平、遂親、輪私於楚子反、子反言歸輪於鄭、

【講義】襄公の十八年に、襄公卒す、子悼公濆立つ、悼公の元年に、鄦公は鄭を楚に讒す、悼公は弟輪を楚に使として、之を訟へしむ、其の訟は鄭の曲に歸す、楚は乃ち輪を囚ふ、是に於て、悼公は晉に往きて平和を約し、遂に親交す、輪は楚の子反に私して、相親む、子反は楚王に辯解して、輪を鄭に歸らしめたり、

【字解】鄦、許に同じ、今の河南開封府許州なり、

二年、楚伐鄭、晉兵來救、是歲悼公卒、立其弟輪、是爲成公、成公三年、楚共王曰、鄭成公、孤有德焉、使人來與盟、成公私與盟、秋、成公朝晉、晉曰、鄭私平於楚、執之、使欒書伐鄭、

【講義】悼公の二年に、楚は鄭を伐つ、晉兵來り救ふ、是の年に、悼公卒す、鄭は悼公の弟輪を立つ、是を成公と爲す、成公の三年に、楚の共王曰く、鄭の成公は嘗て我より恩惠を受けたりと、乃ち人をして鄭に來り成公と盟はしむ、成公は祕密に此の盟を行へり、是の年の秋に、成公は晉に入朝す、晉曰く、鄭は私に楚に親しむと、乃ち成公を捕へ、欒書をして鄭を伐たしむ、

【字解】孤、諸侯の謙稱なり、楚の共王自から稱するなり、

四年春、鄭患晉圍、公子如乃立成公庶兄繻爲君、其四月、晉聞鄭立君、乃歸成公、鄭人聞成公歸、亦殺君繻、迎成公、晉兵去、

【講義】成公の四年春に、鄭は晉兵の攻圍を受けて苦しむ、是に於て、公子如乃は成公の庶兄繻を立て、

故に、宋は危急と雖も、愼みて守るべし、楚に降る勿れ、晉兵は今至ると、

【字解】 樓車、謂はゆる雲梯なり、車上に高く設けたる望櫓なり、負、背くなり、

楚莊王大怒、將殺之、解揚曰、君能制命爲義、臣能承命爲信、受吾君命以出、有死無隕、莊王曰、若之許我、已而背之、其信安在、解揚曰、所以許王、欲以成吾君命也、

【講義】 楚の莊王は、大に怒りて之を殺さんと欲す、解揚曰く、君は能く君の命を制するを以て義と爲す、臣は能く君の命を受くるを以て信と爲す、今や臣は吾晉君の命を受けて、國を出でたり、臣の身は死する有るも、吾晉君の命令を失墜すること無しと、莊王曰く、汝は我の要求を承諾したり、既にして之に背く、其の信は何の處に在るかと、解揚曰く、王に承諾したる所以は、吾君の命令を成し遂げんと欲したればなりと、

【字解】 隕、失墜するなり、命令に背くなり、若、汝なり、安、何處なり、

將死、顧謂楚軍曰、爲人臣、毋忘盡忠得死者、楚王諸弟皆諫王、赦之、於是赦解揚、使歸、晉爵之爲上卿、

【講義】 解揚は刑に臨み、楚軍を顧みて之に謂ひ曰く、人臣と爲り、忠を盡して、刑に死したるものを忘るゝ勿れと、楚王の諸弟は、皆諫めて之を赦さんと欲す、是に於て、楚王は解揚を赦し、晉に歸らしむ、晉は解揚を爵賞して、之を上卿とす、

十八年、襄公卒、子悼公濆立、悼公元年、鄦公惡鄭於楚、悼公使

家に詳なり、

十年、晉來伐鄭、以其反晉而親楚也、十一年、楚莊王伐宋、宋告急于晉、晉景公欲發兵救宋、伯宗諫晉君曰、天方開楚、未可伐也、

【講義】 襄公の十年に、晉は來り鄭を伐つ、其の晉に背き楚に親しむを以てなり、十一年に、楚の莊王は宋を伐つ、宋は危急を晉に告ぐ、晉の景公は兵を以て宋を救はんと欲す、晉の大夫伯宗は、晉君を諫めて曰く、天は方に楚を開く、晉は未だ楚を伐つを得ずと、

乃求莊士、得霍人解楊字子虎、誆楚、令宋毋降、過鄭、鄭與楚親、乃執解楊而獻楚、楚王厚賜與約、使反其言、令宋趣降、三要乃許、

【講義】 晉は乃ち壯士を求め、霍の人解楊字は子虎を得たり、因て楚を欺き、宋をして降ること無からしめんとす、解楊は晉の命を奉じて、鄭を通過す、鄭は楚に親しむ、乃ち解楊を捕へて、楚に獻ず、楚王は厚く物を賜ひ、解楊と約定し、晉の命に背かしめ、宋をして速に降らしめんと欲す、此の事を要求する三度に及びて、解楊は承諾したり、

【字解】 霍、晉の邑なり、今の山西平陽府霍州なり、趣、速なり、

於是、楚登解楊樓車、令呼宋、遂負楚約、而致其晉君命曰、晉方悉國兵以救宋、宋雖急、愼毋降楚、晉兵今至矣、

【講義】 是に於て、楚は解楊を樓車に登らしめ、宋城に向ひ大呼せしむ、解楊は遂に楚の約に背き、晉君の命を致して曰く、晉は方に國兵を悉して、宋を救ふ、

を表す、擘羊は、牽羊に同じ、敵の命を奉じて、羊を割烹する賤役なり、孤、諸侯の自から稱する謙語なり、敢不、不敢不の三字に同義なり、敢の一字と見るも可なり、厲宣桓武、此の四君は、鄭の祖なり、不毛、瘠せたる地なり、錫、賜なり、

莊王爲却三十里、而後舍、楚群臣曰、自郢至此、士大夫亦久勞矣、今得國舍之、何如、莊王曰、所爲伐、伐不服也、今已服、尙何求乎、卒去、

【講義】楚の莊王は、鄭伯の言行に感じて、其の軍を退くる三十里に及び、而る後に舍る、楚の群臣曰く、楚の郢都より此の鄭に至る遠征には、士大夫も亦久しく勞せり、今や鄭國を得たるに、之を棄つるは何ぞやと、莊王曰く、國を伐つ所以は、其の服從せざるを伐つに在り、今や、鄭は既に服從したり、尙何をか求めんやと、竟に去る、

【字解】三十里、日本の五里强なり、軍の一日の行程なり、舍之、其の國を釋すなり、

晉聞楚之伐鄭、發兵救鄭、其來持兩端、故遲、比至河、楚兵已去、晉將率或欲渡、或欲還、卒渡河、莊王聞、還擊晉、鄭反助楚、大破晉軍於河上、

【講義】晉は楚が鄭を伐つを聞き兵を發し、鄭を救はんとしたり、然れども、其の來るときに、軍議は一致せず、兩端を持したり、故に遲滯して鄭の楚に降るを止むる能はず、晉軍が河水を渡らんとするときに、楚兵に既に退去す、是に於て、晉の將帥は渡らんと欲する有り、還らんと欲する有り、竟に皆渡る、楚の莊王は、之を聞き兵を還して晉を擊つ、鄭は却て楚を助け、大に晉軍を河上に破りたり、

【字解】比、コロと訓す、其の時分といふ意なり、率、帥なり、此の章は、名高き邲の大戰なり、晉楚の兩世

七年、鄭與晉盟鄢陵、八年、楚莊王以鄭與晉盟、來伐圍鄭、三月、鄭以城降楚、楚王入自皇門、

【講義】襄公の七年に、鄭は晉と鄢陵に盟ふ、八年に、楚の莊王は、鄭が晉と、盟ひたるを以て來り伐ち、鄭を圍む、其の年の三月に、鄭は城を開きて、楚に降る、楚王は皇門より鄭城に入る、

【字解】皇門、大門なり、鄭城の表門なり、鄢陵、前章に解せり、

鄭襄公肉袒、牽羊以迎曰、孤不能事邊邑、使君王懷怒、以及弊邑、孤之罪也、敢不惟命是聽、君王遷之江南、及以賜諸侯、亦惟命是聽、若君王不忘厲宣王桓武公、哀不忍絕其社稷、錫不毛之地、使復得改事君王、孤之願也、然非所敢望也、敢布腹心、惟命是聽、

【講義】鄭の襄公は肩の衣を脫ぎ、皮肉を露し、羊を牽き、楚王を迎へて曰く、孤は不德にして、君王の邊邑に事ふる能はず、君王をして怒を懷き、弊邑に臨ましむ、是れ孤の罪なり、敢て唯其の命ずる所を聽かざらんや、君王は鄭を江南に遷すも可なり、或は鄭を滅して、其地を諸侯に分與するも可なり、孤は唯君王の命ずる所を聽くのみ、然れども、若しも君王が、周の厲王宣王鄭の桓公武公を忘れず、其の子孫を憐み、其の國家の祭祀を絕滅するに忍びず、瘦せたる地を賜ひ、復た改めて君王に事ふるを得しめば、鄭の幸ならん、是れ孤の願なり、然れども、敢て希望する所に非ず、敢て腹心を布くのみ、唯君王の命を待ちて、之に聽從せん、

【字解】肉袒牽羊、自から罪を請ひ、敵の臣僕と爲る貌なり、肉袒は、肩の衣を脫ぎて、鞭打を受くる覺悟

先、夏弑靈公、鄭人欲立靈公弟去疾、去疾讓曰、必以賢、則去疾不肖、必以順、則公子堅長、堅者靈公庶弟、去疾之兄也、於是乃立子堅、是爲襄公、

【講義】靈公怒り、子公を殺さんと欲す、子公は子家と共に謀りて、先づ起たんとす、其の年の夏に、子公の徒は遂に靈公を弑す、鄭人は靈公の弟なる去疾を立てんと欲す、去疾は辭し讓りて曰く、必らず賢を以てすれば、去疾は不肖なり、必らず順を以てすれば、公子堅は年長なりと、堅は靈公庶弟にして、去疾の兄なり、是に於て、鄭人は公子堅を立つ、是を襄公とす、

襄公立、將盡去繆氏、繆氏者殺靈公子公之族家也、去疾曰、必去繆氏、我將去之、乃止、皆以爲大夫、

【講義】襄公は既に立つ、乃ち盡く繆氏を除去せんと欲す、蓋し繆氏は靈公を殺したる子公の一族なり、去疾曰く、必らず繆氏を去らば、我も鄭を去らんとすと、襄公は乃ち繆氏を除去せず、皆擧げて大夫と爲したり、

【字解】去之、鄭を去り、他國に之くなり、

襄公元年、楚怒鄭受宋賂縱華元、伐鄭、鄭背楚、與晉親、五年、楚復伐鄭、晉來救之、六年、子家卒、國人復逐其族、以其弑靈公也、

【講義】襄公の元年に、楚は鄭が宋の賂を受け、華元を釋したるを怒り、鄭を伐つ、是に於て、鄭は楚に背き、晉に親しむ、五年に、楚は復た鄭を伐つ、晉は來り鄭を救ふ、六年に、子家卒す、國人は復た子家の族を放逐す、其の靈公を弑したるを以てなり、

華元殺羊食士、不與其御羊斟、怒以馳鄭、鄭囚華元、宋贖華元、元亦亡去、晉使趙穿以兵伐鄭、二十二年、鄭繆公卒、子夷立、是爲靈公、

【講義】 前年、楚の太子商臣は、其の父成王を弑して、代り立つ、二十一年に、楚は宋の華元と共に鄭を伐つ、華元は羊を殺し士に食はしめたるも、其の御者羊斟に分與せず、羊斟は之を怒り、華元の車を御して、鄭軍に馳せ入る、鄭は華元を捕ふ、宋は華元を贖ふ、華元は其の贖を待たずして逃げ去る、是の年に、晉は趙穿をして、兵を以て鄭を伐たしむ、二十二年に、鄭の繆公卒す、子夷立つ、是を靈公とす、

靈公元年春、楚獻黿於靈公、子家子公將朝靈公、子公之食指動、謂子家曰、佗日指動、必食異物、及入、見靈公進黿羹、子公笑曰、果然、靈公問其笑故、具告靈公、靈公召之、獨弗予羹、子公怒、染其指、嘗之而出、

【講義】 靈公の元年春に、楚は黿を靈公に獻ず、鄭の大夫子家と子公とは、靈公に朝禮せんとす、子公は自己の手の第二指動くを視て、子家に謂ひ曰く、曩の日に此の指動けば、必らず珍味を食へりと、既にして公宮に入る、靈公が黿の羹を進むるを見る、子公は笑ひ曰く、果して然りと、靈公は其の笑ひたる故を問ふ、子公は細に之を告ぐ、靈公は諸大夫に黿羹を與へたるも、子公を召しながら、獨り之を與へず、子公怒り、其の第二指を鼎に染め、黿羹を嘗めて、退出したり、

【字解】 黿、大鼈なり、楚澤の名產なり、食指、手の第二指なり、佗、他なり、

公怒、欲殺子公、子公與子家謀

は興るもの有るべしと、而して子蘭の母は、卽ち其の後裔なり、且つ吾君の夫人の子は、皆既に死せり、殘餘の庶子は、子蘭の賢明なるに如くもの無し、今や攻圍は危急なり、而して晉は子蘭の太子たる事を以て請ふ、鄭國の利は此より大なるもの無しと、遂に晉に許し與に盟ふ、其の盟を畢りて、子蘭を立て太子と爲す、晉兵は乃ち罷き去る、四十五年に、鄭の文公卒し、子蘭立つ、是を繆公とす、

【字解】孰大焉、何レカ此ヨリ大ナランと訓ず、尤も大なりと謂ふなり、蓋し攻圍の危急に當りて、鄭の害を要求せず、晉は却て鄭を利す、故に、鄭の利は尤も大なりと謂ふなり、

繆公元年、春、秦繆公使三將將兵、欲襲鄭、至滑、逢鄭賈人弦高、詐以十二牛勞軍、故秦兵不至而還、晉敗之於崤、初往年鄭文公之卒也、鄭司城繒賀、以鄭情賣之、秦兵故來、三年鄭發兵從晉伐秦、敗秦兵於汪、

【講義】繆公の元年春に、秦の繆公は三將軍をして兵を率ゐしめ、鄭を襲はんと欲す、秦軍は進みて滑に至り、鄭の賈人弦高に逢ふ、弦高は詐りて牛十二頭を秦軍に贈り、之を慰勞す、故に、秦軍は鄭に至らず、還り去る、晉兵は秦軍を擊ち、之を崤に敗りたり、初め前年、鄭の文公の卒するや、鄭の司城繒賀は、鄭の實際の情態を秦に密告して、私利を圖れり、故に、秦兵は來襲したるなり、三年に、鄭は兵を發し、晉に從ひ、秦を伐ち、秦兵を汪に敗りたり、

【字解】滑、前節に解せり、崤、殽なり、晉の世家に詳なり、司城、城邑民事の取締り官なり、賣、鄭城の虛實を敵に告げて、其の報酬を受くるなり、汪、秦の地なり、今の陝西同州府澄城縣に在り、

往年、楚太子商臣、弑其父成王、代立、二十一年、與宋華元伐鄭、

患、然晉所以圍鄭、以詹、詹死而赦鄭國、詹之願也、乃自殺、

【講義】是に於て、晉は鄭の叔詹を得て、之に誅戮を加へんと欲す、鄭の文公は之を恐れ、敢て叔詹の爲めに辯解せず、叔詹は之を聞き、鄭君に言ひ曰く、臣は曩に晉の重耳を殺すことを以て、君に說きしも、君は之を聽かず、晉は竟に鄭の患害を成すに至れり、然れども、晉が鄭を圍む所以は詹を以てなり、詹死して、鄭國の赦免を得るは、詹の願ふ所なりと、乃ち自殺す、

鄭人以詹尸與晉、晉文公曰、必欲一見鄭君、辱之而去、鄭人患之、乃使人私於秦曰、破鄭益晉、非秦之利也、秦兵罷、

【講義】鄭人は叔詹の屍を以て、晉に與ふ、晉の文公曰く、一たび鄭君に會見し、之を辱めて去らんと欲すと、鄭人は之を憂慮す、乃ち人をして秦に私せしめ曰く、鄭を破りて晉の利を益すは、秦の利に非ずと、秦は之を聽きて、晉との聯合より離れ、其の兵を引き去る、

晉文公欲入蘭爲太子、以告鄭、鄭大夫石癸曰、吾聞姞姓乃后稷之元妃、其後當有興者、子蘭母其後也、且夫人子盡已死、餘庶子無如蘭賢、今圍急、晉以爲請、利孰大焉、遂許晉、與盟、卒而立子蘭爲太子、晉兵乃罷去、四十五年、文公卒、子蘭立、是爲繆公、

【講義】晉の文公は、鄭の子蘭を鄭城に入らしめ、之を鄭の太子に立てんと欲す、之を鄭に告ぐ、鄭の大夫石癸曰く、吾聞く、姞姓は后稷の元妃なり、其の後裔

す、襄王は鄭に出奔す、文公は王を氾に居らしむ、

【字解】氾、ハンと讀む、鄭の地なり、今の河南許州襄城縣の南に在り、

三十八年、晉文公入襄王成周、四十一年、助楚擊晉、自晉文公之過無禮、故背晉助楚、四十三年、晉文公與秦穆公共圍鄭、討其助楚攻晉者及文公過時之無禮也、

【講義】文公の三十八年に、晉の文公は襄王を成周に入らしむ、四十一年に、鄭は楚を助け晉を伐つ、蓋し曩に晉の文公の通過したるときに、鄭は之に禮せざるを以て、遂に晉に背き楚を助くるに至れるなり、四十三年に、晉の文公は、秦の穆公と共に、鄭を圍む、蓋し其の楚を助け晉を攻むるを討じ、且つ前年文公通過の時の無禮を責むるなり、

初、鄭文公、有三夫人、寵子五人、皆以罪蚤死、公怒溉、逐群公子、子蘭奔晉、從晉文公圍鄭、時、蘭事晉文公甚謹、愛幸之、乃私於晉、以求入鄭爲太子、

【講義】是より先に、鄭の文公は三夫人有り、寵愛の子五人有り、皆罪を以て早く死す、公は公子溉を怒り、遂に群公子を放逐す、子蘭は晉に奔り、晉の文公に從ふ、既にして晉が鄭を圍むに當り、子蘭は晉の文公に事へて甚だ謹み、其の寵愛を蒙る、故に、子蘭は晉に私して鄭に入らんことを求め、鄭の太子と爲らんことを求む、

晉於是、欲得叔詹爲僇、鄭文公恐、不敢爲叔詹言、詹聞言於鄭君曰、臣謂君、君不聽臣、晉卒爲

る、然れども、文公は之に禮せず、文公の弟叔詹曰く、重耳は賢なり、且つ同姓なり、窮厄に遭ひ君を訪ふ、君は禮無かるべからず、文公曰く、諸侯の逃亡したる公子にして、鄭を通過するもの多し、何ぞ能く盡く之に禮せんや、叔詹曰く、君が若しも禮せざるときは、遂に之を殺せ、之を殺さずして、晉國に還らしむるときは、必らず鄭の憂患と爲らんと、然れども、文公は之を聽かず、

【字解】過、至るなり、安、何なり、如、若しもなり、

三十七年、春、晉公子重耳反國、立、是爲文公、秋鄭入滑、滑聽命、已而反與衞、

【講義】文公の三十七年春に、晉の公子重耳は、國に還り立つ、是を晉の文公とす、此の年の秋に、鄭は滑に侵入す、滑は鄭の命を聽く、既にして、滑は却て衞に親む、

【字解】滑、姬姓の小國なり、今の河南偃師縣に屬す、

於是、鄭伐滑、周襄王使伯犕請滑、鄭文公怨惠王之亡在櫟、而文公父厲公入之、而惠王不賜厲公爵祿、又怨襄王之與衞滑、故不聽襄王請、而囚伯犕、王怒、與翟人伐鄭、弗克、冬、翟攻伐襄王、襄王出奔鄭、鄭文公居王于氾、

【講義】是に於て、鄭は滑を伐つ、周の襄王は大夫伯犕をして、滑を請はしむ、然れども、鄭の文公は之を聽かず、蓋し周の惠王の逃げて櫟に在るや、文公の父厲公は、惠王を周に入らしめたり、然るに、惠王は厲公に爵祿を與へず、故に、文公は之を怨む、且つ襄王が滑を衞に與ふるを怨む、故に、襄王の請を聽かず、而して伯犕を囚ふ、王怒り、狄人と共に鄭を伐つ、然れども、克つ能はず、其の年の冬に、狄は襄王を攻伐

に、厲公卒し、子文公踕立つ、蓋し厲公は初め立ちて四年に、亡げて櫟に居り、十七年を經て復た入り立つ七年なり、其の位に在ること前後相通じて二十八年なり、

文公十七年、齊桓公以兵破蔡、遂伐楚、至召陵、二十四年、文公之賤妾曰燕姞、夢天與之蘭曰、余爲伯儵、余爾祖也、以是爲而子、蘭有國香、以夢告文公、文公幸之、而予之草蘭爲符、遂生子、名曰蘭、

【講義】文公の十七年に、齊の桓公は兵を以て蔡を破り、遂に楚を伐ち、召陵に至る、二十四年に、文公の賤妾なる燕姞は、奇夢を感ず、其の夢に天帝の使は蘭を授けて曰く、余は伯儵なり、汝の祖なり、此の蘭を以て汝の子の名と爲さん、蘭は國中第一の香氣有り、以て其の子の德の馨しきを期すと、燕姞は其の夢を以て、文公に告ぐ、文公は之を幸福なりと思惟し、燕姞に蘭を與へて、證據とす、遂に子を生む、之を名けて蘭といふ、

【字解】召陵、齊の世家に解せり、天、天帝の使なり、伯儵、南燕國の祖なり、南燕は小國なり、世家無し、今の河南衛輝府汲縣なり、其の地は鄭に接す、而、汝なり、

三十六年、公子重耳過、文公弗禮、文公弟叔詹曰、重耳賢、且又同姓、窮而過君、不可無禮、文公曰、諸侯亡公子過者多矣、安能盡禮之、詹曰、君如弗禮、遂殺之、弗殺、使卽反國、爲鄭憂矣、文公弗聽、

【講義】文公の三十六年に、晉の公子重耳は、鄭に至

る、乃ち其の伯父原を責めて曰く、我は國を亡げて外に居る、然るに、伯父は我を迎ふるに意無し、其の無情も甚しと、原曰く、君に事へて二心無し、人臣の職分なり、原は罪を知れりと、遂に自殺す、

厲公於是、謂甫瑕曰、子之事君有二心矣、遂誅之、瑕曰、重德不報、誠然哉、

【講義】是に於て、厲公は甫瑕に謂ひ曰く、子が君に事ふるは二心有りと、遂に之を誅す、瑕曰く、吾聞く重大なる德惠を施したるものは、其の報酬を得ずと、誠に然るかなと、

厲公突後元年、齊桓公始霸、五年、燕衞與周惠王弟穨伐王、王出奔溫、立弟穨爲王、六年、惠王告急鄭、厲公發兵、擊周王子穨、弗勝、於是與周惠王歸、王居于櫟、

【講義】厲公突の後元年に、齊の桓公は始めて霸たり、五年に、燕衞の兩國は、周の惠王の弟なる王子穨と共に、惠王を伐つ、王は溫に出奔す、乃ち穨を立てて王と爲す、六年に、惠王は危急を鄭に告ぐ、厲公は兵を發し、穨を擊ちて勝たず、乃ち惠王と共に鄭に歸り、惠王を櫟に居らしむ、

【字解】溫、周の邑なり、今の河南懷慶府に屬す、櫟、前節に在り、燕、南燕なり、姞姓の國なり、今の河南衞輝府汲縣なり、

七年春、鄭厲公與虢叔襲殺王子穨、而入惠王于周、秋、厲公卒、子文公踕立、厲公初立、四歲、亡居櫟、居櫟十七歲、復入立、七歲、與亡凡二十八年、

【講義】厲公の後七年春に、厲公は虢叔と共に、王子穨を襲ひ殺して、惠王を周に入らしむ、是の年の秋

桓公、鄭子八年、齊人管至父等作亂、弑其君襄公、十二年、宋人長萬、弑其君滑公、鄭祭仲死、

【講義】是の年に、齊の襄公は公子彭生をして、醉に乘じ、魯の桓公を拉ぎ殺さしむ、鄭子の八年に、齊の管至父等の徒黨は、亂を作して、其の君なる襄公を弑す、十二年に、宋の長萬の徒黨は、其の君滑公を弑す、是の年に、鄭の祭仲死す、

十四年、故鄭亡厲公突在櫟者、使人誘劫鄭大夫甫瑕、要以求入、瑕曰、舍我、我爲君殺鄭子而入君、厲公與盟、乃舍之、六月甲子、瑕殺鄭子及其二子、而迎厲公突、突自櫟復入、卽位、

【講義】鄭子の十四年に、故の鄭より亡げたる厲公突は、櫟に在り、人をして鄭の大夫甫瑕を誘ひ劫かさしめ、之に强要して、鄭に入るを求む、瑕曰く、我を免せよ、我は君の爲めに、鄭子を殺して君を入らしめんと、厲公は乃ち瑕と盟ひて、之を免す、其の年の六月甲子の日に、瑕は鄭子及び其の二子を殺して、厲公突を迎ふ、突は櫟より復た入りて、位に卽く、

【字解】舍、放免なり、要、强ひて求むるなり、

初內蛇與外蛇、鬪於鄭南門中、內蛇死、居六年、厲公果復入、入而讓其伯父原曰、我亡國外居、伯父無意入我、亦甚矣、原曰、事君無二心、人臣之職也、原知罪矣、遂自殺、

【講義】是より先に、鄭の南門の中に於て、城內の蛇と、城外の蛇と爭鬪し、城內の蛇は敗死せり、其の後六年にして、厲公は此の蛇の前兆の如く、復た鄭に入

亹自齊襄公爲公子之時、嘗會鬪相仇、及會諸侯、祭仲請子亹無行、

【講義】子亹の元年七月に、齊の襄公は、諸侯を首止に會す、是に於て子亹は往き會す、高渠彌は隨行す、祭仲は病と稱して從はず、然る所以の者は、齊に殺されんことを恐れたるなり、蓋し子亹は齊の襄公が公子たる時に於て、會鬪し相仇とす、故に、襄公が諸侯を會するに及び、祭仲は子亹に行く無きを請ひたり、

【字解】首止、齊の世家に解せり、

子亹曰、齊彊、而厲公居櫟、卽不往、是率諸侯伐我、内厲公、我不如往、往何遽必辱、且又何至是、卒行、於是祭仲恐齊幷殺之、故稱疾、

【講義】子亹曰く、齊は强し、而して厲公は櫟に居る、故に鄭が此の會に參加せざるときは、齊必らず諸侯を率ゐて、我を伐ち、厲公を入らしめん、我は往くに如かず、往くも何ぞ遽に必らずしも辱められん、且つ又何ぞ我を害するに至らんと、子亹は竟に行く、是に於て、祭仲は齊が子亹を殺すに幷せて、自己をも殺さんことを恐る、故に、疾と稱して隨行を辭したり、

子亹至、不謝齊侯、齊侯怒、遂伏甲而殺子亹、高渠彌亡歸、歸與祭仲謀、召子亹弟公子嬰於陳、而立之、是爲鄭子、

【講義】子亹は齊に至りて、前日の相仇視したる事を謝罪せず、齊侯怒り、遂に兵を伏せて子亹を殺す、高渠彌逃げ歸る、是に於て、渠彌は祭仲と謀り、子亹の弟なる公子嬰を陳より召して、之を立つ、是を鄭子といふ、

是歲、齊襄公使彭生醉拉殺魯

公突、因櫟人、殺其大夫單伯、遂居之、諸侯聞厲公出奔、伐鄭、弗克而去、宋頗予厲公兵、自守於櫟、鄭以故亦不伐櫟、

【講義】 其の年の六月乙亥の日に、昭公は復た鄭に入り、位に卽く、其の秋に、厲公突は櫟人に因り、櫟の大夫單伯を殺し、遂に之に據る、諸侯は厲公の出奔したるを聞きて、鄭を伐ちたるも、克つ能はず、退去す、宋は頗る厲公に兵を與へ、櫟の防守に便にす、是の故に、鄭も櫟を伐たず、

昭公二年、自昭公爲太子時、父莊公欲以高渠彌爲卿、太子忽惡之、莊公弗聽、卒用渠彌爲卿、及昭公卽位、懼其殺己、

【講義】 昭公の二年に、鄭の大夫高渠彌は昭公を弑す、初め昭公が太子たる時に、父の莊公は高渠彌を以て、卿と爲さんと欲す、太子は之を惡む、莊公は聽かず、竟に渠彌を用ひて卿と爲す、故に、昭公の卽位に及びて、渠彌は昭公に殺されんことを懼れたり、

【字解】 太子忽、昭公なり、其、昭公なり、

冬十月辛卯、渠彌與昭公出獵、射殺昭公於野、祭仲與渠彌、不敢入厲公、乃更立昭公弟子亹爲君、是爲子亹也、無謚號、

【講義】 其の年の冬十月辛卯の日に、高渠彌は昭公と遊獵し、遂に昭公を野に射殺す、祭仲は渠彌と相議し、敢て厲公を入らしめず、乃ち更に昭公の末弟なる亹を立て君とす、是を子亹と稱す、謚號無し、

子亹元年七月、齊襄公會諸侯於首止、鄭子亹往會、高渠彌相從、祭仲稱疾不行、所以然者、子

つ突を捕へて鄭の賂を要求す、祭仲は乃ち之を承諾し、宋と盟約し、突を奉じて歸り、之を鄭君と爲す、

昭公忽聞祭仲以宋要立其弟突、九月辛亥忽出奔衞、己亥突至鄭立、是爲厲公、

【講義】 昭公忽は祭仲が宋の要求を容れ、弟突を立つるを聞き、其の年の九月辛亥の日を以て、衞に出奔す、其の月の己亥の日に、突は鄭に入り立つ、是を厲公とす、

四年、祭仲專國政、厲公患之、陰使其婿雍糾欲殺祭仲、糾妻祭仲女也、知之、謂其母曰、父與夫孰親、母曰、父一而已、人盡夫也、女乃告祭仲、祭仲反殺雍糾、戮之於市、

【講義】 厲公の四年に、祭仲は國政を專にす、厲公は之を惡み、內密に祭仲の婿なる雍糾に命じ、祭仲を殺さしめんとす、雍糾の妻は祭仲の女なり、此の秘事を知りて、母に謂ひ曰く、父と夫とは孰か親しきと、母曰く、父は一人のみ、天下の人は盡く夫なりと、女乃ち祭仲に告ぐ、祭仲は反て雍糾を殺し、之を市に戮したり、

【字解】 戮、其の屍を陳べて、曝すなり、

厲公無奈祭仲何、怒糾曰、謀及婦人、死固宜哉、夏厲公出居邊邑櫟、祭仲迎昭公忽、

【講義】 厲公は祭仲を奈何ともする能はず、乃ち雍糾を怒り曰く、事を謀りて婦人に知らしむ、其の死は固に宜なるかなと、其の年の夏に、厲公は鄭の首都を出で、其の邊邑なる櫟に居る、祭仲は昭公忽を迎ふ、

【字解】 櫟、今の河南開封府禹州に屬す、

六月乙亥、復入鄭即位、秋鄭厲

子忽、其弟突、次弟子亹也、

【講義】 莊公の三十八年に、北戎は齊を伐つ、齊の使は救を求む、鄭は太子忽をして、兵に將とし齊を救はしむ、齊の釐公は、其の女を以て忽に嫁せんと欲す、忽は謝して曰く、我は小國なり、齊の對比に非ずと、是の時に、鄭の大夫祭仲は、太子と與に軍に在り、太子に勸めて、齊の女を娶らしめ、曰く、吾君は寵愛の姬多し、太子は大援無し、其の立つを得ざるを恐る、太子に大援を作らざれば、三公子は皆君なりと、其の謂はゆる三公子とは、太子忽、其の弟突、其の次の弟亹是なり、

【字解】 敵、對比なり、同等なり、謝、辭して斷るなり、內寵、後宮の寵姬なり、

四十三年、鄭莊公卒、初祭仲甚有寵於莊公、莊公使為卿、公使娶鄧女、生太子忽、故祭仲立之、是為昭公、

【講義】 莊公の四十三年に、莊公卒す、初め祭仲は、甚だ莊公に寵愛せられ、鄭の卿と爲る、莊公をして鄧の女を娶らしめ、太子忽を生む、故に、祭仲は忽を立つ、是を昭公と爲す、

【字解】 卿、大夫の上位に在り、公使、使公の誤りなり、公をして・・・せしむる意なり、鄧、小國なり、今の河南南陽府鄧州なり、

莊公又娶宋雍氏女、生厲公突、雍氏有寵於宋、宋莊公聞祭仲之立忽、乃使人誘召祭仲、而執之曰、不立突、將死、亦執突以求賂焉、祭仲許宋、與宋盟、以突歸、立之、

【講義】 莊公は更に宋の雍氏の女を娶り、厲公突を生む、雍氏は宋に寵愛せらる、故に、宋の莊公は、祭仲が忽を立てたるを聞き、人をして祭仲を誘ひ召さしめ、之を捕へて曰く、突を立てざれば汝を殺すと、且

怒周弗禮、與魯易祊許田、三十三年、宋殺孔父、

【講義】莊公の二十七年に、莊公は始めて周の桓王に朝覲す、桓王は鄭が曩に周の禾を取りしを怒り、莊公に禮せず、二十九年に、莊公は周の無禮を怒り、周より賜りたる祊の邑を魯に與へ、以て魯の有する許の田に交換したり、三十三年に、宋は孔父を殺せり、

【字解】祊、許、魯の世家に詳解せり、

三十七年、莊公不朝周、周桓王率陳蔡虢衞、伐鄭、莊公與祭仲高渠彌、發兵自救、王師大敗、祝瞻射中王臂、祝瞻請從之、鄭伯止之曰、犯長且難之、況敢陵天子乎、乃止、夜令祭仲問王疾、

【講義】莊公の三十七年に、莊公は周に朝禮せず、周の桓王は陳蔡虢衞の四國を率ゐて、鄭を伐つ、莊公は其の大夫祭仲及び高渠彌と共に、兵を發して自から救ふ、王師は大に敗る、鄭の將祝瞻は、射て王の臂に中て、猶追撃せんと請ふ、莊公は之を止めて曰く、長者を犯すは猶之を憚る、況んや敢て天子を淩ぐに於てをや、自から愼むべしと、祝瞻乃ち止む、其の夜に、莊公は祭仲をして王の疾を問はしめたり、

【字解】陳蔡衞、三國は其の世家に解せり、虢、晉の世家に在り、從、追撃なり、オフと訓ず、鄭伯、莊公なり、且、猶なり、難、憚るなり、陵、淩ぐなり、問、見舞ふなり、

三十八年、北戎伐齊、齊使求救、鄭遣太子忽將兵救齊、齊釐公欲妻之、忽謝曰、我小國、非齊敵也、時祭仲與俱、勸使取之曰、君多內寵、太子無大援、將不立、三公子皆君也、所謂三公子者、太

る、鄢潰ゆ、段は共に出奔す、是に於て、莊公は其の母武姜を城潁に遷し、誓言して曰く、地下に至らざれば、相見えずと、

【字解】 京、前節に解す、鄢、鄭の地なり、謂ゆる鄢陵なり、今の河南開封府新鄭縣の東北に在り、潰、兵卒の崩れ走るなり、共、鄭に近接したる小國なり、今の河南衞輝府輝縣に屬す、城潁、鄭の地也、今の河南許州府臨潁縣に屬す、黃泉、地下の泉なり、死後を指す、

居歲餘、已悔思母、潁谷之考叔、有獻於公、公賜食、考叔曰、臣有母、請君食賜臣母、莊公曰、我甚思母、惡負盟奈何、考叔曰、穿地至黃泉、則相見矣、於是遂從之、見母、

【講義】 其の後一年餘にして、莊公は既に自から悔いて、母を思ふ、潁谷の考叔は、物を公に獻上す、公は之に食を賜ふ、考叔曰く、臣は母有り、請ふ君より恩賜の食を以て、母に與へん、公曰く、我甚だ母を思ふ、然れども、黃泉の誓言に背くを嫌ふ、之を奈何せん、考叔曰く、地を穿ちて黃泉に至らば、相見ゆるを得んと、是に於て、莊公は遂に之に從ひ、母に見えたり、

【字解】 居、其の後なり、潁谷、鄭の邊境なり、今の河南府登封縣なり、黃泉、前節に解す、

二十四年、宋繆公卒、公子馮奔鄭、鄭侵周地、取禾、二十五年衞州吁弒其君桓公、自立、與宋伐鄭、以馮故也、

【講義】 莊公の二十四年に、宋の繆公卒す、宋の公子馮は鄭に奔る、鄭は周の地を侵し、禾を取る、二十五年に、衞の州吁は、其の君桓公を弒して自立し、宋と共に鄭を伐つ、宋の公子馮が鄭に在るを以てなり、

二十七年、始朝周桓王、桓王怒其取禾、弗禮也、二十九年、莊公

聽、是歲、武公卒、寤生立、是爲莊公、

【講義】　武公の十年に、武公は申侯の女を娶り、夫人と爲す、是を武姜と曰ふ、太子寤生を生む、之を生むに當りて、武姜は困みたり、故に、其の生れたる後に、之を愛せず、後に末子叔段を生む、之を生むに當りて、武姜は困まず、故に叔段を愛したり、二十七年に、武公疾む、武姜は叔段を太子に立てんことを請ふ、然れども武公は之を聽かず、是の年に、武公卒す、寤生立つ、是を莊公と爲す、

【字解】　申、姜姓の小國なり、今の河南南陽府鄧州に屬す、

莊公元年、封弟段於京、號太叔、祭仲曰、京大於國、非所以封庶也、莊公曰、武姜欲之、我弗敢奪也、段至京、繕治甲兵、與其母武姜、謀襲鄭、

【講義】　莊公の元年に、弟段を京に封ず、是を太叔と號す、大夫祭仲曰く、京の地は鄭の首都よりも大なり、庶子を封ずる所以に非ずと、莊公曰く、武姜は之を希望す、我は之を奪ふことを敢てせずと、既にして段は京に至る、乃ち甲兵を繕ひ治め、其の母武姜と相謀りて、鄭の首都を襲はんと欲す、

【字解】　京、鄭の邑なり、今の河南開封府滎陽縣の東南に在り、國、其の國の首都を稱す、

二十二年、段果襲鄭、武姜爲內應、莊公發兵伐段、段走、伐京、京人畔段、段出走鄢、鄢潰、段出奔共、於是、莊公遷其母武姜於城潁、誓言曰、不至黃泉、毋相見也、

【講義】　莊公の二十二年に、叔段は果して鄭を襲ひ、武姜は內應を爲す、莊公は兵を發し、段を伐つ、段は敗走して京を保つ、京人は段に背く、段は出で鄢に走

王克紂、後成王封叔虞于唐、其地阻險、以此有德、與周衰並、亦必興矣、桓公曰善、

【講義】桓公曰く、周の衰へたる時に其の興るものは、何の國ぞ、太史曰く、其の興るものは、齊秦晉楚ならんか、夫れ齊は姜姓なり、伯夷の後裔なり、伯夷は堯帝を佐けて禮制を掌りたり、秦は嬴姓なり、伯翳の後裔なり、伯翳は舜帝を佐けて、百物を懐け柔んじたり、楚の先祖も、齊秦と均しく嘗て天下に功徳有り、而して周の武王が、殷紂に克ちたる後に、周の成王は、武王の末子なる叔虞を唐に封じたり、是れ晉の始祖なり、其の地は、山河の險要を占む、其の祖は有徳なり、故に、周と竝び衰ふと雖も、亦必らず興起せんと、桓公曰く善し、

【字解】齊秦晉楚、皆其の世家に詳なり、唐、晉の世家に解せり、伯夷、堯帝の臣なり、殷末の伯夷と別人なり、典、掌るなり、

於是、卒言王、東徙其民雒東、而虢鄶果獻十邑、竟國之、二歳、犬戎殺幽王於驪山下、幷殺桓公、鄭人共立其子掘突、是爲武公、

【講義】是に於て、桓公は竟に幽王に請ひ、鄭國の民を洛水の東に徙し、舊の如く、鄭國と稱す、虢鄶の兩國は、果して十邑を桓公に獻上したり、後二年にして、犬戎は幽王を驪山の下に殺し、幷に桓公を殺せり、鄭人は相議して、桓公の子掘突を立つ、是を武公と爲す、

【字解】驪山、周秦の兩本紀に詳なり、虢鄶、前節に解せり、

武公十年、娶申侯女、爲夫人、曰武姜、生太子寤生、生之難、及生、夫人弗愛、後生少子叔段、段生易、夫人愛之、二十七年、武公疾、夫人請公、欲立段爲太子、公弗

民也、

【講義】桓公曰く、何の故ぞ、太史對へて曰く、河洛の東南は、虢鄶の兩國に接す、虢鄶の君は、皆貪りて利を好み、人民は服從せず、今や公は司徒の顯職に在り、彼の地の人民は、皆公を愛す、公が若しも天子に請ひ受けて、之に居らば、虢鄶の君は、公が周に權勢有るを見て、速に其の地を公に分ち與へん、而して、公が若しも之に居らば、虢鄶の民は、皆公の民と爲らん、

【字解】虢鄶、兩國の名なり、共に今の河南開封府に屬す、事、權勢なり、輕、速なり、思ひ切ることの速なるをいふ、

公曰、吾欲南之江上、何如、對曰、昔祝融爲高辛氏火正、其功大矣、而其於周、未有興者、楚其後也、周衰、楚必興、興非鄭之利也、

【講義】桓公曰く、吾は南に遷り、江上に居らんと欲す、如何、太史對へて曰く、昔時祝融は高辛氏の帝業を佐けて、其の火正の官たり、祝融の功德は大なり、然れども、周の世に於て、祝融の子孫は、未だ興る者有らず、楚は祝融の後裔なり、周衰ふるときに、楚必ず興らん、楚の興るは鄭の利に非ず、故に、江上に遷るは不可なり、

公曰、吾欲居西方、何如、對曰、其民貪而好利、難久居、

【講義】桓公曰く、吾は西方に居らんと欲す、如何、太史曰く、其の民は貪りて利を好む、久しく居り難し、

公曰、周衰、何國興者、對曰、齊秦晉楚乎、夫齊姜姓、伯夷之後也、伯夷佐堯典禮、秦嬴姓、伯翳之後也、伯翳佐舜、懷柔百物、及楚之先、皆嘗有功於天下、而周武

便愛之、幽王以爲司徒、和集周民、周民皆說、河雒之閒、人便思之、爲司徒一歲、幽王以褒后故、王室治多邪、諸侯或畔之、

【講義】鄭の始祖なる桓公友は、周の厲王の末子なり、周の宣王の庶弟なり、宣王立ちて二十二年に、友は始めて鄭に封ぜらる、其の封を受けてより三十三年にして、人民は皆其の政事を便なりとし、其の君を愛す、周の幽王は、友を擧げて司徒と爲す、友は善く民事文敎を修め、周民を和集す、周民皆悅ぶ、河水洛水の間に於ける人民は、最も其の政事を便なりとして、之を慕ふ、友は司徒たる一年にして、幽王は褒姒を寵愛する故を以て、王室の政事に邪多し、諸侯の中には、周に背くもの有り、

【字解】鄭、今の河南開封府鄭州なり、蓋し桓公の始めて封を受けたるは、今の陝西周州府華州の北なり、桓公の晩年に於て、河南に遷りたるなり、便、便なり、司徒、周の王室の大臣なり、民事文敎を掌る、褒后、褒姒なり、周の本紀に詳なり、治、政事なり、雒、洛水なり、

於是、桓公問太史伯曰、王室多故、予安逃死乎、太史伯對曰、獨雒之東土、河濟之南、可居、

【講義】是に於て、桓公は周の太史伯陽に問ひ曰く、王室は亂れて事多し、余は何處に死を逃れんか、太史伯陽曰く、獨り洛水の東方、及び河水濟水の南方、皆居るべし、

【字解】太史伯、太史伯陽なり、周の本紀に詳なり、故、事故なり、

公曰、何以、對曰、地近虢鄶、虢鄶之君、貪而好利、百姓不附、今公爲司徒、民皆愛公、公誠請居之、虢鄶之君、見公方用事、輕分公地、公誠居之、虢鄶之民、皆公之

故范蠡三徙、成名於天下、非苟去而已、所止必成名、卒老死于陶、故世傳曰陶朱公、

【講義】故に、范蠡は楚に生れて越に徙り、齊の海畔に徙り、陶に徙り、其の三徙、皆能く名を天下に成せり、苟も其の地を去るのみに非ず、其の止まる所に於て、必らず名を成し、竟に陶に老死せり、故に、世は之を傳へ稱して、陶朱公と曰ふ、

太史公曰、禹之功大矣、漸九川、定九州、至于今、諸夏艾安、及苗裔勾踐、苦身焦思、終滅彊呉、北觀兵中國、以尊周室、號稱霸王、勾踐可不謂賢哉、蓋有禹之遺烈焉、范蠡三遷、皆有榮名、名垂後世、臣主若此、欲毋顯得乎、

【講義】太史公曰く、禹王の功徳は、廣大なり、九川を導き、九州を定め、今日に至るまで、中國の平安を致せり、其の後裔なる勾踐は、身を苦しめ、思を焦し、終に强呉を滅し、北征して兵を中國に觀し、以て周の王室を尊び、越は號して霸王と稱せらる、勾踐の如きは、賢と謂はざるべけんや、蓋し禹王の遺烈有りて然るなり、范蠡は、楚より越に入り、齊に徙り陶に轉ず、三遷して、皆榮名有り、名は後世に垂る、吁越は君臣共に此の若し、顯るゝこと無からんと欲するも得んや、其の顯榮は當然なり、

【字解】漸、導くなり、九川、九州、諸夏、夏の本紀に詳解せり、艾、治まるなり、

鄭世家第十二

鄭桓公友者、周厲王少子、而宣王庶弟也、宣王立二十二年、友初封于鄭、封三十三歲、百姓皆

及邑人盡哀之、

【講義】楚王は大に怒り曰く、余は不德と雖も、何ぞ朱公の子の故を以て、惠を施すに至らんや、乃ち令を下し、朱公の中子を論殺せしめ、其の刑の畢りたる明日を以て、遂に赦令を發す、朱公の長子は、竟に其の弟の喪を持し歸り至る、其の母及び其の邑人は、盡く之を哀みたり、

唯朱公獨笑、曰、吾固知必殺其弟也、彼非不愛其弟、顧有所不能忍者也、是少與我俱見苦、爲生難、故重棄財、至如少弟者、生而見我富、乘堅驅良、逐狡兎、豈知財所從來、故輕棄之、非所惜吝、前日吾所爲欲遣少子、固爲其能棄財故也、而長者不能、故卒以殺其弟、事之理也、無足悲者、吾日夜固以望其喪之來也、

【講義】唯朱公は獨り笑ひ曰く、吾は固に必らず其の弟を殺すを知るなり、長子は中子を愛せざるに非ず、顧ふに長子は財の貴きを知り、之を棄つることを忍ぶ能はざる情有り、蓋し長子は、少年の時より我と俱に生計の難きを苦心したり、故に、財を棄つることを恐れ憚る、之に反して、末子の如きに至りては、生れて我の家の富を見るのみ、堅車に乘り、良馬を驅り、狡兎を逐ひ、以て樂しむ、豈に財の從り來る所を知らんや、故に、財を棄つることを輕視す、千金の巨貲と雖も、吝む所に非ず、前日、吾の末子を遣らんと圖りしは、固に其の能く財を棄つるが爲めの故なり、然れども、長子は巨財を棄つる能はず、故に、竟に中子を殺すに至れり、是れ事の理なり、悲むに足るもの無し、吾は日夜固に以て其の喪の來るを望みたるのみ、

【字解】忍、思ひ切るなり、少、年若きなり、重、ハゞカルと訓ず、恐れ憚るなり、

經て、自然に赦されんとす、故に、來りて辭謝し去らんとす、

【字解】若、汝なり、辭生、辭莊生なり、

莊生知其意欲復得其金、曰、若自入室取金、長男卽自入室、取金持去、獨自歡幸、莊生羞爲兒子所賣、

【講義】莊生は朱公の長子の語を聽き、其の意中は復た其の金を得んと欲するに在るを知る、因て曰く、汝は自から室に入り、金を取るべしと、長子は卽ち自から室に入り、金を取り持ち去り、獨り自から其の幸福を歡びたり、而して莊生は兒子に欺かれたるを羞ぢたり、

乃入見楚王曰、臣前言某星事、王言欲以脩德報之、今臣出、道路皆言、陶之富人朱公之子、殺人囚楚、其家多持金錢、賂王左右、故王非能恤楚國而赦、乃以朱公子故也、

【講義】莊生は乃ち入り、楚王に謁して曰く、臣は曩に某星の事を言へり、王は曰く、德を修めて之に報じ、其の禍を除かんと欲すと、然るに、今日、臣は門を出でて聞くに、道路の人皆言ふ、陶の富人朱公の子は、人を殺して楚に囚はれ、其の家が多く金錢を持するを以て、王の左右の寵臣に賂ひたり、故に、王の赦罪は、能く楚國を恤みて赦すに非ず、乃ち朱公の子の故を以てなりと、

【字解】脩、修むるなり、左右、寵臣なり、

楚王大怒曰、寡人雖不德耳、奈何以朱公之子故、而施惠乎、令論殺朱公子、明日遂下赦令、朱公長男竟持其弟喪歸、至、其母

曰、今爲奈何、莊生曰、獨以德爲可以除之、楚王曰、生休矣、寡人將行之、王乃使使者封三錢之府、

【講義】莊生は楚王が少間の時を以て入り謁し、曰く、某星は某處に宿す、此は楚に害有りと、楚王は素より莊生を信ず、故に問ひ曰く、今や其の禍を除く如何、莊生曰く、獨り德を以て之を除くべし、楚王曰く、生休めよ、余は德を行はんとすと、乃ち使をして金銀銅三貨の府庫を封鎖せしむ、

【字解】三錢、黄金白銀赤銅の三貨なり、

楚貴人、驚告朱公長男曰、王且赦、曰、何以也、曰、每王且赦、常封三錢之府、昨暮王使使封之、朱公長男、以爲赦、弟固當出也、重千金、虛弃莊生、無所爲也、

【講義】楚の貴人は、驚きて朱公の長子に告げ曰く、王は罪人を赦さんとす、長子曰く、何を以て之を知るか、貴人曰く、王は罪人を赦さんとするに當り、常に金銀銅三貨の府庫を封鎖し、其の盜難を豫防す、昨夜、此の事有り、故に、赦有るを知ると、朱公の長子は、乃ち自ら謂ふ、赦有り、吾弟は出獄すべきなり、夫れ貨は千金を重しとす、然るに、之を虛しく莊生に棄つ、是れ爲す所無きなりと、

【字解】封、錢府を封鎖するは、赦を聞きたる人が、無罪を豫期し、錢府を犯すを以て、之を防ぐなり、弃、棄つるなり、

乃復見莊生、莊生驚曰、若不去邪、長男曰、固未也、初爲事弟、弟今議自赦、故辭生去、

【講義】朱公の長子は、乃ち復た莊生に見ゆ、莊生は驚きて曰く、汝は去らざるか、長子曰く、固に未だ去らず、初より弟を救はんが爲めなり、弟は今や廟議を

る勿れ、若しも汝の弟が無事に出獄するも、其の出獄したる所以を問ふ勿れ、

【字解】　負郭、郭外なり、城郭に近き所なり、藜藿、藜藿に同じ、藋も藿も、豆の野菜類なり、即、若シモなり、

長男既去、不過莊生、而私留、以其私齎、獻遺楚國貴人用事者、

【講義】　朱公の長子は、乃ち去り莊生の家に至らず、然れども、私に楚に留り、其の私に持ち來りたる數百金を擧げて、之を楚國の貴人權勢有る者に獻上したり、

莊生雖居窮閻、然以廉直、聞於國、自楚王以下、皆師尊之、及朱公進金、非有意受也、欲以成事後、復歸之、以爲信耳、故金至、謂其婦曰、此朱公之金、有如病不宿、誡後復歸、勿動、而朱公長男、不知其意、以爲殊無短長也、

【講義】　莊生は貧窮の巷に居ると雖も、廉直を以て、楚國に聞ゆ、楚王より以下、皆莊生を師として、之を尊ぶ、朱公より金を進められて、莊生は之を受くるに意無し、中子出獄の事を成就したる後に、其の金を返還し、以て信實を表せんと欲したるのみ、故に金の至るや、莊生は其の婦に謂ひ曰く、此れ朱公の金なり、若しも其の子が病に罹りて、豫備せざる事有らば、戒めて後に、此の金を返し與ふべし、故に、此の金を愼み守るべし、之を動かす勿れと、然れども、朱公の長子は、莊生の意を知らず、因て謂ふ、莊生は他人に比して、別に短所も無し、長所も無し、尋常一樣なりと、

【字解】　閻、小巷なり、宿、事を豫備するなり、アラカジメと訓す、誡、訓戒なり、

莊生間時入、見楚王、言、某星宿某、此則害於楚、楚王素信莊生、

少子、未必能生中子也、而先空亡長男、奈何、

【講義】朱公の長子は、固く行かんことを請ふ、朱公は許さず、長子曰く、家に長子有り、是を家督と曰ふ、今や中子に罪有り、然るに大人は此の家督たる長子を遣らず、乃ち末子を遣る、是れ長子の愚なるに由るなりと、因て自殺せんと欲す、其の母は長子の爲めに、朱公に謂ひ曰く、今や末子を遣るも、中子を救ふことを確定する能はず、然るに、先づ長子を死せしむ、之を奈何せんと、

【字解】家督、家の取締りなり、少弟、末弟なり、不肖、愚なり、未必、未ダ必ラズシモ……セズと訓ず、或は必し、或は必せず、確定せざるなり、

朱公不得已、而遣長子、爲一封書、遣故所善莊生曰、至則進千金于莊生、所聽其所爲、愼無與爭事、

【講義】朱公は已むを得ず、遂に長子を遣る、乃ち一封の書を作り、舊來親交なる莊生に贈り曰く、楚に至れば、千金を莊生の所に進めよ、而して莊生の爲す所に任すべし、愼みて待つべし、莊生と事を爭ふ勿れ、

【字解】故、舊なり、所善、交厚きなり、聽、任すなり、

長男既行、亦自私齎數百金、至楚、莊生家負郭、披藜藋到門、居甚貧、然長男發書、進千金、如其父言、莊生曰、可疾去矣、愼毋留、卽弟出、勿問所以然、

【講義】既にして、長子は楚に赴く、乃ち朱公の金千鎰を携へ、更に亦自から私に數百金を持ちて往き、楚の莊生を訪ふ、莊生の家は、楚の都の郭外に在り、藜藋の茂りたる路を推し披きて、門に到るを得べし、其の居は甚だ貧なり、然れども朱公の長子は、此の貧家に至り、書を呈し、千金を進む、其の父の言の如し、莊生曰く、汝は疾く去るべし、愼みて退くべし、楚に留

【講義】是に於て、范蠡は自から陶朱公と稱す、其の陶に居るや、復た節約にし、簡要を守り、父子相依り、耕作し、牧畜し、賣買し、時期を候ひ察して、物品を轉換し、以て商業の利を逐ひ取る、故に、居ること久しからずして、財を致し、萬萬を積み累ぬるに至り、天下皆陶朱公を稱したり、

【字解】畜、キクと讀む、動物を飼養するなり、廢居、賣買なり、廢は賣るなり、居は買ふなり、什一、十に對する一の利なり、一割の利をいふ、然れども、商業上の利益を概稱す、無何、無幾何に同じ、貲、財貨なり、巨萬、萬を萬倍したる巨額なり、大富を略稱す、

朱公居陶、生少子、少子及壯、而朱公中男殺人、囚於楚、朱公曰、殺人而死、職也、然吾聞千金之子、不死於市、告其少子、往視之、乃裝黃金千溢、置褐器中、載以一牛車、且遣其少子、

【講義】朱公は陶に居りて、少子を生む、少子は既に壯年に達す、此の時に、朱公の中子は、人を殺し楚に因はれたり、朱公曰く、人を殺して其の罪に死するは、本分なり、恨むべからず、然れども、吾は之を聞く、富人の子は市上に死せずと、朱公は乃ち其の少子に告げ、少子をして往き之を視察せしめんとす、因て黃金千鎰を荷物とし、之を賤者の野服雜物の中に置き、一牛車に載せて、其の少子を發遣せんとす、

【字解】少子、末子なり、壯、三十歲なり、職、其の身の本分なり、裝、荷造りすることなり、溢、鎰なり、一鎰は二十四兩なり、千鎰は二萬四千兩なれども、巨額の概稱とす、褐器、賤者の衣物雜品なり、且、將なり、マサニ……スと訓す、

朱公長男、固請欲行、朱公不聽、長男曰、家有長子、曰家督、今弟有罪、大人不遣、乃遣少弟、是吾不肖、欲自殺、其母爲言曰、今遣

子治產、居無幾何、致產數千萬、
齊人聞其賢、以爲相、

【講義】范蠡は海に浮びて越を出で、齊に入る、乃ち姓名を變じ、自から鴟夷子皮と稱す、齊の海畔に耕作し、身を苦しめ力を戮せ、父子相依りて、產業を經營す、居ること久しからず、早く既に產數千萬を致し、齊人は其の賢を聞き、之を擧げて宰相と爲したり、

【字解】鴟夷子皮、進退自由といふ意なり、鴟夷は革囊なり、革囊の皮の如く、卷くも舒ぶるも、自由なるを寓意とす、

范蠡喟然歎曰、居家則致千金、
居官則至卿相、此布衣之極也、
久受尊名不祥、乃歸相印、盡散
其財、以分與知友鄕黨、而懷其
重寶、間行以去、止于陶、以爲此
天下之中、交易有無之路通、爲
生可以致富矣、

【講義】范蠡は喟然歎じて曰く、家に居れば千金の富を致し、官に居れば卿相の貴に至る、此れ賤者の福を得たる極度なり、久しく尊名を受くるは不祥なりと、乃ち宰相を辭退して、其印を歸し、盡く其の財を散じ、之を知友鄕黨に分ち與へ、唯其の重寶を懷にし、微行して去り、陶に止る、自から謂ふ、此れ天下の中央なり、有無を交易する路は、四方に通達す、此に生計を爲せば、富を致すに足ると、

【字解】布衣、賤者の衣なり、賤しき身分を稱す、重寶、重は價を以ていふなり、故に輕寶と同じ、輕は貫目を以ていふなり、間、內密なり、陶、齊の要地なり、今の山東曹州府定陶縣なり、喟然、嗟歎する貌なり、

於是自謂陶朱公、復約要、父子
耕畜、廢居、候時轉物、逐什一之
利、居無何、則致貲累巨萬、天下
稱陶朱公、

勞、主辱臣死、昔者君王辱於會稽、所以不死、爲此事也、今既以雪恥、臣請從會稽之誅、

【講義】范蠡乃ち自から謂ふ、我は上將軍として大名譽有り、大名譽の下は身危し、久しく居り難し、且つ越王勾踐は、其の性質として、他人と共に患難に當るを得べきも、他人と共に安樂に處るに難しと、因て書を作り、勾踐に辭謝して曰く、臣聞く主が憂を抱けば臣は勞す、主が辱を受くれば臣は死すと、昔年君王は會稽に辱められたり、臣の死せざる所以は、此の辱の報復の爲めなり、今や既に以て此の恥を雪げり、臣は請ふ會稽の誅に從はん、

【字解】主憂、主憂則なり、主辱、主辱則なり、雪、洗なり、

勾踐曰、孤將與子分國而有之、不然、將加誅于子、范蠡曰、君行令、臣行意、乃裝其輕寶珠玉、自與其私徒屬、乘舟浮海、以行、終不反、於是、勾踐表會稽山、以爲范蠡奉邑、

【講義】勾踐曰く、余は汝と此の越の領域を分ち有たんと欲す、汝が此の事を承諾せざるときは、誅を汝に加へんとすと、范蠡曰く、君は君の號令を行へ、臣は吾の意思を行はんと、乃ち其の所持の輕便なる珍寶珠玉を荷物と爲し、自から其の私の徒屬を伴ひ、舟に乘り海に浮び、以て行き、越を去る、終に還らず、是に於て、勾踐は會稽山を表章し、以て范蠡を祭祀する邑と爲したり、

【字解】孤、諸侯の自から稱する謙語なり、裝、荷造りすることなり、奉邑、神廟に附屬したる土地なり、其の產物を祭祀の用に供ふるなり、珠、河に生じて小なり、玉、山に生じて大なり、

范蠡浮海出齊、變姓名、自謂鴟夷子皮、耕于海畔、苦身戮力、父

【講義】楚の威王は、兵を興して、越を伐ち、大に之を敗り、越王無彊を殺し、盡く呉の舊領地を取り、浙江に達す、遂に北征して、齊を徐州に破る、越は此の敗績に由り、自から其の統一を失ひて分散し、諸族子は爭ひ立ち、或は王と爲り、或は君と爲り、或る時は江南に接し、或る時は海上に濱し、纔に楚に服從して、敗餘を支ふるのみ、

【字解】浙江、越の要地なり、今の浙江に同じ、徐州、今の江蘇の徐州に屬す、服朝、服從して入朝するなり、濱、沿ふなり、

後七世、至閩君搖、佐諸侯平秦、漢高帝復以搖爲越王、以奉越後、東越閩君、皆其後也、

【講義】越は其の後七代にして、閩君搖に至る、閩君は諸侯を佐けて、秦を滅す、漢の高帝は復た閩君を以て、越王と爲し、越の後を奉ぜしむ、故に、漢の世に於ける東越君、及び閩君は、皆越王勾踐の後裔なり、

【字解】東越閩君、東越と閩との兩君なり、東越の列傳に詳なり、

范蠡事越王勾踐、既苦身戮力、與勾踐深謀、二十餘年、竟滅呉、報會稽之恥、北渡兵於淮、以臨齊晉、號令中國、以尊周室、勾踐以霸、而范蠡稱上將軍、還反國、

【講義】范蠡は越王勾踐に事へ、既に身を苦しめ力を戮せ、勾踐と共に深く謀る、二十餘年にして、竟に呉を滅し、會稽の恥を報復し、越の兵を淮水の北に渡らしめ、以て齊晉に臨み、中國に號令し、以て周室を尊び、勾踐をして霸業を成さしめたり、而して范蠡は上將軍と稱し、越に還り至れり、

范蠡以爲大名之下、難以久居、且勾踐爲人、可與同患、難與處安、爲書辭勾踐曰、臣聞主憂臣

上貢事於郢矣、臣聞之、圖王不王、其敝可以伯、然而不伯者、王道失也、故願大王之轉攻楚也、

【講義】齊の使者は、尙其の說を進めて曰く、且つ大王の求むる所は、晉楚の兩國をして、相鬪はしむるに在り、晉楚の相鬪はざるときは、越兵の起たざるを期す、是れ五を二倍して、十と爲るを知るのみ、既に十なるものの、十なるを知らざるなり、楚兵は既に分れたるを以て、越は晉を合せざるも、既に十なり、此の時にして、楚を攻めず、更に何の時をか期せん、臣は是を以て、越の大なるも王たらず、小なるも霸たらざるを知る、蓋し讎龐と長沙とは、楚の穀類を產する地なり、竟陵と澤とは楚の材木を生ずる地なり、越は楚を窺ひ、其の兵を楚の無假の關に進むれば、此の讎龐、長沙、竟陵、澤の四邑は、楚の郢都に上貢するを得ず、故に、越の楚を伐つは、今を以て其の時機とす、臣は之を聞く、王を圖れば王たらざるも、其の弊は猶霸たるを得べしと、然るに、其の霸たらざるもの有るは、何ぞや、王道を圖らざる失計なり、是の故に、臣は大王が此の王道の機を逸せず、兵を轉じて楚を攻めんことを願ふ、

【字解】伯、霸なり、復、復た思ふなり、蓋しと見るを便とす、讐龐、讎龐なり、楚の邑名なり、長沙に近し、長沙、今の湖南長沙府長沙縣なり、竟澤陵、竟陵澤なり、兩地の名なり、竟陵は今の湖北安陸府沃門縣なり、澤は竟陵に近し、無假、前節に解せり、

於是、越遂釋齊而伐楚、

【講義】是に於て、越王無彊は、遂に齊を釋てゝ楚を伐ち、自から敗亡の禍を速けり、

楚威王、興兵而伐之、大敗越、殺王無彊、盡取故吳地、至浙江、北破齊於徐州、而越以此散、諸族子爭立、或爲王、或爲君、濱於江南海上、服朝於楚、

於晉、

【講義】齊の使者曰く、吁越は亡びんとす、越の亡びざるは偶然の幸のみ、吾は越が外物を視る力を有しながら、自己を視る能はざるを賤しむ、吾は越が智を用ふることの、恰も目が毫毛を視ながら、自己の睫を視る能はざる如くなるを賤しむ、今や大王は、晉の越に連和せざる失計を知るも、自から越の過失を知る能はず、是れ目が其の睫を知らざる論なり、大王が韓魏に待つ所は、其の汗馬の勞を求むるに非ず、韓魏と共に軍を合すべきに非ず、和を連ぬべきに非ず、唯韓魏の力を待ちて、楚の兵勢を分割せしめんと欲するのみ、然るに今や、楚の兵勢は分割したり、何ぞ韓魏に待つを要せん、

【字解】豪毛、毫毛なり、外物の細毛なり、睫、目の縁の毛なり、晉、韓魏なり、

越王曰、奈何、曰、楚三大夫張九軍、北圍曲沃於中、以至無假之關者、三千七百里、景翠之軍、北聚魯齊南陽、分有大此者乎、

【講義】越王曰く、楚兵の分割したる狀態は如何と、齊の使者曰く、今や楚の三大夫は九軍を張り、北征して魏の曲沃と秦の於中とを圍み、以て無假の關に至る、其の距離三千七百里に達す、而して楚の將景翠の軍は、北伐し、魯及び齊の南陽に集る、其の兵勢の分割は、豈に此よりも大なるもの有らんや、

【字解】曲沃、晉の世家に詳なり、於中、今の河南南陽府鄧州に屬す、無假、江南長沙の西北に在り、楚の西塞なり、南陽、前節に在り、

且王之所求者、鬪晉楚也、晉楚不鬪、越兵不起、是知二五、而不知十也、此時不攻楚、臣以是知越大不王、小不伯、復讐龐長沙、楚之粟也、竟澤陵楚之材也、越窺兵通無假之關、此四邑者、不

以爲齊秦用、所待者如此、其失計奈何、其以此王也、

【講義】越王曰く、越が韓魏に求むる所は、之を勞するに非ず、韓魏をして刄を傷はしめず、兵を接せしめず、何ぞ況んや、城を攻め邑を圍むに於てをや、是等を韓魏に求むるに非ず、願くは魏は兵を其の首都なる大梁の城下に集めて、自から備へよ、願くは齊は兵を南陽及び莒に試み、以て之を常及び郯の境に集めよ、斯くすれば、楚は其の兵を方城の外に南するを得ず、淮泗の間に東するを得ず、故に、楚は齊に抗するを得ず、而して、秦楚の境なる商於、析、酈、宋、胡の地より、中國に通ずる西北に於ける楚兵は、秦に備ふるに困み、江南泗上に於ける楚兵は、越を待つに窮せん、此の如くなれば、齊秦韓魏は、志を楚に得ん、而して、韓魏は戰はざるに地を分取し、耕さゞるに收穫を得べし、是れ越の期する所なり、然るに、韓魏は此を爲さずして、徒に兵刄を河山の間に損傷し、以て齊秦の用を爲す、其の期待する所は、王霸なるに、此の如く失計なるは、何ぞ其れ能く王霸たるを得んや、

【字解】頓、ニブラスと訓ず、損傷するなり、大梁、魏の世家に詳なり、南陽、莒、齊の兩邑の名なり、莒、齊の世家に詳なり、南陽は莒の西に在り、常、郯、齊の南境なる兩邑の名なり、郯は今の山東沂州府郯城縣なり、常は郯に近接す、方城、楚の世家に詳なり、商於、析、酈、三邑の名なり、楚の世家に詳なり、宋、胡、宋の世家に詳なり、夏路、楚より中國に通ずる路筋なり、夏は中夏の夏なり、以左、中夏より左となる、故に以左と稱す、楚よりすれば西北の境なり、

齊使者曰、幸也越之不亡也、吾不貴其用智之如目見豪毛、而不見其睫也、今王知晉之失計、而不自知越之過、是目論也、王所待於晉者、非其汗馬之力也、又非可與合軍連和也、將待之以分楚衆也、今楚衆已分、何待

其將、則陳上蔡不安、故二晉之事越也、不至於覆軍殺將、汗馬之力不效、所重於得晉者何也、

【講義】齊の威王は、人をして越王に説かしめて曰く、越が楚を伐たざるときは、大なるも王たらず、小なるも霸たらず、殆んど功を失はん、越は何ぞ楚を伐たざるか、今や越の爲す所を推測するに、其の楚を伐たざる所以は、晉の韓魏を、越に聯合し得ざるに在り、韓魏は固に楚を攻めず、蓋し韓は楚を攻めて、韓軍覆り、韓將死すれば、韓の葉と陽翟とは、楚に侵されん、魏は楚を攻めて、魏軍覆り、魏將死すれば、陳と上蔡とは、楚に敗られん、故に、韓魏は獨力を以て、楚に抗せず、越と共にせんとす、此兩國が越に事ふるときは、軍覆らず、將死せず、汗馬の力を勞せず、韓魏自國の利を收むるを得ん、是の故に、越が韓魏に結ぶは容易なり、然るに、越が韓魏を聯合することに困難を感じて之を憚るは何ぞや、

【字解】伯、霸なり、圖、推測なり、晉、韓魏なり、葉、陽翟、韓の兩邑の名なり、葉、セフと讀む、今の河南南陽府葉縣なり、陽翟、今の河南開封府禹州に屬す、陳、上蔡、魏の兩邑の名なり、陳は陳の世家に解せり、上蔡は蔡の世家に解せり、效、致すなり、重、憚るなり、

越王曰、所求於晉者、不至頓刃接兵、而況於攻城圍邑乎、願魏以聚大梁之下、願齊之試兵南陽莒地、以聚常郯之境、則方城之外、不南、淮泗之間、不東、商於、析酈、宋胡之地、夏路以左、不足以備秦、江南泗上、不足以待越矣、則齊秦韓魏、得志於楚也、是二晉不戰而分地、不耕而穫之、不此之爲、而頓刃於河山之間、

吳、其四在子、子爲我從先王試之、種遂自殺、

【講義】大夫種は范蠡の書を見て、病と稱し參朝せず、或は種を讒して曰く、亂を作さんとすと、越王乃ち種に劍を賜ひ曰く、子は寡人に吳を伐つ爲の七術を敎へたり、寡人は其の三を用ひて、吳を敗れり、其の四は留めて子の手に在り、子は其れ我の爲めに、我先王に從ひて、其の殘餘の術を試みよと、種は遂に自殺す、

勾踐卒、子王鼫與立、王鼫與卒、子王不壽立、王不壽卒、子王翁立、王翁卒、子王翳立、王翳卒、子王之侯立、王之侯卒、子王無彊立、

【講義】越王勾踐卒す、子王鼫與立つ、王鼫與卒す、子王不壽立つ、王不壽卒す、子王翁立つ、王翁卒す、子王翳立つ、王翳卒す、子王之侯立つ、王之侯卒す、子王無彊立つ、故に、勾踐より無彊に至る七世の間は、首尾に事有るのみ、其の中葉は記するに足るもの無し、

王無彊時、越興師、北伐齊、西伐楚、與中國爭彊、當楚威王之時、越北伐齊、

【講義】越王無彊の時に至り、越は祖烈を繼がんとして、軍を興し、北して齊を伐ち、西して楚を伐ち、中國と强を爭ふ、然れども、未だ志を得ず、楚の威王の時に當り、越は復た北して、齊を伐つ、以て越が自滅の道を開けり、

齊威王使人說越王曰、越不伐楚、大不王、小不伯、圖越之所爲不伐楚者、爲不得晉也、韓魏固不攻楚、韓之攻楚、覆其軍、殺其將、則葉陽翟危、魏亦覆其軍、殺

齊晉諸侯會於徐州、致貢於周、周元王使人賜勾踐胙、命爲伯、勾踐已去、渡淮南、以淮上地與楚、歸吳所侵宋地於宋、與魯泗東方百里、當是時、越兵橫行於江淮東、諸侯畢賀、號稱霸王、

【講義】 越王は既に吳を滅し、兵を以て北征して、淮水を渡り、齊晉の諸侯と徐州に會し、貢物を周に獻す、周の元王は、人をして越王勾踐に祭肉を賜はしめ、命じて侯伯とす、既にして、越王は淮北を去り、淮水の南に復り、淮水の西北を楚に與へ、吳の侵略したる宋の地を宋に與へ、泗水の東方百里の地を魯に與へたり、是の時に當り、越兵は江水淮水の東を橫行し、諸侯は畢く朝賀す、越は號して霸王と稱す、

【字解】 徐州、今の江蘇の徐州なり、胙、ヒモロギと訓ず、靈廟に供へたる祭肉なり、

范蠡遂去、自齊遺大夫種書曰、蜚鳥盡、良弓藏、狡兎死、走狗烹、越王爲人長頸鳥喙、可與共患難、不可與共樂、子何不去、

【講義】 范蠡は遂に越を去り、齊より書を越の大夫種に遺りて曰く、飛鳥を射盡すときは、良弓を棄つ、狡兎を殺し畢るときは、走狗を烹る、敵國を滅し了るときは、謀臣を誅す、越王の人物は、長き頸にして、烏の如き喙なり、患難を忍ぶときは、臣下と共にするを得べきも、安樂に居るときは、臣下と共にするを得べからず、越王の下に居るは危し、子は何ぞ去らざるか、

【字解】 蜚、飛ぶなり、狡、敏捷なり、

種見書、稱病不朝、人或讒種且作亂、越王乃賜種劍曰、子教寡人伐吳七術、寡人用其三而敗

與へたるときに、之を取らざるは、却て天の咎を受くるに至る、木の枝を伐りて、斧の柄を作るに、其の伐りたる枝は、前に在り、其の寸法を取ること遠きに非ず、會稽の困厄は、卽ち曩に伐りたる木の寸法の如し、君は之を忘れたるか、

【字解】 蚤朝晏罷、政務に勤勉することなり、蚤は朝早くなり、朝は政事堂に上るなり、晏は夜なり、罷は休むなり、伐柯、樵者が木の枝を斫りて、斧の柄となすなり、其則、前に斧の柄として伐りたる枝の寸尺なり、

勾踐曰、吾欲聽子言、吾不忍其使者、范蠡乃鼓進兵曰、王已屬政於執事、使者去、不者且得罪、吳使者泣而去、

【講義】 越王曰く、吾は子の言を聽かんと欲す、然れども、吾は吳王の使者を謝絶するに忍びずと、范蠡は乃ち鼓を打ち、兵を進めて曰く、王は既に政を執事に任ぜり、吳の使者は去るべし、去らざるときは、罪を得んとすと、是に於て、吳の使者は泣きて去る、

【字解】 不、否なり、シカラザレバと訓ず、且、將なり、

勾踐憐之、乃使人謂吳王曰、吾置王甬東、君百家、吳王謝曰、吾老矣、不能事君王、遂自殺、乃蔽其面曰、吾無面以見子胥也、越王乃葬吳王、而誅太宰嚭、

【講義】 越王は之を憐み、乃ち人をして吳王に謂はしめて曰く、吾は王を甬東に置き、百家に君たらしめんと、吳王は謝して曰く、吾は老いたり、君王に事ふる能はずと、遂に自殺す、其の死に臨むや、自から其の面を蔽ひて曰く、吾は子胥を見るに面目無しと、越王乃ち吳王を葬りて、太宰嚭を誅殺す、

【字解】 甬東、越の東鄙なる甬江の東に於ける地名なり、

勾踐已平吳、乃以兵北渡淮、與

心、曩日嘗得罪於會稽、夫差不敢逆命、得與君王成以歸、今君王擧玉趾而誅孤臣、孤臣惟命是聽、意者亦欲如會稽之赦孤臣之罪乎、

【講義】是に於て、吳王は公孫雄をして、衣を脫ぎ肩の皮肉を露し、膝を以て歩み、總て恐懼の意を表し、平和を越王に請はしめて、曰く、孤臣夫差は、敢て腹心を布く、曩の日に、孤臣は罪を會稽に得たり、然れども、敢て君王の命に逆はず、君王と平和を結びて歸るを得たり、今や君王は、玉趾を擧げて、孤臣を誅す、孤臣は唯君王の命を聽くのみ、然れども、孤臣は思ふ、君王も前年の會稽に於けるが如く、孤臣の罪を赦さんと欲するならんか、

【字解】肉袒膝行、罪を受くる覺悟を表して恐縮したる貌なり、肩の衣を脫ぎ、起たずして進み出づるなり、成、平和なり、會稽、越王の敗軍して棲みたる越の山なり、

勾踐不忍、欲許之、范蠡曰、會稽之事、天以越賜吳、吳不取、今天以吳賜越、越其可逆天乎、且夫君王蚤朝晏罷、非爲吳邪、謀之二十二年、一旦而棄之、可乎、且夫天與弗取、反受其咎、伐柯者其則不遠、君忘會稽之厄乎、

【講義】越王勾踐は、之を聽きて、吳王を誅するに忍びず、平和を許さんと欲す、范蠡曰く、會稽の事は、天が越を以て吳に賜ひしなり、然るに、吳は之を取らず、今や天は吳を以て越に賜ふ、越は其れ天に逆ふべけんや、且つ夫れ君王が、早朝より政事を執り、夜に入りて纔に休む、此の勤勉は、吳の爲めに非ずや、吳を滅せんことを謀る、二十二年の久しきに彌る、然るに、一朝にして之を棄つ、豈に可ならんや、且つ天の

子六千人、諸御千人、伐吳、吳師敗、遂殺吳太子、吳告急於王、王方會諸侯於黃池、懼天下聞之、乃祕之、吳王已盟黃池、乃使人厚禮、以請成越、越自度、亦未能滅吳、乃與吳平、

【講義】越王は乃ち水軍精鋭の卒二千人、教練の士四萬人、親近の士六千人、理事の官千人を發して、吳を伐つ、吳兵敗走す、越は遂に吳の太子を殺す、吳は危急を王に告ぐ、王は方に諸侯を黃池に會す、天下の之を聞くを懼る、乃ち越の侵入を祕す、既にして黃池の會盟を畢り、吳は人をして禮を厚くし、平和を越に請はしむ、越は自から度るに、未だ吳を滅する能はずと、乃ち吳と和を結ぶ、

【字解】習流、戰鬪に習熟して流利なる卒を、習流と曰ふ、然れども、此の處にては、越が吳を攻めたる水軍舟楫の習熟者を稱す、敎士、敎練して養成したる士なり、君子、越王の親近する志行堅實の士なり、諸御、理事の諸吏なり、黃池、前節に解せり、成、平和なり、

其後四年、越復伐吳、吳士民罷弊、輕銳盡死於齊晉、而越大破吳、因而留圍之、三年吳師敗、越遂復棲吳王於姑蘇之山、

【講義】其の後四年にして、越は復た吳を伐つ、是の時に當り、吳の士民は疲弊し、其の精銳は既に盡く齊晉の戰に死せり、故に、越は大に吳を破り、因て留り吳を圍む、三年を經て、吳は遂に敗潰す、越は窘逐して、吳王を姑蘇の山に棲ましむ、

【字解】罷、疲るなり、弊、敝るなり、武具調度の敝れたるなり、輕、身輕に働く勇士なり、棲、潛み居るなり、姑蘇、吳の王城の地なり、今の江蘇蘇州府吳縣に在り、

吳王使公孫雄、肉袒膝行而前、請成越王曰、孤臣夫差、敢布腹

立、若初欲分吳國半予我、我不受已、今若反以讒誅我、嗟乎嗟乎、一人固不能獨立、報使者曰、必取吾眼、置吳東門、以觀越兵入也、於是、吳任嚭政、

【講義】伍子胥は吳王の命を聞き、大笑して曰く、我は汝の父をして霸たらしめたり、我は汝を立てゝ、吳王と爲したり、汝は初めに吳國の半を分ちて、我に與へんと欲せり、我は之を辭謝せり、然るに、今や汝は却て讒を聽き、我を殺す、吁嗟吁嗟、我死せば汝は一人の孤獨と爲る、世に獨立する能はざるのみと、乃ち吳王の使者に報じて曰く、必ず吾が眼を取り、之を吳の東門に置け、以て越兵の吳に侵入するを觀んと、子胥は遂に死す、是に於て吳は政事を擧げて嚭に任ず、

【字解】而、汝なり、若、汝なり、東門、越は吳の東に在るを以てなり、

居三年、句踐召范蠡曰、吳已殺子胥、導諛者衆、可乎、對曰、未可、至明年春、吳王北會諸侯於黃池、吳國精兵從王、惟獨老弱、與太子留守、句踐復問范蠡、蠡曰、可矣、

【講義】其の後三年を過ぎ、越王は范蠡を召し、之に問ひ曰く、吳は既に伍子胥を殺せり、慾を導き諛を獻ずるもの多し、吳を攻むるも可ならんか、范蠡對へて曰く、未だ可ならずと、明年の春に至る、吳王は北征して、諸侯を黃池に會す、吳國の精兵は、悉く王に從ひ、本國は空虛なり、惟獨り老弱の民と、太子と、留守するのみ、越王乃ち復た范蠡に問ふ、范蠡曰く可なり、

【字解】黃池、黃溝とも稱す、今の河南杞縣の西に在り、老弱、七十歲以上の老人と、二十歲以下の少年となり、

乃發習流二千、敎士四萬人、君

【字解】嘗、試むなり、貸、借るなり、粟、穀なり、墟、廢れたる城墟なり、

大宰嚭聞之、乃數與子胥爭越議、因讒子胥曰、伍員貌忠而實忍人、其父兄不顧、安能顧王、王前欲伐齊、員彊諫、已而有功、用是反怨王、王不備伍員、員必爲亂、與逢同共謀、讒之王、王始不從、

【講義】太宰嚭は之を聞き、乃ち屢〻伍子胥と越の議を爭ひ、因て子胥を呉王に讒して曰く、子胥は貌に於て、忠なるが如きも、實質に於て、人に慘酷なり、其の父兄の死をも顧みず、何ぞ能く王を顧みん、王は曩に齊を伐たんと欲す、子胥は之を强諫す、既にして王戰ひて功有り、子胥は其の計の用ひられざるに由り、却て王を怨望す、王は子胥に備ふるを要す、然らざるときは、子胥必らず亂を作さんと、蓋し太宰嚭は、越の大夫逢同と謀りて、子胥を王に讒したるなり、然れども、呉王は始に於て、此の讒に從はず、

【字解】員、ウンと讀む、子胥の名なり、忍、慘酷に取扱ふことなり、

乃使子胥於齊、聞其託子於鮑氏、王乃大怒曰、伍員果欺寡人、欲反、使人賜子胥屬鏤劍、以自殺、

【講義】呉王は乃ち伍子胥を齊に使せしむ、子胥は其子を齊の鮑氏に託す、呉王は之を聞き大に怒り曰く、伍員は果して寡人を欺き、叛亂せんと欲すと、乃ち人をして子胥に屬鏤の劍を賜ひ、以て自殺せしむ、

【字解】員、子胥の名なり、屬鏤、利劍の名なり、屬は鐲に通ず、刺すと訓ず、鏤は銅鐵なり、利く鋭き劍を屬鏤と稱す、

子胥大笑曰、我令而父霸、我又

姓、同苦樂、此人不死、必爲國患、吳有越、腹心之疾、齊與吳、疥𤸇也、願王釋齊先越、吳王弗聽、

【講義】其の後二年を過ぎ、吳王は齊を伐たんとす、伍子胥は諫めて曰く、未だ可ならず、臣聞く、越王勾踐は食に味を重ねず、衆民と苦樂を同くすと、此の人にして死せざるときは、必らず吳國の患害を爲さん、吳の越有るは腹心の疾有るに同じ、吳の齊有るは、皮膚の瘡に過ぎず、願くは大王が齊を釋きて、先づ越を伐たんことをと、然れども、吳王は之を聽かず、

【字解】齊與吳、齊の吳に於けるはといふが如し、疥𤸇、カイセンと讀む、疥癬なり、皮膚の小瘡なり、

遂伐齊、敗之艾陵、虜齊高國以歸、讓子胥、子胥曰、王毋喜、王怒、子胥欲自殺、王聞而止之、

【講義】吳王は遂に齊を伐ち、之を艾陵に敗る、齊の高國兩大夫を虜にして歸る、乃ち伍子胥を責む、伍子胥曰く、大王喜ぶ勿れと、王怒る、子胥自殺せんと欲す、王聞きて之を止む、

【字解】艾陵、齊の地なり、吳世家に解せり、高國、齊の兩大夫の姓なり、

越大夫種曰、臣觀吳王、政驕矣、請試嘗之貸粟、以卜其事、請貸、吳王欲與、子胥諫勿與、王遂與之、越乃私喜、子胥言曰、王不聽諫、後三年、吳其墟乎、

【講義】越の大夫種曰く、臣は吳王を觀察するに、其の政事の驕慢なるを知る、請ふ試に穀を借り、以て吳の事情を卜せよと、乃ち穀を借ることを吳に請ふ、吳王は與へんと欲す、伍子胥は與ふる勿れと諫む、然れども、王は遂に之を與ふ、越は乃ち竊に喜ぶ、子胥退きて人に言ひ曰く、吾王は諫を聽かず、後三年にして、吳は其れ荒墟と爲らんか、

【字解】拊循、愛撫なり、拊で養ひ、愛し懷けるなり、

大夫逢同諫曰、國新流亡、今乃復殷給、繕飾備利、吳必懼、懼則難必至、且鷙鳥之擊也、必匿其形、今夫吳兵加齊晉、怨深於楚越、名高天下、實害周室、德少而功多、必淫自矜、爲越計、莫若結齊、親楚、附晉、以厚吳、吳之志廣、必輕戰、是我連其權、三國伐之、越承其弊、可克也、勾踐曰、善、

【講義】越の大夫逢同は勾踐を諫めて曰く、吾國は滅亡に瀕して、未だ久しからず、然るに今や、復た盛んに用度を支給し、兵を繕ひ、武を整へ、國利を興すに備ふ、斯の如くすれば、吳は必らず懼れん、吳懼るる時は、我を制せんとして、禍必らず越に至らん、鷙鳥は小禽を擊たんとするときに、必らず先づ自身の形を匿す、大王は、何ぞ先づ越の形を潛めざるか、今夫れ、吳の兵は齊晉を侵し、吳の怨は、楚越に深し、其の名は天下に高きも、其の實は周室を害す、吳は德少くして功多し、必らず荒淫して、自から誇り驕る、故に越の爲めに計るに、齊に結び楚に親み晉に附き、以て吳を厚く肥えしむるに如かず、吳を厚く肥えしむれば吳は自から傲り、其の志は廣くなりて、必らず戰を輕視せん、是れ越は齊楚晉の權勢を連ねて、吳を制するなり、齊楚晉が吳を伐つときに、越は吳の疲弊したる便利を収らん、此に至りて、越は吳に克つを得べきなりと、勾踐は之を聽きて曰く、善し、

【字解】流亡、漂泊の貌なり、國の亡びんとする狀態をいふ、殷給、盛んに供給するなり、國用の物品を多く作るなり、繕飾、兵器を繕ひ修め、武事を戒め整へるなり、難、兵禍なり、承其弊、敵の疲れ弊れたるを承けて、我は其の利を占むるなり、弊は敝なり、

居二年、吳王將伐齊、子胥諫曰、未可、臣聞、勾踐食不重味、與百

恥邪、身自耕作、夫人自織、食不加肉、衣不重采、折節下賢人、厚遇賓客、振貧弔死、與百姓同其勞、

【講義】 呉は既に越を赦す、越王勾踐は國に復る、乃ち身を苦しめ、思を焦し、以て呉に報復せんと欲す、故に、坐右には苦き膽を懸け置きて、坐臥の時にも膽を飲み、飲食の時にも膽を嘗め、其の苦き味を以て、意思を刺激して曰く、汝は會稽の恥を忘れたるかと、越王は自身に耕作し、夫人は自身に織縫し、食には肉を加へず、衣には彩を重ねず、自己を屈して、賢人に禮し、賓客を優待し、貧窮を救ひ、死亡を弔ひ、衆人と其の勞苦を同くす、

【字解】 仰、仰ぎて飲むなり、女、汝なり、勾踐が自分の事を戒むる爲に、臣下をして、汝と呼ばしめたるなり、采、彩なり、折節、自己を屈するなり、振、救なり、

欲使范蠡治國政、蠡對曰、兵甲之事、種不如蠡、鎭撫國家、親附百姓、蠡不如種、於是、擧國政屬大夫種、而使范蠡與大夫柘稽行成、爲質於呉、二歳而呉歸蠡、

【講義】 越王は范蠡をして國政を治めしめんと欲す、蠡對へて曰く、兵甲の事に於て、種は蠡に如かず、國家を鎭撫し、衆庶を服從せしむるに於て、蠡は種に如かずと、是に於て、越王は國政を擧げて、大夫種に屬し、范蠡と大夫柘稽とをして、平和を呉に結ばしめ、呉に質と爲らしむ、二年にして、呉は范蠡を越に歸らしめたり、

【字解】 成、平和なり、タヒラギと訓す、

勾踐自會稽歸七年拊循其士民、欲用以報呉、

【講義】 勾踐は會稽より歸りて、七年の間に、越の士民を愛撫し、士民は主恩に感激し、越王の用と爲りて、呉に報復せんと欲す、

ざらんか、勾踐は其の妻子を殺さんとし、其の寶器を燔かんとし、五千人を悉して、決戰せんとす、五千人決死の奮戰は、必らず大王の精鋭に當るに足るもの有らんと、太宰嚭は、因て吳王に說きて曰く、越は既に服從して、臣と爲る、若しも之を赦さば、吳國の利なりと、吳王は之を許さんとす、

【字解】觸戰、前節に解せり、越以、越已なり、若將、若の一字と見て可なり、

子胥進諫曰、今不滅越、後必悔之、勾踐賢君、種蠡良臣、若反國、將爲亂、吳王弗聽、卒赦越、罷兵而歸、

【講義】伍子胥進み諫めて曰く、今に於て、越を滅さざるときは、後に至り必らず之を悔いん、勾踐は賢君なり、大夫種范蠡は良臣なり、若しも國に復らば、必らず亂を爲さんと、然れども、吳王は之を聽かず、竟に越を赦し、兵を罷めて歸る、

勾踐之困會稽也、喟然歎曰、吾終於此乎、種曰、湯繫夏臺、文王囚羑里、晉重耳奔翟、齊小白奔莒、其卒王霸、由是觀之、何遽不爲福乎、

【講義】勾踐の會稽山に困むや、喟然歎息して曰く、吾は此に終るか、大夫種曰く、殷の湯王は夏臺に繫がれ、周の文王は羑里に囚はれ、晉の重耳は狄に奔り、齊の小白は莒に奔る、然れども、其の成功は、竟に王たり、霸たり、是に由りて觀れば、何ぞ遽に福を成さざらんや、

【字解】夏臺、羑里、殷本紀及び周本紀に詳なり、翟、莒、晉世家、及び齊世家に詳なり、犇、奔るなり、

吳既赦越、越王勾踐反國、乃苦身焦思、置膽於坐、坐臥卽仰膽、飲食亦嘗膽也、曰、女忘會稽之

る臣なり、

子胥言於呉王曰、天以越賜呉、勿許也、種還、以報勾踐、勾踐欲殺妻子、燔寶器、觸戰以死、

【講義】伍子胥は呉王に言ひ曰く、今や天は、越を以て呉に賜ふ、故に、越の請を許す勿れと、大夫種は乃ち還りて、之を勾踐に報ず、勾踐は憤激して、妻子を殺さんと欲し、寶器を燔かんと欲し、決戰を以て死せんと欲す、

【字解】觸戰、決死の奮戰なり、猛獸が角を以て人に觸るゝが如きをいふ、

種止勾踐曰、夫呉太宰嚭貪、可誘以利、請間行言之、於是、勾踐乃以美女寶器、令種間獻呉太宰嚭、嚭受、乃見大夫種於呉王、

【講義】大夫種は、勾踐を止めて曰く、呉の太宰嚭は貪る、之を誘ふに利を以てすべし、請ふ竊に行きて、之を言はんと、是に於て、勾踐は乃ち美女寶器を以て、大夫種に託し、竊に行きて、之を呉の太宰嚭に獻ぜしむ、嚭は之を受納し、乃ち種を紹介して、之を呉王に謁見せしむ、

【字解】間行、内密に行くなり、間獻、内密に物を贈るなり、

種頓首言曰、願大王赦勾踐之罪、盡入其寶器、不幸不赦、勾踐將盡殺其妻子、燔其寶器、悉五千人、觸戰必有當也、嚭因說呉王曰、越以服爲臣、若將赦之、此國之利也、呉王將許之、

【講義】大夫種は呉王の前に頓首して曰く、願くは大王の仁惠を以て、勾踐の罪を赦されんことを、越は盡く其の寶器を獻納せん、若しも不幸にして赦され

興す、呉王は之を聞き、悉く精兵を發し、越を擊ち、之を夫椒に敗る、越王は乃ち餘兵五千人を以て、會稽山に保ち棲む、呉王追ひて之を圍む、

【字解】 夫椒、越の地なり、保棲、軍の勢を失ひて、山に居ること、鳥の棲むが如きを、棲といふ、保棲は、棲に同じ、

越王謂范蠡曰、以不聽子、故至於此、爲之奈何、蠡對曰、持滿者與天、定傾者與人、節事者以地、卑辭厚禮、以遺之、不許而身與之市、勾踐曰、諾、

【講義】 越王は范蠡に謂ひ曰く、子の說を用ひざるを以て、此に至る、之を救ふ、奈何ん、范蠡曰く、滿を持して驕らざるものは、天道と共にす、傾きたるを定め、之を安んずるものは、民心と共にす、用を節して事を理むるものは、地の利を用ふ、故に、今の計としては、自から辭を卑下し、彼に對するに禮を厚くし、以て呉に遺るべし、若しも呉が之を許さゞるときは、越王の身を以て、自から呉に仕へ、利便を圖らんのみと、勾踐は之を聽きて曰く、諾す、

【字解】 以地、地の利を用ふるなり、與之市、呉王と相交易するなり、越王は呉王に仕へて、危急を淩ぐをいふなり、

乃令大夫種行成於呉、膝行頓首曰、君王亡臣勾踐、使陪臣種、敢告下執事、勾踐請爲臣、妻爲妾、呉王將許之、

【講義】 是に於て、越王は大夫種をして、平和を呉に請はしむ、種は呉の陣營に至り、膝行頓首して曰く、君王の亡臣勾踐は、陪臣種をして、敢て君王の下執事に告げしむ、勾踐は請ふ、臣と爲らん、勾踐の妻は、君王の妾と爲らんと、呉王は之を許さんとす、

【字解】 成、平和なり、タヒラギと訓す、膝行、起たずして進むなり、陪臣、臣の臣なり、亡臣、國外に去りた

其子夫差曰、必毋忘越、

【講義】勾踐の元年に、呉王闔廬は、越の允常死せりと聞き、乃ち師を興し、越を伐つ、越王勾踐は、決死の士を出して、呉に挑戰せしむ、其の死士は、三列を成し、第一列が、先づ呉の陣前に至り、自から呉に謝する意を呼びて、剄り死す、第二列は、之に次ぎ、第三列は復た之に次ぐ、其の死士の自剄するを、遊戲の如くす、呉の士卒は、怪みて之を縱觀す、越は其の隙に乘じ、襲ひて呉軍を擊ち、之を檇李に敗り、射て闔廬を負傷せしむ、闔廬は死せんとして、其の子夫差に告げ曰く、必らず越を忘る勿れ、

【字解】挑戰、戰鬪を誘ひ出す也、三行、三列なり、一列に數人有るものを、三度に前進せしむるなり、剄、刎なり、檇李、スヰリと讀む、呉の邑なり、今の浙江嘉興府嘉興縣の南に在り、

三年、勾踐聞呉王夫差、日夜勒兵、且以報越、越欲先呉未發、往伐之、范蠡諫曰、不可、臣聞、兵者、凶器也、戰者、逆德也、爭者事之末也、陰謀逆德、好用凶器、試身於所末、上帝禁之、行者不利、

【講義】勾踐の三年に、呉王夫差が日夜に兵を整へ、以て越に報ぜんとするを聞く、勾踐は乃ち呉の發せざるに先ち、往きて之を伐たんと欲す、范蠡は之を諫めて曰く、不可なり、臣聞く、兵は凶器なり、戰は逆德なり、爭は事の末なりと、故に、陰に逆德を謀り、好みて凶器を用ひ、身を事の末に試むるは、天帝の禁ずる所なり、之を行ふ者は、利有らず、

【字解】勒、整ふるなり、且、將なり、

越王曰、吾已決之矣、遂興師、呉王聞之、悉發精兵、擊越、敗之夫椒、越王乃以餘兵五千人、保棲於會稽、呉王追而圍之、

【講義】越王曰く、吾は既に之を決せりと、遂に軍を

ら敗亡を致す、悲しいかな、權勢の人に關する所は、愼まざるべけんや、公子棄疾は、國亂を以て君と爲り、秦女を寵愛して、之に荒淫す、甚しいかな、再び楚國を亡はんとするに至れり、

【字解】 申、章華臺 九鼎 申亥、是れ皆本文の前節に詳解せり、棄疾、平王なり、嬖淫、寵愛して之に溺るゝなり、

越世家第十一

越王勾踐、其先禹之苗裔、而夏后帝少康之庶子也、封於會稽、以奉守禹之祀、文身斷髮、披草萊而邑焉、後二十餘世、至於允常、允常之時、與吳王闔廬戰、而相怨伐、允常卒、子勾踐立、是爲越王、

【講義】 越王勾踐は、其の先祖を夏の禹王の苗裔とす、是れ夏后氏にして、帝少康の庶子なり、少康は禹王南巡の跡を懷ひ、其の庶子を會稽に封じ、以て禹王の祭祀を奉守せしむ、其の人は皮膚に入墨し、髮を斷り、草萊を披きて、居處を定む、後二十餘世にして、允常に至る、允常は吳王闔廬と戰ひて、相怨み伐つ、允常卒す、子勾踐立つ、是を越王とす、

【字解】 會稽、今の浙江紹興府會稽縣なり、文身斷髮、夷狄の風俗に從ふことなり、吳の太伯世家に詳なり、越、少康の庶子は、於越と號す、故に、會稽に國を成して、於越と稱し、遂に越といふに至る、

元年、吳王闔廬聞允常死、乃興師伐越、越王勾踐使死士挑戰、三行至吳陳、呼而自剄、吳師觀之、越因襲擊吳師、吳師敗於檇李、射傷吳王闔廬、闔廬且死、告

【講義】　幽王の九年に、秦は韓を滅す、十年に、幽王卒す、其の同母弟なる猶が代り立つ、是を哀王とす、哀王立ち、二月餘にして、哀王の庶兄なる負芻の徒黨は、哀王を襲ひ殺し、負芻を立て、王と爲す、是の年に、秦は趙王遷を虜にす、

王負芻元年、燕太子丹、使荊軻刺秦王、二年、秦使將軍伐楚、大破楚軍、亡十餘城、三年、秦滅魏、四年、秦將王翦、破我軍於蘄、而殺將軍項燕、五年、秦將王翦蒙武、遂破楚國、虜楚王負芻、滅楚、名爲楚郡云、

【講義】　楚王負芻の元年に、燕の太子丹は、荊軻をして秦王を刺さしむ、二年に、秦は將軍をして楚を伐たしめ、大に楚軍を破り、楚の十餘城を取る、三年に、秦は魏を滅す、四年に、秦の將軍王翦は、楚軍を蘄に破り、楚の將軍項燕を殺す、五年に、秦の將軍王翦、及び蒙武は、遂に楚國を破り、楚王負芻を虜にして、楚を滅し、名けて楚郡と爲すと云ふ、

【字解】　蘄、今の安徽鳳陽府宿州の南に在り、

太史公曰、楚靈王方會諸侯於申、誅齊慶封、作章華臺、求周九鼎之時、志小天下、及餓死于申亥之家、爲天下笑、操行之不得、悲夫、勢之於人也、可不愼與、棄疾以亂立、嬖淫秦女、甚乎哉、幾再亡國、

【講義】　太史公曰く、楚の靈王が、諸侯を申に會盟せしめ、齊の慶封を誅し、章華臺を造り、周の九鼎を求めたる時に當り、其の志は雄大にして、天下を小とせり、然れども、其の申亥の家に餓死するに及びては、天下の笑と爲れり、其の行ふ所の道義を得ざるは、自

卒、楚王使春申君弔祠于秦、十六年、秦莊襄王卒、秦王趙政立、

【講義】 考烈王の元年に、州陵を秦に與へて、秦と和親す、是の時に當り、楚は益〻弱し、六年に、秦は趙の都なる邯鄲を圍む、趙は危急を楚に告ぐ、楚は將軍景陽をして、趙を救はしむ、七年に、秦兵は趙の新市に至りて去る、十二年に、秦の昭王卒す、楚は春申君をして、秦に弔祠せしむ、十六年に、秦の莊襄王卒す、秦王趙政立つ、

【字解】 州、楚の地名なり、今の湖北漢陽府沔陽州の東南なり、州陵と稱す、邯鄲、今の直隷廣平府邯鄲縣なり、新中、新市の中の略語なり、今の直隷正定府藁城縣なり、趙政、秦王の名は政にして、嬴姓なれども、趙の生なるを以て、趙政といふ、始皇本紀及び呂不韋傳に詳なり、

二十二年、與諸侯共伐秦、不利而去、楚東徙都壽春、命曰郢、二十五年、考烈王卒、子幽王悍立、李園殺春申君、幽王三年、秦魏伐楚、秦相呂不韋卒、

【講義】 考烈王の二十二年に、楚は諸侯と共に、秦を伐ち、勝たずして去る、秦は東に徙りて、壽春に都し、之を郢都と稱す、湖北の郢は、其の舊都なるを以てなり、二十五年に、考烈王卒す、子幽王悍立つ、王后の兄なる李園は、春申君を殺し、其の家を滅す、幽王の三年に、秦魏は楚を伐つ、是の年に、秦の宰相呂不韋卒す、

【字解】 壽春、今の安徽鳳陽府壽州なり、

九年、秦滅韓、十年、幽王卒、同母弟猶代立、是爲哀王、哀王立二月餘、哀王庶兄負芻之徒、襲殺哀王而立負芻爲王、是歲、秦虜趙王遷、

二十二年、秦復拔我巫黔中郡、二十三年、襄王乃收東地兵、得十餘萬、復西取秦所拔我江旁十五邑、以爲郡距秦、

【講義】頃襄王の二十二年に、秦は復た楚の巫及び黔中郡を拔く、二十三年に、頃襄王は、東地の兵を收めて、十餘萬を得たり、復た西して、曩に秦の拔きたる楚の江邊十五邑を取り、以て楚の郡と爲し、秦を防ぎたり、

【字解】巫黔中、兩地なり、巫は、今の四川夔州府巫山縣なり、黔中は、今の四川酉陽州に屬す、

二十七年、使三萬人助三晉伐燕、復與秦平、而入太子爲質於秦、楚使左徒侍太子於秦、三十六年、頃襄王病、太子亡歸、秋、頃襄王卒、太子熊元代立、是爲考烈王、考烈王以左徒爲令尹、封以呉、號春申君、

【講義】頃襄王の二十七年に、楚は三萬人をして、韓魏趙を助け、燕を伐たしめ、復た秦と和親す、太子をして秦に入り、質と爲らしむ、乃ち左徒黃歇をして、太子に秦に侍せしむ、三十六年に、頃襄王病む、太子は秦より亡げ歸る、其の年の秋に、頃襄王卒し、太子熊元は代り立つ、是を考烈王とす、考烈王は、左徒黃歇を以て、令尹と爲し、之を呉に封じ、春申君と號す、

【字解】左徒、楚の官名なり、近侍の職なり、令尹、其の當時の楚國の宰相なり、

考烈王元年、納州于秦、以平、是時楚益弱、六年、秦圍邯鄲、趙告急楚、楚遺將軍景陽救趙、七年、至新中、秦兵去、十二年、秦昭王

て曰く、臣請ふ之を譬へん、夫れ虎は肉腥くして食ふに足らず、其の爪牙は虎の身を護するに利有り、然れども、人は猶能く虎を攻む、是れ何ぞや、其の皮を獲んと欲すればなり、若しも澤中の麋をして、虎の皮を蒙らしめば、人の之を攻むるは、必らず虎よりも萬倍せん、今夫れ楚は、虎皮を蒙りたる麋の類なり、天下列國は、楚の地を裂けば、以て其の自國の士を肥すに足る、楚の名を賤しくすれば、以て其の自國の君を尊くするに足る、然るに、子は天下共仰の君主を誅殺せんと欲し、夏殷周三代の傳器を楚に置かんと欲し、三足六耳の寶鼎を呑まんと欲し、以て累世の天子を凌駕せんと欲す、是れ貪るに非ずして何ぞや、周書に曰く、起たんと欲すれば、先にする勿れと、蓋し先づ貪るものは敗る、故に、周の寶器が、南に遷れば、天下の兵は、乃ち楚に至ると、是に於て、楚は周の武公の說を納れ、周を處分する計を止めて、之を實行せず、

【字解】 腥、惡く腥きなり、兵、爪牙なり、詘、屈するなり、三翮六翼、寶鼎なり、翮は鬲に通ず、中空の足なり、翼は耳なり、三足有りて、上に六個の耳を列したるは、寶鼎の形なり、高、凌駕するをいふ、高ると訓ず、輟、止むなり、

十九年、秦伐楚、楚軍敗、割上庸漢北地、予秦、二十年、秦將白起、拔我西陵、二十一年、秦將白起、遂拔我郢、燒先王墓夷陵、楚襄王兵散、遂不復戰、東北保於陳城、

【講義】 頃襄王の十九年に、秦は楚を伐ち、楚軍敗る、上庸及び漢水の北を割きて、秦に與ふ、二十年に、秦の將軍白起は、楚の西陵を拔く、二十一年に、秦の將軍白起は、遂に楚の郢都を拔き、楚の先王の墓を夷陵に燒く、頃襄王は、兵散じて復た戰はず、東北に徙り、陳城に於て居守す、

【字解】 上庸、今の陝西商州に屬す、西陵、今の湖北黃州黃岡縣なり、夷陵、今の湖北宜昌府東湖縣に在り、

足以勁兵、雖無攻之名、爲弑君、然而好事之君、喜攻之臣、發號用兵、未嘗不以周爲終始、是何也、見祭器在焉、欲器之至、而忘弑君之亂、今韓以器之在楚、臣恐天下以器讎楚也、

【講義】周の武公は、尙其の説を進めて曰く、何を以て楚の危きを知るか、請ふ之を陳べん、夫れ西周の地は、長を絶ち短を補ふも、方百里に過ぎず、甚だ小なり、而も其の名は、天下の共に仰ぐ君主たり、楚は此の西周を攻めて、其の地を裂くも、以て楚國を肥すに足らず、其の衆を得るも、以て楚兵を勁くするに足らず、然れども、楚は周を處分せんとすれば、之を攻むることと無しと雖も、君を弑する名を受けん、而して天下の事故を好む君と、攻伐を喜ぶ臣とは、此の楚國の弑逆を聞きて、號令を發し、兵甲を用ひ、來り楚を伐たん、未だ嘗て周を以て、其の征討の終始を爲さゞるにあらず、是れ何の故ぞや、周の寶鼎祭器が、楚に在るを見ればなり、今や、楚は周の寶器の至るを慾望して、君を弑する悖亂を忘る、而して韓は寶器の遷り、楚に在るを觀て、楚を攻めん、故に、臣は天下列國が、周器の爲めに、楚を讐とするに至らんことを恐る、

臣請譬之、夫虎肉臊、其兵利身、人猶攻之也、若使澤中之麋、蒙虎之皮、人之攻之、必萬於虎、裂楚之地、足以肥國、詘楚之名、足以尊主、今子將以欲誅殘天下之共主、居三代之傳器、呑三翮六翼、以高世主、非貪而何、周書曰、欲起無先、故器南則兵至矣、於是、楚計輟不行、

【講義】周の武公は、竟に周鼎の重き所以を結論し

夫一周爲二十晉、公之所知也、韓嘗以二十萬之衆、辱於晉之城下、銳士死、中士傷、而晉不拔、公之無百韓以圖周、此天下之所知也、夫怨結於兩周、以塞鄒魯之心、交絕於齊、聲失天下、其爲事危矣、夫危兩周、以厚三川、方城之外、必爲韓弱矣、

【講義】周の武公は對へて曰く、軍は、我の衆が、敵に五倍ならざれば、之を攻めず、城は、我の衆が、敵に十倍ならざれば、之を圍まず、夫れ一周は、小と雖も、天子有り、晉に比すれば、二十倍の力とす、是れ公の知る所なり、然るに、韓は嘗て二十萬の衆を以て、晉の城下に困辱し、銳士は戰死し、中士は負傷したるも、竟に晉城を拔くを得ず、故に、今や周を攻めんとすれば、韓に百倍の衆を用ひざるべからず、然れども、公は今日百韓を以て、周を處分するに非ず、是れ天下の知る所なり、且つ夫れ、周を侵略すれば、怨は東西の兩周に結び、以て鄒魯の心を塞ぎ、交際は齊に絕え、聲譽は天下に失ふ、其の事たるや、楚國に取りて甚だ危し、抑も東西の兩周を危くして、韓の三川を厚くするは、楚に利する少し、韓に益する多し、故に其の結果として、楚の方城の外なる河南の諸地は、必らず韓の爲めに弱められん、

【字解】兩周、戰國の末に於ける東西の兩周なり、東周は河南の鞏縣なり、西周は河南の王城なり、鄒魯、此の兩國は齊の附屬にして、周の親近なり、故に、鄒魯の心を傷ふは、齊の心を失ふ所以なり、三川、韓の要地なり、今の河南汝寧府に屬す、東西の兩周を侵略したる結果は、楚に比して、韓の利を多とす、故に三川を厚くすといふ、方城、楚の國境の連山なり、

何以知其然也、西周之地、絕長補短、不過百里、名爲天下共主、裂其地、不足以肥國、得其衆、不

せんと欲す、

周王赧、使武公謂楚相昭子曰、三國以兵割周郊地、以傻輸而南器、以尊楚、臣以爲不然、夫弑共主、臣世君、大國不親、以衆脅寡、小國不附、大國不親、小國不附、不可以致名實、名實不得、不足以傷民、夫有圖周之聲、非所以爲號也、

【講義】周王赧は、乃ち周の定王の曾孫なる武公をして、楚の宰相昭雎に謂はしめ曰く、今や聞く所に依れば、楚齊韓の三國は、兵を以て周の郊地を割き取り、以て周の寶器を南方に運輸するに便にし、斯くして楚を尊くせんとすと、臣は此の風説を聞きて、其の計の誤れるを知るなり、夫れ周王は、天下共同の君主なり、累世相續の天子なり、此の共同の君主を弑し、累世の天子を臣とすれば、大國は之に親まず、衆きを以て寡きを脅せば、小國は之に附かず、斯く大國も親まず、小國も附かざれば、楚國は以て名譽と實利とを致すに足らず、既に名譽と實利とを得ざれば、以て民を傷ふに足らず、故に、楚齊韓の三國が、周を處分する聲言は、是れ天下に號令する所以に非ず、

【字解】傻、便なり、南器、周の寶鼎祭器を南方の楚に遷すなり、共主、天下列國が、共に仰ぐ所の君主なり、世君、累代の相續したる君主なり、圖、處分することなり、

昭子曰、乃圖周、則無之、雖然、周何故不可圖也、

【講義】昭雎曰く、乃ち周を處分することは、之れ無し、然れども周は何の故に、之を處分すべからざるか、

對曰、軍不五不攻、城不十不圍、

に楚の要地なるを以て、並び擧げたるなり、膺、胸なり、前面なり、垂頭、頭を伸して物を窺ふ貌なり、

欲以激怒襄王、故對以此言、襄王因召與語、

【講義】弱弓の達人は、斯の如く說き、以て楚の頃襄王を激怒せしめんと欲す、故に、對ふるに此の秦鳥の雄偉なる言を以てす、頃襄王は因て之を宮中に召し、共に語る、

遂言曰、夫先王爲秦所欺、而客死於外、怨莫大焉、今以匹夫有怨、尙有報萬乘、白公子胥是也、今楚之地方五千里、帶甲百萬、猶足以踊躍中野也、而坐受困、臣竊爲大王弗取也、

【講義】弱弓の達人は、遂に其の胸中の祕を吐露して曰く、夫れ先王は、秦に欺かれて、國外に客死す、怨は此よりも大なるもの無し、今日匹夫と雖も、怨有れば、尙能く萬乘の國主に報復す、彼の白公と子胥とが、楚に報讐したる如きは是なり、今や楚の地方五千里にして、甲兵百萬有り、尙以て中原に踊躍するに足るなり、然るに、自から坐して困辱を受く、臣は竊に大王の爲めに、之を取らず、

【字解】先王、懷王なり、匹夫、賤人なり、萬乘、大國の君なり、中野、中原なり、支那本部の中央なり、

於是、頃襄王遣使於諸侯、復爲從、欲以伐秦、秦聞之、發兵來伐楚、楚欲與齊韓連和伐秦、因欲圖周、

【講義】是に於て、頃襄王は使を諸侯に發し、復た合從の約を定め、以て秦を伐たんと欲す、秦は之を聞き、兵を發し來りて楚を伐つ、楚は齊韓と連和し、以て秦を伐たんと欲す、且つ秦を伐つに因り、周を處分

南面稱王矣、

【講義】弱弓の達人は、尙楚王の大射を說きて曰く、大王の弓發して、既に前述の如きに至れば、夫の泗上の鄒魯の如き多數の小諸侯は、左右に之を牽き拂ひて、忽ち滅盡するを得べし、今や秦は韓を破りながら、永久の憂慮と爲す、列城を得ながら、之を守るを敢てせず、魏を伐ちて功無し、趙を擊ちて自ら病む、乃ち秦と魏との勇力共に屈したるを見るなり、此機會に於て、楚の舊領地なる漢中、析、酈は、後に取るを得べきなり、大王は寶弓を出し、新箭を加へ、鄳塞に涉りて、秦の疲倦を待つべし、山東河內は、之を一手に握るを得べきなり、斯くして大王は庶民を慰勞し、士衆を休息せしめ、南面して王と稱するに足る、

【字解】泗上十二諸侯、齊に屬したる泗水の附近に於ける多數の小諸侯なり、槃、牽くなり、一旦、忽ちなり、漢中、今の陝西漢中府なり、析酈、今の河南南陽府に於ける兩地の名なり、碆、箭に石を附けるなり、繳、箭の絲なり、鄳塞、黽池の要塞なり、今の河南河南府澠池縣に在り、

故曰、秦爲大鳥、負海內而處、東面而立、左臂據趙之西南、右臂傅楚鄢郢、膺擊韓魏、垂頭中國、處既形便、勢有地利、奮翼鼓翅、方三千里、則秦未可得獨招而夜射也、

【講義】弱弓の達人は、遂に楚の秦を射るに足らざるを論じて曰く、山東の形勢は、此の如く大王の箭に伏す、然れども、秦は未だ射るを得ず、故に曰く、秦は大鳥たり、海內を負ひて處る、東面して立つ、其の左臂は、趙の西南に據り、其の右臂は、楚の鄢郢に接し、其の胸は、韓魏を擊ち、其の頭を中國に伸して睥睨す、其の居る處は、既に形便なり、其の勢は、地の利なる有り、翼を奮ひ翅を鼓き、四方三千里を回翔す、故に、秦は未だ獨り招きて夜射るを得ざるなり、

【字解】傅、接するなり、抑へることなり、鄢郢、鄢縣と郢都となり、鄢は河南に在り、郢は湖北に在り、共

䎉、則從不待約而可成也、北遊目於燕之遼東、而南登望於越之會稽、此再發之樂也、

【講義】弱弓の達人は、更に楚王が第二發の樂を說きて曰く、若しも大王が鳥を射るに於て、誠に好み、之を飽かざるときは、寶弓を出し、新箭を加へ、噣鳥を東海に射よ、乃ち旋りて長城を擁し、以て防禦と爲し、朝に東莒を射て、夕に浿丘に發ち、夜に於て即墨を取り、反て午道に據らば、齊の長城の東は、之を領收するを得て、齊の太山の北は、我の手に歸せん、斯くして、西には境を趙に結び、北には界を燕に達せば、齊趙燕の三國は、其の翅を伏せん、其の勢が此に至れば、山東諸國の合從は、盟約を待たずして成るべきなり、是に於て、大王は目を燕の遼東に遊ばしめ、遂に南に進みて、越の會稽山に登り、四方を眺望す、此れ大王の弓箭再發の樂なり、

【字解】弋、繳を以て射るなり、厭、飽になり、碆、繳に石を附けるなり、噣鳥、喙鋭き大鳥なり、噣は喙なり、齊國を噣鳥に喩ふ、還、旋るなり、蓋、擁し取るなり、長城は、齊が楚を防ぐ爲めに設けたる濟州淄州連亙の要塞なり、東莒、今の山東沂州府莒州なり、發、箭を放つなり、浿丘、今の山東濟南府淄川縣なり、貝丘に同じ、即墨、今の山東萊州府即墨縣なり、午道、縱橫に通達したる要路なり、其國の要衝をいふ、䎉、翅に同じ、布、伏するなり、飛ばざるなり、

若夫泗上十二諸侯、左縈而右拂之、可一旦而盡也、今秦破韓、以爲長憂、得列城、而不敢守也、伐魏而無功、擊趙顧病、則秦魏之勇力屈矣、楚之故地漢中析酈、可得而復有也、王出寶弓、碆新繳、涉鄳塞、而待秦之倦也、山東河內、可得而一也、勞民休衆、

二郡者舉矣、且魏斷一臂、顚越矣、膺擊郯國、大梁可得而有也、王績繳蘭臺、飮馬西河、定魏大梁、此一發之樂也、

【講義】弱弓の達人は、遂に其の射の實效を陳べて曰く、大王は朝に弓を張り、魏の大梁の南を射よ、既に魏の右臂を取りて、直に其の箭を韓に注くれば、河北中國の通路は、東南に向ひて斷絶せん、而して韓の上蔡の郡は、自から崩壞せん、大王乃ち旋りて、雍丘圉城の東を射よ、既に魏の右肘を取りて、外に定陶を擊たば、魏の東外は棄たれて、大宋方與の兩郡は、我に歸せん、且つ魏は斯くして兩臂を斷たれ、自から顚墜せん、大王は更に前に向ひ、郯國を擊たば、魏の大梁は、之を領有するを得べきなり、大王乃ち箭を蘭臺に放ち馬を西河に飮ひ、以て大梁を定む、此れ大王の弓箭一發の樂なり、

【字解】加、射ることなり、箭を注くるをいふ、其右臂、魏の西邊なり、徑、直になり、屬之、箭を注くるなり、屬は注くるなり、之は箭なり、大梁、魏の首都なり、今の河南開封府祥符縣なり、上蔡、今の河南汝寧府上蔡縣なり、還、旋るなり、射の方向を轉ずるなり、圉、魏の邑なり、今の河南開封府杞縣の南に在り、解、破り取るなり、魏左肘、魏の東邊なり、定陶、今の山東曹州府定陶縣なり、大宋方與、今の山東濟寧州附近なり、顚越、顚墜なり、膺、前を指していふ、胸前なり、郯、今の山東沂州府郯城縣の西南なり、績、繩を引くことなり、箭の綵を引くなり、箭を放つ意に用ふ、蘭臺、河北の恆山の別名なり、西河、今の山西汾州府地方なり、

若王之於弋、誠好而不厭、則出寶弓、碆新繳、射噣鳥於東海、還蓋長城、以爲防、朝射東莒、夕發浿丘、夜加卽墨、顧據午道、則長城之東收、而太山之北擧矣、西結境於趙、而北達於燕、三國布

昔者三王、以弋道德、五霸以弋戰國、故秦魏燕趙者鶀鴈也、齊魯韓衞者靑首也、鄒費郯邳者羅鸗也、外其餘則不足射者、見鳥六雙、以王何取、

【講義】弱弓の達人は、尙其の說を進めて曰く、昔時夏殷周の三王は、道德を射て、之を領有す、齊宋晉秦楚の五霸は、戰國を射て、之を領有す、蓋し秦魏燕趙の四國は、小鴈なり、齊魯韓衞の四國は、小鳥なり、鄒費郯邳の四國は、小鸗なり、其の餘は射るに足るもの無し、今や鳥を觀るに、此の十二鳥有り、顧ふに大王は、何の鳥を取らんとするか、

【字解】鶀鴈、小鴈なり、靑首、鴨の類なり、小鳥を指す、羅鸗、小さ野鳥なり、六雙、十二なり、前に列擧したる十二國を指す、

王何不以聖人爲弓、以勇士爲繳、時張而射之、此六雙者、可得而囊載也、其樂非特朝夕之樂也、其獲非特鳧鴈之實也、

【講義】弱弓の達人は、更に楚王の射るべき所を說きて曰く、大王は、何ぞ聖人を以て弓と爲し、勇士を以て箭と爲し、時機を察して、其の弓を張り、之を射ざるか、斯くして、之を射るときは、此の十二の鳥は、之を囊中に盛るを得べきなり、其の樂は、唯朝夕の樂のみに非ず、其の獲る所は、唯鳧鴈の實のみに非ず、

【字解】繳、前節に解す、特、唯なり、

王朝張弓、而射魏之大梁之南、加其右臂、而徑屬之於韓、則中國之路絕、而上蔡之郡壞矣、還射圉之東、解魏左肘、而外擊定陶、則魏之東外弃、而大宋方與

與秦昭王好會於宛、結和親、十五年、楚王與秦三晉燕、共伐齊取淮北、十六年、與秦昭王、好會於鄢、其秋、復與秦王會穰、

【講義】頃襄王の十一年に、齊秦兩國は、各自から稱して帝と爲る、月餘にして、復た帝號を上帝に歸して、自から王號に復す、十四年に、楚の頃襄王は、秦の昭王と宛に好會し、和親を結ぶ、十五年に、楚王は秦韓魏趙燕の五國と共に、齊を伐ち、淮水の北を取る、十六年に、楚王は秦の昭王と鄢に好會す、其の年の秋に、楚王は復た秦王と穰に會す、

【字解】宛、楚の地なり、今の河南南陽府南陽縣なり、鄢、楚の地なり、今の河南開封屬鄢陵縣なり、穰、楚の地なり、今の河南南陽府鄧州の東南なり、

十八年、楚人有好以弱弓微繳、加歸鴈之上者、頃襄王聞、召而問之、對曰、小臣之好射鶀鴈羅鸗、小矢之發也、何足爲大王道也、且稱楚之大、因大王之賢、所弋非直此也、

【講義】頃襄王の十八年に、楚人の善く弱弓小箭を以て、歸鴈を射るもの有り、頃襄王は之を聞き、召して其の技を問ふ、其の人對へて曰く、小臣の善く小鴈小鸗を射るは、小矢の發するのみ、何ぞ大王の爲めに道ふに足らんや、且つ夫れ楚國の大に相當して、大王の賢に因るときは、其の射る所のもの、豈唯此の小鴈小鸗のみならんや、

【字解】繳、箭に絲を附けて射ることなり、歸鴈、春鴈なり、北に歸らんとする鴈なり、然れども、此の處にては飛鴈の意に用ふ、鶀、キと讀む、小鴈なり、羅鸗、ラロウと讀む、小き野鳥なり、稱、相當することなり、弋、繳にて射ることなり、直、唯なり、此、小鳥を射る小技なり、

は、代國に在り、其の子惠王は始めて立ち、王の事を行ひ、秦を恐れて、楚王を入らしむる能はず、楚王は魏に走らんと欲す、秦の追兵至る、楚王は遂に秦の使と共に、復た秦に往き、病を發したり、

【字解】主父、武靈王なり、趙の世家に詳なり、

頃襄王三年、懷王卒於秦、秦歸其喪於楚、楚人皆憐之、如悲親戚、諸侯由是不直秦、秦楚絕、

【講義】頃襄王の三年に、楚の懷王は病を以て秦に卒す、秦は其の喪を楚に歸送す、楚人は皆哀憐して、其の父母を悲しむが如し、諸侯は之に由り、秦を正直と謂はず、秦楚兩國は絕交したり、

【字解】親戚、父母なり、親は父なり、戚は母なり、

六年、秦使白起伐韓於伊闕、大勝、斬首二十四萬、秦乃遺楚王書曰、楚倍秦、秦且率諸侯伐楚、爭一旦之命、願王之飭士卒、得一樂戰、楚頃襄王患之、乃謀復與秦平、七年、楚迎婦於秦、秦楚復平、

【講義】頃襄王の六年に、秦は將軍白起をして、韓を伊闕に伐たしめ、大に勝ち二十四萬人を斬首す、秦は乃ち楚王に書を贈り曰く、楚は秦に背く、故に秦は諸侯を率ゐて楚を伐ち、一旦の命を爭はんとす、因て願ふ、楚王が士卒を飭めて、秦と一場の樂戰を得んことをと、頃襄王は之を憂慮す、乃ち謀りて復た秦と和親す、七年に、楚は婦を秦より迎ふ、是に於て、秦楚兩國は、復た相親むに至る、

【字解】伊闕、韓の要地なり、今の河南河南府洛陽縣の南に在り、倍、背くなり、且、將なり、一旦之命、一戰の勝敗なり、飭、用意することなり、

十一年、齊秦各自稱爲帝、月餘復歸帝爲王、十四年、楚頃襄王

國は、必らず齊に歸するを得べしと、然れども、齊王は竟に其の宰相の計を用ひて、楚の太子を還らしめたり、

【字解】市、交易することなり、賣ると買ふとの交換なり、下東國、楚の遠き領地にて、東國に在るものなり、東國は齊の境に接す、下の字は、楚の都より遠きを意味す、楚より言ふを以て、下東國と稱す、

太子横至、立爲王、是爲頃襄王、乃告於秦曰、賴社稷神靈、國有王矣、頃襄王横元年、秦要懷王、不可得地、楚立王以應秦、秦昭王怒、發兵出武關、攻楚、大敗楚軍、斬首五萬、取析十五城而去、

【講義】太子横は齊より歸る、楚は乃ち之を立て王と爲す、是を楚の頃襄王と曰ふ、楚は乃ち秦に告げて曰く、社稷の神靈に賴り、國は王有りと、頃襄王横の元年に、秦は楚の懷王に要求するも、地を得る能はず、楚は新王を立て、以て秦に應ず、故に秦の昭王は、怒りて兵を發し、武關より出で楚を攻め、大に楚軍を敗り、五萬人を斬首し、析城及び十五城を取り去る、

【字解】社稷、國家なり、武關、前節に解す、析、楚の地なり、今の河南南陽府内鄕縣西北なり、十五城、析の外十五城なり、析を合せて十六縣となる、

二年、楚懷王亡逃歸、秦覺之、遮楚道、懷王恐、乃從間道走趙、以求歸、趙主父在代、其子惠王初立、行王事、恐不敢入楚王、楚王欲走魏、秦追至、遂與秦使復之秦、懷王遂發病、

【講義】頃襄王の二年に、楚の懷王は秦より亡げ歸る、秦は之を覺り、楚の道を遮斷す、懷王恐れ間道より趙に走る、以て楚に達せんことを求む、趙の武靈王

るに楚の太子は齊に質たり、齊秦兩國が謀を合すときは、楚の國無きに至らんと、乃ち懷王の子の楚國に在るものを立てんと欲す、

昭雎曰、王與太子、俱困於諸侯、而今又倍王命、而立其庶子、不宜、乃詐赴於齊、

【講義】昭雎曰く、今や王は太子と共に、諸侯に困めらる、然るに今更に王命に背きて、其の庶子を立つ、是れ宜しからずと、乃ち詐りて新君を立つるが如くし、之を齊に告げたり、

【字解】倍、背くなり、赴、告ぐるなり

齊湣王謂其相曰、不若留太子、以求楚之淮北、相曰、不可、郢中立王、是吾抱空質、而行不義於天下也、

【講義】齊の湣王は、其の宰相に謂ひ曰く、楚の太子を抑留し、以て楚の淮北の地を要求するに若かずと、宰相曰く、不可なり、楚の郢都に新君を立つれば、我は楚の太子を抑留するも、是れ空虛の抵當物を抱くのみ、其の實效無し、而して太子を抑留したる不義を天下に示すに過ぎず、

或曰、不然、郢中立王、因與其新王市、曰、予我下東國、吾爲王殺太子、不然將與三國共立之、然則東國必可得矣、齊王卒用其相計、而歸楚太子、

【講義】齊廷の會議に於て、或は宰相の說に反對し曰く、然らず、楚の郢都に新君を立つれば、齊は因て其の新君と交易を要求し曰はん、齊に楚の下東國を與へよ、齊は楚の新君の爲めに、楚の太子を殺さん、若しも楚が下東國を吝しみて、之を齊に與へざるときは、齊より發議して、秦韓魏の三國と共に、楚の太子を立て、楚王と爲さんと、斯く要求すれば楚の下東

爲秦王、楚王至、則閉武關、遂與西至咸陽、朝章臺、如蕃臣、不與亢禮、楚懷王大怒、悔不用昭子言、

【講義】 秦の昭王は、詐りて一將軍をして兵を武關に伏せしめ、號して秦の昭王と爲す、因て楚王の至るを待ち、其の武關に入るや、直に關を閉ぢ、遂に楚王と共に西行して、秦の首都なる咸陽に至り、章臺宮に入朝せしめ、蕃臣の如くし、與に對等の禮を用ひず、楚王は大に怒り、昭睢の言を聽かざりしを悔いたり、

【字解】 武關、前節に解す、咸陽、秦の首都なり、今の陝西西安府咸陽縣なり、蕃臣、國外に居る臣屬なり、亢禮、對等の禮なり、

秦因留楚王、要以割巫黔中之郡、楚王欲盟、秦欲先得地、楚王怒曰、秦詐我、而又彊要我以地、不復許秦、

【講義】 秦は乃ち楚王を留め、楚の巫及び黔中の郡を秦に割讓せんことを要求す、楚王は盟はんと欲す、秦は先づ地を得んことを欲す、楚王怒りて曰く、秦は我を欺きて拘留し、且つ强ひて要求するに地を以てすと、竟に秦に許さず、

【字解】 巫黔中、楚の西南の邊境なり、巫は今の四川夔州府巫山縣なり、黔中は四川酉陽府彭水縣なり、

秦因留之、楚大臣患之、乃相與謀曰、吾王在秦、不得還、要以割地、而太子爲質於齊、齊秦合謀、則楚無國矣、乃欲立懷王子在國者、

【講義】 秦乃ち楚王を拘留して還さず、楚の大臣は、之を憂慮し、相共に謀りて曰く、吾王は秦に在り、還るを得ず、秦は之に要求するに地の割讓を以てす、然

今聞君王、乃令太子質於齊、以求平、寡人與楚接境壤界、故爲婚姻、所從相親久矣、而今秦楚不驩、則無以令諸侯、寡人願與君王會武關、面相約結盟而去、寡人之願也、敢以聞下執事、

【講義】　秦の楚に與へたる書は尙說きて曰く、今や聞く所に依れば、君王は太子をして齊に質たらしめ、以て和親を求むと、寡人は楚と境界を接す、故に、婚姻を作し、之に由り相親むこと久し、然るに、今に至りて秦楚相歡ばざれば、以て諸侯に號令するに足らず、故に、寡人は君王と武關に會し、面談して相約し、盟を結び去らんとす、是れ寡人の願なり敢て以て君王の下執事に言上す、

【字解】　驩、歡ぶなり、武關、楚の南關なり、今の陝西商州に屬す、

楚懷王見秦王書、患之、欲往、恐見欺、無往、恐秦怒、昭睢曰、王毋行、而發兵自守耳、秦虎狼不可信、有幷諸侯之心、懷王子子蘭勸王行、曰、奈何絕秦之驩心、於是往、會秦昭王、

【講義】　楚の懷王は、秦王の書を見て、之を憂慮す、蓋し往かんと欲すれば、秦に欺かれんことを恐る、然れども、往く無からんと欲すれば、秦の怒らんことを恐る、昭睢曰く、王は往く勿れ、兵を發して自から守らんのみ、秦は虎狼なり、信ずべからず、秦は諸侯を幷呑する心有りと、然れども、懷王の子なる子蘭は、王に往くことを勸めて曰く、奈何ぞ秦の歡心を絕たんと、是に於て、懷王は往き、秦の昭王に會見せんとす、

昭王詐令一將軍伏兵武關、號

二十七年、秦大夫有私與楚太子鬭、楚太子殺之、而亡歸、二十八年、秦乃與齊韓魏共攻楚、殺楚將唐眛、取我重丘而去、

【講義】懷王の二十七年に、秦の大夫は楚の太子と私鬭す、楚の太子は、之を殺して亡げ歸る、二十八年に、秦は乃ち齊韓魏と共に、楚を攻め、楚の將唐眛を殺し、楚の重丘を取りて去る、

【字解】重丘、楚の東境なり、山東武定府に屬す、

二十九年、秦復攻楚、大破楚、楚軍死者二萬、殺我將軍景缺、懷王恐、乃使太子爲質於齊、以求平、三十年、秦復伐楚、取八城、

【講義】懷王の二十九年に、秦は復た楚を攻め、大に楚を破る、楚軍の死者二萬に及び、楚の將軍景缺は殺されたり、懷王恐る、乃ち太子をして齊に質と爲らしめ、以て和親を求む、三十年に、秦は復た楚を伐ち、八城を取る、

秦昭王遺楚王書曰、始寡人與王約、爲弟兄、盟于黃棘、太子爲質、至驩也、太子陵殺寡人之重臣、不謝而亡去、寡人誠不勝怒、使兵侵君王之邊、

【講義】秦の昭王は、楚王に書を贈り曰く、初め寡人は王と約して、弟兄たり、黃棘に於て相盟ひ、楚の太子は入りて、秦に質と爲る、是れ深き歡びの交なり、然るに、楚の太子は寡人の重臣を凌殺し、辭謝せずして亡げ去る、寡人は誠に怒りに堪へず、兵をして君王の國境を侵略せしめたり、

【字解】黃棘、前節に解す、驩、歡びなり、陵、凌ぐなり、

懷王許之、竟不合秦、而合齊、以善韓、

【講義】 昭雎は更に齊韓の關係を說きて曰く、齊が韓に信用有る所以は、韓の公子昧が、齊の宰相たるに由るなり、故に韓が武遂を秦より得たる後に、王は此の公子昧に親交し、公子昧をして、齊韓を以て、樗里疾を尊重せしめよ、樗里疾が齊韓の尊重を得ば、其の主は敢て樗里疾を棄てざらん、而して今更に之に益すに、楚の尊大を以てせば、樗里疾は必らず秦王に言ひ、復た楚の侵地を返還せんと、是に於て、懷王は此の昭雎の說に從ひ、竟に秦に合せずして齊に合し、以て韓に親交するに至れり、

【字解】 侵地、侵略したる地なり、善、親交なり、

二十四年、倍齊而合秦、秦昭王初立、乃厚賂於楚、楚往迎婦、二十五年、懷王入與秦昭王盟約於黃棘、秦復與楚上庸、

【講義】 懷王の二十四年に、楚は齊に背きて秦に合す、秦の昭王始めて立つ、乃ち厚く楚に賂ふ、楚は往きて婦を秦より迎ふ、二十五年に懷王は秦に入りて、昭王と黃棘に盟約す、秦は復た楚に上庸を與ふ、

【字解】 倍、背くなり、黃棘、秦の地なり、今の陝西商州に屬す、上庸、前節に解す、

二十六年、齊韓魏爲楚負其從親、而合於秦、三國共伐楚、楚使太子入質於秦、而請救、秦乃遣客卿通將兵救楚、三國引兵去、

【講義】 懷王の二十六年に、齊韓魏は、楚が山東合從の親約に背きたるを惡み、且つ楚が秦に合したるを責めて、三國共に楚を伐つ、楚は太子をして秦に入り質たらしめ、秦の救を請ふ、秦は乃ち客卿なる通をして、兵に將とし楚を救はしむ、三國は兵を引きて去る、

【字解】 負、背くなり、客卿、今の大臣待遇の如きものなり、

秦破韓宜陽、而韓猶復事秦者、以先王墓在平陽、而秦之武遂去之七十里、以故尤畏秦、不然、秦攻三川、趙攻上黨、楚攻河外、韓必亡、楚之救韓、不能使韓不亡、然存韓者楚也、韓已得武遂於秦、以河山爲塞、所報德、莫如楚厚、臣以爲其事王必疾、

【講義】　昭雎は尚其の說を進めて曰く、今夫れ秦が韓の宜陽を破りたれども、韓は之に抵抗せず、猶復た秦に事ふるは何ぞや、韓の先王の墓が、宜陽に近き平陽に在るを以てなり、且つ秦の武遂は、宜陽を距ること僅に七十里に過ぎざるを以てなり、是の故に、韓は尤も秦を畏る、今の形勢に於て、若しも韓が秦を畏れざるときは、秦は韓の三川を攻めん、秦が既に三川を攻むれば、趙は韓の上黨を擊たん、楚は韓の河外を襲はん、斯くなれば、韓は必らず滅亡せん、故に、楚は韓を救ふも、韓をして亡びざらしむる能はず、然れども、韓を保存する力は、楚に在り、今に於て、楚が早く韓に結び、韓が既に武遂を秦より取り、河山を以て要塞と爲さば、韓は楚の惠を蒙る多し、韓が德に報ずる所は、楚の厚きに如くもの無し、故に、臣は謂ふ、韓が楚王に事ふること必らず速なり、

【字解】　宜陽、韓の要地なり、今の河南河南府宜陽縣なり、平陽武遂、兩地は宜陽の左右に在り、七十里、日本の十二里弱なり、其の近きを謂ふなり、三川、韓の要地なり、今の河南汝寧府に屬す、上黨、前節に解す、

齊之所信於韓者、以韓公子眛爲齊相也、韓已得武遂於秦、王甚善之、使之以齊韓重樗里疾、疾得齊韓之重、其主弗敢棄疾也、今又益之、以楚之重、樗里子必言秦、復與楚之侵地矣、於是、

【講義】齊の楚に贈りたる書は、更に楚の利を説きて曰く、斯くして秦を破りたるときに、王は楚の西南境より進みて、秦の武關蜀漢の地を取り、東方には呉越の富を私有し、江海の利を擅にし、韓魏よりは上黨を割き取り、西方には秦の函谷關に逼る、其の勢の盛なること此に至れば、楚の强兵百萬ならん、且つ夫れ王は曩に張儀に欺かれて、地を漢中に亡ひ、兵は藍田に挫けたり、天下の人は、皆楚の爲めに之を恨み、王に代りて其の怒を懷かざる無し、然るに、今や楚は自から其の怒るべきを怒らず、先づ秦に事へんと欲す、是れ何の故ぞや、願くは大王之を熟計せよ、

【字解】武關、秦の南關なり、今の陝西商州に屬す、上黨、韓の地なり、今の山西潞安府に屬す、函谷、秦の東關なり、今の河南陝州に屬す、漢中、藍田、前節に解す、銼、挫くなり、

楚王業已欲和於秦、見齊王書、猶豫不決、下其議羣臣、羣臣或言和秦、或曰聽齊、

【講義】是の時に當り、楚は既に秦に和親せんと欲す、故に齊王の書を見て、猶豫し決せず、其の議を群臣に下問す、群臣或は秦に和せんと曰ひ、或は齊に聽かんと曰ふ、未だ其の一致を見ず、

【字解】業、既になり、猶豫、逡巡なり、

昭睢曰、王雖東取地於越、不足以刷恥、必且取地於秦、而後足以刷恥於諸侯、王不如深善齊韓、以重樗里疾、如是則王得韓齊之重、以求地矣、

【講義】昭睢曰く、王は東方に於て、地を越より取ると雖も、以て恥辱を洗ふに足らず、必らずや地を秦より取りて、而る後に以て恥辱を諸侯に洗ふに足るのみ、故に、王は深く齊韓に親交するに如かず、以て秦の樗里疾を尊重するに如かず、斯くすれば、王は韓と齊との勢援を得て、以て地を秦に求むるに足らん、

【字解】刷、洗除するなり、且、將なり、善、親交なり、

【講義】是の年に、秦の惠王卒す、懷王の二十年に、齊の湣王は、合從の長と爲らんと欲す、故に、楚と秦と合するを惡む、乃ち使をして書を楚王に贈らしめ曰く、寡人は楚が其の大名に察せずして、自から衰亡を速くを憂慮す、今や秦は惠王死し、武王立つ、張儀は魏に走る、樗里疾、公孫衍は秦に用ひられて、權勢有り、然るに、楚は秦に事ふ、夫れ樗里疾は韓に親交有り、楚が必らず秦に事ふるときは、韓魏は恐れん、故に、韓魏は必らず樗里疾、公孫衍に因りて、秦に合するを求めん、斯くすれば、燕趙の兩國も、秦に事ふるに至らん、韓魏燕趙の四國が、爭ひて秦に事ふるに至らば、楚は竟に亡びて、郡縣と爲らんと、

王何不與寡人幷力、收韓魏燕趙、與爲從、而尊周室、以案兵息民、令於天下、莫敢不樂聽、則王名成矣、王率諸侯竝伐、破秦必矣、

【講義】齊の楚に贈りたる書は、尙其の說を進めて曰く、王何ぞ寡人と力を幷せ、韓魏燕趙の四國を收め、共に合從の約を成して、周室を尊び、以て兵を按じ民を息め、天下に號令せざるか、若しも、王にして此の計を用ひ、天下に號令せば、敢て之を聽くを樂まざるもの無からん、天下の諸侯が、既に王の號令を聽くに至らば、王の大名は成らん、王が諸侯を率ゐて、共に伐つときは、秦を破ること必せり、

【字解】案、按なり、整頓することなり、樂聽、歡び從ふなり、必矣、確定なり、

王取武關蜀漢之地、私吳越之富、而擅江海之利、韓魏割上黨、西薄函谷、則楚之疆百萬也、且王欺於張儀、亡地漢中、兵銼藍田、天下莫不代王懷怒、今乃欲先事秦、願大王熟計之、

秀でたるものを以て、美人の從者として、之を楚に致さんとす、楚王は地を尊ぶ、秦女は必らず貴からん、而して夫人は必らず斥けられん、故に、夫人の爲めに計るに、吾王に言ひて、張儀を囚より出すに若かずと、鄭袖は之を聽きて、急に張儀を出すことを懷王に言ふ、乃ち張儀の囚を釋く、

【字解】上庸、秦の地なり、今の陝西興安府に屬す、媵、ヨウと讀む、諸侯の女を他國に嫁するときに、隨行する女及び男なり、卒、遽なり、

儀出、懷王因善遇儀、儀因說楚王、以叛從約、而與秦合親、約婚姻、張儀已去、屈原使從齊來、諫王曰、何不誅張儀、懷王悔、使人追儀、弗及、

【講義】斯くして、張儀は囚を出づ、懷王は乃ち張儀を優待す、張儀は因て楚王に說くに、山東諸國の合從の約に背き、秦と合親し、婚姻を定めんことを以てす、張儀は既に去る、此の時に、屈原は齊に使して歸り來り、懷王を諫めて曰く、何ぞ張儀を誅殺せざるやと、懷王は悔悟し、人をして張儀を追はしむ、然れども竟に捕ふる能はず、

是歲、秦惠王卒、二十年、齊湣王欲爲從長、惡楚之與秦合、乃使使遺楚王書曰、寡人患楚之不察於尊名也、今秦惠王死、武王立、張儀走魏、樗里疾、公孫衍用、而楚事秦、夫樗里疾善乎韓、而公孫衍善乎魏、楚必事秦、韓魏恐、必因二人、求合於秦、則燕趙亦宜事秦、四國爭事秦、則楚爲郡縣矣、

在、楚不宜敢取儀、誠殺儀、以便國、臣之願也、

【講義】張儀曰く、臣は楚王の侍臣靳尙に親交有り、靳尙は能く楚王の寵姫鄭袖に事ふるを得て、鄭袖の言ふ所は、楚王必らず之に從ふ、且つ儀は前年の使命を以て、楚に背くに、商於六百里の約を以てせり、今や秦楚は大に戰ひて、相惡む有り、臣は自から楚に至り、之を面謝するに非れば、竟に解けず、且つ大王は現に在り、楚は敢て儀を取るべからず、若しも儀を殺すも、以て秦國に便なるを得ば、是れ臣の願ふ所なり、

【字解】左右、侍者なり、負、背くなり、誠、若しもなり、便、便なり、

儀遂使楚、至、懷王不見、因而囚張儀、欲殺之、儀私於靳尙、靳尙爲請懷王曰、拘張儀、秦王必怒、天下見楚無秦、必輕王矣、

【講義】張儀は、遂に楚に使す、既に至る、懷王は之を引見せず、乃ち囚へて殺さんと欲す、張儀は靳尙に私見す、靳尙は張儀の爲めに、懷王に請ひ曰く、張儀を拘ふれば、秦王必らず怒らん、天下は楚に秦の援無きを見ば、必らず大王を輕蔑せん、

又謂夫人鄭袖曰、秦王甚愛張儀、而王欲殺之、今將以上庸之地六縣賂楚、以美人聘楚王、以宮中善歌者爲之媵、楚王重地、秦女必貴、而夫人必斥矣、夫人不若言而出之、鄭袖卒言張儀於王、而出之、

【講義】靳尙は、更に懷王の夫人鄭袖に謂ひ曰く、秦王は甚だ張儀を愛す、然るに、吾王は之を殺さんと欲す、今や秦は上庸の地六縣を以て、楚に賂はんとす、且つ美人を以て、楚王に贈り、秦の宮中の歌曲に

人、遂取漢中之郡、楚懷王大怒、乃悉國兵、復襲秦、戰於藍田、大敗楚軍、韓魏聞楚之困、乃南襲楚、至於鄧、楚聞乃引兵歸、

【講義】懷王の十七年春に、楚は秦と漢中の丹陽に戰ふ、秦は大に楚軍を敗り、甲士八萬を斬り、楚の大將軍屈匄、副將軍逢侯丑等七十餘人を虜にし、遂に漢中の郡を取る、懷王は大に怒り、國中の兵を擧げ、復た秦を襲ひ、藍田に戰ふ、秦は大に楚軍を敗る、韓魏兩國は、楚の困むを聞き、乃ち南征して楚を襲ひ、鄧に至る、楚は之を聞き、征秦の兵を引き歸る、

【字解】丹陽　楚の邑なり、今の陝西漢中府に在り、是れ安徽の丹陽に非ず、裨、副なり、漢中、楚の西境の要地なり、今の陝西に在り、藍田、漢中藍田關の所在地なり、今の陝西西安府に屬す、鄧、楚の邑なり、今の河南南陽府に屬す、

十八年、秦使使約、復與楚親、分漢中之半、以和楚、楚王曰、願得張儀、不願得地、張儀聞之、請之楚、秦王曰、楚且甘心於子、奈何、

【講義】懷王の十八年に、秦は使をして約せしめ、復た楚と和親し、漢中の地を折半し、以て楚に返還す、楚王曰く、願くは張儀を得ん、地を得るを願はずと、張儀は之を聞き、楚に往かんことを請ふ、秦王曰く、楚は子を得て宿怨を報ぜんとす、子は之を奈何にせんとするか、

【字解】甘心、我の滿足する迄に、之を處分することなり、

張儀曰、臣善其左右靳尙、靳尙又能得事於楚王幸姬鄭袖、袖所言、無不從者、且儀以前使、負楚、以商於之約、今秦楚大戰有惡、臣非面自謝楚不解、且大王

張儀乃起朝、謂楚將軍曰、子何不受地、從某至某、廣袤六里、楚將軍曰、臣之所以見命者、六百里、不聞六里、卽以歸報懷王、懷王大怒、興師將伐秦、

【講義】張儀は秦齊の相交るを視て、乃ち起ち、秦廷に朝し、楚の將軍に謂ひ曰く、子は何ぞ地を受けざるか、其の地は某所より某所に至る、廣袤六里なりと、楚の將軍曰く、臣の命を受けたるは、六百里なり、六里を聞かずと、卽ち歸り之を懷王に報ず、懷王は大に怒り、軍を興して秦を伐たんとす、

【字解】廣袤、東西南北の面積なり、廣（東西）、袤（南北）なり、

陳軫又曰、伐秦、非計也、不如因賂之一名都、與之伐齊、是我亡於秦、取償於齊也、吾國尙可全、今王已絕於齊、而責欺於秦、是吾合秦齊之交、而來天下之兵也、國必大傷矣、楚王不聽、遂絕和於秦、發兵西攻秦、秦亦發兵擊之、

【講義】陳軫曰く、秦を伐つは計に非ず、一名都を秦に與へ、秦と同盟して、齊を伐つに如かず、斯くすれば、我は地を秦に亡ふも、其の償を齊より取るなり、吾國は猶全きを得べし、今や大王は既に齊に絕交して、詐僞を秦に責む、是れ吾は秦齊の交を合して、天下の兵を招くなり、國は必らず大に傷れんと、然れども楚王は之を聽かず、遂に秦に絕交し、兵を發して西征し秦を攻む、秦も兵を發して、之を擊つ、

十七年春、與秦戰丹陽、秦大敗我軍、斬甲士八萬、虜我大將軍屈匃、裨將軍逢侯丑等、七十餘

交先絶、是楚孤也、夫秦又何重孤國哉、必輕楚矣、且先出地而後絶齊、則秦計不爲、先絶齊而後責地、則必見欺於張儀、見欺於張儀、則王必怨之、怨之、是西起秦患、北絶齊交、西起秦患、北絶齊交、則兩國之兵必至、臣故弔、楚王弗聽、

【講義】陳軫對へて曰く、秦が大王を尊ぶ所以は、大王が齊に交るを以てなり、今や商於の地は、未だ得べからず、然るに、齊の交は先づ絶ゆ、是れ楚は孤獨なり、秦は何ぞ孤獨の國を尊ばんや、必らず楚を輕蔑せん、且つ先づ地を出して、後に齊に絶たば、秦の計は爲すを得ず、然れども、先づ齊に絶ちて、後に地を責むれば、必らず張儀に欺かる、既に欺かれたるを知れば、大王必らず之を怨む、既に之を怨めば、是れ西に於て秦の患を起し、北に於て齊の交を絶つなり、斯くなれば、秦齊兩國の兵必らず到らん、臣は故に弔すと、然れども楚王は之を聽かず、

因使一將軍西受封地、張儀至秦、佯醉墜車、稱病不出三月、地不可得、楚王曰、儀以吾絶齊爲尚薄邪、乃使勇士宋遺北辱齊王、齊王大怒、折楚符而合於秦、秦齊交合、

【講義】楚王乃ち一將軍をして西行し、封地を秦に受けしむ、張儀は秦に至り、佯り醉ひ車より墜ち、病と稱して出でず、三月を經るも、地は受くるを得ず、楚王曰く、儀は吾の齊に絶つを以て、尚薄しと思惟するかと、乃ち勇士宋遺をして北行し、齊王を辱めしむ、齊王大に怒り、楚の盟約の符を折り、秦の符に合す、秦齊は乃ち結合す、

の王が、甚だ憎む所は、齊王より先なるは無し、然るに、大王は彼の齊王と和親す、是を以て、敝邑の王は、大王に事ふるを得ず、而して儀をも、大王が門戸の賤役と爲るを得ざらしむ、

【字解】　説、悦ぶなり、門闌之厮、門番の賤奴なり、其の臣となるをいふ、和、親交なり、敝邑、自分の國を指す、

王爲儀閉關而絕齊、今使使者從儀西取故秦所分楚商於之地方六百里、如是則齊弱矣、是北弱齊、西德於秦、私商於以爲富、此一計而三利俱至也、懷王大悅、

【講義】　張儀は猶其の説を進めて曰く、大王の爲めに計るに、大王は儀の爲めに、關を閉ぢて齊の交を絕つべし、斯くして、使者を發し、儀に從ひ、秦に往かしめ、曩に秦の分與せし所の楚の商於の地方六百里を取らしめよ、是の如くすれば齊弱し、是れ北に於て齊を弱くし、西に於て秦に德を施し、自から商於を取りて富を成す、此れ一計にして三利俱に生ずるなりと、懷王は之を聽きて、大に悦びたり、

【字解】　商於、楚の西北境なり、今の陝西商州に屬す、商於は商なり、本來秦の地にして、一たび楚に入り、更に秦に復したり、

乃置相璽於張儀、日與置酒、宣言、吾復得吾商於之地、羣臣皆賀、而陳軫獨弔、懷王曰、何故、

【講義】　是に於て、懷王は宰相の玉印を張儀の前に置き、日に張儀と宴飮す、乃ち宣言して曰く、吾は商於の地方六百里を恢復するを得たりと、群臣は皆賀す、然るに、陳軫は獨り弔す、懷王曰く何の故ぞ、

陳軫對曰、秦之所爲重王者、以王之有齊也、今地未可得、而齊

約レ從、山東六國、兵攻レ秦、楚懷王爲二從長一、至二函谷關一、秦出レ兵擊二六國一、六國兵皆引而歸、齊獨後、

【講義】是の年に、燕韓兩國の君は、始めて王と稱す、秦は張儀を用ひ、楚魏の國境なる齧桑に於て、楚齊魏の三國と會盟せしむ、十一年に、蘇秦は合從の盟約を定め、山東の六國なる韓魏趙齊楚燕の兵は、共に秦を攻む、楚の懷王は合從の長たり、攻めて函谷關に至る、秦は兵を出し、六國の聯合軍を擊つ、聯合軍は引きて歸り去る、齊兵は獨り後れて退却したり、

十二年、齊湣王伐二敗趙魏軍一、秦亦伐二敗韓一、與レ齊爭レ長、十六年、秦欲レ伐レ齊、而楚與レ齊從親、秦惠王患レ之、乃宣二言張儀免一レ相、

【講義】懷王の十二年に、齊の湣王は伐ちて趙魏兩國の軍を敗る、秦も伐ちて韓を敗り、遂に齊と長を爭ふ、十六年に、秦は齊を伐たんと欲す、然るに、楚は齊と合從して相親む、秦の惠王は之を憂慮し、乃ち天下に宣言して曰く、秦は宰相の張儀を免官すと、

使下張儀南見二楚王一、謂中楚王上曰、敝邑之王、所二甚說一者、無レ先二大王一、雖下儀之所二甚願一爲二門闌之厮一者上、亦無レ先二大王一、敝邑之王、所二甚憎一者、無レ先二齊王一、雖下儀之所二甚憎一者上、亦無レ先二齊王一、而大王和レ之、是以敝邑之王、不レ得レ事レ王、而令二儀亦不一レ得レ爲二門闌之厮一也、

【講義】是に於て、秦の惠王は張儀をして、南行し、楚王に面談せしめ、曰く、敝邑の王が、甚だ悅ぶ所は、大王よりも先なるもの無し、儀の甚だ門戶の賤役たるを願ふ所も、亦大王より先なるは無し、而して敝邑

十分に徧くするに足らず、請ふ遂に地に畫きて蛇の先づ成る者は、獨占して此の一杯酒を飲み盡さんと、既にして一人曰く、吾蛇は先づ成ると、乃ち酒を擧げて起ち曰く、吾能く蛇の足を作らんと、更に自から其の畫きたる蛇に足を加へたり、此の時に蛇の後れて畫き得たる人は、其の前に畫きたる人の杯酒を奪ひて、之を飲み曰く、蛇は固に足無し、今や蛇に足を畫く、是れ蛇に非ずと、

【字解】令尹、楚國の行政長官なり、宰相なり、上柱國の上に在り、昭陽は柱國より進みて、此の時には令尹たり、巵、大杯なり、舍人、官吏の家の事務を執るものなり、徧、十分に行き渡ることなり、

今君相楚、而攻魏、破軍殺將、功莫大焉、冠之上不可以加矣、今又移兵而攻齊、攻齊勝之、官爵不加於此、攻之不勝、身死爵奪、有毀於楚、此爲蛇爲足之說也、不若引兵而去、以德齊、此持滿之術也、昭陽曰、善、引兵而去、

【講義】陳軫は更に其の說を進めて曰く、今や君は楚に宰相たり、而して魏を攻め軍を破り將を殺す、功は此よりも大なるもの無し、冠位の上は、此よりも加ふることを得ず、最も貴顯の身分たり、然るに、今や更に兵を移して齊を攻む、其の幸にして勝を得るも、官爵は此より加ふるを得ず、其の不幸にして勝を失へば、身は死し爵は奪はる、遂に楚に毀らる、此れ蛇を作りて足を畫くが如し、君の爲めに計るに、兵を引きて去り、以て德を齊に施すに若かず、是れ滿を持して守る術なりと、昭陽は此の陳軫の智辯を聽きて曰く、善しと、乃ち兵を引き、退去したり、

【字解】莫大焉、此よりも大なるは無しと訓ず、最も大なりといふが如し、持滿、十分なるを維持して失はざることなり、

燕韓君初稱王、秦使張儀與楚齊魏相會盟齧桑、十一年、蘇秦

即往見昭陽軍中曰、願聞楚國之法、破軍殺將者、何以貴之、昭陽曰、其官爲上柱國、封上爵執珪、陳軫曰、其有貴於此者乎、昭陽曰令尹、

【講義】是の時に當り、辯士陳軫は秦の爲めに齊に使す、齊王は陳軫に謂ひ曰く、楚兵來り攻む、之を制する奈何せん、陳軫曰く、王憂ふる勿れ、請ふ之を罷めしめん、卽ち往きて昭陽を軍中に訪ひ曰く、願くは楚國の法を聞かん、軍を破り將を殺したる者は、何を以て之を賞するか、昭陽曰く、其の官は上柱國を賜ふ、上爵にして執珪に封ぜらる、陳軫曰く、其れ上柱國よりも、貴き者有るか、昭陽曰く、有り、是れ令尹なり、

【字解】貴、褒賞して其の身分を貴顯にするなり、上柱國、楚の官名なり、大臣なり、上爵、上級の位なり、執珪、朝廷の顯官なり、珪を執りて登朝する身分なり、珪は圭に同じ、上尖り下四角なる玉にて、儀式に用ふ、

陳軫曰、今君已爲令尹矣、此國冠之上、臣請得譬之、人有遺其舍人一卮酒者、舍人相謂曰、數人飮此、不足以徧、請遂畫地爲蛇、蛇先成者、獨飮之、一人曰、吾蛇先成、擧酒而起、曰、吾能爲之足、及其爲之足、而後成人、奪之酒而飮之、曰、蛇固無足、今爲之足、是非蛇也、

【講義】陳軫曰く、今や君は既に令尹たり、此れ楚國の冠位の最上なり、臣請ふ之を譬ふるを得ん、爰に人有り、其の家の事務員全體に一杯の酒を與ふ、事務員等は相謂ひ曰く、數人にして此の一杯の酒を飮むも、

不附、百姓不為用、故王勝之也、今王逐嬰子、嬰子逐、盼子必用矣、復摶其士卒、以與王遇、必不便於王矣、楚王因弗逐也、

【講義】是に於て、張丑は田嬰の爲めに、僞りて楚王に謂ひ曰く、王が戰勝を徐州に得たる所以は、齊に於て田盼子を用ひざるに由るなり、田盼子は、國に功有りて、衆人の服從する所たり、然れども、田嬰子は、田盼子と相惡し、因て申紀を用ひたり、申紀は大臣も附かず、衆民も服せず、故に、王は此の戰勝を得たり、今や王は田嬰子を逐はんとす、田嬰子が逐はれたるときは、田盼子は必らず用ひられん、田盼子は復た其の士卒を摶ちて、王と會戰せん、是れ必らず王に不便ならんと、楚王は因て田嬰を逐ふことを止めたり、

十一年、威王卒、子懷王熊槐立、魏聞楚喪、伐楚、取我陘山、懷王元年、張儀始相秦惠王、四年、秦惠王初稱王、六年、楚使柱國昭陽將兵而攻魏、破之於襄陵、得八邑、又移兵而攻齊、齊王患之、

【講義】威王の十一年に、威王卒す、子懷王熊槐立つ、魏は楚の喪を聞きて、楚を伐ち、陘山を取る、懷王の元年に、張儀は始めて秦の惠王に相たり、四年に、秦の惠王は始めて王と稱す、六年に、楚は柱國昭陽をして、兵に將とし、魏を攻めしめ、之を襄陵に破り、魏の八縣を取る、更に兵を移して、齊を攻む、齊王は之を憂慮す、

【字解】陘山、楚の要塞なり、今の河南開封府新鄭縣の南に在り、柱國、楚の官名なり、大臣なり、襄陵、魏の地なり、今の山西平陽府襄陵縣なり、

陳軫適爲秦使齊、齊王曰、爲之奈何、陳軫曰、王勿憂、請令罷之、

十年、魏取我魯陽、十一年、肅王卒、無子、立其弟熊良夫、是爲宣王、宣王六年、周天子賀秦獻王、秦始復彊、而三晉益大、魏惠王、齊威王尤彊、三十年、秦封衞鞅於商、南侵楚、是年、宣王卒、子威王熊商立、

【講義】悼王の十年に、魏は楚の魯陽を取る、十一年に、肅王卒す、子無し、其の弟熊良夫を立つ、是を宣王とす、宣王の六年に、周の天子は、秦の獻王に朝賀す、秦復た強し、韓、魏、趙の三國は、益々大なり、魏の惠王及び齊の威王は、尤も強し、三十年に、秦は衞鞅を商に封ず、秦軍は、南征して楚を侵す、是の年に、宣王卒す、子威王熊商立つ、

【字解】魯陽、楚の邑なり、今の河南汝州魯山縣なり、

威王六年、周顯王致文武胙於秦惠王、七年、齊孟嘗君父田嬰欺楚、楚威王伐齊敗之於徐州、而令齊必逐田嬰、田嬰恐、

【講義】威王の六年に、周の顯王は文王武王を祭りたる肉を分ちて、之を秦の惠王に贈る、七年に、齊の孟嘗君の父田嬰は、楚を欺く、楚の威王は怒りて、齊を伐ち、之を徐州に敗る、因て齊に迫り、必らず田嬰を逐斥せしめんとす、田嬰は之を恐れたり、

【字解】胙、靈廟に供へたる祭肉なり、徐州、齊の楚に接したる要地なり、今の江蘇徐州府なり、

張丑僞謂楚王曰、王所以戰勝於徐州者、田盼子不用也、盼子者有功於國、而百姓爲之用、嬰子弗善、而用申紀、申紀者、大臣

簡王元年、北伐滅莒、八年、魏文侯、韓武子、趙桓子、始列爲諸侯、二十四年、簡王卒、子聲王當立、聲王六年、盜殺聲王、子悼王熊疑立、悼王二年、三晉來伐楚、至乘丘而還、

【講義】 惠王の五十七年に、惠王卒し、子簡王中立つ、簡王の元年に、北伐して莒を滅す、八年に、魏文侯、韓武子、趙桓子、始めて列し諸侯と爲る、二十四年に、簡王卒す、子聲王當立つ、聲王の六年に、盜は聲王を殺す、子悼王熊疑立つ、悼王の二年に、韓魏趙の三國は、軍を合せ來りて、楚を伐つ、乘丘に至り、退去す、

【字解】 莒、齊の東境なり、楚より之を伐つは、東に向ふなり、之を北伐と稱するも、莒が泗水の北に在るを以てなり、乘丘、楚の東境なり、山東兗州府に屬す、

四年、楚伐周、鄭殺子陽、九年、伐韓、取負黍、十一年、三晉伐楚、敗我大梁楡關、楚厚賂秦、與之平、二十一年、悼王卒、子肅王臧立、肅王四年、蜀伐楚、取茲方、於是楚爲扞關、以距之、

【講義】 悼王の四年に、楚は周を伐つ、鄭は其の宰相子陽を殺す、九年に、楚は韓を伐ち、負黍を取る、十一年に、韓魏趙の聯合軍は、楚を伐ち、楚の大梁楡關を敗る、楚は厚く秦に賂ひ、韓魏趙と和親す、二十一年に、悼王卒す、子肅王臧立つ、肅王の四年に、蜀は楚を伐ち、茲方を取る、是に於て、楚は扞關を設けて、蜀兵を防ぎたり、

【字解】 負黍、韓の南境なり、大梁楡關、大梁の西に於ける楚の關名なり、茲方、楚の西境なり、扞關、楚の西境の關名なり、今の四川保寧府に屬す、距、防禦なり、

に告ぐ、楚は子西をして鄭を救はしむ、子西は鄭の賂を受けて去る、白公勝怒る、乃ち遂に勇力決死の士なる石乞等を率ゐて、令尹子西子綦を政府に襲殺す、因て惠王を劫す、遂に之を高府に置きて、弑せんと欲す、

【字解】高府、楚都の府庫の名なり、

惠王從者屈固、負王亡走昭王夫人宮、白公自立爲王、月餘、會葉公來救楚、楚惠王之徒、與共攻白公、殺之、惠王乃復位、是歲也、滅陳而縣之、

【講義】惠王の從者屈固は、惠王を負ひ、高府の庫より逃げ出で、昭王の夫人の宮に走る、白公は自立して、楚王と爲る、後月餘にして、葉公の來りて楚を救ふに會ふ、是に於て、惠王の徒は、共に白公を攻め、之を殺し、惠王乃ち位に復す、是の年に、楚は陳を滅して之を縣とす、

【字解】葉公、葉は楚の邑なり、今の河南南陽府葉縣なり、葉公は、沈諸梁なり、楚より葉を賜ひ、葉公と稱す、

十三年、吳王夫差彊、陵齊晉、來伐楚、十六年、越滅吳、四十二年、楚滅蔡、四十四年、楚滅杞、與秦平、是時越已滅吳、而不能正江淮北、楚東侵廣地、至泗上、

【講義】惠王の十三年に、吳王夫差强大なり、齊晉兩國を凌駕して、來り楚を伐つ、十六年に、越は吳を滅す、四十二年に、楚は蔡を滅す、四十四年に、楚は杞を滅す、楚は秦と和親す、是の時に當り、越は既に吳を滅したれども、江水淮水の北を取る能はず、楚は東方を侵略して、地を廣め、泗水の邊に至り、遂に齊と相接したり、

【字解】正、政令を布くことなり、侵略するをいふ、

五十七年、惠王卒、子簡王中立、

兵を罷めて歸り、昭王を葬りたり、

【字解】廣、滿足せしむるなり、君王之意、昭王が群臣を愛撫し、辭讓したる意なり、越女、昭王の妾なり、

惠王二年、子西召故平王太子建之子勝於吳、以爲巢大夫、號曰白公、白公好兵而下士、欲報仇、六年、白公請兵令尹子西、伐鄭、

【講義】惠王の二年に、子西は故の平王の太子建の子勝を吳より召して、之を巢の大夫と爲し、白公と號す、白公は兵を好み、賢士を禮待す、以て父の仇を鄭に報ぜんと欲す、六年に、白公は兵を令尹子西に請ひ、以て鄭を伐たんとす、

【字解】巢、居巢なり、居巢は楚吳の間に爭奪して、此の時に楚の領邑たり、今の安徽廬州府巢縣なり、

初白公父建、亡在鄭、鄭殺之、白公亡走吳、子西復召之、故以此怨鄭、欲伐之、子西許、而未爲發兵、

【講義】是より先に、白公の父なる太子建は、楚を逃げて鄭に在り、鄭に殺されたり、白公は亡げて吳に走る、楚の令尹子西は、復た白公を召して楚に入らしめたり、白公は此を以て鄭を怨み、之を伐たんと欲す、子西は之を許せり、然れども、未だ爲めに兵を發するに至らず、

八年、晉伐鄭、鄭告急楚、楚使子西救鄭、受賂而去、白公勝怒、乃遂與勇力死士石乞等、襲殺令尹子西子綦於朝、因劫惠王、置之高府、欲弑之、

【講義】惠王の八年に、晉は鄭を伐つ、鄭は危急を楚

と、乃ち禱を止めて、之を許さず、孔子は陳に在り、是の言を聞きて曰く、楚の昭王は大道に通じたり、其の國を失はざるも、宜なるかな、

【字解】望、祭祀なり、名山大川を遠望して祭ることなり、

昭王病甚、乃召諸公子大夫曰、孤不佞、再辱楚國之師、今乃得以天壽終、孤之幸也、讓其弟公子申爲王、不可、又讓次弟公子結、亦不可、乃又讓次弟公子閭、五讓、乃後許爲王、將戰、庚寅、昭王卒於軍中、

【講義】昭王病甚し、乃ち諸公子大夫を召して曰く、余は不佞なり、再び楚國の軍を敗走せしめたり、然るに、今や天壽を以て死するを得るは、余の幸なりと、乃ち其の弟公子申に讓り、王と爲さんとす、申は聽かず、其の次弟公子結に讓らんとす、亦聽かず、其の次弟公子閭に讓らんとす、五たび讓りて、後に之を受く、乃ち閭を立てゝ、楚王と爲す、因つて呉と戰はんとす、其の月の庚寅の日に、昭王は軍中に卒す、

【字解】孤、余なり、不佞、愚なり、辱、敗走なり、

子閭曰、王病甚、舍其子、讓羣臣、臣所以許王、以廣王意也、今君王卒、臣豈敢忘君王之意乎、乃與子西子綦謀、伏師閉塗、迎越女之子章立之、是爲惠王、然後罷兵歸、葬昭王、

【講義】子閭曰く、先王は其の病重きに當り、其の子を舍てゝ群臣に讓る、余が楚王たるを承諾したるは、先王の意を廣めんが爲めのみ、今や王卒す、余豈敢て先王の意を忘れんやと、乃ち子西子綦と謀り、兵を伏し途を閉ぢ、以て事變に備へ、昭王の妾なる越女の子章を迎へて之を立つ、是の楚の惠王とす、然る後に、

に屬す、胡、歸姓の小國なり、今の安徽潁州府に屬す、

二十七年春、吳伐陳、楚昭王救之、軍城父、十月、昭王病於軍中、有赤雲如鳥、夾日而蜚、昭王問周太史、太史曰、是害於楚王、然可移於將相、將相聞是言、乃請自以身禱於神、昭王曰、將相孤之股肱也、今移禍、庸去是身乎、弗聽、

【講義】 昭王の二十七年春に、吳は陳を伐つ、楚の昭王は之を救ひ、城父に軍す、其の年の十月に、昭王は軍中に病む、楚國の天上に、赤雲有り、鳥の如し、日を挾みて飛ぶ、昭王は之を周の太史に問ふ、太史曰く、是れ楚王に害有り、然れども其の禍を將相に移すを得べしと、將軍と宰相とは之を聞きて、乃ち其の禍を代り受けんが爲めに、身を以て神に禱らんと請ふ、昭王曰く、將相は余の股肱なり、今我禍を他に移さんとするも、何ぞ我身の股肱を棄てんやと、竟に身代りの說を用ひず、

【字解】 城父、楚の東北の國境にして要塞なり、夾、挾み擁するなり、蜚、飛ぶなり、孤、諸侯の自から稱する謙辭なり、庸、何なり、是身、股肱を指す、股肱は卽ち吾身といふ意なり、

卜而河爲祟、大夫請禱河、昭王曰、自吾先王受封、望不過江漢、而河非所獲罪也、止不許、孔子在陳、聞是言曰、楚昭王通大道矣、其不失國、宜哉、

【講義】 更に其の禍を卜筮に問ふ、其の兆に曰く、黃河の神が祟を爲すと、楚の大夫は、乃ち黃河の神に禱らんと請ふ、昭王曰く、吾先祖が封土を受けてより、今に至るまで、楚國の祭祀する山川は、江水漢水に過ぎず、黃河は未だ之を祭らず、故に罪を獲る所に非ず

【講義】昭王の郢を去るや、申包胥をして救を秦に請はしむ、秦は車兵五百乘を以て、楚を救ふ、楚も餘兵散兵を收聚して、秦と共に吳を擊ち、竟に其の國を復したり、

【字解】車五百乘、車兵五萬人なり、

十一年六月、敗吳於稷、會吳王弟夫概、見吳王兵傷敗、乃亡歸、自立爲王、闔閭聞之、引兵去楚、歸擊夫概、夫概敗奔楚、楚封之堂谿、號爲堂谿氏、楚昭王滅唐、

【講義】昭王の十一年六月に、楚は吳を稷に敗る、是の時に當り、吳王の弟夫概は、吳王の士卒傷敗したるを見て、乃ち亡げ歸り、自立して王と爲る、闔閭は之を聞きて、兵を引き楚を去り、歸りて夫概を擊つ、夫概は敗れて、楚に奔る、楚は之を堂谿に封じ、堂谿氏と號す、楚の昭王は、唐を討滅す、

【字解】稷、楚の邑なり、今の河南の南陽府に屬す、堂谿、楚の屬邑なり、今の河南汝寧府遂平縣の西に在り、

九月、歸入郢、十二年、吳復伐楚、取番、楚恐去郢、北徙都鄀、十六年、孔子相魯、二十年、楚滅頓、滅胡、二十一年、吳王闔閭伐越、越王句踐、射傷吳王、遂死、吳由此怨越、而不西伐楚、

【講義】其の年の九月に、昭王は歸り郢都に入る、十二年に、吳は復た楚を伐ち、番を取る、楚は恐れて郢を去り、北に徙り、鄀に都す、十六年に、孔子は魯に相たり、二十年に、楚は頓を滅し、胡を滅す、二十一年に、吳王闔閭は、越を伐つ、越王句踐は、射て、吳王を負傷せしむ、遂に其の死を致す、吳は此に由り、越を怨む、復た西に楚を伐つことを爲さず、

【字解】番、楚の東鄙の邑なり、鄀、今の湖北襄陽府宜城縣に屬す、頓、姬姓の小國なり、今の河南陳州府

不亦可乎、鄖公止之、然恐其弑昭王、乃與王出奔隨、

【講義】 昭王の逃げ去るや、雲夢に至る、雲夢の人は其の王なるを知らず、射て王を負傷せしむ、王は鄖に走る、鄖公の弟懷曰く、平王は吾父を殺せり、今や我は平王の子を殺す、亦可ならずやと、鄖公は之を止む、然れども、其の弑逆に及ぶを恐れ、乃ち王と共に隨に出奔す、

【字解】 雲夢、揚子江の南北に亙りたる楚の大澤の名なり、鄖、楚の邑なり、今の湖北鄖陽府鄖縣なり、隨、楚の屬國なり、今の湖北德安府隨州なり、

吳王聞昭王往、卽進擊隨、謂隨人曰、周之子孫封於江漢之間者、楚盡滅之、欲殺昭王、王從臣子綦、乃深匿王、自以爲王、謂隨人曰、以我予吳、隨人卜予吳、不吉、乃謝吳王曰、昭王亡、不在隨、吳請入自索之、隨不聽、吳亦罷去、

【講義】 吳王は昭王の往きたるを聞き、卽ち進みて隨を擊つ、隨人に謂ひ曰く、周の子孫にして、江水漢水の邊に封土を得たる者は、皆楚に滅されたりと、因て昭王を殺さんと欲す、昭王の從臣子綦は、乃ち深く王を匿し、自から王なりと詐り、隨人に謂ひ曰く、我を以て吳に與へよと、隨人は之を卜す、然れども、其の吳に與ふることは、不吉の兆を得たり、乃ち吳王に謝して曰く、昭王は亡げたり、隨に在らずと、吳は隨の城に入り、自から之を索めんと請ふ、隨は聽かず、吳も遂に兵を罷め去る、

昭王之出郢也、使申包胥請救於秦、秦以車五百乘救楚、楚亦收餘散兵、與秦擊吳、

四年、吳三公子奔楚、楚封之、以扞吳、五年、吳伐取楚之六潛、七年、楚使子常伐吳、吳大敗楚於豫章、十年冬、吳王闔閭、伍子胥、伯嚭與唐蔡俱伐楚、楚大敗、吳兵遂入郢、辱平王之墓、以伍子胥故也、

【講義】昭王の四年に、吳の三公子は、楚に奔る、楚は乃ち之に封土を授けて、吳を防ぐ、五年に、吳は楚を伐ちて、六と潛との兩邑を取る、七年に、楚は子常をして、吳を伐たしむ、吳は大に楚を豫章に敗る、十年の冬に、吳王闔閭は、伍胥伯嚭と共に、唐蔡兩國の兵を併せて、楚を伐つ、楚は大に敗る、吳兵は遂に郢都に入り、平王の墓を辱しめたり、是れ伍胥が父兄の怨の故を以てなり、

【字解】扞、禦ぐなり、六潛、楚の兩邑の名なり、吳の世家に詳解せり、豫章、楚の要害の地なり、今の安徽廬州府に屬す、

吳兵之來、楚使子常以兵迎之、夾漢水陣、吳伐敗子常、子常亡奔鄭、楚兵奔、吳乘勝逐之、五戰及郢、己卯昭王出奔、庚辰吳人入郢、

【講義】吳兵の來るや、楚は子常をして兵を牽ゐ、逆へ擊たしめ、漢水を挾みて陣す、吳は伐ち子常を敗る、子常は逃げて鄭に奔る、楚兵敗走す、吳は勝に乘じ、之を逐ひ、五戰して郢都に達す、其の月の己卯の日に、昭王出奔す、庚辰の日に、吳人は郢城に入る、

昭王亡也、至雲夢、雲夢不知其王也、射傷王、王走鄖、鄖公之弟懷曰、平王殺吾父、今我殺其子、

亦其の國兵を發し、公子光をして楚の居巢に於ける太子建の母の家に因りて、楚を攻めしめ、遂に楚の鍾離と居巢との兩邑を滅したり、楚は乃ち恐れて、舊來の郢都を修築し、以て吳の侵入に備ふるに至れり、

十三年、平王卒、將軍子常曰、太子珍少、且其母乃前太子建所當娶也、欲立令尹子西、子西平王之庶弟也、有義、子西曰、國有常法、更立則亂、言之則致誅、乃立太子珍、是爲昭王、

【講義】平王の十三年に、平王卒す、將軍子常曰く、太子珍は幼少なり、且つ其の母は、前の太子建が娶るべき所の秦女なりと、乃ち令尹子西を立てんと欲す、子西は平王の庶弟なり、其の人は節義を守る、故に、子常の言を斥けて曰く、國に常法有り、更めて立つれば亂る、之を言へば誅を致さんと、子常は乃ち太子珍を立つ、是を昭王とす、

【字解】令尹、楚の行政長官なり、更、更改することなり、

昭王元年、楚衆不說費無忌、以其讒亡太子建、殺伍奢子尙、與郤宛、宛之宗姓伯氏子嚭、及子胥皆奔吳、吳兵數侵楚、楚人怨無忌甚、楚令尹子常、誅無忌、以說衆、衆乃喜、

【講義】昭王の元年に、楚の士民は費無忌を悅ばず、蓋し無忌が、故の太子建を讒し、伍奢、伍尙及び郤宛を殺したるを以てなり、郤宛の宗家伯氏の子伯嚭、及び伍胥は、皆吳に奔り、吳兵屢楚を侵す、故に、楚人は無忌を怨む甚し、楚の令尹子常は、遂に無忌を誅し、以て士民に辯解す、士民皆滿悅したり、

【字解】說、悅ぶなり、亡太子、太子建は楚を逃げて、遂に死したるを以て、亡といふなり、

亡、楚國危哉、楚人遂殺伍奢及尙、

【講義】伍胥は弓を張り、矢を屬け、出でて使者に見えて曰く、父は罪有り、何を以て其の子を召すを爲さんやと、乃ち使者を射んとす、使者還り走る。伍胥は遂に出でて、呉に奔る、伍奢は之を聞き曰く、胥は亡げたり、楚國は危いかなと、楚人は遂に伍奢及び伍尙を誅殺したり、

【字解】彎、曲げるなり、弓を張りたる貌なり、屬、注ぐるなり、

十年、楚太子建母、在居巢、開呉、呉使公子光伐楚、遂敗陳蔡、取太子建母而去、楚恐城郢、

【講義】平王の十年に、楚の太子建の母は、居巢に在り、呉を導きて、楚を侵さしむ、呉は公子光をして、楚を伐たしめ、陳蔡を敗り、太子建の母を取りて去る、楚は恐れて、其の首都なる郢城を修築す、

【字解】居巢、楚の邑なり、今の安徽廬州府巢縣なり、開、導き入るなり、郢、楚の文王以來の首都なり、今の湖北荊州府江陵縣なり、城、修築するをいふ、

初呉之邊邑卑梁與楚邊邑鍾離、小童爭桑、兩家交怒、相攻、滅卑梁人、卑梁大夫怒、發邑兵、攻鍾離、楚王聞之怒、發國兵、滅卑梁、呉王聞之、大怒、亦發兵、使公子光因建母家、攻楚、遂滅鍾離居巢、楚乃恐而城郢、

【講義】是より先に、呉の國境の卑梁と、楚の國境の鍾離と、其の地の相接するを以て、小童は桑の葉を採るより、爭鬪を生じ、兩家相互に怒りて、攻擊し、遂に卑梁の人を滅す、是に於て、卑梁の大夫は怒り、其の邑兵を發し、鍾離を攻む、楚王は之を聞きて怒り、國兵を發して、卑梁を滅す、呉王は之を聞き、大に怒り、

王曰、何也、奢曰、尙之爲人、廉死節、慈孝而仁、聞召而免父、必至、不顧其死、胥之爲人、智而好謀、勇而矜功、知來必死、必不來、然爲楚國憂者、必此子、

【講義】是に於て、平王は使をして伍奢に謂はしめて曰く、能く二子を來たらしめば、汝を生さん、二子を招く能はずんば、汝の殺さんと、伍奢曰く、伍尙は至らん、伍胥は至らずと、平王は其の故を問ふ、伍奢曰く、伍尙は其の性質廉直なり、節義に死すべし、慈孝にして仁厚なり、召されて父を免すと聞かば、必らず來らん、其の身の死を顧みざるべし、之に反して、伍胥は性質、智慮有りて、謀を好み、勇氣有りて、功を誇る、其の來るときは、必ず死すといふを知る、故に、伍胥は必らず來らず、然れども、異日楚國の憂患を作すものは、必らず此の伍胥ならん、

【字解】致、來らしむるなり、矜、誇るなり、得意とするなり、

於是、王使人召之曰、來、吾免爾父、伍尙謂伍胥曰、聞父免而莫奔、不孝也、父戮莫報、無謀也、度能任事、智也、子其行矣、我其歸死、伍尙遂歸、

【講義】是に於て、平王は人をして伍奢の二子を召さしむ、曰く、來れ、吾は汝の父を免さんと、伍尙は伍胥に謂ひ曰く、父の免さるゝを聞きて、往かざるは不孝なり、父殺されて、之に復讐せざるは、無謀なり、才能を度りて、其事に任ずるは、智なり、子は其れ去れ、以て報讐を事とせよ、我は其れ往きて、死に歸せんと、伍尙は遂に平王の召に應じて歸り來る、

伍胥彎弓屬矢、出見使者、曰、父有罪、何以召其子爲、將射、使者還走、遂出奔呉、伍奢聞之曰、胥

城父、擅兵、外交諸侯、且欲入矣、

【講義】平王の六年に、太子建をして城父に居り、國疆を守らしむ、無忌は日夜、太子を平王に讒言して曰く、無忌が秦女を王宮に入らしめて以來、太子は之を怨み、吾王に怨望無き能はず、願くは王自から少しく之に備へよ、且つ太子は城父に居り、兵を擅にし、外には諸侯と相交り、楚都に侵入せんと欲す、

【字解】城父、楚の東北の國境に於ける城塞なり、望、怨みなり、

平王召其傅伍奢、責之、伍奢知無忌讒、乃曰、王奈何以小臣疏骨肉、無忌曰、今不制、後悔也、於是、王遂囚伍奢、而召其二子、而告以免父死、

【講義】平王は太子太傅なる伍奢を召して、之を責む、伍奢は無忌が太子を讒するを知る、因て曰く、王は何の故に、小臣の言を以て、骨肉の親を疏斥するかと、無忌曰く、今にして制せざるときは、後に之を悔いんと、是に於て、平王は遂に伍奢を囚へて、其の二子を召し、之を誘ひ告ぐるに、父の死を免さんことを以てす、

乃令司馬奮揚召太子建、欲誅之、太子聞之、亡奔宋、無忌曰、伍奢有二子、不殺者、爲楚國患、盍以免其父召之、必至、

【講義】平王乃ち司馬奮揚をして、太子建を召さしめ、之を誅殺せんと欲す、太子は之を聞き、逃げて宋に奔る、無忌曰く、伍奢は二子有り、之を殺さゞるときは、楚國の患害と爲らん、是れ其の父を免すといふを以て、召すべし、二子必らず至らん、

【字解】盍、何不。の兩字と見るべし、何ゾ…セザルと訓ず、

於是、王使使謂奢、能致二子、則生、不能、將死、奢曰、尚至、胥不至、

は内に人民の施恵を感ずるもの無し、外に應援の依賴するに足るもの無し、其の晉を去るも、晉人は之を送らず、其の楚に入るも、楚人は之を迎へず、何を以てか國を領有するを得んやと、果して此の言の如く、子比は終を完くせず、其の竟に立ちたるは棄疾なり、總て叔向の豫測に違はず、

平王二年、使費無忌如秦、爲太子建娶婦、婦好、來未至、無忌先歸、說平王曰、秦女好、可自娶、爲太子更求、平王聽之、卒自娶秦女、生熊珍、更爲太子娶、

【講義】平王の二年に、平王は費無忌を使として、秦に往き、楚の太子建の爲めに、婦を娶らしむ、其の婦は美麗なり、未だ楚國に到著せず、無忌は先づ歸り、平王に說きて曰く、秦の女は美麗なり、王自から娶るべし、更に太子の爲めに、別人を求めんと、平王は之を聽き、竟に自から秦女を娶り、熊珍を生む、乃ち別に太子の婦を定む、

是時伍奢爲太子太傅、無忌爲少傅、無忌無寵於太子、常讒惡太子建、建時年十五矣、其母蔡女也、無寵於王、王稍益疏外建也、

【講義】是の時に當り、伍奢は太子太傅たり、無忌は太子少傅たり、無忌は太子に寵愛せられず、常に太子を平王に讒言す、太子建は時に年十五なり、其の母は蔡の女なり、平王に寵愛せられず、平王稍益太子を疏遠にしたり、

六年、使太子建居城父守邊、無忌又日夜讒太子建於王曰、自無忌入秦女、太子怨、亦不能無望於王、王少自備焉、且太子居

公も、亦此の子比の如くならずやと、叔向對へて曰く、齊の桓公は、子比に異なり、桓公は衞姬の子なり、其の父なる釐公に寵愛せられ、鮑叔牙、賓須無、隰朋の三賢材有りて、其の輔佐と爲り、莒衞の兩國有りて、外援の主動者たり、齊の大夫高、國の二家有りて、內應の主動者たり、而して桓公は、善に從ふこと流るゝが如く、惠を施して倦まず、其の入りて國を領有したるも、宜ならずや、

【字解】主、應援の主動者なり、

昔我文公、狐季姬之子也、有寵於獻公、好學不倦、生十七年、有士五人、有先大夫子餘、子犯、以爲腹心、有魏犨、賈佗、以爲股肱、有齊、宋、秦、楚、以爲外主、有欒、郤、狐、先、以爲內主、亡十九年、守志彌篤、惠懷棄民、民從而與之、故文公有國、不亦宜乎、

【講義】叔向は更に文公の子比に異なる事情を陳べて曰く、昔時我文公は、桓氏の季姬の子なり、其の先君なる獻公に寵愛せられ、學を好みて倦まず、十七歲の少年にして、既に從屬したる賢士五人有り、先大夫子餘、子犯の兩人は、其の腹心たり、魏犨、賈佗の二人は、其の股肱たり、齊、宋、秦、楚の四國は、外援の主動者たり、欒、郤、狐、先の四家は、內應の主動者たり、其の國を亡げ去りて十九年の久しきも、志を守る彌々篤し、惠公懷公は、民心に背きて德を施さず、民は相從ひて、文公に歸順したり、故に、文公の入りて國を領有したるも、宜ならずや、

子比無施於民、無援於外、去晉、晉不送、歸楚、楚不迎、何以有國、子比果不終焉、卒立者棄疾、如叔向言也、

【講義】叔向は竟に其の論を結びて曰く、今や子比

有楚國者、其棄疾乎、君陳蔡、方城外屬焉、苛慝不作、盜賊伏隱、私欲不違、民無怨心、先神命之、國民信之、芊姓有亂、必季實立、楚之常也、子比之官、則右尹也、數其貴寵、則庶子也、以神所命、則又遠之、民無懷焉、將何以立、

【講義】叔向は尙說きて曰く、今や楚國を領有する者は、其れ棄疾ならんか、棄疾は陳蔡兩國に君臨し、楚の本國以外の民は、皆棄疾に服從す、邪惡は作らず、盜賊は伏し隱れ、私慾を以て、民事を害する無し、民は怨心を抱かず、且つ夫れ棄疾は、嘗て祖先の廟に謁し、神靈の命を受けたり、國民は之を信ず、從來の例に依れば、楚王の家に亂有るときに、其の王の季子必らず實に立つ、是れ楚の常なり、棄疾は末子なるを以て、必らず此の運に應ぜん、子比は之に反す、子比の官は右尹なり、其の身分は、貴寵なるも、之を數ふれば、庶子なり、祖廟に於ける神靈の命を以て見るも、既に其の君位より遠く離る、國民は子比を懷ふもの無し、何を以て立つを得んや、

【字解】方城、楚國の山名なり、天險にして、楚の要害たり、故に楚の本國を略稱するに用ふ、苛慝、邪惡の甚しきものを指す、不違、民事に違はず、民を害せざるなり、先神命之、前節に於ける山川の神意を祖廟に驗したる事跡を指す、芊、ビと讀む、楚王の姓なり、右尹、前節に在り、

宣子曰、齊桓晉文、不亦是乎、對曰、齊桓衞姬之子也、有寵於釐公、有鮑叔牙、賓須無、隰朋、以爲輔、有莒衞、以爲外主、有高國、以爲內主、從善如流、施惠不倦、有國不亦宜乎、

【講義】韓宣子曰く、然りと雖も、齊の桓公、晉の文

國に於て、內應する主動者有るも、謀略無きは、第三難なり、謀略有るも、人民無きは、第四難なり、人民有るも、其の身に德望無きは、第五難なり、

【字解】濟、其の事の成就することなり、就、濟に同じ、謂はゆる成功なり、惡、ヲと讀む、惛むなり、寵、其の本人の身分貴きなり、主、其の本國にて內應する主動者なり、

子比在晉十三年矣、晉楚之從、不聞通者、可謂無人矣、族盡親叛、可謂無主矣、無釁而動、可謂無謀矣、爲羈終世、可謂無民矣、亡無愛徵、可謂無德矣、王虐而不忌、子比涉五難以弑君、誰能濟之、

【講義】叔向は、尙其の說を進めて曰く、子比は晉に在る十三年なり、久しと謂ふべし、然れども、晉楚兩國にて、子比に從ひ遊ぶものは、皆凡庸の徒なり、其の中に通達の賢材有るを聞かず、是れ子比は、其の身分獨り寵顯なるも、之に從ふ人才無く、第一難を犯せるなり、子比は族人既に滅し、親戚皆叛き、其の本國には、內應の主動者無し、是れ第二難を犯せるなり、子比は本國に釁隙無くして、遽に動く、是れ謀略無く、第三難を犯せるなり、子比は外國に寄寓して、十數年の久しきに彌る、是れ人民無く、第四難を犯せるなり、子比は國を亡げて久しきも、楚人が之を愛惜する徵驗無し、是れ其の身に德望無くして、第五難を犯せるなり、現在の楚王は、暴虐なるも、忌刻ならず、暴虐は之を誅すべきも、忌刻ならざるは宥すべし、然るに、子比は五個の難關に涉りながら、敢て君を弑す、誰か能く之を成功せしめん、子比は必らず敗亡せんのみ、

【字解】從、從遊する人なり、通者、賢材なり、主、其の本國に於ける內應の主動者なり、釁、舋隙なり、羈、寄寓なり、外國に客たるなり、終世、多年なり、愛徵、愛する證據なり、不忌、忌刻ならざるなり、殘忍ならざるなり、忌は慘酷なるをいふ、濟、成就するなり、

ども、嫡子として立つもの無し、乃ち山川の群神を遠望して、之を祭り、以て後嗣を決定せんことを神に請ひ、其の決定したる子に、社稷を主らしめんと欲す、因て內密に巴姬と謀り、璧を祖廟の內に埋め、五子を召し、齋戒して廟に至らしむ、康王は璧に跨る、靈王は其の肘が璧に接す、子比と子皙とは、皆璧より遠し、平王は幼なり、抱かれて入る、再拜して璧の紐を壓し、正しく璧に當る、故に康王卽ち公子招は、長子を以て立ち、其の子に至りて位を失ふ、靈王卽ち公子圍は、位に卽きたるも、其の身は遂に弑せらる、子比は王たること十餘日のみ、子皙は立つを得ず、子比と共に誅せらる、此の四子は、皆絕えて後嗣無し、唯獨り平王は、後れて立ち、竟に楚の祭祀を繼續するを得たり、實に神符の如し、

【字解】適、嫡なり、望、遠方より名山大川を望むなり、社稷、國家なり、室內、祖廟の內なり、齋、齋戒なり、身を清め飲食を愼むなり、紐、璧の鈕系なり、

初、子比自晉歸、韓宣子問叔向曰、子比其濟乎、對曰不就、宣子曰、同惡相求、如市賈焉、何爲不就、對曰、無與同好、誰與同惡、取國有五難、有寵無人、一也、有人無主、二也、有主無謀、三也、有謀而無民、四也、有民而無德、五也、

【講義】是より先に、公子比が晉より楚に歸るや、韓宣子は叔向に問ひ曰く、子比は其れ成功せんか、叔向對へて曰く、子比は成功せず、宣子曰く、其の惡む所を同くする者が、相求むるは、市上の商人が其の利する所を求めて集る如し、子比と共に、其の惡む所を同じくするものが、進みて事を成す、何ぞ成らざる有らん、叔向曰く、然らず、子比は之に異なり、共に好む所を同くする者無し、誰か能く子比と共に、惡む所を同くする者有らんや、蓋し國を取るには、五個の難關有り、其の身は、天寵有りて貴きも、其の從者に、賢材無きは、第一難なり、其の從者に、賢材有るも、其の本國に於て、內應する主動者無きは、第二難なり、其の本

人及諸侯叛之、乃施惠百姓、復陳蔡之地、而立其後、如故、歸鄭之侵地、存恤國中、修政敎、吳以楚亂故、獲五率以歸、平王謂觀從、恣爾所欲、欲爲卜尹、王許之、

【講義】平王は斯の如く詐術を以て、靈王と新君比との兩王を弑し、遂に自立す、故に國人及び諸侯が我に叛くを恐る、乃ち衆民に施惠し、陳蔡兩國の領土を返還して、其の後嗣を立つること舊の如くし、更に鄭に對しては、前年侵略したる地を還附し、楚國の中には、孤獨窮乏の者を存問し、救恤し、政敎を修め正したり、吳は楚の亂に由り、前年楚軍の徐を攻めて、未だ退去せざるものを擊ち、其五將を捕へて歸り去れり、平王は觀從に謂ひ曰く、汝の功は多し、汝の欲する所を恣にせよと、觀從は卜尹たらんことを希望す、平王乃ち之を許したり、

【字解】五率、五帥なり、楚より徐を攻めたる五將を指す、卜尹、卜筮を取り締る長官なり、蓋し大夫にして卜筮を掌るなり、

初共王有寵子五人、無適立、乃望祭羣神、請神決之、使主社稷、而陰與巴姬、埋璧於室內、召五子、齋而入、康王跨之、靈王肘加之、子比子晳、皆遠之、平王幼、抱而入、再拜壓紐、故康王以長立、至其子失之、圍爲靈王、及身而弑、子比爲王十餘日、子晳不得立、又俱誅、四子皆絕無後、唯獨棄疾後立、爲平王、竟續楚祀、如其神符、

【講義】是より先に、共王は寵愛の子五人有り、然れ

王復來、又不聞靈王死、故觀從謂初王比曰、不殺棄疾、雖得國、猶受禍、王曰、余不忍、從曰、人將忍王、王不聽、乃去、棄疾歸、國人每夜驚曰、靈王入矣、

【講義】是の時に當り、楚國は既に公子比を立て新君と爲す、然れども、靈王の復た來るを恐る、且つ靈王の死去を聞かず、故に、觀從は新君比に謂ひ曰く、公子棄疾を殺さざるときは、國を得たりと雖も、猶禍を受けんと、新君比曰く、余は棄疾を殺すに忍びず、觀從曰く、王は彼を殺さずんば、彼は王を殺さんとすと、然れども、新君比は之を聽かず、觀從は乃ち去る、是より先き、公子棄疾の楚都に歸り入るや、國人は每夜驚き曰く、靈王入ると、

乙卯夜、棄疾使船人從江上走呼曰、靈王至矣、國人愈驚、又使曼成然告初王比及令尹子晳曰、王至矣、國人將殺君、司馬將至矣、君蚤自圖、無取辱焉、衆怒如水火、不可救也、初王及子晳遂自殺、丙辰、棄疾卽位爲王、改名熊居、是爲平王、

【講義】其月の乙卯の夜に、公子棄疾は船人をして江上より走り呼ばしめ、曰く、靈王入ると、國人は之を聞きて、愈驚きたり、棄疾は更に曼成然をして、新君比及び令尹子晳に告げしめ、曰く靈王至る、國人は新君を殺さんとす、司馬棄疾は至らんとす、君疾く自から死を決せよ、辱を取る勿れ、衆怒は水火の如し、救ふべからずと、是に於て、新君比及び令尹子晳は皆自殺す、其月の丙辰の日に、棄疾は位に卽きて、王と爲り、名を熊居と改む、是を楚の平王とす、

平王以詐弑兩王而自立、恐國

し、王は迷ひ歩するときに、其の舊き宮中の小吏に遇ふ、乃ち謂ひ曰く、我の爲めに食を求め來れ、我は既に食はざる三日なり、

【字解】　將欲、欲の字義を緩く用ふる爲に、將を添ふるなり、李白乘舟將欲行の如し、鄢、今の湖北襄陽府宜陽縣なり、傍徨、彷徨なり、徘徊なり、故、舊なり、鋗人、涓人なり、宮中の取次ぎ役なり、式部官の類なり、

鋗人曰、新王下レ法、有ニ敢饟レ王從一レ王者、罪及ニ三族一、且又無レ所レ得レ食、王因枕ニ其股一而臥、鋗人又以レ土自代、逃去、王覺而弗レ見、遂饑不レ能レ起、

【講義】　舊小吏曰く、今や楚國の新主は、法を發し、舊王に食を贈るを禁じ、舊王に從ふを禁ず、敢て之を犯すものは、父母妻の族を罪にせらる、且つ此の處には、食を得る途無しと、是に於て、靈王は舊小吏の股を枕にして臥す、舊小吏は土塊を以て股に代へ、王の睡りたるを觀て、逃げ去る、王覺めて側に人無し、遂に饑ゑて起つ能はず、

【字解】　鋗人、前節に解す、饟、食を給與するなり、三族、父母妻の族なり、

芊尹申無宇之子申亥曰、吾父再犯ニ王命一、王弗レ誅、恩孰大レ焉、乃求レ王、遇ニ王饑於釐澤一、奉レ之以歸、夏五月癸丑、王死ニ申亥家一、申亥以ニ二女一從レ死、幷葬レ之、

【講義】　芊の縣令申無宇の子申亥曰く、吾父は再び吾王の命を犯したれども、王は誅せず、其の恩は何ぞ此の上有らん、我は願くは之に報ぜんと、乃ち王を求めて、王が釐澤の陂に饑ゑ僵れたるを見る、因て王を奉じて、其の家に歸る、其の年の夏五月癸丑の日に、靈王は申亥の家に死す、申亥は其の兩女を以て、王に殉死せしめ、併せて之を葬りたり、

是時、楚國雖ニ已立一レ比爲レ王、畏ニ靈

靈王聞太子祿之死也、自投車下而曰、人之愛子、亦如是乎、侍者曰、甚是、王曰、余殺人之子多矣、能無及此乎、

【講義】靈王は太子祿の殺害に遭ひしを聞き、驚愕して、自ら身を車下に投じて曰く、其の子を愛する情は、何人も此の如きか、侍者曰く、是よりも甚し、靈王曰く、余は人の子を殺すこと多し、何ぞ能く今日の禍に及ぶを免れんや、

右尹曰、請待於郊、以聽國人、王曰、衆怒不可犯、曰、且入大縣而乞師於諸侯、王曰、皆叛矣、又曰、且奔諸侯、以聽大國之慮、王曰、大福不再、秖取辱耳、

【講義】右尹子革曰く、請ふ國に歸り、郊外に於て待ち、以て國人の我に從ふや否やを聽かん、靈王曰く、衆の怒りは之を犯すべからず、右尹曰く、姑く大縣に入り、軍を諸侯に乞はん、靈王曰く、諸侯皆叛けり、右尹曰く、姑らく諸侯に奔り、以て大國の思慮を聽かん、靈王曰く、大福は再び至らず、唯辱を取らんのみ、

【字解】右尹、楚の官名なり、侍從長の如きものなり、且、姑くなり、秖、唯なり、

於是、王乘舟、將欲入鄢、右尹度王不用其計、懼俱死、亦去王亡、靈王於是獨傍徨山中、野人莫敢入王、王行遇其故鋗人、謂曰、爲我求食、我已不食三日矣、

【講義】是に於て、靈王は舟に乘り、漢水の流に順ひ、南して楚の別都なる鄢に入らんと欲す、右尹は王が其の計を用ひざるを察し、倶に死するに至るを懼れ、亦王を棄てゝ逃げ去る、靈王は遂に獨行して、山中を彷徨す、野人は敢て王を其の家に入らしむる無

公子棄疾命、召公子比於晉、至蔡、與呉越兵、欲襲蔡、令公子比見棄疾、與盟於鄧、

【講義】是より先に、靈王は諸侯の兵を申に會するに當り、越の大夫常壽過を辱め、蔡の大夫觀起を殺す、起の子なる觀從は、亡げて呉に在り、乃ち呉王に楚を伐たんことを勸め、間使を越の大夫常壽過に發して、亂を作さしめ、更に呉の間使を以て、楚の公子棄疾の命なりと詐稱し、楚の公子比を晉より召さしめ、公子比の蔡に至るを期して、呉越の兵と合し、以て蔡を襲はんと欲す、因て公子比をして、公子棄疾と會見せしめ、共に鄧に盟はしむ、

【字解】中、楚の領邑なり、今の河南汝寧府に屬す、僇、辱しむるなり、鄧、今の河南許州府郾城縣の東南に在り、

遂入殺靈王太子祿、立子比爲王、公子子晳爲令尹、棄疾爲司馬、先除王宮、觀從從師于乾谿、令楚衆曰、國有王矣、先歸、復爵邑田室、後者遷之、楚衆皆潰、去靈王而歸、

【講義】是に於て、公子比公子棄疾等は、遂に進み楚の都に入り、靈王の太子祿を殺し、公子比を立て、楚王と爲し、公子子晳を令尹と爲し、公子棄疾を司馬と爲し、先づ王宮を掃除し、新君の卽位に備ふ、觀從は乾谿に出陣し、乾谿滯在の楚人に告げて曰く、國に王有り、先づ歸國して王に從ふものには、位爵、領地、財産、家屋を舊の如く許與すべし、後れ歸るものは、之を他所に逐ひ拂ふべしと、此の宣言を聞きて、乾谿に於ける楚人は、皆奔潰し、現在の王たる靈王を棄てゝ歸國したり、

【字解】令尹、行政長官なり、司馬、軍事長官なり、潰、下の者が上の者を置き去りにして、先づ逃るゝことなり、

今我求之、其予我乎、

【講義】靈王曰く、昔時我皇祖伯父昆吾は、許國の舊領地に住せり、今や鄭人は其の地を貪り取り、之を我楚に與へず、今や我は之を求めんとす、鄭は其れ我に與ふるか如何、

對曰、周不愛鼎、鄭安敢愛田、

【講義】析父は此の靈王の問に接して、王の竟に開悟せざるを知る、故に、再び苦言を陳ぜず、對へて曰く、吾君王の勢威を以てすれば、周は既に鼎を愛惜せず、鄭は何ぞ田地を愛惜するを得んや、皆爭ひて君王に獻上せん、

靈王曰、昔諸侯遠我而畏晉、今吾大城陳蔡不羹、賦皆千乘、諸侯畏我乎、對曰、畏哉、靈王喜曰、析父善言古事焉、

【講義】靈王曰く、昔時諸侯は我楚を遠しとして、晉を畏れたり、今や我は陳蔡不羹の三城を築造し、其の三城は、各車兵千乘を出すに足る、諸侯は其れ我楚を畏れんかと、析父は竟に靈王の驕慢にして、諭すべからざるを知る、乃ち對へて曰く、諸侯必らず畏服せんと、靈王喜び曰く、析父は善く古事を言ふと、

【字解】不羹、楚の領邑なり、今の河南許州襄城縣の西に在り、賦、徵收の額なり、千乘、車兵十萬人なり、

十二年春、楚靈王樂乾谿、不能去也、國人苦役、

【講義】靈王の十二年春に、靈王は楚の東境なる乾谿に在り、曩に此の地に、章華臺を造り、豫遊宴樂して、歸去する能はず、國人の使役の多きに苦み、竟に靈王自滅の禍を生ずるに至れり、

初靈王會兵於申、僇越大夫常壽過、殺蔡大夫觀起、起子從亡在吳、乃勸吳王伐楚、爲間越大夫常壽過、而作亂、爲吳間、使矯

な、

昔我先王熊繹、辟在荊山、篳露藍蔞、以處草莽、跋涉山林、以事天子、唯是桃弧棘矢、以共王事、齊王舅也、晉及魯衛王母弟也、楚是以無分、而彼皆有、周今與四國服事君王、將唯命是從、豈敢愛鼎、

【講義】析父は、更に其の理を説きて曰く、昔時我楚の先王熊繹は、南郢の荊山に屏居し、柴車に駕し、敝衣を被て、草莽に處り、山林溪谷を跋涉し、以て天子に事へたり、其の天子に貢獻するものは、唯是れ桃の弓と、棘の矢とのみ、此の粗末なる武器を以て、王事に供へたり、蓋し楚は其の國初に於て、產物の稱すべき無く、勤勞の錄すべき無し、之に反して、齊の君は周王の舅なり、晉、魯、衛の三國の君は、周王の同母弟なり、故に、彼等は周に親近なり、我楚は、周に疎遠なり、是れ楚には寶器の分賜無くして、彼の國に皆其の賜有りし所以なり、然れども、今や周は彼の四國と共に、我楚の君王に服事す、周は唯楚の命令に從はんとするのみ、豈敢て鼎を愛惜するに邉有らんや、必らず我に讓らんと、此の析父の言ふ所は、禮に於て取るを得ず、勢を以て取るのみといふに在り、其の實は、周の許さゞるを諷したるに過ぎず、然れども、楚王は、析父が言外の眞意を解する能はず、更に第二の問を發したり、

【字解】辟在、邊鄙に居るなり、荊山、楚國を略稱し、且つ之を邊鄙と認めたる語なり、荊山は今の湖北襄陽府南漳縣の西に在り、篳露、ヒツロと讀む、柴車なり、野人の車なり、藍蔞、ランルと讀む、襤褸なり、敝衣なり、桃弧、桃の木を以て造りたる弓なり、愛、惜むなり、吝むなり、

靈王曰、昔我皇祖伯父昆吾、舊許是宅、今鄭人貪其田、不我予、

之子員、而代之立、於是、靈王使棄疾殺之、

【講義】 靈王は乃ち慶封を以て衆に示して曰く、齊の慶封 其の君を弑し、其の君の子を年少なりとして、自ら代り諸大夫に盟ひたる如き叛逆に傚ふ勿れと、是に於て、慶封は反駁して曰く、楚の共王の庶子圍が、其の君なる兄の子員を弑して、之に代り自立したる如き叛逆に傚ふ勿れと、靈王は遂に公子棄疾をして、慶封を殺さしめたり、

【字解】 徇、衆人に示すなり、弱、年少なり、孤、國君の死後の嗣君なり、

七年、就章華臺、下令、內亡人、實之、八年、使公子棄疾、將兵滅陳、十年、召蔡侯、醉而殺之、使棄疾定蔡、因爲陳蔡公、十一年、伐徐、以恐呉、靈王次於乾谿、以待之、

【講義】 靈王の七年に、章華臺を造り、令を下して曰く、諸國より逃げ來れるものを納れて、此の臺に留めよと、八年に、公子棄疾をして兵に將とし陳を滅せしむ、十年に、蔡侯を召し、醉はせて之を殺し、棄疾をして蔡を鎭定せしむ、因て棄疾を陳蔡公とす、十一年に、徐を伐ち、以て呉を威嚇す、靈王は楚の東境なる乾谿に陣して、戰勝を待つ

【字解】 就、造るなり、恐、威嚇すなり、乾谿、今の安徽省潁州府亳州の東南に在り、

王曰、齊、晉、魯、衞、其封皆受寶器、我獨不、今吾使使周、求鼎以爲分、其予我乎、析父對曰、其予君王哉、

【講義】 靈王は、侍臣析父に問ひ曰く、齊、晉、魯、衞は其の封土に就きて、皆寶器を受けたり、我楚は獨り之を受けず、今や我は使を周に遣り、鼎を求め、以て寶器の分賜に充てんと欲す、周は其れ我に與ふるか如何と、析父對へて曰く、周は其れ君王に與へんか

る湯誥の文なり、盟津、孟津なり、盟津之誓、は、尚書に於ける泰誓の文なり、蒐、シウと讀む、春の田獵なり、岐陽、今の陝西岐山の陽なり、豐宮、成王の廟なり、塗山、今の安徽省鳳陽府懷遠縣に在り、召陵、齊の世家に詳なり、踐土、晉の世家に詳なり、

靈王曰、用桓公、時鄭子產在焉、於是晉、宋、魯、衛不往、靈王已盟、有驕色、伍擧曰、桀爲有仍之會、有緡叛之、紂爲黎山之會、東夷叛之、幽王爲太室之盟、戎翟叛之、君其愼終、

【講義】靈王曰く、我は齊の桓公に倣はんと、此の時に、鄭には賢臣子產有り、晉、宋、魯、衛は楚の招集に應ぜず、靈王は既に會盟して、驕傲の色有り、伍擧曰く、夏の桀王は、有仍國の會を爲して、有緡國は、叛亂せり、殷の紂王は黎山の會を爲して、東夷は叛亂せり、周の幽王は、太室山に盟を爲して、戎狄は叛亂せり、吾君は其れ終を愼み、驕を戒めよ、

【字解】有仍、國の名なり、今の山東省兗州府に屬す、有緡、國の名なり、有仍國に近し、太室、今の河南省の嵩山なり、

七月、楚以諸侯兵、伐吳、圍朱方、八月、克之、囚慶封、滅其族、

【講義】其の年の七月に、楚は諸侯の兵を率ゐて、吳を伐ち、朱方を圍む、其の年の八月に、之を征服し、齊の慶封を囚へ、其の族を誅滅す、

【字解】朱方、吳の邑なり、今の江蘇鎭江府に屬す、慶封、齊の世家、及び吳の世家に詳なり、

以封徇曰、無效齊慶封弑其君、而弱其孤、以盟諸大夫、封反曰、莫如楚共王庶子圍、弑其君兄

に入り、楚王の疾を問ひ、之を絞殺し、遂に其の子莫及び平を殺す、次の年の夏に、使をして之を鄭に告げしむ、鄭問ひ曰く、誰か後嗣たると、伍擧對へて曰く、寡大夫圍と、伍擧は更に言を改めて曰く、共王の子圍を長とすと、既にして子比は晉に奔り、公子圍は立つ、是を靈王とす、

【字解】赴、告なり、伍擧問、鄭問の誤なるべし、伍擧は楚の大夫なり、故に此の時に、使と爲りて鄭と往きたるなり、對曰、此の兩字の上に、上句の伍擧を移して、讀むべし、寡大夫、其の自國の大夫を謙稱する語なり、更曰、言辭を改むるなり、寡大夫圍といふのみにては、楚王の血統たるを明にせず、故に改めて共王云々の語を以てしたり、

靈王三年、六月、楚使使告晉、欲會諸侯、諸侯皆會楚于申、伍擧曰、昔夏啓、有鈞臺之饗、商湯有景亳之命、周武王有盟津之誓、成王有岐陽之蒐、康王有豐宮之朝、穆王有塗山之會、齊桓有召陵之師、晉文有踐土之盟、君其何用、

【講義】靈王の三年六月に、楚は使をして晉に告げしめ、諸侯を會せんと欲す、諸侯皆申の地に於て、楚に會す、伍擧曰く、前代の王霸は、諸侯を會盟したるも、各其の趣を異にして、一樣ならず、夏王啓は、鈞臺に於て饗宴を行ひ、殷の湯王は、景亳に於て誥命を發し、周の武王は、孟津に於て誓詞を下し、周の成王は、岐陽に於て會獵し、周の康王は、豐宮に於て諸侯の朝見を行ひ周の穆王は、塗山に於て諸侯を會合せしめ、齊の桓公は、召陵に於て遠征の軍事有り、晉の文公は、踐土に於て諸侯の會盟有り、今や吾君は、是等の先例の中に就きて、何れを採用せんとするか、

【字解】申、楚の地なり、今の河南汝寧府に屬す、景亳、大亳なり、殷湯の都なり、景亳之命は、尚書に於け

子反嗜酒、從者豎陽穀進酒、醉、王怒、射殺子反、遂罷兵歸、三十一年、共王卒、子康王招立、

【講義】共王の十六年に、晉は鄭を伐つ、鄭は危急を楚に告ぐ、共王は鄭を救ふ、遂に晉兵と鄢陵に戰ふ、晉は楚を敗り、射て共王の目に中つ、共王は將軍子反を召す、子反は酒を嗜む、子反の從者なる豎の陽穀は、酒を進めて子反醉ふ、共王怒り、子反を射殺し、兵を罷めて歸る、三十一年に共王卒す、子康王招立つ、

【字解】此の一節は鄭の鄢陵に於ける晉楚の大戰なり、晉の世家を參看すべし、左傳の成公十六年に詳なり、

康王立、十五年卒、子員立、是爲郟敖、康王寵弟公子圍、子比、子晳、棄疾、郟敖三年、以其季父康王弟公子圍爲令尹、主兵事、四年、圍使鄭、道聞王疾而還、

【講義】康王立つ、十五年に卒す、子員立つ、是を郟敖とす、康王には寵弟公子圍、公子比、公子晳、公子棄疾の四人有り、郟敖の三年に、其の季父なる公子圍を以て、楚國の行政長官と爲し、兵事を主掌せしむ、四年に、公子圍は鄭に使す、途中に於て、楚王の疾を聞き還る、

【字解】公子晳、晳、晢、晳の三字を混用するも、晳を正しとす、

十二月、己酉、圍入問王疾、絞而弑之、遂殺其子莫及平夏、使使赴於鄭、伍擧問曰、誰爲後、對曰、寡大夫圍、伍擧更曰、共王之子圍爲長、子比奔晉、而圍立、是爲靈王、

【講義】其の年の十二月己酉の日に、公子圍は公宮

入盟、子良出質、

【講義】 楚の群臣は曰く、鄭を許す勿れと、莊王曰く、鄭君は能く自から卑下して、人に禮す、必らず能く信を以て、其の國民を用ひん、何ぞ其の祀を絶つべけんやと、莊王乃ち自から旗を手に執り、左右に指麾して、軍を退け去る、三十里にして舍す、遂に鄭に許すに、平和を以てす、楚の大夫潘尫は入りて盟ふ、鄭伯の弟子良は出で、質たり、

【字解】 庸、何なり、三十里、軍の一日の行程なり、日本の五里強なり、

夏六月、晉救鄭、與楚戰、大敗晉師河上、遂至衡雍而歸、

【講義】 其の年の夏六月に、晉は鄭を救ひ、楚と戰ふ、楚は大に晉軍を河上に敗り、遂に鄭の衡雍に至りて、歸り去る、

【字解】 此の一節は邲の戰なり、晉の世家を參看すべし、左傳の宣公十二年に詳なり、

二十年、圍宋、以殺楚使也、圍宋五月、城中食盡、易子而食、析骨而炊、宋華元出告以情、莊王曰、君子哉、遂罷兵去、二十三年、莊王卒、子共王審立、

【講義】 莊王の二十年に、楚は宋を圍む、宋が楚の使を殺したるを以てなり、其の圍む五月に彌りて、宋の城中は食盡き、他人の子を取りて食ひ、人の骨を裂きて、炊事に用ふ、宋の華元は城より出で、楚軍に至り、告ぐるに實情を以てす、莊王曰く、君子なるかなと、遂に兵を罷め去る、二十三年に、莊王卒す、子共王審立つ、

【字解】 易子、相互に其の子を交換するなり、析骨、人骨を薪とするなり、

共王十六年、晉伐鄭、鄭告急、共王救鄭、與晉兵戰鄢陵、晉敗楚、射中共王目、共王召將軍子反、

楚王乃ち陳國を復興せしめ、其の後嗣を立てたり、

十七年春、楚莊王圍鄭、三月、克之、入自皇門、鄭伯肉袒牽羊以逆、曰、孤不天、不能事君、君用懷怒、以及敝邑、孤之罪也、敢不唯命是聽、賓之南海、若以臣妾賜諸侯、亦唯命是聽、若君不忘厲宣桓武、不絕其社稷、使改事君、孤之願也、非所敢望也、敢布腹心、㊸

【講義】　莊王の十七年春に、楚は鄭を圍む、三月にして之に克つ、楚軍は鄭の城門より入る、鄭伯は肩の衣を脫し其の皮肉を露し、以て謝罪の意を表し、羊を牽きて楚軍を迎へ曰く、孤は天祐を得ず、君に事ふる能はず、君は怒を懷き、以て敝邑を伐つ、是れ孤の罪なり、敢て君の命ずる所に聽從せざらんや、鄭を南海に遷して、客寓せしむるも、或は之を虜へて、臣妾と爲し、諸侯に賜ふも、亦唯君の命に從はん、若し君が周の厲王宣王、鄭の桓公武公を忘れず、其の國の祭祀を絕たず、改めて君に事ふるを鄭に許すときは、鄭の幸なり、是れ孤の願ふ所なり、然れども、强て望むに非ず、敢て腹心を布くのみ、

【字解】　皇門、大門なり、城門なり、大木戶といふが如し、肉袒、肩を脫ぎて、笞に打たるゝ覺悟の貌なり、逆、迎ふなり、孤、德無きものなり、諸侯の謙稱なり、不天、天意に背くなり、天祐を失ふなり、賓、寄寓なり、遷し棄るなり、若、或なり、厲宣、周の兩王にして、鄭の祖なり、桓武、鄭の國初の兩賢君なり、社稷、國家の祭祀なり、

楚羣臣曰、王勿許、莊王曰、其君能下人、必能信用其民、庸可絕乎、莊王自手旗、左右麾軍、引兵去、三十里而舍、遂許之平、潘尪

なりと、楚王乃ち爲す所無くして歸り去る、

【字解】 九牧、虞夏時代の支那全國九州の民政長官なり、載、年なり、休、美なり、善なり、回、邪なり、郟鄏、成周なり、洛京なり、

九年、相若敖氏、人或讒之王、恐誅、反攻王、王擊滅若敖氏之族、十三年、滅舒、十六年、伐陳、殺夏徵舒、徵舒弑其君、故誅之也、已破陳、卽縣之、羣臣皆賀、申叔時使齊、來不賀、

【講義】 莊王の九年に、若敖氏を宰相とす、或は之を王に讒言するもの有り、若敖氏は誅を恐れ、反て王を攻む、王乃ち擊ちて若敖氏の族を滅す、十三年に、舒國を滅す、十六年に、陳を伐ち、夏徵舒を殺す、蓋し徵舒が其の君を弑したるを以てなり、楚王は既に陳を破り、卽ち之を縣にす、群臣皆賀す、申叔時は齊に使し歸り來る、獨り賀せず、

【字解】 舒、今の安徽廬州府に屬す、縣之、楚の縣として、之を取るなり、

王問、對曰、鄙語曰、牽牛徑人田、田主取其牛、徑者則不直矣、取之牛、不亦甚乎、且王以陳之亂、而率諸侯伐之、以義伐之、而貪其縣、亦何以復令於天下、莊王乃復陳國後、

【講義】 楚王は其の故を問ふ、申叔時は對へて曰く、鄙俗の語に云ふ、牛を牽きて他人の田を踏み行く、田主怒りて、其の牛を奪ひ取ると、夫れ他人の田を踏み行くは直ならず、然れども、之を怒りて其の牛を奪ふは、亦暴ならずや、且つ王は陳の亂を以て、諸侯を率ゐ來り之を伐つに義を以てす、之を伐ちて、其の縣を貪り取る、亦何を以て天下に號令するを得んやと、

く九鼎を作るを得べし、

【字解】 庸、今の湖北鄖陽府竹山縣の東に在り、陸渾之戎、本來瓜州の陸渾に住みたる戎なれども、其の後に至り、周の洛東に近き伊川に遷り、猶陸渾と稱したり、阻、賴むなり、之を力として依賴するなり、折鉤之喙、戟の鋒尖を折りたる斷片なり、鉤は、鋒の曲りたる處を稱す、喙は、其の曲りたる鋒の鋭き尖端なり、

王孫滿曰、嗚呼、君王其忘之乎、昔虞夏之盛、遠方皆至、貢金九牧、鑄鼎象物、百物而爲之備、使民知神姦、桀有亂德、鼎遷於殷、載祀六百、殷紂暴虐、鼎遷於周、德之休明、雖小必重、其姦回昏亂、雖大必輕、昔成王定鼎於郟鄏、卜世三十、卜年七百、天所命也、周德雖衰、天命未改、鼎之輕重、未可問也、楚王乃歸、

【講義】 王孫滿曰く、嗚呼君王其れ之を忘れたるか、鼎は力を以て造り得べきに非ず、是れ德を以て成るものなり、昔時、虞舜、夏禹の德盛なるや、遠方の諸國は皆服從して至る、是に於て、天子は九州の牧伯に命じて、金を貢獻せしめ、鼎を鑄て、百物の形象を彫鐫せしめ、殊俗異類に就きて、其の防備を設け、民をして神靈と姦怪とを知らしめたり、其の後夏の桀王に至りて、亂德有り、鼎は殷に遷り、六百年を經たり、殷の末世、紂王は暴虐にして、鼎は周に遷る、故に、天子の德が美にして明なるときは、鼎小なりと雖も、必らず重し、天子の行が姦邪昏亂なるときは、鼎大なりと雖も、必らず輕し、昔時周の成王は、鼎を郟鄏に定め置く、其の王室を卜すれば、三十世に傳ふべしと曰ひ、其の年數を卜すれば、七百年に及ぶべしと曰へり、是れ天の命ずる所なり、周德は衰へたりと雖も、天命は未だ改らず、楚國は雄大なりと雖も、未だ周に代るに足らず、鼎の輕重大小は、未だ問ふべからざる

かさんとす、擧其れ退出せよ、吾は汝が隱語の意を知り得たり、

【字解】 蜚、飛なり、冲、升るなり、吾、莊王自から稱するなり、

居數月、淫益甚、大夫蘇從乃入諫、王曰、若不聞令乎、對曰、殺身以明君、臣之願也、於是、乃罷淫樂聽政、所誅者數百人、所進者數百人、任伍擧蘇從以政、國人大說、

【講義】 其の後、數月にして荒淫益〻甚し、大夫蘇從は乃ち入り諫む、莊王曰く、汝は吾令を聞かざるか、蘇從は對へて曰く、身を殺して君を賢明にするは、臣の願なりと、是に於て、莊王は淫樂を罷め、國政を聽く、其の誅する所は、數百人なり、其の進むる所は、數百人なり、伍擧蘇從に任ずるに、政事を以てす、國人は大に悅服す、

【字解】 若、汝なり、說、悅ぶなり、

是歲、滅庸、六年、伐宋、獲五百乘、八年伐陸渾戎、遂至洛、觀兵於周郊、周定王使王孫滿勞楚王、楚王問鼎大小輕重、對曰、在德不在鼎、莊王曰、子無阻九鼎、楚國折鉤之喙、足以爲九鼎、

【講義】 是の年に、楚は庸國を滅す、莊王の六年に、楚は宋を伐ち、兵車五百乘を得たり、八年に、楚は陸渾の戎を伐ち、遂に洛に至り、兵を周京の郊に陳ねて、之を示し、周を威壓せんとす、周の定王は、王孫滿をして、楚王を慰勞せしむ、楚王は、周鼎の大小輕重を問ふ、王孫滿曰く、周の王たる所以は德に在り、鼎に在らず、莊王曰く、子は九鼎を賴む勿れ、楚國は戟の鋒尖の折れたるを聚むれば、此の廢物を以て、猶能

の宮殿を以て、潘崇に與へ、之をして太師と爲らしめ、國事を掌らしめたり、

【字解】熊蹯、熊の掌の肉なり、之を烹ること久しきを要す、故に時を延す爲めに、之を求めたり、予、與ふるなり、太師、師傅の最上官なり、

穆王三年、滅江、四年、滅六蓼、六蓼皐陶之後、八年、伐陳、十三年卒、子莊王侶立、莊王卽位、三年不出號令、日夜爲樂、令國中曰、有敢諫者死無赦、

【講義】穆王の三年に、江國を滅し、四年に六及び蓼を滅す、六及び蓼は皐陶の後裔が領したる國なり、八年に陳を伐つ、十三年に、穆王卒す、子莊王侶立つ、莊王は位に卽きて、三年號令を出さず、日夜鐘鼓の樂を以て宴飲し、國中に令して曰く、敢て諫むるもの有らば、死刑に處せん、之を赦さずと、

【字解】江、小國の名なり、今の河南光州に屬す、六、今の安徽六安州に在り、蓼、六に接近す、

伍擧入諫、莊王左抱鄭姬、右抱越女、坐鐘鼓之間、

【講義】伍擧は嚴命を犯して、宮に入り諫めんとす、莊王は左に鄭姬を抱き、右に越女を擁し、鐘鼓の間に坐して、酒闌なり、

伍擧曰、願有進隱、曰、有鳥在於阜、三年不蜚不鳴、是何鳥也、莊王曰、三年不蜚、蜚將沖天、三年不鳴、鳴將驚人、擧退矣、吾知之矣、

【講義】伍擧曰く、願はくは隱語を進めん、世に稱す鳥有り、阜に在り、三年飛ばず、三年鳴かずと、是れ何の鳥ぞや、莊王曰く、三年飛ばず、其の飛ぶときは、天に沖らんとす、三年鳴かず、其の鳴くときは、人を驚

【字解】令尹、楚國の行政長官なり、齒、年齢なり、絀、斥くるなり、蠭、蜂なり、忍、殘忍刻薄なり、

後又欲立子職、而絀太子商臣、商臣聞而未審也、告其傅潘崇曰、何以得其實、崇曰、饗王之寵姬江芊、而勿敬也、商臣從之、江芊怒曰、宜乎王之欲殺若而立職也、商臣告潘崇曰、信矣、崇曰、能事之乎、曰不能、能亡去乎、曰不能、能行大事乎、曰能、

【講義】其の後に至り、成王は更に公子職を太子に立てんと欲し、現在の太子商臣を廢せんと欲す、商臣は之を傳聞して、未だ審に知るを得ず、其の傅の潘崇に告げて曰く、何を以て其の實情を探るを得んか、崇曰く、王の愛姬なる江芊を饗せよ、之を饗して敬する勿れと、商臣は其計に從ふ、江芊は果して怒り、曰く、吾が王が汝を殺さんと欲し、公子職を太子と爲さんとするも、宜なるかなと、商臣は乃ち潘崇に告げて曰く、信なり、崇曰く、能く公子職に事へんか、曰く能はず、崇曰く、能く亡げ去るか、商臣曰く能はず、崇曰く、能く大事を行はんか、商臣曰く、能くせん、

【字解】絀、廢黜なり、若、汝なり、商臣を指す、

冬十月、商臣以宮衞兵圍成王、成王請食熊蹯而死、不聽、丁未成王自絞殺、商臣代立、是爲穆王、穆王立、以其太子宮予潘崇、使爲太師掌國事、

【講義】其の年の冬十月に、商臣は宮衞の兵を以て、成王を圍む、成王は死に先だちて、熊の掌の羹を食はんことを請ふ、然れども、商臣は之を聽かず、其の月の丁未の日に、成王は自から絞殺す、商臣乃ち代り立つ、是を穆王とす、穆王は立ち、其の太子たりし時

北宜昌府歸州の西南に在り、

夏、伐宋、宋告急於晉、晉救宋、成王罷歸、將軍子玉請戰、成王曰、重耳亡居外久、卒得反國、天之所開、不可當、子玉固請、乃與之少師而去、晉果敗子玉於城濮、成王怒、誅子玉、

【講義】其の年の夏に、楚は宋を伐つ、宋は危急を晉に告ぐ、晉は宋を救ふ、是に於て、成王は罷め歸らんとす、將軍子玉は戰はんことを請ふ、成王曰く、晉の重耳は、亡げて外に居ること久し、竟に國に歸るを得たり、是れ天の開く所なり、我は之に抵抗するを得ずと、然れども、子玉は固く戰を請ふ、成王乃ち子玉に少數の兵を與へて去る、此の成王の豫期に違はず、晉は果して子玉を城濮に敗り、成王怒りて、子玉を誅殺したり、

【字解】城濮、衞の地なり、今の山東曹州府に屬す、

四十六年、初成王將以商臣爲太子、語令尹子上、子上曰、君之齒未也、而又多內寵、絀乃亂也、楚國之舉、常在少者、且商臣蠭目而豺聲、忍人也、不可立也、王不聽、立之、

【講義】成王の四十六年に、成王は弑せらる、是より先に、成王は其の子商臣を以て太子と爲さんと欲し、之を令尹子上に語る、子上曰く、君の齢は未だ老衰せず、又其の後宮に寵愛の婦女多し、若しも太子を立てて、之を斥くること有らば、亂を生ぜん、從來楚國の太子を擧ぐるは、常に年少の公子に在り、今や商臣は年少に非ず、且つ其の人は蜂の如き目にして、豺の如き聲なり、殘忍刻薄の性質なり、之れを太子に立つるは、不可なりと、然れども、成王は聽かずして、之れを立てたり、

伐ち、二十六年に、英を滅す、三十三年に、宋の襄公は盟會を爲さんと欲し、楚を召す、楚王怒り曰く、彼れ弱小の國にして、我を召す、我は其れ好みを以て往き、遂に襲ひて之を凌辱せんと、乃ち行き盂に至り、宋公を捕へて、之を辱め、既にして之を放ち歸らしむ、

【字解】許、今の河南開封府通許縣なり、黄、今の湖北黄州府黄岡縣なり、英、今の安徽六安州の西に在り、盂、宋の地なり、今の河南歸德府睢州の西北に在り、好、平和の貌なり、

三十四年、鄭文公南朝楚、楚成王北伐宋、敗之泓、射傷宋襄公、襄公遂病創死、三十五年、晉公子重耳過楚、成王以諸侯客禮、饗、而厚送之於秦、

【講義】成王の三十四年に、鄭の文公は南に往き、楚に朝觀す、楚の成王は北進して、宋を伐ち、之を泓水の上に敗り、宋の襄公を射て、之を負傷せしむ、襄公は遂に創を病みて死す、三十五年に、晉の公子重耳は、楚に至る、成王は諸侯の客禮を以て、重耳を饗し、厚く送りて、之を秦に到らしむ、

三十九年、魯僖公來請兵、以伐齊、楚使申侯將兵伐齊、取穀、置齊桓公子雍焉、齊桓公七子皆奔楚、楚盡以爲上大夫、滅夔、夔不祀祝融鬻熊故也、

【講義】成王の三十九年に、魯の僖公は來りて兵を請ひ、齊を伐たんとす、楚は申侯をして兵に將とし、齊を伐たしめ、穀を取る、因て齊の桓公の子なる雍を此に居らしむ、桓公の七子は楚に奔る、楚は盡く之を擧用して、上大夫とす、是の年に、楚は夔を滅す、夔は其の祖先なる祝融鬻熊を祀らざるを以てなり、

【字解】穀、齊の穀城なり、今の山東泰安府に屬す、夔、楚の熊渠の子が、別に國を建てたるなり、今の湖

天子賜胙曰、鎭爾南方、夷越之亂、無侵中國、於是楚地千里、

【講義】杜敖の五年に、杜敖は其の弟熊惲を殺さんと欲す、熊惲は隨に奔り、隨と共に襲ひて、杜敖を弑し、代り立つ、是を成王とす、成王惲の元年、其の卽位の初に當り、德を布き惠を施し、舊好を諸侯に結び、人をして天子に貢獻せしむ、天子は祭肉を賜ひ曰く、汝の南方を鎭撫せよ、越の亂を平定せよ、彼等をして中國を侵さしむる勿れと、是に於て、楚の地方千里の廣大を占むるに至れり、

【字解】胙、ヒモロギと訓す、神に供へたる肉なり、爾、汝なり、夷、平なり、好、親交なり、

十六年、齊桓公以兵侵楚、至陘山、楚成王、使將軍屈完以兵禦之、與桓公盟、桓公數以周之賦不入王室、楚許之、乃去、

【講義】成王の十六年に、齊の桓公は兵を以て楚を侵す、遂に召陵の南に進み、陘山に至る、成王は將軍屈完をして、兵を以て之を禦がしめ、桓公と盟ふ、桓公は楚の貢物が、王室に入らざるを以て、楚の怠慢を責む、楚は之を承諾す、桓公乃ち軍を還し去る、

【字解】陘山、楚の山名なり、今の河南開封府新鄭縣の南に在り、數、責むるなり、周之賦、周王の命を以て、楚國より徵收する稅なり、

十八年、成王以兵北伐許、許君肉袒謝、乃釋之、二十二年、伐黃、二十六年、滅英、三十三年、宋襄公欲爲盟會、召楚、楚王怒曰、召我、我將好往襲辱之、遂行至盂、遂執辱宋公、已而歸之、

【講義】成王の十八年に、成王は兵を以て北進し、許を伐つ、許君は肩の衣を脫ぎて、皮肉を露し、謝罪の意を表す、成王は乃ち之を放免す、二十二年に、黃を

盟ひて退去せり、是に於て、楚は始めて其の西南の鄙なる濮の地を開拓して、之を領したり、

五十一年、周召隨侯、數以立楚爲王、楚怒、以隨背已、伐隨、武王卒師中、而兵罷、子文王熊貲立、始都郢、文王二年、伐申過鄧、鄧人曰、楚人易取、鄧侯不許也、

【講義】 武王の五十一年に、周は隨侯を召し、之を責むるに、其の楚を立て王と爲したるを以てす、是に於て、楚は怒り、隨が楚に背きたるを以て、隨を伐つ、然れども、武王は其の軍中に卒して、兵は罷め去る、子文王熊貲立つ、始めて郢に都す、文王の二年に、申を伐ち鄧を過ぐ、鄧人曰く、楚人は伐ちて、之を取るに易しと、然れども、鄧侯は之を許さず、

【字解】 隨、前節に解す、郢、エイと讀む、今の湖北荊州府江陵縣に在り、申、今の河南汝寧府に屬す、鄧、今の湖北襄陽府襄陽縣の北に在り、

六年、伐蔡、虜蔡哀侯以歸、已而釋之、楚彊、陵江漢間小國、小國皆畏之、十一年、齊桓公始霸、楚亦始大、十二年、伐鄧滅之、十三年卒、子熊囏立、是爲杜敖、

【講義】 文王の六年に、蔡を伐ち、蔡の哀侯を虜にして歸る、既にして之を釋す、是の時に當り、楚は强し、江水漢水の邊の小國を凌ぎ、之を制す、小國は皆楚を畏る、十一年に齊の桓公は始めて霸たり、楚も始めて大なり、十二年に、楚は鄧を伐ち、之を滅す、十三年に、文王卒す、子熊囏立つ、是を杜敖とす、

杜敖五年、欲殺其弟熊惲、惲奔隨、與隨襲弒杜敖、代立、是爲成王、成王惲元年、初卽位、布德施惠、結舊好於諸侯、使人獻天子、

九年、魯弑其君隱公、三十一年、宋太宰華督弑其君殤公、三十五年、楚伐隨、隨曰我無罪、楚曰我蠻夷也、今諸侯皆爲叛相侵或相殺、我有敝甲、欲以觀中國之政、請王室、尊吾號、隨人爲之周、請尊楚、王室不聽、還報楚、

【講義】武王の二十三年に、衞は其の君桓公を弑す、二十九年に、魯は其の君隱公を弑す、三十一年に、宋の太宰華督は、其の君殤公を弑す、三十五年に、楚は隨を伐つ、隨曰く、我は罪無し、楚曰く、我は蠻夷なり、今や諸侯は皆周に叛きて、相侵し、或は相殺す、我楚は敝れたる甲兵を有す、此の武器を以て起ち、中國の政事を觀んと欲す、蓋し周の王室に請ひて、吾が爵號を尊くせんと欲するなりと、是に於て、隨人は楚の爲に周に往き、楚を尊くせんことを請願せり、然れども、周の王室は之を聽かず、隨人は乃ち還りて、之を楚に報じたり、

【字解】隨、姬姓の國なり、今の湖北德安府隨州なり、

三十七年、楚熊通怒曰、吾先鬻熊文王之師也、早終、成王擧我先公、乃以子男田令居楚、蠻夷皆率服、而王不加位、我自尊耳、乃自立爲武王、與隨人盟而去、於是始開濮地而有之、

【講義】武王の三十七年に、楚の熊通怒りて曰く、吾先祖の鬻熊は、周の文王の師なり、早く死す、周の成王は、我先公を擧げ賜ふに子爵男爵に相當なる田地を以てし、楚に居らしめ、蠻夷は皆順ひ服し、今日に至れり、然るに周王は我に位を加へず、我は自から尊くせんのみと、乃ち自立して、楚の武王と爲り、隨人と

なり、

熊狥十六年、鄭桓公初封於鄭、二十二年、熊狥卒、子熊咢立、熊咢九年卒、子熊儀立、是爲若敖、若敖二十年、周幽王爲犬戎所弑、周東徙、而秦襄公始列爲諸侯、二十七年、若敖卒、子熊坎立、是爲霄敖、

【講義】熊狥の十六年に、鄭の桓公は始めて鄭に封ぜらる、二十二年に熊狥卒す、子熊咢立つ、熊咢は九年に卒す、子熊儀立つ、是を若敖とす、若敖の二十年に周の幽王は、犬戎に弑せられ、周は東に徙る、秦の襄公は、始めて列して、諸侯と爲る、二十七年に、若敖卒す、子熊坎立つ、是を霄敖とす、

霄敖六年卒、子熊眴立、是爲蚡冒、蚡冒十三年、晉始亂、以曲沃之故、蚡冒十七年卒、蚡冒弟熊通弑蚡冒子而代立、是爲楚武王、武王十七年、晉之曲沃莊伯、弑主國晉孝侯、十九年、鄭伯弟段作亂、二十一年、鄭侵天子之田、

【講義】霄敖の六年に、霄敖卒す、子熊眴立つ、是を蚡冒とす、蚡冒の十三年に、晉始めて亂る、是れ其の別都なる曲沃の勢大なるを以てなり、蚡冒は十七年に卒す、蚡冒の弟熊通は、蚡冒の子を弑して代り立つ、是を楚の武王と爲す、武王の十七年に、晉の曲沃の莊伯は、其の主國なる晉の孝侯を弑す、十九年に、鄭伯の弟段は亂を作す、二十一年に、鄭は天子の田を侵略す、

二十三年、衞弑其君桓公、二十

り、中國の爵號賜謚に關係無しと、乃ち其の長子康を立て、句亶王と爲し、中子紅を鄂王と爲し、末子執疵を越章王と爲す、皆楊子江上楚蠻の地に在り、

及周厲王之時、暴虐、熊渠畏其伐楚、亦去其王、後爲熊母康、母康早死、熊渠卒、子熊摯紅立、摯紅卒、其弟弑而代立、曰熊延、熊延生熊勇、熊勇六年、而周人作亂、攻厲王、厲王出奔彘、熊勇十年卒、弟熊嚴爲後、

【講義】周の厲王の時に及び、其の政事暴虐なり、熊渠は厲王が楚を伐つを恐れ、自から王號を去る、熊渠の後嗣を熊母康とす、母康は早く死す、故に熊渠卒して、其の中子なる熊摯紅立つ、摯紅卒す、蓋し其の弟に弑せらる、是に於て其の弟は代り立つ、熊延と曰ふ、熊延は熊勇を生む、熊勇の六年に、周人は亂を作し、厲王を攻む、厲王は彘に出奔す、熊勇は十年に卒す、弟熊嚴は其の後嗣と爲る、

熊嚴十年卒、有子四人、長子伯霜、中子仲雪、次子叔堪、少子季狥、熊嚴卒、長子伯霜代立、是爲熊霜、熊霜元年、周宣王初立、熊霜六年卒、三弟爭立、仲雪死、叔堪亡、避難於濮、而少弟季狥立、是爲熊狥、

【講義】熊嚴は十年に卒す、子四人有り、長を伯霜と曰ひ、中を仲雪と曰ひ、次を叔堪と曰ひ、末を季狥と曰ふ、熊嚴卒し、長子伯霜代り立つ、是を熊霜とす、熊霜の元年に、周の宣王始めて立つ、熊霜は六年に卒す、三弟は立つを爭ふ、仲雪死し、叔堪は亡げて患難を濮に避く、是に於て、末弟季狥立つ、是を熊狥とす、

【字解】濮、山東の濮に非ず、楚の西南に於ける夷境

以子男之田、姓羋氏、居丹陽、

【講義】周の文王の時に、季連の苗裔なる鬻熊の子は、文王に事へて早く卒す、其の子を熊麗と曰ふ、熊麗は熊狂を生み、熊狂は熊繹を生む、熊繹は周の成王の時に、封土を得たり、蓋し成王は文王武王時代の王事に勤勞したるものを追賞して、其の後嗣を舉げ、熊繹を楚の蠻地に封じ、賜ふに子爵男爵の領すべき田を以てしたり、熊繹は姓羋氏なり、乃ち丹陽に居る、

【字解】蚤、早きなり、丹陽、今の江蘇鎭江府丹陽縣なり、

楚子熊繹、與魯公伯禽、衞康叔子牟、晉侯燮、齊太公子呂伋、倶事成王、熊繹生熊艾、熊艾生熊䵣、熊䵣生熊勝、熊勝以弟熊楊爲後、熊楊生熊渠、熊渠生子三人、

【講義】楚子熊繹は、魯公伯禽、衞康叔子牟、晉侯燮、齊太公の子呂伋と倶に、成王に事へたり、熊繹は熊艾を生み、熊艾は熊䵣を生み、熊䵣は熊勝を生む、熊勝は弟熊楊を以て、後嗣と爲す、熊楊は熊渠を生み、熊渠は子三人を生む、

當周夷王之時、王室微、諸侯或不朝、相伐、熊渠甚得江漢間民和、乃興兵伐庸楊粤、至于鄂、熊渠曰、我蠻夷也、不與中國之號謚、乃立其長子康、爲句亶王、中子紅爲鄂王、少子執疵爲越章王、皆在江上楚蠻之地、

【講義】周の夷王の時に當り、王室衰微なり、諸侯の中には、王に朝覲せずして、互に攻伐するもの有り、熊渠は甚だ江漢の間の民心を得たり、乃ち兵を興し、庸及び楊粤を伐ち、鄂に至る、熊渠曰く、我は蠻夷な

日を以て、重黎を誅し、重黎の弟吳回を擧げて重黎の後嗣と爲し、復た火正の官に居らしめ、祝融と稱す、

吳回生陸終、陸終生子六人、坼剖而產焉、其長一曰昆吾、二曰參胡、三曰彭祖、四曰會人、五曰曹姓、六曰季連、羋姓、楚其後也、

【講義】吳回は陸終を生み、陸終は子六人を生む、皆其の身裂けて生る、第一を昆吾と曰ひ、第二を參胡と曰ひ、第三を彭祖と曰ひ、第四を會人と曰ひ、第五を曹姓と曰ひ、第六を季連と曰ふ、羋を姓とす、楚は季連の後裔なり、

【字解】坼剖、其の身自から裂けて、子を產するなり、禹王の母は、背裂けて禹を生み、契の母は、胸裂けて契を生む、是れなり、

昆吾氏、夏之時嘗爲侯伯、桀之時湯滅之、彭祖氏、殷之時嘗爲侯伯、殷之末世滅彭祖氏、季連生附沮、附沮生穴熊、其後中微、或在中國、或在蠻夷、弗能紀其世、

【講義】昆吾氏は、夏の時に嘗て侯伯と爲り、夏の末世に至り、殷の湯王に滅せらる、彭祖氏は殷の時に嘗て侯伯と爲り、殷の末世に至りて滅さる、季連は附沮を生み、附沮は穴熊を生む、其の後裔は、中世に於て微賤なり、或は中國に在り、或は蠻夷に在り、其の世に於ける變遷を記するに難し、

周文王之時、季連之苗裔曰鬻熊、鬻熊子事文王、蚤卒、其子曰熊麗、熊麗生熊狂、熊狂生熊繹、熊繹當周成王之時、擧文武勤勞之後嗣、而封熊繹於楚蠻、封

甚だ困窮せり、然れども、其の位に卽き賞を行ふに及びて、介子推の功を錄するを忘れたり、賢明なる文公にして尙然り、況んや驕主暴君をや、靈公は既に弑せられ、其の後に、成公景公は政の峻嚴を致し、厲公に至りて、大に刻薄なり、大夫は誅を懼れて國の禍生ず、悼公以後は公室漸く衰へ、六卿は權を專にし、竟に晉國の絶滅を見る、故に君道の其の臣下を制御するは固に容易に非るなり、

【字解】至、甚だなり、困約、困窮なり、約は物に乏しくして窮するなり、成景、晉の成公景公なり、厲、晉の厲公なり、刻、刻薄殘忍なり、六卿、晉の六大臣なり、韓、魏、趙、范、中行、知の六家なり、

楚世家第十

楚之先祖、出自帝顓頊高陽、高陽者黃帝之孫、昌意之子也、高陽生稱、稱生卷章、卷章生重黎、

重黎爲帝嚳高辛、居火正、甚有功、能光融天下、帝嚳命曰祝融、

【講義】楚國の先祖は、帝顓頊高陽より出づ、高陽は黃帝の孫にして、昌意の子なり、高陽は稱を生み、稱は卷章を生み、卷章は重黎を生む、重黎は帝嚳高辛に仕へて火正の官に居り、甚だ功有り、能く天下に光被す、帝嚳は之を命名して祝融と曰ふ、

【字解】火正、五行の中の火を掌る官なり、光融、光被することなり、祝融、大に明なりといふ意なり、祝は大なり、融は明なり、

共工氏作亂、帝嚳使重黎誅之、而不盡、帝乃以庚寅日誅重黎、而以其弟吳回爲重黎後、復居火正、爲祝融、

【講義】共工氏は亂を作す、帝嚳は重黎をして、之を誅伐せしむ、重黎は其の功を完くせず、帝嚳は庚寅の

子止、是爲烈公、烈公十九年、周威烈王賜趙韓魏、皆命爲諸侯、

【講義】幽公の十五年に、魏の文侯始めて立つ、十八年に幽公は婦人に荒淫し、夜中微行して、都を出づ、盜は幽公を殺し、晉亂る、魏の文侯は、兵を以て亂賊を誅し、幽公の子止を立つ、是を烈公と爲す、烈公の十九年に、周の威烈王は、趙韓魏に王命を賜ひ、皆諸侯と爲る、

三十七年、烈公卒、子孝公頎立、孝公九年、魏武侯初立、襲邯鄲、不勝而去、十七年、孝公卒、子靜公俱酒立、是歲齊威王元年也、靜公二年、魏武侯、韓哀侯、趙敬侯滅晉後、而三分其地、靜公遷爲家人、晉絕不祀、

【講義】烈公の三十七年に、烈公卒す、子孝公頎立つ、孝公の九年に、魏の武侯始めて立ち、趙の都なる邯鄲を襲ふ、其の勝を得ずして去る、十七年に、孝公卒す、子靜公俱酒立つ、是の歲は、齊の威王の元年なり、靜公の二年に、魏の武侯、韓の哀侯、趙の敬侯は晉の後嗣を滅して、其地を三分し、之を三家に收む、靜公は遷されて人臣たり、晉は絕滅して其祭祀を見ず、

太史公曰、晉文公古所謂明君也、亡居外十九年、至困約、及卽位而行賞、尙忘介子推、況驕主乎、靈公既弒、其後成景致嚴、至厲大刻、大夫懼誅、禍作、悼公以後日衰、六卿專權、故君道之御其臣下、固不易哉、

【講義】太史公曰く、晉の文公は、古の謂はゆる賢明の君なり、其の出奔して、國外に在る十九年に及び、

以て四卿を攻めんと欲す、四卿は恐れ、遂に反し、出公を攻む、出公は齊に奔り、途中に死す、故に、知伯は乃ち昭公の曾孫驕を立て、晉君と爲す、是を哀公と爲す、

【字解】知伯、荀瑤なり、知は智に通ず、晉の六卿中の一なり、

哀公大父雍、晉昭公少子也、號爲戴子、戴子生忌、忌善知伯、早死、故知伯欲盡幷晉、未敢、乃立忌子驕爲君、當是時、晉國政皆決知伯、晉哀公不得有所制、知伯遂有范中行地、最彊、

【講義】哀公の祖父を雍といふ、晉の昭公の末子なり、號して戴子といふ、戴子は忌を生む、忌は知伯に交厚し、早く死す、知伯は盡く晉を幷呑せんと欲するも、未だ敢て決行せず、乃ち忌の子驕を立て、晉君と爲す、是の時に當り、晉國の政事は、皆知伯に決す、哀公は制する所有る能はず、知伯は遂に范中行兩氏の舊領を有して、最も彊し、

哀公四年、趙襄子韓康子魏桓子共殺知伯、盡幷其地、十八年、哀公卒、子幽公柳立、幽公之時、晉畏、反朝韓趙魏之君、獨有絳曲沃、餘皆入三晉、

【講義】哀公の四年に、趙襄子韓康子魏桓子は、相共に知伯を殺し、盡く其の地を幷領す、十八年に、哀公卒す、子幽公柳立つ、幽公の時に、晉は畏懼し、却て韓趙魏の君に朝覲す、晉君は僅に其の首都なる絳と別都なる曲沃とを有つのみ、其の他の地は皆三晉即ち韓魏趙の手に落つ、

十五年、魏文侯初立、十八年、幽公淫婦人、夜竊出邑中、盜殺幽公、魏文侯以兵誅晉亂、立幽公

【講義】定公は晉陽を圍む、荀櫟、韓不信、魏侈は范、中行と仇たり、乃ち兵を移し范中行を伐つ、是に於て、范、中行は反抗す、晉君は之を撃ち、范、中行を敗る、范、中行は朝歌に走り之を保つ、韓不信、魏侈は趙鞅の爲めに晉君に謝罪す、乃ち趙鞅を赦し、其の位に復せしめたり、

【字解】朝歌、衞の故都にして、晉に入る、今の河南衞輝府淇縣に在り、

二十二年、晉敗范中行氏、二子奔齊、三十年、定公與吳王夫差會黃池、爭長、趙鞅時從、卒長吳、三十一年、齊田常弑其君簡公、而立簡公弟驁、爲平公、三十三年、孔子卒、三十七年、定公卒、子出公鑿立、

【講義】定公の二十二年に、晉は范、中行の兩氏を敗る范吉射と中行寅とは、齊に奔る、三十年に、定公は黃池に於て、吳王夫差と會し、其の長を爭ふ、此の時に、趙鞅は定公に從ふ、竟に吳を長とす、三十一年に、齊の田常は其の君簡公を弑し、簡公の弟驁を立て平公とす、三十三年に孔子卒す、三十七年に定公卒す、子出公鑿立つ、

【字解】黃池、宋の地なり、今の河南開封府陳留縣に在り、

出公十七年、知伯與趙韓魏、共分范中行地、以爲邑、出公怒、告齊魯、欲以伐四卿、四卿恐、遂反、攻出公、出公奔齊、道死、故知伯乃立昭公曾孫驕、爲晉君、是爲哀公、

【講義】出公の十七年に、知伯は趙韓魏と共に、范中行兩氏の領地を分ち、以て各自の封邑に入る、是に於て六卿は減じて四卿と爲る、出公怒り、齊魯に告げ、

六卿皆大、十四年頃公卒、子定公午立、

【講義】 頃公の十二年に、晉の勳功の家なる祁傒の孫と、叔嚮の子とは、共に晉君の惡む所と爲る、是の時に當り、韓、魏、趙、范、中行、智の六卿は、公室を弱くせんと欲す、故に此の隙に乘じ、遂に法を以て祁傒と叔嚮との族を誅滅し、其の領地を分ちて、十縣と爲したり、是に於て、六卿は各〻其の子を以て、其の新縣の大夫と爲し、公室益〻弱く、六卿の勢力皆大なり、十四年に、頃公卒す、子定公午立つ、

【字解】 宗家、祁傒叔嚮は勳功の家にして、公族と爲りたり、故に晉の宗家と稱す、

定公十一年、魯陽虎奔晉、趙鞅簡子舍之、十二年、孔子相魯、十五年、趙鞅使邯鄲大夫午、不信、欲殺午、午與中行寅、范吉射親、攻趙鞅、鞅走、保晉陽、

【講義】 定公の十一年に、魯の陽虎は晉に奔る、趙鞅即ち趙簡子は陽虎を舍し置く、十二年に、孔子は魯に相たり、十五年に、趙鞅は邯鄲の大夫趙午を使として用ふ、趙午は信を守らず、因て之を殺さんと欲す、是に於て、趙午は中行寅、范吉射と相親しみ、以て趙鞅を攻む、趙鞅は走りて、其の領地なる晉陽の城に入り防守す、

【字解】 邯鄲、衞の故地にして晉に入る、今の直隸廣平府邯鄲縣に在り、晉陽、今の山西大原府大原縣なり、

定公圍晉陽、荀櫟、韓不信、魏侈與范中行爲仇、乃移兵伐范中行、范中行反、晉君擊之、敗范中行、范中行走朝歌保之、韓魏爲趙鞅謝晉君、乃赦趙鞅復位、

を造り、政事を恤へず、政事は大臣の私門に在り、國は豈に能く久しく保たんやと、晏嬰は之を然りとす、

【字解】嚮、向に通ず、左傳には叔向に作る、季世、末世なり、滅亡に近きなり、賦、租稅なり、

二十二年、伐燕、二十六年、平公卒、子昭公夷立、昭公六年卒、六卿彊、公室卑、子頃公去疾立、頃公六年、周景王崩、王子爭立、晉六卿平王室亂、立敬王、

【講義】平公の二十二年に、晉は燕を伐つ、二十六年に、平公卒し、子昭公夷立つ、昭公は六年にして卒す、是の時に當り、韓、魏、趙、范、中行、智の六家は、六卿たり、勢强し、晉の公室は卑弱なり、昭公の子頃公去疾立つ、頃公の六年に、周の景王崩じ、王子は立つを爭ふ、晉の六卿は王室の亂を鎮定して、敬王を立てたり、

九年、魯季氏逐其君昭公、昭公居乾侯、十一年、衞宋使使請晉納魯君、季平子私賂范獻子、獻子受之、乃謂晉君曰、季子無罪、不果入魯君、

【講義】頃公の九年に、魯の季氏は其の君昭公を逐ふ、昭公は出でて晉の乾侯に居る、十一年に宋衞兩國は使をして、晉に請ひ、魯君を歸國せしめんとす、魯の季平子は、私に晉の范獻子に賂ひ、獻子は之を受け、晉君に謂ひ曰く、魯の季子は罪無しと、竟に魯君を歸國せしめず、

【字解】乾侯、今の直隸廣平府成安縣に在り、

十二年、晉之宗家、祁傒孫、叔嚮子、相惡於君、六卿欲弱公室、乃遂以法盡滅其族、而分其邑、爲十縣、各令其子爲大夫、晉益弱、

氏宗、逞者欒書孫也、其入絳、與魏氏謀、齊莊公聞逞敗、乃還取晉之朝歌去、以報臨菑之役也、

【講義】范獻子は乃ち平公の自殺を止め、其の徒を率ゐて欒逞を撃つ、逞敗れて曲沃に走る、曲沃の衆は逞を攻め、逞死す、晉は遂に欒氏の本宗を滅したり、逞は欒書の孫なり、其の絳に攻め入りしは、魏氏と謀りしなり、齊の莊公は、逞の敗死を聞き、乃ち軍を還して、晉の朝歌を取り去る、是れ往年の晉が臨菑に入りし戰役に報じたるなり、

【字解】曲沃、絳、朝歌、臨菑、皆此の篇の數節前に詳解有り、

十年、齊崔杼弑其君莊公、晉因齊亂伐、敗齊於高唐去、報太行之役也、

【講義】平公の十年に、齊の崔杼は、其の君莊公を弑す、晉は齊の亂に由り、齊を伐ち、之を高唐に敗り去る、是れ前年の齊が晉を襲ひ、河南の太行山より入りて、朝歌を取りしに報いたるなり、

【字解】高唐、齊の地なり、今の山東東昌府高唐州なり、

十四年、吳延陵季子來使、與趙文子韓宣子魏獻子語、曰、晉國之政、卒歸此三家矣、十九年、齊使晏嬰如晉、與叔嚮語、叔嚮曰、晉季世也、公厚賦爲臺池、而不恤政、政在私門、其可久乎、晏子然之、

【講義】平公の十四年に、吳の延陵の季子は使節として、晉に來る、趙文子韓宣子魏獻子の三卿と語り曰く、晉國の政は竟に此の三家に歸せんと、十九年に、齊は晏嬰をして晉に往かしむ、叔嚮と語る、叔嚮曰く、晉は季世なり、公は租稅を多く取りて、樓臺庭池

に至りて去る、十五年に、悼公は治國の道を師曠に問ふ、師曠曰く、唯仁義を本と爲すと、其の年の冬に、悼公卒す、子平公彪立つ、

【字解】 棫林、秦の地なり、今の陝西西安府に在り、師曠、樂師の曠といふ人なり、

平公元年、伐齊、齊靈公與戰靡下、齊師敗走、晏嬰曰、君亦毋勇、何不止戰、遂去、晉追遂圍臨菑、盡燒屠其郭中、東至膠、南至沂、齊皆城守、晉乃引兵歸、

【講義】 平公の元年に、晉は齊を伐つ、齊の靈公は晉兵と靡笄山の下に戰ひ、齊軍敗走す、晏嬰曰く、君も勇無し、何ぞ止りて戰はざるやと、然れども、靈公は遂に退却す、晉兵は追ひて齊の都なる臨菑を圍み、其の郭中を燒き盡し、東して膠州に至り、南して沂州に至る、齊は城守して出でず、晉は遂に兵を引き歸り去る、

六年、魯襄公朝晉、晉欒逞有罪、奔齊、八年、齊莊公微遣欒逞於曲沃、以兵隨之、齊兵上太行、欒逞從曲沃中反、襲入絳、不戒、平公欲自殺、

【講義】 平公の六年に、魯の襄公は晉に入朝す、晉の欒逞は罪有り、齊に奔る、八年に、齊の莊公は、內密に欒逞を晉の曲沃に遣り、齊兵を隨行せしむ、齊兵は遂に河內の太行山に上り、朝歌を下瞰す、欒逞は曲沃の中より、兵を擧げ、襲ひて晉の首都なる絳に入る、是の時に、絳は警戒を怠り居たり、故に、平公は窘みて自殺せんと欲す、

【字解】 逞、盈に通ず、左傳には盈に作る、共にエイと讀む、

范獻子止公、以其徒擊逞、逞敗、走曲沃、曲沃攻逞、逞死、遂滅欒

【講義】悼公の三年に、晉は諸侯を會す、悼公は群臣に問ふに、其の登用すべきものを以てす、祁傒は解狐を擧ぐ、解狐は傒の仇なり、公復た問ふ、傒は其の子祁午を擧ぐ、君子曰く、祁傒は黨せずと謂ふべし、外より擧げて其の仇を隱さず、内より擧げて其の子を隱さず、

方會諸侯、悼公弟楊干亂行、魏絳戮其僕、悼公怒、或諫公、公卒賢絳、任之政、使和戎、戎大親附、

【講義】晉が諸侯を會するに當り、悼公の弟なる楊干は、會衆の陣列を亂す、魏絳は楊干の車の御者を誅殺す、悼公怒る、或る者は公を諫む、公は竟に絳を賢才と認め、之に政事を執行せしめ、戎人と和親せしむ、是に於て、戎は大に晉に服從したり、

【字解】行、陣列なり、僕、車を御するものなり、

十一年、悼公曰、自吾用魏絳、九合諸侯、和戎翟、魏子之力也、賜之樂、三讓乃受之、冬、秦取我櫟、

【講義】悼公の十一年に、悼公曰く、吾は魏絳を用ひてより、諸侯を九合し、戎狄を和親せしめたり、是れ魏子の力なりと、乃ち魏絳に賜ふに、舞樂の隊を以てす、蓋し君臣相共に、其の和を樂む意なり、魏絳は三たび辭して、後に之を受けたり、是の年の冬に、秦は晉を攻めて、其の河北の櫟を取る、

【字解】九合、會盟の大數を擧げていふなり、必らずしも九の數を稱するに非ず、翟、狄なり、

十四年、晉使六卿、率諸侯伐秦、度涇、大敗秦軍、至棫林而去、十五年、悼公問治國於師曠、師曠曰、唯仁義爲本、冬、悼公卒、子平公彪立、

【講義】悼公の十四年に、晉は六卿をして諸侯を率ゐ、秦を伐たしめ、涇水を渡り、大に秦軍を敗り、棫林

公の末子なり、晉君と爲るを得ず、桓叔と號す、然れども、最も襄公に愛せられたり、桓叔は惠伯談を生み、談は悼公周を生む、悼公周は年十四を以て卽位したり、

悼公曰、大父父皆不得立、而避難於周、客死焉、寡人自以疏遠、毋幾爲君、今大夫不忘文襄之意、而惠立桓叔之後、賴宗廟大夫之靈、得奉晉祀、豈敢不戰戰乎、大夫其亦佐寡人、

【講義】 悼公曰く、吾祖吾父は、皆立つを得ず、患難を避けて、周に入り客死せり、余は自から身分の疎遠なるを顧みて、君たるを望む無し、今や大夫は文公襄公の意を忘れず、惠みて桓叔の後嗣たる余を立てたり、余は宗廟の靈に賴り、大夫の靈に依り、以て晉の祭祀を奉ずるを得たり、豈敢て戰戰として畏れ愼まざらんや、大夫其れ亦余を佐けよ、

【字解】 大父、祖なり、寡人、諸侯の自から稱する謙語なり、以、謂なり、思惟することなり、幾、希望なり、戰戰、畏れ愼む貌なり、

於是、逐不臣者七人、脩舊功、施德惠、收文公入時功臣後、秋伐鄭、鄭師敗、遂至陳、

【講義】 是に於て、悼公は不臣の者七人を放逐し、先世の舊功を修め、民に德惠を施す、且つ文公が晉に入りたる時の功臣を收錄し、其の子孫を旌表す、是の年の秋に、晉は鄭を伐ち、之を敗り、遂に陳に至る、

三年、晉會諸侯、悼公問羣臣可用者、祁傒舉解狐、解狐傒之仇、復問、舉其子祁午、君子曰、祁傒可謂不黨矣、外舉不隱仇、內舉不隱子、

と、是に於て欒書中行偃は頓首して曰く、幸甚し、幸甚しと、厲公は乃ち胥童を擧げて、卿と爲したり、

閏月乙卯、厲公游匠驪氏、欒書中行偃、以其黨襲捕厲公、囚之、殺胥童、而使人迎公子周于周、而立之、是爲悼公、

【講義】 其の年の閏月乙卯の日に、厲公は其の愛幸する匠驪氏に遊ぶ、欒書中行偃は、其の黨を率ゐて、厲公を襲ひ、之を囚にす、遂に胥童を殺し、人をして公子周を周の都より迎へ來らしめ、之を立つ、是を悼公とす、

元年正月庚申、欒書中行偃、弑厲公、葬之以一乘車、厲公囚六日死、死十日庚午、智罃迎公子周、來至絳、刑雞與大夫盟而立之、是爲悼公、辛巳、朝武宮、二月乙酉、卽位、

【講義】 悼公の元年正月庚申の日に、欒書中行偃は、厲公を弑し、之を葬るに、一乘車を以てす、厲公は囚はれて、六日に死し、死して十日、卽ち庚午の日に、智罃は公子周を迎へて來り、絳に入る、乃ち雞を殺し、大夫と盟ひて、之を立つ、悼公は是なり、遂に辛巳の日を以て、武公の廟に謁し、二月乙酉の日を以て、卽位したり、

【字解】 一乘車、禮の薄きをいふなり、侯伯の葬車七乘を要す、今其の一乘を用ふるは、禮を行はざるなり、刑雞、雞を割きて、其の血を飮むに用ふるなり、

悼公周者、其大父捷、晉襄公少子也、不得立、號爲桓叔、桓叔最愛、桓叔生惠伯談、談生悼公周、周之立年十四矣、

【講義】 悼公周は、其の祖父を捷といふ、捷は晉の襄

發也、

【講義】 厲公の八年に、厲公は遊獵して、寵姫と宴飲す、郤至は豕を殺して、奉進す、宦者は之を奪ひ去る、郤至は乃ち其の宦者を射殺す、厲公怒り曰く、季子は余を欺けりと、遂に郤錡郤犨郤至を誅殺せんとす、而して未だ討手を發せず、

【字解】 宦者、宮中の侍豎なり、季子、郤至なり、

郤錡欲攻公、曰、我雖死、公亦病矣、郤至曰、信不反君、智不害民、勇不作亂、失此三者、誰與我、死耳、

【講義】 郤錡は、先を制して厲公を攻めんと欲す、曰く、亂を作さば、我は死すとも、公も傷はれて病まんと、郤至曰く、信は君に背かざるに在り、智は民を害せざるに在り、勇は亂を作さゞるに在り、此の三者を失はゞ誰か我に與せん、我は死せんのみ、

十二月壬午、公令胥童以兵八百人襲攻殺三郤、胥童因以劫欒書中行偃于朝、曰、不殺二子、患必及公、公曰、一旦殺三卿、寡人不忍益也、對曰、人將忍君、公弗聽、謝欒書等、以誅郤氏罪、大夫復位、二子頓首曰、幸甚幸甚、公使胥童爲卿、

【講義】 其年の十二月壬午の日に、厲公は胥童をして、兵八百人を以て、三郤を襲ひ攻めしめ、遂に之を殺す、胥童は因り以て欒書中行偃を政府に劫し厲公に謂ひ曰く、此の二子を殺さゞるときは、其の害必らず吾君に至らんと、厲公曰く、一朝にして三卿を殺せり、余は誅戮を益すに忍びずと、胥童對へて曰く、君は彼を殺さずんば、彼は君を殺さんとすと、然れども、厲公は之を聽かず、欒書等に謝するに、郤氏の罪を誅せしを以てし、曰く、大夫は安心して位に復せよ

歸りて、盡く現在の群大夫を去らんと欲す、而して諸寵姬の兄弟卽ち宮外の嬖人を大夫に登用せんと欲す、寵姬の兄を胥童と曰ふ、嘗て郤至と相怨む、將軍欒書も、郤至が鄢陵に於て欒書の計を用ひず、遂に楚を敗りしを怨む、故に、欒書等は人をして、內密に楚に告ぐるに郤至を讒する計を以てせしむ、

【字解】外嬖、宮外の嬖人なり、君に寵愛せらるゝ男女なり、間、竊なり、謝、告ぐるなり、

楚來詐厲公曰、鄢陵之戰、實至召楚、欲作亂內子周立之、會與國不具、是以事不成、厲公告欒書、欒書曰、其殆有矣、願公試使人之周微考之、果使郤至於周、

【講義】是に於て、楚使は來り、厲公を詐りて曰く、鄢陵の戰に於て、郤至は實に楚を招きたり、蓋し郤至は亂を作し、公子周を晉に入らしめ、之を立てんと欲したり、然るに、同盟國の來會せざるを以て、其の計畫は成功せずして罷れりと、厲公は之を欒書に告ぐ、欒書曰く、其の事は殆んど有らん、願くは吾君、試に人をして周の都に往かしめ、密に之を考察せしめよと、竟に郤至を周に使せしむ、

【字解】子周、晉の襄公の曾孫なり、公子周といふ、周の都に客寓し居たり、與國、同盟國なり、不具、其の戰の時に、來會せざるなり、

欒書又使公子周見郤至、郤至不知見賣也、厲公驗之、信然、遂怨郤至、欲殺之、

【講義】欒書は、公子周をして郤至に面會せしむ、郤至は欒書等に欺かるゝを知らず、厲公は郤至の擧動を驗して、信に貳心有りと思惟し、遂に郤至を怨み、之を殺さんと欲す、

八年、厲公獵、與姬飲、郤至殺豕、奉進、宦者奪之、郤至射殺宦者、公怒曰、季子欺予、將誅三郤、未

らずと、乃ち兵を發す、厲公は自から將たり、其の年五月に、晉軍は黃河を渡る、此の時に、楚兵が來りて鄭を救ふと聞く、范文子は厲公に請ひて、軍を引還さんと欲す

郤至曰、發兵誅逆、見彊辟之、無以令諸侯、遂與戰、癸巳、射中楚共王目、楚兵敗於鄢陵、子反收餘兵拊循、欲復戰、晉患之、

【講義】晉の將郤至曰く、兵を發して逆を誅せんとす、然るに敵の强きを視て之を避くるは、以て諸侯に號令するに足らずと、晉軍は遂に楚兵と戰ふ、其の月の癸巳の日に、楚の共王を射て、其の目に中て、楚兵は鄢陵に敗る、楚將子反は、餘兵を收めて愛撫し、再び戰はんと欲す、晉は之を憂慮す、

【字解】彊、强なり、辟、避くるなり、鄢陵、鄭の地なり、今の河南開封府新鄭縣の東北に在り、拊循、撫で安んずるなり、

共王召子反、其侍者豎陽穀進酒、子反醉不能見、王怒讓子反、子反死、王遂引兵歸、晉由此威諸侯、欲以令天下求霸、

【講義】楚の共王は子反を召す、子反の侍者なる豎の陽穀は酒を進め、子反は既に醉ひて、王に謁見する能はず、王怒り、子反を責め、子反死す、王は遂に兵を引き歸り去る、晉は此の大捷に由り、諸侯に威勢を振ふ、以て天下に號令せんと欲し、霸を求めんと欲す、

厲公多外嬖姬、歸欲盡去羣大夫、而立諸姬兄弟、寵姬兄曰胥童、嘗與郤至有怨、及欒書又怨郤至不用其計而遂敗楚、乃使人間謝楚、

【講義】厲公は宮外の嬖人、及び寵姬多し、鄢陵より

病、立其太子壽曼爲君、是爲厲公、後月餘、景公卒、

【講義】景公の十七年に、晉は趙同趙括を誅し、其の族を滅す、韓厥曰く、趙衰趙盾の功は、豈に忘るべけんや、何ぞ其の祭祀を絶つを得んやと、乃ち復た趙の庶子武を擧げて、趙の後嗣と爲し、之に舊領の地を與へたり、十九年の夏に、景公病み、其太子壽曼を立て、君と爲す、是を厲公とす、後月餘にして、景公卒す、

厲公元年、初立欲和諸侯、與秦桓公、夾河而盟、歸而秦倍盟、與翟謀伐晉、三年、使呂相讓秦、因與諸侯、伐秦至涇、敗秦於麻隧、虜其將成差、五年、三郤讒伯宗、殺之、伯宗以好直諫、得此禍、國人以是、不附厲公、

【講義】厲公の元年に、厲公は其の卽位の初なるを以て、諸侯に和親せんと欲し、秦の桓公と黃河を夾みて盟ふ、既に歸れば、秦は盟に背き、狄と謀りて晉を伐つ、三年に、晉は大夫呂相をして秦を責めしめ、因て諸侯と共に、秦を伐ち涇水に至り、秦を麻隧に敗り、其の將なる成差を虜にしたり、五年に、郤錡郤犨郤至は、伯宗を讒して、之を殺せり、伯宗は直諫を好むを以て、此の禍を得たり、國人は此の三郤の跋扈を以て、厲公に服從せず、

【字解】倍、背くなり、翟、狄なり、讓、責むるなり、涇、水の名なり、麻隧、涇水の上に在り、今の陝西西安府涇陽縣の西南なり、三郤、郤錡郤犨郤至なり、

六年春、鄭倍晉、與楚盟、晉怒、欒書曰、不可以當吾世而失諸侯、乃發兵、厲公自將、五月渡河、聞楚兵來救、范文子請公欲還、

【講義】厲公の六年春に、鄭は晉に背き楚と盟ふ、晉怒る、欒書曰く、吾の存生中に於て、諸侯を失ふべか

【字解】夏姬、陳の女なり、曩に楚に在り、左傳の成公二年に詳なり、邢、晉の邑なり、河內平章縣なり、六卿、六大臣なり、六軍の將なり、

十三年、魯成公朝晉、晉弗敬、魯怒去、倍晉、晉伐鄭、取氾、十四年、梁山崩、問伯宗、伯宗以爲不足怪也、

【講義】景公の十三年に、魯の成公は晉に入朝す、晉は敬せず、魯は怒り去り、晉に背く、晉は鄭を伐ち、氾を取る、十四年に、河上の梁山崩る、景公は其吉凶を伯宗に問ふ、伯宗は之を怪むに足らずと云へり、蓋し伯宗は、山の朽壞に由りて崩るは、奈何にともすべき無しと稱せり、

【字解】氾、鄭の邑なり、氾水の上に在り、今の開封府滎陽縣なり、

十六年、楚將子反怨巫臣、滅其族、巫臣怒、遺子反書曰、必令子罷於奔命、乃請使吳、令其子爲吳行人、敎吳乘車用兵、吳晉始通、約伐楚、

【講義】景公の十六年に、楚の將軍子反は、申公巫臣が夏姬を奪ひ去りしを怨み、其の族を誅滅す、巫臣は怒り、子反に書を遺りて曰く、必らず子をして奔命に疲れしめんと、乃ち晉君に請ひて、吳に使し、其の子をして吳の外交官と爲らしめ、吳に乘車用兵の法を敎へしむ、吳晉兩國は、乃ち相通じ、共に楚を伐たんことを約す、

【字解】奔命、君命を奉じて奔走するなり、國事の危急なるをいふ、罷、疲るゝなり、行人、外交官なり、

十七年、誅趙同趙括、族滅之、韓厥曰、趙衰趙盾之功、豈可忘乎、奈何絕祀、乃復令趙庶子武爲趙後、復與之邑、十九年夏、景公

【字解】隆、龍とも稱す、魯の邑なり、今の山東泰安府泰安縣に在り、八百乘、車兵八萬人なり、牽、齊の地なり、今の濟南府歷城縣に在り、右、車上の右なる御者の坐位なり、

齊師敗走、晉追北至齊、頃公獻寶器以求平、不聽、郤克曰、必得蕭桐姪子爲質、齊使曰、蕭桐姪子、頃公母、頃公母、猶晉君母、奈何必得之、不義、請復戰、晉乃許、與平而去、

【講義】齊軍は遂に敗走す、晉は追擊して齊の都に至る、頃公は寶器を獻じて、平和を求む、晉は聽かず、郤克曰く、必らず蕭桐姪の子を得て、質と爲さんと、齊使曰く、蕭桐姪の子は、頃公の母なり、頃公の母は晉君の母の如し、何ぞ之を得るを必せん、是れ不義なり、請ふ復た戰はんと、晉は乃ち齊に許し、共に和して去る、

【字解】蕭桐姪、人名なり、其の子は頃公の母なり、曩に郤克の僂なるを笑ひしを以て、之を要するに、齊君の母といふを避けて、斯く稱したるなり、

楚申公巫臣、盜夏姬、以奔晉、晉以巫臣爲邢大夫、十二年冬、齊頃公如晉、欲上尊晉景公爲王、景公讓不敢、晉始作六卿、韓厥、鞏朔、趙穿、荀騅、趙括、趙旃、皆爲卿、智罃自楚歸、

【講義】楚の申公巫臣は、夏姬を盜みて、晉に奔る、晉は巫臣を以て、邢の大夫とす、景公の十二年冬に、齊の頃公は晉に往き、景公を尊びて王と爲さんと欲す、景公は辭讓して、敢てせず、晉に始めて六卿を設く、韓厥、鞏朔、趙穿、荀騅、趙括、趙旃、皆卿となる、前年楚に捕はれたる智罃は、始めて歸り來る、

河伯視之、至國、請君欲伐齊、景公問、知其故曰、子之怨、安足以煩國、弗聽、

【講義】郤克怒り、歸途に黄河を過ぎて曰く、此の怨を齊に報ぜざるときは、河伯我を罰せんと、遂に晉に至り、景公に請ひ、齊を伐たんと欲す、景公は問ひて、其の故を知り、曰く、子の怨は、何ぞ晉國を煩はすに足らんやと、其の請を聽かず、

【字解】河伯視之、誓の辭なり、黄河の神が監視して、其の人を誅罰すといふことなり、蓋し再び此の河を渡るときは、必らず此の怨を齊に報ずべし、然らざれば、河伯は我を罰すといふなり、

魏文子、請老、休辟郤克、克執政、九年、楚莊王卒、晉伐齊、齊使太子彊爲質於晉、晉兵罷、

【講義】晉の魏文子は老を以て君に請ひ、休職す、蓋し郤克に避けて、相位を讓りたるなり、郤克は乃ち國政を執る、景公の九年に、楚の莊王卒す、晉は齊を伐つ、齊は太子彊をして、晉に質と爲らしむ、是に於て、晉兵は罷め去る、

【字解】辟、避くるなり、辭し讓るなり、

十一年、春、齊伐魯取隆、魯告急衞、衞與魯、皆因郤克、告急於晉、晉乃使郤克欒書韓厥、以兵車八百乘、與魯衞共伐齊、夏與頃公戰於鞌、傷困頃公、頃公乃與其右易位、下取飲、以得脱去、

【講義】景公の十一年春に、齊は魯を伐ち隆を取る、魯は危急を衞に告ぐ、是に於て、衞魯の兩國は、郤克に因り、危急を晉に告ぐ、晉は郤克欒書韓厥をして、兵車八百乘を以て、魯衞と共に、齊を伐たしむ、其の年の夏に、齊の頃公と鞌に戰ひ、頃公を傷ひ困む、頃公は乃ち其の車の御者と、坐位を換へ、車より下りて、飲料を取り、以て遠く脱し去るを得たり、

を伐つ、晉は之を覺り、先縠を殺し、其の宗族を滅したり、先縠は先軫の子なり、五年に、晉は鄭を伐つ、鄭が楚を助くるを以てなり、是の時に當り、楚の莊王は强し、是れ前年、晉兵を河上に挫きたるに由るなり、

六年、楚伐宋、宋來告急晉、晉欲救之、伯宗謀曰、楚天方開之、不可當、乃使解揚紿爲救宋、鄭人執與楚、楚厚賜、使反其言、令宋急下、解揚紿許之、卒致晉君言、楚欲殺之、或諫、乃歸解揚、

【講義】景公の六年に、楚は宋を伐つ、宋は來りて危急を告ぐ、晉は之を救はんと欲す、大夫伯宗は謀りて曰く、楚は今や天の開く所たり、我は之に當る能はずと、乃ち解揚をして、宋を救ふが如く佯らしむ、鄭人は解揚を捕へて、楚に與ふ、楚は厚く物を解揚に賜ひ、晉の言に反し、楚の爲めに宋をして急に下らしむることを言はしめんとす、解揚は佯りて楚の命を承諾し、竟に宋に向ひ、晉君の言を致す、楚は怒り解揚を殺さんと欲す、或は之を諫む、乃ち解揚を放還す、

七年、晉使隨會滅赤狄、八年、使郤克於齊、齊頃公母從樓上觀而笑之、所以然者、郤克僂、而魯使蹇、衞使眇、故齊亦令人如之、以導客、

【講義】景公の七年に、晉は隨會をして、赤狄を滅せしむ、八年に郤克を齊に使す、齊の頃公の母は、樓上より觀て郤克を笑ふ、其の笑ふ所以は、何ぞや、郤克は背僂なり、魯の使は跛蹇なり、衞の使は片目なり、故に、齊も人をして、此の三不具者に倣はしめ、以て之を導きたり、

【字解】僂、背の骨の曲りたるなり、蹇、跛なり、片足にて歩むなり、眇、片目にて視るなり、

郤克怒、歸至河上曰、不報齊者、

【講義】楚は既に鄭を服從せしめ、遠征の事畢りたるを以て、黃河に臨み、軍馬に飲ふを名義として、軍を還し去らんとす、忽ち晉軍の渡り來るを聞き、楚は旆を反して、晉を逆へ、大に戰ふ、鄭は新に楚に附き、楚を畏るゝを以て、晉の豫期に反し、鄭は楚を助けて晉を攻め、晉軍敗走す、其の敗兵は黃河に至り、渡るを爭ふ、晉軍は自ら其の卒の爭ひて船に上らんとするを制し、其の指を斫る、故に、晉人の斷指は、船に滿ちたり、楚は遂に晉の將智罃を虜にして、歸り去る、

【字解】人指甚衆、其の船に乘らんとするものゝ手を斬りて、群衆を制する故に、其の斬られたる指が、多く船中に積るなり、是れ名高き邲の戰なり、邲は楚漢對陣の鴻溝に當る、

而林父曰、臣爲督將、軍敗、當誅、請死、景公欲許之、隨會曰、昔文公之與楚、戰城濮、成王歸、殺子玉、而文公乃喜、今楚已敗我師、又誅其將、是助楚殺仇也、乃止、

【講義】既にして、荀林父は自ら敗軍の責を引きて曰く、臣は監督の將たり、而して軍敗る、其の誅を受くるを至當とすと、乃ち死を請ふ、景公は之を許さんと欲す、隨會曰く、昔時文公が楚と城濮に戰ふや、楚の成王は、國に歸りて、其の將子玉を殺し、文公は乃ち喜びたり、今や晉は楚に敗られて、更に我が將を誅す、是れ楚を助けて、楚の爲めに仇を殺すなりと、景公は因て荀林父を誅せず、其の事止みたり、

四年、先縠以首計、而敗晉軍河上、恐誅、乃奔翟、與翟謀伐晉、晉覺、乃族縠、縠先軫子也、五年、伐鄭、爲助楚故也、是時、楚莊王彊、以挫晉兵河上也、

【講義】景公の四年に、先縠は前年邲の戰に於て、首として計を建て、楚を擊ち、遂に我晉軍の敗走となれるを以て、其の誅を恐れ、狄に奔る、因て狄と謀り、晉

景公元年春、陳大夫夏徵舒、弑其君靈公。二年、楚莊王伐陳、誅徵舒。三年、楚莊王圍鄭、鄭告急晉。晉使荀林父將中軍、隨會將上軍、趙朔將下軍、郤克欒書先穀韓厥鞏朔佐之。

【講義】景公の元年春に、陳の大夫夏徵舒は、其の君靈公を弑す、二年に、楚の莊王は陳を伐ち、徵舒を誅す、三年に、楚の莊王は鄭を圍む、鄭は危急を晉に告ぐ、晉は荀林父を中軍に將とし、隨會を上軍に將とし、趙朔を下軍に將とし、郤克、欒書、先穀、韓厥、鞏朔を以て、之を佐けしむ、

六月至河、聞楚已服鄭、鄭伯肉袒與盟而去、荀林父欲還、先穀曰、凡來救鄭、不至不可、將率離心、卒度河、

【講義】其の年の六月に、晉軍は黄河に至る、是の時に當り、楚は既に鄭を降服せしめ、鄭伯は肩の衣を脱し、謝罪を表し、楚と盟ひて去る、荀林父は之を聞きて軍を還さんと欲す、然るに、中軍の佐たる先穀は、之に反對して曰く、凡そ我軍の來れるは、鄭を救ふが爲めなり、戰場に至らざれば不可なりと、晉軍は謀議一致せず、將卒は離心しながら、竟に黄河を渡りて、前進す、

【字解】肉袒、肩の衣を脱ぎ、肉を露し、以て箠を受くる覺悟を表するなり、謝罪する貌なり、將率、將卒なり、離心、相背くなり、

楚已服鄭、欲飲馬于河為名而去。楚與晉軍大戰、鄭新附楚、畏之、反助楚攻晉、晉軍敗、走河、爭度、船中人指甚衆、楚虜我將智罃。歸、

隱さず、趙宣子は良大夫なり、法の爲めに惡名を受けたり、惜しいかな、國境を出で去れば、弑逆の名を免れしならん、

【字解】宣子、趙盾なり、正卿、大臣なり、不隱、直筆して法を明にするなり、

趙盾使趙穿迎襄公弟黑臀于周、而立之、是爲成公、成公者文公少子、其母周女也、壬申、朝于武宮、

【講義】趙盾は趙穿をして、襄公の弟なる公子黑臀を周より迎へ來らしめ、之を立つ、是を成公と爲す、成公は文公の末子なり、其の母は周の王姬なり、其の月の壬申の日に、成公は武公の廟に朝謁す、

成公元年、賜趙氏爲公族、伐鄭、鄭倍晉故也、三年、鄭伯初立、附晉而弃楚、楚怒伐鄭、晉往救之、

六年、伐秦、虜秦將赤、

【講義】成公の元年に、趙氏を以て、晉の公族と爲す、晉は鄭を伐つ、鄭が晉に背きたればなり、三年に、鄭の新君立ち、晉に附きて楚を棄つ、楚は怒り鄭を伐つ、晉は往き之を救ふ、六年に、晉は秦を伐ち、秦の將及び斥候を捕へたり、

【字解】赤、斥候なり、間諜なり、

七年、成公與楚莊王爭彊、會諸侯于扈、陳畏楚不會、晉使中行桓子伐陳、因救鄭、與楚戰、敗楚師、是年成公卒、子景公據立、

【講義】成公の七年に、成公は楚の莊王と强を爭ひ、諸侯を鄭の扈に會す、陳は楚を畏れて會せず、晉は荀林父をして陳を伐たしめ、因て鄭を救ひ楚と戰ひ、楚軍を敗る、是の年に、成公卒し、子景公據立つ、

【字解】扈、今の河南滎陽に在り、中行桓子、荀林父なり、

桑下餓人、問其名、弗告、明亦因亡去、盾遂奔、未出晉境、

【講義】既にして、靈公は伏兵を縦ち出し、趙盾を追擊せしむ、示眯明は其の追兵を反擊す、追兵は進む能はず、斯くして示眯明は竟に盾を脱せしむ、盾は其の故を問ふ、明曰く、我は桑下の餓者なりと、盾は其の名を問へども、告げずして亦亡げ去る、盾は遂に奔る、然れども、未だ晉の國境を出でず、

乙丑、盾昆弟將軍趙穿、襲殺靈公於桃園、而迎趙盾、趙盾素貴、得民和、靈公少侈、民不附、故爲弑易、盾復位、

【講義】其の月の乙丑の日に、趙盾の族人にして晉の將軍なる趙穿は、襲ひて靈公を桃園に殺して、趙盾を迎ふ、趙盾は素より貴し、民心の和親を得たり、之に反して、靈公は年少なり、奢侈なり、民は之に服從せず、故に、弑を行ふこと易し、趙盾は歸りて其の官位に復したり、

【字解】昆弟、族人を概稱す、桃園、園の名なり、少、年少なり、

晉太史董狐、書曰、趙盾弑其君、以視於朝、盾曰、弑者趙穿、我無罪、太史曰、子爲正卿、而亡不出境、反不誅國亂、非子而誰、孔子聞之曰、董狐古之良史也、書法不隱、宣子良大夫也、爲法受惡、惜也、出疆乃免、

【講義】晉の太史董狐は書して曰く、趙盾は其の君を弑すと、乃ち其の文を政事堂に視す、趙盾曰く、弑したるは趙穿なり、我は罪無しと、太史曰く、子は正卿たり、然るに、亡げて國の境を出でず、歸りて國の亂を誅せず、故に、弑逆は子に非ずして誰ぞと、孔子は之を聞きて曰く、董狐は古の良史なり、法を書して

存否を知らず、願くは此の食の半を母に遺らんと、趙盾は之を義として、更に多く飯肉を與ふ、既にして、此の餓者は晉の公宮の割烹吏と爲る、趙盾は之を知らざるなり、

【字解】首山、晉の地なり、謂はゆる首陽山なり、山西の蒲州府に在り、宦、遊學なり、

九月、晉靈公飲趙盾酒、伏甲將攻盾、公宰示眯明知之、恐盾醉不能起、而進曰、君賜臣觴、三行可以罷、欲以去趙盾、令先毋及難、盾既去、

【講義】其の年の九月に、靈公は趙盾に酒を飲ましめ、甲兵を伏して、盾を攻めんとす、公宮の割烹吏なる示眯明は、其の祕密を知る、故に、趙盾が醉ひて起つ能はざるに至るを恐れ、乃ち進みて曰く、君は臣に觴を賜ふ、觴三たび巡れば、以て罷むべしと、斯く言ひて趙盾を去らしめ、先づ患難に罹ること無からしめんと欲す、趙盾遂に退出す、

靈公伏士未會、先縱齧狗名敖、明爲盾搏殺狗、盾曰、弃人用狗、雖猛何爲、然不知明之爲陰德也、

【講義】趙盾が宴席より退くに當りて、靈公の匿し置きたる甲兵は、未だ出で來らず、是に於て、靈公は先づ齧狗を縱つ、狗の名を敖といふ、示眯明は趙盾の爲めに、其の狗を搏ち殺す、趙盾曰く、人を棄てゝ狗を用ふ、猛と雖も何をか爲さんと、然れども、未だ示眯明が陰德を爲すを知らず、

【字解】齧狗、猘なり、敖、獒なり、猛犬なり、其の狗の名を獒といふなり、

已而靈公、縱伏士、出逐趙盾、示眯明反擊靈公之伏士、伏士不能進、而竟脫盾、盾問其故、曰、我

【講義】 靈公の十四年に、靈公は年既に壯なり、奢侈を好む、民に重稅を課し、牆壁に彫刻す、臺上に坐して、行人を彈射し、其の丸を避けて走るを觀る、割烹の吏が、熊の掌を烹て、熟せざるときに、靈公は怒りて、割烹の吏を殺し、婦人をして其の屍を運び出で、之を棄てしむ、其の運ぶものは、政事堂の前を通過す、趙盾士會は、進みて屢諫む、靈公は之を聽かず、

【字解】 厚斂、重稅也、雕牆、牆に彫刻するなり、墻は宮殿樓閣を略稱したるなり、精工なる裝飾を概言して雕るといふなり、宰夫、料理人なり、胹、烹るなり、蹯、獸の掌の裏なり、隨會、士會なり、

已又見死人手、二人前諫、隨會先諫、不聽、靈公患之、使鉏麑刺趙盾、盾閨門開、居處節、鉏麑退歎曰、殺忠臣、弃君命、罪一也、遂觸樹而死、

【講義】 既にして、趙盾士會は、公宮に於て、此の料理人の死したる手を觀る、士會乃ち先づ諫む、靈公は聽かずして、之を厭ひ、力士鉏麑に命じ、趙盾を刺さんとす、鉏麑は乃ち趙盾の邸に詣る、奧殿の小門は開けて、趙盾は正坐し、其の居處に節度有り、鉏麑は退き歎じて曰く、忠臣を殺すも、君命を棄つるも、其の罪は同一なりと、遂に自ら趙盾の庭樹に觸れて、死せり、

初、盾常田首山、見桑下有餓人、餓人示眯明也、盾與之食、食其半、問其故、曰、宦三年、未知母之存不、願遺母、盾義之、益與之飯肉、已而爲晉宰夫、趙盾弗復知也、

【講義】 是より先に、趙盾は嘗て首山に遊獵し、桑樹の下に、餓者有るを見る、其の餓者は示眯明なり、趙盾は之に食を與ふ、餓者は其の半を食ふ、因て其の故を問へば、對へて曰く、遊學する三年なり、未だ母の

【字解】少梁、昔年晉の惠公の寄寓したる梁國なり、梁國は秦の領に歸して、少梁と稱す、殽、昔年、秦晉大戰の地なり、左傳には殽を北徵とす、殽は晉の險要なるを以て、北徵を可とすべし、羈馬、河曲に近き地なり、河曲、黃河の水は山西の蒲阪に至り、折れて東流す、此處を河曲と稱す、

七年、晉六卿患隨會之在秦、常爲晉亂、乃詳令魏壽餘反晉降秦、秦使隨會之魏、因執會以歸晉、

【講義】靈公の七年に、晉の六卿は、士會が秦に在りて常に晉の亂を作すを憂慮し、乃ち魏壽餘に命じ、佯りて晉に叛き秦に降らしむ、秦は士會をして魏に往かしむ、晉は因て士會を捕へて歸る、

【字解】六卿、六大臣なり、隨會、士會なり、詳、佯るなり、

八年、周頃王崩、公卿爭權、故不赴、晉使趙盾以車八百乘、平周亂、而立匡王、是年、楚莊王初卽位、十二年、齊人弑其君懿公、

【講義】靈公の八年に、周の頃王崩ず、公卿は權を爭ふ、故に、其の喪を諸侯に告げず、晉は趙盾をして、車八百乘を以て、周の亂を鎭定せしむ、因て匡王を立つ、是の年に楚の莊王は、始めて卽位す、十二年に、齊人は其の君懿公を弑す、

【字解】赴、告げ知らすなり、車八百乘、車兵八萬なり、諸侯の兵を合して、此の大衆を作したるなり、

十四年、靈公壯侈、厚斂以雕墻、從臺上彈人、觀其避丸也、宰夫胹熊蹯不熟、靈公怒、殺宰夫、使婦人持其屍、出弃之、過朝、趙盾隨會、前數諫、不聽、

を子に屬し曰く、此の子にして材ならば、吾は子が敎導の賜を受けん、不材ならば、吾は子が輔佐の至らざるを怨まんと、今や先君は卒去したるも、其の言は猶子の耳に在り、然るに、之を棄つるは何ぞや、

【字解】 適、嫡なり、安、何處なり、此、太子なり、弃、棄なり、

趙盾與諸大夫、皆患繆嬴、且畏誅、乃背所迎、而立太子夷皐、是爲靈公、發兵以距秦送公子雍者、趙盾爲將、往擊秦、敗之令狐、先蔑、隨會、亡犇秦、秋、齊宋衞鄭曹許君、皆會趙盾、盟於扈、以靈公初立故也、

【講義】 趙盾は諸大夫と共に、此の繆嬴に就きて憂慮し、且つ其の誅罰に遭はんことを畏る、乃ち公子雍を迎ふることに背きて、太子夷皐を立つ、是を靈公とす、是に於て、靈公は兵を發して、秦の公子雍を送るものを距ぐ、趙盾は其の軍に將たり、往きて秦を擊ち、之を令狐に敗る、晉の先蔑と士會とは曩に公子雍を迎ふることに與る、今や其の事成らざるに由り、亡げて秦に奔る、是の年の秋に、齊宋衞鄭曹許の六國の君は、鄭の扈に於て趙盾に會し、盟を定む、是れ靈公始めて立ちたるを以てなり、

【字解】 令狐、晉の地なり、今の山西蒲州府猗氏縣なり、隨會、士會なり、犇、奔るなり、扈、河南懷慶府原武縣西北に在り、

四年、伐秦、取少梁、秦亦取晉之殽、六年、秦康公伐晉、取羈馬、晉侯怒、使趙盾趙穿郤缺擊秦、大戰河曲、趙穿最有功、

【講義】 靈公の四年に、晉は秦を伐ち少梁を取る、秦は晉を伐ち、殽を取る、六年に、秦の康公は晉を伐ち、羈馬を取る、晉侯は之を怒り、趙盾趙穿郤缺をして、秦を擊たしめ、大に河曲に戰ふ、趙穿は最も功有り、

班、位の列なり、震、威光なり、其子、樂なり、嬖、愛幸せらるゝなり、僻、陋しきなり、賈季、賈佗なり、

使士會如秦、迎公子雍、賈季亦使人召公子樂於陳、趙盾廢賈季、以其殺陽處父、十月、葬襄公、十一月、賈季奔翟、是歲秦繆公亦卒、

【講義】趙盾乃ち士會を使として、秦に往き公子雍を迎へしむ、賈季も人をして、公子樂を陳より召さしむ、趙盾は賈季を廢し、之を斥く、其の私怨を以て、太傅陽處父を殺したればなり、其の年の十月に、襄公を葬る、十一月に、賈季は狄に奔る、是の年に、秦の繆公亦卒す、

靈公元年、四月、秦康公曰、昔文公之入也、無衞、故有呂郤之患、乃多與公子雍衞、

【講義】靈公の元年四月に、秦の康公曰く、昔年、文公の晉に入るや、護衞の兵無し、故に、呂省郤芮の叛亂有りと、乃ち多く護衞兵を公子雍に與へたり、

太子母繆嬴、日夜抱太子、以號泣於朝、曰、先君何罪、其嗣亦何罪、舍適而外求君、將安置此、出朝、則抱以適趙盾所、頓首曰、先君奉此子而屬之子、曰、此子材、吾受其賜、不材吾怨子、今君卒、言猶在耳、而弃之若何、

【講義】晉の太子の母なる繆嬴は、襄公の夫人なり、日夜太子を抱きて、政事堂に號泣し、曰く、先君襄公は何の罪ぞや、其嗣たる太子は、亦何の罪ぞや、嫡子を舍てゝ、外に君を求む、此の太子を何處に置かんとするかと、政事堂を出づれば、太子を抱きて、趙盾の所に往き、頓首して曰く、先君は此の子を奉じて、之

晉人以難故、欲立長君、趙盾曰、立襄公弟雍、好善而長、先君愛之、且近於秦、秦故好也、立善則固、事長則順、奉愛則孝、結舊好則安、

【講義】襄公の七年八月に襄公卒す、太子夷皐は幼少なり、晉人は、國家の患難多きを以て、年長の君を立てんと欲す、趙盾曰く、襄公の弟雍を立てん、雍は善を好みて年長じたり、先君も之を愛せり、且つ秦に近親たり、秦は我晉の舊交なり、夫れ善を好む人を立つれば、堅固なり、年長者に事ふれば、順なり、先君の愛せし所を奉ずれば、孝なり、舊交の情誼を結べば、安泰なり、

【字解】故好、舊好に同じ、舊來の情交なり、

賈季曰、不如其弟樂、辰嬴嬖於二君、立其子、民必安之、趙盾曰、辰嬴賤、班在九人下、其子何震之有、且爲二君嬖、淫也、爲先君子、不能求大、而出在小國、僻也、母淫子僻、無威、陳小而遠、無援、將何可乎、

【講義】賈季曰く、公子雍に比すれば、其の弟樂を立つるに如かず、樂の母なる辰嬴は、懷公文公の兩君に愛せられたり、其の子を立つれば、民は必らず之に安心せんと、趙盾曰く、辰嬴は賤し、其の後宮に於ける位次は九人の下に在り、其の子は何の威光か、之れ有らん、且兩君に愛幸せらる、是れ淫荒なり、先君文公の子なれども、大を求むる能はず、出で小國なる陳に在り、是れ僻陋なり、既に母は淫荒なり、子は僻陋なり、威光無し、陳は小にして遠し、援助無し、何ぞ能く可ならんや、

【字解】辰嬴、懷嬴なり、曩に秦に在りて、懷公の夫人たり、後に文公の夫人たる秦女五人の中に列す、

得其三將、戮之、公許遣之、先軫聞之、謂襄公曰、患生矣、軫乃追秦將、秦將渡河、已在船中、頓首謝、卒不反、後三年、秦果使孟明伐晉、報殽之敗、取晉汪以歸、

【講義】　文公の夫人秦女は、襄公に謂ひ曰く、秦は其の三將を得んと欲す、是れ三將を誅殺せんと欲するなりと、襄公乃ち許して之を歸らしむ、先軫は之を聞き、襄公に謂ひ曰く、是れ國患を生ずべしと、先軫乃ち秦將を追ふ、秦將は黃河を渡らんとして、既に船中に在り、頓首して謝し、終に晉に還らず、秦に向ひ去る、後三年、秦は果して孟明視をして、晉を伐たしめ、殽の敗に報ず、秦は晉の汪を取り去る、

【字解】　汪、秦の地なり、晉は一時之を取り、今復た之を失ふ、汪は今の陝西同州府澄城縣に在り、

四年、秦繆公大興兵、伐我渡河、取王官、封殽尸、而去、晉恐、不敢出、遂城守、五年、晉伐秦、取新城、報王官役也、六年、趙衰成子、欒貞子、咎季子犯、霍伯皆卒、趙盾代趙衰、執政、

【講義】　襄公の四年に、秦の繆公は、大に兵を興し晉を伐ち、黃河を渡り、王官を取り、殽の戰に於ける秦兵の尸を埋藏して去る、晉は秦軍の盛なるを視て恐れ、出戰せず、遂に城守す、五年に、晉は秦を伐ち、新城を取る、前年王官の役に奉じたるなり、六年に、趙衰、欒枝、狐偃、霍伯皆卒す、趙盾は趙衰に代り、政務を執行す、

【字解】　王官、晉の地なり、今の陝西同州府に在り、新城、秦の地なり、今の陝西同州府澄城縣に在り、趙衰成子、趙衰なり、欒貞子、欒枝なり、咎季子犯、狐偃なり、霍伯、先且居なり、皆文公の勳臣なり、

七年、八月、襄公卒、太子夷皐少、

將市于周、遇之、以十二牛勞秦師、秦師驚而還、滅滑而去、

【講義】襄公の元年春に、秦軍は周を通過して無禮なり、王孫滿は秦を譏る、秦兵は滑に至る、遂に鄭を襲はんとす、鄭の賈人弦高は、周に市せんとして、秦軍に遇ふ、乃ち牛十二頭を秦軍に獻じ、之を慰勞す、秦軍は鄭の備有るを察し、驚きて還り、滑を滅して去る、

【字解】滑、姬姓の國なり、今の河南府偃師縣に在り、

晉先軫曰、秦伯不用蹇叔、反其衆心、此可擊、欒枝曰、未報先君施於秦、擊之不可、

【講義】晉の先軫曰く、秦伯は、蹇叔の言を用ひず、其の衆心に背きて遠征す、是れ擊つべし、欒枝曰く、秦は我先君文公に厚施せり、未だ之に報いずして、其の軍を擊つは、不可なり、

先軫曰、秦侮吾孤、伐吾同姓、何德之報、遂擊之、襄公墨衰絰、四月、敗秦師于殽、虜秦三將孟明視、西乞秫、白乙丙、以歸、遂墨以葬文公、

【講義】先軫曰く、秦は吾君の喪中を侮り、吾同姓の國を伐つ、何の德か報ゆるに足るもの有らんと、遂に之を擊つ、襄公は喪服を被たるを以て、之に墨を塗りて用ふ、其年の四月に、晉兵は秦軍を殽に敗り、秦の三將孟明視、西乞秫、白乙丙を虜にして歸る、襄公は遂に其の墨を塗りたる喪服を以て、文公を葬り、是より、晉は墨染の服を用ふるに至れり、

【字解】孤、國君が喪中に在るを以て、孤と稱したるなり、衰絰、サイテツと讀む、喪服なり、墨は墨染にするなり、喪中に戰ふを以て、色を改めたるなり、殽、晉の地なり、今の河南府永寧縣の北に在り、

文公夫人秦女、謂襄公曰、秦欲

時、鄭助楚也、圍鄭、欲得叔瞻、叔瞻聞之自殺、鄭持叔瞻告晉、晉曰、必得鄭君而甘心焉、鄭恐、

【講義】文公の七年に、晉の文公、秦の繆公、相共に鄭を圍む、是れ鄭が文公の逃亡して鄭を通過したる時に、無禮を行ひたるに由り、且つ城濮の戰に於て、鄭が楚を助けたるに由るなり、鄭を圍みて鄭の叔瞻を獲へんとす、蓋し叔瞻が曩に文公を殺さんと欲せしを以てなり、叔瞻は之を聞きて自殺す、鄭は叔瞻の首を持ちて、晉に告ぐ、晉曰く、必らず鄭君を獲て、我意を滿足せしめんと、鄭恐る、

乃間令使謂秦繆公曰、亡鄭厚晉、於晉得矣、而秦未爲利、君何不解鄭得爲東道交、秦伯說罷兵、晉亦罷兵、

【講義】鄭は乃ち間使を發し、秦の繆公に告げて曰く、鄭を滅して晉を厚くす、是れ晉に於ては得策なり、然れども、秦に於ては未だ利と爲さず、君何ぞ鄭の圍を解かざるか、何ぞ鄭を解きて、東方の親交と爲すを得ざるかと、秦伯悅びて、兵を罷む、晉も兵を罷め去る、

九年冬、晉文公卒、子襄公歡立、是歲鄭伯亦卒、鄭人或賣其國於秦、秦繆公發兵往襲鄭、十二月、秦兵過我郊、

【講義】文公の九年冬に、晉の文公卒す、子襄公歡立つ、是の年に、鄭伯亦卒す、鄭人の或るものは、其の國を秦に賣る、秦の繆公は兵を發し、往きて鄭を襲はしめんとす、其の年の十二月に、秦兵は我晉の郊を通過す、

襄公元年春、秦師過周、無禮、王孫滿譏之、兵至滑、鄭賈人弦高、

河陽縣なり、狩、行幸なり、晉より求めて、踐土に近き處へ行幸せしめたるなり、

壬申、遂率諸侯、朝王於踐土、孔子讀史記、至文公曰、諸侯無召王、王狩河陽者、春秋諱之也、

【講義】其の月の壬申の日に、文公は遂に諸侯を率ゐて、踐土の王宮に詣り、襄王に朝覲す、孔子は史記を讀み、此の文公の河陽の事に至りて曰く、諸侯は義に於て王を召すを得ずと、故に春秋の書には、天王河陽に狩すといふ、蓋し之を諱むなり、

丁丑、諸侯圍許、曹伯臣或說晉侯曰、齊桓公合諸侯、而國異姓、今君爲會、而滅同姓、曹叔振鐸之後、晉唐叔之後、合諸侯、而滅兄弟、非禮、晉侯說、復曹伯、

【講義】其の月の丁丑の日に、諸侯は許を圍む、曹伯の臣の或るものは、晉侯に說きて曰く、齊の桓公は諸侯を合して、異姓の亡びんとするものさへも興復せしめたり、然るに、今や君は諸侯を會して、同姓を滅す、夫れ曹は叔振鐸の子孫なり、晉は唐叔の子孫なり、共に周に於て、兄弟の國たり、諸侯を合して兄弟を滅するは、禮に非ずと、晉侯は悅びて、曹伯を復位せしめたり、

於是、晉始作三行、荀林父將中行、先穀將右行、先蔑將左行、

【講義】是に於て、晉は始めて三行を作る、三行とは三軍に加へたる別働の三軍なり、荀林父は中行に將たり、先穀は右行に將たり、先蔑は左行に將たり、

【字解】三軍は多く車兵を用ふ、三行は多く步兵を用ふ、故に、平地に三軍を使ひ、險阨に三行を使ふなり、

七年、晉文公、秦繆公、共圍鄭、以其無禮於文公亡過時、及城濮

【講義】子玉の敗れて歸るや、楚の成王は、子玉が成王の言を用ひざりしを怒り、子玉が功を貪りて、晉と戰ひしを怒る、故に、子玉を責む、子玉自殺す晉の文公曰く、我は其の外を擊ち、楚は其の內を誅す、內外相應じて、楚を破るを得たりと、是に於て、文公は始めて喜色有り、

【字解】讓、言を以て責むるなり、

六月、晉人復入衞侯、壬午晉侯度河、北歸國、行賞、狐偃爲首、

【講義】其の年の六月に、晉人は復た衞侯を援けて、其の國に入らしむ、其の月の壬午の日に、晉侯は黃河を渡り、北して國に歸り、賞を行ふ、狐偃を首とす、

【字解】度、渡るなり、狐偃、咎犯なり、

或曰、城濮之事、先軫之謀、文公曰、城濮之事、偃說我、毋失信、先軫曰、軍事勝爲右、吾用之以勝、然此一時之說、偃言萬世之功、奈何以一時之利、而加萬世功乎、是以先之、

【講義】或は曰く、城濮の事は、先軫の謀なり、文公曰く、城濮の事に就きて、偃は我に說き、信を失ふ勿れと曰へり、先軫は軍事を論じて、勝を右と爲すと曰へり、吾は先軫の言を用ひて、勝を得たり、然れども、先軫の說は、一時の用なり、偃の言は萬世の功なり、何ぞ一時の利を以て、萬世の功の上に置くを得んや、是を以て、偃を先にすと、

冬、晉侯會諸侯於溫、欲率之朝周、力未能、恐其有畔者、乃使人言周襄王狩于河陽、

【講義】其の年の冬に、晉侯は諸侯を溫に會し、之を率ゐて、周に朝覲せんと欲す、然れども、勢力未だ之を行ふに足らず、諸侯の離畔者有るを恐る、乃ち人をして周の襄王に言はしめ、河陽に狩せしむ、

【字解】溫、今の河南懷慶府に在り、河陽、今の河南

布聞在下、維時上帝、集厥命於文武、恤朕身、繼予一人、永其在位、於是、晉文公稱伯、

【講義】周は晉の文侯に命ずる文を作る、襄王乃ち順ひ曰く、吾父の如き晉侯は、義を以て諸侯を和睦せしめ、大に文王武王の道を顯はし、能く明德を愼み、其の德は明に天上に達し、布き聞えて、下民に在り、維れ時れ天帝は、其の命を文王武王に集めたり、今や晉侯は、亦文王武王に繼ぎて、朕が身を恤ふ、是に由りて、文王武王の德は、予一人に繼ぎ及び、朕は其れ永く王位に在るを得んと、是に於て、晉の文公は伯と稱す、

【字解】文侯命、尙書の文侯之命に非ず、類語を用ひたれども、別種の文なり、尙書は平王に係り、此の命は襄王に屬す、父、天子が同姓の諸侯を尊稱する語なり、義和、義を以て人を和するなり、丕、大なり、厥、其なり、予一人、襄王なり、

癸亥、王子虎盟諸侯于王庭、晉焚楚軍、火數日不息、文公歎、左右曰、勝楚而君猶憂、何、文公曰、吾聞能戰勝安者、唯聖人、是以懼、且子玉猶在、庸可喜乎、

【講義】其の月の癸亥の日に、周の王子虎は、踐土の王庭に於て、諸侯と相盟ふ、城濮の戰に於て、晉は楚軍を焚く、其の火は數日を經て滅せず、文公歎息す、左右の侍臣曰く、楚に勝ちて君猶憂慮す、何ぞや、文公曰く、吾聞く、戰勝ちて能く安きものは、唯聖人なりと、是を以て懼る、且つ子玉猶在り、何ぞ喜ぶべけんや、

【字解】王庭、王宮なり、庸、何ぞなり、

子玉之敗而歸、楚成王怒其不用其言、貪與晉戰、讓責子玉、子玉自殺、晉文公曰、我擊其外、楚誅其內、內外相應、於是乃喜、

【講義】其の年の四月戊辰の日に、宋公及び齊秦兩國の將軍は、晉侯と共に、衞の城濮に陣す、己巳の日に、楚兵と合戰す、楚兵敗る、子玉は殘兵を收めて退去す、

【字解】城濮、今の山東曹州府濮州の南に在り、次、軍隊の宿營するをいふ、

甲辰、晉師還、至衡雍、作王宮於踐土、初鄭助楚、楚敗懼、使人請盟晉侯、晉侯與鄭伯盟、

【講義】其の甲辰の日に、晉軍は還り、鄭の衡雍に至る、周の爲めに王宮を踐土に作る、是より先に、鄭は楚を助けしも、楚敗れて懼る、因て人をして盟を晉侯に請はしむ、晉侯乃ち鄭伯と盟ふ、

【字解】衡雍、今の河南懷慶府に在り、踐土、衡雍に近き地なり、

五月丁未、獻楚俘於周、駟介百乘、徒兵千、天子使王子虎命晉侯爲伯、賜大輅、彤弓矢百、玈弓矢千、秬鬯一卣、珪瓚、虎賁三千人、晉侯三辭、然後稽首受之、

【講義】其の年の五月丁未の日に、文公は楚の俘虜を周に獻ず、駟馬の鎧を被たるもの百乘と、步兵千人とを上る、天子は王子虎をして、特に晉侯を命じ、侯伯と爲さしめ、之に賜ふに朝禮の大車、赤き弓及び其の矢百、黑き弓及び其の矢千、黑黍一器、珪瓚及び天子の兵卒三千人を以てす、晉侯は三たび辭して、然る後に稽首し、其の賜を受けたり、

【字解】俘、生虜なり、介、甲なり、大輅、儀式に用ふる大車なり、彤、赤なり、玈、黑なり、秬鬯、黑黍なり、卣、器なり、珪瓚、玉にて造りたる酒器なり、祭儀に用ふ、虎賁、天子の親兵なり、稽首、首を下げて地に至りたる貌なり、

周作晉文侯命、王若曰、父義和、丕顯文武、能愼明德、昭登于上、

取レ二、勿レ許、先軫曰、定レ人之謂レ禮、楚一言定二三國一、子一言而亡レ之、我則毋レ禮、不レ許レ楚、是弃レ宋也、不レ如下私許二曹衞一、以誘レ之、執二宛春一以怒レ楚、既戰而後圖レ之、

【講義】咎犯曰く、子玉は禮無し、我君は宋の爲めにす、是れ一を取るなり、彼れ臣は曹衞の爲めにす、是れ二を取るなり、之を許す勿れ、先軫曰く、人を定むるは之を禮といふ、楚は一言にして曹衞宋の三國を定めんとす、子は之を許さず、是れ一言にして三國を亡すなり、斯の如くすれば、我晉は禮無し、楚の言を許さゞれば、是れ宋を棄つるなり、今の取るべき計としては、竊に曹衞を免して、此の兩國を晉に誘引し、楚の使なる宛春を執へて、楚を激怒せしめ、既に一戰して後に、之を處分するに若かず、

晉侯乃囚二宛春於衞一、且私許レ復二曹衞一、曹衞告二絶於楚一、楚得臣怒、擊二晉師一、晉師退、軍吏曰、爲レ何退、文公曰、昔在レ楚、約レ退二三舍一、可レ倍乎、楚師欲レ去、得臣不レ肯、

【講義】是に於て、晉侯は宛春を衞に囚へ、且つ竊に曹衞を免し、其の舊地位に復するを許す、曹衞は晉の惠を喜び、絶交を楚に告ぐ、楚の將軍子玉怒り、晉軍を擊つ、晉軍退却す、晉の軍吏曰く、何の爲に退却する、文公曰く、曩に楚に在りて九十里を退き讓ることを約せり、豈に此の言に背くべけんや、と、楚軍は乃ち歸らんとす、獨り子玉は止りて戰はんとす、

【字解】三舍、軍の三日間の行程なり、九十里なり、倍、背くなり、得臣、子玉の名なり、

四月戊辰、宋公齊將秦將、與二晉侯一次二城濮一、己巳、與二楚兵一合戰、楚兵敗、得臣收二餘兵一去、

文公從之、而楚成王乃引兵歸、

【講義】先軫曰く、曹伯を執へて、曹衛の地を分ち、之を宋に與ふべし、斯くすれば、楚は曹衛を救ふに急なり、其の情勢として宋を棄てざるを得ず、故に、我は曹衛を壓迫すれば、自然に宋を救ふを得べしと、是に於て、文公は此の謀を用ふ、而して楚の成王は、晉の計に陷るを避け、乃ち兵を引きて歸り去らんとす、

楚將子玉曰、王遇晉至厚、今知楚急曹衛、而故伐之、是輕王、王曰、晉侯亡在外十九年、困日久矣、果得反國、險阨盡知之、能用其民、天之所開、不可當、

【講義】楚の將軍子玉曰く、我王は晉を待遇する甚だ厚し、然るに今や晉は楚が曹衛を救ふに急なるを知る、故に、晉は曹衛を伐つ、是れ晉が楚王を輕蔑するなり、楚王曰く、晉侯は逃げて國外に在る十九年なり、其の困みたる日久し、竟に國に歸るを得たり、世情の險惡は盡く之を知り、能く其の民を用ふ、是れ天の開く所なり、我は何ぞ晉侯に當るを得んや、

子玉請曰、非敢必有功、願以間執讒慝之口也、楚王怒、少與之兵、於是子玉使宛春告晉、請復衛侯、而封曹、臣亦釋宋、

【講義】子玉乃ち成王に請ひ曰く、敢て必らずしも功有りと謂ふに非ず、唯願くは一戰して臣を讒言するものゝ口舌を制止せんと、成王怒り、之に少數の兵を與ふ、是に於て、子玉は楚の大夫宛春を晉軍に遣り、告げて曰く、請ふ衛侯を其の位に復せしめよ、曹の領土を舊の如く封ぜよ、晉が此の兩國を免さば、臣も亦宋を棄てゝ之を免さん、

【字解】間執、制し止むるなり、間は隔つるなり、執は抑へ塞ぐなり、慝、邪惡なり、

咎犯曰、子玉無禮矣、君取一、臣

【講義】其の年の二月に、晉侯と齊侯とは、衛の斂盂に會盟す、衛侯は盟に參せんことを晉に請ふ、晉人は之を許さず、衛侯は楚に與せんと欲す、國人は之を希望せず、故に衛は其の君を逐ひ出し、以て晉に辯解す、衛侯は其の國都を去りて、衛の襄牛に居る、是の時に當り、魯の公子買は衛を守り、楚は衛を救ふ、未だ其の功を卒らず、晉侯は遂に進みて曹を圍む、

【字解】斂盂、今の大名府開州東南に在り、襄牛、今の山東曹州府濮州に在り、不卒、勝たざるなり、其の功を卒らざるなり、

三月丙午、晉師入曹、數之、以其不用釐負羈言、而用美女乘軒者三百人也、令軍毋入僖負羈宗家、以報德、

【講義】其の年の三月丙午の日に、晉兵は曹に入る、乃ち曹の罪を數むるに、其の釐負羈の言を用ひざるを以てし、其の美女を用ふるを以てし、其の高軒の車に乘るもの三百人なるを以てす、文公は晉軍に令して、釐負羈の宗族の家に入ることを禁ず、蓋し以て前年の惠施に報いたるなり、

【字解】軒、高軒の車なり、顯官の車なり、僖、釐に通ず、宗家、本家なれども、本支を合せたる宗族と解すべし、

楚圍宋、宋復告急、晉文公欲救、則攻楚、爲楚嘗有德、不欲伐也、欲釋宋、宋又嘗有德於晉、患之、

【講義】楚は宋を圍む、宋は復た危急を告ぐ、晉の文公は之を救はんと欲す、然れども楚を攻むれば、楚は嘗て我に惠有り、之を伐つを欲せず、宋を棄てんと欲すれば、宋も嘗て我に惠有り、之を見捨つる能はず、文公は之を憂慮す、

【字解】釋、棄るなり、

先軫曰、執曹伯、分曹衛地、以與宋、楚急曹衛、其勢宜釋宋、於是、

り、狐偃曰く、楚は新に曹を得たり、且つ始めて衛に婚す、若しも曹衛を伐たば、楚は必らず之を救はん、斯くすれば宋は免るゝを得ん、

於是、晉作三軍、趙衰擧郤縠、將中軍、郤臻佐之、使狐偃將上軍、狐毛佐之、命趙衰爲卿、欒枝將下軍、先軫佐之、荀林父御戎、魏犨爲右、往伐、

【講義】 是に於て、晉は三軍を作る、趙衰は郤縠を擧げて、中軍に將とし、郤臻に之を佐けしむ、狐偃を上軍に將とし、狐毛に之を佐けしむ、欒枝を下軍に將とし、先軫に之を佐けしむ、而して趙衰は卿と爲り、荀林父は公の兵車を御し、魏犨は公の右を衞り、往きて伐つ、

冬十二月、晉兵先下山東、而以原封趙衰、五年春、晉文公欲伐曹、假道於衛、衛人弗許、還自河南度、侵曹伐衛、正月、取五鹿、

【講義】 其の年の冬十二月に、晉兵は山東の諸邑を略取し、原を以て趙衰を封ず、五年の春に、晉の文公は、曹を伐たんと欲す、道を衛に假らんとす、衛人は之を許さず、是に於て、晉兵は還りて河南より渡り、曹を侵し衛を伐ち、正月に、衛の五鹿を取る、

【字解】 原、前節の陽樊に近き邑なり、五鹿、今の山東曹州府觀城縣なり、是れ前年文公通過の日に、野人が土塊を贈りし所なるを以て、此地を取り、前の吉兆に應じ、且つ衛の無禮に報じたるなり、

二月、晉侯齊侯、盟于斂盂、衛侯請盟晉、晉人不許、衛侯欲與楚、國人不欲、故出其君以說晉、衛侯居襄牛、公子買守衛、楚救衛、不卒、晉侯圍曹、

成立す、是れ次賞を受く、矢石の難を犯し、汗馬の勞を勤む、是れ復た次賞を受く、若しも力を以て我に事へて、吾缺點を補ふ無きものは、是れ更に次賞を受く、故に、三賞の後は、本より子を賞せんとするなりと、晉人は之を聞きて皆悦びたり、

【字解】故、本よりなり、且、將なり、說、悦ぶなり、

二年春、秦軍河上、將入王、趙衰曰、求霸莫如入王尊周、周晉同姓、晉不先入王、後秦入之、毋以令于天下、方今尊王、晉之資也、

【講義】文公の二年春に、秦軍は黃河に臨みて陣し、襄王を周に入らしめんとす、晉の大夫趙衰曰く、霸を成すは王を入るゝに如くは無し、周を尊ぶに如くは無し、周と晉とは同姓なり、晉は先づ王を入れずして、秦に後れ王を入るゝときは、以て天下に號令する能はじ、方今王室を尊ぶは、晉の霸を成す資料なり、

三月甲辰、晉乃發兵至陽樊、圍溫、入襄王于周、四月、殺王弟帶、周襄王賜晉河內陽樊之地、

【講義】其の年の三月甲辰の日に、晉は兵を發し陽樊に至り、溫を圍み、襄王を陽に入らしむ、其の年の四月に、王弟帶を殺す、周の襄王は、晉に河內陽樊の地を賜ふ、

【字解】陽樊、周の地なり、今の河南懷慶府濟源縣東南に在り、溫、周の地なり、陽樊に近し、

四年、楚成王及諸侯、圍宋、宋公孫固如晉、告急、先軫曰、報施定霸、於今在矣、狐偃曰、楚新得曹、而初婚於衞、若伐曹衞、楚必救之、則宋免矣、

【講義】文公の四年に、楚の成王は、諸侯を率ゐて、宋を圍む、宋の公孫固は、晉に往き急を告ぐ、先軫曰く、宋の施惠に報いて、霸業を定むるは、今に於て在

吾方憂王室、未圖其功、使人召之、則亡、遂求所在、聞其入綿上山中、

【講義】文公出でて、其の書を見る、曰く、此れ介子推なり、吾は方に周の王室を憂慮して、未だ介子推の功を賞せずと、乃ち人をして之を召さしむれば、既に亡げたり、遂に其の所在を求めて、其の綿上の山中に入りたるを聞き得たり、

【字解】綿上、晉の地なり、今の山西沁州府介休に在り、

於是、文公環綿上山中、而封之、以爲介推田、號曰介山、以記吾過、且旌善人、

【講義】是に於て、文公は綿上の山中を環封して、之を介子推の田と爲し、號けて介山と曰ふ、文公曰く、以て吾の過失を記し、且つ善人を旌表すと、

【字解】緜、綿に同じ、環、四方より圍みて境を定むるなり、

從亡、賤臣壺叔曰、君三行賞、賞不及臣、敢請罪、文公報曰、夫導我以仁義、防我以德惠、此受上賞、輔我以行、卒以成立、此受次賞、矢石之難、汗馬之勞、此復受次賞、若以力事我、而無補吾缺者、此受次賞、三賞之後、故且及子、晉人聞之、皆說、

【講義】文公逃亡の時に隨行したる賤臣壺叔曰く、吾君は三度賞を行ひしも、賞は臣に賜らず、臣は敢て其の罪を問ふと、文公は報じて曰く、夫れ我を導くに仁義を以てし、我を守るに德惠を以てす、是れ上賞を受く、我を輔くるに事を行ふを以てし、其の業は終に

曰、尤而效之、罪有甚焉、且出怨言、不食其祿、

【講義】介子推の母曰く、何ぞ進みて意見の實行を求めざるか、自から求めずして死せば、誰をか怨まん、介子推曰く、既に他人の罪を論じたり、他人を尤めて、自から其の他人に倣ふは、罪を犯すこと他人よりも甚し、且つ既に他人を怨む所の言を出せり、其の俸祿を食ふべからず、

【字解】盍、何不なり、懟、怨むなり、

母曰、亦使知之、若何、對曰、言身之文也、身欲隱、安用文之、文之是求顯也、其母曰、能如此乎、與女偕隱、至死不復見、

【講義】介子推の母曰く、其の意見を君に知らしめば、如何ん、介子推の母曰く、言は身の飾りなり、身は隱れんとす、何ぞ之を飾るを用ひん、身を飾るは顯るを求むるなり、介子推の母曰く、汝の志は能く此の如きか、余は汝と共に隱れんと、母子相携へて、遂に隱遁す、其の死に至るまで、復た見えず、

【字解】文、飾りなり、安、何ぞなり、女、汝なり、

介子推從者、憐之、乃懸書宮門曰、龍欲上天、五蛇爲輔、龍已升雲、四蛇各入其宇、一蛇獨怨、終不見處所、

【講義】介子推の從者は、其の隱遁を憫みて、之を憐み、乃ち書を公宮の門に懸けて曰く、龍有り、天に上らんと欲す、五蛇は之を輔く、龍は既に雲に升る、四蛇は各其の宇に入る、一蛇は獨り怨む、終に其の居處を見ずと、

【字解】龍、文公重耳に喩ふ、五蛇、從遊の功臣に喩ふ、宇、棲息する所なり、

文公出、見其書曰、此介子推也、

周襄王以弟帶難、出居鄭地、來告急晉、晉初定、欲發兵、恐他亂起、是以賞從亡、未至隱者介子推、推亦不言祿、祿亦不及、

【講義】是の時に當り、周の襄王は、其の弟なる王子帶の亂に由り、出でて鄭の地に居り、使をして來り危急を晉に告げしむ、然れども、晉は始めて定り、未だ外事に遑有らず、兵を發せんと欲すれば、他の亂の起るを恐る、是を以て其の逃亡に從ひしものを賞するも、未だ隱者の介子推に及ばず、介子推も自から祿を申し出さず、祿も賜らず、

【字解】難、亂なり、定、治るなり、

推曰、獻公子九人、唯君在矣、惠懷無親、外內棄之、天未絕晉、必將有主、主晉祀者、非君而誰、天實開之、二三子以爲己力、不亦誣乎、竊人之財、猶曰是盜、況貪天之功、以爲己力乎、下冒其罪、上賞其姦、上下相蒙、難與處矣、

【講義】介子推曰く、獻公の子は九人にして、今や唯君現在す、惠公懷公は親信するもの無し、內外ともに之を棄てたり、然れども、天は未だ晉を絕たず、必らず主有らんとす、晉の祭祀を主るものは、我君に非ずして誰ぞや、天は實に我君を開けり、然るに、二三子は、之を自己の力なりと思惟す、是れ欺誣に非ずや、夫れ人の財を竊むもの、猶是を盜と曰ふ、何ぞ況んや天の功を貪り、之を自己の力と謂ふをや、是れ大盜大姦なり、然るに、下は其の罪を犯し、上は其の姦を賞す、上下相欺くものなり、我は是等の輩と共に處り難し、

【字解】冒、犯なり、蒙、欺なり、

其母曰、盍亦求之、以死誰懟、推

【講義】是に於て、文公は勃鞮に謁見を許す、勃鞮は遂に呂省郤芮の謀叛を以て告ぐ、文公は乃ち呂郤を召さんと欲す、然れども呂郤等は徒黨多し、文公は始めて國に入り、國人に欺かれんことを恐る、因て微行を爲し、竊に公宮を出で、秦に入り、繆公と王城に會見す、而して晉國の人は之を知るもの無し、

【字解】王城、秦の地に在り、今の陝西因州府朝邑の東に在り、

三月己丑、呂郤等果反、焚公宮、不得文公、文公之衛徒與戰、呂郤等引兵欲奔、秦繆公誘呂郤等、殺之河上、晉國復、而文公得歸、

【講義】其の年の三月己丑の日に、呂省郤芮等果して反し、公宮を焚く、然れども、文公を獲る能はず、文公の護衛の徒は、呂郤の兵と戰ふ、呂郤等は兵を引き奔らんと欲す、秦の繆公は、呂郤等を誘ひ出し、之を黄河の渡口に殺す、晉國は秩序を恢復し、文公は秦の王城を出で、再び晉に歸り入るを得たり、

夏、迎夫人於秦、秦所與文公妻者、卒爲夫人、秦送三千人爲衛、以備晉亂、

【講義】其の年の夏に、文公は夫人を秦より迎へ取る、蓋し秦が文公に與へて妻としたる者竟に夫人と爲る、秦は三千人の健卒を晉に輸し、夫人の護衛と爲し、以て晉の亂に備へたり、

文公修政、施惠百姓、賞從亡者及功臣、大者封邑、小者尊爵、未盡行賞、

【講義】文公は政事を修め、惠を衆民に施し、其の逃亡せし時の從者及び功臣を賞す、其の大賞には封邑を與へ、其の小賞には尊位を與ふ、然れども、未だ其の賞を行ふことを畢らず、

文公不見、使人讓曰、蒲城之事、女斬予祛、其後我從狄君獵、女爲惠公來、求殺我、惠公與女期三日至、而女一日至、何速也、女其念之、

【講義】文公は謁見を許さず、人をして之を責めしむ、曰く、蒲城の役に於て、汝は余の袂を斬る、其の後、我は狄君に從ひ獵す、汝は惠公の爲めに來り、我を殺さんことを求む、惠公は汝が三日にして狄に至るを期す、然るに汝は一日にして狄に至る、何ぞ其の速なるや、汝は其れ之を念へ、

【字解】讓、責なり、女、汝なり、祛、袂なり、何速也、何其速也と見るべし、甚だ速なるをいふ、

宦者曰、臣刀鋸之餘、不敢以二心事君倍主、故得罪於君、君已反國、其毋蒲翟乎、且管仲射鉤、桓公以霸、今刑餘之人、以事告、而君不見、禍又且及矣、

【講義】宦者勃鞮曰く、臣は刑人なり、刀鋸の餘なり、敢て其の時の君に事ふるに二心を以てせず、其の時の主に背かず、故に蒲城に於て、罪を君に得たり、然れども今や君は既に國に歸りたり、其れ蒲狄を問ふこと無からんか、且つ夫れ管仲は桓公の帶鉤を射て罪を犯せり、然れども、桓公は管仲を用ひて霸を成せり、今や刑餘の人が事を以て告ぐ、然るに、君は謁見を許さず、禍は君に逼り及ばんとす、

【字解】刀鋸之餘、刑を受けたる人なり、宦者は宮刑を施し、去勢したるものなり、故に、刑人といふ、翟、狄なり、且、將なり、

於是見之、遂以呂郤等、告文公、文公欲召呂郤、呂郤等黨多、文公恐初入國、國人賣己、乃爲微行、會秦繆公於王城、國人莫知、

于郇、壬寅重耳入于晉師、丙午入于曲沃、丁未朝于武宮、卽位爲晉君、是爲文公、羣臣皆往、懷公圉、奔高梁、

【講義】重耳は遂に黄河を渡る、秦兵は令狐を圍む、晉軍は廬柳に陣す、其年の二月辛丑の日に、咎犯は秦晉の大夫と郇に盟ふ、壬寅の日に、重耳は晉の陣營に入り、丙午の日に、曲沃に入り、丁未の日に、武公の廟に朝謁し、遂に位に卽きて、晉君と爲る、是を文公と爲す、群臣皆新君の宮に詣る、懷公圉は高梁に奔る、

【字解】令狐、晉の地なり、今の山西蒲州府猗氏縣の西に在り、廬柳、令狐に近き地なり、郇、令狐の東北に在り、高梁、晉の地なり、今の山西平陽府に在り、

戊申、使人殺懷公、懷公故大臣呂省郤芮、本不附文公、文公立、恐誅、乃欲與其徒謀、燒公宮、殺文公、文公不知、

【講義】其の月の戊申の日に、文公は人をして懷公を殺さしむ、懷公の故の大臣呂省郤芮は、本より文公に附かず、文公の立つに及びて、其の誅を恐る、乃ち其の徒黨と謀りて、公宮を燒かんと欲し、以て文公を殺さんと欲す、文公は之を知らず、

【字解】乃欲與其徒謀、此の句は欲の字を謀の下に置きて解すべし、乃與其徒謀欲として、欲を下句の燒の字に接すべし、

始嘗欲殺文公、宦者履鞮、知其謀、欲以告文公、解前罪、求見文公、

【講義】是より先き、嘗て文公を殺さんと欲したる宦者勃鞮は、此の呂省郤芮の謀議を知る、乃ち之を文公に告げ、以て前年の罪を償はんと欲し、文公に謁見を求む、

【字解】宦者、宮中の小官なり、履鞮、勃鞮なり、

犯曰、臣從君周旋天下、過亦多矣、臣猶知之、況於君乎、請從此去矣、

【講義】文公の元年春に、秦は重耳を送り黃河に至る、咎犯曰く、臣は君に從ひ、天下に周旋す、臣の過失も既に多し、臣猶之を知る、況んや君に於てをや、今や君は河を渡り國に入らんとす、臣が事は畢る、請ふ此より去らん、

【字解】周旋、周遊なり、巡歷なり、

重耳曰、若反國所不與子犯共者、河伯視之、乃投璧河中、以與子犯盟、

【講義】重耳は咎犯の去るを止めて曰く、若しも余が國に歸りたる後に、汝と事を共にせざる所有らば、河伯は之を視て、余を誅戮せんと、乃ち璧を黃河の水中に投げ入れて、永く咎犯を信任する事の盟を定めたり、

【字解】子犯、咎犯なり、狐偃なり、河伯視之、黃河の神が之を視て、其の罪を誅するなり、有如白水、或は有如大川、など皆同じ、盟誓の語なり、

是時、介子推從在船中、乃笑曰、天實開公子、而子犯以爲己功、而要市於君、固足羞也、吾不忍與同位、乃自隱、

【講義】是の時に介子推は重耳に從ひ、船中に在り、乃ち笑ひて曰く、天は實に公子を開く、然るに、咎犯は天の功を以て、自己の功と爲し、其の報酬を君に要求す、其の所爲は陋劣なり、固に羞づるに足る、我は此輩と位を同じくするに忍びずと、乃ち自ら去りて、隱遁す、

【字解】市、其の功勞に對する報酬なり、

渡河、秦兵圍令狐、晉軍於廬柳、二月辛丑、咎犯與秦晉大夫盟

【講義】 秦の繆公は、大に歡び、重耳と會飲す、趙衰は黍苗の詩を歌ふ、繆公曰く、子が急に國に歸らんと欲するを知ると、趙衰は重耳と席を下り、再拜して曰く、孤臣の君を仰ぐは、百穀の慈雨を望むが如し、

【字解】 黍苗、詩經の篇名なり、其の詩に曰く、芃芃たる黍苗有り、陰雨これを膏すと、蓋し好雨の百穀を養ふを謂ひ、以て秦君の重耳を援くるに喩へたるなり、時雨、其の時節に應じて、適當に降る雨なり、慈雨なり、好雨なり、

是時、晉惠公十四年秋、惠公以九月卒、子圉立、十一月、葬惠公、十二月、晉國大夫欒郤等聞重耳在秦、皆陰來勸重耳趙衰等反國、爲內應甚衆、

【講義】 是の時に當り、晉の惠公は其の卽位の第十四年にして、其の秋九月を以て卒去し、子圉立つ、其の年の十一月に、惠公を葬る、十二月に、晉國の大夫欒枝郤縠等は、重耳の秦に在るを聞き、皆陰に來りて、重耳趙衰等に國に歸るを勸め、內應を爲す甚だ多し、

於是、秦繆公乃發兵、與重耳、歸晉、晉聞秦兵來、亦發兵拒之、然皆陰知公子重耳入也、唯惠公之故貴臣呂郤之屬、不欲立重耳、重耳出亡、凡十九歲而得入、時年六十二矣、晉人多附焉、

【講義】 是に於て、秦の繆公は兵を發し、重耳の晉に歸るを助く、晉は秦兵の來るを聞きて、兵を發し之を拒ぐ、然れども、皆陰に公子重耳の入るを知るなり、唯惠公の故の貴臣呂省郤芮の徒は、重耳を立つるを欲せず、重耳は出亡し、凡そ十九年にして國に入るを得たり、時に歲六十二なり、晉人は多く之に從ふ、

文公元年春、秦送重耳至河、咎

居楚數月、而晉太子圉亡秦、秦怨之、聞重耳在楚、乃召之、成王曰、楚遠、更數國、乃至晉、秦晉接境、秦君賢、子其勉行、厚送重耳、重耳至秦、

【講義】重耳は楚に居る數月を經たり、是の時に當り、晉の天子圉は、秦を亡げ去り、秦は之を怨む、重耳が楚に在るを聞きて、之を召す、成王曰く、楚は遠く數國を越えて、晉に達す、秦晉は境を接す、而して秦君は賢なり、子其れ行を勉めよと、乃ち厚く重耳を送る、重耳は遂に秦に至る、

【字解】更、更なり、經過なり、

繆公以宗女五人、妻重耳、故子圉妻與往、重耳不欲受、司空季子曰、其國且伐、況其故妻乎、且受以結秦親、而求入、子乃拘小禮、忘大醜乎、遂受、

【講義】秦の繆公は、宗室の女五人を以て、重耳の妻とす、故の子圉の妻も、此の五人の中に在り、共に重耳の館に至る、重耳は之を受くるを欲せず、其の從者司空季子は、重耳に謂ひ曰く、我は子圉を敵とす、其の國をも伐たんとす、何ぞ況んや子圉の故妻をや、之を敬するに足らず、之を受けて妻とし、以て秦の親を結び、晉に入るを求むべし、然るに、子は小禮に拘りて、子圉の故妻を敬し、晉の大醜を忘るゝかと、重耳は遂に秦女五人を受けたり、

【字解】且伐、將伐なり、且受、假りに受くるなり、姑受なり、醜、辱なり、

繆公大歡、與重耳飲、趙衰歌黍苗詩、繆公曰、知子欲急反國矣、趙衰與重耳下、再拜曰、孤臣之仰君、如百穀之望時雨、

曰、子卽反國、何以報寡人、重耳曰、羽毛齒角、玉帛、君王所餘、未知所以報、王曰、雖然、何以報不穀、重耳曰、卽不得已與君王以兵車會平原廣澤、請辟王三舍、

【講義】成王は重耳を厚遇す、重耳甚だ謙讓す、成王曰く、子若しも晉國に歸らば、何を以て寡人に報いん、重耳曰く、羽毛齒角玉帛は、多く君王の領地より產出す、其の晉國に入るものは、君王の餘る所なり、未だ君王に報酬する所以を知らず、成王曰く、然りと雖も、何を以て寡人に報酬せん、重耳曰く、若しも已むを得ず、君王と兵車を以て、平原廣澤に會戰せば、請ふ君王に讓りて、九十里を避けん、

【字解】卑、自から卑下して人に讓るなり、寡人、不穀に同じ、諸侯の謙稱なり、齒角、象牙と犀角となり、卽、若しもなり、平原廣澤、中原の大戰場なり、三舍、九十里なり、一舍は三十里なり、軍隊の行くは一日を三十里とす、三十里は日本の五里餘なり、三舍は日本の十五里餘なり、

楚將子玉怒曰、王遇晉公子至厚、今重耳言不孫、請殺之、成王曰、晉公子賢、而困於外久、從者皆國器、此天所置、庸可殺乎、且言何以易之、

【講義】楚の將軍子玉は怒り曰く、王は晉の公子を待遇する甚だ厚し、然るに、今や重耳は其の言ふ所不順なり、請ふ之を殺さん、成王曰く、晉の公子は賢なり、而して國外に困しむ久し、其の從者は、皆國の賢才なり、此れ天の置くところなり、何ぞ殺すべけんや、且つ人の言ふところは、何ぞ輕率に之を取り扱ふを得んや、

【字解】孫、遜なり、順なり、不孫は不謹愼なり、無禮なり、國器、其の國の賢才なり、庸、何ぞなり、

困む、以て公子の晉に入るを求むるに足らず、更に大國に之くべしと、重耳乃ち宋を去る、

過鄭、鄭文公弗禮、鄭叔瞻諫其君曰、晉公子賢、而其從者、皆國相、且又同姓、鄭之出自厲王、而晉之出自武王、鄭君曰、諸侯亡公子、過此者衆、安可盡禮、叔瞻曰、君不禮、不如殺之、且後爲國患、鄭君不聽、

【講義】　重耳は鄭に至る、鄭の文公は之に禮せず、鄭の叔瞻は其君を諫めて曰く、晉の公子は賢なり、其の從者は、皆國の宰相たるべき賢士なり、且つ晉は鄭と同姓なり、鄭は周の厲王より出づと、鄭君曰く、諸侯の逃亡したる公子にして、此の鄭を通過するものは多し、何ぞ盡く禮すべけんやと、叔瞻曰く、君は禮せずんば、之を殺すに如かず、後日に至りて、國患を爲さんとすと、然れども、鄭君は之を聽かず、

重耳去之楚、楚成王以適諸侯禮、待之、重耳謝不敢當、趙衰曰、子亡在外十餘年、小國輕子、況大國乎、今楚大國、而固遇子、子其毋讓、此天開子也、遂以客禮見之、

【講義】　重耳は宋を去り、楚に至る、楚の成王は諸侯同格の禮遇を以て、之を禮す、重耳は敢て當らずと謝す、趙衰曰く、子は亡げて國外に在る十餘年なり、小國も子を輕んず、況んや大國をや、然るに、今や楚は大國なれども、固に子を禮遇す、子は其れ辭退する勿れ、此れ天が子を開くなりと、遂に客禮を以て成王と相見ゆ、

【字解】　適諸侯禮、同等なる諸侯の禮なり、

成王厚遇重耳、重耳甚卑、成王

曰く、臣を殺して子の大業を成すは、臣の願なり、重耳曰く、事成らずんば、我は舅氏の肉を食はん、咎犯曰く、事成らずんば、臣の肉は腐敗して腥からん、何ぞ食ふに足らんやと、是に於て、重耳の怒は止む、其の車は遂に齊を出で去る、

【字解】偃、咎犯の名なり、舅氏、咎犯なり、重耳の母なる狐姬と咎犯とは兄弟なり、前節に詳解す、腥臊、其の人死して、肉の臭氣を生ずることなり、

過曹、曹共公不禮、欲觀重耳駢脇、曹大夫釐負羈曰、晉公子賢、又同姓、窮來過我、奈何不禮、共公不從其謀、負羈乃私遺重耳食、置璧其下、重耳受其食、還其璧去、

【講義】重耳は曹に至る、曹の共公は之に禮せず、重耳の胸骨の一枚に揃ひたるを觀んと欲す、曹の大夫釐負羈曰く、晉の公子は賢なり、又我曹と同姓なり、窮して來り我に至る、何ぞ之に禮せざるを得んと、然れども、共公は釐負羈の謀に從はず、釐負羈乃ち私に重耳に食を遺り、璧を食中に置く重耳は食を受けて、璧を還し、遂に曹を去る、

【字解】駢脇、胸肋の骨の竝びて一枚の如くなるをいふ、駢は竝ぶなり、

過宋、宋襄公新困兵於楚、傷於泓、聞重耳賢、乃以國禮、禮於重耳、宋司馬公孫固善於咎犯、曰、宋小國、新困、不足以求入、更之大國、乃去、

【講義】重耳は遂に宋に至る、是の時に當り、宋の襄公は新に敗れて、楚兵に困み、泓水の上にて負傷す、故に、重耳の賢なるを聞き、乃ち國君に對する禮を以て、重耳を禮遇す、宋の司馬公孫固は、咎犯に親交有り、因て告げて曰く、宋は小國なり、且つ新に敗軍に

侍者在桑上聞之、以告其主、其主乃殺侍者、勸重耳趣行、重耳曰、人生安樂、孰知其他、必死於此、不能去、

【講義】 趙衰咎犯は、乃ち桑の樹の下に於て、齊を去ることを謀議す、重耳の妻の侍者は、桑の樹上に在り、之を聞きて其の主に告ぐ、其の主は侍者を殺し、重耳に勸めて出立を急にせしむ、重耳曰く、人生は安樂のみ、何ぞ其の他を知らん、必らず此に死せんと、重耳は齊を去る能はず、

【字解】 趣、促すなり、孰、何ぞなり、

齊女曰、子一國公子、窮而來此、數士者以子爲命、子不疾反國、報勞臣、而懷女德、竊爲子羞之、且不求何時得功、乃與趙衰等謀、醉重耳載以行、

【講義】 重耳の妻は重耳に謂ひ曰く、子は一國の公子なり、窮して此に來る、子の從者數士は、子を以て生命と爲す、子が疾く國に歸らず、功勞の臣報酬せずして、女の情義を懷ふは、妾竊に子の爲めに之を羞づ、且つ夫れ天下の事は、求めて成すを得べし、之を求めざるときは、何の時か功を成すを得んと、乃ち趙衰等と謀り、重耳を醉はしめ、之を車に載せて去らしむ、

行遠而覺、重耳大怒、引戈欲殺咎犯、咎犯曰、殺臣成子、偃之願也、重耳曰、事不成、我食舅氏之肉、咎犯曰、事不成、犯肉腥臊、何足食、乃止、遂行、

【講義】 其の車は行く既に遠し、重耳は醉眠より覺めて大に怒り、戈を把りて咎犯を殺さんと欲す、咎犯

待つ二十五年にして、我の來らざるときは、他に嫁せよと、其の妻笑ひ曰く、吁二十五年なれば、吾の塚の上の柏は既に大ならん、然れども、妾は幸に生存せば、子を待たんと、重耳は狄に居る凡そ十二年にして去る、

【字解】 犁、吁なり、冢上柏、其の死後に於ける墓上の柏樹なり、

過衛、衛文公不禮、去過五鹿、饑而從野人乞食、野人盛土器中、進之、重耳怒、趙衰曰、土者、有土也、君其拜受之、

【講義】 既にして重耳は衛を通過す、衛の文公は重耳に禮せず、乃ち去り五鹿を過ぐ、重耳饑ゑて食を野人に乞ふ、野人は土を器に盛り之を進む、重耳怒る、趙衰曰く、土は封土を有する兆なり、君其れ之を拜受せよ、

【字解】 五鹿、衛の地なり、今の山東曹州府觀城縣に在り、

至齊、齊桓公厚禮、而以宗女妻之、有馬二十乘、重耳安之、重耳至齊二歲、而桓公卒、會豎刁等爲內亂、齊孝公之立、諸侯兵數至、留齊凡五歲、重耳愛齊女、毋去心、

【講義】 重耳は遂に齊に至る、齊の桓公は禮を厚くし、其の宗室の女を以て重耳の妻とし、馬八十匹を贈る、重耳は之に安心す、其の齊に居る二年にして、桓公卒す、豎刁等內亂を作すに會ふ、齊の孝公の立つや、諸侯の兵は屢至る、重耳は齊に留る凡そ五年なるも、齊の女を愛し、齊を去るを思はず、

【字解】 宗女、嫡女なり、宗室の女なり、乘、馬四匹なり、

趙衰咎犯、乃於桑下謀行、齊女

敢入、已而晉更迎其弟夷吾、立之、是爲惠公、

【講義】晉の里克は既に奚齊と悼子とを殺し、乃ち人をして重耳を迎へしめ、之を立てんと欲す、重耳は殺されんことを畏れ、因て固く謝し、敢て晉に入らず、既にして晉は更に重耳の弟なる夷吾を迎へて、立つ、是を惠公といふ、

惠公七年、畏重耳、乃使宦者履鞮與壯士、欲殺重耳、重耳聞之、乃謀趙衰等曰、始吾奔狄、非以爲可用興、以近易通故、且休足、休足久矣、固願徙之大國、夫齊桓公好善、志在霸王、收恤諸侯、今聞管仲隰朋死、此亦欲得賢佐、盍往乎、於是遂行、

【講義】惠公の七年に、惠公は重耳を畏れ、宦者履鞮と壯士とを狄に遣り、重耳を殺さんと欲す、重耳は之を聞き、趙衰等に謀りて曰く、始め吾の狄に來れるは、狄に由りて興起すべしと思惟したるに非ず、其の地の晉と相近く通過し易きを以ての故に、暫く足を休めたるのみ、既に足を休めたること久し、固に徙り他の大國に之かんことを願ふ、夫れ齊の桓公は善を好み、其の志は霸王に在り、諸侯を收め恤む、然るに、齊は今や管仲隰朋死せりと聞く、此れ亦賢佐を得んと欲するならん、我は何ぞ齊に往かざるを得んやと、是に於て、遂に狄を去らんとす、

【字解】宦者、履鞮、前節に解す、盍、何不の兩字を併せたるものと見るべし、行、去るなり、

重耳謂其妻曰、待我二十五年、不來、乃嫁、其妻笑曰、犂二十五年、吾冢上柏大矣、雖然、妾待子、重耳居狄、凡十二年而去、

【講義】重耳は去るに臨み、其の妻に謂ひ曰く、我を

守秦、獻公二十一年、獻公殺太子申生、驪姬讒之、恐不辭獻公、而守蒲城、

【講義】獻公卽位の年に於て、重耳は二十一歲なり、獻公の十三年に驪姬の故を以て、重耳は蒲城に備へ、秦を防ぐ、獻公の二十一年に、獻公は太子申生を殺す、驪姬は重耳を讒す、重耳恐れて獻公に告辭せず、去りて蒲城を守る、

獻公二十二年、獻公使宦者履鞮趣殺重耳、重耳踰垣、宦者逐斬其衣袪、重耳遂奔狄、狄其母國也、是時重耳年四十三、從此五士、其餘不名者數十人、至狄、

【講義】獻公の二十二年に、獻公は宦者履鞮をして、速に重耳を殺さしめんとす、重耳は垣を踰ゆ、宦者は之を逐ひ、其の袪を斬る、重耳は遂に狄に奔る、狄は其の母國なり、是の時に、重耳は年四十三なり、趙衰狐偃賈佗先軫魏武子及び其の他の無名の士數十人を從へて、狄に至る、

【字解】宦者、宮中の小官なり、履鞮、前節の勃鞮と同一人なり、趣、速なり、袪、袂なり、母國、重耳の母は狄の女なり、故に狄を母國と稱す、

狄伐咎如、得二女、以長女妻重耳、生伯儵叔劉、以少女妻趙衰、生盾、居狄五歲、而晉獻公卒、

【講義】狄は咎如を伐ち、二女を得たり、長女を以て重耳の妻とす、伯儵と叔劉とを生む、少女を以て趙衰の妻とす、盾を生む、重耳が狄に居る五歲にして、晉の獻公卒す、

【字解】咎如、狄の別種なり、咎はカウと讀む、

里克已殺奚齊悼子、乃使人迎、欲立重耳、重耳畏殺、因固謝、不

の家を滅せんと、是の時に當り、狐突の子なる毛と偃とは、重耳に從ひて秦に在り、晉君の召に應ぜず、

懷公怒、囚狐突、突曰、臣子事重耳、有年數矣、今召之、是教之反君也、何以教之、懷公卒殺狐突、

【講義】懷公怒りて狐突を囚ふ、狐突曰く、臣の子は重耳に事ふ、既に多年なり、今にして之を召すは、之に君に反くことを教ふるなり、何を以て、之を教ふるを得んと、懷公は竟に狐突を殺せり、

秦繆公乃發兵、送內重耳、使人告欒郤之黨爲內應、殺懷公於高梁、入重耳、重耳立、是爲文公、

【講義】秦の繆公は、乃ち兵を發し、重耳を送り納る、因て人をして欒枝郤縠の黨に告げ、內應を爲さしめ、懷公を晉の高梁に殺し、重耳を入らしむ、重耳立つ、是を文公とす、

【字解】高梁、今の山西平陽府に在り、

晉文公重耳、晉獻公之子也、自少好士、年十七、有賢士五人、曰趙衰、狐偃咎犯、文公舅也、賈佗、先軫、魏武子、自獻公爲太子時、重耳固已成人矣、

【講義】晉の文公重耳は、晉の獻公の子なり、少年の時より、賢士を好む、其の年十七にして、既に賢士五人を有す、趙衰狐偃賈佗先軫魏武子といふ、狐偃は字を咎犯といふ、文公の舅なり、獻公の太子たる時より、重耳は固に既に成人したり、

【字解】舅、母の兄弟なり、舅に四義あり、(一)妻の父なり、(二)夫の父なり、(三)母の兄弟、(四)妻の兄弟、此の章は舅の(三)の意義とす、

獻公卽位、重耳年二十一、獻公十三年、以驪姬故、重耳備蒲城、

【講義】惠公の十三年に、惠公病む、國內に數子有り、太子圉は人質として秦に在り、乃ち曰く、吾の母家は梁に在り、梁は今や秦に滅せられたり、我は外に於て秦に輕視せられ、內に於て國に援助無し、君が若しも病より起たざるときは、大夫皆輕卒に、他の公子を立てん、我は歸るに如かずと、遂に其の妻と共に亡げ歸らんことを謀議す、

【字解】卽、若しもなり、叓、更なり、

秦女曰、子一國太子、辱在此、秦使婢子侍、以固子之心、子亡矣、我不從子、亦不敢言、子圉遂亡歸晉、

【講義】晉の太子圉の妻は、秦君の女なり、乃ち子圉に謂ひ曰く、子は一國の太子なり、辱を忍びて此に在り、秦は妾をして侍せしめ、以て子の心を固む、子は亡ぐとも、我は子に從はず、然れども、敢て之を洩さずと、子圉は遂に亡げて晉に歸る、

【字解】婢子、妾といふが如し、女の自から稱する謙語なり、

十四年九月、惠公卒、太子圉立、是爲懷公、子圉之亡、秦怨之、乃求公子重耳、欲內之、

【講義】惠公の十四年九月に、惠公卒す、太子圉立つ、是を懷公と爲す、子圉の亡げたるや、秦は之を怨む、乃ち公子重耳を求めて、之を晉に入らしめんと欲す、

子圉之立、畏秦之伐也、乃令國中、諸從重耳亡者、與期、期盡不到者、盡滅其家、狐突之子毛、及偃從重耳在秦、弗肯召、

【講義】子圉の立つや、晉は秦の伐つを畏る、乃ち國中に令して曰く、重耳に從ひて亡げたる諸人は、期日を定めて之を召す、期盡きて到らざるものは、盡く其

り、諸侯は多く重耳を晉に入らしむるを利とすと、因て人を狄に遣り、重耳を殺さんと欲す、重耳は之を聞きて齊に赴けり、

【字解】 叓舍、更舍なり、改めて上等の館に居らしむるなり、七牢、七組の牛羊豕なり、如、往くなり、

八年、使太子圉質秦、初惠公亡在梁、梁伯以其女妻之、生一男一女、梁伯卜之、男爲人臣、女爲人妾、故名男爲圉、女爲妾、

【講義】 惠公の八年に、太子圉をして秦に質たらしむ、初め惠公亡げて梁に在り、梁伯は其の女を以て惠公の妃とす、一男一女を生む、梁伯は之を卜す、其の兆に曰く、男は人臣と爲らん、女は人妾とならんと、故に、男を命名して圉といひ、女を命名して妾といふ、

【字解】 圉、ギョと讀む、馬を飼養する人なり、是れ賤役なるを以て、人臣といふ兆に從ひ命名したり、

梁、今の陝西同州府韓城縣の南に在り、

十年、秦滅梁、梁伯好土功、治城溝、民力罷怨、其衆數相驚曰、秦寇至、民恐惑、秦竟滅之、

【講義】 惠公の十年に、秦は梁を滅せり、蓋し梁伯は土木の工事を好み、城溝を修治し、民力疲弊して、怨嗟す、其の衆庶は屢相互に驚きて曰く、秦の寇至ると、民恐れ惑ふ、秦は竟に之を滅せり、

【字解】 罷、疲るなり、相驚、相互に傳へて驚擾するなり、梁、前節に解す、

十三年、晉惠公病、內有數子、太子圉曰、吾母家在梁、梁今秦滅之、我外輕於秦、而內無援於國、君卽不起病、大夫輕、叓立他公子、乃謀與其妻俱亡歸、

晉侯亦使呂省等報國人曰、孤雖得歸、毋面目見社稷、卜日立子圉、晉人聞之、皆哭、

【講義】晉侯も大夫呂省等をして國人に報ぜしめて曰く、余は歸るを得るとも、社稷を見るに面目無し、其れ日を卜して、子圉を立てよと、晉人は之を聞き皆哭す、

【字解】孤、諸侯の自稱なり、社稷、國土の神を祭りたる廟なり、

秦繆公問呂省、晉國和乎、對曰、不和、小人懼失君亡親、不憚立子圉、曰、必報讎、寧事戎狄、其君子則愛君而知罪、以待秦命、曰、必報德、有此二、故不和、

【講義】秦の繆公は、晉の大夫呂省に問ひ曰く、晉國は和するか、呂省曰く和せず、小人は、君を失ふを懼れ、親を失ふを恐る、故に、子圉を立つるを憚らず、曰く、必らず秦に向ひて讎を報ぜん、之が爲めには戎狄に事ふるを辭せずと、而して君子は君を愛し、罪を知る、以て秦の命を待つ、曰く、必らず秦の德に報ぜんと、此の兩者の意見有り、故に和せず、

【字解】寧、却てなり、秦に事へず、却て戎狄に事へんとす、故に寧といふなり、

於是、秦繆公更舍晉惠公、餽之七牢、十一月、歸晉侯、晉侯至國、誅慶鄭、修政敎、謀曰、重耳在外、諸侯多利內之、欲使人殺重耳於狄、重耳聞之、如齊、

【講義】是に於て、秦の繆公は、更に晉の惠公を上館に入らしめ、牛羊豕の七組を贈り、其の十一月を以て、晉侯を歸らしむ、晉侯は國に至り、慶鄭を誅し、政敎を修む、乃ち群臣と謀りて曰く、重耳は國外に在

て慶鄭を召して、御者と爲さんとす、慶鄭曰く、君は卜に背きたり、其の敗るも亦至當ならずやと、遂に去りて公を顧みず、

【字解】韓原、晉の地なり、今の山西平陽府に在り、鷙、チと讀む、馬の泥中に陷ちて行かざることなり、

更令梁繇靡御、虢射爲右、輅秦繆公、繆公壯士、冒敗晉軍、晉軍敗、遂失秦繆公、

【講義】惠公は、更に大夫梁繇靡をして、車を御せしめ、虢射を其の右の侍衞とし、以て秦の繆公を逆へ擊つ、繆公の壯士は、晉軍を犯し破る、晉軍遂に敗る、秦の繆公を捕ふる能はず、

【字解】輅、迎ふなり、逆へ擊つなり、失、見失ふなり、取り逃したるをいふ、

反獲晉公以歸、秦將以祀上帝、晉君姉爲繆公夫人、衰經涕泣、

【講義】之に反して、秦の繆公は、晉の惠公を獲て秦に歸り、天帝の前に之を供へて祀らんとす、晉君の姉は、繆公の夫人たるを以て、晉君の爲めに、喪服を着て涕泣す、

【字解】衰經、サイテツと讀む、喪服なり、

公曰、得晉侯、將以爲樂、今乃如此、且吾聞箕子見唐叔之初封、曰、其後必當大矣、晉庸可滅乎、乃與晉侯盟王城、而許之歸、

【講義】繆公曰く、余は晉侯を得て樂と爲さんとす、然るに、今や夫人の涕泣すること此の如し、且つ吾聞く、昔時箕子は、晉の始祖たる唐叔の始めて封ぜられたるを見て、其の子孫必らず大なるべしと曰へりと、晉何ぞ滅するを得べけんやと、乃ち晉侯と共に、王城に會して盟を定め、晉侯に對して、其の國に歸らしむるを許す、

【字解】庸、何なり、王城、秦の地に在り、今の陝西同州府朝邑縣の東に在り、

に怒り、亦兵を發し晉を伐つ、

六年、春、秦繆公、將兵伐晉、晉惠公謂慶鄭曰、秦師深矣、奈何、鄭曰、秦内君、君倍其賂、晉饑秦輸粟、秦饑而晉倍之、乃欲因其饑伐之、其深不亦宜乎、

【講義】　惠公の六年春に、秦の繆公は兵に將とし、晉を伐つ、晉の惠公は慶鄭に謂ひ曰く、秦軍は深く我境に侵入したり、之を奈何せん、慶鄭曰く、秦は君を納れたり、君は其の賂に背けり、晉饑ゑて秦は穀を輸り、秦饑ゑて晉は之に背き、乃ち秦の饑に因り、之を伐たんと欲す、秦軍の深く我境に侵入したるも、亦宜ならずや、

晉卜御右、慶鄭皆吉、公曰、鄭不孫、乃更令步陽御戎、家僕徒爲右、進兵、

【講義】　晉は惠公の兵車を御するものと、其の右に侍衞するものとを卜す、其の兆は慶鄭の吉なるを見る、然れども、惠公は此の兆に從はずして曰く、慶鄭は不順なり、用ふるに足らずと、乃ち更に大夫步陽を以て、公の車を御せしめ、大夫家僕徒を以て、其の右の侍衞とす、晉は遂に兵を進めたり、

【字解】　孫、遜なり、順なり、不孫は無禮なり、更、更なり、戎、公の乘りたる兵車なり、家僕徒、晉の大夫の人名なり、

九月、壬戌、秦繆公、晉惠公、合戰韓原、惠公馬鷙不行、秦兵至、公窘、召慶鄭爲御、鄭曰、不用卜、敗不亦當乎、遂去、

【講義】　其の年の九月壬戌の日に、秦の繆公と、晉の惠公とは、韓原に合戰す、惠公の車は、深泥に陷りて其の馬行かず、秦兵來り迫る、惠公は窘しみ蹙る、因

相互にといふことなり、

邳鄭子豹曰、伐之、繆公曰、其君是惡、其民何罪、卒與粟、自雍屬絳、

【講義】 邳鄭の子豹曰く、晉を伐つべし、繆公曰く、其の君は是れ惡し、其の民は何の罪有らんと、竟に穀を晉に與ふ、其の輸送は秦の首都なる雍より、晉の首都なる絳に至るまで、舟船相接したり、

【字解】 自雍屬絳、雍は渭水に臨み、絳は汾水に臨む、而して渭水は河水を經て、汾水に通ず、故に舟船相接して、運漕に便なり、粟、穀なり、屬、達するなり、

五年、秦饑、請糴於晉、晉君謀之、慶鄭曰、以秦得立、已而倍其地約、晉饑而秦貸我、今秦饑請糴、與之、何疑而謀之、

【講義】 惠公の五年に、秦饑う、因て糴を晉に請ふ、晉君は之を群臣に謀る、大夫慶鄭曰く、秦を以て立つを得たり、既にして其の地を與ふる約に背く、前年晉饑ゑて、秦は我に穀を貸したり、今や秦饑ゑて糴を請ふ、晉は之を與ふべきのみ、何ぞ疑を要せん、何ぞ之を謀議するを要せん、

【字解】 糴、前節に解す、倍、背くなり、

虢射曰、往年天以晉賜秦、秦弗知取、而貸我、今天以秦賜晉、晉其可以逆天乎、遂伐之、惠公用虢射謀、不與秦粟、而發兵且伐秦、秦大怒、亦發兵伐晉、

【講義】 惠公の舅なる虢射曰く、往年天は晉を以て、秦に賜ふ、秦は取るを知らずして我に貸す、今や天は秦を以て晉に賜ふ、晉其れ以て天に逆ふべけんや、遂に之を伐たんと、是に於て惠公は虢射の謀を用ひ、秦に穀を與へずして、兵を發し秦を伐たんとす、秦は大

んと、秦の繆公は之を許し、人をして丕鄭と共に歸り、晉に報ぜしめ、厚く呂省、郤稱、冀芮の三子に賂ふ、

三子曰、幣厚言甘、此必丕鄭賣我於秦、遂殺丕鄭及里克、丕鄭之黨、七輿大夫、丕鄭子豹奔秦、言伐晉、繆公弗聽、

【講義】 呂省等は之を怪みて曰く、賂は厚し、言は甘し、此れ必らず丕鄭が我等を秦に賣るなりと、遂に丕鄭を殺し、里克丕鄭の黨を殺し、申生の引率したる下軍の七輿大夫を殺す、是に於て、丕鄭の子豹は秦に奔り、晉を伐たんことを言ふ、然れども、秦の繆公は、之を聽かず、

【字解】 幣、贈り物なり、七輿大夫、兵車七乘の大夫なり、

惠公之立、倍秦地及里克、誅七輿大夫、國人不附、二年、周使召公過禮晉惠公、惠公禮倨、召公譏之、

【講義】 惠公の立つや、秦に地を與へず、里克を殺し、七輿大夫を誅す、國人は歸服せず、二年に、周は召公をして往き、惠公に禮せしむ、惠公は召公に禮すること倨傲なり、召公は之を譏りたり、

【字解】 倍、背くなり、信に背きて約を破りたるをいふ、

四年晉饑、乞糴於秦、繆公問百里奚、百里奚曰、天菑流行、國家代有、救菑恤隣、國之道也、與之、

【講義】 惠公の四年に、晉饑う、糴を秦に乞ふ、秦の繆公は、之を百里奚に問ふ、百里奚曰く、天災の流行は、國家相互に免れず、災を救ひ隣を恤むは、國の道なりと、秦は乃ち穀を晉に與ふ、

【字解】 糴、テキと讀む、カヒヨネと訓ず、政府へ穀を買ひ入るゝことなり、菑、サイと讀む、災なり、代、

遂不見、

【講義】狐突は對へて曰く、臣聞く神は其の宗家の祀に非ざるを食はずと、君の言の如くせば、其祀は乃ち絕ゆること有らん、君其れ之を圖れと、申生曰く諾す、吾は再び天帝に請はんとす、後十日に、曲沃の西邊に巫者有らんとす、其の巫者に由りて、汝は我を見んと、狐突は申生の此の言を聽きて、之を許す、申生は遂に見えず、

【字解】毋乃絕乎、乃ち絕ゆる無からんか、と訓ず、是れ絕ゆること有らんとの意なり、西偏、西の邊鄙なり、

及期而往、復見申生、告之曰、帝許罰有罪矣、弊於韓、兒乃謠曰、恭太子更葬矣、後十四年、晉亦不昌、昌乃在兄、

【講義】狐突は申生の言に從ひ、其の期日に及びて、往き復た申生を見る、申生は狐突に告げて曰く、天帝は有罪を罰するを許せり、晉は其れ韓の地に於て敗れんと、此の言畢りて、申生は見えず、巫の兒は謠ひて曰く、恭太子は葬を更めたり、今より後十四年間は、晉も昌えず、其の隆昌は、乃ち現在の晉君の兄に在らんと、

【字解】弊、敗なり、韓、河西河東の間を指す、蓋し晉の封內なり、

邳鄭使秦、聞里克誅、乃說秦繆公曰、呂省、郤稱、冀芮、實爲不從、若重賂與謀、出晉君、入重耳、事必就、秦繆公許之、使人與歸報晉、厚賂三子、

【講義】邳鄭は秦に使して、里克の誅殺を聞き、乃ち秦の繆公に說きて曰く、晉が河西の地を獻ぜざるは、其大夫呂省、郤稱及び冀芮が、從はざるに由るなり、若しも賂を重くして共に謀り、晉君を逐ひ出し、重耳を入らしむるときは、河西を獻ずる事必らず成就せ

君何以興、欲誅之、其無辭乎、乃言爲此、臣聞命矣、遂伏劍而死、於是、邳鄭使謝秦、未還、故不及難、

【講義】　惠公乃ち里克に謂ひ曰く、里子の盡力無ければ、余は君位に立つを得ず、然れども、子も二君と一大夫とを殺せり、子が君たるものも亦難からずやと、里克對へて曰く、廢する所有らずんば、君は何を以て興らん、然れども、其の罪を誅せんと欲せば、豈に其の遺責の辭無からんや、乃ち君の言ふ所は、此が爲めならん、臣は命を聞けりと、遂に劍に伏して死す、是の時に當り、邳鄭は使して秦に謝し、未だ晉に還らず、故に、此の里克の患難より免れたり、

【字解】　寡人、諸侯の謙稱なり、二君一大夫、奚齊、悼子、荀息なり、不及難、難に罹らざるなり、

晉君改葬恭太子申生、秋、狐突之下國、遇申生、申生與載而告之曰、夷吾無禮、余得請於帝、將以晉與秦、秦將祀余、

【講義】　晉君は恭太子申生を改葬す、其の年の秋に、晉の狐突は曲沃に往く、忽ち申生に遇ふ、申生は狐突と共に車に乘り、狐突に告げて曰く、夷吾は禮無し、余は天帝に請ふを得たり、晉を以て秦に與へんとす、秦は余を祀らんとす、

【字解】　下國、上國に對する語なり、其の國の首都に近きを上國といひ、首都に遠きを下國といふ、晉の曲沃は別都なり、之を新城といふ、更に下國と稱す、此の文にて、申生の談は、狐突の夢を託したるなり、狐突は申生の御者なりしを以て、申生の車を御する夢より此の怪談を生じたるなり、

狐突對曰、臣聞、神不食非其宗、君其祀毋乃絕乎、君其圖之、申生曰諾、吾將復請帝、後十日新城西偏、將有巫者見我焉、許之、

て、晉に往く、此の時に、秦兵も夷吾と共に、晉に至る、齊乃ち隰朋をして、秦に會し、倶に夷吾を入らしめ、之を立て晉君と爲す、是を惠公といふ、齊の桓公は、晉の高梁に至りて歸り去る、

【字解】高梁、今の山西平陽府に在り、

惠公夷吾元年、使郄鄭謝秦曰、始夷吾以河西地許君、今幸得入立、大臣曰、地者先君之地、君亡在外、何以得擅許秦者、寡人爭之弗能得、故謝秦、亦不與里克汾陽邑、而奪之權、

【講義】惠公夷吾の元年に、惠公は郄鄭をして秦に謝せしめ曰く、始め夷吾は河西の地を以て、君に獻ずることを許せり、今は幸に入り立つを得たり、然るに、大臣曰く、地は先君の地なり、君は逃げて國外に在り、何を以て擅に秦に許すを得んと、寡人は之を爭へども、之を得る能はず、故に之を謝すと、遂に地を秦に與へず、里克に對しても、其の許したる汾陽の邑を與へず、里克の權勢を奪ひたり、

【字解】寡人、諸侯の自から稱する謙語なり、汾陽、前節に解す、

四月、周襄王使周公忌父、會齊秦大夫、共禮晉惠公、惠公以重耳在外、畏里克爲變、賜里克死、

【講義】其の年四月に、周の襄王は、周公忌父をして齊秦の大夫に會し、共に晉の惠公に禮せしむ、惠公は重耳が國外に在るを以て、里克が變を作さんことを畏る、因て里克に死を賜ひ、重耳の晉に入るを防がんとす、

謂曰、微里子、寡人不得立、雖然、子亦殺二君一大夫、爲子君者、不亦難乎、里克對曰、不有所廢、

の喪に侍するを得ず、重耳は何ぞ敢て國に入らんや、大夫其れ更に他の公子を立てよと、其の使還りて里克に報ず、里克乃ち人をして夷吾を梁より迎へしむ、夷吾は往かんと欲す、

【字解】 負、背くなり、更、更なり、

呂省郤芮曰、內猶有公子可立者、而外求難信、計非之秦輔彊國之威以入恐危、乃使郤芮厚賂秦、約曰、卽得入、請以晉河西之地與秦、

【講義】 呂省と郤芮とは夷吾の徒なり、乃ち夷吾に說きて曰く、國內には猶他の公子の立つべきもの有り、然るに、之を國外に求めたるは、其の事情に就きて信じ難し、今の計としては、秦に往き强國の威に助けられ、以て國に入るを要す、斯く爲さゞるときは、恐くは危しと、夷吾は此の計を用ひ、郤芮をして厚く秦に賂はしむ、因て約を定め曰く、若しも晉國に入るを得ば、請ふ晉の河西の地を以て秦に與へん、

乃遺里克書曰、誠得立、請遂封子於汾陽之邑、秦穆公乃發兵、送夷吾於晉、

【講義】 夷吾は乃ち里克に書を遺りて曰く、若し立つを得ば、請ふ子を汾陽の邑に封ぜんと、秦の穆公は兵を發して、夷吾を送り、之を晉に入れんとす

【字解】 誠、若しもなり、汾陽、晉の地なり、汾水の北に在り、

齊桓公聞晉內亂、亦率諸侯如晉、秦兵與夷吾亦至晉、齊乃使隰朋會秦、俱入夷吾、立爲晉君、是爲惠公、齊桓公至晉之高梁而還歸、

【講義】 齊の桓公は晉の內亂を聞き、亦諸侯を率ゐ

或曰、不如立奚齊弟悼子而傅之、荀息立悼子而葬獻公、十一月、里克弑悼子于朝、荀息死之、君子曰、詩所謂白珪之玷、猶可磨也、斯言之玷、不可爲也、其荀息之謂乎、不負其言、

【講義】 或は荀息に謂ひ曰く、奚齊の弟悼子を立てて、之に傅たるに如かず、是に於て、荀息は悼子を立て、獻公を葬る、其の年の十一月に、里克は悼子を朝に弑す、荀息は之に死す、君子曰く、詩の謂はゆる白珪の玷けたるは猶磨くを得可し、然れども、斯の言の玷けたるは修理するを得ずと、其れ荀息の謂ひか、荀息は其の言ひし所に背かざるものなりと、

【字解】 珪、儀式に用ふる美玉なり、玷、玉の缺けたる瑕なり、爲、改め正すなり、負、背くなり、

初獻公將伐驪戎、卜曰、齒牙爲禍、及破驪戎、獲驪姬、愛之、竟以亂晉、里克等已殺奚齊悼子、使人迎公子重耳於翟、欲立之、

【講義】 初め獻公は驪戎を伐たんとす、之をトす、ト者曰く、齒牙は禍を作さんと、既にして驪戎を破り、驪姬を獲たり、之を愛す、竟に其の毒舌を以て、晉を亂すに至れり、里克等は既に奚齊悼子を殺し、人をして公子重耳を狄に迎へしめ、之を立てんと欲す、

重耳謝曰、負父之命出奔、父死不得修人子之禮侍喪、重耳何敢入、大夫其更立他子、還報里克、里克使迎夷吾於梁、夷吾欲往、

【講義】 重耳は之を辭謝して曰く、余は父の命に背きて出奔す、父死して、人子の禮を修むるを得ず、其

臣不服、恐亂起、子能立之乎、荀息曰、能、獻公曰、何以爲驗、對曰、使死者復生、生者不慙、爲之驗、於是、遂屬奚齊於荀息、荀息爲相、主國政、

【講義】 獻公も病有るを以て、宰孔の言に從ひ、復歸る、病甚し、乃ち荀息に謂ひ曰く、吾は奚齊を以て、後嗣と爲す、然れども、年少し、諸大臣は服從せず、亂の起るを恐る、子能く之を立てんか、荀息曰く、能く立てん、獻公曰く、何を以て驗と爲す、荀息曰く、死者をして復生ぜしめん、生者をして慙ぢざらしめん、之を驗と爲さんと、是に於て、奚齊を荀息に屬す、荀息は首相と爲り、國政を執る、

【字解】 死者復生、生者不慙、荀息は君の命に從ひ、奚齊を立つ、荀息は死すと雖も、必らず之を決行す、是を死者復生といふ、荀息は君命に背き生を貪るものに非ず、必らず君命を決行したる後に生存す、是を生者不慙といふ、

秋九月、獻公卒、里克邳鄭、欲內重耳、以三公子之徒作亂、謂荀息曰、三怨將起、秦晉輔之、子將何如、荀息曰、吾不可負先君言、十月、里克殺奚齊於喪次、獻公未葬也、荀息將死之、

【講義】 其の年の秋九月に、獻公卒す、晉の大夫里克及び邳鄭は、公子重耳を納れんと欲す、因て申生、重耳、夷吾の徒黨を聚めて亂を作す、乃ち荀息に謂ひ曰く、三公子の怨は起らんとす、秦晉は之を輔く、子は何如せんとするか、荀息曰く、吾は先君の言に背くを得ずと、其年の十月に、里克は奚齊を喪中の殿に殺す、獻公未だ葬らざればなり、荀息は之に死せんとす、

【字解】 負、背くなり、喪次、喪中の殿なり、

かば、晉は必らず兵を移し、狄を伐たん、狄は晉を畏る、其の禍は君に及ばん、梁に走るに如かず、梁は秦に近し、秦は強し、獻公の歿後に於て、晉に入ることを求むるに便なりと、夷吾は遂に梁に奔る、

【字解】　梁、今の陝西同州府韓城縣南に在り、是れ魏の大梁と異り、潰、其の衆卒先づ走るなり、

二十五年、晉伐翟、翟以重耳故、亦擊晉於齧桑、晉兵解而去、當此時、晉彊、西有河西、與秦接境、北邊翟、東至河內、驪姬弟生悼子、

【講義】　獻公の二十五年に、晉は狄を伐つ、狄は重耳の故を以て、亦晉を齧桑に擊つ、晉兵は解きて去る、此の時に當り、晉は強し、西に於て、河西を有ち、秦と境を接し、北に於て、狄に接し、東に於て、河內に至る、而して驪姬の妹は、悼子を生みたり、

【字解】　齧桑、晉と狄との境の地名なり、弟は女弟の略語なり、

二十六年夏、齊桓公大會諸侯於葵丘、晉獻公病、行後未至、逢周之宰孔、宰孔曰、桓公益驕、不務德而務遠略、諸侯弗平、君第毋會、毋如晉何、

【講義】　獻公の二十六年夏に、齊の桓公は、大に諸侯を葵丘に會す、晉の獻公病みて參會に後る、未だ至らず、途中に於て、周の宰孔に逢ふ、宰孔曰く、齊の桓公益驕る、其の德を務めずして、遠國の侵略を務む、諸侯に不平の感有り、君は唯會する勿れ、齊は晉を如何ともする能はず、

【字解】　葵丘、齊の世家に詳なり、第、唯なり、

獻公亦病、復還歸、病甚、乃謂荀息曰、吾以奚齊爲後、年少、諸大

ども虞公は聽かず、遂に晉に許す、宮之奇は其の族人を率ゐて、虞を出で去れり、

【字解】桓莊之族、獻公の八年に逃べたる群公子なり、

其冬晉滅虢、虢公醜奔周、還襲滅虞、虜虞公、及其大夫井伯百里奚、以媵秦穆姬、而修虞祀、荀息牽曩所遺虞屈產之乘馬奉之獻公、獻公笑曰、馬則吾馬、齒亦老矣、

【講義】其の年の冬に、晉は虢を滅す、虢公醜は周に奔る、晉は軍を還し、襲ひて虞を滅し、虞公を虜にす、虞の大夫井伯と百里奚とも、亦捕はれたり、晉は獻公の女なる秦穆夫人を秦に送るに當り、井伯と百里奚とを附添人として、隨行せしめたり、而して、晉は虞の山川の祭祀を修め行ひたり、晉の荀息は曩に虞に遺りたる屈の良馬を牽き出して、之を獻公に奉還す、獻公笑ひ曰く、馬は吾馬なり、然れども其の齡は老いたり、

【字解】媵、ヨウと讀む、諸侯の女が外國に嫁するときに、隨行する男女を稱す、屈產、屈の地より產出したるものなり、乘馬、四つの馬なれども、馬といふ意に用ふ、

二十三年、獻公遂發賈華等伐屈、屈潰、夷吾將奔翟、冀芮曰、不可、重耳已在矣、今往晉必移兵伐翟、翟畏晉、禍且及、不如走梁、梁近於秦、秦彊、吾君百歲後、可以求入焉、遂奔梁、

【講義】獻公の二十三年に、獻公は遂に賈華等を發し、屈城を伐つ、屈の衆は潰走す、夷吾は狄に奔らんとす、冀芮曰く、狄は不可なり、重耳は既に在り、今往

自殺を勸む、重耳は垣を踰えて逃れんとす、勃鞮は追ひ逼りて、重耳の袂を斬る、重耳は遂に狄に奔る、獻公は人をして屈を伐たしむ、屈は城守す、之を下すを得ず、

【字解】 宦者、內侍者なり、袪、袂なり、翟、狄なり、

是歲也、晉復假道於虞、以伐虢、虞之大夫宮之奇、諫虞君曰、晉不可假道也、是且滅虞、虞君曰、晉我同姓、不宜伐我、

【講義】 是の年に、晉は再び道を虞に假りて、虢を伐つ、虞の大夫宮之奇は、虞君を諫めて曰く、晉は道を假すべからず、道を假せば、晉は虞を滅せんとすと、虞君曰く、晉は我の同姓なり、我を伐つべからずと、

宮之奇曰、太伯虞仲、太王之子也、太伯亡去、是以不嗣、虢仲虢叔、王季之子也、爲文王卿士、其記勳在王室、藏於盟府、將虢是滅、何愛於虞、且虞之親、能親於桓莊之族乎、桓莊之族何罪、盡滅之、虞之與虢、脣之與齒、脣亡則齒寒、虞公不聽、遂許晉、宮之奇以其族去虞、

【講義】 宮之奇曰く、太伯と虞仲とは、周の太王の子なり、然れども、太伯も虞仲も、周を逃げ去る、是を以て嗣がず、虢仲と虢叔とは、周の王季の子なり、文王の卿士たり、其の勳功は記して王室に在り、其の文を盟誓の府に藏めたり、虢と虞とは同一の親族なり、然るに今や晉は虢を滅せんとす、何ぞ能く虞を愛せん、且つ夫れ虞は、晉の親族なりと雖も、豈に能く晉が桓叔莊伯の族に於けるよりも親しと謂ふを得んや、曲沃の桓叔莊伯の族は、何の罪ぞ、彼等は罪無きも晉は盡く之を滅したり、虞の虢に於けるは、脣の齒に於けるが如し、脣亡ぶれば齒寒し、亦危からずやと、然れ

は、驪姫が太子を讒殺せしを怨むと、驪姫恐る、因て兩公子を讒して曰く、申生の毒肉は、兩公子も之を知ると、兩公子は之を聞き恐る、是に於て、重耳は蒲に走り、夷吾は屈に走り、以て其の城を保ち、自から備へ守る、

【字解】 蒲屈、前節に詳解せり、

初獻公、使士蔿爲二公子築蒲屈城、弗就、夷吾以告公、公怒士蔿、士蔿謝曰、邊城少寇、安用之、退而歌曰、狐裘蒙茸、一國三公、吾誰適從、卒就城、及申生死、二子亦歸保其城、

【講義】 初め獻公は士蔿をして、兩公子の爲めに、蒲屈の兩城を築かしむ、完全に就らず、夷吾は公に告ぐ、公は士蔿を怒る、士蔿謝して曰く、邊境の城は、寇の害少し、何ぞ城を完全にするを用ひんと、乃ち退き歌を作りて曰く、狐裘は蒙茸として、其の毛亂る、一國に三公有り、吾は誰にか服従せんと、竟に築城を畢る、既にして申生死す、兩公子亦歸りて、其の城を保つ、

【字解】 狐裘蒙茸、狐裘は貴人を指す、其の國の紛亂したるに譬ふるなり、蒙茸は毛の亂れたる貌なり、三公、獻公、重耳、夷吾の三人を指す、

二十二年、獻公怒、二子不辭而去、果有謀矣、乃使兵伐蒲、蒲人之宦者勃鞮、命重耳促自殺、重耳踰垣、宦者追斬其衣袪、重耳遂奔翟、使人伐屈、屈城守、不可下、

【講義】 獻公の二十二年に、獻公怒り曰く、重耳夷吾が、告辭せずして去りたるは、果して謀有らんと、乃ち兵を發し、蒲城を伐つ、蒲城の宦者勃鞮は、重耳に

【字解】辟、避なり、若、或はなり、然らずんばなり、魚肉、虐殺なり、食ふとの意なり、

太子聞之、奔新城、獻公怒、乃誅其傅杜原欵、或謂太子曰、爲此藥者、乃驪姬也、太子何不自辭明之、太子曰、吾君老矣、非驪姬、寢不安、食不甘、卽辭之、君且怒之、不可、

【講義】太子は之を聞き、曲沃の新城に奔る、獻公怒り、太子の傅たる杜原欵を誅殺す、或は太子に謂ひ曰く、此毒を置きたるは驪姬なり、太子何ぞ自ら辯解して之を明にせざるやと、太子曰く、吾君は年老いたり、驪姬に非ざれば、寢ぬるに安からず、食ふに甘からず、若しも其の罪を辯明せば、君は驪姬を怒らん、故に、辯明することは不可なり、

或謂太子曰、可奔他國、太子曰、被此惡名以出、人誰內我、我自殺耳、十二月戊申、申生自殺於新城、

【講義】或は太子に謂ひ曰く、他國に奔るべし、太子曰く、此の惡名を被りて出で去るも、誰れか能く我を納れんや、我は自殺せんのみと、其の年の十二月戊申の日に、太子申生は、曲沃の新城に自殺す、

此時、重耳、夷吾來朝、人或告驪姬曰、二公子怨驪姬譖殺太子、驪姬恐、因譖二公子、申生之藥胙、二公子知之、二子聞之、恐、重耳走蒲、夷吾走屈、保其城、自備守、

【講義】此の時に當り、蒲城の重耳、屈城の夷吾、皆來朝して絳都に在り、或は驪姬に告げて曰く、兩公子

止之曰、胙所從來遠、宜試之、祭地、地墳、與犬、犬死、與小臣、小臣死、

【講義】 其の後二日にして、獻公は獵より還り至る、內膳の官は、太子の獻上したる祭肉を公に進む、公は之を食せんと欲す、驪姬は傍より之を止めて曰く、祭肉は從り來る所遠し、先づ之を試驗すべしと、乃ち其の祭肉を以て地を祭る、地は土坌き騰る、更に其の祭肉を犬に與ふれば、犬死す、小臣に與ふれば小臣亦死す、

【字解】 旁、傍なり、胙、祭肉なり、墳、ウゴモツと訓ず、土の坌き起つことなり、小臣、侍者なり、

驪姬泣曰、太子何忍也、其父而欲弒代之、況他人乎、且君老矣、旦暮之人、曾不能待、而欲弒之、

【講義】 驪姬泣き曰く、太子何ぞ其れ殘忍刻薄なるや、其の父にして之を弒し代らんと欲す、況んや他人をや、且つ君は年老いたり、旦夕にして死に就く人なり、然るに、之を待つ能はず、之を弒せんと欲す、亦甚しからずやと、

謂獻公曰、太子所以然者、不過以妾及奚齊之故、妾願子母辟之他國、若早自殺、毋徒使母子爲太子所魚肉也、始君欲廢之、妾猶恨之、至於今、妾殊自失於此、

【講義】 驪姬は乃ち獻公に謂ひ曰く、太子の此の如き所以は、妾と奚齊との故を以てに過ぎず、妾願くは子母相共に避けて、他國に之かん、然らずんば早く自殺せん、徒らに坐して太子に虐殺せらるゝを待つ能はず、始め君は太子を廢せんと欲す、妾は猶太子を愛して、君の意を恨みたり、今に至りて、妾は太子の惡に驚き、殊に此に自失して、途方に暮ると、

立、諸侯皆已知之、而數將兵、百姓附之、奈何以賤妾之故、廢適立庶、君必行之、妾自殺也、驪姫詳譽太子、而陰令人譖惡太子、而欲立其子、

【講義】獻公は私に驪姫に謂ひ曰く、吾は太子を廢せんと欲す、奚齊を以て太子に代へんと欲すと、驪姫泣き曰く、太子の立ちたるは諸侯皆既に之を知る、而して屢晉の兵に將たり、人民服從す、何ぞ賤妾の故を以て、嫡子を廢し、庶子を立てんや、君必らず之を行はゞ、妾は自殺せんと、斯の如く驪姫は佯りて太子を譽む、而して陰密に人を使ひ、太子を獻公に讒言せしめ、以て其の子を立てんと欲す、

【字解】適、嫡なり、詳、佯なり、譖惡、讒言なり、

二十一年、驪姫謂太子曰、君夢見齊姜、太子速祭曲沃、歸釐於君、太子於是祭其母齊姜於曲沃、上其薦胙於獻公、獻公時出獵、置胙於宮中、驪姫使人置毒藥胙中、

【講義】獻公の二十一年に、驪姫は太子に謂ひ曰く、君は夢に齊姜を見たり、太子は其れ速に曲沃に祭れ、而して祭肉を君に獻ぜよと、齊姜は太子の母なり、是に於て太子は曲沃に歸りて、齊姜を祭り、其の祭肉を獻公に上る、是の時に、獻公は出獵して在らず、因て祭肉を宮中に置く、驪姫は人をして毒藥を祭肉の中に置かしむ、

【字解】釐、キと讀む、胙なり、胙は祭肉なり、神に供へたる肉を下げて、人の食するに用ふ、歸、送るなり、薦、神へ供へ進ることなり、

居二日、獻公從獵來還、宰人上胙獻公、獻公欲饗之、驪姫從旁

の立つを得ざるを恐る勿れ、自己を修めて他人を責めざれば、患難を免るを得ん、

【字解】軍旅、軍隊なり、共、供なり、

太子帥師、公衣之偏衣、佩之金玦、里克謝病不從太子、太子遂伐東山、

【講義】太子は師を帥ゐて征途に上らんとす、獻公は之に左右異色の衣を着せ、之に金屬の玦を佩びしむ、里克は病を稱して太子に從はず、太子は遂に東山の夷を伐つに赴けり、

【字解】偏衣、身の左右に衣の色を分つ、其の斷絶の意を察すべし、金玦、金製の玦なり、玦は環の如くして、連接せざる製作なり、是も斷絶の意を窺ふに足る、東山、山西の赤狄の邑なり、

十九年、獻公曰、始吾先君莊伯武公之誅晉亂、而虢常助晉伐我、又匿晉亡公子、果爲亂、弗誅後遺子孫憂、乃使荀息以屈產之乘、假道於虞、虞假道、遂伐虢、取其下陽、以歸、

【講義】獻公の十九年に、獻公曰く、始め吾先君莊伯武公が晉の亂を誅するや、虢は常に晉を助けて、我の曲沃を伐ち、且つ晉の逃亡したる公子を匿し置く、是れ竟に亂を作さん、今に於て之を誅せざるときは、後に子孫の憂を遺さんと、乃ち荀息をして、屈の地より產出したる良馬を以て、道を虞國に假らしむ、虞は道を假す、晉は遂に虢を伐ち、其の下陽を取りて歸る、

【字解】虢、クワクと讀む、晉の南に虞有り、虞の南に虢有り、虢の下陽は、虞虢の界に在り、乘、馬四を乘といふ、然れども、此の處にては數を示すに非ず、馬といふに過ぎず、

獻公私謂驪姬曰、吾欲廢太子以奚齊代之、驪姬泣曰、太子之

安用之、

【講義】獻公の十七年に、晉侯は太子申生をして東山を伐たしむ、里克は獻公を諫めて曰く、太子は太廟の祭祀國神の供物を奉じ、朝夕に君の飮食を視察するものなり、故に、冢子といふ、君が軍に赴くときには、太子は留りて國を守り、君が留り國を守るときには、太子は君に從ひ守る、其の從ひ守るときは撫軍と曰ひ、其の獨り留り守るときを監國と曰ふ、是れ古の制なり、太子は出征せしむべきものに非ず、夫れ師を率ゐて出征するは、謀略を專行するものなり、軍隊に誓ふは、君と大臣との圖る所なり、是れ太子の事務に非ず、蓋し軍は命令を專制するに在り、若しも命令を受くれば威を失ふ、命令を專にすれば孝に背く、故に、君の嫡嗣は軍を帥ゐしむべからず、君は其の官の用を失へり、軍を帥ゐしめて威無ければ、何ぞ之を用ふるに足らん、

【字解】東山、夷の邑なり、今の山西大原府に在り、冢祀、宗廟の祭祀なり、冢は太なり、社稷、國土の神を祭ることなり、粢盛、シセイと讀む、神に供へる穀物なり、冢子、太子なり、冢は冢祀の冢に同じ、撫軍、國に在り君に從ひて軍を鎭撫するなり、監國、君の在らざるときに國を監督するなり、國政、大臣なり、稟、受くるなり、嗣適、嫡嗣なり、安、何なり、

公曰、寡人有子、未知其太子誰立、里克不對而退、見太子、太子曰、吾其廢乎、里克曰、太子勉之、教以軍旅、不共是懼、何故廢乎、且子懼不孝、毋懼不得立、修己而不責人、則免於難、

【講義】獻公曰く、余は子多し、未だ其の太子として誰を立つるかを知らずと、里克は之を聽き對へずして退き、太子に見ゆ、太子曰く、吾は其れ廢せられんか、里克曰く、太子其れ之を勉めよ、君は既に敎ふるに軍隊の事を以てす、唯其の職に供せざるを恐る、何の故に廢せられんや、且つ子は孝ならざるを恐る、其

矣、天子曰兆民、諸侯曰萬民、今命之大、以從盈數、其必有衆、

【講義】 晉の卜筮の官なる郭偃曰く、畢萬の子孫は、必らず大ならん、夫れ萬は盈ちたる數なり、魏は大なる名なり、是の大名を以て始めて賞せらる、天は其の福運を開けり、天子に就きては、兆民と曰ひ、諸侯に就きては、萬民と曰ふ、今や命ずるに大なる魏を以てして、其の萬なる盈數に從ふ、其れ必らず衆民を領有するに至らん、

初畢萬卜仕於晉國、遇屯之比、辛廖占之曰、吉、屯固、比入、吉孰大焉、其後必蕃昌、

【講義】 初め畢萬は晉國に仕へんとして之を卜す、水雷屯の水地比に之くに遇ふ、晉の大夫辛廖は之を判斷して曰く、吉なり、水雷屯は堅固なり、水地比は親密なり、以て入るを得べし、吉は此より大なるもの無し、其の子孫は必らず蕃昌せん、

【字解】 屯、䷂卦なり、比、䷇卦なり、屯の堅固なるを持して、比の親密なる狀態に進轉す、以て其の福利に入るを知るなり、孰、何なり、焉、此よりもといふ意なり、孰大焉、尤も大なりといふが如し、

十七年、晉侯使太子申生伐東山、里克諫獻公曰、太子奉冢祀社稷之粢盛、以朝夕視君膳者也、故曰冢子、君行則守、有守則從、從曰撫軍、守曰監國、古之制也、夫率師專行謀也、誓軍旅、君與國政之所圖也、非太子之事也、師在制命而已、稟命則不威、專命則不孝、故君之嗣適、不可以帥師、君失其官、率師不威、將

行爲有り、然れども、驪姫を得たる後に於て、獻公は此の三子を遠く斥けたり、

十六年、晉獻公作二軍、公將上軍、太子申生將下軍、趙夙御戎、畢萬爲右、伐滅霍、滅魏、滅耿、還爲太子城曲沃、賜趙夙耿、賜畢萬魏、以爲大夫、

【講義】獻公の十六年に、獻公は二軍を作る、而して公は上軍に將たり、太子申生は下軍に將たり、趙夙は公の兵車を御し、畢萬は其の右に侍衛たり、伐ちて霍を滅し、魏を滅し、耿を滅す、軍還りて太子の爲めに曲沃に築城し、耿を趙夙に賜ひ、魏を畢萬に賜ひ、因て此の兩人を大夫とす、

【字解】御戎、君に乘りたる兵車を御するなり、戎は兵なり、戎車を略して稱す、霍魏耿、是れ晉に近き三小國なり、

士蔿曰、太子不得立矣、分之都城、而位以卿、先爲之極、又安得立、不如逃之、無使罪至、爲吳太伯、不亦可乎、猶有令名、太子不從、

【講義】士蔿は太子申生に謂ひ曰く、太子は立つを得ず、既に都城たる曲沃を分ち與へられ、位するに下軍の將を以てす、是れ卿なり、先づ祿位の極度を爲す、何ぞ能く國君として立つを得ん、之を逃るゝに如かず、罪をして至らしむる勿れ、國を去りて高義を守り、吳の太伯の流と爲るも、可ならずや、此の如きは、猶名譽有りと、然れども、太子は之に從はず、

【字解】都城、邑にして先君の廟有るをいふ、安、何なり、令、善なり、

卜偃曰、畢萬之後必大、萬盈數也、魏大名也、以是始賞、天開之

を伐たんと欲す、士蔿曰く、姑らく其の亂を待たん、

十二年、驪姬生奚齊、獻公有意廢太子、乃曰、曲沃吾先祖宗廟所在、而蒲邊秦、屈邊翟、不使諸子居之、我懼焉、於是、使太子申生居曲沃、公子重耳居蒲、公子夷吾居屈、獻公與驪姬子奚齊居絳、晉國以此知太子不立也、

【講義】 獻公の十三年に、驪姬は奚齊を生む、獻公は太子を廢するに意有り、乃ち曰く、曲沃は吾先祖の宗廟の在る所なり、而して蒲は秦の境に接し、屈は狄の境に臨む、此の三地は要衝なり、諸子をして之に居らしめずんば、我は懼ると、是に於て、太子申生をして曲沃に居らしめ、公子重耳をして蒲に居らしめ、公子夷吾をして屈に居らしむ、而して獻公は驪姬の子奚齊と共に、首都なる絳に居る、晉國の人は、此を以て太子申生の立たざるを知るなり、

【字解】 邊、國境を接するなり、翟、狄なり、曲沃、前章に解せり、蒲、今の山西平陽府隰州に屬す、屈、今の山西平陽府吉州に屬す、

太子申生、其母齊桓公女也、曰齊姜、早死、申生同母女弟、爲秦穆公夫人、重耳母、翟之狐氏女也、夷吾母、重耳母女弟也、獻公子八人、而太子申生、重耳、夷吾、皆有賢行、及得驪姬、乃遠此三子、

【講義】 太子申生は、其の母を、齊の桓公の女とす、齊姜と曰ふ、齊姜は早く死せり、申生の同母妹は、秦の穆公の夫人たり、重耳の母は、狄の狐氏の女なり、夷吾の母は、重耳の母の妹なり、獻公の子は八人有り、而して太子申生、重耳、夷吾の三子は、皆賢なる

武公代レ晉、二歲卒、與二曲沃一通レ年、卽位凡三十九年而卒、子獻公詭諸立、獻公元年、周惠王弟頽攻二惠王一、惠王出犇、居二鄭之櫟邑一、五年、伐二驪戎一、得二驪姬驪姬弟一、倶愛二幸之一、

【講義】　武公は晉に代り、二年にして卒す、其の曲沃に於ける年を通算すれば、凡そ三十九年の在位なり、子獻公詭諸立つ、獻公の元年に、周の惠王の弟頽は、惠王を攻め、惠王出奔し、鄭の櫟邑に居る、五年に、獻公は驪戎を伐ち、驪姬及び驪姬の妹を得たり、獻公は是等の女を愛幸す、

【字解】　犇、奔なり、驪戎、驪山の地方に住みたる戎なり、今の陝西西安府臨潼縣の東に驪戎の墟有り、弟、女弟を略して稱す、

八年、士蔿說レ公曰、故晉之群公子多、不レ誅亂且レ起、乃使三盡殺二諸公子一、而城レ聚都レ之、命曰レ絳、始都レ絳、

【講義】　獻公の八年に、晉の大夫士蔿は獻公に說きて曰く、故の晉の群公子多し、之を誅殺せずんば、亂は起らんとすと、獻公乃ち士蔿をして群公子を殺さしめ、聚邑に築城し、之を首都とす、命じて絳と曰ふ、是れ絳都の創始なり、

【字解】　聚、翼に近き邑なり、今の山西平陽の絳水に近し、

九年、晉羣公子既亡奔レ虢、虢以二其故一再伐レ晉、弗レ克、十年、晉欲レ伐レ虢、士蔿曰、且待二其亂一、

【講義】　獻公の九年に、晉の士蔿に殺されたる殘餘の群公子は、既に亡げて虢に奔る、虢は其の故を以て再び晉を伐つ、然れども、克つを得ず、十年に、晉は虢

年、齊桓公始霸、曲沃武公、伐晉侯緡、滅之、盡以其寶器、賂獻于周釐王、

【講義】晉侯緡の四年に、宋は鄭の祭仲を執へて、公子突を立て、鄭君と爲す、晉侯緡の十九年に、齊人管至父等は、其の君襄公を弑す、晉侯緡の二十八年に、齊の桓公は始めて霸たり、曲沃の武公は、晉侯緡を伐ち、之を滅し、盡く其の寶器を以て、周の釐王に賂とし獻上す、

【字解】齊人、齊の衆なり、管至父の徒黨を指す、

釐王命曲沃武公、爲晉君、列爲諸侯、於是盡併晉地而有之、曲沃武公已即位三十七年矣、更號曰晉武公、晉武公始都晉國、前即位曲沃、通年三十八年、

【講義】是に於て、周の釐王は曲沃の武公に命じ、晉君と爲し、列して諸侯とす、武公は因て盡く晉の地を併せて、之を領有す、武公は既に曲沃に即位して、三十七年なり、更に號して晉の武公と曰ふ、今始めて晉國に都す、之を曲沃の即位に通算すれば、三十八年と爲る、

武公稱者、先晉穆侯曾孫也、曲沃桓叔孫也、桓叔者始封曲沃、武公莊伯子也、自桓叔初封曲沃、以至武公滅晉也、凡六十七歲、而卒代晉爲諸侯、

【講義】武公稱は先晉の穆侯の曾孫なり、曲沃の桓叔の孫なり、桓叔は始めて曲沃に封ぜらる、其の子は莊伯なり、而して武公は莊伯の子なり、桓叔が曲沃を領してより、武公が晉を滅するに至るまで、凡そ六十七年を經たり、而して竟に晉に代り諸侯と爲る、

【字解】先晉、曲沃より晉を併せたる以前の晉なり、

【字解】虢、虞の南に在り、虞を越えて晉に達す、今の河南陝州に在り、

哀侯二年、曲沃莊伯卒、子稱代莊伯立、是爲曲沃武公、哀侯六年、魯弑其君隱公、哀侯八年、晉侵陘廷、陘廷與曲沃武公謀、九年、伐晉于汾旁、虜哀侯、晉人乃立哀侯子小子爲君、是爲小子侯、

【講義】哀侯の二年に、曲沃の莊伯卒す、子稱立つ、是を曲沃の武公と爲す、哀侯の六年に、魯は其の君なる隱公を殺す、八年に、晉は陘廷を侵す、陘廷は曲沃の武公と謀り、哀侯の九年を以て、晉を汾水の傍に伐ち、哀侯を虜にす、晉人乃ち哀侯の子なる小子を立て、君と爲す、是を小子侯といふ、

【字解】陘廷、晉の南部の邑なり、旁、傍なり、

小子元年、曲沃武公、使韓萬殺所虜晉哀侯、曲沃益彊、晉無如之何、晉小子之四年、曲沃武公、誘召晉小子殺之、周桓王使虢仲伐曲沃武公、武公入于曲沃、乃立晉哀侯弟緡爲晉侯、

【講義】小子侯の元年に、曲沃の武公は韓萬をして、其の虜へたる晉の哀侯を殺さしむ、曲沃益強し、晉は之を如何ともする能はず、小子侯の四年に、曲沃の武公は、誘ひて小子侯を召し、之を殺す、周の桓王は、虢仲をして曲沃の武公を伐たしむ、武公は曲沃に入る、乃ち哀侯の弟緡を立てゝ、晉侯と爲す、

晉侯緡四年、宋執鄭祭仲、而立突爲鄭君、晉侯十九年、齊人管至父弑其君襄公、晉侯二十八

七年、晉大臣潘父、弑其君昭侯、而迎曲沃桓叔、桓叔欲入晉、晉人發兵攻桓叔、桓叔敗還歸曲沃、晉人共立昭侯子平爲君、是爲孝侯、誅潘父、

【講義】昭侯の七年に、晉の大臣潘父は、其の君昭侯を弑して、曲沃の桓叔を迎ふ、桓叔は晉に入らんと欲す、晉人は兵を發し桓叔を攻む、桓叔は敗れて曲沃に還る、晉人は相共に昭侯の子平を立て、君と爲す、是を孝侯とす、潘父を誅殺す、

孝侯八年、曲沃桓叔卒、子鱓代桓叔、是爲曲沃莊伯、孝侯十五年、曲沃莊伯、弑其君晉孝侯于翼、晉人攻曲沃莊伯、莊伯復入曲沃、晉人復立孝侯子郄爲君、是爲鄂侯、

【講義】孝侯の八年に、曲沃の桓叔卒す、子鱓立つ、是を曲沃の莊伯とす、孝侯の十五年に、曲沃の莊伯は、其の君なる孝侯を翼に弑す、晉人は莊伯を攻む、莊伯復た曲沃に入る、晉人復た孝侯の子郄を立て、君とす、是を鄂侯といふ、

【字解】翼、前節に詳解す、郄、或は都に作る、

鄂侯二年、魯隱公初立、鄂侯六年卒、曲沃莊伯聞鄂侯卒、乃興兵伐晉、周平王使虢公將兵伐曲沃莊伯、莊伯走保曲沃、晉人共立鄂侯子光、是爲哀侯、

【講義】鄂侯の二年に、魯の隱公始めて立つ、鄂侯は六年に卒す、曲沃の莊伯は鄂侯卒すと聞き、乃ち兵を興して晉を伐つ、周の平王は虢公をして兵に將とし、曲沃の莊伯を伐たしむ、莊伯は走りて曲沃を保つ、晉人は相共に鄂侯の子光を立つ、是を哀侯とす、

太子仇出犇、殤叔三年、周宣王崩、四年、穆侯太子仇、率其徒、襲殤叔而立、是爲文侯、

【講義】穆侯の二十七年に、穆侯卒す、弟殤叔自立す、太子仇出奔す、殤叔の三年に、周の宣王崩じ、四年に、穆侯の太子仇は、其の徒を率ゐて、殤叔を襲ひ、晉君と爲る、之を文侯といふ、

文侯十年、周幽王無道、犬戎殺幽王、周東徙、而秦襄公始列爲諸侯、三十五年、文侯仇卒、子昭侯伯立、

【講義】文侯の十年に、周の幽王無道なり、犬戎は幽王を殺し、周は東に徙る、秦の襄公は始めて列し、諸侯と爲る、三十五年に、文侯仇卒し、子昭侯伯立つ、

昭侯元年、封文侯弟成師于曲沃、曲沃邑、大於翼、翼晉君都邑也、成師封曲沃、號爲桓叔、靖侯庶孫欒賓相桓叔、桓叔是時年五十八矣、好德、晉國之衆皆附焉、君子曰、晉之亂其在曲沃矣、末大於本、而得民心、不亂何待、

【講義】昭侯の元年に、文侯の弟成師を曲沃に封ず、曲沃は翼より大なり、翼は晉君の都なり、成師を桓叔と號す、靖侯の庶孫欒賓は桓叔を相く、桓叔は是の時に年五十八なり、其の德を好むを以て士心を得たり、晉國の民は歸服す、君子曰く、晉の亂は、其れ曲沃に在らん、末は本より大なり、而して民心を得たり、亂れずんば何をか待たん、

【字解】曲沃、晉の別都なり、今の山西平陽府曲沃縣なり、翼、晉の首都なり、絳に近し、後に絳を首都とす、翼も絳も今の山西平陽府に在り、

國人作亂、厲王出奔于彘、大臣行政、故曰共和、十八年靖侯卒、子釐侯司徒立、釐侯十四年、周宣王初立、十八年釐侯卒、子獻侯籍立、獻侯十一年卒、子穆侯費王立、

【講義】　靖侯の十七年に、周の厲王は昏迷し、暴虐なり、國人は亂を作し、厲王は彘に出奔す、是に於て、大臣は相謀り、以て政事を執行す、故に共和と稱す、十八年に靖侯卒す、子釐侯司徒立つ、釐侯の十四年に、周の宣王始めて立つ、十八年に釐侯卒し、子獻侯籍立つ、獻侯は十一年に卒す、子穆公費王立つ、

穆侯四年、取齊女姜氏爲夫人、七年、伐條、生太子仇、十年、伐千畝有功、生少子、名曰成師、晉人師服曰、異哉君之命子也、太子曰仇、仇者讎也、少子曰成師、成師大號、成之者也、名自命也、物自定也、今適庶名反逆、此後晉其能毋亂乎、

【講義】　穆侯の四年に、齊の女姜氏を娶り、夫人とす、七年に、條を伐ち、太子仇を生む、十年に、千畝を伐ち、功有り、末子を生む、之を成師と命名す、晉の大夫師服曰く、異なるかな、君の子に命名するや、太子を仇と曰ふ、仇とは讎なり、末子を成師と曰ふ、成師とは大名なり、業を成すものなり、名は自から命じ、物は自から定る、今や嫡子と庶子とは、其の名相反す、此の後に至り、晉は其れ亂無きを得んや、

【字解】　條、晉の地なり、今の山西解州安邑縣なり、千畝、晉州岳陽縣の北に在り、適、嫡なり、

二十七年、穆侯卒、弟殤叔自立、

因請擇日立叔虞、

【講義】既にして、武王崩じ、成王立つ、唐亂る、周公は唐を誅滅す、成王は叔虞と戲れ、桐の葉を削り、珪の形と爲し、之を叔虞に與へて曰く、此を以て汝を封ぜんと、史佚は因て吉日を擇び、叔虞を立つる式を擧げんと請ふ、

【字解】珪、圭璋なり、儀式の時に用ふる玉なり、若、汝なり、叔虞を指す、

成王曰、吾與之戲耳、史佚曰、天子無戲言、言則史書之、禮成之、樂歌之、於是遂封叔虞於唐、唐在河汾之東、方百里、故曰唐叔虞、姓姬氏、字子于、唐叔子燮、是爲晉侯、

【講義】成王曰く、吾は叔虞と戲れたるのみ、史佚曰く、天子は戲言無し、一言すれば、史官は之を書し、禮を以て其の事を擧行し、樂を以て之を歌ふと、遂に叔虞を唐に封ず、唐は河水汾水の東に在り、地方百里なり、故に唐叔虞と曰ふ、姓は姬氏なり、字は子于なり、唐叔虞の子を燮と曰ふ、是を晉侯とす、

【字解】唐、夏の故墟なり、今の山西太原府晉陽なり、唐は晉水の北に在るを以て、遂に晉と稱す、

晉侯子寧族、是爲武侯、武侯之子服人、是爲成侯、成侯子福、是爲厲侯、厲侯子宜臼、是爲靖侯、靖侯已來、年紀可推、自唐叔至靖侯、五世、無其年數、

【講義】晉侯燮の子寧族を、武侯と曰ふ、武侯の子服人を、成侯と曰ふ、成侯の子福を、厲侯と曰ふ、厲侯の子宜臼を、靖侯と曰ふ、靖侯より以後は、年紀を推して知るを得べし、唐叔より靖侯に至るまで、五代なり、其の各君の年數を知る無し、

靖侯十七年、周厲王迷惑暴虐、

【講義】太史公曰く、孔子稱す、微子は朝を去り、箕子は官を棄て奴と爲り、比干は君を諫めて死す、殷に三仁有りと、然れども、春秋の文には、宋の亂を譏る、蓋し宋の宣公が、太子を廢し弟を立てゝより、其の國は安寧ならざるもの十世なり、宋の襄公の時に、仁義を修め行ひ、盟主たらんと欲す、其の大夫正考父は襄公の德行を美とし、契、湯、高宗に由りて、殷の隆興したる所以を追述し、商頌の詩を作れり、夫れ襄公は泓水の戰に敗れたるも、君子は之を稱揚すべしと爲すもの有り、是れ中國が禮義を缺きたるを傷みて、襄公を褒めたるなり、卽ち襄公の禮讓有るを多とするなり、

【字解】商頌、詩經に載す、多、多く取るべき所有りとの意なり、賞すべしといふが如し、褒、褒に同じ、

晉世家第九

唐叔虞者、周武王子、而成王弟、初武王與叔虞母會、時夢、天謂武王曰、余命女生子、名虞、余與之唐、及生子、文在其手、曰虞、故遂因命之曰虞、

【講義】晉の始祖なる唐叔虞は、周の武王の子にして、成王の弟なり、始め武王は叔虞の母と相會す、此の時に武王は夢中に感ずる所有り、天は武王に謂ひ曰く、余は汝に命じ、子を生ましむ、虞と名づけん、余は之に唐を與へんと、武王は此の夢の後に、子を得たり、其の子の掌中の筋は、虞の字を現ず、因て、其の子を虞と命名したり、

【字解】女、汝なり、武王を指す、余、天帝なり、文、字なり、唐、太原晉陽なり、

武王崩、成王立、唐有亂、周公誅滅唐、成王與叔虞戲、削桐葉爲珪、以與叔虞曰、以此封若、史佚

以韋囊縣而射之、命曰射天、淫於酒婦人、群臣諫者輒射之、

【講義】宋君偃の十一年に、自立して王と爲り、東に於ては齊を敗り、五城を取り、南に於ては楚を敗り、地三百里を取り、西に於ては魏軍を敗る、乃ち齊魏と對して敵國と爲る、宋王偃は血を韋囊に盛り、之を懸けて射る、因て之を命じ、天を射ると曰ふ、淫樂して、酒と婦人とに惑溺す、群臣中の諫者有れば、之を射殺す、

【字解】輒、便ちなり、其の事の有る度にといふ意なり、

於是、諸侯皆曰、桀宋、宋其復爲紂所爲、不可不誅、告齊伐宋、王偃立四十七年、齊湣王與魏楚伐宋、殺王偃、遂滅宋、而三分其地、

【講義】是に於て、諸侯は皆之を稱して、桀宋と曰ふ、且つ曰く、宋は其れ更に桀紂の如き凶暴に及ばん、誅せざるべからずと、遂に齊に告げ宋を伐つ、王偃の四十七年に、齊の湣王は、魏楚と共に宋を伐ち、王偃を殺し、宋を滅して、其の地を三分す、

太史公曰、孔子稱、微子去之、箕子爲之奴、比干諫而死、殷有三仁焉、春秋譏宋之亂、自宣公廢太子而立弟、國以不寧者十世、襄公之時、修行仁義、欲爲盟主、其大夫正考父美之、故追道契湯高宗殷所以興、作商頌、襄公既敗於泓、而君子或以爲多、傷中國闕禮義、褒之也、宋襄之有禮讓也、

【字解】熒惑、妖星なり、待民、民に頼るなり、民の力を待つなり、

六十四年、景公卒、宋公子特、攻殺太子而自立、是爲昭公、昭公者、元公之曹庶孫也、

【講義】景公の六十四年に、景公卒す、宋の公子特は、太子を攻殺して自立す、是を昭公と爲す、昭公は元公の曾孫にして、庶腹の出なり、

昭公父公孫糾、糾父公子褍秦、褍秦卽元公少子也、景公殺昭公父糾、故昭公怨、殺太子而自立、

【講義】蓋し昭公の父は公孫糾なり、糾の父は公子褍秦なり、褍秦は元公の末子なり、景公は昭公の父なる糾を殺せり、故に昭公は之を怨み、太子を殺して自立したり、

昭公四十七年卒、子悼公購由立、悼公八年卒、子休公田立、休公田二十三年卒、子辟公辟兵立、辟公三年卒、子剔成立、剔成四十一年、剔成弟偃、攻襲剔成、剔成敗奔齊、偃自立爲宋君、

【講義】昭公の四十七年に、昭公卒す、子悼公購由立つ、悼公は八年に卒す、子休公田立つ、休公田は二十三年に卒す、子辟公辟兵立つ、辟公は三年に卒す、子剔成立つ、剔成の四十一年に、剔成の弟偃は、剔成を攻め襲ふ、剔成は敗れて齊に奔る、偃は自立し宋君と爲る、

君偃十一年、自立爲王、東敗齊、取五城、南敗楚、取地三百里、西敗魏軍、乃與齊魏爲敵國、盛血

二十五年、孔子過宋、宋司馬桓魋惡之、欲殺孔子、孔子微服去、三十年、曹倍宋、又倍晉、宋伐曹、晉不救、遂滅曹、有之、三十六年、齊田常弑簡公、三十七年、楚惠王滅陳、

【講義】景公の二十五年に、孔子は宋を通過す、宋の司馬桓魋は、孔子を殺さんと欲す、孔子は微賤者の服裝にて逃れ去る、三十年に、曹は宋に背き、更に晉に背く、宋は曹を伐つ、晉は曹を救はず、宋は遂に曹を滅し、之を領有す、三十六年に、齊の田常は簡公を弑す、三十七年に、楚の惠王は陳を滅す、

熒惑守心、心宋之分野也、景公憂之、司星子韋曰、可移於相、景公曰、相吾之股肱、曰可移於民、景公曰、君者待民、曰可移於歲、景公曰、歲饑民困、吾誰爲君、子韋曰、天高聽卑、君有君人之言三、熒惑宜有動、於是候之、果徙三度、

【講義】此の年に、妖星は天の二十八宿の中なる心星の座に當る、心星の座は天上に於て、宋國の地位に當る、分野なり、故に、景公は之を憂ふ、司星子韋曰く、此の星より生ずる禍を宰相に移すべし、景公曰く、宰相は吾股肱なり、子韋曰く、然らば禍を民に移すべし、景公曰く、君は民に賴る、子韋曰く、歲に移すべし、景公曰く、歲饑うれば民困む、吾は誰が爲めに君たらん、子韋曰く、天は高きも其の聞く所は卑きよりす、君は人に君たる言三有り、天必らず君の爲めに禍を除くべし、妖星は必らず動きて、其の座を改むべしと、是に於て、天文を候ふ、果して妖星の移動し、三度の差を生ずるを見たり、

平公三年、楚共王拔宋之彭城、以封宋左師魚石、四年、諸侯共誅魚石、而歸彭城於宋、三十五年、楚公子圍弒其君自立、爲靈王、四十四年、平公卒、子元公佐立、

【講義】　平公の三年に、楚の共王は宋の彭城を拔き、之を宋の左師魚石に與ふ、四年に、諸侯は共に魚石を誅し、彭城を宋に返還す、三十五年に、楚の公子圍は其の君を弑し、自立す、是を靈王とす、四十四年に、平公卒し、子元公佐立つ、

元公三年、楚公子棄疾弒靈王、自立、爲平王、八年宋火、十年、元公毋信、詐殺諸公子、大夫華向氏作亂、楚平王太子建來犇、見諸華氏相攻亂、建去如鄭、

【講義】　元公の三年に、楚の公子棄疾は、靈王を弑して自立し、平王と爲る、八年に宋の都は火事の害に遭ふ、十年元公は信無く、私多し、諸公子を欺き殺す、大夫華氏向氏は、元公に背きて亂を作す、楚の平王の太子建は、楚より逃れて宋に來る、然れども、諸華氏の相攻め戰ひて國亂るゝを見る、建は去りて鄭に入る、

十五年、元公爲魯昭公避季氏居外、爲之求入魯、行道卒、子景公頭曼立、景公十六年、魯陽虎來犇、已復去、

【講義】　元公の十五年に、元公は魯の昭公が季氏の亂を避け、國外に居るを觀て、昭公を魯に入らしめんと圖り、途中にて卒す、子景公頭曼立つ、景公の十六年に、魯の陽虎は魯を逃れて、宋に入る、既にして復去る、

【字解】　行道、途中なり、犇、奔るなり、

告莊王、王問、城中何如、曰、析骨而炊、易子而食、莊王曰、誠哉言、我軍亦有三日糧、以信故、遂罷兵去、二十二年、文公卒、子共公瑕立、始厚葬、君子譏華元不臣矣、

【講義】華元乃ち夜に乘じ、私に楚の將軍子反に面會す、子反は莊王に告ぐ、莊王は城中の狀態何如なるかを問ふ、子反曰く、華元の言に依れば、宋の城中は、今や人の骨を析き破りて、食物を烹る、其の食物には、人每に他人の子を易へ取りて、之を殺し用ふと、莊王曰く、誠なるかな言や、我軍も亦今や僅に數日の糧有るのみと、莊王は華元の信を告げたるに由り、宋を釋し、兵を罷め去る、二十二年文公卒し、子共公瑕立つ、始めて先君を厚葬す、君子は華元が先禮に背きて、君を驕奢に導くを刺り、其の不臣なるを譏る、

【字解】此の一節は、左傳の宣公十五年及び成公二年を參看すべし、

共公元年、華元善楚將子重、又善晉將欒書、兩盟晉楚、十三年、共公卒、華元爲右師、魚石爲左師、司馬唐山攻殺太子肥、欲殺華元、華元犇晉、魚石止之、至河乃還、誅唐山、乃立共公少子成、是爲平公、

【講義】共公の元年に、宋は晉に盟ひ、其の同時に楚に盟ふ、是れ華元が楚の將軍子重に親交有り、晉の將軍欒書にも亦親交有るに由るなり、十三年に、共公卒す、華元は右師たり、魚石は左師たり、未だ新君を立てず、司馬唐山は太子肥を攻め殺し、華元を殺さんと欲す、華元は晉に奔らんとす、魚石は之を止む、華元乃ち河に至りて還り、遂に唐山を誅し、共公の末子成を立つ、是を平公と爲す、

ち退軍し去る、二年に、昭公の子は文公の同母弟なる須に因り、武公繆公戴公莊公桓公の諸侯を合して、亂を作す、文公は盡く之を誅殺し、武公繆公の族を放逐したり、

四年春、鄭命楚伐宋、宋使華元將、鄭敗宋、囚華元、華元之將戰、殺羊以食士、其御羊羹不及、故怨、馳入鄭軍、故宋師敗、得囚華元、宋以兵車百乘文馬四百疋贖華元、未盡入、華元亡歸宋、

【講義】文公の四年春に、鄭は楚の命を奉じて宋を伐つ、宋は華元をして將たらしむ、鄭は宋を敗り、華元を囚へたり、華元の戰はんとせしときに、先づ羊を殺して士を饗せり、然るに、其の御者には羊の羹を與へず、故に御者は怨みて、華元の車を馳せ、鄭軍に入り、遂に宋の敗軍を致し、鄭は華元を囚ふるを得たり、宋は鄭に向ひ、兵車百乘と、文馬四百匹とを以て、華元を贖ひ還さんと請ひ、其の賠償の未だ納め畢らざるに、華元は逃げて宋に歸りたり、

【字解】鄭命楚、鄭は楚の命を奉じたるなり、楚命鄭の意義と見るべし、羊羹、羊を烹たる料理物なり、文馬、奇麗なる毛色の上等の馬なり、

十四年、楚莊王圍鄭、鄭伯降楚、楚復釋之、十六年、楚使過宋、宋有前仇、執楚使、九月、楚莊王圍宋、十七年、楚以圍宋、五月不解、宋城中急、無食、

【講義】文公の十四年に、楚の莊王は鄭を圍む、鄭伯は楚に降る、楚は之を釋す、十六年に、楚の公使は宋を通過す、宋は前年の仇怨有り、楚の公使を捕ふ、其の年の九月に、楚の莊王は宋を圍む、十七年に、楚兵の圍は五月を經るも解けず、宋の城中は危急にして、食物無し、

華元乃夜私見楚將子反、子反

公、

【講義】成公の弟禦は、太子及び大司馬公孫固を殺し、自立して宋君と爲る、宋人は共に謀りて新君なる禦を殺し、成公の末子杵臼を立つ、是を昭公とす、

昭公四年、宋敗長翟緣斯於長丘、七年、楚莊王卽位、九年、昭公無道、國人不附、昭公弟鮑革賢而下士、先襄公夫人欲通於公子鮑、不可、乃助之施於國、因大夫華元爲右師、昭公出獵、夫人王姬使衞伯攻殺昭公杵臼、弟鮑革立、是爲文公、

【講義】昭公の四年に、宋は長狄緣斯を長丘に敗る、七年に、楚の莊王卽位す、九年に、昭公は無道なり、國人は歸服せず、昭公の弟鮑革は、賢明にして士を愛す、先君襄公の夫人なる王姬は、公子鮑革に私通せんと欲するも、意を達する能はず、乃ち鮑革を助けて、恩惠を國人に施與す、遂に大夫華元に因り、鮑革を薦めて右師とす、既にして、昭公は出で遊獵す、襄公の夫人王姬は、衞伯をして昭公杵臼を攻め殺さしむ、弟鮑革立つ、是を文公と爲す、

【字解】長翟、長狄なり、夷種の身體巨大なる人なり、長丘、宋の地名なり、今の河南衞輝府封丘の南に在り、王姬、襄公の夫人は周の襄王の姊なり、下士、士を愛して之に禮するなり、

文公元年、晉率諸侯伐宋、責以弒君、聞文公定立、乃去、二年、昭公子因文公母弟須、與武繆戴莊桓之族爲亂、文公盡誅之、出武繆之族、

【講義】文公の元年に、晉は諸侯を率ゐて宋を伐ち、其の君を弒殺せしを責む、文公の定り立つを聞き、乃

は禮無し、其れ無事に歿するを得ざらんか、成王は禮を修めて、禮の辨別を失ふに畢る、亦以て其の霸業を遂ぐるに足らざるを知るなりと、

【字解】 享、饗禮なり、沒、歿なり、有、又なり、亦の字と見るべし、

是年、晉公子重耳過宋、襄公以傷於楚、欲得晉援、厚禮重耳、以馬二十乘、十四年夏、襄公病傷於泓、而竟卒、子成公王臣立、成公元年、晉文公卽位、

【講義】 是の年に、晉の公子重耳は宋を通過す、襄公は楚と戰ひ負傷したるを以て、晉の援助を得んと欲し、厚く重耳を禮待す、之に馬二十乘を贈る、十四年の夏に、襄公は泓の戰の負傷を病みて、竟に卒す、子成公王臣立つ、成公の元年に、晉の文公重耳は卽位す、

三年、倍楚盟、親晉、以有德於文公也、四年、楚成王伐宋、宋告急於晉、五年、晉文公救宋、楚兵去、九年、晉文公卒、十一年、楚太子商臣弑其父成王代立、十六年、秦穆公卒、十七年、成公卒、

【講義】 成公の三年に、宋は楚の盟に背き晉に親む、是れ曩に晉の文公を禮待したるを以てなり、四年に、楚の成王は宋を伐つ、宋は危急を晉に告ぐ、五年に、晉の文公は宋を救ひ、楚兵退去す、九年に晉の文公卒す、十一年に楚の太子商臣は、其の父なる成王を弑して代り立つ、十六年に秦の穆公卒す、十七年に成公卒す、

【字解】 倍、背なり、德、恩惠なり、

成公弟禦、殺太子及大司馬公孫固、而自立爲君、宋人共殺君禦、而立成公少子杵臼、是爲昭

又曰、可撃、公曰、待其已陳、陳成、宋人撃之、宋師大敗、

【講義】其の年の秋に、楚は宋を伐ち、以て鄭を救ふ、襄公は戰はんと欲す、公子目夷諫めて曰く、戰は不可なり、天は殷を棄つること久し、我宋は殷の後なり、戰ひて利有らずと、然れども、襄公は其の年の冬十一月を以て、楚の成王と泓水の上に戰ふ、此の戰に於て、楚軍は未だ濟らず、目夷曰く、彼は多し我少し、敵の濟らざるに先だちて之を撃たんと、襄公は聽かず、既にして、楚軍は濟り畢る、然れども未だ陣せず、目夷曰く、撃つべしと、襄公曰く、敵の陣し畢るを待たんと、楚陣は既に成る、宋人は之を撃つ、宋軍大敗す、

【字解】弃、棄なり、商、殷國なり、

襄公傷股、國人皆怨公、公曰、君子不困人於阨、不鼓不成列、子魚曰、兵以勝爲功、何常言與、必如公言、卽奴事之耳、又何戰爲、

【講義】此の大敗に於て、襄公は股に負傷し、宋人は皆公を怨む、襄公曰く、君子は人を窮厄の際に困しめず、敵の陣列を成さざるに鼓打たずと、目夷曰く、兵は勝を以て功と爲す、何ぞ常則を言はん、必らず公の言ふ所の如くせば、敵の奴と爲りて、之に事へんのみ、何ぞ戰を用ふるを爲さんと、

【字解】阨、厄なり、困厄なり、常言、平常の法則を說くなり、軍法には、列を成して陣し、陣を成して鼓し、鼓を打ちて戰ふ、是れ常言なり、

楚成王已救鄭、鄭享之、去而取鄭二姬以歸、叔瞻曰、成王無禮、其不沒乎、爲禮卒於無別、有以知其不遂霸也、

【講義】斯くして、楚の成王は鄭を救ひ得たり、鄭伯は之を饗し、成王を禮待す、成王は去るに臨みて、鄭の大夫の兩女を取り、楚に歸る、鄭の叔瞻曰く、成王

如し、雨と共に降る、六羽の鷁鳥は進む能はず、退き飛びて、宋の都を通過す、是れ風の勁急なるに由るなり、禍の前兆とす、八年に、齊の桓公卒す、宋は齊に代りて、盟會を爲さんと欲す、十二年の春に、襄公は宋の鹿上に於て、諸侯の盟會を爲し、之に會同せんことを楚に求む、楚人承諾す、宋の公子目夷は襄公を諫めて曰く、小國にして盟主たるを爭はんとするは、禍なりと、襄公は之を聽かず、

【字解】 霣星、隕星なり、落ち下る星なり、石の落ち下るをいふ、六鶂、六鷁なり、六隻の鷁鳥なり、六は陰數の大を稱す、鷁は風を凌ぐ勁鳥なり、退蜚、退飛なり、勁羽にして、猶進む能はず、風の急なるに苦むなり、

秋、諸侯會宋公、盟于盂、目夷曰、禍其在此乎、君欲已甚、何以堪之、於是、楚執宋襄公、以伐宋、冬、會于亳、以釋宋公、子魚曰、禍猶未也、十三年夏、宋伐鄭、子魚曰、禍在此矣、

【講義】 其の年の秋に、諸侯は宋の盂に於て襄公に會盟す、目夷曰く、禍は其れ此に在らんか、我君の慾望は既に甚し、諸侯は何を以て之に堪へんやと、楚は遂に宋の襄公を執へ、以て宋を伐つ其の年の冬に、楚は宋の亳に會して、襄公を釋す、目夷曰く、禍は猶未だ至らずと、十三年の夏に、宋は鄭を伐つ、目夷曰く、禍は此に在り、

【字解】 欲、慾望なり、子魚、目夷の字なり、釋、放免なり、

秋、楚伐宋以救鄭、襄公將戰、子魚諫曰、天之弃商久矣、不可、冬十一月、襄公與楚成王戰于泓、楚人未濟、目夷曰、彼衆我寡、及其未濟擊之、公不聽、已濟、未陳、

三年、齊桓公始霸、二十三年、迎衛公子燬於齊、立之、是爲衛文公、文公女弟爲桓公夫人、秦穆公卽位、三十年、桓公病、太子茲甫、讓其庶兄目夷爲嗣、桓公義太子意、竟不聽、

【講義】桓公の二年に、諸侯は宋を伐ち郊に至りて去る、三年に齊の桓公は、始めて霸たり、二十三年に、衛の公子燬を齊より迎へて、衛に入らしめ、之を立つ、衛の文公は是なり、文公の妹は、宋の桓公の夫人たり、此の年に、秦の穆公は卽位す、三十年に桓公は病む、太子茲甫は其の庶兄なる目夷に讓り、之を嗣君に立てんとす、桓公は太子の意を義として、竟に之を聽かず、

三十一年春、桓公卒、太子茲甫立、是爲襄公、以其庶兄目夷爲相、未葬、而齊桓公會諸侯于葵丘、襄公往會、

【講義】桓公の三十一年春に、桓公卒す、太子茲甫立つ、是を襄公と爲す、襄公は其の庶兄目夷を以て宰相とす、未だ桓公を葬らず、齊の桓公は諸侯を葵丘に會す、襄公は往きて之に會す、

【字解】葵丘、兩地有り、一は齊に在り、一は晉に在り、此の會盟の地は、晉の葵丘なり、今の河南歸德府に屬す、

襄公七年、宋地霣星如雨、與雨偕下、六鷁退蜚、風疾也、八年、齊桓公卒、宋欲爲盟會、十二年春、宋襄公爲鹿上之盟、以求諸侯於楚、楚人許之、公子目夷諫曰、小國爭盟、禍也、不聽、

【講義】襄公の七年に、宋の地は天より石落つ、雨の

博奕の局を以て湣公を打ち殺せり、其の弑逆の地は、蒙澤なり、

【字解】乘丘、今の兗州瑕丘縣の西北に在り、行、博奕の道に於ける手筋なり、若、汝なり、蒙澤、宋の地なり、今の河南歸德府商丘縣の北に在り、

大夫仇牧聞之、以兵造公門、萬搏牧、牧齒著門闔死、因殺太宰華督、乃更立公子游爲君、諸公子犇蕭、公子禦說犇亳、萬弟南宮牛、將兵圍亳、

【講義】宋の大夫仇牧は之を聞き、兵を率ゐて公門に至る、萬は牧を搏つ、牧は僵れて、其の齒は門の扉に著き、卽死す、萬は遂に太宰華督を殺して、公子游を立て、宋君と爲す、是に於て、諸公子は蕭に奔る、公子禦說は亳に奔る、萬の弟なる南宮牛は、兵に將として亳を圍む、

【字解】造、至るなり、闔、カフと讀む、扉なり、蕭、宋の邑なり、今の江蘇徐州府蕭縣なり、亳、ハクと讀む、宋の邑なり、今の河南歸德府商丘縣なり、犇、奔るなり、

冬、蕭及宋之諸公子、共擊殺南宮牛、弑宋新君游、而立湣公弟禦說、是爲桓公、宋萬犇陳、宋人請以賂陳、陳人使婦人飮之醇酒、以革裹之歸宋、宋人醢萬也、

【講義】其の年の冬に、蕭人及び宋の諸公子は、共に擊ちて南宮牛を殺し、宋の新宮游を弑して、湣公の弟なる禦說を立つ、是を桓公と爲す、南宮萬は陳に奔る、宋人は萬を請ひて陳に賂ふ、陳人乃ち婦女をして、萬に飮ましむるに醇酒を以てせしめ、其の昏醉に乘じて、之を捕へ、革を以て之を裹み、宋に返送す、宋人は萬を獲て、之を醢にしたり、

【字解】裹、包むなり、醢、カイと讀む、肉醬なり、

桓公二年、諸侯伐宋、至郊而去、

は名なり、好、美貌なり、説、悦なり、

莊公元年、華督爲相、九年、執鄭之祭仲、要以立突爲鄭君、祭仲許、竟立突、十九年、莊公卒、子湣公捷立、

【講義】莊公の元年に、華督は首相たり、九年に、鄭の祭仲を執へ、之に要求して、鄭の公子突を鄭君と爲さんとす、祭仲は之を許し、竟に突を立つ、十九年に、莊公卒し、子湣公捷立つ、

湣公七年、齊桓公卽位、九年、宋水、魯使臧文仲往弔水、湣公自罪曰、寡人以不能事鬼神、政不修、故水、臧文仲善此言、此言乃公子子魚敎湣公也、

【講義】湣公の七年に、齊の桓公は卽位す、九年に、宋は水害に遭ふ、魯は臧文仲をして宋に往き、水を弔はしむ、湣公自から罪して曰く、余は鬼神に事ふる能はず、政事を修むる能はず、以て此の水害を來せりと、臧文仲は此の言を善しとせり、蓋し此の言は、宋の公子なる子魚が、湣公に敎へたるなり、

十年夏、宋伐魯、戰於乘丘、魯生虜宋南宮萬、宋人請萬、萬歸宋、十一年秋、湣公與南宮萬獵、因博爭行、湣公怒、辱之曰、始吾敬若、今若魯虜也、萬有力、病此言、遂以局殺湣公于蒙澤、

【講義】湣公の十年夏に、宋は魯を伐ち、魯の乘丘に戰ふ、魯は宋の南宮萬を虜にす、宋人は萬を請ひ、萬は宋に歸る、十一年の秋に、湣公は南宮萬と共に遊獵す、因て博奕し、其の勝を爭ふ、湣公は怒り、萬を辱めて曰く、始に於て我は汝を敬せり、今や汝は魯の虜なりと、萬は力強し、此の湣公が侮辱の言を怨み、遂に

馮在鄭、必爲亂、可與我伐之、宋許之、與伐鄭、至東門而還、二年、鄭伐宋、以報東門之役、其後、諸侯數來侵伐、

【講義】 殤公の元年に、衞の公子州吁は、其の君なる完を弑して自立し、諸侯の親交を得んと欲し、人をして宋に告げしめ曰く、公子馮は鄭に在り、必らず亂を作さん、宋は其れ衞と共に鄭を伐つべしと、宋は之を許し、衞と共に鄭を伐ち、鄭の東門に至りて退軍す、二年に、鄭は宋を伐ち、以て東門の役に報ゆ、其の後諸侯は屢來りて、宋を侵し伐ちたり、

九年、大司馬孔父嘉妻好、出道遇太宰華督、督說目而觀之、督利孔父妻、乃使人宣言國中曰、殤公卽位十年耳、而十一戰、民苦不堪、皆孔父爲之、我且殺孔父、以寧民、是歲魯弑其君隱公、十年、華督攻殺孔父、取其妻、殤公怒、遂弑殤公、而迎穆公子馮於鄭而立之、是爲莊公、

【講義】 殤公の九年に、大司馬孔父嘉の妻は途中に於て、大宰華督に遇ふ、孔父の妻は容顏美麗なり、華督は之を悅び、眸を凝して諦視し、遂に其の妻を利取せんとす、乃ち人をして國中に宣言せしめ曰く、殤公は卽位して以來、十年のみ、然るに既に十一度の戰を爲せり、民は苦痛に堪へず、是れ皆孔父の爲す所なり、故に、我は孔父を殺さんと欲す、以て民を安んぜんと欲すと、是の年に、魯は其の君なる隱公を弑す、十年に、華督は孔父を攻め殺し、其の妻を取る、殤公怒る、華督は遂に殤公を弑して、穆公の子馮を鄭より迎へ、之を立つ、莊公は是なり、

【字解】 大司馬、將軍なり、孔父嘉、孔父は字なり、嘉

亦三讓而受之、宣公卒、弟和立、是爲穆公、

【講義】宣公は太子與夷有り、十九年宣公病み、其の弟和に讓りて曰く、父死して子繼ぎ、兄死して弟及ぶ、天下の通義なり、我は其れ和を立てんと、和は三たび辭退して、後に之を受けたり、宣公卒し弟和立つ、是を穆公とす、

穆公九年病、召大司馬孔父、謂曰、先君宣公、舍太子與夷而立我、我不敢忘、我死必立與夷也、孔父曰、群臣皆願立公子馮、穆公曰、毋立馮、吾不可以負宣公、於是、穆公使馮出居于鄭、

【講義】穆公の九年に、穆公病み、大司馬孔父を召して謂ひ曰く、先君宣公は太子與夷を舍てゝ、我を立てたり、我は之を忘れず、我死せば必らず與夷を立てよ、孔父曰く、群臣は皆公子馮を立つるを願ふ、穆公曰く、馮を立つる勿れ、吾は宣公に背く能はずと、是に於て、穆公は馮をして出で鄭に居らしむ、

【字解】負、背くなり、鄭、鄭の世家に詳なり、大司馬、將軍なり、

八月、庚辰、穆公卒、兄宣公子與夷立、是爲殤公、君子聞之曰、宋宣公可謂知人矣、立其弟以成義、然卒其子復享之、

【講義】其の年の八月庚辰の日に、穆公卒し、其の兄宣公の子なる與夷は卽位す、是を殤公とす、君子は之を聞きて曰く、宋の宣公は人を知るものと謂ふべし、其の弟を立て、以て義を成せりと、然れども其の子馮は、終に其の國を享くるに至れり、

殤公元年、衛公子州吁、弑其君完自立、欲得諸侯、使告於宋曰、

公卽位、湣公子鮒祀、弑煬公而自立、曰、我當立、是爲厲公、

【講義】微子開卒し、宋人は殷禮を以て、微子の弟なる衍を立つ、是を微仲と曰ふ、微仲卒し、子宋公稽立つ、宋公稽卒し、子丁公申立つ、丁公申卒し、子湣公共立つ、湣公共卒し、弟煬公熙立つ、煬公の卽位に當り、湣公の子なる鮒祀は、煬公を弑して自立す、曰く我は立つを相當とすと、是を厲公といふ、

厲公卒、子釐公擧立、釐公十七年、周厲王出奔彘、二十八年釐公卒、子惠公覵立、惠公四年、周宣王卽位、三十年、惠公卒、子哀公立、哀公元年卒、子戴公立、

【講義】厲公卒し、子釐公擧立つ、釐公の十七年に、周の厲王は彘に出奔す、二十八年に、釐公卒し、子惠公覵立つ、惠公の四年に、周の宣王は卽位す、三十年に惠公卒し、子哀公立つ、哀公は元年に卒し、子戴公立つ、

戴公二十九年、周幽王爲犬戎所殺、秦始列爲諸侯、三十四年、戴公卒、子武公司空立、武公生女、爲魯惠公夫人、生魯桓公、十八年武公卒、子宣公力立、

【講義】戴公の二十九年に、周の幽王は犬戎に殺され、秦は始めて列して諸侯と爲る、三十四年に、戴公卒し、子武公司空立つ、武公は女を生み、魯の惠公の夫人と爲り、魯の桓公を生む、十八年に武公卒し、子宣公力立つ、

宣公有太子與夷、十九年、宣公病、讓其弟和、曰、父死子繼、兄死弟及、天下通義也、我其立和、和

に由りて然るか、彼の狡猾なる小奴が、我と親睦せず、我の言を用ひずして此に至れりと、其の謂はゆる狡猾なる小奴とは、周に對して謙遜したる語なり、實は紂王を指す、殷の餘民は之を聞きて、箕子の衷情を察し、皆爲めに感傷して、流涕したり、

【字解】漸漸、秀で長じたる貌なり、油油、葉の光澤有る貌なり、狡僮、狡童に同じ、僮と童とは字義異なれども、大意相通ず、其の人を卑みて稱したるなり、好、相親むなり、

武王崩、成王少、周公旦代行政當國、管蔡疑之、乃與武庚作亂、欲襲成王周公、周公既承成王命、誅武庚、殺管叔、放蔡叔、

【講義】既にして、周の武王崩じ、成王年少なり、周公旦は、成王に代り政事を行ひ、國權を執る、管叔蔡叔は之を疑ひ、殷紂の後嗣なる武庚と共に亂を作し、成王と周公を襲はんと欲す、周公は成王の命を承け、武庚を誅し、管叔を殺し、蔡叔を追放したり、

乃命微子開、代殷後、奉其先祀、作微子之命、以申之、國于宋、微子故能仁賢、乃代武庚、故殷之餘民、甚戴愛之、

【講義】是に於て、周は微子開に命じ殷の後嗣なる武庚に代り立ち、其の父祖の祭祀を奉ぜしむ、乃ち微子之命といふ文を作り、以て其意を陳べ、其の國を宋に定めしむ、微子開は故より能く仁賢なり、乃ち武庚に代る、故に殷の餘民は、甚だ之を戴き愛したり、

【字解】微子之命、其の文は尚書に載す、周の成王より微子に命じ、其の德政を勸むる文なり、宋、此の篇の首に解す、

微子開卒、立其弟衍、是爲微仲、微仲卒、子宋公稽立、宋公稽卒、子丁公申立、丁公申卒、子湣公共立、湣公共卒、弟煬公熙立、煬

四曰攸好德、五曰考終命、

【講義】五福は、一に壽と曰ひ、二に富と曰ひ、三に康寧と曰ひ、四に好む所は德と曰ひ、五に命を終ることを考ふと曰ふ、

【字解】攸好德、其の人の心に德を好みて邪念無きをいふ、考終命、天命を完くして、無事に死するは至福なり、故に之を考思して善に順ふといふ、

六極、一曰凶短折、二曰疾、三曰憂、四曰貧、五曰惡、六曰弱、

【講義】六極は六禍なり、一に曰く、凶害に遭ひて短折早死す、二に曰く、疾病有り、三に曰く、憂愁有り、四に曰く、貧窮なり、五に曰く、剛に過ぎて惡なり、六に曰く、柔に過ぎて弱なり、

【字解】極、禍なり、短折、早死なり、惡、疎野なり、剛强に過ぎて、粗暴となりたるものをいふ、

於是、武王乃封箕子於朝鮮、而不臣也、其後箕子朝周、過故殷虛、感宮室毀壞生禾黍、箕子傷之、欲哭則不可、欲泣爲其近婦人、乃作麥秀之詩、以歌詠之、

【講義】周の武王は、此の鴻範九等の訓を得て、箕子の德を嘉し、乃ち之を朝鮮に封じ、之を周の臣とせず、其の後、箕子は周に入朝し、故の殷の城墟を通過して、其の宮室の毀壞したるを傷み、其の地に禾黍を生じたるを慨き、之に號哭せんと欲すれば、周に對して不可なり、之に涕泣せんと欲すれば、其の婦人に似たるを嫌ふ、因て麥秀の詩を作りて、之を歌詠し、其の衷情を陳ぶ、

【字解】虛、墟なり、城趾なり、近、似たるなり、

其詩曰、麥秀漸漸兮、禾黍油油、彼狡僮兮、不與我好兮、所謂狡童者紂也、殷民聞之、皆爲流涕、

【講義】箕子の詩に曰く、麥は秀でて漸漸たり、禾黍は油油たり、前日の宮殿は化して草穀と爲る、是れ何

貌なり、

王眚維歲、卿士維月、師尹維日、歲月日時毋易、百穀用成、治用明、畯民用章、家用平康、

【講義】斯の如く人事の善惡は、陰陽の變を生ず、王の善惡は歲に現れ、卿士の良否は月に現れ、吏僚の正邪は日に現る、故に歲月日の三者が、其の時序に應じて易ること無ければ、衆穀は成熟し、政治は明に通じ、俊良の士は顯位に登用せられ、國家は平安と爲る、

【字解】眚、セイと讀む、災害なり、禍福の由る所といふ意なり、尙書の洪範には、省の字を用ふ、大意は相通ず、師尹、卿士の次なり、百僚群吏なり、畯、俊なり、賢才なり、章、地位の顯著なるをいふ、家、國家なり、國といふが如し、用、以てなり、

日月歲、時既易、百穀用不成、治用昬不明、畯民用微、家用不寧、

【講義】之に反して、日月歲の三者が、其の時序を失ひ、變易するは、王、卿士、師尹が公正ならざる應驗なり、此の場合には、衆穀は成熟せず、治道は暗く閉ぢ、賢良の士は賤しくして隱れ、國家は危くなる、

【字解】用、以てなり、畯、賢俊なり、微、登用せられざるなり、

庶民維星、星有好風、星有好雨、日月之行、有冬有夏、月之從星、則以風雨、

【講義】衆民は前の王卿士師尹と異り、自から禍福を生ずるに非ず、星の日月に從ふが如し、星の中には、箕星の如く、風を好むもの有り、畢星の如く、雨を好むもの有り、然れども、之を要するに、日月の經行する所に從ふ、日月は冬を生じ夏を生ず、星は之に順ふを常態とす、政事の善惡に由りて、衆民の安危を生ずる是なり、或は月が箕星に從ひ、畢星に從ふときは、風を生じ雨を生ず、是を變態とす、

五福、一曰壽、二曰富、三曰康寧、

は、靜に守れば吉なるも、事を興せば凶なり、

庶徵、曰雨、曰陽、曰奧、曰寒、曰風、曰時、五者來備、各以其序、庶草繁廡、一極備凶、一極亡凶、

【講義】庶徵は、雨と曰ひ、陽と曰ひ、奧と曰ひ、寒と曰ひ、風と曰ひ、時と曰ふ、此の雨、陽、奧、寒、風の五者は、其の來り備る、各其の適當なる時の序を以てすれば、衆草の徵物に至るまで、皆繁殖す、然れども、五者の中にて、其の一者が盛を極むれば、災害を生ず、其の一者が衰を極むれば、亦災害を生ず、

【字解】庶徵、衆多の徵候なり、陽、晴なり、奧、燠なり、煖きなり、廡、蕃るなり、生育の盛なるなり、

曰休徵、曰肅時雨若、曰治時暘若、曰知時奧若、曰謀時寒若、曰聖時風若、

【講義】人君の政を行ふ正しくして陰陽五者の適當なる時序に來るを、休徵と曰ふ、休徵とは善き兆候なり、曰く肅む時に雨は從ひ至る、曰く治まる時に晴は從ひ至る、曰く知る時に煖は從ひ至る、曰く謀る時に寒は從ひ至る、曰く聖なる時に風は從ひ至る、

【字解】休、善なり、福なり、暘、陽なり、晴なり、奧、燠なり、煖なり、若、順ふなり、從ひ至るなり、

曰咎徵、曰狂常雨若、曰僭常暘若、曰舒常奧若、曰急常寒若、曰霿常風若、

【講義】之に反し人君の政を行ふ正しからずして、陰陽五者の時序を失ひたるを、咎徵と曰ふ、咎徵は惡しき兆候なり、禍なり、曰く、狂する時に久雨は從ひ至る、曰く、僭ふ時に久旱は從ひ至る、曰く舒る時に久煖は從ひ至る、曰く急る時に久寒は從ひ至る、曰く霿き時に久風は從ひ至る、

【字解】常、永久なり、不斷なり、僭、事物の理に違ふなり、舒、緩怠なり、業を勉めざるなり、奧、煖なり、急、迫るなり、躁急なるをいふ、霿、暗きなり、疑惑の

時、此なり、

女則有大疑、謀及女心、謀及卿士、謀及庶人、謀及卜筮、女則從、龜從、筮從、卿士從、庶民從、是之謂大同、而身其康彊、而子孫其逢吉、

【講義】 卜筮の法は既に立つ、此の時に、人君は國家の大事に遭ひ、大疑を生じたりと假定せよ、其の謀る所は、人君の心に及び、卿士に及び、衆民に及び、卜筮に及ぶ、而して其の謀には人君は從ひ、龜は從ひ、筮は從ひ、卿士は從ひ、衆民は從ふ、是を大同と曰ふ、斯の如き場合には、身は其れ康安にして强健ならん、子孫は其れ吉に逢はん、

【字解】 女、汝なり、人君なり、

女則從、龜從、筮從、卿士逆、庶民逆、吉、卿士從、龜從、筮從、女則逆、庶民逆、吉、庶民從、龜從、筮從、女則逆、卿士逆、吉、女則從、龜從、筮逆、卿士逆、庶人逆、作內吉、作外凶、龜筮共違于人、用靜吉、用作凶、

【講義】 若しも其の謀に就きて、人君は從ひ、龜は從ひ、筮は從ふ、之に對し卿士は逆ひ、衆民は逆ふ、是の場合には吉なり、或は其謀に就きて、卿士は從ひ、龜は從ひ、筮は從ふ、之に對し人君は逆ひ、衆民は逆ふ、是の場合には吉なり、或は其の謀に就きて、衆民は從ひ、龜は從ひ、筮は從ふ、之に對し人君は逆ひ、卿士は逆ふ、是の場合には吉なり、或は其の謀に就きて、人君は從ひ、龜は從ふ、之に對して筮は逆ひ、卿士は逆ひ、衆民は逆ふ、是の場合には、之を境內の事を興すに用ふれば吉なるも、之を國外の事を興すに用ふれば凶なり、或は其の謀に就きて、人君卿士衆民の三者は從ふも、龜筮の兩者が人に違ひ逆ふ、是の場合に

家、凶于而國、人用側頗辟、民用僭忒、

【講義】人臣にして人君の如く、福を授け威を示し、美食するもの有らば、其れ國家に害有り、天下に凶なり、斯の如くなれば、官吏は反側の習と爲り、偏頗の風となり、僻陋の行と爲る、而して衆民は身分を越えて、邪惡を縦にせん、

【字解】而、汝なり人君なり、側、頗、辟、反側、偏頗、僻陋、なり、僭、身分を越ゆるなり、忒、トクと讀む、邪惡なり、人、士人なり、官吏なり、用、以てなり、

稽疑、擇建立卜筮人、乃命卜筮、曰雨、曰濟、曰涕、曰霧、曰克、曰貞、曰悔、凡七、卜五、占之庸二、衍貣、立時人、爲卜筮、三人占、則從二人之言、

【講義】稽疑は、擇びて卜筮の人を建つるに在り、人君は卜筮者に命じて、雨、濟、涕、霧、克、貞、悔の七法を立つ、此の中に於ける雨、濟、涕、霧、克の五は、卜に屬し、貞、悔の二は卜筮に屬す、此七法を以て、差違を推知す、三人占へば、二人の言ふ所を採用す、蓋し卜は龜を灼き、其の甲の裂けたる線に由り、之を判す、其の雨と稱するは、濕ひたるを認めて水の兆とするなり、其の濟と稱するは、霽に通じて解す、甲の線の明なるを認めて、火の兆と爲すなり、其の涕と稱するは、焦げたる線の連續したるを認めて、金の兆と爲すなり、其の霧と稱するは、火の迹の糢糊として分明ならざるを認めて、木の兆と爲すなり、其の克と稱するは、甲の焦點の相紛れ相勝る貌を認めて、土の兆とするなり、以上の五者は、龜卜の判斷に用ふ、其の貞と稱するは、正しき意なり、其の悔と稱するは、終る意なり、内卦を貞と曰ひ、外卦を悔と曰ふ、内卦とは、易の六爻中の下三爻なり、外卦とは、其の上三爻なり、以上の貞悔二者は、易筮の判斷に用ふ、

【字解】稽、疑、疑惑を考へて、之を裁決するなり、衍、貣、衍は推知なり、貣は差違なり、變化差違を推測して判斷することなり、庸、用なり、使用する道なり、

【講義】箕子は、上文の意義を贊して曰く、此の皇極の敷衍したる敎誨の言は、是れ天下の常理なり、上帝の大訓なり、上帝自身に於ても、此の至善の道に順ひ、此の訓を守る、

【字解】王極、皇極なり、至善の道なり、彝、常理なり、萬古不滅の理なり、

凡厥庶民、極之傳言、是順是行、以近天子之光、曰、天子作民父母、以爲天下王、

【講義】凡そ其の衆民は、此の皇極の敷衍したる訓誨に順ひて、之を行ひ、以て天子の至善なる道義の光輝に接近するを得るなり、故に曰く、天子は民の父母と爲り、以て天下の王と爲ると、

三德、一曰正直、二曰剛克、三曰柔克、平康正直、彊不友剛克、內友柔克、沈漸剛克、高明柔克、

【講義】三德は、一に正直と曰ひ、二に剛克と曰ひ、三に柔克と曰ふ、蓋し人君は世情の平康なるに當れば、正直を以て之を治む、其の强暴にして順はざるに當れば、剛を以て之を治む、其の和順なるに當れば、柔を以て之を治む、然れども、其の沈み潛みて進展せざるものを觀れば、剛を以て導き治む、其の高明顯著にして退守せざるものを觀れば、柔を以て鎭め治む、

【字解】克、治むるなり、友、順ふなり、內、和ぐなり、漸、漸次に潛み沈むなり、

維辟作福、維辟作威、維辟玉食、臣無有作福作威玉食、

【講義】維れ人君は、爵賞を以て、人に福を授け、刑罰を以て人に威を示す、而して萬方の珍味を享受す、人臣は之に反す、福を授けず、威を示さず、珍味を受けず、

【字解】辟、人君なり、玉、美なり、

臣有作福作威玉食、其害于而

毋好、女雖錫之福、其作女用咎、

【講義】凡そ其既に登用せられたる人は、之を富ますに俸祿を以てし、善行に進ましめよ、人君は是等の官吏をして、國家に功德有らしむる能はざれば、是れ其の官吏の罪過なり、其の功德無きものに就きて、人君は之に福祿を賜ふと雖も、衆民は之を觀て、人君が罪惡の人を用ふるものと認めん、

【字解】正人、官吏なり、人君が其の才德を認めて、官吏と爲したる人なり、穀、善き行爲なり、女、汝なり、人君なり、好、功德なり、而、汝なり、人君なり、時人、此の時の官吏なり、辜、罪過なり、其、官吏なり、錫、賜なり、咎、罪人なり、厥、其なり、

毋偏毋頗、遵王之義、毋有作好、遵王之道、毋有作惡、遵王之路、毋偏毋黨、王道蕩蕩、毋黨毋偏、王道平平、毋反毋側、王道正直、會其有極、歸其有極、

【講義】人君は、偏頗不平の事を爲す勿れ、王者至善の義に從ふべし、私意の好む所を爲す勿れ、王者至正の道に從ふべし、私の憎む所を縱にする勿れ、王者至公の路に從ふべし、人君は偏する無く、黨する無ければ、王道は蕩蕩として廣く行はる、人君は黨する無く偏する無ければ、王道は平平として坦に治る、人君は反側邪曲の事無ければ、王道は正しく立つ、故に、人君は至善の道を有する臣を會聚せよ、斯くすれば、天下は至善の道に歸依せん、

【字解】王之義、下句の道路兩字と意を同くす、此の三字は其の句の韵を押すに用ひたるのみ、帝王の行ふべき至善の道なり、遵、從ひ守るなり、偏、偏頗なり、黨、私黨なり、蕩、下句の平直兩字と大意相通ず、此の三字は、其の句の韵を押す爲めに用ふ、平平、ヘンペンと讀む、平に治る貌なり、反、側と相似たり、背反し傾側して、邪曲なる貌なり、惡、憎みなり、好むの反對なり、

曰、王極之傳言、是夷是訓、于帝其順、

り、比德、邪惡なり、阿比し雷同して、非行を敢てするなり、皇、人君なり、厥、其なり、

凡厥庶民、有猷有爲有守、女則念之、不協于極、不離于咎、皇則受之、而安而色、曰予所好德、女則錫之福、時人斯其維皇之極、

【講義】凡そ其の衆民の中に於て、或は謀猷を善くするもの、或は才力に秀でたるもの、或は節義を守るもの、是等のものを觀れば、人君は善く之を念ひ、其の登用を圖るべし、或は其の民の中に於て、未だ至善の道に協はざるも、罪過に罹らざるものを觀れば、人君は之を容受して、近く導き善に進ましむべし、人君は其の顏色を平和にして、民に接せよ、民の中に於て、余の好む所は德なりと曰ふもの有らば、人君は之を引きて、福を授け與ふべし、斯の如くして、民を導くに勉むるときは、其の時の衆庶相進みて、至善の道に至るべし、其れ維れ人君の至善なる德化なり、

【字解】猷、計謀なり、有爲、人才なり、女、汝なり、人君なり、極、至善の道なり、離、罹るなり、陷るなり、咎、罪過なり、而、汝なり、人君なり、予、民の自から稱するなり、錫、賜ふなり、授け與ふなり、

毋侮鰥寡而畏高明、人之有能有爲、使羞其行、而國其昌、

【講義】人君は妻無きものを侮る勿れ、夫無きものを輕んずる勿れ、貴顯高明のものを畏るゝ勿れ、善を勸め惡を罰するは、必らず公正なるを要す、人の才能に優れ、施爲に秀でたるものを觀れば、人君は之を用ひて、其の行を進むべし、斯くすれば、國は其れ隆昌に至らん、

【字解】鰥、クワンと讀む、妻無きものなり、寡、クワと讀む、夫無きものなり、高明、貴顯權勢の人なり、羞、進むなり、

凡厥正人、既富方穀、女不能使有好于而家、時人斯其辜、于其

充實ならしむるなり、之を要するに、食貨は產業に關し、祀は鬼神に關し、司空司徒司寇は內政に關し、賓は外交に關し、師は軍事に關す、八項以て國政を理す、

五紀、一曰歲、二曰月、三曰日、四曰星辰、五曰歷數、

【講義】五紀は、其の一を歲と曰ふ、是れ春夏秋冬を列して、寒暑の序を立てたるものなり、其の二を月と曰ふ、是れ三十日を合せ、晦朔弦望の變遷を見るものなり、其の三を日と曰ふ、是れ晝夜の錯行を示すなり、其の四を星辰と曰ふ、是れ星宿の運行に由り、日月の交會を知り、寒暑晴雨の來去始終を察するなり、其の五を曆數と曰ふ、是れ氣節の循環を詳にして、農產の時序を明にするなり、

【字解】辰、星宿なり、歷、曆なり、

皇極、皇建其有極、斂時五福、用傅錫其庶民、維時其庶民、于女極、錫女保極、

【講義】皇極は、人君が至極の正道を行ふなり、故に曰く、人君は其の至正至善の道を建て、壽と、富と、康寧と、德を好むと、天命を完くするとの五福を以て、衆民に布き賜ふ、維れ其の時の衆民は、人君の至善の道に於て、之を學び、其の至善の道を保有す、是れ人君が、此の福を衆民に授くればなり、

【字解】皇、人君なり、極、至善の道なり、建、行ふなり、斂、收めて有つなり、五福、壽、富、康寧、好德、終命なり、是は下文の第九等に詳なり、傅錫、敷き賜ふなり、女、汝なり、人君を指す、

凡厥庶民、毋有淫朋、人毋有比德、維皇作極、

【講義】凡そ其の衆民は、至善の道に從ひて惑はず、淫邪の朋黨を結ぶ無し、人士は私比の非行を敢てする無し、此の德化は、何に由りて生ずるか、曰く是れ人君が、至善の道を行ふを以てなり、

【字解】人、士人なり、上の句の庶民に對していふな

て、酸味を生じ、從革の金は、氣烈しくして、辛味を生じ、稼穡の土は、穀類の甘味を生ず、

五事、一曰貌、二曰言、三曰視、四曰聽、五曰思、貌曰恭、言曰從、視曰明、聽曰聰、思曰睿、恭作肅、從作治、明作智、聰作謀、睿作聖、

【講義】　五事は、一に貌と曰ひ、二に言と曰ひ、三に視と曰ひ、四に聽と曰ひ、五に思と曰ふ、其の貌は中正なるを要す、故に恭と曰ふ、其の言は理に從ひて、聽者の之に從ふを要す、故に從と曰ふ、其の視は見ざる所無きを要す、故に明と曰ふ、其の聽は聞かざる所無きを要す、故に聰と曰ふ、其の思は微妙の理に通ずるを要す、故に睿と曰ふ、蓋し其の恭は自然に威有り、故に嚴肅の貌と爲る、其の從は條理有りて、繁と簡との宜しきを成す、故に物を治むる書となる、其の明は萬有の狀態を洞照す、故に智を完くする視となる、其の聽は聽聞する所に惑はず、能く是非を裁別す、故に謀を善くする聽と爲る、其の睿は神慮通達して、事變に適應す、故に聖明の思と爲る、

八政、一曰食、二曰貨、三曰祀、四曰司空、五曰司徒、六曰司寇、七曰賓、八曰師、

【講義】　八政は、其の一を食と曰ふ、蓋し田里を制し、稼穡牧畜を敎へ、以て民の食を足すなり、其の二を貨と曰ふ、蓋し商工を勸め、財用を通じ、以て民の貨物を便利にするなり、其の三を祀と曰ふ、蓋し禮を修め、神を敬し、以て祭祀の典を擧ぐるなり、其の四を司空と曰ふ、蓋し境域を開き、城郭を造り、民舍を定め、以て空土を司掌するなり、其の五を司徒と曰ふ、蓋し衆徒を聚めて、之に禮義を敎へ、以て風化を整ふるなり、其の六を司寇と曰ふ、蓋し刑罰を司掌し、治化を修め行ひ、以て寇害に備ふるなり、其の七を賓と曰ふ、蓋し諸侯を懷柔し、遠人を來朝せしめ、以て賓禮の政を完くするなり、其の八を師と曰ふ、蓋し有罪を討伐し、患害を防制し、以て師旅兵馬の事を

り、帝、天帝なり、震怒、大に怒るなり、震は雷の激するが如きをいふ、從、與ふるなり、鴻範九等、尙書に洪範九疇といふ是なり、大法九章を指す、常倫、常道なり、斁、敗れ傷ふなり、殛、誅殺なり、錫、賜ふなり、序、秩序なり、

初一曰五行、二曰五事、三曰八政、四曰五紀、五曰皇極、六曰三德、七曰稽疑、八曰庶徵、九曰嚮用五福、畏用六極、

【講義】 蓋し禹王は洪水を治め、洛水より大龜を獲たり、其の龜の甲の文に據り、大法九章を定む、其の初の一を、五行と曰ふ、其の二を、五事と曰ふ、其の三を、八政と曰ふ、其の四を、五紀と曰ふ、其の五を、皇極と曰ふ、其の六を、三德と曰ふ、其の七を、稽疑と曰ふ、其の八を、庶徵と曰ふ、其の九を、勸むるに五福を以てし、畏れしむるに六極を以てすと曰ふ、

【字解】 嚮、奬るなり、畏れしむるの反對なり、用、以てなり、五行より下の意義は、左の數節に詳なり、

五行、一曰水、二曰火、三曰木、四曰金、五曰土、水曰潤下、火曰炎上、木曰曲直、金曰從革、土曰稼穡、潤下作鹹、炎上作苦、曲直作酸、從革作辛、稼穡作甘、

【講義】 五行は、一に水と曰ひ、二に火と曰ひ、三に木と曰ひ、四に金と曰ひ、五に土と曰ふ、其水を潤下と曰ふ、蓋し水の性は、物を潤し、下に流るを以てなり、其の火を炎上と曰ふ、蓋し火の性は、炎熱にして升騰するを以てなり、其の木を曲直と曰ふ。蓋し木の性は、屈曲にすべく聳直にすべきを以てなり、其の金を從革と曰ふ、蓋し金の性は、人に從ひ鎔すべく、革むべきを以てなり、其の土を稼穡と曰ふ、蓋し土の性は、五穀を生育し、稼すべく、穡すべきを以てなり、而して潤下の水は、浸し乾きて、鹹味を生じ、炎上の火は、物を焦して、苦味を生じ、曲直の木は、實を結び

て肉を露し、兩手を背後に縛り、其の左の手に羊を牽き、右の手に茅を把り、膝行して進み、其の降服を告ぐ、是に於て、武王は乃ち微子を釋して、其の殷に於ける地位に復せしむ、舊の如し、

【字解】肉袒、袒して肉を現す、賤奴の風體なり、其の笞打を受くる覺悟を示すなり、面縛、偭縛なり、背後へ手を縛るなり、偭は背なり、牽羊把茅、祭祀に供ふる爲めに、羊と茅とを獻ずるなり、

武王封紂子武庚祿父、以續殷祀、使管叔蔡叔傅相之、武王既克殷、訪問箕子、武王曰、於乎維天陰定下民、相和其居、我不知其常倫所序、

【講義】武王は紂王の子なる武庚祿父を、殷の故地に封じて、其の國の祀を續がしめ、管叔蔡叔をして之に傅相たらしむ、武王は既に殷に克ち、箕子を訪問す、武王曰く、嗟維れ天は陰默の中に、下土の人民を定めて、其の居る所を相和げ、相安んず、然れども、我は未だ其の天の常道の順序する所を知らず、

【字解】於乎、嗟なり、常倫、常道正理なり、

箕子對曰、在昔鯀陻鴻水、汩陳其五行、帝乃震怒、不從鴻範九等、常倫所斁、鯀則殛死、禹乃嗣興、天乃錫禹鴻範九等、常倫所序、

【講義】箕子對へて曰く、昔時鯀は洪水を塞ぎ、木火土金水の運行を陳ぶるを亂す、是に於て、天帝は大に怒り、鯀に洪範九等を與へず、是常道の敗れたる所以なり、鯀は誅せられ死し、禹は嗣ぎ興る、天帝は禹の功德を嘉し、禹に洪範九等を賜ふ、是れ常道の序を得たる所以なり、

【字解】在昔、昔時なり、陻、塞ぐなり、水害を防ぐなり、鴻、洪なり、汩、亂すなり、五行、水は五行の一なり、水を亂すは、木火土金水の五者を攪亂す所以な

見て、其の臣は之を諫爭するに、死を以てせざれば、其の國を救ふに足らず、衆庶は何の罪か有らんと、比干は乃ち直言して紂王を諫めたり、

【字解】親戚、前節に詳解す、辜、罪過なり、

紂怒曰、吾聞、聖人之心、有七竅、信有諸乎、乃遂殺王子比干、刳視其心、

【講義】紂王は怒り曰く、吾聞く聖人の胸には七竅有りと、實に之れ有るかと、乃ち遂に王子比干を殺し、解剖して其の胸を檢視したり、

【字解】心、胸なり、竅、ケウと讀む、穴なり、

微子曰、父子有骨肉、而臣主以義屬、故父有過、子三諫、不聽則隨而號之、人臣三諫不聽、則其義可以去矣、於是太師少師、乃勸微子去、遂行、

【講義】微子曰く、父と子とは、骨肉を以て屬し、君と臣とは、義を以て屬す、故に父に過失有れば、子は三たび之を諫む、其の聽かれざるときは、猶隨ひて之に號泣す、人臣は三たび諫めて聽かれざるときに、其の義として去るべきのみと、遂に遠く去る、

【字解】臣主、君臣なり、隨而號之、決して去らざるをいふ、於是、より去に至る十一字は、前節の微子と太師少師との問答の終局を再錄したるのみ、太師少師の兩人を、太師の一人と見れば可なり、行、去るなり、

周武王伐紂、克殷、微子乃持其祭器、造於軍門、肉袒面縛、左牽羊、右把茅、膝行而前以告、於是武王乃釋微子、復其位如故、

【講義】既にして周の武王は紂王を伐ち、殷に克つ、微子は乃ち殷の祭器を持して、周の軍門に至り、袒し

不可振也、

【講義】箕子は紂王の諸父なり、紂王の始めて象牙の箸を造るや、箕子は之を觀て、歎息して曰く、彼は象牙の箸を造る、必らず玉を以て酒杯を製せん、玉杯既に成れば、必らず遠國珍怪の物を愛し思ひて、之を進獻せしめん、車馬宮室の奢侈は、漸次に此より始らん、其の弊害は救ふべからざるに至らん、

【字解】親戚、父母といふが如し、同族中の長者を稱す、箕子は紂王の諸父なるを以て、斯く稱したるなり、栝、杯に同じ、御、進むるなり、漸、次を逐ひ至る貌なり、振、救ふなり、

紂爲淫泆、箕子諫、不聽、人或曰、可以去矣、箕子曰、爲人臣、諫不聽而去、是彰君之惡、而自說於民、吾不忍爲也、

【講義】既にして、紂王は荒淫逸樂す、箕子は之を諫む、紂王は聽かず、或る人は箕子に謂ひ曰く、以て去るべしと、箕子曰く、人臣たるもの諫めて聽かれず、乃ち去る、是れ君の惡を彰して自から民に辯明するなり、吾は之を爲すに忍びずと、

【字解】泆、イツと讀む、佚、逸、皆通ず、

乃被髮佯狂、而爲奴、遂隱而鼓琴、以自悲、故傳之、曰箕子操、

【講義】箕子乃ち冠を棄て髮を被り、佯狂して奴と爲り、遂に隱れて琴を彈じ、自から悲哀の情を寄す、世に之を傳へて、箕子操といふ、

【字解】操、曲調の名なり、正音の調子なり、

王子比干者、亦紂之親戚也、見箕子諫不聽而爲奴、則曰、君有過、而不以死爭、則百姓何辜、乃直言諫紂、

【講義】王子比干も、亦紂王の諸父なり、箕子が諫めて聽かれず、奴と爲るを觀る、則ち曰く、君の過失を

之何其、

【講義】 微子は更に箕子と比干とを呼びて曰く、太師よ少師よ、我は其れ起ちて出で往かん、我は此に止りて死するも、殷國を救ふ能はず、故に、我は去りて、吾家の滅亡より保たれんことを期す、然るに、今や汝は我に向ひて、故意に告ぐる所無し、我は死せんか、去らんか、汝の敎誨を待ちて決せんとす、否らざれば我は徒に顚墜せん、之を如何にせんや、

【字解】 太師少師、再び箕子比干兩人を呼びて、中心を披瀝するなり、發、起つなり、女、汝なり、太師少師を指す、故、故意なり、告、敎誨なり、躋、墜なり、如之何其、奈之何に同じ、此の一節も尙書の微子を參照すべし、

太師若曰、王子、天篤下菑亡殷國、乃毋畏畏、不用老長、今殷民乃陋淫神祇之祀、今誠得治國、國治身死不恨、爲死終不得治、不如去、遂亡、

【講義】 太師箕子は、乃ち若ひて曰く、王子よ、今や天は深く災禍を生じて、殷國を亡さんとす、然るに、紂王は此の災禍を畏るゝ事無くして、賢老長者の言を用ひず、殷民は天神地祇の祭祀を鄙しく穢す、今の時に於て、若しも國を治むるを得ば、其の身は死するも恨むに足らず、然れども、其の身を死に致すも、終に國を治むるを得ざるときは、去るに如かずと、箕子の此の語を聞きて、微子は遂に意を決し、逃亡したり、

【字解】 篤、深くなり、菑、災に通ず、陋淫、鄙しみ穢すなり、神祇を粗末に扱ひて、之に狃るゝなり、誠、若しもなり、

箕子者、紂親戚也、紂始爲象箸、箕子歎曰、彼爲象箸、必爲玉桮、爲桮、則必思遠方珍怪之物、而御之矣、輿馬宮室之漸、自此始、

を度り、或は之に死せんと欲し、或は逃れ去らんと欲す、未だ自から決する能はず、

【字解】阢阢國、飢國なり、黎國ともいふ、今の山西潞安府に屬す、尙書の西伯戡黎の篇を參看すべし、

乃問於太師少師曰、殷不有治政、不治四方、我祖遂陳於上、紂沈湎於酒、婦人是用、亂敗湯德於下、殷既小大、好草竊姦宄、卿士師師非度、皆有罪辜、乃無羅獲、小民乃竝興、相爲敵讐、今殷其典喪、若涉水無津涯、殷遂喪、越至于今、

【講義】微子は乃ち殷の太師なる箕子と少師なる比干とに問ひて曰く、今や殷は政事を整へず、四方を治めず、我祖なる湯王は、其の功を遂げて力を上世に陳べたり、然るに、紂王は酒に惑溺して、唯婦女を用ひ、湯王の德を今の世に亂し敗る、殷は既に小事も大事も、粗野なるを好み、盜竊するを喜び、姦邪なるを愛す、卿も士も、相師として相倣ひ、其の行爲は法度に非ず、皆罪戾有るも、其の惡人を捕獲するもの無し、小民は乃ち竝び與りて、敵讐を相爲す、吁今や殷は其れ湮み亡びん、水を涉るときに、津涯無きが如し、殷は遂に滅せん、其の時期は爰に今日に到着したり、我は之に處する如何せんと、

【字解】太師少師、帝王の師傅なり、遂、其の功勞を遂げ行ふなり、上、上世なり、昔の代なり、沈湎、惑溺なり、湎は溺るなり、下、今の世なり、草竊、粗野にして盜竊することなり、宄、キと讀む、邪惡なり、師師、相互に師として相倣ふなり、辜、コと讀む、凶惡なり、羅獲、捕獲なり、羅は網なり、捕ふることなり、典、湮なり、滅亡をいふ、越、爰なり、此の一節は尙書の微子といふ篇を參看すべし、

曰、太師少師、我其發出往、吾家保于喪、今女無故告、予顚躋如

の太子が、婦の故を以て誅せられ、太子の弟壽が死を爭ひ、以て相譲りたる事跡を見る、此れ實に晉の太子申生が、敢て驪姫の罪過を明にせず、自から其の誅を甘受したると相同じ、是れ衞の太子も、晉の太子も、倶に其の父の志を傷ふを患ふ、然れども其の自身は終に死亡す、何ぞ其れ悲慘なるや、衞の末世に至りては、父子相爭ひて互に殺す有り、兄弟相鬪ひて互に滅す有り、其の背逆殘忍なるは、吁亦獨り何の故ぞや、

宋微子世家第八

微子開者、殷帝乙之首子、而紂之庶兄也、紂既立不明、淫亂於政、微子數諫、紂不聽、

【講義】宋の始祖なる微子開は、殷の帝乙の長子なり、紂王の庶兄なり、紂王は既に立ちて、不明なり、政事に淫亂す、微子は屢〻之を諫む、然れども紂王は聽かず、

【字解】宋、商丘を都とす、今の河南歸德府商丘縣なり、微子開、微は殷の畿内の地名なり、子は爵なり、開は名なり、實は啓といふ、漢の景帝の諱を避けて、同義の開といふ字を書したるのみ、首子、元子なり、長子なり、庶兄、庶子なれども、紂王の兄なり、

及祖伊以周西伯昌之修德滅阢阢國、懼禍至、以告紂、紂曰、我生不有命在天乎、是何能爲、於是微子度紂終不可諫、欲死之及去、未能自決、

【講義】既にして、周の西伯昌は德を修めて、阢阢國を滅す、殷の賢臣祖伊は、周の盛なるを觀て、其の禍の殷に至るを懼れ、之を紂王に告ぐ、紂王曰く、我は生れて、帝王たる命運の自から天に在るもの有らずや、天命既に定る、是れ周の如きもの、何ぞ能く爲さんやと、是に於て、微子は紂王の終に諫むべからざる

【講義】成侯の十一年に、衞の公孫鞅は秦に入る、十六年に、衞は更に爵號を貶して、自から下り侯と曰ふ、二十九年に成侯卒す、子平侯立つ、平侯八年卒す、子嗣君立つ、嗣君の五年に、更に號を貶げて、君と曰ふ、是の時に、衞は獨り濮陽の地を領有するのみ、嗣君は四十二年に卒す、子懷君立つ、懷君の三十一年に、懷君は魏に入朝す、魏は之を囚へて殺し、更に嗣君の弟を立つ、是を元君と曰ふ、元君は魏王の婿たり、故に魏は之を立てたり、

【字解】濮陽、今の直隷大名府開州の南に在り、叓、更に同じ、

元君十四年、秦拔魏東地、秦初置東郡、叓徙衞野王縣、而幷濮陽爲東郡、二十五年、元君卒、子君角立、君角九年、秦幷天下、立爲始皇帝、二十一年、二世廢君角爲庶人、衞絕祀、

【講義】元君の十四年に、秦は魏の東境を取り、始めて東郡を置く、更に衞を野王縣に遷し、濮陽を取りて、之を東郡の中に編入す、二十五年に、元君卒し、子君角立つ、君角の九年に、秦は天下を幷せ收め、自から立ちて、始皇帝と爲る、二十一年に、秦の二世皇帝は、君角を廢し、庶人と爲す、是に於て、衞は祀を絕ち滅亡したり、

【字解】濮陽、前節に解す、庶人、平民なり、匹夫なり、野王、今の河南懷慶府河內縣に在り、

太史公曰、余讀世家言、至於宣公之太子、以婦見誅、弟壽爭死以相讓、此與晉太子申生不敢明驪姬之過同、俱惡傷父之志、然卒死亡、何其悲也、或父子相殺、兄弟相滅、亦獨何哉、

【講義】太史公曰く、余は衞の世家の文を讀み、宣公

子敬公弗立、敬公十九年卒、子昭公糾立、是時三晉彊、衞如小侯屬之、

【講義】出公の後元年に、逃亡中の從者を賞す、其の立づこと前後を通じて、二十一年なり、出公卒して、其の季父黔は、出公の子を攻めて自立す、是を悼公とす、悼公は五年に卒す、子敬公弗立つ、敬公は十九年に卒す、子昭公糾立つ、是の時に、韓魏趙の三國は强し、衞は小侯の如く、卑弱にして趙に附屬す、

【字解】二十一年、前後の二十五年の內より、出奔中の四年を除くなり、

昭公六年、公子亹弑之、代立、是爲懷公、懷公十一年、公子頹弑懷公、而代立、是爲愼公、愼公父公子適、適父敬公也、愼公四十二年卒、子聲公訓立、聲公十一年卒、子成侯遬立、

【講義】昭公の六年に、公子亹は之を弑して代り立つ、是を懷公と爲す、懷公の十一年に、公子頹は懷公を弑して代り立つ、是を愼公と爲す、愼公の父を公子適といふ、適の父は敬公なり、愼公は四十二年に卒し、子聲公訓立つ、聲公は十一年に卒す、子成侯遬立つ、

成侯十一年、公孫鞅入秦、十六年、衞更貶號曰侯、二十九年、成侯卒、子平侯立、平侯八年卒、子嗣君立、嗣君五年、更貶號曰君、獨有濮陽、四十二年卒、子懷君立、懷君三十一年朝魏、魏囚殺懷君、魏更立嗣君弟、是爲元君、元君爲魏婿、故魏立之、

し、大臣を誅し盡さんと欲す、曰く、余は外に居る久し、子亦嘗て之を聞かんかと、群臣は之を恐れて亂を作さんと欲す、莊公乃ち誅殺の事を止む、

【字解】寡人、諸侯の自から稱する謙語なり、子、大臣を指して稱したるなり、

二年、魯孔丘卒、三年、莊公上城、見戎州、曰、戎虜何爲是、戎州病之、十月、戎州告趙簡子、簡子圍衞、十一月、莊公出犇、衞人立公子斑師、爲衞君、齊伐衞、虜斑師、更立公子起爲衞君、

【講義】莊公の二年に、魯の孔丘卒す、三年に莊公は城に上り、戎州を望見して曰く、戎虜は何ぞ是に居るを爲さんと、戎人は之を憂慮す、其の年の十月に、戎人は之を趙簡子に告ぐ、簡子は衞を圍む、其の年の十一月に、莊公は出奔す、衞人は公子斑師を立てゝ、衞君と爲す、齊は衞を伐ち斑師を虜にし、更に公子起を立て、衞君と爲す、

【字解】戎州、衞に近き戎人の邑なり、犇、奔なり、更、更なり、

衞君起元年、衞石曼專、逐其君起、起犇齊、衞出公輒自齊復歸立、初出公立、十二年亡、亡在外四年、復入、

【講義】衞君起の元年に、衞の石曼專は其の君なる起を逐ふ、起は齊に奔る、衞の出公輒は齊より復歸し立つ、蓋し出公は初め立ちて、十二年に出奔し、其の國外に在る四年にして、復た入るを得たり、

出公後元年、賞從亡者、立二十一年卒、出公季父黔、攻出公子而自立、是爲悼公、悼公五年卒、

是れ公孫なるか、余は患難を辭せず、夫れ利を求めて其の禍を逃るゝは、小人なり、仲由は然らず、余は既に孔氏よりの祿を利し取る、故に、必ず孔氏の患を救はんと、此の時に使者有り、門より出づ、仲由乃ち其門の開きたるに乘じて入るを得たり、仲由叫びて曰く、太子何ぞ孔悝を用ひん、孔悝を殺すと雖も、必らず孔悝に繼ぎて起るもの有らんと、更に衆人に告げて曰く、太子は勇無し、若し此の臺を燔かば、必らず孔悝を舍さんと、

【字解】 闔、閉づるなり、毋入爲、入る勿れ、爲す勿れと、固く拒絕する語なり、是公孫也、仲由は其の聲を聽きて、其の公孫なるを知りたるなり、孔叔、孔悝なり、太子に向ひては、孔悝といひ、衆人に向ひては、孔叔と稱したるなり、

太子聞之、懼、下石乞孟黶、敵子路、以戈擊之、割纓、子路曰、君子死、冠不免、結纓而死、孔子聞衞亂曰、嗟乎柴也其來乎、由也其死矣、

【講義】 太子は之を聞きて懼る、乃ち石乞孟黶に命じ、臺より下りて仲由に敵對せしむ、兩人は戈を以て仲由を擊ち、其の冠纓を絕つ、仲由曰く、君子は死するも冠を失はずと、乃ち纓を結びて死す、孔子は衞の亂を聞き曰く、嗟柴は來らん、由は死せん、

【字解】 纓、エイと讀む、冠の紐なり、柴、子羔の名なり、由、仲由なり、子路の名なり、

孔悝竟立太子蒯聵、是爲莊公、莊公蒯聵者、出公父也、居外、怨大夫莫迎立、元年卽位、欲盡誅大臣、曰、寡人居外久矣、子亦嘗聞之乎、群臣欲作亂、乃止、

【講義】 孔悝は竟に太子蒯聵を立つ、是を莊公と爲す、莊公蒯聵は出公の父なり、久しく外に居り、其の迎へ立つるもの無きを以て、大夫を怨む、元年卽位

しむ、欒寗乃ち酒杯を擧げ、炙肉を食ひ、出公輒を奉じて魯に奔る、

【字解】　介、鎧なり、輿、擔ふなり、車に載せて運ぶなり、豭、豚なり、其の血を取りて盟の時に飮むなり、玆に豚を載せて行くは、盟に用ひんとすればなり、刼、劫に同じ、脅迫することなり、厠、宮中の邊隅なり、追ひ詰めたる所を指していふ、召護、人名なり、乘車、兵車に對していふ、是れ平常の御用車なり、乘車を用ひたるは戰意無きを示すなり、爵、杯なり、

仲由將入、遇子羔將出、曰門已閉矣、子路曰、吾姑至矣、子羔曰、不及、莫踐其難、子路曰、食焉不辟其難、子羔遂出、

【講義】　仲由は變を聞きて馳せ至り、門に入らんとす、子羔が出でんとするに遇ふ、子羔曰く、門は既に閉ぢたり、仲由曰く、吾は門に入らん、子羔曰く、既に事に及ばず、其の禍に罹る勿れ、仲由曰く、既に孔氏の食を受く、其の禍を避けずと、子羔は遂に出で去る、

【字解】　子路、仲由なり、姑至、試に至らんといふが如し、其の入らんとする意を明にするなり、姑はシバラクと訓ず、不及、出公は既に去り、今入るも、其の事に及ぶ無しといふなり、踐、犯すなり、罹るなり、難、禍なり、

子路入、及門、公孫敢闔門、曰、毋入爲也、子路曰、是公孫也、求利而逃其難、由不然、利其祿、必救其患、有使者出、子路乃得入、曰、太子焉用孔悝、雖殺之、必或繼之、且曰、太子無勇、若燔臺必舍孔叔、

【講義】　仲由は乃ち進みて門に至る、衞の大夫公孫敢は門を閉ぢて曰く、入る勿れ、爲す勿れ、仲由曰く、

に關する所無からしめんと、遂に共に盟ひ、悝の母を以て、良夫の妻と爲すことを許す、

【字解】 豎、內豎なり、宿、戚の邑なり、乘軒、軒は大夫の車なり、軒に乘るは大夫の職なり、

閏月、良夫與太子入舍孔氏之外圃、昏二人蒙衣而乘、宦者羅御、如孔氏、孔氏之老欒甯問之、稱姻妾以告、遂入、適伯姬氏、既食、

【講義】 其の年の閏月に、渾良夫は太子蒯聵と共に入り、孔氏の外園に舍る、其の夕暮に至り、良夫太子の兩人は、巾を以て頭に蒙り、婦人の裝飾にて車に乘り、宦者の羅といふもの之を御して、孔氏の本邸に至る、孔氏の家宰欒甯は之を問ふ、乃ち對ふるに姻妾なるを以てし、遂に入る、直に悝の母の居る所に往きて、晩食を了る、

【字解】 外圃、邸外の別園なり、蒙衣、衣被なり、婦人の頭部より蔽ひたる長服なり、宦者、宮中の小官なり、羅、人名なり、老、家宰なり、姻妾、親戚の緣者の婦女なり、伯姬、國君の長女なり、悝の母は蒯聵の姉なるを以て、伯姬と稱す、

悝母杖戈而先、太子與五人介、輿豭從之、伯姬劫悝於厠、彊盟之、遂劫以登臺、欒甯將飮酒、炙未熟、聞亂、使告仲由、召護駕乘車、行爵食炙、奉出公輒奔魯、

【講義】 悝の母は、戈を把りて先づ進み、悝の所に至る、太子及び其の徒五人は武裝して、豚を擔はせ其の後に從ふ、既にして、悝の母は悝を厠に劫迫し、强ひて蒯聵の爲めに盟はしめ、遂に悝を劫して共に臺に登らしむ、以て群臣に號令せんとするなり、是の時に當り、欒甯は酒を飮まんとす、肉を炙りて未だ熟せず、此の騷動を聞き、之を孔氏の邑宰なる仲由に報告せしむ、別に孔氏の臣召護をして、出公の乘車を整へ

十餘名に傳へ、喪服を着けて、衞に歸らしむ、是れ靈公の喪に由り、太子を迎ふるが如く裝ふなり、此の十餘人に伴ひて、趙簡子は蒯聵を送る、衞國は之を聞き、兵を發して蒯聵を撃つ、蒯聵は入るを得ず、宿の邑に入りて、自から守る、衞人も兵を罷めたり、

【字解】陽虎、魯より逃げ來りて晉に寓したるなり、衰絰、サイテツと讀む、喪服なり、宿、セキと讀む、前節に詳解す、

出公輒四年、齊田乞弑其君孺子、八年、齊鮑子弑其君悼公、孔子自陳入衞、九年、孔文子問兵於仲尼、仲尼不對、其後魯迎仲尼、仲尼反魯、

【講義】出公輒の四年に、齊の田乞は其の君孺子を弑す、八年に、齊の鮑子は其の君悼公を弑す、是の年に、孔子は陳より衞に入る、九年に、衞の大夫孔文子は兵を孔子に問ふ、孔子は對へず、其の後に魯は孔子を迎ふ、孔子は魯に復る、

十二年、初孔圉文子、取太子蒯聵之姊、生悝、孔氏之豎渾良夫美好、孔文子卒、良夫通於悝母、太子在宿、悝母使良夫於太子、太子與良夫言曰、苟能入我國、報子以乘軒、免子三死、毋所與、與之盟、許以悝母爲妻、

【講義】出公輒の十二年、蒯聵入り立つ、是より先に、衞の大夫孔圉文子は、太子蒯聵の姊を娶りて、子悝を生む、孔氏の豎者渾良夫は、容貌は美麗なり、孔文子の歿後に、良夫は悝の母に私通す、太子は宿に在り、悝の母は良夫を使として、太子の居に至らしむ、太子は良夫に謂ひ曰く、苟くも能く我を衞國に入らしむるを得ば、汝に報ずるに大夫の職を以てせん、高軒の車に乘らしめ、汝が三度の死罪を赦免し、其の罪

四十二年春、靈公游于郊、令子郢僕、郢靈公少子也、字子南、靈公怨太子出犇、謂郢曰、我將立若爲後、郢對曰、郢不足以辱社稷、君叓圖之、

【講義】靈公の四十二年春に、靈公は郊に遊び、子郢をして車を御せしむ、郢は靈公の末子なり、字を子南といふ、靈公は太子の出奔を怨み、郢に謂ひ曰く、我は汝を立て、後嗣と爲さんとすと、郢對へて曰く、郢は不才なり、以て國に當るに足らず、君は別に之を圖れよと、

【字解】僕、車上の右に坐して、之を御する人なり、犇、奔るなり、若、汝なり、辱社稷、其の國の大政を執るなり、社稷は其の國土の神を祭ることなり、辱は其の任に當るなり、叓、更なり、

夏靈公卒、夫人命子郢爲太子、曰、此靈公命也、郢曰、亡人太子蒯聵之子輒在也、不敢當、於是衞乃以輒爲君、是爲出公、

【講義】其年の夏に、靈公卒す、夫人南子は子郢に命じて太子と爲す、曰く、是れ靈公の命なりと、郢曰く、逃亡したる太子蒯聵の子輒は、正に衞に在り、郢は敢て當らずと、是に於て衞國は輒を以て君と爲す、是を出公といふ、

六月乙酉、趙簡子欲入蒯聵、乃令陽虎詐命衞十餘人衰経歸、簡子送蒯聵、衞人聞之、發兵擊蒯聵、蒯聵不得入、入宿而保、衞人亦罷兵、

【講義】其の年の六月乙酉の日に、晉の趙簡子は蒯聵を衞に納れんと欲し、陽虎をして詐僞の命を衞人

を有たしめん、其れ汝の子を名けて元と曰へよと、賤妾は之を怪み、孔成子に問ふ、孔成子曰く、康叔は衞の祖なりと、既にして賤妾は子を生み、男子を得たり、以て襄公に告ぐ、襄公曰く、天の置く所なりと、之を名けて元と曰ふ、襄公の夫人は子無し、乃ち元を立て嗣君と爲す、是を靈公といふ、

【字解】若、汝なり、而、汝なり、恠、怪しむなり、

靈公五年、朝晉昭公、六年、楚公子弃疾弑靈王、自立爲平王、十一年火、三十八年、孔子來、祿之如魯、後有隙、孔子去、後復來、

【講義】靈公の五年に、靈公は晉の昭公に朝覲す、六年に、楚の公子弃疾は靈王を弑し、自立して平王と爲る、十一年に、衞は火事の害に遭ふ、三十八年に、孔子は衞に來る、乃ち俸祿を與へて、魯に於ける俸祿の如くし、之を優待す、既にして隙を生じ、孔子去る、其の後に、孔子は復た來る、

【字解】隙、情交の絶ゆるなり、弃、棄に同じ、

三十九年、太子蒯聵、與靈公夫人南子有惡、欲殺南子、蒯聵與其徒戲陽遬謀、朝、使殺夫人、戲陽後悔、不果、蒯聵數目之、夫人覺之、懼、呼曰、太子欲殺我、靈公怒、太子蒯聵犇宋、已而之晉趙氏、

【講義】靈公の三十九年に、太子蒯聵は、靈公の夫人南子と相惡み、南子を殺さんと欲す、蒯聵は其の徒黨の戲陽遬と謀り、朝禮に當りて、夫人を殺さしめんとす、然るに戲陽遬は謀りたる後に悔いて、實行を果さず、蒯聵は頻りに目を以て、戲陽遬を促す、夫人は之を覺り、懼れ呼びて曰く、太子は我を殺さんと欲すと、靈公怒る、蒯聵乃ち宋に奔る、既にして晉に往き、趙氏に依る、

會す、平公は直に殤公及び甯喜を執へて、復た獻公を衛に入らしむ、獻公は亡げて、外に在ること十二年にして、再び衛君と爲る、

獻公後元年、誅甯喜、三年、吳延陵季子、使過衛、見蘧伯玉史鰌曰、衛多君子、其國無故、過宿、孫林父爲擊磬、曰、不樂、音大悲、使衛亂、乃此矣、是年獻公卒、子襄公惡立、

【講義】獻公の後元年に、甯喜を誅す、三年に、吳の延陵の季子は列國に使として、衛を通過す、衛の大夫蘧伯玉と史鰌とを見て曰く、衛は君子多し、其の國は無事ならんと、遂に孫林父の領邑なる宿を通過す、林父は爲めに磬を擊つ、季子曰く樂まず、其音は大に悲む、衛をして亂れしむるものは、乃ち此なりと、是の年に、獻公卒す、子襄公惡立つ、

【字解】無故、無事なり、事故の無きをいふ、宿、前節に詳解す、

襄公六年、楚靈王會諸侯、襄公稱病不往、九年、襄公卒、初襄公有賤妾、幸之、有身、夢有人謂曰、我康叔也、令若子必有衛、名而子曰元、妾怪之、問孔成子、成子曰、康叔者、衛祖也、及生子、男也、以告襄公、襄公曰、天所置也、名之曰元、襄公夫人無子、於是乃立元爲嗣、是爲靈公、

【講義】襄公の六年に、楚の靈王は諸侯を會同す、襄公は病と稱して往かず、九年に襄公卒す、是より先に、襄公は賤妾を寵愛して妊娠す、賤妾の夢中に、人有り謂ひ曰く、我は康叔なり、汝の子をして必らず衛

文子語蘧伯玉、伯玉曰、臣不知也、遂攻出獻公、獻公犇齊、齊置衞獻公於聚邑、孫文子、甯惠子、共立定公弟秋、爲衞君、是爲殤公、

【講義】孫文子は此の事情を蘧伯玉に語る、伯玉も衞の大夫なり、對へて曰く、臣は知らずと、是に於て、孫文子は遂に兵を擧げ、攻めて獻公を逐ひ出す、獻公は齊に奔る、齊は獻公を齊の聚邑に居らしむ、孫文子甯惠子は、共に謀りて定公の弟秋を立て、衞君と爲す、是を殤公といふ、

殤公秋立、封孫文子林父於宿、十二年、甯喜與孫林父爭寵、相惡、殤公使甯喜攻孫林父、林父犇晉、復求入故衞獻公、

【講義】殤公秋は既に立つ、乃ち孫文子林父を宿に封ず、殤公の十二年に、甯喜は孫林父と君寵を爭ひ、相憎む、殤公は甯喜をして孫林父を攻めしむ、林父は晉に奔る、因て復た故の衞君なる獻公を納れんことを求む、

【字解】孫文子林父、一人なり、林父は文子の名なり、宿、戚に通ず、衞の地名なり、今の直隷大名府開州の北に在り、犇、奔なり、

獻公在齊、齊景公聞之、與衞獻公如晉求入、晉爲伐衞、誘與盟、衞殤公會晉平公、平公執殤公與甯喜、而復入衞獻公、獻公亡在外、十二年而入、

【講義】是の時に當り、獻公は齊に在り、齊の景公は、孫林父の策を聞き、乃ち獻公と共に晉に往き、之を納れんことを求む、晉は獻公の爲めに衞を伐ち、衞を誘ひて與に盟はしむ、衞の殤公は、乃ち晉の平公に

笞つ、妾は獻公の寵愛有るを以て、公に向ひ、曹を讒言す、公乃ち曹を笞つ、三百度に及べり、

【字解】鼓、彈なり、笞、笞を以て打つは刑法の一なり、師曹、樂官の曹なり、曹は名なり、

十八年、獻公戒孫文子甯惠子食、皆往、日旰不召、而去射鴻於囿、二子從之、公不釋射服、與之言、二子怒、往宿、

【講義】獻公の十八年に、獻公は其の大夫孫文子及び甯惠子に宴食を共にすることを命ず、兩人は乃ち往き待つ、然るに、獻公は晩に至るも兩人を宴席に召さず、公は去りて鴻を遊園に射る、兩人は從ひ往く、公は獵服を釋かず、兩人と語り、竟に宴席の衣に改めず、兩人は怒りて、孫文子の領邑なる宿に歸り去れり、

【字解】戒、命を下して注意するなり、旰、晩なり、囿、イウと讀む、禽獸を養ふ遊園なり、謂はゆる御獵場なり、宿、戚に通ず、地名なり、今の直隸大名府開州の北に在り、

孫文子子數侍公飮、使師曹歌巧言之卒章、師曹又怒公之嘗笞三百、乃歌之、欲以怒孫文子、報衞獻公、

【講義】此の頃に於て、孫文子の子は、時時宴席に侍して、獻公の飮食に陪ふ、公は樂官の曹に命じ、詩經の巧言の篇に於ける末章を歌はしむ、樂官の曹も、嘗て公に三百度笞たれしを怒り、乃ち之を歌ふ、蓋し此の歌を以て孫文子を怒らし、曹自身の怨を公に報ぜんと欲したるなり、

【字解】巧言、詩經の小雅の篇名なり、其の末章に曰く、彼れは何人ぞや、河の麋に居る、拳無く勇無くして、職ら亂階を爲すと、此の句中の意は、孫文子が河上に居りて、亂を爲すに譬ふべし、故に、獻公は之を歌はしめて、孫文子を辱しめんと欲し、師曹は以て孫文子を怒らしめんと欲したるなり、

に往き、衞に入らんことを求む、因て晉の文公と會す、晉は人をして成公を毒殺せしめんとす、成公は周の毒殺を行ふ者に賂し、其の毒を薄くせしめて、死を免れたり、既にして、周は成公の爲めに、晉の文公に請ひ、終に成公を衞に入らしむ、而して衞の大夫元咺を誅す、曩に元咺の擁立したる衞君瑕は出奔す、

【字解】 鴆、チンと讀む、毒藥なり、鴆の羽を酒に浸して、毒藥とするなり、

七年、晉文公卒、十二年、成公朝晉襄公、十四年、秦穆公卒、二十六年、齊邴歜弑其君懿公、三十五年、成公卒、子穆公遫立、

【講義】 成公の七年に、晉の文公卒す、十二年に、成公は、晉の襄公に朝見す、十四年に、秦の穆公卒す、二十六年に、齊の邴歜は、其の君なる懿公を弑す、三十五年に、成公卒す、子穆公遫立つ、

穆公二年、楚莊王伐陳、殺夏徵舒、三年、楚莊王圍鄭、鄭降、復釋之、十一年、孫良夫救魯伐齊、復得侵地、穆公卒、子定公臧立、定公十二年卒、子獻公衎立、

【講義】 穆公の二年に、楚の莊王は陳を伐ち、逆臣夏徵舒を殺す、三年に、楚の莊王は鄭を圍む、鄭降る、復た之を釋す、十一年に、衞の大夫孫良夫は、魯を救ひ齊を伐ち、其の侵略せられたる地を取り復すを得たり、既にして、穆公卒し、子定公臧立つ、定公は十二年に卒し、子獻公衎立つ、

獻公十三年、公令師曹教宮妾鼓琴、妾不善、曹笞之、妾以幸惡曹於公、公笞曹三百、

【講義】 獻公の十三年に、獻公は衞の樂官なる曹といふものに命じ、琴を彈ずることを宮中の妾に教へしむ、然るに、其妾は善く曹の教を守らず、曹は之を

始めて立ち、稅を輕くし、罪を平にし、其の自身を勞して、人民と艱苦を同くし、以て衞の國民を收攬したり、

【字解】賦、課稅なり、平、公平にして、寬和なり、

十六年、晉公子重耳過、無禮、十七年、齊桓公卒、二十五年、文公卒、子成公鄭立、成公三年、晉欲假道於衞救宋、成公不許、

【講義】文公の十六年に、晉の公子重耳は、衞を通過す、文公は之に禮せず、十七年に齊の桓公卒す、二十五年に子成公鄭立つ、成公の三年に、晉は宋を救ふが爲めに、道を衞に假らんと欲す、成公は之を許さず、

晉更從南河度、救宋、徵師於衞、衞大夫欲許、成公不肯、大夫元咺攻成公、成公出犇、晉文公重耳伐衞、分其地、予宋、討前過無禮、及不救宋患也、

【講義】是に於て、晉は別に南河より渡りて、宋を救ひ、且つ衞に向ひて兵を徵す、衞の大夫は之を許さんと欲す、成公は承諾せず、衞の大夫元咺は、成公を攻む、成公出奔す、晉の文公重耳は衞を伐ち、其の地を分ちて宋に與ふ、是れ前年通過の時に無禮なりしを討じ、且つ衞が宋の患害を救はざりしを責むるなり、

【字解】更、更なり、別にといふ意なり、犇、奔なり、

衞成公遂出奔陳、二歲如周、求入、與晉文公會、晉使人鴆衞成公、成公私於周主鴆、令薄、得不死、已而周爲請晉文公、卒入之衞、而誅元咺、衞君瑕出奔、

【講義】衞の成公は、遂に陳に出奔す、二年を經て周

らんと欲す、終に惠公の子孫を滅して、更に黔牟の弟なる昭伯頑の子申を立てゝ、君と爲す、是を戴公とす、

戴公申元年卒、齊桓公以衞數亂、乃率諸侯伐翟、爲衞築楚丘、立戴公弟燬爲衞君、是爲文公、文公以亂故犇齊、齊人入之、

【講義】戴公申は元年を以て卒す、齊の桓公は衞の累に亂るゝを以て、諸侯を率ゐて狄を伐ち、衞の爲に楚丘に築城し、戴公の弟燬を立てゝ、衞君と爲す、是を文公といふ、文公は國の亂れたる故に齊に奔る、齊人は之を佐けて、衞に入らしむ、

【字解】翟、狄なり、楚丘、衞の地なり、今の河南衞輝府滑縣の東に在り、犇、奔るなり、

初翟殺懿公也、衞人憐之、思復立宣公前死太子伋之後、伋子又死、而代伋死者子壽、又無子、太子伋同母弟二人、其一曰黔牟、黔牟嘗代惠公爲君、八年復去、其二曰昭伯、昭伯黔牟皆已前死、故立昭伯子申爲戴公、戴公卒、復立其弟燬爲文公、文公初立、輕賦平罪、身自勞、與百姓同苦、以收衞民、

【講義】是より先に、狄の懿公を殺すや、衞人は之を憐み、宣公の時に死したる太子伋の子孫を復立せんことを思ふ、然るに伋の子は死し、伋に代りて死したる壽も、子無し、但し太子伋の同母弟二人有り、其の一を黔牟と曰ふ、黔牟は嘗て惠公に代り君と爲り、八年にして復去る、其の二を昭伯と曰ふ、昭伯黔牟皆既に前に死せり、故に昭伯の子申を立て、戴公と爲す、戴公卒す、因て其の弟燬を立て、文公と爲す、文公は

率ゐて、周の王命を奉じ、共に衞を伐ち、惠公を納れ、衞の左右公子を誅す、衞君黔牟は周に奔る、惠公再び立つ、蓋し惠公は初め立ちて、三年に出亡し、八年をを經て、復り入る、前後相通じて、凡そ十三年なり、

二十五年、惠公怨三周之容二舍黔牟一、與レ燕伐レ周、周惠王犇レ溫、衞燕立二惠王弟穨一爲レ王、二十九年、鄭復納二惠王一、三十一年、惠公卒、子懿公赤立。

【講義】 惠公の二十五年に、惠公は周が黔牟を容れ舍くを怨み、燕と共に周を伐つ、周の惠王は鄭の溫に奔る、是に於て、衞燕兩國は惠王の弟穨を立てゝ、王と爲す、二十九年に、鄭復た惠王を納る、三十一年に、惠公卒す、子懿公赤立つ、

懿公卽レ位、好レ鶴、淫樂奢侈、九年、翟伐レ衞、衞懿公欲レ發レ兵、兵或畔、大臣言曰、君好レ鶴、鶴可レ令レ擊レ翟、翟於レ是遂入、殺二懿公一、

【講義】 懿公は位に卽きて、鶴を好み、淫樂奢侈なり、九年に、狄は衞を伐つ、懿公は兵を發せんと欲す、兵は背くもの有り、大臣は懿公に言ひ曰く、君は鶴を好む、鶴は狄を擊たしむべしと、狄は乃ち遂に入り、懿公を殺せり、

【字解】 畔、叛背なり、翟、狄なり、

懿公之立也、百姓大臣皆不レ服、自下懿公父惠公朔之讒二殺太子伋一代立上、至二於懿公一、常欲レ敗レ之、卒滅二惠公之後一、而更立二黔牟之弟昭伯頑之子申一爲レ君、是爲二戴公一、

【講義】 蓋し懿公の立つや、國民も大臣も皆服從せず、懿公の父なる惠公朔が、太子伋を讒殺して代り立ちたるより、懿公に至る迄、國民大臣は、常に之を敗

壽見太子不止、乃盜其白旄而先馳、至界、界盜見其驗、卽殺之、壽已死、而太子伋又至、謂盜曰、所當殺、乃我也、盜幷殺太子伋、以報宣公、宣公乃以子朔爲太子、十九年、宣公卒、太子朔立、是爲惠公、

【講義】壽は太子伋の止らざるを見て、其の白旄を盜み、先づ馳せて國境に至る、國境の盜は、其の驗なる白旄を見て、直に之を殺す、壽は既に死して、太子伋は至る、乃ち盜に謂ひ曰く、殺すべき所のものは我なりと、是に於て、盜は幷びに太子伋を殺し、以て宣公に報ず、宣公乃ち子朔を以て太子と爲す、十九年に、宣公卒し、太子朔立つ、是を惠公と爲す、

左右公子、不平朔之立也、惠公四年、左右公子、怨惠公之讒殺前太子伋而代立、乃作亂、攻惠公、立太子伋之弟黔牟、爲君、惠公犇齊、

【講義】衛の左右公子は、朔の立ちて君と爲るに不平なり、惠公の四年に、左右公子は、惠公が前太子伋を讒殺して代り立つを怨み、乃ち亂を作し、惠公を攻め、太子伋の弟黔牟を立て、衛君と爲す、惠公は齊に奔る、

衛君黔牟立、八年、齊襄公率諸侯、奉王命、共伐衛、納惠公、誅左右公子、衛君黔牟奔于周、惠公復立、惠公立三年、出亡、亡八年、復入、與前通年凡十三年矣、

【講義】衛君黔牟立ちて八年に、齊の襄公は諸侯を

なるを愛し、自から之を取り、更に他の女を取りて、太子に與ふ、斯くして宣公は齊の女を取り、子壽と子朔とを生み、左公子をして之に傅たらしむ、

【字解】 右公子、左公子、夫人の左右に侍する媵の生みたる公子なり、好、美麗なり、說、悅ぶなり、

太子伋母死、宣公正夫人與朔、共讒惡太子伋、宣公自以其奪太子妻也、心惡太子、欲廢之、及聞其惡、大怒、乃使太子伋於齊、而令盜遮界上殺之、與太子白旄而告界盜、見持白旄者、殺之、

【講義】 既にして太子伋の母死す、宣公の正夫人は子朔と共に、太子伋を讒言し、其の惡を說く、宣公は自から太子の妻を奪ひたるを以て、心に太子を惡み、之を廢せんと欲す、其の惡を聞くに及びて、大に怒る、乃ち太子伋を齊に使とす、而して盜に命じ、界上に遮り、之を殺さしめんとす、因て太子に白旄を與へ界上の盜に告げて曰く、白旄を持するもの見ば、之を殺すべしと、

【字解】 白旄、公使としての旆に、白き毛の飾を附けたるものなり、

且行、子朔之兄壽、太子異母弟也、知朔之惡太子、而君欲殺之、乃謂太子曰、界盜見太子白旄、卽殺太子、太子可毋行、太子曰、逆父命求生、不可、遂行、

【講義】 太子伋は出發せんとす、宣公の子朔の兄壽は、太子の異母弟なり、朔が太子を惡むを知り、且つ宣公が太子を殺さんと欲するを知る、乃ち太子に謂ひ曰く、界上の盜は、太子の白旄を見ば、直に太子を殺さんとす、太子は行く無きを可とすと、太子曰く、父の命に逆ひて生を求むるは、不可なりと、遂に出發す、

石碏乃因桓公母家於陳、詳爲善州吁、至鄭郊、石碏與陳侯共謀、使右宰醜進食、因殺州吁于濮、而迎桓公弟晉於邢、而立之、是爲宣公、

【講義】 衞の大夫石碏は、乃ち陳に赴き桓公の母の家に居り、州吁に親密なるが如く佯り、遂に鄭の郊に至る、既にして石碏は陳侯と共に謀り、右宰醜をして州吁に食を進めしめ、因て州吁を濮の地に殺し、桓公の弟晉を邢より迎へて、之を立つ、是を宣公とす、

【字解】 詳、佯なり、右宰、官名なり、大夫の家の事務長なり、濮、曹と衞との境に在り、邢、晉の邑なり、今の直隷順德府邢臺縣なり、

宣公七年、魯弑其君隱公、九年、宋督弑其君殤公、及孔父、十年、晉曲沃莊伯、弑其君哀侯、

【講義】 宣公の七年に、魯は其の君なる隱公を弑す、九年に宋の太宰なる華督は、其の君殤公を弑し、其の大夫孔父を殺す、十年に、晉の曲沃の莊伯は、其の君哀侯を弑す、

十八年、初宣公愛夫人夷姜、夷姜生子伋、以爲太子、而令右公子傅之、右公子爲太子取齊女、未入室、而宣公見所欲爲太子婦者好、說而自取之、更爲太子取他女、宣公得齊女、生子壽子朔、令左公子傅之、

【講義】 宣公の十八年に、太子伋を殺す、是より先に、宣公は夫人夷姜を愛す、夷姜は子伋を生む、以て太子と爲し、右公子をして之に傅たらしむ、右公子は太子の爲めに齊君の女を取り、いまだ室に入らず、宣公は太子の婦と爲らんとする齊女を見て、其の美麗

人なる齊女をして、完を子とせしめ、立て丶太子と爲す、而して莊公は別に寵妾有り、子州吁を生む、

十八年、州吁長、好兵、莊公使將、石碏諫莊公曰、庶子好兵、使將、亂自此起、不聽、二十三年、莊公卒、太子完立、是爲桓公、

【講義】 莊公の十八年に、州吁年長ず、兵を好む、莊公は州吁を擧げて、兵に將たらしむ、大夫石碏は莊公を諫めて曰く、庶子にして兵を好む、之をして將たらしむ、亂は此より起らんと、然れども、莊公は之を聽かず、二十三年に莊公卒し、太子完立つ、是を桓公とす、

桓公二年、弟州吁驕奢、桓公絀之、州吁出犇、十三年、鄭伯弟段、攻其兄、不勝亡、而州吁求與之友、十六年、州吁收聚衞亡人、以襲殺桓公、

【講義】 桓公の二年に、弟州吁驕奢なり、桓公は之を斥く、州吁出奔す、十三年に、鄭伯の弟段は、其の兄を攻めて勝たず、逃亡す、州吁は求めて段と友たり、十六年に、州吁は衞より逃亡したる人士を收聚し、以て桓公を襲ひ殺せり、

【字解】 絀、斥くるなり、犇、奔なり、

州吁自立、爲衞君、爲鄭伯弟段、欲伐鄭、請宋陳蔡與倶、三國皆許州吁、州吁新立、好兵弑桓公、衞人皆不愛、

【講義】 州吁乃ち自立し、衞君と爲り、鄭伯の弟なる段の爲めに鄭を伐たんと欲す、宋陳蔡の三國に請ひ、其の軍を共にせんとす、三國は皆州吁に許せり、然れども、州吁は新に立ちて兵を好み、桓公を弑せしを以て、衞人は之を愛せず、

自殺、衛人因葬之釐侯旁、謚曰共伯、而立和爲衛侯、是爲武公、

【講義】 頃侯立ちて、十二年に卒し、子釐侯立つ、釐侯の十三年に、周の厲王は彘に出奔す、周廷は大臣相謀り、共和の政を行ふ、二十八年に、周の宣王立つ、四十二年に釐侯卒し、太子なる共伯餘は立ちて君と爲る、是より先に共伯の弟なる和は、釐侯に寵愛せられ、釐侯は多く和に賂を與へたり、故に、和は其の賂を以て士に與へ、遂に士を聚めて共伯を墓地に襲ひ攻む、共伯は釐侯の墓道に入り自殺す、衛人は之を釐侯の墓の傍に葬り、謚して共伯と曰ふ、而して和を立て衛侯とす、是を武公といふ、

【字解】 犇、奔なり、羨、墓の道なり、

武公卽位、脩康叔之政、百姓和集、四十二年、犬戎殺周幽王、武公將兵、往佐周平戎、甚有功、周平王命武公爲公、五十五年卒、子莊公揚立、

【講義】 武公は位に卽き、其の始祖なる康叔の善政を修め行ひ、人民和集す、四十二年に、犬戎は周の幽王を殺す、武公は兵に將とし、往きて周を佐け戎を平げ、甚だ功有り、周の平王は武公を命じ、公と爲す、五十五年卒し、子莊公揚立つ、

莊公五年、取齊女、爲夫人、好而無子、又取陳女爲夫人、生子蚤死、陳女女弟、亦幸於莊公、而生子完、完母死、莊公令夫人齊女子之、立爲太子、莊公有寵妾、生子州吁、

【講義】 莊公の五年に、齊君の女を取り夫人とす、美なれども子無し、別に陳君の女を取り夫人とす、子を生む、然れども、其子は早く死す、陳の女に妹有り、莊公に寵愛せられ、子完を生む、完の母死す、莊公は夫

匠が材を造るを觀るに在りとの訓を示す、故に是等の文を康誥、酒誥、梓材と稱して之に命ず、

【字解】長者、有德の士なり、梓、木を細工する匠人なり、康誥、酒誥、梓材、此の三篇は尙書に載す、

康叔之國、既以此命、能和集其民、民大說、成王長、用事、舉康叔、爲周司寇、賜衛寶祭器、以章有德、康叔卒、子康伯代立、康伯卒、子考伯立、考伯卒、子嗣伯立、嗣伯卒、子庛伯立、庛伯卒、子靖伯立、靖伯卒、子貞伯立、貞伯卒、子頃侯立、頃侯厚賂周夷王、夷王命衛爲侯、

【講義】康叔の衛國に就くや、既に此の周公の命に從ひ、其の民を和集す、民は大に悅ぶ、成王は年長じて政事を執るに當り、康叔を擧げて周の司寇と爲し、衛に分ち賜ふに、周の寶物にして祭器なる大車大旆大鐘等を以てし、衛の有德なるを表章す、康叔卒し、子康伯代り立つ、康伯卒し、子考伯立つ、考伯卒し、子嗣伯立つ、嗣伯卒し、子庛伯立つ、庛伯卒し、子靖伯立つ、靖伯卒し、子貞伯立つ、貞伯卒し、子頃侯立つ、頃侯は厚く周の夷王に賂ふ、夷王は衛を命じて、侯と爲す、

【字解】司寇、周の司法大臣なり、章、表すなり、

頃侯立、十二年卒、子釐侯立、釐侯十三年、周厲王出奔于彘、共和行政焉、二十八年、周宣王立、四十二年、釐侯卒、太子共伯餘立爲君、共伯弟和有寵于釐侯、多予之賂、和以其賂、賂士以襲攻共伯於墓上、共伯入釐侯羨

【字解】集、平和なり、紛亂せざるなり、

武王既崩、成王少、周公旦代成王治、當國、管叔蔡叔疑周公、乃與武庚祿父作亂、欲攻成周、

【講義】武王既に崩じ、成王少し、周公旦は成王に代り、政事を執り、國務に當る、是に於て、管叔蔡叔は周公の心を疑ひ、武庚祿父と共に亂を作し、周の東都なる成周を攻めんと欲す、

周公旦以成王命、興師伐殷、殺武庚祿父管叔、放蔡叔、以武庚殷餘民、封康叔爲衞君、居河淇間故商墟、

【講義】周公旦は成王の命を受け、軍を興して殷を伐ち、武庚祿父管叔を殺し、蔡叔を追放し、武庚の領したる殷の餘民を以て、康叔を封じ、之を衞君と爲し、河水淇水の間なる故の殷の都の城墟に居らしむ、

【字解】商墟、殷墟なり、河南の朝歌なり、

周公旦、懼康叔齒少、乃申告康叔曰、必求殷之賢人君子長者、問其先殷所以興、所以亡、而務愛民、告以紂所以亡者、以淫於酒、酒之失、婦人是用、故紂之亂自此始、爲梓材、示君子可法則、故謂之康誥、酒誥梓材、以命之、

【講義】周公旦は、康叔が年少きを懼る、乃ち康叔に申告して曰く、必らず殷の賢人君子有德の者を求めて、其の先世なる殷の隆興したる所以を問ひ、其の滅亡したる所以を訊ね、以て民を愛するを務めよと、更に康叔に告げて曰く、殷紂の亡びたる所以は、酒に荒淫したるに在り、而して酒の弊は婦人を用ふるに在り、故に紂の亂政は、此の酒と婦人とより始ると、更に梓材の文を作り、君子の以て法則と爲すべきは、木

越王句踐興、

【講義】太史公曰く、舜の德は至大と謂ふべし、位を夏に禪りて、其の子孫は諸侯と爲り、祭祀を繼承して、夏殷周の三代を經たり、楚が陳を滅するに及びて、陳の族なる田常は、政權を齊に執り、終に國を建つるに至り、舜の子孫は百世永續し、苗裔茲茲として繁殖し、封土を有つもの少からず、禹に至りては、其の子孫の周に於けるや、杞は微弱なること甚し、數ふるに足らず、楚の惠王に滅せらる、然れども、其の後に於て、越王勾踐は、禹の苗裔を以て興起せり、

【字解】禪、讓り傳ふるなり、血食、犧牲の供物を享くるなり、苗裔、子孫なり、茲茲、子を育て多く增す貌なり、

衞康叔世家第七

衞康叔名封、周武王同母少弟也、其次尙有冉季、冉季最少、

【講義】衞の始祖なる康叔は名を封といふ、周の武王の同母弟にして末弟なり、其の末に尙冉季有り、冉季は最も少し、

【字解】衞、殷の都の故墟に位す、今の河南衞輝府淇縣の東北に在り、康、謚に非ず、是れ周の畿內の地名なり、康叔が始めて受けたる地なり、

武王已克殷紂、復以殷餘民、封紂子武庚祿父、比諸侯、以奉其先祀、勿絕、爲武庚未集、恐其有賊心、武王乃令其弟管叔蔡叔傅相武庚祿父、以和其民、

【講義】武王は旣に殷紂に克ち、殷の餘民を以て紂の子なる武庚祿父を封じ、之を諸侯に比し、以て其の先世の祭祀を奉ぜしめ、之を保存す、然れども、武庚の未だ周と親睦せざるを以て、其の賊心有るを恐る、故に武王は其の弟管叔蔡叔をして、武庚祿父に傅たらしめ、之を佐けて殷の餘民を平和ならしむ、

文有り、垂と益と夔と龍との後裔に就きて其の封ぜられたる所を知らず、史傳に見えざるなり、

【字解】英六、兩地の名なり、共に今の安徽六安州に在り、伯夷、首陽山の伯夷に非ず、別人なり、

右十一人者、皆唐虞之際、名有功德臣也、其五人之後、皆至帝王、餘乃爲顯諸侯、滕薛騶、夏殷周之間封也、小不足齒列、弗論也、周武王時、侯伯尚千餘人、及幽厲之後、諸侯力攻相幷、江、黃、胡、沈之屬、不可勝數、故弗采著于傳上、

【講義】右、舜、禹、契、稷、皐陶、伯夷、伯翳、垂、益、夔、龍の十一人は、皆唐堯虞舜の時代に功德の名を揚げたる臣なり、其の中に於て、舜、禹、契、稷、伯翳の五人は、其の子孫皆帝王に至る、其の餘は乃ち顯れたる諸侯と爲れり、夏殷周の間に於ては、滕、薛、騶の國は、功德の人を以て封ぜられたり、然れども、皆小弱にして、列敍するに足らず、故に、論及せず、蓋し周の武王の時には、侯伯の數は、尚千餘人を見る、其の後に至り、周の幽王厲王を經て、王室衰頽し、諸侯は力を以て、相攻め相幷せ取る、其の打ち滅されたる江、黃、胡、沈の諸國の如きは、數ふるに勝ふべからず、故に傳記の上に採錄せず、

【字解】齒列、陳ね列ぶなり、采、採るなり、屬、類なり、

太史公曰、舜之德可謂至矣、禪位于夏、而後世血食者、歷三代、及楚滅陳、而田常得政於齊、卒爲建國、百世不絕、苗裔茲茲、有土者不乏焉、至禹、於周則杞微甚、不足數也、楚惠王滅杞、其後

を出公とす、出公は十二年に卒し、子簡公春立つ、其の立つ一年は、楚の惠王の四十四年なり、楚は杞を滅す、杞は陳の滅亡に後れたること三十四年なり、杞は國小にして、力微なり、其の事跡は、稱述するに足らず、

舜之後周武王封之陳、至楚惠王滅之、有世家言、禹之後、周武王封之杞、楚惠王滅之、有世家言、契之後爲殷、殷有本紀言、殷破、周封其後於宋、齊湣王滅之、有世家言、后稷之後爲周、秦昭王滅之、有本紀言、

【講義】舜の後裔に就きて、周の武王は之を陳に封じ、楚の惠王に滅せらる、世家の文有り、禹の後裔に就きて、周の武王は之を杞に封じ、楚の惠王に滅せらる、世家の文有り、契の後裔に就きて、殷の王室興る、本紀の文有り、殷破れて、周は其の後裔を宋に封ず、齊の湣王に滅せらる、世家の文有り、后稷の後裔に就きて、周の王室興る、秦の昭王に滅せらる、本紀の文有り、

皐陶之後、或封英六、楚穆王滅之、無譜、伯夷之後至周武王復封於齊、曰太公望、陳氏滅之、有世家言、伯翳之後、至周平王時、封爲秦、項羽滅之、有本紀言、垂、益、夔、龍、其後不知所封、不見也、

【講義】皐陶の後裔に就きて、英に封ぜられたる有り、六に封ぜられたる有り、英六の兩國は、楚の穆王に滅され、系譜を存せず、伯夷の後裔に就きて、周の武王は復た之を齊に封ず、太公望といふ、終に陳氏に滅せらる、世家の文有り、伯翳の後裔に就きて、周の平王は之を封じ、秦と爲す、項羽に滅せらる、本紀の

孝公匄立、

【講義】東樓公は西樓公を生み、西樓公は題公を生み、題公は謀娶公を生み、謀娶公は周の厲王の時に當る、謀娶公は武公を生み、武公立ちて四十七年に卒し、子靖公立つ、靖公は二十三年に卒し、子共公立つ、共公は八年に卒し、子德公立つ、德公は十八年に卒し、弟桓公姑容立つ、桓公は十七年に卒し、子孝公匄立つ、

孝公十七年卒、弟文公益姑立、文公十四年卒、弟平公鬱立、平公十八年卒、子悼公成立、悼公十二年卒、子隱公乞立、七月、隱公弟遂、弑隱公自立、是爲釐公、釐公十九年卒、子湣公維立、湣公十五年、楚惠王滅陳、十六年、湣公弟閼路、弑湣公代立、是爲哀公、

【講義】孝公の十七年に、孝公卒し、弟文公益姑立つ、文公は十四年に卒し、弟平公鬱立つ、平公は十八年に卒し、子悼公成立つ、悼公は十二年に卒し、子隱公乞立つ、其の七月に、隱公の弟遂は、隱公を弑して自立す、是を釐公とす、釐公は十九年に卒し、子湣公維立つ、湣公の十五年に、楚の惠王は陳を滅す、十六年に、湣公の弟閼路は、湣公を弑して代り立つ、是を哀公とす、

哀公立、十年卒、湣公子敕立、是爲出公、出公十二年卒、子簡公春立、立一年、楚惠王之四十四年、滅杞、杞後陳亡三十四年、杞小微、其事不足稱述、

【講義】哀公立つ、十年に卒す、湣公の子敕立つ、是

【字解】 艾陵、齊の地なり、艾山に近し、

二十三年、楚之白公勝、殺令尹子西子綦、襲惠王、葉公攻敗白公、白公自殺、二十四年、楚惠王復國、以兵北伐、殺陳湣公、遂滅陳而有之、是歲孔子卒、

【講義】 湣公の二十三年に、楚の白公勝は、令尹子西及び子綦を殺し、惠王を襲ふ、葉公は攻めて白公を敗り、白公自殺す、二十四年に、楚の惠王は國に復り、兵を以て北伐し、陳の湣公を殺し、遂に陳を滅して之を領有す、是の年に孔子卒す、

【字解】 令尹、楚の行政に長たる官名なり、

○杞東樓公者、夏后禹之後、苗裔也、殷時或封或絶、周武王克殷紂、求禹之後、得東樓公、封之於杞、以奉夏后氏祀、

【講義】 杞の東樓公は、夏后禹の後裔なり、殷の世に於て、夏の子孫は、或る時に封ぜられ、或る時に絶えて、變遷を重ねたり、周の武王が殷紂に克つに及びて、禹の後裔を求め、東樓公を得たり、因て之を杞に封じ、以て夏后氏の祀を奉ぜしむ、

【字解】 杞、今の山東青州府に在り、始は淳于に國し、後に緣陵に遷る、何れも今の青州府に屬す、苗裔、子孫なり、

東樓公生西樓公、西樓公生題公、題公生謀娶公、謀娶公當周厲王時、謀娶公生武公、武公立、四十七年卒、子靖公立、靖公二十三年卒、子共公立、共公八年卒、子德公立、德公十八年卒、弟桓公姑容立、桓公十七年卒、子

公乃ち疾を稱して、呉の召に應ぜず、

【字解】胡沈、兩國の名なり、今の河南汝寧府の附近に在り、故、舊交なり、

四年、呉復召懷公、懷公恐、如呉、呉怒其前不往、留之、因卒呉、陳乃立懷公之子越、是爲湣公、

【講義】懷公の四年に、呉は復た懷公を召す、懷公は恐れて呉に往く、呉は懷公が前年呉の召に應ぜざりしを怒り、之を抑留す、因て呉に卒す、陳は乃ち懷公の子越を立てゝ君とす、是を湣公といふ、

湣公六年、孔子適陳、呉王夫差伐陳、取三邑而去、十三年、呉復來伐陳、陳告急楚、楚昭王來救、軍於城父、呉師去、是年楚昭王卒於城父、時孔子在陳、十五年、宋滅曹、

【講義】湣公の六年に、孔子は陳に往く、是の年に、呉王夫差は陳を伐ち、三縣を取り去る、十三年に、呉は復た陳を伐つ、陳は危急を楚に告ぐ、楚の昭王は來り救ひ、軍を城父に駐め、未だ陳に至らず、呉軍退去す、昭王は遂に城父の軍中に卒す、是の時に、孔子は陳に在り、十五年に、宋は曹を滅す、

【字解】城父、楚の地なり、今の安徽潁州府亳州の東南に在り、

十六年、呉王夫差伐齊、敗之艾陵、使人召陳侯、陳侯恐、如呉、楚伐陳、二十一年、齊田常弑其君簡公、

【講義】湣公の十六年に、呉王夫差は齊を伐ち、之を艾陵に敗る、遂に人をして陳侯を召さしむ、陳侯は恐れて呉に往く、楚は陳を伐つ、二十一年に、齊の田常は、其の君なる簡公を弑す、

て、世世相守り、胡公に及び、周は之に嬀姓を賜ひ、虞帝を祀らしめたり、且つ盛德の後裔は、百世必らず祀らるべし、虞の世は、未だ其の滅亡の時に達せず、其れ齊に在りて興起せんか、

【字解】陳、虞氏より出で、嬀氏と爲り、田氏と爲る、

楚靈王滅陳五歲、楚公子弃疾弒靈王代立、是爲平王、平王初立、欲得和諸侯、乃求故陳悼太子師之子吳、立爲陳侯、是爲惠公、惠公立、探續哀公卒時年、而爲元、空藉五歲矣、

【講義】楚の靈王が陳を滅して五年の後に、楚の公子弃疾は靈王を弒して、代り立つ、是を平王とす、平王は始めて立ち、平和を諸侯に得んと欲し、乃ち故の陳の悼太子師の子吳を求め、之を立てゝ、陳侯と爲す、是を惠公といふ、惠公立ちて、哀公卒去の年を探り續ぎ、之を元年とす、國籍を空くすること五年なり、

七年、陳火、十五年、吳王僚、使公子光伐陳、取胡沈而去、二十八年、吳王闔閭、與子胥敗楚、入郢、是年惠公卒、子懷公柳立、懷公元年、吳破楚在郢、召陳侯、陳侯欲往、大夫曰、吳新得意、楚王雖亡、與陳有故、不可倍、懷公乃以疾謝吳、

【講義】惠公の七年に、陳國は火事の害に遭ふ、十五年に、吳王僚は公子光をして、陳を伐たしめ、胡と沈との兩國を取り去る、二十八年に、吳王闔閭は、伍子胥と共に、楚を敗り、其の首都なる郢に入る、是の年に、惠公卒す、子懷公柳立つ、懷公の元年に、吳王は楚を敗り、郢に駐在して、陳侯を召す、陳侯は往かんと欲す、大夫曰く、吳は新に意を得たり、然れども、楚は陳と舊交有り、今や亡ぶと雖も、背くべからずと、懷

を生み、少妾は勝を生む、留は哀公に寵愛せらる、哀公は之を其の弟なる招に托す、招は司徒の官たり、既にして哀公病む、是の年の三月に、招は悼太子を殺し、留を立て、太子と爲す、哀公怒り、招を誅せんと欲す、招は兵を發して哀公を圍み守る、哀公は自から縊れて死す、招は終に留を立て丶陳君と爲す、

【字解】司徒、大臣の如し、民事警察敎育等の長官なり、經、縊なり、

四月、陳使使赴楚、楚靈王聞陳亂、乃殺陳使者、使公子弃疾發兵伐陳、陳君留奔鄭、九月楚圍陳、十一月、滅陳、使弃疾爲陳公、

【講義】其の年の四月に、陳は使を發して國君の更立を楚に告ぐ、楚の靈王は陳の亂を聞き、乃ち陳の使者を殺し、公子弃疾をして、兵を發し陳を伐たしむ、陳君留は鄭に奔る、其の年の九月に、楚は陳を圍み、十一月に陳を滅す、乃ち公子弃疾をして陳公と爲らしむ、

招之殺悼太子也、太子之子名吳出奔晉、晉平公問太史趙曰、陳遂亡乎、對曰陳顓頊之族、陳氏得政於齊、乃卒亡、自幕至于瞽瞍、無違命、舜重之以明德、至於遂、世世守之、及胡公、周賜之姓、使祀虞帝、且盛德之後、必百世祀、虞之世未也、其在齊乎、

【講義】陳の司徒招が、悼太子を殺すや、悼太子の子なる吳は、晉に出奔す、晉の平公は、太史趙に問ひ曰く、陳は遂に亡びんか、太史趙は對へて曰く、未だ亡びず、夫れ陳は古代の帝たる顓頊の族なり、陳氏が齊國に於て政權を得るに至らば、陳國は亡びん、顓頊の後に幕といふもの有り、以て舜の父なる瞽瞍に至るまで、天命に違ふもの無し、舜は之を重ぬるに明德を以てし、遂といふものに至る、遂は般の初に封土を得

一言、

【講義】莊王曰く善し、乃ち陳の靈公の太子午を晉より迎へて、之を立て、再び陳國に君臨せしむること、舊時の如し、是の新君を成公とす、孔子は史記を讀み、楚が陳を復興したるを觀て曰く、賢なるかな莊王や、千乘の陳國を輕く棄てゝ、一言の忠諫を重く用ひたりと、

【字解】故、舊なり、千乘、車兵十萬人なり、

二十八年、楚莊王卒、二十九年、陳倍楚盟、三十年、楚共王伐陳、是歳成公卒、子哀公弱立、楚以陳喪、罷兵去、哀公三年、楚圍陳、復釋之、二十八年、楚公子圍弑其君郟敖、自立爲靈王、

【講義】成公の二十八年に、楚の莊王卒す、二十九年に陳は楚の盟に背く、三十年に、楚の共王は陳を伐つ、是の歳に、成公卒し、子哀公弱立つ、楚は陳の喪を以て、兵を罷め去る、哀公の三年に、楚は陳を圍み、復た之を釋す、二十八年に、楚の公子圍は、其の君なる郟敖を弑し、自立して靈王と爲る、

三十四年、初哀公娶鄭長姬、生悼太子師、少姬生偃、二嬖妾、長妾生留、少妾生勝、留有寵哀公、哀公屬之其弟司徒招、哀公病、三月、招殺悼太子、立留爲太子、哀公怒、欲誅招、招發兵圍守哀公、哀公自經殺、招卒立留爲陳君、

【講義】哀公の三十四年に、陳亂る、是より先に、哀公は鄭の長姬を娶る、悼太子師を生む、別に鄭の少姬を納れて偃を生む、更に寵愛する二妾有り、長妾は留

成公元年冬、楚莊王爲夏徵舒殺靈公、率諸侯伐陳、謂陳曰、無驚、吾誅徵舒而已、已誅徵舒、因縣陳而有之、羣臣畢賀、申叔時使於齊、來還、獨不賀、

【講義】 成公の元年冬に、楚の莊王は陳の夏徵舒が其の君なる靈公を弑せしに由り、諸侯を率ゐて陳を伐つ、陳人に謂ひ曰く、驚く勿れ、吾は徵舒を誅するのみと、既にして徵舒を誅し、因て陳を縣制に改め、之を楚の領地とす、群臣皆賀す、大夫申叔時は齊に使して還り至る、獨り賀せず、

莊王問其故、對曰、鄙語有之、牽牛徑人田、田主奪之牛、徑則有罪矣、奪之牛、不亦甚乎、今王以徵舒爲賊弑君、故徵兵諸侯、以義伐之、已而取之、以利其地、則後何以令於天下、是以不賀、

【講義】 莊王は其の故を問ふ、申叔時對へて曰く、鄙語にこれ有り、牛を牽きて他人の田地を通過するもの有り、其の田地の持主は、其の牛を奪ひ取る、夫れ通過したるものは罪有り、然れども、牛を奪ひ取るは、其の暴も甚しからずやと、今や王は徵舒を以て、君を賊弑したるものと認め、兵を諸侯に徵し、義を以て之を伐つ、既にして陳國を取る、以て其の領土を貪る、斯くして後に、何を以て天下に號令するを得んや、是を以て、臣は賀せずと、

【字解】 牽、牽くなり、徑、通過するなり、利、貪るなり、

莊王曰、善、乃迎陳靈公太子午於晉、而立之、復君陳如故、是爲成公、孔子讀史記、至楚復陳、曰、賢哉、楚莊王、輕千乘之國、而重

年に陳は楚と相和す、

十四年、靈公與其大夫孔寧儀行父、皆通於夏姬、衷其衣、以戲于朝、泄冶諫曰、君臣淫亂、民何效焉、靈公以告二子、二子請殺泄冶、公弗禁、遂殺泄冶、

【講義】靈公の十四年に、靈公は其の大夫孔寧儀及び行父と共に、大夫御叔の妻なる夏姬に私通し、夏姬の衣を取りて、之を肌に着け、以て政事堂に戲る、大夫泄冶は諫めて曰く、君臣淫亂す、民は何をか效はん、其の政事は荒廢せんのみと、靈公は之を孔寧儀と行父とに告ぐ、兩人は泄冶を殺さんと請ふ、靈公は之を禁ぜず、遂に泄冶を殺せり、

【字解】衷、着込みなり、肌に接して中に被ることなり、ウチニスと訓す、

十五年、靈公與二子、飮於夏氏、公戲二子曰、徵舒似汝、二子曰、亦似公、徵舒怒、靈公罷酒出、徵舒伏弩廐門、射殺靈公、孔寧儀行父、皆奔楚、靈公太子午奔晉、徵舒自立、爲陳侯、徵舒故陳大夫也、夏姬御叔之妻、舒之母也、

【講義】靈公の十五年に、靈公は孔寧儀及び行父と共に、夏姬の家に宴飮す、公は兩人に戲れて曰く、夏姬の子なる徵舒は汝に似たりと、兩人曰く、徵舒は公に似たりと、徵舒は之を聽き、其の淫亂の行を比擬せられたるを怒り、公が酒を罷めて出づるを窺ひ、大弓を廐の門に張りて、公を射殺す、孔寧儀行父は、共に楚に奔る、靈公の太子午は晉に奔る、徵舒は自立し、陳侯と爲る、徵舒は本來陳の大夫なり、夏姬は御叔の妻にして、徵舒の母なり、

【字解】弩、大弓なり、機械を以て矢或は石を放つに用ふ、

競爭するもの無きに至らんと、

【字解】卿、大臣なり、羈、寄寓なり、工正、工藝の長官なり、鳳皇、鳳は靈鳥の雄なり、皇、凰に同じ、凰の雌なり、于、玆なり、鏘鏘、金石を奏する美音なり、有、大なり、京、大なり、

三十七年、齊桓公伐蔡、蔡敗、南侵楚、至召陵、還過陳、陳大夫轅濤塗、惡其過陳、詐齊令出東道、東道惡、桓公怒、執陳轅濤塗、是歲、晉獻公殺其太子申生、四十五年、宣公卒、子款立、是爲穆公、

【講義】宣公の三十七年に、齊の桓公は蔡を伐つ、蔡敗る、齊は南に進みて楚を侵し、召陵に至り、還りて陳を通過せんとす、陳の大夫轅濤塗は、齊軍が陳を通過するを嫌惡し、齊を欺き東夷の道に出でしむ、東夷の道は通過し難し、桓公怒り、轅濤塗を執ふ、是の歲に、晉の獻公は其の太子申生を殺す、四十五年に、宣公卒す、子款立つ、是を穆公とす、

穆公五年、齊桓公卒、十六年、晉文公敗楚師于城濮、是歲、穆公卒、子共公朔立、

【講義】穆公の五年に、齊の桓公卒す、十六年に、晉の文公は楚軍を衞の城濮に敗る、是の歲に、穆公卒す、子共公朔立つ、

共公六年、楚太子商臣弑其父成王代立、是爲穆王、十一年、秦穆公卒、十八年共公卒、子靈公平國立、靈公元年、楚莊王卽位、六年楚伐陳、十年陳及楚平、

【講義】共公の六年に、楚の太子商臣は、其の父成王を弑して、代り立つ、是を穆王とす、十一年に、秦の穆公卒す、十八年に、共公卒す、子靈公平國立つ、靈公の元年に、楚の莊王は卽位す、六年に、楚は陳を伐つ、十

莊公、莊公七年卒、少弟杵臼立、是爲宣公、宣公三年、楚武王卒、楚始彊、十七年、周惠王取陳女、爲后、二十一年、宣公後有嬖姬、生子款、欲立之、乃殺其太子禦寇、禦寇素愛厲公子完、完懼禍及己、乃奔齊、

【講義】利公立つ、五月にして卒す、中弟林を立つ、是を莊公とす、莊公七年卒す、少弟杵臼立つ、是を宣公とす、宣公の三年に、楚の武王卒し、楚は始めて强し、十七年に、周の惠王は陳君の女を取り、后とす、二十一年に、宣公が後れて納れたる寵姬は、子款を生む、宣公は之を立てんと欲す、因て太子禦寇を殺す、禦寇は素より厲公の子なる敬仲完を愛す、故に、敬仲完は其の禍の自己に及ぶを懼れて、齊に奔る、

【字解】嬖姬、寵愛せらるゝ妾なり、

齊桓公欲使陳完爲卿、完曰、羈旅之臣、幸得免負擔、君之惠也、不敢當高位、桓公使爲工正、齊懿仲欲妻陳敬仲、卜之、占曰、是謂鳳皇于飛、和鳴鏘鏘、有嬀之後、將育于姜、五世其昌、竝于正卿、八世之後、莫之與京、

【講義】齊の桓公は、陳の敬仲完を擧げて、卿と爲さんと欲す、完曰く、寄旅の臣にして、幸に荷物を負ふことの苦勞を免るゝは、君の惠なり、高位に當るを敢てせずと、桓公乃ち完を用ひて、工正の官とす、齊の懿仲は、其の女を以て完に嫁せんと欲す、之を龜卜に問ふ、其の占に曰く、是を鳳凰の玆に飛び、其の雄雌和鳴して、鏘鏘たる金石の美音を奏する兆とす、大嬀の後裔は、姜氏に育てられんとす、五代にして繁昌し、國の正卿に竝び、八代の後は雄盛にして、これに

賓于王、此其代陳有國乎、不在此、其在異國、非此其身、在其子孫、若在異國、必姜姓、姜姓太嶽之後、物莫能兩大、陳衰、此其昌乎、

【講義】厲公の二年に、子敬仲完を生む、周の太史は陳を通過す、厲公乃ち太史をして周易に由り、敬仲完を筮せしむ、其卦は觀䷓の否䷋に之くを得たり、太史曰く、是は往きて國の德化を觀る、其の王に禮遇せられて、之に事ふるに利有る兆と爲す、此れ其れ陳に代りて、國を有たんか、其の有つは、此の陳國に非ずして、異國ならん、其の敬仲完の身に非ずして、其の子孫に在らん、果して異國に在らば、必らず姜姓ならん、姜姓は堯帝に事へたる大臣の後裔なり、蓋し物は兩者竝び大なる能はず、陳國衰へて、此の敬仲完の家は、其れ繁昌せんかと、

【字解】觀之否、風地觀の卦より變じて、天地否の卦となるなり、賓、禮遇なり、君の知遇を受くるなり、太嶽、四岳なり、堯舜時代の大臣たる官名なり、

厲公取蔡女、蔡女與蔡人亂、厲公數如蔡淫、七年、厲公所殺桓公太子免之三弟、長曰躍、中曰林、少曰杵臼、共令蔡人誘厲公以好女、與蔡人共殺厲公、而立躍、是爲利公、利公者、桓公子也、

【講義】厲公は蔡の女を娶る、蔡の女は蔡人と私通す、厲公も數度蔡に往き荒淫す、厲公の七年に、太子免の三弟なる躍と林と杵臼とは、太子免の厲公に殺されたるを怨み、蔡人をして厲公を誘ふに美女を以てせしめ、遂に蔡人と謀りて、厲公を殺し躍を立つ、是を利公とす、利公は桓公の子なり、

利公立、五月卒、立中弟林、是爲

三年、平公卒、子文公圉立、

【講義】釐公の六年に、周の宣王は卽位す、三十六年に釐公卒し、子武公靈立つ、武公十五年に卒し、子夷公說立つ、是の歲に、周の幽王卽位す、夷公三年に卒し、弟平公燮立つ、平公七年に、周の幽王は犬戎に殺され、周は東に徙り、秦は始めて列し、諸侯と爲る、二十三年に平公卒し、子文公圉立つ、

文公元年、取蔡女、生子佗、十年文公卒、長子桓公鮑立、桓公二十三年、魯隱公初立、二十六年、衞殺其君州吁、三十三年、魯弑其君隱公、三十八年正月甲戌、己丑、陳桓公鮑卒、桓公弟佗、其母蔡女、故蔡人爲佗殺五父及桓公太子免而立佗、是爲厲公、桓公病而亂作、國人分散、故再赴、

【講義】文公の元年に、蔡君の女を娶り、子佗を生む、十年に、文公卒し、長子桓公鮑立つ、桓公の二十三年に、魯の隱公始めて立つ、二十六年に、衞は其君州吁を殺す、三十三年に、魯は其の君隱公を弑す、三十八年正月甲戌の日及び己丑の日に、桓公卒す、桓公に弟有り、佗といふ、其の母は蔡君の女なり、故に蔡人は佗の爲めに、五父及び桓公の太子免を殺して、佗を立つ、是を厲公とす、此の騷動は、桓公の病中より起る、國人は分散す、故に桓公の卒去に就きて、諸侯に告ぐること再度に及び、遂に甲戌と己丑との兩日を報ずるに至れり、

【字解】五父、人名なり、赴、告ぐるなり、

厲公二年、生子敬仲完、周太史過陳、陳厲公使以周易筮之、卦得觀之否、是爲觀國之光、利用

爲封國、夏后之時、或失或續、至于周、武王克殷紂、乃復求舜後、得嬀滿、封之於陳、以奉帝舜祀、是爲胡公、

【講義】帝舜は既に崩じ、天下を夏禹に傳ふ、因て帝舜の子なる商均は、諸侯と爲り、封土を得て、河南の虞城に國せり、夏后氏の時に、商均の子孫は、或は國を失ひ、或は祀を續ぎ、興衰變遷せり、周の武王が殷紂に克つに至り、乃ち再び舜の後裔を求めて、嬀滿を得たり、之を封じて、陳國を建て、帝舜の祀を奉ぜしむ、是を胡公といふ、

胡公卒、子申公犀侯立、申公卒、弟相公皐羊立、相公卒、立申公子突、是爲孝公、孝公卒、子愼公圉戎立、愼公當周厲王時、愼公卒、子幽公寧立、幽公十二年、周厲王奔于彘、二十三年幽公卒、子釐公考立、

【講義】胡公卒し、子申公犀侯立つ、申公卒し、弟相公皐羊立つ、相公卒し、申公の子突を立つ、是を孝公とす、孝公卒し、子愼公圉戎立つ、愼公は周の厲王の時に當る、愼公卒し、子幽公寧立つ、幽公十二年に、周の厲王は彘に出奔す、二十三年に幽公卒し、子釐公孝立つ、

釐公六年、周宣王卽位、三十六年、釐公卒、子武公靈立、武公十五年卒、子夷公説立、是歲周幽王卽位、夷公三年卒、弟平公燮立、平公七年、周幽王爲犬戎所殺、周東徙、秦始列爲諸侯、二十

歸、而殺之、曹遂絕其祀、

【講義】伯陽の十四年に、曹君は公孫彊の說に從ひ、晉に背き宋を侵す、宋の景公は曹を伐つ、晉人は之を救はず、十五年に、宋は曹を滅し、伯陽及び公孫彊を執へて歸り、之を殺す、曹は遂に其の祀を絕つ、

太史公曰、余尋曹共公之不用僖負羈、乃乘軒者三百人、知唯德之不建、乃振鐸之夢、豈不欲引曹之祀者哉、如公孫彊不脩厥政、叔鐸之祀忽諸、

【講義】太史公曰く、余は史を尋ねて、曹の共公が僖負羈の忠諫を用ひず、却て其の寵愛者三百人も、大車に乘るを見る、以て其德の建たざるを知る、然れども、其の始祖振鐸の夢に現れたるは、豈曹の祀を延すを希望せざるものならんや、公孫彊が其の政事を修めざる亂行の如きに至りて、振鐸の祀は忽ち斷絕す、惜むべし、

【字解】僖、釐に通ず、軒、大車なり、叔鐸、振鐸に同じ、忽諸、忽なり、

陳杞世家第六

陳胡公滿者、虞帝舜之後也、昔舜爲庶人時、堯妻之二女、居于嬀汭、其後因爲氏姓、姓嬀氏、

【講義】陳の始祖なる胡公滿は、虞帝舜の後裔なり、昔時舜が民間に在るに當り、帝堯は其の二女を以て、舜の妻と爲し、嬀汭に居らしむ、其の後裔は、之を氏姓とし、嬀氏といふ、

【字解】陳、今の河南陳州府淮寧縣なり、嬀汭、今の河南歸德府虞城縣の西に在り、嬀水の隈なり、汭は水の隈なり、

舜已崩、傳禹天下、而舜子商均、

之、請待公孫彊、許之、且求之曹、無此人、夢者戒其子曰、我亡爾聞公孫彊爲政、必去曹、無離曹禍、

【講義】伯陽の三年に、曹國の或る者は、夢に見る所有り、其の夢は下文の如し、衆多の君子は、廟内の殿上に在り、曹を亡さんことを謀る、是の時に、曹の始祖なる叔振鐸は出で來り、之を止めて曰く、請ふ公孫彊を待てよと、衆多の君子は之を承諾し、公孫彊といふものを曹の國中に求む、竟に其の人を得ず、是の夢を見たるものは、其の子を戒めて曰く、我の死去したる後に、汝は公孫彊といふ者が政事を執ると聞かば、必らず曹を去るべし、曹の滅亡する禍に罹る勿れと、

【字解】社宮、廟中の殿なり、爾、汝なり、離、罹るなり、

及伯陽卽位、好田弋之事、六年、曹野人公孫彊亦好田弋、獲白鴈而獻之、且言田弋之說、因訪政事、伯陽大說之、有寵、使爲司城以聽政、夢者之子乃亡去、公孫彊言霸說於曹伯、

【講義】伯陽は位に卽きたる後に、射獵の事を好む、六年に、曹の野人公孫彊も射獵を好み、白鴈を獲て之を獻ず、且つ射獵の事を說く、因て政事を言ふ、伯陽は大に之を悅び、寵愛し、司城と爲らしめ、以て政事を聽かしむ、是に於て、前年の夢を見たるものゝ子は、曹を亡げ去る、公孫彊は霸業の說を曹君に述ぶ、

【字解】田弋、田は獵なり、弋は射繳なり、絲を箭に附けて射ることなり、訪、問ふなり、說、悅ぶなり、司城、大夫なり、

十四年、曹伯從之、乃背晉干宋、宋景公伐之、晉人不救、十五年、宋滅曹、執曹伯陽及公孫彊以

以歸、已復釋之、五年、晉欒書中行偃、使程滑弑其君厲公、二十三年、成公卒、子武公勝立、武公二十六年、楚公子棄疾、弑其君靈王、代立、二十七年、武公卒、子平公頃立、平公四年卒、子悼公午立、是歲、宋衛陳鄭皆火、

【講義】成公の三年に、晉の厲公は曹を伐ち、成公を虜にして歸る、既にして之を釋す、五年に、晉の欒書中行偃は、程滑をして晉君厲公を弑せしむ、二十三年に、成公卒し、子武公勝立つ、武公の二十六年に、楚の公子棄疾は、其の君靈王を弑し、代り立つ、二十七年に武公卒し、子平公頃立つ、平公四年卒し、子悼公午立つ、是の歲に宋衛陳鄭の四國は、皆放火の害に遭ふ、

悼公八年、宋景公立、九年悼公朝於宋、宋囚之、曹立其弟野、是爲聲公、悼公死於宋、歸葬、聲公五年、平公弟通弑聲公、代立、是爲隱公、隱公四年、聲公弟露、弑隱公代立、是爲靖公、靖公四年卒、子伯陽立、

【講義】悼公の八年に、宋の景公立つ、九年に、悼公は宋に朝見す、宋は悼公を囚ふ、是に於て、曹は悼公の弟野を立て、聲公とす、悼公は宋に死し、其の國に歸葬す、聲公の五年に、平公の弟通は、聲公を弑し、代り立つ、是を隱公とす、隱公の四年に、聲公の弟露は、隱公を弑して代り立つ、是を靖公とす、靖公四年に卒す、子伯陽立つ、

伯陽三年、國人有夢、衆君子立于社宮、謀欲亡曹、曹叔振鐸止

共公十六年、初晉公子重耳、其亡過曹、曹君無禮、欲觀其駢脅、釐負羈諫、不聽、私善於重耳、二十一年、晉文公重耳伐曹、虜共公以歸、令軍毋入釐負羈之宗族閭、或說晉文公曰、昔齊桓公會諸侯、復異姓、今君囚曹君、滅同姓、何以令於諸侯、晉乃復歸共公、

【講義】共公の十六年に、其の大夫釐負羈は晉君に親む、是より先に、晉の公子重耳は晉を亡げて、曹を通過す、曹君無禮なり、晉の公子肋骨一枚に竝びたるを觀んと欲して、釐負羈の諫を聽かず、是に於て、釐負羈は獨り私に重耳に親交す、二十一年に、晉の文公重耳は、曹を伐ち、共公を虜にして歸る、其の軍に命令して、釐負羈が宗族の居處に侵入するを禁ず、是に於て、或人は文公に說きて曰く、昔時齊の桓公は、諸侯を會同して、異姓の國を恢復せしめたり、然るに今や、君は曹君を囚へて、同姓の國を滅す、何を以て諸侯に號令するを得んやと、文公乃ち共公を曹に復歸せしむ、

【字解】駢脅、ベンケフ、と讀む、胸の骨の竝びて一枚に見ゆるをいふ、宗族、本家及び其の支族なり、閭、二十五家の一郭なり、居處なり、

二十五年、晉文公卒、三十五年共公卒、子文公壽立、文公二十三年卒、子宣公彊立、宣公十七年卒、弟成公負芻立、

【講義】共公の二十五年に、晉の文公卒す、三十五年に共公卒し、子文公壽立つ、文公二十三年卒し、子宣公彊立つ、宣公十七年卒し、弟成公負芻立つ、

成公三年、晉厲公伐曹、虜成公、

二十五年、周幽王爲犬戎所殺、因東徙益卑、諸侯畔之、秦始列爲諸侯、三十六年、惠伯卒、子石甫立、其弟武殺之、代立、是爲繆公、繆公三年卒、子桓公終生立、桓公三十五年、魯隱公立、四十五年、魯弑其君隱公、

【講義】戴伯の元年に、周の宣王は既に立ちて三年なり、三十年に戴伯卒し、子惠伯兕立つ、惠伯の二十五年に、周の幽王は犬戎に殺され、周は此に由り東に遷り、益ゝ卑弱と爲る、諸侯は周に叛き、秦は始めて列して諸侯と爲る、三十六年に惠伯卒し、子石甫立つ、惠伯の弟武は、石甫を殺して代り立つ、是を繆公とす、繆公三年に卒し、子桓公終生立つ、桓公の三十五年に、魯の隱公立つ、四十五年に、魯は其の君隱公を弑す、

四十六年、宋華父督弑其君殤公、及孔父、五十五年、桓公卒、子莊公夕姑立、莊公二十三年、齊桓公始霸、三十一年、莊公卒、子釐公夷立、釐公九年卒、子昭公班立、昭公六年、齊桓公敗蔡、遂至楚召陵、九年昭公卒、子共公襄立、

【講義】桓公の四十六年に、宋の華父督は其の君なる殤公を弑し、其の大夫孔父を殺す、五十五年に、桓公卒し、子莊公夕姑立つ、莊公の二十三年に、齊の桓公は始めて霸を成せり、三十一年に、莊公卒し、子釐公夷立つ、釐公の九年に、釐公卒し、子昭公班立つ、昭公の六年に、齊の桓公は蔡を敗り、遂に楚の召陵に至る、九年に、昭公卒し、子共公襄立つ、

賴同母之弟成叔冉季之屬十人爲輔拂、是以諸侯卒宗周、故附之世家言、

【講義】太史公曰く、管叔は亂を作す、其の事業は載するに足るもの無し、然れども、周の武王崩じて、成王少し、天下皆既に疑懼し、周室危殆なり、幸に武王の同母弟なる成叔冉季の屬十人有りて、相輔佐するに賴り、王業を保つを得たり、是を以て、諸侯は終に周を宗長とす、故に管蔡を世家の文に附す、

【字解】十人、伯邑考武王等の總數にして、管蔡以下を稱するに非ず、輔拂、輔佐なり、拂は弼に通ず、

曹叔世家 附

曹叔振鐸者、周武王弟也、武王已克殷紂、封叔振鐸於曹、叔振鐸卒、子太伯脾立、太伯卒、子仲君平立、仲君平卒、子宮伯侯立、宮伯侯卒、子孝伯雲立、孝伯雲卒、子夷伯喜立、夷伯二十三年、周厲王奔于彘、三十年卒、弟幽伯彊立、幽伯九年、弟蘇殺幽伯、代立、是爲戴伯、

【講義】曹國の始祖なる叔振鐸は、周の武王の弟なり、武王は既に殷紂に克ち、叔振鐸を曹に封ず、振鐸卒し、子太伯脾立つ、太伯卒し、子仲君平立つ、仲君平卒し、子宮伯侯立つ、宮伯侯卒し、子孝伯雲立つ、孝伯雲卒し、子夷伯喜立つ、夷伯の二十三年に、周の厲王は彘に出奔す、三十年に夷伯卒し、弟幽伯彊立つ、幽伯の九年に、其の弟蘇は幽伯を殺し、代り立つ、是を戴伯とす、

【字解】曹、今の山東曹州府なり、

戴伯元年、周宣王已立、三歲、三十年戴伯卒、子惠伯兕立、惠伯

十五年卒、子元侯立、元侯六年卒、子侯齊立、

【講義】成侯の四年に、宋は曹を滅す、十年に齊の田常は其の君なる簡公を弑す、十三年に楚は陳を滅す、十九年に成侯卒し、子聲侯產立つ、聲侯十五年に卒し、子元侯立つ、元侯六年に卒し、子侯齊立つ、

【字解】曹、曹叔世家に詳なり、陳、陳杞世家に載す、

侯齊四年、楚惠王滅蔡、蔡侯齊亡、蔡遂絕祀、後陳滅三十三年、

【講義】侯齊の四年に、楚の惠王は蔡を滅す、蔡の侯齊亡ぶ、蔡は遂に祀を絕つ、陳國の滅亡よりも三十三年後れたり、

伯邑考、其後不知所封、武王發、其後爲周、有本紀言、管叔鮮作亂、誅死無後、周公旦其後爲魯、有世家言、蔡叔度其後爲蔡、有世家言、曹叔振鐸其後爲曹、有世家言、成叔武其後世無所見、霍叔處其後晉獻公時滅霍、康叔封其後爲衞、有世家言、冉季載其後世無所見、

【講義】周の文王の子十人の中に於て、伯邑考は其の後に至り、封土を知るを得ず、武王發は其の後を周とす、本紀の文有り、管叔鮮は亂を作し、誅死して後無し、周公旦は其の後を魯とす、世家の文有り、蔡叔度は其の後を蔡とす、世家の文有り、曹の叔振鐸は其の後を曹とす、世家の文有り、成叔武は其の後世に就きて見る所無し、霍叔處は其の後に至り、晉の獻公の時に滅せらる、康叔封は、其の後を衞とす、世家の文有り、冉季載は其の後世に就きて見る所無し、

太史公曰、管叔作亂、無足載者、然周武王崩、成王少、天下既疑、

は恐れて鄭に奔る、十四年に、吳兵は楚を去る、楚の昭王は其の國に復る、十六年に、楚の令尹は其の民の爲めに泣き、蔡を攻めんことを謀る、蔡の昭侯懼る、

【字解】邵陵、今の河南許州に在り、沈、今の河南汝寧府に在り、令尹、楚の行政長官なり、求長於衞、蔡を上席に置くことを衞に請求す、

二十六年、孔子如蔡、楚昭王伐蔡、蔡恐、告急於吳、吳爲蔡遠、約遷以自近、易以相救、昭侯私許、不與大夫計、吳人來救蔡、因遷蔡于州來、

【講義】昭侯の二十六年に、孔子は蔡に往く、楚の昭王は蔡を伐つ、蔡恐る、因て急を吳に告ぐ、吳は蔡の遠きが爲めに、其の國を遷して、吳に近接せしめ、以て相救ふに便なるを約す、昭侯は私に之を許し、未だ其の大夫に計らず、吳人は來りて蔡を救ひ、因て蔡を州來に遷す、

【字解】州來、今の安徽鳳陽府壽州の北に在り、蔡は始めて上蔡に國し、第二世の蔡仲に至り、新蔡に遷り、遂に州來に徙る、州來を下蔡と稱す、上蔡新蔡は共に河南汝寧府に在り、相近し、

二十八年、昭侯將朝于吳、大夫恐其復遷、乃令賊利殺昭侯、已而誅賊利、以解過、而立昭侯子朔、是爲成侯、

【講義】昭侯の二十八年に、昭侯は吳に入朝せんと欲す、其の大夫は再び他の地に遷されんことを恐れ、乃ち賊の利といふものをして昭侯を殺さしむ、既にして、賊利を誅し、以て罪過を辨解し、昭侯の子朔を立つ、是を成侯とす、

成侯四年、宋滅曹、十年、齊田常弒其君簡公、十三年楚滅陳、十九年成侯卒、子聲侯產立、聲侯

昭侯十年、朝楚昭王、持美裘二、獻其一於昭王、而自衣其一、楚相子常欲之、不與、子常讒蔡侯、留之楚、三年、蔡侯知之、乃獻其裘於子常、子常受之、乃言歸蔡侯、蔡侯歸而之晉、請與晉伐楚、

【講義】昭侯の十年に、昭侯は楚の昭王に朝見す、美裘二を持ちて、其の一を昭王に獻じ、自から其の一を被る、楚の宰相たる子常は、其の裘を希望す、昭侯は之を與へず、是に於て、子常は蔡侯を讒言し、之を楚に抑留す、三年の後に、蔡侯は其の事情を知り、其の裘を子常に獻ず、子常は之を受け、乃ち蔡侯の釋すべきを言ひて、之を歸國せしむ、蔡侯歸りて晉に之き、請ひて晉と共に楚を伐たんとす、

十三年春、與衞靈公、會邵陵、蔡侯私於周萇弘、以求長於衞、衞使史鰌言康叔之功德、乃長衞、夏爲晉滅沈、楚怒攻蔡、蔡昭侯使其子爲質於吳、以共伐楚、冬與吳王闔閭、遂破楚入郢、蔡怨子常、子常恐、奔鄭、十四年吳去、而楚昭王復國、十六年、楚令尹爲其民泣、以謀蔡、蔡昭侯懼、

【講義】昭侯の十三年春に、昭侯は衞の靈公と衞の邵陵に會す、蔡侯は周の大夫萇弘に私請して、蔡を上席にせんことを求む、衞は其の大夫史鰌をして、衞の始祖康叔の功德を言はしむ、因て衞を上席として會す、此の年の夏に、蔡は晉の爲めに沈國を滅す、楚は怒り蔡を攻む、蔡の昭侯は、其の子をして吳に質と爲らしめ、因て吳と共に楚を伐つ、其の年の冬に、蔡は吳王闔閭と共に、楚を破り、楚の首都なる郢に入る、昭侯は裘の事を以て、楚の子常を怨む、故に、子常

爲蔡公、

【講義】 靈侯の十二年に、楚の靈王は靈侯が其の父を弑せしを以て、靈侯を申城に誘引し、兵を伏して酒を勸め、靈侯を醉はして之を殺し、其の士卒七十人を斬り、公子棄疾をして蔡の都を圍ましむ、其の年の十一月に、楚は蔡を滅し、棄疾をして蔡公と爲らしむ、

【字解】 申、鄭の地なり、今の河南開封府汜水縣に在り、甲、兵士なり、

楚滅蔡三歲、楚公子棄疾、弑其君靈王代立、爲平王、平王乃求蔡景侯少子廬立之、是爲平侯、是年楚亦復立陳、楚平王初立、欲親諸侯、故復立陳蔡後、

【講義】 楚は蔡を滅して、三年の後に、楚の公子棄疾は、其の君なる靈王を弑し、代り立ちて平王と爲る、平王は乃ち蔡の景侯の少子廬を求めて、之を立つ、是を平侯とす、是の年に、楚は更に陳の後を立つ、蓋し楚の平王は始めて立ち、諸侯と親交せんと欲す、故に陳蔡兩國の後嗣を復立したるなり、

平侯九年卒、靈侯般之孫東國、攻平侯子而自立、是爲悼侯、悼侯父曰隱太子友者、靈侯之太子、平侯立而殺隱太子、故平侯卒、而隱太子之子東國、攻平侯子而代立、是爲悼侯、悼侯三年卒、弟昭侯申立、

【講義】 平侯の九年に、平侯卒す、靈侯般の孫東國は、平侯の子を攻めて自立す、是を悼侯とす、蓋し悼侯の父を隱太子友と曰ふ、是れ靈侯の太子なり、然るに、平侯立ちて隱太子を殺せり、故に平侯卒して、隱太子の子東國は、平侯の子を攻めて、代り立つ、是を悼侯とす、悼侯は三年にして卒す、弟昭侯申立つ、

陳、殺夏徴舒、十五年、楚圍鄭、鄭降楚、楚復釋之、二十年文侯卒、子景侯同立、

【講義】莊侯の三年に、齊の桓公卒す、十四年に、晉の文公は城濮の戰に於て、楚を敗走せしむ、二十年に、楚の太子商臣は、其の父成王を弑して代り立つ、二十五年に、秦の穆公卒す、三十三年に、楚の莊王卽位す、三十四年に、莊侯卒す、子文侯申立つ、文侯の十四年に、楚の莊王は陳を伐ち、其の逆臣夏徴舒を殺す、十五年に、楚は鄭の都を圍む、鄭は楚に降る、楚は之を釋す、二十年に文侯卒す、子景侯同立つ、

【字解】城濮、衛の地なり、晉の世家に詳なり、釋、釋すなり、鄭、世家に詳なり、

景侯元年、楚莊王卒、二十九年、景侯爲太子般娶婦於楚、而景侯通焉、太子弑景侯而自立、是爲靈侯、靈侯二年、楚公子圍弑其王郟敖而自立、爲靈王、九年、陳司徒招、弑其君哀公、楚使公子棄疾滅陳、而有之、

【講義】景侯の元年に、楚の莊王卒す、二十九年に、景侯は其の太子般の爲めに、婦を楚より娶りて、景侯は之に私通す、太子は遂に景侯を弑して自立す、是を靈侯とす、靈侯の二年に、楚の公子圍は、其の王郟敖を弑して自立す、是を靈王とす、九年に、陳の司徒招は其の君なる哀公を弑す、楚は公子棄疾をして陳を滅せしめ、之を領有す、

【字解】司徒招、陳杞世家に詳なり、

十二年、楚靈王以靈侯弑其父、誘蔡靈侯于申、伏甲飮之、醉而殺之、刑其士卒七十人、令公子棄疾圍蔡、十一月滅蔡、使棄疾

なり、息侯怒る、因て楚の文王に請ひ曰く、願くは來り我を伐てよ、我は救を蔡に求めん、蔡必らず來らん、其の來るときに、楚は因て之を擊たば、以て功有るべしと、楚の文王は之に從ふ、遂に哀侯を虜へて歸り去る、哀侯は楚に留る、九歲の久しきに及びて死す、其の蔡君の位に居ること、二十年にして卒す、蔡人は哀侯の子肸を立つ、是を繆侯とす、

繆侯以其女弟、爲齊桓公夫人、十八年、齊桓公與蔡女、戲船中、夫人蕩舟、桓公止之、不止、公怒、歸蔡女、而不絕也、蔡侯怒、嫁其弟、齊桓公怒、伐蔡、蔡潰、遂虜繆侯、南至楚邵陵、已而諸侯爲蔡謝齊、齊侯歸蔡侯、二十九年繆侯卒、子莊侯甲午立、

【講義】繆侯は其の妹を以て、齊の桓公夫人と爲す、十八年に、齊の桓公は、蔡女と舟遊して相戲る、蔡女は舟を搖り蕩かす、桓公は之を止む、然れども、蔡女は止めず、桓公は怒り、蔡女を蔡に歸らしむ、然れども、未だ其の緣を絕たず、蔡侯怒り、其の妹なる齊桓夫人を他國に嫁す、桓公怒り、蔡を伐つ、蔡軍潰走す、齊軍は遂に繆侯を虜にし、南に進みて、楚の邵陵に至る、既にして、諸侯は蔡の爲めに齊に謝す、齊侯乃ち蔡侯を歸國せしむ、二十九年に、繆侯卒す、子莊侯甲午立つ、

莊侯三年、齊桓公卒、十四年、晉文公敗楚於城濮、二十年、楚太子商臣、弒其父成王、代立、二十五年、秦穆公卒、三十三年、楚莊王卽位、三十四年、莊侯卒、子文侯申立、文侯十四年、楚莊王伐

く、武侯卒す、子夷侯立つ、夷侯の十一年に、周の宣王即位す、二十八年に、夷侯卒す、子釐侯所事立つ、

釐侯三十九年、周幽王爲犬戎所殺、周室卑而東徙、秦始得列爲諸侯、四十八年、釐侯卒、子共侯興立、共侯二年卒、子戴侯立、戴侯十年卒、子宣侯措父立、宣侯二十八年、魯隱公初立、三十五年宣侯卒、子桓侯封人立、桓侯三年、魯弑其君隱公、二十年桓侯卒、弟哀侯獻舞立、

【講義】釐侯の三十九年に、周の幽王は犬戎に殺され、周の王室卑弱にして東に徙る、秦始めて列し、諸侯と爲るを得たり、四十八年に、釐侯卒し、子共侯興立つ、共侯二年卒す、子戴侯立つ、戴侯十年卒す、子宣侯措父立つ、宣侯二十八年に、魯の隱公始めて立つ、三十五年に宣公卒す、子桓侯封人立つ、桓侯の三年に、魯は其の君なる隱公を弑す、二十年に桓侯卒す、弟哀侯獻舞立つ、

哀侯十一年、初哀侯娶陳、息侯亦娶陳、息夫人將歸、過蔡、蔡侯不敬、息侯怒、請楚文王、來伐我、我求救於蔡、蔡必來、楚因擊之、可以有功、楚文王從之、虜蔡哀侯以歸、哀侯留九歲、死於楚、凡立二十年卒、蔡人立其子肸、是爲繆侯、

【講義】哀侯の十一年に、哀侯は楚に虜へらる、是より先に、哀侯は陳國より娶る、息國の君も陳國より娶る、息君の夫人は、歸國の途に蔡を通過す、蔡侯不敬

季爲周司空、以佐成王治、皆有令名於天下、蔡叔度既遷而死、其子曰胡、胡乃改行、率德馴善、周公聞之、而擧胡以爲魯卿士、魯國治、

【講義】是に於て、周公は康叔を擧げ、之を周の司寇と爲し、冉季を擧げ、之を周の司空と爲し、此の兩大臣をして、成王の政治を佐けしむ、皆天下に令名有り、蔡叔度は既に遷りて死す、其の子を胡と曰ふ、胡は乃ち行を改め、德に率ひ善に順ふ、周公は之を聞き、胡を擧げて魯の卿士と爲す、魯國乃ち治る、

【字解】司寇、周の司法大臣なり、司空、周の內務大臣なり、馴、順ふなり、卿士、行政長官なり、

於是、周公言於成王、復封胡於蔡、以奉蔡叔之祀、是爲蔡仲、餘五叔皆就國、無爲天子吏者、

【講義】是に於て、周公は成王に言上し、再び蔡國を建て、胡を以て其の君と爲し、蔡叔の祀を奉ぜしむ、是を蔡仲と曰ふ、其の他の五叔も、皆其の國に就く、別に天子の吏と爲るもの無し、

【字解】五叔、管叔、伯禽、成叔、曹叔、霍叔なり、

蔡仲卒、子蔡伯荒立、蔡伯荒卒、子宮侯立、宮侯卒、子厲侯立、厲侯卒、子武侯立、武侯之時、周厲王失國、奔彘、共和行政、諸侯多叛周、武侯卒、子夷侯立、夷侯十一年、周宣王卽位、二十八年、夷侯卒、子釐侯所事立、

【講義】蔡仲卒す、子蔡伯荒立つ、蔡伯荒卒す、子宮侯立つ、宮侯卒す、子厲侯立つ、厲侯卒す、子武侯立つ、武侯の時に、周の厲王は國を失ひ、彘に奔る、王室の大臣は政を行ひ、之を共和と號す、諸侯多く周に叛

して康叔封と冉季載とは皆少し、未だ封土を得ず、

【字解】 昆弟、兄弟なり、管、今の河南開封府滎陽なり、蔡、今の河南汝寧府上蔡なり、管蔡の兩國は、故の殷の畿内に於て分封し、紂の子を監督する便利に供したるものなり、魯、周公世家に詳なり、曹、曹叔世家に載す、成、今の山東曹州府なり、霍、今の山西平陽府霍州なり、

武王既崩、成王少、周公旦專王室、管叔蔡叔、疑周公之爲不利於成王、乃挾武庚、以作亂、周公旦承成王命、伐誅武庚、殺管叔、而放蔡叔、遷之與車十乘、徒七十人、

【講義】 武王既に崩ず、成王少し、周公旦は王室を專にす、是に於て、管叔蔡叔は、周公が爲す所の成王に利ならざるを疑ひ、因て武庚を擁へ、以て亂を作す、周公旦は成王の命を承け、伐ちて武庚を誅し、管叔を殺し、蔡叔を追放す、卽ち蔡叔に車兵千人步兵七十人を與へて、夷狄の地に遷り去らしむ、

【字解】 車十乘、車兵千人なり、

從而分殷餘民爲二、其一封微子啓於宋、以續殷祀、其一封康叔爲衞君、是爲衞康叔、封季載於冉、冉季康叔、皆有馴行、

【講義】 是に於て、周公は殷の餘民を分ちて二と爲す、其の一には、殷紂の庶兄なる微子啓を宋に封じて、殷の祭祀を續がしめ、其の一には、康叔を封じて衞君とす、是を衞康叔といふ、別に季載を冉に封ず、而して季載康叔の兩人は、皆穩和なる行爲有り、

【字解】 宋、宋の微子世家に詳なり、衞、衞康叔世家に載す、冉、今の湖北安陸府に近き地なり、馴、善なり、穩和なり、

於是、周公舉康叔、爲周司寇、冉

叔鮮、次曰周公旦、次曰蔡叔度、次曰曹叔振鐸、次曰成叔武、次曰霍叔處、次曰康叔封、次曰冄季載、冄季載最少、同母兄弟十人、唯發旦賢、左右輔文王、故文王舍伯邑考、而以發爲太子、及文王崩、而發立、是爲武王、伯邑考既已前卒矣、

【講義】管叔鮮と蔡叔度とは、周の文王の子にして、武王の弟なり、武王の同母兄弟十人有り、母を太姒と曰ふ、是れ文王の正妃なり、其の長子を伯邑考と曰ふ、次を武王發と曰ふ、次を管鮮と曰ふ、次を周公旦と曰ふ、次を蔡叔度と曰ふ、次を曹叔振鐸と曰ふ、次を成叔武と曰ふ、次を霍叔處と曰ふ、次を康叔封と曰ふ、次を冄季載と曰ふ、冄季載最も少し、同母兄弟十人なるも、唯發と旦との兩人は賢明なり、兩人は左右より相依りて文王を輔けたり、故に、文王は伯邑考を舍てゝ、發を太子と爲せり、既にして文王崩じ、發立つ、是を武王とす、伯邑考は早く既に卒去せり、

武王已克殷紂、平天下、封功臣昆弟、於是、封叔鮮於管、封叔度於蔡、二人相紂子武庚祿父、治殷遺民、封叔旦於魯、而相周、爲周公、封叔振鐸於曹、封叔武於成、封叔處於霍、康叔封冄季載皆少、未得封、

【講義】武王は既に殷紂に克ち、天下を平定し、其の功臣兄弟を封じて、諸侯とす、是に於て、叔鮮を管に封じ、叔度を蔡に封ず、管蔡の兩侯は、殷紂の子武庚祿父を輔佐して、殷の遺民を治む、更に叔旦を魯に封じて、周の王室を佐けしむ、是を周公とす、別に叔振鐸を曹に封じ、叔武を成に封じ、叔處を霍に封ず、而

燕王喜、卒滅燕、是歲、秦將王賁、亦虜代王嘉、

【講義】燕の今王喜の二十九年に、秦は攻めて燕の薊を拔く、燕王は亡げ徙りて遼東に居る、太子丹を斬り、其の首を秦に獻ず、三十年に、秦は魏を滅す、三十三年に、秦は遼東を拔く、燕王喜を虜にし、終に燕を滅す、是の歲に、秦の將王賁、亦代王嘉を虜にす、

太史公曰、召公奭可謂仁矣、甘棠且思之、況其人乎、燕北迫蠻貉、內措齊晉、崎嶇彊國之間、最爲弱小、幾滅者數矣、然社稷血食者八九百歲、於姬姓獨後亡、豈非召公之烈耶、

【講義】太史公曰く、召公奭は仁者と謂ふべし、民は其の憩ひたる甘棠をも猶思ひ慕ふ、況んや召公其の人に於てをや、燕は北方に於て、蠻貉の境に接し、內地に於て、齊晉の彊に交り、强國の間に危險を凌ぎ、其の國は弱小と爲りて、滅亡に瀕するもの數度なり、然れども、社稷は祭祀を絕たざるもの八九百歲なり、周の同姓たる姬氏に於て、獨り後に亡びたり、是れ召公の烈に由るに非ずや、

【字解】迫、接近なり、貉、戎狄の屬なり、措、交錯することなり、崎嶇、危險の貌なり、彊、强なり、社稷、其の國神を祭ることなり、血食、犧牲を供へて祭ることなり、

管蔡世家第五

管叔鮮、蔡叔度者、周文王子、而武王弟也、武王同母兄弟十人、母曰太姒、文王正妃也、其長子曰伯邑考、次曰武王發、次曰管

易し、畏るるに足らずと、燕は乃ち劇辛を將として、趙を撃たしむ、趙は龐煖をして、之を撃たしめ、燕軍二萬を取り、劇辛を殺したり、秦は魏の二十城を拔き、其の地に東郡を置く、

十九年、秦拔趙之鄴九城、趙悼襄王卒、二十三年、太子丹質於秦、亡歸燕、二十五年、秦虜滅韓王安、置潁川郡、二十七年、秦虜趙王遷、滅趙、趙公子嘉自立、爲代王、

【講義】燕の今王喜の十九年に、秦は燕の鄴九城を拔く、趙の悼襄王卒す、二十三年に燕の太子丹は秦に質たり、亡げて燕に歸る、二十五年に、秦は韓王安を虜にして、其の國を滅し、潁川郡を置く、二十七年に、秦は趙王遷を虜にし、趙を滅す、趙の公子嘉は、自立して代王と爲る、

燕見秦且滅六國、秦兵臨易水、禍且至燕、太子丹陰養壯士二十人、使荊軻獻督亢地圖於秦、因襲刺秦王、秦王覺、殺軻、使將軍王翦擊燕、

【講義】燕は秦が韓魏趙齊楚燕を滅し盡さんとして、秦兵が易水に臨み、其の禍が燕に至らんとするを見る、燕の太子丹は陰に壯士二十人を養ひ、荊軻をして燕の督亢の地圖を秦に獻ぜしめ、因て襲ひ秦王を刺さんとす、秦王覺り軻を殺す、秦は乃ち將軍王翦をして、燕を撃たしむ、

【字解】且、將なり、督亢、燕の東方の良地なり、

二十九年、秦攻拔我薊、燕王亡、徙居遼東、斬丹以獻秦、三十年、秦拔韓、三十三年、秦拔遼東、虜

【字解】國、國都なり、薊は燕の都なり、今の直隷順天府薊州なり、

六年、秦滅東西周、置三川郡、七年、秦拔趙楡次三十七城、秦置太原郡、九年、秦王政初卽位、十年、趙使廉頗將、攻繁陽拔之、趙孝成王卒、悼襄王立、使樂乘代廉頗、廉頗不聽、攻樂乘、樂乘走、廉頗奔大梁、

【講義】燕の今王喜の六年に、秦は東西の周を滅す、其の地に三川郡を置く、七年に、秦は趙の楡次を取り、三十七城を拔く、其の地に太原郡を置く、九年に、秦王政は始めて卽位す、十年に、趙は廉頗を將として、魏の繁陽を攻めて、之を拔く、趙の孝成王卒す、悼王立つ、悼襄王樂乘をして廉頗に代らしむ、廉頗は之を聽かず、樂乘を攻む、樂乘走る、廉頗は魏の大梁に奔る、

十二年、趙使李牧攻燕、拔武遂方城、劇辛故居趙、與龐煖善、已而亡走燕、燕見趙數困于秦、而廉頗去、令龐煖將也、欲因趙弊攻之、問劇辛、辛曰、龐煖易與耳、燕使劇辛將擊趙、趙使龐煖擊之、取燕軍二萬、殺劇辛、秦拔魏二十城、置東郡、

【講義】燕の今王喜の十二年に、趙は李牧をして燕を攻めしめ、武遂方城を拔く、劇辛は嘗て趙に居り、龐煖と交り厚し、既にして劇辛は亡げて燕に走る、燕は趙が數度秦軍に困み、且其の良將たる廉頗去り、龐煖代り將たるを見る、因て趙の疲弊に乘じて、之を攻めんと欲し、劇辛に問ふ、劇辛曰く、龐煖は與みし

謂燕王曰、與人通關約交、以五百金飲人之王、使者報、而反攻之不祥、兵無成功、燕王不聽、自將偏軍隨之、將渠引燕王綬止之曰、王必無自往、往無成功、王蹵之以足、將渠泣曰、臣非以自爲爲王也、

【講義】　燕王は終に兩軍を起す、車兵二十萬人有り、栗腹は之に將として鄗を攻む、卿秦は代を攻む、大夫將渠は獨り憂慮して、燕王に謂ひ曰く、他國と關門を通じ、親交を約し、五百金を以て、他國の王に飮ましめ、其の使者返り報じながら、今や反て之を攻む、是れ不吉なり、兵は成功無しと、燕王は聽かず、自から一軍に將とし、之に隨ふ、將渠は燕王の綬を引き、之を止めて曰く、王必らず自から往く勿れ、往くも成功無しと、燕王は將渠を蹴るに足を以てす、將渠泣き曰く、臣は自から爲めにするに非ず、王の爲めにするなりと、

燕軍至宋子、趙使廉頗將、擊破栗腹於鄗、破卿秦樂乘於代、樂間奔趙、廉頗逐之五百餘里、圍其國、燕人講和、趙人不許、必令將渠處和、燕相將渠、以處和、趙聽將渠、解燕圍、

【講義】　燕軍は進みて、趙の鉅鹿に近き宋子に至る、趙は廉頗をして將たらしめ、擊ちて栗腹を鄗に破り、卿秦樂乘を代に破る、樂間は趙に奔る、廉頗は燕の敗兵を追擊する五百餘里にして、燕の都を圍む、燕人は和を請ふ、趙人は之を許さず、必らず將渠をして和議を處置せしめんと欲す、是に於て、燕は將渠を宰相とし、以て和を定めしむ、趙は將渠に聽き、遂に燕の圍を解く、

長平、四十餘萬、十四年、武成王卒、子孝王立、孝王元年、秦圍邯鄲者解去、三年卒、子今王喜立、

【講義】燕の惠王の七年に、王卒す、韓魏楚は共に燕を伐つ、燕の武成王立つ、武成王の七年に、齊の田單は燕を伐ち、中陽を取る、十三年に、秦は趙を長平に敗り、四十萬人を殺す、十四年に、武成王卒し、子孝王立つ、孝王の元年に、秦は趙の都邯鄲を圍みたる兵を解き去る、三年に孝王卒し、子今王喜立つ、

【字解】長平、今の山西澤州市高平縣なり、邯鄲、今の直隸廣平府邯鄲縣なり、

今王喜四年、秦昭王卒、燕王命相栗腹、約歡趙、以五百金爲趙王酒、還報燕王曰、趙王壯者皆死長平、其孤未壯、可伐也、王召昌國君樂間問之、對曰、趙四戰之國、其民習兵、不可伐、王曰、吾以五而伐一、對曰不可、燕王怒、羣臣皆以爲可、

【講義】燕の今王喜の四年に、秦の昭王卒す、燕王は其の宰相栗腹に命じ、歡びを趙に約せしめ、五百金を以て、趙王の酒宴に供へしむ、栗腹還り燕王に報じて曰く、趙の壯者皆長平に死す、其の孤兒は未だ壯ならず、是れ伐つべしと、燕王は乃ち昌國君樂間を召して、之を問ふ、樂間對へて曰く、趙は四方の彊を敵國に接して、戰爭に慣れたる國なり、其の民は勇武なり、伐つべからずと、燕王曰く、吾は五倍の衆を以て敵の一を伐つ、如何と、樂間曰く、不可なりと、燕王怒る、群臣は皆以て伐つべしと思惟す、

【字解】四戰、趙は燕を東にし、秦を西にし、韓魏を南にし、胡貊を北にす、故に四戰といふ、

卒起二軍車二千乘、栗腹將而攻鄗、卿秦攻代、唯獨大夫將渠

於是、遂以樂毅、爲上將軍、與秦楚三晉合謀、以伐齊、齊兵敗、湣王出亡於外、燕兵獨追北、入至臨淄、盡取齊寶、燒其宮室宗廟、齊城之不下者、獨唯聊莒卽墨、其餘皆屬燕、六歲、昭王三十三年卒、子惠王立、

【講義】是に於て、燕の昭王は遂に樂毅を以て、上將軍と爲し、秦楚韓魏趙と共に、謀を合せて齊を伐つ、齊兵敗る、湣王は外に出亡す、燕兵は敗北を追ひ、臨淄の都に入る、因て齊の寶を取り盡し、其の宮室宗廟を燒き、齊城皆風靡す、其の下らざるものは、獨り聊と莒と卽墨との三城のみ、其の餘は總て燕に屬す、六年を經て、三城は未だ敗れず、昭王の三十三年に王卒し、子惠王立つ、

惠王爲太子時、與樂毅有隙、及卽位、疑毅、使騎劫代將、樂毅亡走趙、齊田單以卽墨、擊敗燕軍、騎劫死、燕兵引歸、齊悉復得其故城、湣王死于莒、乃立其子、爲襄王、

【講義】燕の惠王は太子たる時に、樂毅と相惡し、其の卽位に及びて、毅を疑ふ、乃ち騎劫をして代り將たらしむ、樂毅は亡げて趙に奔る、齊の田單は卽墨を以て擊ち燕軍を敗り、騎劫死す、燕兵は引き歸る、齊は悉く其の故の城を復し得たり、湣王は莒に死す、齊人は湣王の子を立つ、是を襄王とす、

惠王七年卒、韓魏楚共伐燕、燕武成王立、武成王七年、齊田單伐我、拔中陽、十三年、秦敗趙於

孤之國亂、而襲破燕、孤極知燕小、力少、不足以報、然誠得賢士以共國、以雪先王之恥、孤之願也、先生視可者、得身事之、郭隗曰、王必欲致士、先從隗始、況賢於隗者、豈遠千里哉、

【講義】燕の昭王は、燕國の殘破したる後に於て位に卽く、因て身を卑くし幣を厚くし、以て賢者を招く、乃ち郭隗に謂ひ曰く、齊は余の國亂れたるに由り、襲ひて燕を破れり、余は極めて知る、燕は小なり力少し、以て怨を報ずるに足らずと、然れども、若しも賢士を得て、國を共にし、以て先王の恥を雪がんことは、余の願なり、先生其の適任なる人を視察せよ、余は身を以て其の人に事ふるを得んと、郭隗對へて曰く、王必らず賢士を招致せんと欲せば、先づ隗より始めて用ひよ、隗既に用ひらると聞かば、隗より賢なるものは、豈千里を遠しとせんや、皆爭ひ來らん、

【字解】孤、諸侯の自から稱する謙辭なり、雪、洗ふなり、

於是、昭王爲隗、改築宮、而師事之、樂毅自魏往、鄒衍自齊往、劇辛自趙往、士爭趣燕、燕王弔死問孤、與百姓同甘苦、二十八年、燕國殷富、士卒樂軼輕戰、

【講義】是に於て、燕の昭王は、隗の爲めに宮殿を改築し、隗を師として、之に敬事す、樂毅は乃ち魏より往き、鄒衍は齊より往き、劇辛は趙より往く、天下の賢士は、爭ひて燕に赴く、燕王は死者を弔ひ、孤兒を問ひ、衆民と共に甘苦を同じくす、燕の昭王の二十八年に、燕國殷富なり、士卒は安逸を樂み、戰爭を厭はざるに至る、

【字解】軼、逸なり、輕戰、戰爭を厭はず、勇氣に富むなり、

とし、君臣の義を戒めんとし、父子の位を明にせんとすと、余の齊國は小なり、以て先後の用を成すに足らず、然れども、唯太子が齊に令する所に任すと、

【字解】寡人、諸侯の自から稱する謙語なり、飭、戒め正すなり、

太子因要黨聚衆、將軍市被圍公宮、攻子之不克、將軍市被及百姓、反攻太子平、將軍市被死、以徇、因構難數月、死者數萬、衆人恫恐、百姓離志、

【講義】是に於て、燕の太子は黨を求め衆を聚め、將軍市被は公宮を圍み、子之を攻めて克たず、市被及び衆民は反て太子平を攻む、市被戰死す、太子は之を戮し、衆に示す、太子と子之との兩黨は、因て相爭ふ數月に及び、死者數萬有り、衆人は痛み恐れ、庶民は志を離して紛擾す、

【字解】徇、罪人を戮して衆に示すなり、難、騷動なり、恫、痛み恐るゝなり、

孟軻謂齊王曰、今伐燕、此文武之時、不可失也、王因令章子將五都之兵、以因北地之衆、以伐燕、士卒不戰、城門不閉、燕君噲死、齊大勝、燕子之亡、二年、而燕人共立太子平、是爲燕昭王、

【講義】孟軻乃ち齊王に謂ひ曰く、今に於て燕を伐つは、此れ文王武王の時なり、王業は手に在り、失ふべからずと、齊王乃ち章子をして五都の兵に將とし、北疆の衆を率ゐ、以て燕を伐たしむ、燕は士卒の戰ふもの無し、城門の閉ぢたるもの無し、燕君噲は死し、齊は大に勝つ、燕の子之は亡びたり、後二年にして、燕人は相共に太子平を立つ、是を燕の昭王とす、

燕昭王於破燕之後、卽位、卑身厚幣、以招賢者、謂郭隗曰、齊因

傳ふ、啓は其の徒黨を率ゐて益を攻め、遂に其の天下を奪ひ還したり、是れ禹王は名に於て、天下を益に傳へたるも、實に於て、子啓に自から之を取らしめたるなりと、天下評判す、今や王は國を子之に屬すと謂ふも、其の吏は太子の臣屬に非ざるもの無し、是れ名は子之に國を授くるも、實は太子が政事を執行するなり、

【字解】 已、既なり、人、臣屬なり、

王因收印、自三百石吏已上、而效之子之、子之南面行王事、而噲老不聽政、顧爲臣、國事皆決於子之、三年國大亂、百姓恫恐、將軍市被與太子平謀、將攻子之、

【講義】 燕王乃ち諸臣に授けたる印を取り上げ、其の吏の三百石以上の印を以て、之を子之に呈し、其の登用を委託す、是に於て、子之は南面して、王の席に據り王の事を行ひ、燕王噲は老を告げて、政事を聽かず、乃ち反て子之の臣と爲り、國事は皆子之に決す、三年にして、燕國は大に亂れ、百姓は震恐す、將軍市被は太子平と謀りて、子之を攻めんと欲す、

【字解】 顧、反てなり、恫、痛み恐るなり、

諸將謂齊湣王曰、因而赴之、破燕必矣、齊王因令人謂燕太子平曰、寡人聞太子之義、將廢私而立公、飭君臣之義、明父子之位、寡人之國小、不足以爲先後、雖然、則唯太子所以令之、

【講義】 齊の諸將は、其の君なる湣王に謂ひ曰く、燕の亂に由りて、之に赴かば、燕を破ること必せりと、齊王は乃ち人をして燕の太子平に謂はしめ曰く、余は聞く、太子は義を以て私を廢せんとし、公を立てん

しめ、因て子之を尊くせんと欲したるなり、是に於て、燕王は大に子之を信用す、子之は因て蘇代に百金を贈りて、其の使用を自由ならしめたり、蘇代乃ち百方計畫す、

【字解】奚如、何如なり、奚は何なり、聽、任すなり、自由に任すなり、

鹿毛壽、謂燕王、不如以國讓相子之、人之謂堯賢者、以其讓天下於許由、許由不受、有讓天下之名、而實不失天下、今王以國讓於子之、子之必不敢受、是王與堯同行也、燕王因屬國於子之、子之大重、

【講義】鹿毛壽は燕王に謂ひ曰く、王は國を以て宰相子之に讓るに如かず、夫れ世人が帝堯を稱して賢者なりと謂ふものは、堯が天下を許由に讓りたるを以てなり、許由は之を受けず、故に、堯は天下を讓る名有りて、其の實は天下を失はず、今や王は國を以て、子之に讓る、子之は必らず之を受くるを敢てせず、是れ王は堯と行を同じくするなりと、燕王聽きて喜ぶ、因て國を子之に屬託す、子之の勢位大に重し、

或曰、禹薦益、已而以啓人爲吏、及老、而以啓爲不足任乎天下、傳之於益、已而啓與交黨攻益、奪之、天下謂禹名傳天下於益、已而實令啓自取之、今王言屬國於子之、而吏無非太子人者、是名屬子之、而實太子用事也、

【講義】是に於て、或は更に燕王に說きて曰く、夏の禹王は臣益を天に推薦し、禹の子啓の臣屬を以て益の使用人と爲す、既にして、禹王は年老い、子啓を以て、天下を託するに足らざるものと謂ひ、天下を益に

城、十年燕君爲王、蘇秦與燕文公夫人私通、懼誅、乃說王使齊爲反間、欲以亂齊、

【講義】燕の易王の始めて立つや、齊の宣王は燕の喪に因り、燕を伐ち十城を取る、蘇秦乃ち齊に說き、其の侵略したる十城を返還せしむ、易王の十年に、燕君は王と稱す、蘇秦は燕の文公夫人と私通し、誅を懼れ、乃ち王に說きて公使と爲り、齊に赴き、燕の爲めに間諜を爲し、以て齊を亂さんと欲す、

易王立、十二年卒、子燕噲立、燕噲既立、齊人殺蘇秦、蘇秦之在燕、與其相子之爲婚、而蘇代與子之交、及蘇秦死、而齊宣王復用蘇代、燕噲三年、與楚三晉攻秦、不勝而還、

【講義】燕の易王立ちて、十二年に卒す、子燕噲立つ、齊人は蘇秦を殺す、蘇秦の燕に在るや、燕の宰相子之と相婚し、蘇秦の弟蘇代は、子之と交る、既にして蘇秦死す、齊の宣王は蘇代を用ふ、燕噲の三年に、燕は楚韓魏趙の四國と共に秦を攻め、勝たずして還る、

子之相燕、貴重主斷、蘇代爲齊使於燕、燕王問曰、齊王奚如、對曰、必不霸、燕王曰何也、對曰、不信其臣、蘇代欲以激燕王以尊子之也、於是燕王大信子之、子之因遺蘇代百金、而聽其所使、

【講義】子之の燕に宰相たるや、位貴く權重くして、斷行を主とす、蘇代は齊の爲めに燕に使す、燕王問ひ曰く、齊王は如何と、蘇代對へて曰く、齊王は必ず霸を成さずと、燕王曰く、何ぞや、蘇代曰く、齊王は其の臣を信ぜず、蓋し蘇代は此の答を以て、燕王を感激せ

晉列爲諸侯、

【講義】燕の簡公の十二年に、簡公卒し、獻公立つ、晉の趙鞅は范氏中行氏を朝歌に圍む、獻公の十二年に、齊の田常は其の君簡公を弑す、十四年に孔子卒す、二十八年に獻公卒す、孝公立つ、孝公の十二年に、韓魏趙の三家は知伯を滅して、其の地を分つ、韓魏趙は勢強し、十五年に孝公卒し、成公立つ、成公の十六年に、成公卒し、湣公立つ、湣公の三十一年に、湣公卒し、釐公立つ、是の歳に、三晉卽ち韓魏趙は、列して諸侯と爲る、

【字解】朝歌、今の河南衞輝府に在り、

釐公三十年、伐齊敗于林營、釐公卒、桓公立、桓公十一年卒、文公立、是歲秦獻公卒、秦益彊、文公十九年、齊威王卒、二十八年蘇秦始來見、說文公、文公予車馬金帛、以至趙、趙肅侯用之、因約六國、爲從長、秦惠王以其女、爲燕太子婦、二十九年文公卒、太子立、是爲易王、

【講義】燕の釐公の三十年に、燕は齊を伐ち、林營に於て敗走す、釐公卒し、桓公立つ、桓公の十一年に、桓公卒し、文公立つ、是の歳に秦の獻公卒し、秦は益〻強し、文公の十九年に、齊の威王卒す、二十八年に、蘇秦は始めて來り見え、文公に說く、文公は蘇秦に車馬金帛を與へ、以て趙に至らしむ、趙の肅侯は之を用ひ、因て韓魏趙齊楚燕を約束し、蘇秦を以て、合從同盟の長と爲す、秦の惠王は、其の女を以て燕の太子の婦と爲す、二十九年に、文公卒す、太子立つ、是を易王とす、

易王初立、齊宣王因燕喪、伐我取十城、蘇秦說齊、使復歸燕十

の崔杼は其の君なる莊公を弑す、四年に、懿公卒し、子惠公立つ、惠公の元年に、齊の高止は逃れて燕に入る、六年に、惠公は寵愛の侍姫多きを以て、諸大夫を除き、寵姫の中より宋といふものを擧げ、之を夫人に立てんと欲す、諸大夫怒りて、相共に姫宋を誅殺す、是に於て、惠公は懼れて齊に奔る、

四年、齊高偃如晉、請共伐燕入其君、晉平公許、與齊伐燕、入惠公、惠公至燕而死、燕立悼公、悼公七年卒、共公立、共公五年卒、平公立、晉公室卑、六卿始彊大、平公十八年、吳王闔閭破楚入郢、十九年卒、簡公立、

【講義】燕の惠公の四年に、齊の高偃は晉に往き、相共に燕を伐ちて、其の君を納れんと請ふ、晉の平公は之を許し、齊と共に燕を伐ち、惠公を入らしむ、惠公は燕に至りて死す、燕は乃ち悼公を立つ、悼公の七年に悼公卒し、共公立つ、共公の五年に、共公卒し、平公立つ、是の時に當り、晉は公室卑小なり、其の六大臣の勢力は强大なり、平公の十八年に、吳王闔閭は楚を破り、其の首都なる郢に入る、十九年に平公卒す、簡公立つ、

【字解】四年、前節の六年と轉換して見るべし、

簡公十二年卒、獻公立、晉趙鞅圍范仲行於朝歌、獻公十二年、齊田常弑其君簡公、十四年孔子卒、二十八年獻公卒、孝公立、孝公十二年、韓魏趙滅智伯、分其地、三晉彊、十五年孝公卒、成公立、成公十六年卒、湣公立、湣公三十一年卒、釐公立、是歲三

ち、凱旋す、燕君は桓公を送りて、其の國境を出づ、桓公乃ち燕君の送り至れる所を地界として、之を燕に與へ、燕に命ずるに、周室への貢獻を以てす、曰く、天子に供へ貢すること、成周の時に定めたる貢職の如くせよと、且つ燕をして、其の始祖なる召公の時の法を修め行はしむ、莊公の三十三年に、公卒し、子襄公立つ、

襄公二十六年、晉文公爲踐土之會稱伯、三十一年、秦師敗于殽、三十七年、秦穆公卒、四十年、襄公卒、桓公立、桓公十六年卒、宣公立、宣公十五年卒、昭公立、昭公十三年卒、武公立、是歲、晉滅三郤大夫、

【講義】燕の襄公の二十六年に、晉の文公は踐土の會を爲し、霸を稱す、三十一年に、秦軍は殽に於て敗走す、三十七年に、秦の穆公卒す、四十年に襄公卒し、桓公立つ、桓公の十六年に、桓公卒す、宣公立つ、宣公の十五年に、宣公卒す、昭公立つ、昭公の十三年に、昭公卒し、武公立つ、是の歲に、晉は三郤大夫を滅す、

【字解】踐土、鄭の地なり、今の河南懷慶府原武縣の西北に在り、殽、晉の地なり、今の河南永寧縣の北に在り、三郤、郤錡、郤犨、郤至なり、

武公十九年卒、文公立、文公六年卒、懿公立、懿公元年、齊崔杼弑其君莊公、四年卒、子惠公立、惠公元年、齊高止來奔、六年、惠公多寵姬、公欲去諸大夫、而立寵姬宋、大夫共誅姬宋、惠公懼奔齊、

【講義】燕の武公の十九年に、武公卒す、文公立つ、文公の六年に、文公卒す、懿公立つ、懿公の元年に、齊

卒、子鄭侯立、鄭侯三十六年卒、子繆侯立、繆侯七年、而魯隱公元年也、十八年卒、子宣公立、

【講義】燕の頃侯の二十年に、周の幽王淫亂なり、犬戎に弑せらる、秦始めて列して諸侯と爲る、二十四年に、頃侯卒す、子哀侯立つ、哀侯の二年に、哀侯卒す、子鄭侯立つ、鄭侯の三十六年に、鄭侯卒す、子繆立つ、繆侯の七年は、即ち魯の隱公の元年なり、繆公の十八年に、繆公卒す、子宣侯立つ、

宣侯十三年卒、子桓侯立、桓侯七年卒、子莊公立、莊公十二年、齊桓公始霸、十六年與宋衞共伐周惠王、惠王出奔溫、立惠王弟穨爲周王、十七年、鄭執燕仲父、而內惠王于周、

【講義】燕の宣侯の十三年に、宣侯卒す、子桓侯立つ、桓侯の七年に、桓侯卒す、子莊公立つ、莊公の十二年に、齊の桓公は始めて霸業を成せり、十六年に、燕は宋衞と共に周の惠王を伐つ、惠王は出奔して、鄭の溫に居る、乃ち惠王の弟穨を立てゝ、周王と爲す、十七年に、鄭は燕の仲父を執へて、惠王を迎へ、之を周に入らしむ、

【字解】溫、今の河內溫縣なり、

二十七年、山戎來侵我、齊桓公救燕、遂北伐山戎而還、燕君送齊桓公出境、桓公因割燕所至地予燕、使燕共貢天子、如成周時職、使燕復脩召公之法、三十三年卒、子襄公立、

【講義】燕の莊公の二十七年に、山戎は來りて燕を侵す、齊の桓公は燕を救ひ、遂に北進して山戎を伐

乂、治むるなり、

召公之治西方、甚得兆民和、召公巡行郷邑、有棠樹、決獄政事其下、自侯伯至庶人、各得其所、無失職者、召公卒、而民人思召公之政、懷棠樹、不敢伐、歌詠之、作甘棠之詩、

【講義】召公の西方を治むるや、甚だ衆民の平和を得たり、召公は郷邑を巡行す、甘棠の樹有り、召公は其樹陰に就きて、政事を理め、獄訟を決す、侯伯より庶民に至るまで、皆其の宜しき所を得て、其の職を失ふもの無し、召公卒去の後に、民人は其の善政を追思し、甘棠の樹を愛して、之を伐るを敢てせず、之を歌詠して、召公の遺徳を述べ、甘棠の詩を作る、

【字解】甘棠、棠梨なり、甘棠の詩は詩經に在り、兆民、衆庶なり、

自召公已下、九世至惠侯、燕惠侯、當周厲王奔彘共和之時、惠侯卒、子釐侯立、是歲周宣王初即位、釐侯二十一年、鄭桓公初封於鄭、三十六年釐侯卒、子頃侯立、

【講義】召公より下、九世にして惠侯に至る、是の時に當り、周の厲王は出奔して、晉の彘に居り、周室は共和の政事を行へり、惠侯卒して、子釐侯立つ、是の歲に、周の宣王は始めて位に即く、釐侯の二十一年に、鄭の桓公は始めて鄭に封ぜらる、三十六年に、釐侯卒す、子頃侯立つ、

頃侯二十年、周幽王淫亂、爲犬戎所弑、秦始列爲諸侯、二十四年、頃侯卒、子哀侯立、哀侯二年

召公主之、自陝以東、周公主之、

【講義】燕の始祖なる召公奭は、周と同姓なり、姫氏を姓とす、周の武王の殷紂を滅するや、召公を北燕に封ず、周の成王の時に當り、召公は大臣たり、陝より西を、召公の管轄とし、陝より東を、周公の管轄とす、

【字解】燕、今の直隷順天府西南なり、幽州薊縣を都とす、三公、大臣なり、陝、今の河南陝州なり、

成王既幼、周公攝政、當國踐阼、召公疑之、作君奭、君奭不說周公、

【講義】周の成王は猶年少なり、周公は政事を攝行し、國君の務に當り、其の坐席を占む、是に於て、召公は周公の志を疑ふ、周公乃ち君奭の文を作り、召公の去らんとするを挽き留む、然れども召公は未だ周公を信頼せず、

【字解】攝、假りに行ふなり、阼、位階なり、君奭、尙書の篇名なり、燕君奭といふ意なり、說、悅ぶなり、

周公乃稱、湯時有伊尹、假于皇天、在太戊時、則有若伊陟臣扈、假于上帝、巫咸治王家、在祖乙時、則有若巫賢、在武丁時、則有若甘般、率維茲有陳、保乂有殷、於是、召公乃說、

【講義】周公乃ち述べて曰く、殷湯の時には、賢相伊尹有り、殷湯を輔けて其の德は天に達したり、殷の太戊の時には、伊陟と臣扈との兩相有り、心を同じくして輔佐し、其德は上帝に達せり、別に良臣巫咸有り、善く王家を治めたり、殷の祖乙の時には、巫咸の子なる巫賢有り、殷の武丁の時には甘般有り、斯の如く賢良相承けて、順ひ茲に其の功德を陳べ布く有り、以て殷國を保ち治めたり、故に、召公も王室を輔けて、其の賢德を行はざるべからずと、召公乃ち悅ぶ、

【字解】假、至るなり、若、斯の若き賢人といふを約言したるなり、率、順ふなり、陳、其功德を行ふなり、

【講義】魯の頃公の二年に、秦は楚の都なる郢を攻む、楚の頃王は、東に徙りて陳に居る、十九年に、楚は魯を伐ち徐州を取る、二十四年に、楚の考烈王は、伐ちて魯を滅す、魯の頃公は亡げて卞邑に遷り、他國の臣下と爲る、魯は祭祀を絶つ、頃公は齊の柯に卒す、魯は周公より起り、頃公に至る、凡て三十四代なり、

【字解】徐州、今の江蘇の徐州なり、

太史公曰、余聞孔子稱曰、甚矣魯道之衰也、洙泗之間、齗齗如也、觀慶父及叔牙閔公之際、何其亂也、隱桓之事、襄仲殺適立庶、三家北面爲臣、親攻昭公、昭公以奔、至其揖讓之禮、則從矣、而行事何其戻也、

【講義】太史公曰く、余は聞く、孔子嘗て稱す、甚しいかな、魯道の衰へたるや、洙泗兩水の間に於て、少長老幼相爭ひ、齗々たり、道義の行はるを見ずと、余は史傳に就きて、慶父叔牙閔公の際に於ける騷亂を觀るに、何ぞ其の亂の慘なるや、隱桓兩公の事跡も、其の慘酷は更に甚し、襄仲は公の嫡子を殺して、其の庶子を立て、遂に三桓北面して臣と爲りながら、親から其の君たる昭公を攻め、昭公は出奔するに至る、其の亂は愈甚し、魯國は本來其の揖讓の禮制に於ては、之に從ふ、然れども其の人の行事は、何ぞ其の背き戻ることの甚しきや、

【字解】洙泗、魯の兩水の名なり、洙泗の間は、卽ち魯國を指していふなり、齗々、キンキンと讀む、相爭ふ貌なり、道義に背きて和順ならざる狀態を稱す、

燕召公世家第四

召公奭、與周同姓、姓姬氏、周武王之滅紂、封召公於北燕、其在成王時、召公爲三公、自陝以西、

立、是爲穆公、穆公三十三年卒、子奮立、是爲共公、

【講義】 魯の悼公の十三年に、韓魏趙の三晉は、智伯を滅し、其の領地を分ちて、之を占有す、三十七年に悼公卒す、子嘉立つ、是を元公とす、元公の二十一年に公卒す、子顯立つ、是を穆公とす、穆公の三十三年に公卒す、子奮立つ、是を共公とす、

共公二十二年卒、子屯立、是爲康公、康公九年卒、子匽立、是爲景公、景公二十九年卒、子叔立、是爲平公、是時六國皆稱王、

【講義】 魯の共公の二十二年に、公卒す、子屯立つ、是を康公とす、康公の九年に、公卒す、子匽立つ、是を景公とす、景公の二十九年に、公卒す、子叔立つ、是を平公とす、是の時に當り、韓魏趙齊楚燕の六國は、皆自から王と稱す、

平公十二年、秦惠王卒、三十二年、平公卒、子賈立、是爲文公、文公七年、楚懷王死于秦、二十三年、文公卒、子讐立、是爲頃公、

【講義】 魯の平公の十二年に、秦の惠王卒す、三十二年に、平公卒す、子賈立つ、是を文公とす、文公の七年に、楚の懷王は、秦に死す、二十三年に、文公卒す、子讐立つ、是を頃公とす、

頃公二年、秦拔楚之郢、楚頃王東徙于陳、十九年楚伐我、取徐州、二十四年、楚考烈王伐滅魯、頃公亡、遷於卞邑、爲家人、魯絕祀、頃公卒于柯、魯起周公、至頃公、凡三十四世、

差、二十七年春、季康子卒、夏哀公患三桓、將欲因諸侯以劫之、三桓亦患公作難、故君臣多間、

【講義】魯の哀公の二十二年に、越王勾踐は、呉王夫差を滅す、二十七年の春に、魯の季康子卒す、其年の夏に哀公は三桓を患害有るもの と思惟し、諸侯の力に依りて、三桓を强制せんと期す、三桓も哀公の騷動を起すを患害と思惟す、故に君臣の間に隙多し、

【字解】將欲、欲の一字と見るべし、間、隙なり、

公游于陵阪、遇孟武伯於衢、曰、請問、余及死乎、對曰、不知也、公欲以越伐三桓、八月、哀公如陘氏、三桓攻公、公奔于衞、去如鄒、遂如越、國人迎哀公、復歸、卒于有山氏、子寧立、是爲悼公、悼公之時、三桓勝、魯如小侯、卑於三桓之家、

【講義】哀公は近郊の陵阪に遊び其の途中に於て三桓の一なる孟武伯に遇ひ、乃ち其の意を探らんと欲し、問ひて曰く、余は無事に死に就くに及ぶかと、孟武伯對へて曰く、知らず、是に於て、哀公は越を率ゐて、三桓を伐たんと欲す、其の年の八月に、哀公は公族の陘氏に往く、三桓は公を攻む、公は衞に奔り、更に鄒に往き、遂に越に至る、魯國の士民は、哀公を迎へて復歸せしむ、公は遂に公族の有山氏に居りて卒す、子寧立つ、是を悼公とす、悼公の時に三桓勢强し、魯君は小國の侯の如し、公室は三桓の中の一家よりも卑小なり、

【字解】陘氏、有山氏に同じ、勝、勢强きなり、

十三年、三晉滅智伯、分其地有之、三十七年悼公卒、子嘉立、是爲元公、元公二十一年卒、子顯

向ひ、百牢の大饗を徴求す、魯の季康子は、子貢をして呉王及び太宰嚭に説かしめ、禮制に依り、呉の徴求を折絶す、呉王曰く、我は身に入墨したる夷狄なり、禮を論ずるに足らずと、其の事乃ち止む、

【字解】 彊、强なり、繒、鄫なり、今の瑯邪の繒縣なり、百牢、大饗なり、牛羊豕を一牢とす 詘、斥くるなり、文身、身に刺靑するなり、

八年、呉爲鄒伐魯、至城下、盟而去、齊伐我、取三邑、十年、伐齊南邊、十二年、齊伐魯、季氏用冉有、有功、思孔子、孔子自衞歸魯、

【講義】 魯の哀公の八年に、呉は鄒の爲めに、魯を伐ち、城下に至り、盟ひて去る、齊は魯を伐ち、讙、闡等の三縣を取り去る、十年に、魯は齊の南邊を伐つ、十二年に、齊は魯を伐つ、魯の季氏は、冉有を用ひて功有り、因て冉有の師なる孔子を思ふ、孔子乃ち衞より魯に歸る、

十四年、齊田常弑其君簡公於徐州、孔子請伐之、哀公不聽、十五年、使子服景伯、子貢爲介、適齊、齊歸我侵地、田常初相、欲親諸侯、十六年、孔子卒、

【講義】 魯の哀公の十四年に、齊の田常は、其の君なる簡公を徐州に弑す、孔子は之を伐たんと請ふ、哀公は之を聽かず、十五年に、魯は大夫子服景伯を公使とし、子貢を輔佐として、齊に赴かしむ、齊は其の侵略したる讙、闡等の地を魯に返還す、是の時に當り、田常は始めて齊の宰相たり、故に諸侯に親しまんと欲したるなり、十六年に、孔子卒す、

【字解】 介、輔佐の役なり、適、赴くなり、徐州、齊の北邊なり、今の順天府大城縣なり、是れ江蘇の徐州に非ず、

二十二年、越王勾踐滅呉王夫

【講義】 魯の定公の十年に、定公は齊の景公と夾谷に會す、孔子は宰相の事を行ふ、齊は魯君を襲はんと欲す、孔子は禮を以て、階段を走り上り、齊の淫樂を責めて、其の無禮の徒を誅す、齊侯懼れて亂暴を止め、齊の侵略したる地を、魯に返還して、齊の過失を謝す、

【字解】 夾谷、歷階、齊の太公世家に詳解せり、

十二年、使仲由毀三桓城、收其甲兵、孟氏不肯墮城、伐之、不克而止、季桓子受齊女樂、孔子去、十五年、定公卒、子將立、是爲哀公、

【講義】 魯の定公の十二年に、定公は季氏の宰なる仲由をして、三桓の本城を毀しめんと欲し、其の三城の武具兵器を收め取らんと欲す、既にして叔氏の郈城を墮ち、更に季氏の鄪城を墮ちたり、然るに、孟氏は其の本城たる成を墮つことを承諾せず、定公の軍は、之を伐ちたるも、克つを得ずして、其事を中止したり、其の後、季桓子は齊より送り來りたる女樂を受けて、定公と共に樂む、孔子乃ち魯を去る、十五年に、定公卒す、子將立つ、是を哀公とす、

【字解】 三桓城、孟の成、叔の郈、季の鄪なり、不克、敵の將を擒にする能はず、敵を制する能はざるなり、

哀公五年、齊景公卒、六年、齊田乞弑其君孺子、七年、吳王夫差彊、伐齊至繒、徵百牢於魯、季康子使子貢說吳王及太宰嚭、以禮詘之、吳王曰、我文身、不足責禮、乃止、

【講義】 魯の哀公の五年に、齊の景公卒す、六年に、齊の田乞は、其の君なる孺子を弑す、七年に、吳王夫差は、勢强くして齊を伐ち、魯の繒に至る、因て魯に

人の位階に相當なる車服なり、名、其の人の身分に相當なる稱號なり、

定公五年、季平子卒、陽虎私怒、囚季桓子、與盟、乃捨之、七年、齊伐我取鄆、以爲魯陽虎邑、以從政、

【講義】魯の定公の五年に、季平子卒す、季氏の臣なる陽虎は、事を以て私に怒り、平子の子なる季桓子を囚へて、桓子と盟ひ、既にして桓子に背く、七年に、齊は魯を伐ち鄆を取り、以て陽虎の領地と爲し、陽虎をして魯の政事に從はしむ、

八年、陽虎欲盡殺三桓適、而更立其所善庶子、以代之、載季桓子、將殺之、桓子詐而得脫、三桓共攻陽虎、陽虎居陽關、九年、魯伐陽虎、陽虎奔齊、已而奔晉趙氏、

【講義】魯の定公の八年に、季氏の臣なる陽虎は、三桓の嫡子を殺し盡さんと欲し、更に三桓の庶子に就きて、陽虎が親交なるものを擇び、之を立てゝ嫡子に代らしめんと欲す、乃ち季桓子を車に載せて往き、之を殺さんとす、桓子詐りて脫するを得たり、是に於て、三桓は相共に陽虎を攻む、陽虎は魯齊の境なる陽關に據り、魯に叛し、九年に、魯は陽虎を伐つ、陽虎は齊に奔る、既して晉に奔り、趙氏に依る、

【字解】適、嫡なり、陽關、今の兗州府寧陽縣の東北に在り、

十年、定公與齊景公、會於夾谷、孔子行相事、齊欲襲魯君、孔子以禮歷階、誅齊淫樂、齊侯懼、乃止、歸魯侵地、而謝過、

從、晉人止、三十二年、昭公卒于乾侯、魯人共立昭公弟宋爲君、是爲定公、

【講義】 魯の昭公の三十一年に、晉は昭公を魯に納れんと欲す、因て魯の季平子を召す、平子は布衣を着け、跣足にて往き、晉の六大臣に由り、罪を晉君に謝す、晉の六大臣は、季平子の爲に宣言して曰く、晉は昭公を魯に納れんと欲するも、衆人は之に從はずと、晉人は遂に昭公を送ることを止む、三十二年、昭公は乾侯に卒す、魯の國人は相議して、昭公の弟なる宋を立て、魯君と爲す、是を定公といふ、

【字解】 布衣、賤民の衣なり、跣、赤脚にて履無きなり、

定公立、趙簡子問史墨曰、季氏亡乎、史墨對曰、不亡、季友有大功於魯、受鄪爲上卿、至於文子武子、世增其業、魯文公卒、東門遂殺適立庶、魯君於是失國政、政在季氏、於今四君矣、民不知君、何以得國、是以爲君愼器與名、不可以假人、

【講義】 魯の定公立つ、趙簡子は晉の史官なる蔡墨に問ひて曰く、季氏は亡びんか、蔡墨對へて曰く、季氏は亡びず、夫れ季友は魯に大功有り、鄪の邑を受けて、上卿と爲り、季武子季文子に至る迄、世世相傳へて、其業を增す、魯の文公の卒するや、襄仲は公の嫡子を殺して、庶子を立てたり、魯君は、是に於て國政を失ひ、政權は季氏に歸す、今に於て四君なり、民は君を知らず、何を以て國を得ん、故に季氏は亡びず、是を以て君と爲れば、車服と爵號とを愼み守るべし、漫りに之を他人に假すべからずと、

【字解】 東門遂、孟孫襄仲なり、其の魯城の東門に居たるを以て、此の稱有り、遂、襄仲の名なり、器、其の

齊景公從之、

【講義】是に於て、齊の臣子將は齊侯に言ひ曰く、群臣は魯君を其の國に納るゝ事に從ふ能はず、是れ怪むべき事情有ればなり、宋の元公は、魯の爲めに晉に往き、昭公を魯に納れんことを求む、其の途中にて卒去せり、魯の叔孫昭子は、昭公を魯に納れんことを求む、其の事未だ成らずして、病無きに死せり、因て考ふるに、天は魯を棄つるか、或は魯君が鬼神より罪を受けたるならん、其の何れなるかを知らずと雖も、願くは我君姑らく之を待つべしと、齊の景公は遂に之に從ひ、昭公を魯に納れず、

【字解】異、怪むべき事なり、弃、棄つるなり、且、姑なり、假りに時日を送るなり、

二十八年、昭公如晉、求入、季平子私於晉六卿、六卿受季氏賂、諫晉君、晉君乃止、居昭公乾侯、三十九年昭公如鄆、齊景公使人賜昭公書、自謂主君、昭公恥之、怒而去乾侯、

【講義】魯の昭公の二十八年に、昭公は晉に往き、以て魯に入るを求む、魯の季平子は、私に晉の六卿に交り、六卿は季氏の賂を受け、晉君を諫む、晉君乃ち昭公を魯に納るゝ事を止む、竟に昭公を晉の邑なる乾侯に居らしむ、前年の童謠は、是に至りて驗有り、三十九年に、昭公は魯の鄆に往く、齊の景公は人をして昭公に書を賜はしめて、齊君自から主君と稱し、昭公を待遇するに、齊の大夫の禮を以てす、昭公は之を恥ぢ、怒りて去り、乾侯に赴く、

【字解】六卿、晉に於ける大臣にして、六軍の長なり、六人を以て成る、去乾侯、去乎乾侯なり、赴乾侯なり、

三十一年、晉欲內昭公、召季平子、平子布衣跣行、因六卿謝罪、六卿爲言曰、晉欲內昭公、衆不

而臣於齊可乎、乃止、子家曰、齊景公無信、不如早之晉、弗從、叔孫見公還見平子、平子頓首、初欲迎昭公、孟孫季孫後悔、乃止、

【講義】 其の月己亥の日に、昭公は齊に至る、齊の景公曰く、請ふ二萬五千家を寄附して、昭公を待遇せんと、子家駒は、昭公を諫めて曰く、周公の業たる魯を棄てゝ、齊に臣たるは不可なりと、其の事乃ち止む、子家駒曰く、齊の景公は信無し、早く晉に之くに如かずと、然れども、昭公は之を聽かず、既にして、叔孫は往きて、昭公に謁し、之を魯に納れんと欲し、還りて季平子を訪ふ、季平子は頓首して謝し、初めは昭公を迎へんと欲す、然れども、孟孫季孫兩氏は後に悔いて、竟に昭公を迎へず、叔孫は其の事の成らざるを恥ぢて、自殺す、

【字解】 千社、貳萬五千家なり、弃、棄なり、

二十六年春、齊伐魯取鄆、而居昭公焉、夏、齊景公將內公、令無受魯賂、申豐汝賈許齊臣高齕子將粟五千庾、

【講義】 魯の昭公の二十六年春に、齊は魯を伐ち、魯の邑なる鄆を取りて、昭公を之に居らしむ、其の夏に、齊の景公は、昭公を魯に納れんと欲し、令を下して曰く、魯の賂を受くる勿れと、是の時に當り、季氏は昭公を拒まんと欲し、申豐と汝賈との兩人を使として、齊の臣なる高齕と子將とに、穀八萬斗を賂ふことを約し、以て昭公を納れざる計を運らす、

【字解】 庾、十六斗なり、故に五千庾は八萬斗なり、

子將言於齊侯曰、群臣不能事魯君、有異焉、宋元公爲魯如晉、求內之、道卒、叔孫昭子求內其君、無病而死、不知天弃魯乎、抑魯君有罪于鬼神也、願君且待、

季氏を伐つ、遂に其の邸内に攻め入る、季平子は臺に登り、請ひて曰く、我君は讒言を聽きて、臣の罪を察せず、臣を誅せんとす、臣は去りて沂水の邊りに居らんことを請ふと、昭公は之を許さず、季平子は、更に鄪に於て囚はれんことを請ふ、昭公は猶之を許さず、季平子は竟に車五乘を以て、魯より亡げ去らんと請ふ、昭公未だ之を許さず、魯の大夫子家駒は、諫めて曰く、君其れ之を許せよ、政事は季氏に依りて、執行せらるゝこと既に久し、季氏の徒黨たるものは多し、其の多き徒黨は、謀を合はさんとす、其の危機は迫ると、然れども、昭公は之を聽かず、郈氏曰く、必らず季氏を殺すべしと、

【講義】 臺、其の邸内に高く作りて、之に登るに梯階を以てし、其の梯を除けば、漫りに登るを得ず、故に危急の場合には、之に據るなり、鄪、季氏の領邑なり、五乘、五百人の從卒なり、蓋し家人を攜ふることを約言したるなり、

叔孫氏之臣戾、謂二其衆一曰、無二季氏一與レ有、孰利、皆曰、無二季氏一、是無二叔孫氏一、戾曰、然、救二季氏一、遂敗二公師一、

【講義】 是の時に當り、叔孫氏の臣戾は、其の衆徒に問ひて曰く、季無きと有ると、何れか利なると、皆曰く、季氏無ければ、是れ叔孫氏無きなりと、戾曰く、然りと、乃ち起ちて其の徒を率ゐ、往きて季氏を救ひ、遂に昭公の軍を敗走せしむ、

孟懿子、聞二叔孫氏勝一、亦殺二郈昭伯一、郈昭伯爲二公使一、故孟氏得レ之、三家共伐レ公、公遂奔、

【講義】 孟懿子は叔孫氏勝つと聞き、郈昭伯を殺す、蓋し郈昭伯は、昭公の使と爲り、孟懿子を訪ひしを以て、孟懿子は之を殺すを得たり、是に於て、孟叔季の三家は、兵を連ねて昭公を伐つ、昭公遂に奔る、

己亥、公至二于齊一、齊景公曰、請レ致二千社一待レ君、子家曰、弃二周公之業一、

【講義】魯の昭公の二十五年春に、鸜鵒は魯國に來りて巢を作る、魯の大夫師己曰く、昔時文公成公の世に、魯の童謠有り、曰く、鸜鵒來り巢ふ、我君は乾侯に在りと、鸜鵒の來るは禍の兆なり、恐るべしと、鸜鵒は宮城に入る、我君は外野に在り、

【字解】鸜鵒、クヨクと讀む、支那の遠き夷國より來る鳥なり、乾侯、晉の地なり、今の直隷廣平府成安縣東南に在り、

季氏與郈氏鬪雞、季氏芥雞羽、郈氏金距、季平子怒、而侵郈氏、郈昭伯亦怒平子、臧昭伯之弟會、僞讒臧氏、匿季氏、臧昭伯囚季氏人、季平子怒、囚臧氏老、臧郈氏以難告昭公、

【講義】魯の季氏は郈氏と共に、公族にして大夫なり、此兩家は雞を鬪す、季氏は芥子の粉を雞の羽に塗り、以て敵の目を傷はしむ、郈氏は金屬を雞の距に着け、以て敵を搔き破るに便にす、季平子怒りて、郈氏の邸地を侵し取り、以て自己の邸地を廣く增す、郈昭伯は之を怒る、此の時に、魯の大夫臧昭伯の弟なる會は、臧昭伯を讒言して、會は季氏の家に匿る、是に於て、臧昭伯は季氏の家臣を囚ふ、季平子は怒りて、臧氏の家宰を囚ふ、臧昭伯と郈昭伯との兩氏は、遂に此の騷動を以て、昭公に告ぐ、

昭公九月戊戌、伐季氏、遂入、平子登臺、請曰、君以讒不察臣罪、誅之、請遷沂上、弗許、請囚於鄪、弗許、請以五乘亡、弗許、子家駒曰、君其許之、政自季氏久矣、爲徒者衆、衆將合謀、弗聽、郈氏曰、必殺之、

【講義】魯の昭公は其の年の九月戊戌の日を以て、

還之、魯恥焉、四年、楚靈王會諸侯於申、昭公稱病不往、七年季武子卒、八年、楚靈王就章華臺、召昭公、昭公往賀、賜昭公寶器、已而悔、復詐取之、十二年、朝晉至河、晉平公謝還之、

【講義】魯の昭公の三年に昭公は晉に入朝せんとし、河に至る、晉の平公は謝して、之を還す、魯は之を恥づ、四年、楚の靈王は諸侯を申に會す、昭公は病と稱して往かず、七年に、魯の季武子卒す、八年に、楚の靈王は章華臺を開きて、昭公を召す、昭公往き賀す、靈王は昭公に寶器を贈り、既にして之を惜み、遂に詐りて、之を取り返す、十二年、昭公は晉に朝せんとして河に至る、晉の平公は謝して昭公を還り去らしむ、

【字解】申、鄭の地なり、今の河南開封府汜水縣に在り、章華臺、楚の東境乾谿に在り、今の安徽潁州府亳州東南に位す、楚の靈王の建てたる名臺なり、

十三年、楚公子棄疾、弑其君靈王、代立、十五年朝晉、晉留之葬晉昭公、魯恥之、二十年齊景公與晏子狩竟、因入魯、問禮、二十一年、朝晉至河、晉謝還之、

【講義】魯の昭公の十三年に、楚の公子棄疾は、其の君靈王を弑し代り立つ、十五年に、昭公は晉に入朝す、晉は之を留めて、晉の昭公の送葬に參せしむ、魯は之を恥づ、二十年に、齊の景公は、其の宰相晏子と共に、魯國の境に遊獵し、因て魯に入り、禮制を問ふ、二十一年に、昭公は晉に朝せんとして河に至る、晉は謝して之を還らしむ、

二十五年、春、鸜鵒來巢、師己曰、文成之世、童謠曰、鸜鵒來巢、公在乾侯、鸜鵒入處、公在外野、

立其弟景公、二十九年、吳延陵季子使魯、問周樂、盡知其意、魯人敬焉、三十一年六月、襄公卒、其九月、太子卒、魯人立齊歸之子裯爲君、是爲昭公、

【講義】魯の襄公の二十五年に、齊の崔杼は、其の君莊公を弑し、其の弟景公を立つ、二十九年、吳の延陵の季子は、公使として魯に來り、周の樂を問ひ、盡く其の樂の詞の意を知る、魯人は之を敬す、三十一年六月に、襄公卒す、其の年の九月に、太子卒す、魯國の士民は、襄公の妾なる齊歸の子裯を立て、魯君と爲す、是を昭公といふ、

昭公年十九、猶有童心、穆叔不欲立、曰、太子死、有母弟可立、不卽立長、年鈞擇賢、義鈞則卜之、今裯非適嗣、且又居喪、意不在戚、而有喜色、若果立、必爲季氏憂、季武子弗聽、卒立之、比及葬、三易衰、君子曰、是不終也、

【講義】魯の昭公は、年十九なれども、猶幼童の心有り、大夫穆叔は、之を立つるを希望せず、曰く、太子死して、同母弟有り、立つべし、之を立てざるときは、年の長じたるものを立てん、年均しければ賢者を擇べよ、義均しければ之を卜せよ、今や裯は嫡嗣に非ず、且つ又其の喪中に在るや、意は悲に在らずして、喜色有り、若しも竟に之を立つるときは、必らず季孫氏の憂と爲らんと、然れども季武子は聽かずして、之を立てたり、昭公は立ちて、遊戲猶甚し、襄公の葬儀に至るまでに、三たび喪服を破損して、之を改めたり、君子は昭公を許して曰く、是れ必らず其の終を全くせずと、

昭公三年、朝晉至河、晉平公謝

鍾離に會す、十六年に、魯の叔孫宣伯は晉に告げ、季文子を誅せんと欲す、然れども、季文子は義を行ふ、故に晉人は宣伯に許さず、十八年に、成公卒す、其の子午立つ、是を襄公と爲す、是の時に、襄公は齡三歳なり、

【字解】鍾離、楚の地なり、吳の太伯世家に詳なり、

襄公元年、晉立悼公、往年冬、晉欒書弑其君厲公、四年、襄公朝晉、五年、季文子卒、家無衣帛之妾、廐無食粟之馬、府無金玉、以相三君、君子曰、季文子廉忠矣、

【講義】魯の襄公の元年に、晉は悼公を立つ、前年の冬に、晉の欒書は其の君厲公を弑す、四年に襄公は晉に入朝す、五年に季文子卒す、季文子は儉素を守りて、心を君に盡す、其の家には、帛を被る妾無し、其の廐には、穀を食ふ馬無し、其の府庫には金玉無し、斯の如くして、宣成襄三代の君に宰相たり、君子曰く、季文子は廉潔にして忠誠なりと、

九年、與晉伐鄭、晉悼公冠襄公於衞、季武子從相行禮、十一年、三桓氏分爲三軍、十二年朝晉、十六年晉平公卽位、二十一年朝晉平公、二十二年孔丘生、

【講義】魯の襄公の九年に、魯は晉と共に鄭を伐つ、晉の悼公は衞に於て、襄公に戴冠せしむ、魯の季武子は從ひ相けて、戴冠の禮を行ふ、十一年に、魯の三桓氏は分れて、三軍と爲る、十二年に、襄公は晉に入朝す、十六年に、晉の平公は位に卽く、二十一年に、襄公は晉の平公に朝見す、二十二年に孔丘生る、

【字解】三軍、諸侯は三軍を有す、孟叔季の三桓は、公室の權を領せんとして、三軍を三家に分ち取りたるなり、軍を取るは、其の租税を取る所以なり、

二十五年、齊崔杼弑其君莊公、

父有寵、宣公欲去三桓、與晉謀伐三桓、會宣公卒、季文子怨之、歸父奔齊、

【講義】魯の季友の孫なる季文子曰く、我をして文公の嫡子を殺さしめ、其の庶子を立てしめ、以て外國の大援を失はしめたるものは襄仲なりと、是より先に襄仲は既に宣公を立つ、襄仲の子たる公孫歸父は、宣公に愛せらる、此の時に宣公は三桓を伐たんとす、其の事未だ成らずして、宣公卒す、故に季文子は襄仲を怨む、公孫歸父は遂に齊に奔る、

【字解】三桓、前節に在り、

成公二年春、齊伐取我隆、夏、公與晉郤克、敗齊頃公於鞌、齊復歸我侵地、四年、成公如晉、晉景公不敬魯、魯欲背晉合於楚、或諫乃止、十年、成公如晉、晉景公卒、因留成公、送葬、魯諱之、

【講義】魯の成公二年春に、齊は魯を伐ちて隆を取る、其の年の夏に、成公は晉の郤克と共に、齊の頃公を鞌に敗る、齊は再び我に侵略の地を返還す、四年に、成公は晉に往く、晉の景公は魯を敬せず、魯は晉に背かんと欲し、楚に合せんと欲す、或る人は成公を諫め、此の事乃ち止む、十年成公は晉に往く、此の時に晉は景公卒す、因て成公を留めて、景公の葬を送らしむ、魯は愧ぢて之を諱む、

【字解】鞌、齊の地なり、齊の太公世家に詳なり、

十五年、始與吳王壽夢會鍾離、十六年、宣伯告晉、欲誅季文子、文子有義、晉人弗許、十八年、成公卒、子午立、是爲襄公、是時襄公三歲也、

【講義】魯の成公十五年に、魯は始めて吳の壽夢と

冬十月、襄仲殺子惡及視、而立俀、是爲宣公、

【講義】 魯の文公の十五年に、魯の大夫季文子は晉に使す、十八年二月に、文公卒す、文公は二妃有り、長女は齊君の女なり、哀姜といふ、子惡及び視を生む、次妃敬嬴は、寵愛せられ、子俀を生む、俀は私に公子襄仲に事ふ、襄仲は之を立てんと欲す、公子叔仲曰く、不可なりと、是に於て、襄仲は齊の惠公に請ふ、惠公は新に立ちて魯に親しまんと欲す、故に襄仲に許して俀を助く、其の冬十月に、襄仲は公子惡及び視を殺して、俀を立つ、是を宣公といふ、

【字解】 長妃、夫人なり、次妃、側室なり、嬖愛、寵愛なり、

哀姜歸齊、哭而過市、曰天乎、襄仲爲不道、殺適立庶、市人皆哭、魯人謂之哀姜、魯由此、公室卑、三桓彊、

【講義】 哀姜は齊に歸る、其の魯を去るときに、哭して市を過ぐ、曰く天よ、襄仲は不道を爲し、嫡子を殺して、庶子を立てたりと、市人は皆哭す、魯人は之を哀姜といふ、魯は此に由りて、公室は卑弱と爲り、三桓は雄盛を致せり、

【字解】 天乎、天よと呼びて、天に訴ふるなり、三桓、桓公の子にして、莊公の弟なる孟、叔、季の三公族なり、

宣公俀十二年、楚莊王彊、圍鄭、鄭伯降、復國之、十八年宣公卒、子成公黑肱立、是爲成公、

【講義】 魯の宣公俀の十二年に、楚の莊王は强大なり、鄭を圍み、鄭伯降る、乃ち之を免して、再び國を成さしむ、十八年に宣公卒す、子成公黑肱立つ、是を成公といふ、

季文子曰、使我殺適立庶失大援者、襄仲、襄仲立宣公、公孫歸

朝見す、十一年十月甲午の日に、魯は狄を鹹に敗る、長狄喬如を獲たり、魯の大夫富父終甥は、戈を以て喬如の喉を衝きて、之を殺し、其の首を子駒の門に埋む、叔孫得臣は、因て其の子に喬如と名づく、叔孫喬如は、後に宣伯と稱せらる、

【字解】翟、狄なり、鹹、魯の地なり、今の山東曹州府曹縣なり、子駒之門、魯の郭門の名なり、

初宋武公之世、鄋瞞伐宋、司徒皇父、師帥禦之、以敗翟于長丘、獲長翟緣斯、晉之滅路、獲喬如弟棼如、齊惠公二年、鄋瞞伐齊、齊王子城父、獲其弟榮如、埋其首於北門、衛人獲其季弟簡如、鄋瞞由是遂亡、

【講義】是より先に、宋の武公の世に、鄋瞞は宋を伐つ、宋の司徒皇父は、軍を率ゐて、之を禦ぎ、以て鄋瞞を長丘に敗り、長狄緣斯を獲たり、其の後に、晉の路を滅するや、喬如の弟棼如を獲たり、齊の惠公の二年に、鄋瞞は齊を伐つ、齊の王子城父は、棼如の弟榮如を獲たり、其の首を北門に埋む、衛人は長狄の季弟簡如を獲たり、鄋瞞の國は、斯の如くして遂に亡びたり、

【講義】鄋瞞、夷の國名なり、其の人の身長きを以て、長狄と稱す、長丘、宋の地なり、今の河南衛輝府封丘縣の南に在り、路、潞國なり、是も夷國にして、今の山西潞安府潞城縣なり、

十五年、季文子使於晉、十八年二月、文公卒、文公有二妃、長妃齊女哀姜、生子惡及視、次妃敬嬴、嬖愛生子俀、俀私事襄仲、襄仲欲立之、叔仲曰不可、襄仲請齊惠公、惠公新立、欲親魯、許之、

間に居り、政事を執りて、公室の輔佐と爲らん、季亡ぶれば、魯は榮えずと、既にして季友生る、其の掌の筋線は、友の字の形を成す、遂に其の筋線に由り、友と名づく、號して成季といふ、其の子孫は季氏と爲る、而して慶父の子孫は、孟氏と爲る、之に叔牙の叔氏を加へて、世に三桓と稱す、皆桓公の子なるを以てなり、

【字解】兩社、周社亳社なり、周社は周の國社なり、亳社は、殷の社なり、亡國の社を存するは、訓戒の意を寓するなり、兩社の間は、國政を執行する處なり、

釐公元年、以汶陽鄪、封季友、季友爲相、九年、晉里克殺其君奚齊卓子、齊桓公率釐公、討晉亂、至高梁而還、立晉惠公、十七年齊桓公卒、二十四年晉文公卽位、三十三年釐公卒、子興立、是爲文公、

【講義】釐公の元年に、魯の汶陽及び鄪の二邑を以て、季友を封ず、季友は宰相と爲る、九年に、晉の里克は、其の君奚齊及び卓子を殺す、齊の桓公は、釐公を率ゐて、晉の亂を討じ、晉の高梁に至りて還る、遂に晉の惠公を立つ、十七年に、齊の桓公卒す、二十四年に、晉の文公は位に卽く、三十三年に、釐公卒す、子興立つ、是を文公とす、

文公元年、楚太子商臣弑其父成王、代立、三年、文公朝晉襄公、十一年十月甲午、魯敗翟于鹹、獲長翟喬如、富父終甥舂其喉、以戈殺之、埋其首於子駒之門、以命宣伯、

【講義】魯の文公元年に、楚の太子商臣は、其の父なる成王を弑して代り立つ、三年に、文公は晉の襄公に

なり、莒、齊の附庸の國なり、齊太公の世家に詳なり、
少子、末子なり、

季友以賂如莒、求慶父、慶父歸、使人殺慶父、慶父請奔、弗聽、乃使大夫奚斯行哭而往、慶父聞奚斯音、乃自殺、齊桓公聞哀姜與慶父亂以危魯、乃召之邾而殺之、以其屍歸、戮之魯、魯釐公請而葬之、

【講義】是に於て、季友は賂を以て莒に往き、慶父を求めしむ、慶父歸る、乃ち人をして慶父を殺さしむ、慶父は奔らんことを請ふ、季友は之を聽かず、魯の大夫奚斯をして行行哭しながら往かしむ、慶父は奚斯の哭聲を聞き、其の赦されざるを知り、自殺す、齊の桓公は、哀姜が慶父と相通じて亂を作し、以て魯を危くすと聞き、哀姜を邾より召して之を殺し、其の屍を以て魯に送り、之を戮せしむ、魯の釐公は、齊に請ひて之を葬る、

【字解】行哭、行く行く哭しながら歩むなり、戮、暴し物として、其の罪を公衆に示すなり、

季友母陳女、故亡在陳、陳故佐送季友及子申、季友之將生也、父魯桓公使人卜之、曰、男也、其名曰友、間于兩社、爲公室輔、季友亡、則魯不昌、及生、有文在掌、曰友、遂以名之、號爲成季、其後爲季氏、慶父後爲孟氏也、

【講義】魯の季友の母は、陳君の女なり、故に季友は亡げて陳に在り、是の故に、陳は季友及び公子申を佐けて、魯に送る、是より先に、季友の生れんとするや、其の父なる魯の桓公は、人をして之を卜せしむ、卜人曰く、男なり、其の名を友と曰はん、周社と亳社との

す、然るに、莊公の卒するに及びて、季友は班を立てたり、

十月己未、慶父使圉人犖殺魯公子斑於黨氏、季友犇陳、慶父竟立莊公子開、是爲湣公、

【講義】其の年の十月己未の日に、慶父は馬役人の犖をして、魯の公子斑を黨氏の家に殺さしむ、季友は陳に奔る、慶父は竟に莊公の子開を立つ、是を湣公とす、

【字解】圉人、馬を養ふ吏なり、犇、奔に同じ、

湣公二年、慶父與哀姜通益甚、哀姜與慶父謀殺湣公而立慶父、慶父使卜齮襲殺湣公於武闈、

【講義】湣公の二年に、慶父は哀姜と密通すること益、甚し、哀姜は慶父と相謀り、湣公を殺さんと欲し、之を殺し、以て慶父を立てんと欲す、是に於て、慶父は魯の大夫卜齮をして、湣公を宮中の武闈に襲殺せしむ、

【字解】武闈、宮中の小門を闈といふ、武は其の門の名なり、

季友聞之、自陳與湣公弟申、如邾、請魯、求内之、魯人欲誅慶父、慶父恐奔莒、於是、季友奉子申入、立之、是爲釐公、釐公亦莊公少子、哀姜恐、奔邾、

【講義】季友は慶父の亂を聞き、陳を出でて、湣公の弟申と共に邾に往き、魯に請ひて、申を納れんことを求む、魯は慶父を誅せんと欲す、慶父恐れて莒に奔る、是に於て、季友は公子申を奉じ入りて、之を立つ、是を釐公とす、釐公は莊公の末子なり、哀姜は恐れて邾に奔る、

【字解】邾、魯に近き小國なり、今の山東兗州府鄒縣

可爲嗣、君何憂、莊公患叔牙欲立慶父、退而問季友、季友曰、請以死立斑也、

【講義】 莊公の病重し、後嗣を弟叔牙に問ふ、叔牙曰く父死して其の子一たび繼ぎ、兄死して弟一たび及ぶ、是れ魯國の常例なり、慶父存在す、以て嗣君と爲すべし、君何ぞ憂ふるを要せんやと、是に於て、莊公は叔牙が慶父を立てんとするを患とす、退きて季友に問ふ、季友曰く、請ふ死を以て斑を立てん、

莊公曰、曩者叔牙欲立慶父、奈何、季友以莊公命命牙、待於鍼巫氏、使鍼季劫飲叔牙以鴆、曰、飮此、則有後奉祀、不然、死且無後、牙遂飮鴆而死、魯立其子爲叔孫氏、

【講義】 莊公曰く、曩に叔牙は慶父を立てんと欲す、之を奈何せん、季友乃ち莊公の命を受けたりと稱し、叔牙に命じて、魯の大夫鍼巫氏の家に待たしめ、鍼季をして叔牙を劫かさしめ、之に鴆毒を進めて曰く、此を飮めば後嗣を存して、祭祀を奉ぜしめん、之を飮まざるときは、死するも後嗣無からんとすと、叔牙は遂に鴆毒を飮みて死す、魯は其の子を立てゝ叔孫氏とす、

八月癸亥、莊公卒、季友竟立子斑爲君、如莊公命、侍喪、舍于黨氏、先時慶父與哀姜私通、欲立哀姜娣子開、及莊公卒、而季友立斑、

【講義】 其の年の八月癸亥の日に、莊公卒す、季友は竟に莊公の子斑を立て、魯君とす、莊公の命ずる所の如し、乃ち喪に侍して、黨氏に舍る、是より先に、慶父は哀姜と私通す、因て哀姜の妹の子開を立てんと欲

人犖自牆外與梁氏女戯、斑怒鞭犖、莊公聞之曰、犖有力焉、遂殺之、是未可鞭而置也、斑未得殺、

【講義】魯の莊公の十五年に、齊の桓公は始めて霸業を成せり、二十三年に、莊公は齊に往き社を觀る、齊が社を祭りて軍器を聚めたるを以てなり、三十二年に、莊公卒す、是より先に、莊公は臺を築き、大夫黨氏の家に臨む、黨氏に長女有り、美なり、莊公は之を視て、悦び愛し、之を夫人に立てんとを許し、臂を割きて盟約す、既にして此長女は、莊公の子斑を生む、斑は年長じて、魯の大夫梁氏の女を悦び、往きて觀る、馬役人の犖は、牆の外より梁氏の女と戯る、斑怒り、犖を鞭つ、莊公は之を聞きて曰く、犖は力量多し、遂に之を殺して、害を除くべし、是れ未だ鞭ちたるのみにて置くべからずと、然れども斑は未だ犖を殺すを得ずして、時日を經過せり、

【字解】説、悦ぶなり、孟女、長女なり、圉人、馬を養ふ役人なり、

會莊公有疾、莊公有三弟、長曰慶父、次曰叔牙、次曰季友、莊公取齊女爲夫人、曰哀姜、哀姜無子、哀姜娣曰叔姜、生子開、莊公無適嗣、愛孟女、欲立其子斑、

【講義】既にして莊公は疾有り、其の三弟は、長を慶父といひ、次を叔牙といひ、季を季友といふ、莊公は齊の女を取り、夫人と爲し之を哀姜といふ、哀姜は子無し、哀姜の妹を叔姜といふ、莊公の子開を生む、莊公は嫡嗣無し、黨氏の長女を愛し、其の子斑を後嗣に立てんと欲す、

【字解】娣、妹なり、適嗣、嫡嗣なり、孟女、黨氏の長女なり、前節に在り、

莊公病、而問嗣於弟叔牙、叔牙曰、一繼一及、魯之常也、慶父在、

るに後る、是に於て、桓公は兵を發し魯を撃つ、魯は危急なり、乃ち子糾を殺し、齊の命に應ず、子糾の傅召忽は之に死す、齊は魯に告げて曰く、管仲を虜へて、之を齊に送れよと、

【字解】 生致、生きながら捕へて之を送り届けるなり、

魯人施伯曰、齊欲得管仲、非殺之也、將用之、用之則爲魯患、不如殺以其屍與之、莊公不聽、遂囚管仲、與齊、齊人相管仲、

【講義】 魯の施伯曰く、齊が管仲を得んと欲するは、之を殺すが爲めに非ず、之を用ひんと欲するなり、果して管仲を用ふる時は、魯の患を爲さん、魯は先づ管仲を殺し、其の屍を以て齊に與ふるに如かずと、莊公は之を聽かず、遂に管仲を囚へて、齊に與ふ、齊は乃ち管仲を擧げて、宰相と爲せり、

十三年、魯莊公與曹沫會齊桓公於柯、曹沫劫齊桓公、求魯侵地、已盟而釋桓公、桓公欲背約、管仲諫、卒歸魯侵地、

【講義】 魯の莊公の十三年に、莊公は將軍曹沫と共に、柯の地に於て、齊の桓公に會見し、曹沫は桓公を劫して、齊の侵略したる魯の地を返還せんことを求む、其の會盟畢りて桓公を釋す、桓公は國に歸りて、曹沫の約に背かんと欲す、管仲は之を諫め、終に魯に向ひて、其の侵略の地を返還す、

【字解】 柯、齊の地なり、今の濟北東阿に在り、

十五年、齊桓公始霸、二十三年、莊公如齊觀社、三十二年、初莊公築臺、臨黨氏、見孟女、說而愛之、許立爲夫人、割臂以盟、孟女生子斑、斑長、說梁氏女、往觀、圉

く、齊の襄公は桓公の夫人に私通す、公は夫人を怒る、夫人は之を襄公に告ぐ、

夏四月丙子、齊襄公饗公、公醉、使公子彭生抱魯桓公、因命彭生摺其脅、公死于車、

【講義】其の年の夏四月丙子の日に、齊の襄公は桓公を饗す、桓公醉ふ、襄公は齊の公子彭生をして桓公を抱かしめ、因て彭生に命じ、其の脇骨を折らしむ、桓公は忽ち車上に死す、

魯人告于齊曰、寡君畏君之威、不敢寧居、來脩好禮、禮成而不反、無所歸咎、請得彭生、以除醜於諸侯、齊人殺彭生、以說魯、立太子同、是爲莊公、莊公母夫人、因留齊、不敢歸、

【講義】魯は齊に告げて曰く、我君は齊君の威を畏れて、居所に安息するを敢てせず、齊に朝して、好禮を修む、然るに禮成りて死し、國に還らず、其の咎を歸するに所無し、請ふ彭生を得て、魯の辱を諸侯の前に除かんと、齊は彭生を殺して、魯に謝す、魯は太子同を立てて君とす、是を莊公といふ、莊公の母なる桓公夫人は、因て齊に留り、魯に歸るを敢てせず、

【字解】寡君、國人が他國に對して、我君を稱する謙語なり、醜、恥辱なり、

魯莊公五年冬、伐衞、內衞惠公、八年、齊公子糾來奔、九年、魯欲內子糾於齊、後桓公、桓公發兵擊魯、魯急、殺子糾、召忽死、齊告魯、生致管仲、

【講義】魯の莊公の五年冬に、魯は衞を伐ち、惠公を衞に入らしむ、八年に、齊の公子糾は、逃れて魯に來る、九年に魯は子糾を齊に納れんと欲して、桓公の入

れ、請ふ子が爲めに隱公を殺さんと、子允許諾す、

【字解】 菟裘、魯の地名なり、今の山東泰安府泰安縣の東南に在り、

十一月、隱公祭鍾巫、齊于社圃、館于蔿氏、揮使人弑隱公于蔿氏、而立子允、爲君、是爲桓公、

【講義】 其の年の十一月に、隱公は鍾巫の靈を祭り、社圃に齋戒し、魯の大夫蔿氏に宿す、公子揮は人をして、隱公を蔿氏に弑せしむ、而して公子允を立て、魯君とす、是を桓公といふ、

【字解】 鍾巫、古の神巫なり、齊、齋戒なり、社圃、園の名なり、

桓公元年、鄭以璧易天子之許田、二年、以宋之賂鼎入於太廟、君子譏之、三年、使揮迎婦于齊、爲夫人、六年、夫人生子、與桓公同日、故名曰同、同長爲太子、十六年會于曹、伐鄭入厲公、

【講義】 魯の桓公の元年に、鄭は璧を魯に贈りて、前年の祊に加へ、以て魯より許の田を受くる交換とす、二年に、宋より賂として獲たる鼎を、周公の廟に納め入る、君子は其の禮に非るを譏る、三年、公子揮をして、夫人を齊より迎へしむ、六年、夫人は子を生む、桓公の生れたると同日なり、故に名けて同といふ、同は年長じて太子と爲る、十六年、桓公は曹に會して鄭を伐ち、鄭の厲公をして其の都に入らしむ、

十八年春、公將有行、遂與夫人如齊、申繻諫止公、公不聽、遂如齊、齊襄公通桓公夫人、公怒夫人、夫人以告齊侯、

【講義】 魯の桓公の十八年春に、桓公は行遊せんと欲し、遂に其の夫人と共に齊に往かんとす、魯の大夫申繻は諫めて之を止む、桓公は聽かず、遂に齊に往

允の幼少なるが爲めに、魯國の士民は、相共に息をして、政事を攝行せしむ、故に即位を言はず、

【字解】 長庶子、妾腹なれども、長子なり、適夫人、正室なり、

隱公五年、觀漁於棠、八年、與鄭易天子之太山之邑祊及許田、君子譏之、十一年冬、公子揮諂謂隱公曰、百姓便君、君其遂立、吾請爲君殺子允、君以我爲相、

【講義】 魯の隱公の五年に、隱公は濟水に遊び、棠に於て漁を觀る、八年に魯の有する許の田と鄭の有する祊の地とを交換して、實用に便にす、君子は其の王命を輕視するを譏る、十一年の冬に、魯の公子揮は、隱公に諂ひて曰く、國人は君を便とす、君其れ遂に即位せよ、吾請ふ君の爲めに子允を殺さん、君は我を以て宰相とせよと、

【字解】 棠、魯の地名なり、濟上に在り、祊、泰山を祭る爲めに、天子より鄭に賜りたる地たり、許田、魯の朝廷に出仕する途中の便利として、天子より魯に賜りたる地なり、

隱公曰、有先君命、吾爲允少、故、攝代、今允長矣、吾方營菟裘之地而老焉、以授子允政、揮懼子允聞而反誅之、乃反譖隱公於子允曰、隱公欲遂立、去子、子其圖之、請爲子殺隱公、子允許諾、

【講義】 隱公は公子揮の策を斥けて曰く、先君の命有り、允は魯君たるべし、吾は允の幼少なるが爲めに、假攝して代りたるのみ、今や允は年長じたり、吾は菟裘の地に隱居所を造りて、老年を樂まんとすと、蓋し子允に政を授けんとするなり、公子揮は之を聞きて、此の事の漏るゝときは、子允が反て我を誅するに至らんと懼れ、乃ち反て隱公を子允に譏言し曰く、隱公は遂に即位し、子を除かんと欲す、子其れ之を圖

ふ所の如し、必らず能く其の民を訓治せんと、乃ち周の夷宮に於て、稱を立て、魯君とす、是を孝公といふ、是より以後、諸侯は王命に背くもの多し、樊仲山父の豫言適中したり、

【字解】　樊穆仲、樊仲山父に同じ、耆老、父老といふが如し、耆は六十歲、老は七十歲、何れも老人を汎稱したるなり、咨、諮るなり、固實、故實なり、舊來の良き事例なり、夷宮、宣王の祖父夷王の廟なり、

孝公二十五年、諸侯畔周、犬戎殺幽王、秦始列爲諸侯、二十七年、孝公卒、子弗湟立、是爲惠公、惠公三十年、晉人弑其君昭侯、四十五年、晉人又弑其君孝侯、

【講義】　魯の孝公の二十五年に、諸侯は周に畔き、犬戎は周の幽王を殺し、秦始めて列し、諸侯と爲る、二十七年に孝公卒す、其の子弗湟立つ、是を惠公とす、惠公の三十年に、晉人は其の君昭侯を弑す、四十五年に、晉人は更に其の君孝侯を殺す、

四十六年、惠公卒、長庶子息、攝當國、行君事、是爲隱公、初惠公適夫人無子、公賤妾聲子、生子息、息長、爲娶於宋、宋女至而好、惠公奪而自妻之、生子允、登宋女爲夫人、以允爲太子、及惠公卒、爲允少故、魯人共令息攝政、不言卽位、

【講義】　魯の惠公の四十六年に、惠公卒す、長庶子たる息は、政事を假攝して、君の事を行ふ、是を隱公とす、是より先に、惠公の正夫人は子無し、惠公の賤妾聲姬は、息を生む、息年長ず、因て宋より娶る、宋の女至りて、美麗なり、惠公乃ち宋の女を奪ひて、自から之を妻とす、允を生む、是に於て、宋の女を登して、夫人と爲し、允を以て太子と爲す、既にして惠公卒す、

てながら、其の少子を太子に立てしむるは、是れ民に逆を敎ふるなり、若し魯にして此の命に從はゞ、諸侯も之に倣はん、王命は終に壅塞する所有らんとす、王命既に不正なるを以て、諸侯の從はざるときに、之を誅せば、是れ自ら王命を誅するなり、之を誅するも失なり、誅せざるも失なり、王其れ之を圖れよと、然れども宣王は之を聽かず、終に魯の少子戲を立てゝ、魯の太子と爲す、

【字解】樊、仲山父の封邑なり、樊陽城なり、戰國に晉の領有に歸す、

夏武公歸而卒、戲立、是爲懿公、懿公九年、懿公兄括之子伯御、與魯人攻弑懿公、而立伯御爲君、伯御卽位十一年、周宣王伐魯、殺其君伯御、而問魯公子能道順諸侯者、以爲魯後、

【講義】其の年の夏、武公は魯に歸りて卒す、少子戲立つ、是を懿公と曰ふ、懿公の九年に、懿公の兄括の子伯御は、其の國人と共に攻めて、懿公を殺す、魯人は伯御を立てゝ君と爲す、伯御卽位の十一年に、周の宣王は魯を伐ち、其の君伯御を殺し、魯の公子の中に於て能く諸侯を訓導するに足るものを問ひ求む、蓋し以て魯の後嗣と爲さんとするなり、

【字解】道順、訓導なり、下節に述ぶる訓治に同じ、

樊穆仲曰、魯懿公弟稱、肅恭明神、敬事耆老、賦事行刑、必問於遺訓、而咨於固實、不干所問、不犯所知、宣王曰、然、能訓治其民矣、乃立稱於夷宮、是爲孝公、自是後、諸侯多畔王命、

【講義】樊穆仲曰く、魯の懿公の弟稱は、明神を肅奉し、父老に敬事し、事を治め刑を行ふには、必らず先王の遺訓に問ひ、國家の故實に諮る、其の問ふ所を犯さず、其の知る所に背かずと、宣王曰く、洵に汝の言

して自立す、是を魏公とす、魏公五十年卒す、子厲公擢立つ、厲公三十七年卒す、魯人は其の弟具を立つ、是を獻公とす、獻公三十二年卒す、子眞公濞立つ、眞公十四年に、周の厲王無道にして、彘に出奔す、大臣相依り、政を行ふ、號して共和といふ、二十九年に、周の宣王卽位す、三十年に眞公卒す、弟敖立つ、是を武公といふ、

【字解】彘、晉の地なり、今の山西平陽府に屬す、

武公九年春、武公與長子括少子戲、西朝周宣王、宣王愛戲、欲立戲爲魯太子、

【講義】魯の武公の九年春に、武公は長子括少子戲と共に西上して、周の宣王に朝見す、宣王は戲を愛し、戲を以て魯の太子と爲さんと欲す、

周之樊仲山父諫宣王曰、廢長立少不順、不順必犯王命、犯王命必誅之、故出令不可不順也、令之不行、政之不立、行而不順、民將弃上、夫下事上、少事長、所以爲順、今天子建諸侯、立其少、是敎民逆也、若魯從之、諸侯效之、王命將有所壅、若弗從而誅之、是自誅王命也、誅之亦失、不誅亦失、王其圖之、宣王弗聽、卒立戲、爲魯太子、

【講義】周の樊仲山父は宣王を諫めて曰く、魯の少子を其の太子に立つるは不可なり、夫れ長を廢し少を立つるは順ならず、順ならざれば、必らず王命を犯すに至る、臣にして王命を犯せば、王は必らず之を誅す、故に令を出すは、順ならざるべからず、令の行はれざるは、政の立たざるなり、行ひて順ならざれば、民は上を棄てんとす、夫れ下が上に事へ、少が長に事ふるは、順と爲す所以なり、今や天子は諸侯を建

逸走逋逃の起りたるときに、境を越えて逐ふ勿れ、之を獲たるものは、敬みて之を原の持主に復せ、或は之を獲んとする場合に、寇し攘みして、他人の墻垣を踰ゆる勿れ、魯人は徐戎に接する東郊を除きて他の西南北の三郊及び其の郊外の三遂は、汝の乾草を備へて牛馬の飼養に充てよ、糧食を備へよ、楨幹を備へよ、以て兵士を養ひ營壘を築くに用ひん、之を備へざるを敢てすること勿れ、我は甲戌の日を以て、營壘を堅固にし、徐戎を征せんと欲す、汝臣民は此の徵發に供へざるを敢てすること勿れ、之に背くものには大刑有らんと、伯禽は此の肹誓を作りて、遂に徐戎を征服し、魯を定めたり、

【字解】 牿、牢なり、風、逸れ奔るなり、隧、郊外の地なり、峙、貯へ備ふるなり、芻茭、乾きたる草なり、糗、乾きたる米なり、楨幹、土堺の前後上下に要する木なり、

魯公伯禽卒、子考公酋立、考公四年卒、立弟熙、是謂煬公、煬公築茅闕門、六年卒、子幽公宰立、

【講義】 魯公伯禽卒す、子考公酋立つ、考公四年卒す、其の弟熙を立つ、是を煬公といふ、煬公は茅闕門を築く、六年卒す、子幽公宰立つ、

幽公十四年、幽公弟濆、殺幽公而自立、是爲魏公、魏公五十年卒、子厲公擢立、厲公三十七年卒、魯人立其弟具、是爲獻公、獻公三十二年卒、子眞公濞立、眞公十四年、周厲王無道、出奔彘、共和行政、二十九年、周宣王卽位、三十年眞公卒、弟敖立、是爲武公、

【講義】 魯の幽公の十四年に、其の弟濆は、幽公を殺

太公亦封於齊、五月而報政周公、周公曰、何疾也、曰、吾簡其君臣禮、從其俗爲也、及後聞伯禽報政遲、乃歎曰、嗚呼魯後世、其北面事齊矣、夫政不簡不易、民不有近、平易近民、民必歸之、

【講義】　太公も封土を賜り、齊國を開く、五月を經て、政事の成れるを周公に報ず、周公曰く、何ぞ其速なるや、太公曰く、吾は其君臣の禮を簡約にし、其民俗に從ひ、政事を施せりと、既にして周公は後れて伯禽が政を報ずるを聞き、乃ち歎じて曰く、嗚呼魯は後世に至り、北面して齊に臣とし事へんか、夫れ政事は簡易を便とす、簡ならず易ならざれば、民は近く能はず、平易にして民を近くれば、民必らず之に歸す、

伯禽卽位之後、有管蔡等反也、淮夷徐戎亦竝興反、於是伯禽率師、伐之於肸、作肸誓、

【講義】　伯禽が魯君と爲りたる後に、管蔡等の叛亂有り、淮夷徐戎等の夷狄、亦竝びに叛亂す、是に於て、伯禽は軍を率ゐて、之を肸に伐つ、肸誓の文を作る、

【字解】　肸、戎の國名なり、費或は鮮皆同じ、尙書には費に作る、

曰、陳爾甲冑、無敢不善、無敢傷牿、馬牛其風、臣妾逋逃、勿敢越逐、敬復之、無敢寇攘、踰墻垣、魯人三郊三隧、峙爾芻茭糗糧楨榦、無敢不逮、我甲戌築而征徐戎、無敢不及、有大刑、作此肸誓、遂平徐戎、定魯、

【講義】　其肸誓の文に曰く、爾の甲冑を陳ねよ、不善を敢てする勿れ、馬牛の牢を傷ふ勿れ、牢を傷へば馬牛は逸走せん、不善を爲せば、臣妾は逋逃せん、其の

り、其平、兩字を以て『也』と見るべし、其無二繆卜一乎を、無二繆卜一也と解するを便とす、

王出レ郊、天乃雨、反レ風、禾盡起、二公命二國人一、凡大木所レ偃、盡起而築レ之、歳則大熟、

【講義】 是に於て、成王は郊に出で、上帝及び周公の神靈に禮す、天乃ち雨を降し、風を吹返して、伏したる禾を起たしむ、太公召公は國民に命じて曰く、凡そ大木の偃したる處は、盡く之を起して、土を築き禾の根を養ふべしと、此の歳遂に豐熟す、

【字解】 反レ風、風の方向を轉じて、初に復するなり、築、土を以て禾を培養するなり、

於レ是、成王乃命レ魯、得三郊祭二文王一、魯有二天子禮樂一者、以レ襃二周公之德一也、

【講義】 是に於て、成王は魯に命じ、郊に於て、上帝及び文王を祭ることを得しむ、魯國が諸侯にして、天子の禮樂を有するは、是れ周公の德を襃顯するが爲めなり、

【字解】 襃、褒なり、賞揚するなり、

周公卒、子伯禽固已前受レ封、是爲二魯公一、魯公伯禽之初、受レ封之レ魯、三年而後、報二政周公一、周公曰、何遲也、伯禽曰、變二其俗一、革二其禮一、喪三年、然後除レ之、故遲、

【講義】 周公卒去して、子伯禽は既に封土を受けたり、是を魯公と爲す、魯公伯禽の初めて封を受け魯に之くや、三年を經て後に、政事の成れるを周公に報ず、周公曰く、何ぞ其れ遲きや、伯禽曰く、我は魯に於て、其の民俗を變じ、其の禮制を改め、喪に服するは三年にして、後に之を除くこととす、斯の如く變革多きを以て、故に遲し、

公の遺言に從はず、遂に周公を畢に葬り、文王に從はしむ、以て成王が敢て周公を臣とせざるを明にす、

【字解】 沒、歿なり、畢、豐に近き地なり、

周公卒後、秋未穫、暴風雷雨、禾盡偃、大木盡拔、周國大恐、成王與大夫朝服以開金縢書、王乃得周公所自以爲功代武王之說、

【講義】 周公卒去の後に、秋穀未だ收穫せず、暴風雷雨有り、穀類は皆偃し、大木は皆拔け、周の國民は大に恐る、成王は大夫と朝廷の禮服を着けて、金縢の匱に收めたる書を開き視る、乃ち周公が自から犧牲と爲りて、武王に代り死せんとする說を得たり、

【字解】 金縢、一本には金倘に作る、尙書の金縢なり、前節に在り、功、事なり、犧牲となる事なり、前節には質の字に作る、同義なり、

二公及王、乃問史百執事、史百執事曰、信有、昔周公命我、勿敢言、成王執書以泣曰、自今後、其無繆卜乎、昔周公勤勞王家、惟予幼人弗及知、今天動威、以彰周公之德、惟朕小子其迎、我國家禮亦宜之、

【講義】 是に於て、太公召公及び成王は、諸史官及び百執事に問ふ、史官及び執事皆曰く、此の事は信に有り、昔日周公は我に命じて、言ふ勿からしむと、成王乃ち書を執り泣いて曰く、此の書を觀て、周公の德を知る、之を敬せざれば天變至る、今より後は龜卜を要せざるべし、昔日周公は王家に勤勞す、當時惟予は年少にして、之を知る能はず、今や天は威を動かし、以て周公の德を彰はす、惟朕小子は、其れ周公の靈を迎へん、我國家の禮を以て、有德者を待遇するも、亦之に順ふを宜しとす、

【字解】 二公、太公召公なり、繆卜、敬みて卜するな

多士稱曰、自湯至于帝乙、無不率祀明德、帝無不配天者、在今後嗣王紂、誕淫厥佚、不顧天及民之從也、其民皆可誅、周多士、文王日中昃不暇食、饗國五十年、作此以誡成王、

【講義】多士の文に曰く、殷は湯王より帝乙に至るまで、祀に率はざる無し、德を明にせざる無し、其の嗣王は、其の德を以て、天の廣大なるに配せざる無し、然るに今に在りて、後嗣たる紂王は、大に淫亂し、其れ逸樂し、天及び民の順ふ所を顧みず、故に其の國民は、何人にても皆起ちて、此の暴虐なる紂王を誅すべきのみ、之に反して周は良士多し、而も文王は日中より晩に至るまで、政事を修めて、食に暇無し、故に其の德は天に配し、國を饗くること五十年の久しきに及べりと、周公は此の無逸多士の兩文を作り、以て成王を戒めたり、

【字解】誕、大なり、厥佚、其逸なり、從、從り順ふ所なり、昃、晩るなり、誡、戒なり、

成王在豐、天下已安、周之官政、未次序、於是、周公作周官、官別其宜、作立政、以便百姓、百姓說、

【講義】成王は豐に在り、天下既に治る、然れども周の官政、未だ次序を整へず、是に於て、周公は周官の文を作る、而して官其の適當なる制を分つ、因て立政の文を作り、衆庶に便にす、衆庶皆悅ぶ、

周公在豐病、將沒、曰、必葬我成周、以明吾不敢離成王、周公既卒、成王亦讓、葬周公於畢、從文王、以明予小子不敢臣周公也、

【講義】周公は豐に在り、病みて歿せんとす、曰く、必らず我を成周に葬り、以て吾の敢て成王を離れざるを明にせよと、周公既に卒す、成王亦辭讓して、周

忘れ、以て其の家を亡ふ、故に人の子たるものは、愼まざるべけんや、是の故に、昔時殷王中宗は、嚴恭にして敬畏し、天命自から度り、民を治むるに於て、自から震懼す、敢て事を荒廢せず、安逸に就かず、故に中宗は、國を饗くること七十五年の久しきに及べり、

其在高宗、久勞于外、爲與小人、作其卽位、乃有亮闇三年不言、言乃讙、不敢荒寧、密靖殷國、至于小大無怨、故高宗饗國五十五年、

【講義】無逸の文に又曰く、殷王高宗は、久しく他鄕に勞役して、衆庶と共にし、其の起ちて位に卽くや、乃ち先王の喪に居り、三年謹愼して、言語を輕忽にせず、言へば道に協ひて民喜ぶ、其の畢生の志行は、敢て荒淫せず、寧處せず、殷國を密に靖じて、小大の事態、總て民怨無きに至る、故に高宗は國を饗くる五十五年の久しきに及べり、

【字解】其在、昔在なり、小人、衆庶なり、作、起なり、亮闇、諒陰に同じ、天子の喪に居ることなり、讙、喜なり、

其在祖甲、不義惟王、久爲小人、于外、知小人之依、能保施小民、不侮鰥寡、故祖甲饗國三十三年、

【講義】無逸の文に又曰く、殷王祖甲は、徒に王たることを不義と思惟し、久しく民間に下り、他鄕に出で、衆庶と伍せり、故に其の卽位するや、能く衆庶の依り賴む所以を知り、能く衆庶を保ち、仁澤を施して、妻無きものを侮らず、夫無きものを慢らず、故に祖甲は、國を饗くる三十三年の久しきに及べり、

【字解】依、依り賴む所なり、仁政なり、鰥寡、妻無きものを鰥といふ、夫無きものを寡といふ、

蚤沈之河、以祝於神曰、王少、未有識、奸神命者、乃旦也、亦藏其策於府、成王病有瘳、

【講義】是より先に、成王幼少の時に、病有り、周公乃ち自から其の爪を剪り、之を河に沈めて、神に禱り告ぐ、曰く王は幼少なり、未だ識る所有らず、神命を犯すものは旦なりと、亦其の神に告げたる策文を、王府に藏む、成王の病は、乃ち快愈す、

【字解】揃、剪るなり、蚤、爪なり、奸、犯なり、瘳、快愈なり、

及成王用事、人或譖周公、周公奔楚、成王發府、見周公禱書、乃泣、反周公、周公歸、恐成王壯、治、有所淫佚、乃作多士、作毋逸、

【講義】既にして、成王が政事を執るに及び、或るものは周公を譖言す、周公は楚に奔る、是に於て、成王は府を開きて、周公の藏めたる祈禱の書を觀る、因て其の成王に代りて死せんとする忠誠を知り、涕泣し、周公を呼び還す、周公歸りて成王が壯年に及び、其の治道を怠り、淫蕩放逸なる所有るを恐る、乃ち多士と、無逸との兩文を作る、

【字解】譖、讒言なり、佚、逸なり、毋、無なり、多士無逸兩篇の文なり、載せて尚書に詳なり、

毋逸稱、爲人父母、爲業至長久、子孫驕奢忘之、以亡其家、爲人子、可不愼乎、故昔在殷王中宗、嚴恭敬畏、天命自度、治民震懼、不敢荒寧、故中宗饗國七十五年、

【講義】無逸の文に曰く、人の父母と爲り、其の業を經營する、甚だ長久なるも、子孫は驕奢にして、之を

歸りて事を成王に報じ、乃ち詩を作り王に貽る、之を命けて鴟鴞といふ、以て天下の疑心を氷解せしむ、王亦未だ敢て周公を誚らず、

【字解】 咸、皆なり、祉福、瑞兆なり、異母同穎、異畝同穗なり、餽、遺なり、訓、誚るなり、集、安定したる貌なり、

成王七年二月乙未、王朝歩自周、至豐使太保召公先之雒相土、其三月、周公往營成周雒邑、卜居焉、曰吉、遂國之、

【講義】 周の成王の七年二月乙未の日に、王は朝に周の鎬京より歩して、豐に至る、太保召公をして、先づ洛に往き、地勢を觀察せしむ、其の年の三月に、周公は往きて、洛の都を營築す、是を成周といふ、王城を卜す、吉兆を得たり、遂に之に國す、

【字解】 周、宗周なり、鎬京なり、豐、文王の廟の所在地なり、雒、洛に同じ、中原の都なり、此の段は、總て周の本紀に詳なり、

成王長能聽政、於是、周公乃還政於成王、成王臨朝、周公之代成王治、南面倍依、以朝諸侯、及七年後、還政成王、北面就臣位、匑匑如畏然、

【講義】 成王年長じて、能く政事を聽く、是に於て、周公は政を成王に返上す、成王乃ち朝に臨む、是より先に、周公が成王に代りて治むるや、南面し斧扆を後にして、諸侯を參朝せしむ、七年を過ぎて、大政を奉還し、周公は北面して、臣位に就き、匑匑として、畏懼するが如く、敬意を表す、

【字解】 倍依、背扆なり、扆を背にして南に向ふなり、扆は斧扆と稱す、斧を畫きて決斷を示したる屏風の類なり、天子の背後に立て置くものなり、匑、敬畏して身を屈めたる貌なり、

初成王少時病、周公乃自揃其

は賤しからず、然れども、我は一沐の間に、三たび髮を捉り、一飯の間に三たび哺を吐き、起ちて天下の士を見るに勉む、猶天下の賢人を失ふを恐る、今や子は魯に之く、愼みて國を以て人に驕る勿れ、

【字解】沐、髮を洗ふなり、哺、口の中に含みたる食物なり、

管蔡武庚等、果率淮夷而反、周公乃奉成王命、興師東伐、作大誥、遂誅管叔、殺武庚、放蔡叔、收殷餘民、以封康叔於衞、封微子於宋、以奉殷祀、寧淮夷東土、

【講義】管蔡武庚等は、遂に淮夷を率ゐて叛亂す、周公乃ち成王の命を奉じ、軍を興して東伐し、大誥の文を作り、汎く天下に告ぐ、遂に管叔を誅し、武庚を殺し、蔡叔を追放し、殷の餘民を收合して、衞國を建て、武王の季弟康叔を以て、衞君と爲し、殷紂の庶兄微子を宋に封じて、殷の祭祀を奉ぜしめ、淮夷を征服し、東方の諸國を安定す、

【字解】大誥、其の文は載せて尙書に在り、

二年而畢定、諸侯咸服、宗周、天降祉福、唐叔得禾、異母同穎、獻之成王、成王命唐叔、以餽周公於東土、作餽禾、周公既受命禾、嘉天子命、作嘉禾、東土以集、周公歸報成王、乃爲詩貽王、命之曰鴟鴞、王亦未敢訓周公、

【講義】周公の東伐二年にして、畢く鎭定し、諸侯皆服從して、周室を宗家とす、天は周德に感じて、瑞兆を降し、成王の弟唐叔は、嘉禾を得たり、畝を異にするも瑞穗を同くす、之を成王に獻ず、成王は唐叔に命じて、之を東方滯在の周公に遺らしむ、餽禾の詩を作る、周公は既に此の天命の嘉禾を受け、天子の寵命を欽み、嘉禾の詩を作る、東方の諸國既に安定す、周公

當る、是に於て、管叔及び其の群弟は、國に流言して曰く、周公は成王に不利ならんとす、

【字解】瘳、病の快愈したるなり、强葆、襁褓なり、小兒を背に約りて負ひ行く、褓と帶となり、强は帶なり、葆は褓なり、阼、位なり、壇なり、攝、假りに取り締るなり、

周公乃告太公望召公奭曰、我之所以弗辟而攝行政者、恐天下畔周無以告我先王太王王季文王、三王之憂勞天下久矣、於今而后成、武王蚤終、成王少、將以成周、我所以爲之若此、

【講義】周公乃ち太公望召公奭に告げて曰く、我の物議を避けずして、政事を攝行する所以は、天下の諸侯が周に畔くを恐れ、且つ我太王王季文王の三先王に祭告すること能はざるを恐るゝに在り、夫れ三先王が天下を憂勞したるや久し、今に至りて、後に纔に其の王業を成す、然るに武王は蚤く歿し、成王は幼少なり、我は此の危急を救ひて、周を完成せんと欲す、我の踐阼したる所以は此の如し、豈に他意有らんや、

【字解】辟、避くるなり、攝、假りに取締るなり、蚤、早くなり、

於是、卒相成王、而使其子伯禽代就封於魯、周公戒伯禽曰、我文王之子、武王之弟、成王之叔父、我於天下亦不賤矣、然我一沐三捉髮、一飯三吐哺、起以待士、猶恐失天下之賢人、子之魯、愼無以國驕人、

【講義】是に於て、周公は終に成王に輔相たり、其の子伯禽をして、代り魯に往き、其の封土に就かしむ、周公は伯禽を戒めて曰く、我は文王の子なり、武王の弟なり、成王の叔父なり、我は天下に於て、其の身分

王、欲代武王發、於是乃卽三王而卜、卜人皆曰、吉、發書視之、信吉、周公喜、開籥乃見書、遇吉、

【講義】 周公は既に史官をして、策文に由り三先王に告げしめ、武王發に代り死せんと欲す、是に於て三先王に卽き、其の命ずる所を請はんと欲し、之を卜す、卜人皆曰く、吉なり、乃ち占兆の書を發きて、之を視れば、信に吉なり、周公喜びて、金匱の籥を開き、其の匱の中の占書を視れば、亦其の吉に遇ふ、

周公入賀武王曰、王其無害、且新受命三王、維長終是圖、茲道能念予一人、周公藏其策金縢匱中、誡守者、勿敢言、

【講義】 周公乃ち宮に入り、武王を賀して曰く、王其れ害無からん、且つ新に命を三先王より受けたり、維れ長く此の國を治る良圖を終へん、此の三先王の道は、能く現在の天子を念はんと、周公は此の身代の策文を、金縢の匱に藏め、其の守者を誡めて、之を言ふこと勿からしむ、

【字解】 圖、計畫なり、予一人、天子なり、武王發を指す、金縢、金屬の堅固なる封鎖を爲すことなり、重要なる書類を祕め置く爲めに、金屬を以て匱を縛り封ずるなり、

明日、武王有瘳、其後武王既崩、成王少、在强葆之中、周公恐天下聞武王崩而畔、周公乃踐阼、代成王攝行政當國、管叔及其群弟流言於國曰、周公將不利於成王、

【講義】 其の明日に至り武王快愈す、其の後武王崩じて、成王は幼少なり、襁褓の中に在り、周公は天下の諸侯が、武王の崩御を聞きて畔亂せんことを恐れ、自ら阼を踐み、成王に代りて政事を攝行し、以て國に

【講義】是に於て、史官は策文を讀み、三先王に告げて曰く、惟れ爾の元孫たる王發は、勤勞して疾に阻む、若しも爾三王が、其の子を保護する責任を天に負ひながら、王發の病を救ふ能はざるときは、旦を以て王發の身に代へよ、旦は巧にして能く多材多藝なり、能く鬼神に事へん、

【字解】策祝、策文を以て神に告ぐるなり、元孫、嫡孫なり、阻、苦しむなり、

乃王發、不如旦多材多藝、不能事鬼神、乃命于帝庭、敷佑四方、用能定汝子孫于下地、四方之民、罔不敬畏、無墜天之降葆命、我先王亦永有所依歸、

【講義】史官は尚三先王に告げて曰く、然るに王發は、旦が多材多藝なるに如かず、鬼神に事ふる能はず、但し王發は、天帝の庭より命を受けて、其の道を四方に敷き、衆庶を助く、以て能く汝の子孫を下地に安定す、四方の民は、之を敬畏せざる無し、故に王發は下土に在りて、天の降したる寶命を失墜すること無し、我三先王も王發に由りて、亦永く依り歸する所有り、

【字解】佐、助くなり、用、以てなり、罔、無しなり、葆命、寶命なり、重要なる命令なり、

今我其卽命於元龜、爾之許我、我其以璧與圭歸、以俟爾命、爾不許我、我乃屛璧與圭、

【講義】史官は更に三先王に告げて曰く、今や旦は身を以て、王發の死に代らんと欲し、龜を灼きて天命の兆を待つ、先王が此の願を旦に許さば、旦は璧と圭とを以て歸り、先王の命を待たん、先王が旦に許さざるときは、旦は乃ち璧と圭とを屛け去らん、

【字解】卽命於元龜、龜卜の兆に現はるゝ吉凶を觀て、天命を知る爲めに、之を待つなり、元龜は大龜なり、

周公已令史策告太王王季文

【講義】武王乃ち殷の社に於て、紂の罪を述べ、之を天に告げ、更に殷の民に告ぐ、斯くして殷の箕子の囚を放免し、紂の子武庚祿父を、殷の故地の一部に封じて、之を諸侯とし、管叔と蔡叔とをして、之に傅たらしめ、以て殷の祀を續がしむ、更に周の功臣、及び周の同姓、及び貴戚を徧く封じて、諸侯とす、周公旦を少昊帝の故墟なる曲阜に封じ、是を魯公と爲す、周公は封土に就かず、王城に留りて、武王を佐け居たり、

【字解】戚者、親族なり、周の王室の貴戚を指す、虚、墟なり、曲阜、今の山東兗州府曲阜縣なり、

武王克殷二年、天下未集、武王有疾、不豫、群臣懼、太公召公乃繆卜、周公曰、未可以戚我先王、周公於是、乃自以爲質、設三壇、周公北面立、戴璧秉圭、告于大王、王季、文王、

【講義】周の武王は、既に殷に克ちて、二年を過ぎたるも、天下未だ安定せず、武王は疾有り、樂まず、群臣懼る、太公召公、乃ち敬みて之を龜卜に問ひ、以て天意を觀んと欲す、周公曰く、單に龜卜に問ふは、我先王を憂慮せしむるを恐る、今日の場合は、未だ我先王を憂慮せしむべからずと、周公乃ち龜卜に先だち、自から武王の病に代らんと欲し、其の身は犧牲と爲り、三壇を設けて、大王と王季と文王との三先王を祭り、周公は三壇の南方に於て北面し、三壇に向ひて立ち、璧を戴き圭を執り、誠心を披きて三先王に告ぐ、

【字解】集、民心の安定なり、不豫、天子の病なり、豫は樂むなり、豫まざるは不愉快にして、氣の塞りたる貌なり、繆、穆なり、敬む貌なり、戚、憂ふるなり、質、犧牲なり、身代りなり、圭、上の尖りて下の四角なる玉なり、儀式の場に於て、手に持つ玉なり、

史策祝曰、惟爾元孫王發、勤勞阻疾、若爾三王是有負子之責於天、以旦代王發之身、旦巧能多材多藝、能事鬼神、

魯周公世家第三

周公旦者、周武王弟也、自文王在時、旦爲子孝、篤仁異於羣子、及武王卽位、旦常輔翼武王、用事居多、

【講義】魯國の始祖周公旦は、周の武王の弟なり、文王存命の時より、旦は子として孝なり、仁に篤し、群公子に異なり、武王の卽位に及びて、旦は常に武王を輔翼し、政事を執り行ふこと多し、

武王九年、東伐至盟津、周公輔行、十一年伐紂、至牧野、周公佐武王、作牧誓、破殷入商宮、已殺紂、周公把大鉞、召公把小鉞、以夾武王、釁社、

【講義】周の武王の九年に、武王東伐して、盟津に至る、周公は輔け行ふ、十一年に、武王は殷紂を伐ち、牧野に至る、周公は武王を佐け、牧誓の文を作る、既にして武王は殷を破り、商宮に入り、紂を殺す、周公は大鉞を把り、召公は小鉞を把り、以て武王を挾み、牲の血を器に塗り、魯の社を祭る、

【字解】牧誓、牧野の會戰に臨む誓文なり、載せて尙書に在り、商宮、殷宮なり、鉞、大斧なり、釁、牲の血を器に塗りて、神を祭るなり、

告紂之罪于天及殷民、釋箕子之囚、封紂子武庚祿父、使管叔蔡叔傅之、以續殷祀、徧封功臣同姓戚者、封周公旦於少昊之虛曲阜、是爲魯公、周公不就封、留佐武王、

非ず、

平公八年、越滅呉、二十五年卒、子宣公積立、宣公五十一年卒、子康公貸立、田會反廩丘、康公二年、韓魏趙始列爲諸侯、十九年、田常曹孫田和、始爲諸侯、遷康公海濱、二十六年康公卒、呂氏遂絶其祀、田氏卒有齊國、爲齊威王、彊于天下、

【講義】齊の平公の八年に、越は呉を滅す、二十五年に、平公卒す、子宣公積立つ、宣公の五十一年に公卒す、子康公貸立つ、田會は齊の廩丘に據りて叛す、康公の二年に、韓、魏、趙の三氏は、始めて諸侯となる、十九年に、田常の曾孫田和は、始めて諸侯と爲り、康公を齊の海濱に遷す、二十六年に、康公卒す、呂氏は遂に其の祀を絶つ、田氏は終に齊國を有つ、齊の威王に至り、天下の强國となる、

【字解】廩丘、今の山東曹州府范縣の東南に在り、

太史公曰、吾適齊、自泰山屬之琅邪、北被于海、膏壤二千里、其民闊達、多匿知、其天性也、以太公之聖、建國本、桓公之盛修善政、以爲諸侯會盟、稱伯、不亦宜乎、洋洋哉、固大國之風也、

【講義】太史公曰く、吾は齊に遊びて其の地勢を觀るに、西は泰山より東は琅邪に至り、北は海に被る、沃野二千里に及ぶ、其の民は濶達にして、深く智を藏するもの多し、是れ其の風土に由れる天性なり、太公は聖を以て、國家の根本を建て、桓公の盛業を以て、善政を修め、以て諸侯の會盟を爲し、霸を稱す、其の地の靈なると、其の人の傑なると、相須ちて此に至る、亦宜ならずや、洋洋として廣大なるかな、實に大國の風なり、

四字は、神罰の確實なるをいふ、所レ不レ殺レ子者の五字を行へば、神罰有り、故に我は必らず此の五字を恐れて、子を殺すと斷言するなり、是れ神に誓ふときの語にして、有レ如二白水一、有レ如二皦日一等、皆其の類なり、何れも其の神罰の確實にして、明白なるをいふなり、闈、宮中の小門なり、豐丘、田氏の邑なり、郭關、都の郭門なり、

成子將レ殺二大陸子方一、田逆請而免レ之、以二公命一取二車於道一、出二雍門一、田豹與二之車一、弗レ受曰、逆爲二余請一、豹與二余車一、余有二私焉一、事二子我一而有二私於其讎一、何以見二魯衞之士一、

【講義】田成子は、子我の黨なる大陸子方を殺さんと欲す、田逆は請ひて子方を放免せしむ、子方は乃ち公命と稱して、途上の車を取らんとす、然れども、未だ車を得ずして、齊城の雍門を出づ、田豹は之に車を與ふ、子方は車を辭して曰く、田逆は余が爲めに請ひて罪を免し、田豹は余に車を授く、余は私交有り、子我に事へて、其の敵に私交有るは不義なり、何を以て魯衞の士に面會するを得んやと、遂に衞に奔る、

庚辰、田常執二簡公于徐州一、公曰、余蚤從二御鞅言一、不レ及レ此、甲午、田常弑二簡公于徐州一、田常乃立二簡公弟驁一、是爲二平公一、平公卽レ位、田常相レ之、專二齊之政一、割二齊安平以東一、爲二田氏封邑一、

【講義】其の月の庚辰の日に、田常は簡公を徐州に執ふ、公曰く余は早く御者の鞅が言に從はゞ、此の患害に遭はじと、甲午の日に、田常は遂に簡公を徐州に弑す、因て簡公の弟驁を立つ、是を平公といふ、平公は位に卽き、田常は之に相たり、齊の政事を專行す、齊の安平より東なる萊、登、沂、密、等の諸州を割きて、田氏の封邑とす、

【字解】徐州、今の順天府大城縣なり、江蘇の徐州に

【字解】成子、田常なり、田氏の宗家なり、

公與婦人飲酒于檀臺、成子遷諸寢、公執戈將擊之、太史子餘曰、非不利也、將除害也、成子出舍于庫、聞公猶怒、將出、曰、何所無君、

【講義】是の時に當り、簡公は婦人と酒を檀臺に飲む、成子は公を寢殿に遷さんとす、公怒り戈を執りて、成子を擊たんとす、太史子餘曰く、成子は公に利ならざるに非ず、公の爲めに害を除かんとするなりと、公乃ち戈を收む、成子は宮を出で、兵庫に舍る、既にして公の猶怒るを聞き、宮門を出でんとす、曰く、何の處にか君無からん、去りて君を得べしと、

【字解】檀臺、臺名なり、公宮の構内に在り、諸、之於の兩字に同じ、

子行拔劍曰、需事之賊也、誰非田宗、所不殺子者、有如田宗、乃止、子我歸屬徒、攻闈與大門、皆弗勝、乃出、田氏追之、豐丘人執子我、以告、殺之郭關、

【講義】田子行は成子の出で去らんとするを觀て劍を拔き之を止めて曰く、疑惑すれば事を誤る、今日田氏は宗族多し、誰か田氏の宗家に非ざらん、子は宗家なりと雖も、事を疑ひて出で去らんとするならば、我は子を殺して宗家を改めん、子を殺さゞる所のものは、決して無し、必ず子を殺すべし、此の誓の確實なるは、田氏の宗家の確實なるが如き有らんと、田成子は、此の子行の激語を聞きて、去ることを止め、公宮の門内に籠り居たり、是の時に當り、子我は其の家に歸りて、其の徒黨を聚め來りて、公宮の小門と大門とを攻む、然れども、子我の徒黨は皆敗れて出づ、田氏は之を追擊す、豐丘の人は、子我を執へて來り告ぐ、乃ち子我を郭關に殺す、

【字解】需、疑ふなり、賊、害なり、有如田宗、此の

めたり、

【字解】囚、田逆なり、諸田、田氏の宗族なり、陳宗、田氏の宗人なり、宗人とは謂はゆる本家なり、陳は田氏の本姓なり、

初田豹欲為子我臣、使公孫言豹、豹有喪而止、後卒以為臣、幸於子我、子我謂曰、吾盡逐田氏而立女、可乎、對曰、我遠田氏矣、且其違者不過數人、何盡逐焉、

【講義】是より先に、田豹は子我の臣と爲らんと欲し、齊の大夫公孫をして、豹の用ふべきを子我に說かしむ、偶豹は喪有りて、其の事を中止す、後に終に子我の臣と爲り、寵愛せらる、子我は豹に謂ひ曰く、吾は田氏を逐ひ拂ひて、汝を立てんと欲す、可ならんかと、豹曰く、我は田氏に緣遠し、其の宗家に代り難し、且つ今日の田氏の中に於て、子我氏に違背するものは、數人に過ぎず、何ぞ盡く逐ひ拂ふを要せんやと、

【字解】女、汝なり、遠、緣遠きなり、違、背くなり、

遂告田氏、子行曰、彼得君、弗先、必禍子、子行舍於公宮、夏五月壬申、成子兄弟四乘如公、子我在幄、出迎之、遂入閉門、宦者禦之、子行殺宦者、

【講義】田豹は遂に往きて、此の事を田氏に告ぐ、田子行は田成子に謂ひ曰く、今や彼れ子我は君を得たり、先んぜざるときは、彼れ必らず子に禍せんと、子行乃ち先づ往きて公宮に入り、之に舍る、其の年の夏五月壬申の日に、田成子兄弟四人は、各壹車を驅り、四乘を連ねて、公宮に詣る、是の時に、子我は公宮の幄の中に在り、宮を出でて田成子等を迎ふ、成子等遂に入り、門を閉ぢて子我を納れず、宮中の小宦は、成子等を拒み禦ぐ、子行は其の抵抗する小宦等を擊殺せり、

而去、齊人共立悼公子壬、是爲簡公、

【講義】 齊の悼公の四年に、呉魯の兩國は齊の南方を伐つ、齊の鮑子は悼公を弑して呉に告ぐ、呉王夫差は軍門の外に哭すること三日にして、海より入り、齊を討せんとす、齊人に敗られ、呉軍は引き去る、晉の趙鞅は齊を伐ち、賴に至りて去る、齊人は相議して、悼公の子壬を立つ、是を簡公と爲す、

【字解】 賴、齊の邑なり、今の山東濟南府に在り、

簡公四年春、初簡公與父陽生、倶在魯也、闞止有寵焉、及卽位、使爲政、田成子憚之、驟顧於朝、御鞅言簡公曰、田闞不可竝也、君其擇焉、弗聽、

【講義】 齊の簡公の四年に、簡公は弑せらる、是より先に、簡公は父と共に魯に至り、闞止を寵愛す、齊君と爲るに及び、闞止をして政を爲さしむ、田常は之を忌憚す、參朝する毎に、屢顧みて闞止を察す、御者の鞅は、簡公に謂ひ曰く、田常闞止の兩相は、竝び用ふべからず、君其れ其の一人を擇べよと、然れども公は聽かず、

【字解】 驟、屢なり、御鞅、鞅は田氏の族にして、齊の大夫なり、簡公の車を御するを以て、御鞅といふ、

子我夕、田逆殺人、逢之、遂捕以入、田氏方睦、使囚病、而遺守囚者酒、醉而殺守者、得亡、子我盟諸田於陳宗、

【講義】 闞止の宗人子我は、夕に參廷して事を視る、其の途中に於て、田逆が人を殺したるに遭ひ、之を捕へて宮門に入る、是の時に當り、田氏は方に睦じ、囚人たる田逆をして、病者と詐らしめ、其の保護の爲めに、監守者を慰勞して酒を遺り、其の醉に乘じて、監守者を殺し、田逆は亡げ去るを得たり、子我は乃ち田氏の宗人の家に於て、諸の田氏に盟ひて、和親を求を

殺之幕下、而逐孺子母芮子、芮子故賤、而孺子少、故無權、國人輕之、

【講義】悼公は宮に入り、人をして晏孺子を駘に遷さしめ、之を野營の幕下に殺す、而して孺子の母なる芮姬を放逐す、蓋し芮姬は本來賤しく、孺子は年少なり、故に權勢無し、國人に輕視せられたり、

【字解】駘、齊の邑なり、今の山東青州府に在り、

悼公元年、齊伐魯、取讙闡、初陽生亡在魯、季康子以其妹妻之、及歸卽位、使迎之、季姬與季魴侯通、言其情、魯弗敢與、故齊伐魯、竟迎季姬、季姬嬖、齊復歸魯侵地、鮑子與悼公有郤、不善、

【講義】齊の悼公の元年に、齊は魯を伐ち、讙と闡との兩縣を取る、是より先に、陽生は亡げて魯に在り、季康子は其の妹を以て、陽生の夫人と爲す、陽生は歸りて齊君と爲るに及び、人をして季姬を迎へしむ、是の時に、季姬は既に季魴侯と密通す、因て其の情實を季康子に言明す、魯は季姬を齊に與へず、故に齊は魯を伐ち、兩縣を取る、竟に季姬を迎ふ、季姬は齊に入りて、悼公に寵愛せらる、是に於て、齊は其の侵略したる兩縣を魯に返還す、是の時に當り、齊の鮑子は悼公と隙を生じて、相善からず、

【字解】讙闡、魯の兩縣なり、讙は今の兗州府寧陽縣なり、闡も其の附近に在り、季魴侯は、季康子の叔父なり、嬖、寵愛せらるることなり、郤、隙なり、相惡むなり、

四年、吳魯伐齊南方、鮑子弑悼公、赴于吳、吳王夫差、哭於軍門外三日、將從海入討齊、齊人敗之、吳師乃去、晉趙鞅伐齊、至賴

【講義】其の年の八月に、齊の秉意玆と田乞とは、既に高國の兩相を敗りたるを以て、使を魯に遣り、齊の公子陽生を迎ふ、陽生は齊に至り、私に田乞の家に隱る、其の年の十月戊子の日に、田乞は諸大夫に請ひて曰く、賤息常の母は、魚と豆との粗饌を供ふ、幸に來りて會飲せよと、

【字解】常、田常なり、田乞の子なり、魚菽、魚と豆とは、粗末なる料理物を稱す、客を招待する謙語なり、祭、祭事なり、其の家の小供養なり、

會飲、田乞盛陽生橐中、置坐中央、發橐、出陽生曰、此乃齊君矣、大夫皆伏謁、將與大夫盟而立之、鮑牧醉、乞誣大夫曰、吾與鮑牧謀、共立陽生、

【講義】既にして諸大夫來り、會飲す、田乞は會飲に先だちて、陽生を橐の中に盛り、之を宴席の中央に置き、其の宴の酣なるに及びて、橐を發き、陽生を出して曰く、此れ乃ち齊君なりと、大夫皆伏して謁す、田乞乃ち大夫と盟ひて、之を立てんとす、是の時に、鮑牧は既に醉ふ、田乞は大夫に誣ひて曰く、吾は既に鮑牧と謀りて、共に陽生を立てたりと、

鮑牧怒曰、子忘景公之命乎、諸大夫相視欲悔、陽生前頓首曰、可則立之、否則已、鮑牧恐禍起、乃復曰、皆景公子也、何爲不可、乃與盟、立陽生、是爲悼公、

【講義】鮑牧怒りて曰く、子は景公の命を忘れたるかと、諸大夫は之を聽き、相視て悔いんと欲す、陽生進みて頓首し曰く、可なれば立てよ、可ならざれば止めよ、と是に於て、鮑牧は禍の起るを恐れ、乃ち復申して曰く、皆景公の子なり、何ぞ不可ならんやと、竟に諸大夫と共に盟ひ、陽生を立つ、是を悼公といふ、

悼公入宮、使人遷晏孺子於駘、

の山東萊州府に在り、鉤、一に駒に作る、騢、一に鉏に作る、三軍、上軍中軍下軍にして、諸侯の全軍なり、師、衆きをいふなり、胡黨、何地なり、之、往くなり、

晏孺子元年春、田乞僞事高國者、每朝乞驂乘、言曰、子得君、大夫皆自危、欲謀作亂、又謂諸大夫曰、高昭子可畏、及未發、先之、大夫從之、

【講義】齊の晏孺子元年の春に、田乞は平生高國の兩相に僞り事ふるを以て、高國の參朝する每に、田乞は其の車に陪乘す、高昭子に謂ひ曰く、子は君を得たり、諸大夫は皆自から危懼を抱き、相謀りて亂を作さんと欲すと、田乞は更に諸大夫に告げて曰く、高昭子は畏るべし、其の未だ發せざるに及びて、之に先んぜよと、諸大夫は此の計に從ふ、

【字解】驂乘、其の車に從ひ乘るなり、陪乘なり、

六月、田乞鮑牧、乃與大夫以兵入公宮、攻高昭子、昭子聞之、與國惠子救公、公師敗、田乞之徒追之、國惠子奔莒、遂反殺高昭子、晏圉奔魯、

【講義】其の年の六月に、田乞鮑牧は諸大夫と兵を以て、公宮に入り、高昭子を攻む、昭子は之を聞き、國惠子と共に公を救ふ、公の軍敗る、田乞の徒追擊す、國惠子は莒に奔る、高昭子は殺され、晏嬰の子圉は魯に奔る、

八月、齊秉意茲田乞敗二相、乃使人之魯、召公子陽生、陽生至齊、私匿田乞家、十月戊子、田乞請諸大夫曰、常之母、有魚菽之祭、幸來會飮、

嗣、乃言願擇諸子長賢者、爲太子、景公老惡言嗣事、又愛荼母、欲立之、憚發之口、乃謂諸大夫曰、爲樂耳、國何患無君乎、

【講義】齊の景公の五十八年夏に景公の夫人燕姫の嫡子死す、是より先に、景公の寵妾芮姫は子荼を生む、荼少し、其の母賤し、且つ其の行狀惡し、諸大夫は荼が嗣君と爲るを恐る、乃ち言ふ、庶腹の群公子の中より、年長じ才賢なる人を擇びて、太子と爲すことを願ふと、然れども、景公は老耄して、嗣子の事を言ふを惡む、且つ荼の母を愛す、故に荼を立てんと欲して、之を口に發するを憚る、乃ち諸大夫に謂ひ曰く、我は安樂を爲すのみ、國は自から君を得べし、何ぞ君無きを患へんやと、

秋、景公病、命國惠子高昭子、立少子荼、爲太子、逐群公子、遷之萊、景公卒、太子荼立、是爲晏孺子、冬未葬、而群公子畏誅、皆出亡、荼諸異母兄公子壽鉏黔奔衞、公子駔陽生奔魯、萊人歌之曰、景公死乎、弗與埋、三軍事乎、弗與謀、師乎師乎、胡黨之乎、

【講義】其の年の秋に景公病む、乃ち國惠子高昭子の兩大夫に命じ、末子荼を立て、太子と爲し、群公子を逐ひ、之を萊に遷さしむ、既にして景公卒し、太子荼立つ、是を晏孺子といふ、其の年の冬に、未だ景公を葬らざるも、群公子は誅を恐れ、皆出で亡げたり、荼の異母兄にして景公の庶子なる壽と鉏と黔とは、衞に奔る、駔と陽生とは魯に奔る、萊人は之を憐み歌ひて曰く、景公死したるも、之を埋むるに與らず、三軍に事有るも、其の謀に與らず、衆きかな諸公子、其れ何の地に往かんかと、

【字解】萊、夷國にして齊の有に歸したる地なり、今

公、景公慙、乃歸魯侵地、以謝而罷去、是歲晏嬰卒、

【講義】齊の景公の四十八年に、景公は魯の定公と夾谷に會して、好を修む、犂鉏は景公に說きて曰く、孔丘は禮を知るも勇無し、請ふ萊人をして舞樂を爲さしめ、因て魯君を執へん、此の計は志を達するを得べしと、景公は孔丘が魯の宰相たるを以て、齊に害有りと思惟し、且つ魯が霸業を成さんことを懼る、故に犂鉏の計を用ふ、齊魯は方に會す、齊は萊人の舞樂を進む、孔丘乃ち階段を走り上りて、吏に命じ、萊人を執へ斬殺せしむ、因て禮を以て、景公を責む、景公慚づ、乃ち齊の侵略したる地を魯に返還し、以て謝し、會を罷め去る、是の歲に、齊の晏嬰卒す、

【字解】夾谷、齊の地なり、今の泰安府萊蕪縣に在り、歷階、歷は越ゆるなり、兩足を揃へず、壹足を以て、壹階を踏み、左右交遞して進み、急ぎて階段を上る、之を歷階といふ、萊、夷の國なり、夾谷の附近に在り、

五十五年、范中行反其君於晉、晉攻之急、來請粟、田乞欲爲亂、樹黨於逆臣、說景公曰、范中行數有德於齊、不可不救、乃使乞救而輸之粟、

【講義】齊の景公の五十五年に、晉の范氏中行氏叛亂す、晉君の兵は、之を攻むること急なり、兩氏は米を齊に請ふ、是の時に當り、齊の田乞は亂を作さんと欲し、黨を逆臣の間に樹つ、乃ち景公に說きて曰く、范氏と中行氏とは、數其の德を齊に施せり、齊は之を救はざるべからずと、景公乃ち田乞をして之を救ひ、米を輸らしむ、

五十八年夏、景公夫人燕姬適子死、景公寵妾芮姬生子荼、荼少、其母賤、無行、諸大夫恐其爲

公曰、可禳否、晏子曰、使神可祝而來、亦可禳而去也、百姓苦怨、以萬數、而君令一人禳之、安能勝衆口乎、是時景公好治宮室、聚狗馬、奢侈、厚賦重刑、故晏子以此諫之、

【講義】景公曰く、彗星を禳ひ除くことを得るや如何、晏子曰く、彗星は神官に命じ、之を祈りて來らしむるを得べし、亦之を禳ひて去らしむるを得べし、然れども、齊國の衆民怨苦するものは、萬を以て數ふ、君は一人の神官をして彗星を禳はしむるも、何ぞ衆口の怨訴を以て、妖星を迎ふるに勝へんやと、是の時に、景公は好みて宮室を作り、狗馬を聚め、奢侈を極め、租税を重くし、刑罰を嚴くす、故に晏子は此の妖星に由りて、諫奏せり、

【字解】祝、言を以て神に告ぐるなり、治、修め整へるなり、賦、租税なり、

四十二年、吳王闔閭、伐楚入郢、四十七年、魯陽虎攻其君、不勝奔齊、請齊伐魯、鮑子諫、景公乃囚陽虎、陽虎得亡奔晉、

【講義】齊の景公の四十二年に、吳王闔閭は、楚を伐ち、其の首都郢に入る、四十七年に、魯の陽虎は、其の君を攻めて勝たず、齊に奔り、請ひて魯を伐たんとす、鮑子は景公を諫めて之を止めしむ、景公乃ち陽虎を囚へんとす、陽虎は亡げて晉に奔るを得たり、

四十八年、與魯定公好會夾谷、犂鉏曰、孔丘知禮而怯、請令萊人爲樂、因執魯君、可得志、景公害孔丘相魯、懼其霸、故從犂鉏之計、方會、進萊樂、孔子歷階上、使有司執萊人斬之、以禮讓景

平公に面會し、晉と共に燕を伐たんと欲す、十八年に再び晉に往き、晉の昭公に面會す、二十六年に、魯の郊に獵す、因て魯の都に入り、晏嬰と共に魯の禮を問ふ、三十一年に、魯の昭公は、季氏の亂を避けて、齊に奔る、齊は貳萬五千家を以て、昭公を封ぜんと欲す、魯の臣子家は昭公に說きて、之を辭せしむ、昭公乃ち齊に請ひ、魯を伐ち鄆を取らしむ、齊は昭公を此に居らしむ、

【字解】辟、避なり、難、患難なり、季氏の亂は、魯の周公世家に詳なり、千社、貳萬五千家なり、鄆、魯の邑なり、今の山東沂州府沂水縣東北に在り、

三十二年、彗星見、景公坐柏寢、嘆曰、堂堂誰有此乎、群臣皆泣、晏子笑、公怒、晏子曰、臣笑群臣諛甚、

【講義】齊の景公の三十二年に、彗星見る、景公は正殿に坐し、嘆じて曰く、堂々として廣大なるかな齊國、誰か復之を有つと、群臣皆泣く、晏子笑ふ、公怒る、晏子曰く、臣は群臣の諛ふ甚しきを笑ふのみと、

【字解】柏寢、路寢なり、正殿を稱す、

景公曰、彗星出東北、當齊分野、寡人以爲憂、晏子曰、君高臺深池、賦斂如弗得、刑罰恐弗勝、茀星將出、彗星何懼乎、

【講義】景公曰く、彗星東北に出づ、天に於て齊の地方に當る、余は之を憂ふ、晏子曰く、君は臺を高く築き、池を深く作り、租稅を多くし、刑罰を繁くす、妖星は更に出でんとす、何ぞ彗星を懼るゝに遑有らんや、

【字解】分野、地上の諸國を、天上の星宿に割り當てたる疆域なり、寡人、諸侯の謙稱なり、賦斂、租稅なり、如弗得、未だ足らざるが如く、尚更に多きを貪るなり、恐弗勝、自己の意に滿足せざるを恐れ、更に嚴しく行はんとするなり、茀星、妖星なり、彗星の外に、妖星出づるは、亂兆の愈〻急に迫るなり、

之朱方、聚其族而居之、富於在齊、

【講義】田鮑高欒の四家の徒は、共に撃ちて慶封の家を破る、慶封は獵より還りて、家に入るを得ず、魯に奔る、齊人は魯に責むるに、慶封を納れたることを以てす、慶封は遂に呉に奔る、呉は之に朱方の縣を與ふ、慶封は乃ち其の家族を聚めて、之に居る、其の齊に在りし時よりも富めり、

【字解】朱方、呉の邑なり、今の江蘇鎭江府に在り、

其秋、齊人徙葬莊公、僇崔杼尸於市、以說衆、九年、景公使晏嬰之晉、與叔向私語曰、齊政卒歸田氏、田氏雖無大德、以公權私、有德於民、民愛之、

【講義】其の年の秋に、齊人は莊公を徙し葬る、崔杼の屍を市上に棄てゝ、其の罪惡を公衆に示す、九年に景公は晏嬰を公使として、晉に赴かしむ、嬰は晉の大夫叔向と私語して曰く、齊の政權は終に田氏に歸せん、田氏は大德無きも、公權を以て私恩を行ひ、民に德を施し、民は之を愛すと、

【字解】僇、戮なり、暴し物として市上に棄てたるなり、卒、終なり、以公權私、田氏が米を民より取るに、小斗を以てし、與ふるに大斗を以てしたるを指すなり、左傳の昭公三年に詳說有り、

十二年、景公如晉、見平公、欲與伐燕、十八年、公復如晉、見昭公、二十六年、獵魯郊、因入魯、與晏嬰俱問魯禮、三十一年、魯昭公辟季氏難、奔齊、齊欲以千社封之、子家止昭公、昭公乃請齊伐魯、取鄆、以居昭公、

【講義】齊の景公の十二年に、景公は晉に往き、晉の

自殺、崔杼無歸、亦自殺、慶封爲相國、專權、

【講義】 成彊兩人は之を怒り、慶封に告ぐ、是の時に當り、慶封は崔杼と相凌ぐ、故に慶は崔の敗亡を希望せり、既にして成彊兩人は、無咎と偃とを崔杼の家に殺す、家人皆奔りて逃げ去る、崔杼怒れども、家人無きを以て、一の宦者をして車を御せしめ、往きて慶封に面會す、慶封の曰く、請ふ子の爲めに、成彊を誅殺せんと、乃ち崔杼の仇なる盧蒲嫳をして崔氏を攻めしめ、成彊を殺し、盡く崔氏を滅す、東郭の女は、自殺す、崔杼は歸るに處無し、亦自殺す、慶封乃ち相國と爲り、齊の權勢を專有す、

【字解】 宦者、宮中の小官なり、崔氏婦、東郭の女なり、郤、相惡むなり、仇、怨恨を有するものなり、崔の仇とは崔を怨む人なり、カタキに非ず、

三年十月、慶封出獵、初慶封已殺崔杼、益驕、嗜酒好獵、不聽政、令慶舍用政、已有內郤、田文子謂桓子曰、亂將作、田鮑高欒氏相與謀慶氏、慶舍發甲、圍慶封宮、

【講義】 齊の景公の三年十月に、慶封遊獵に出づ、是より先に、慶封は既に崔杼を殺して、意益驕り、酒を嗜み獵を好み、政事を聽かず、其の子なる慶舍をして政事を執行せしめ、父子の間に於て、既に相凌ぐ狀態有り、齊の權臣田文子は、其の子桓子に告げて曰く、國亂は作らんとすと、是に於て田鮑高欒の四家は、相共に慶氏を滅するを謀る、慶舍は兵卒を發して、慶封の家を圍む、

【字解】 內郤、內隙なり、其の家族の中にて相惡み相爭ふなり、甲、兵なり、宮、家なり、

四家徒、共擊破之、慶封還、不得入、奔魯、齊人讓魯、封奔吳、吳與

舍レ之、齊太史書曰、崔杼弑二莊公一、崔杼殺レ之、其弟復書、崔杼復殺レ之、少弟復書、崔杼乃舍レ之、

【講義】 慶封は晏嬰を殺さんと欲す、崔杼曰く、是れ忠臣なりと、遂に之を置きて問はず、齊の太史は書して曰く、崔杼は莊公を弑すと、崔杼怒り太史を殺す、太史の弟再び書す、崔杼之を殺す、太史の末弟復書す、崔杼其の義烈に感じて、之を赦免す、

景公元年、初崔杼生二子成及彊一、其母死、取二東郭女一、生レ明、東郭女使下其前夫子無咎與二其弟偃一相中崔氏上、成有レ罪、二相急治レ之、立レ明爲二太子一、成請レ老二於崔杼一、崔杼許レ之、二相不レ聽、曰、崔宗邑、不可、

【講義】 齊の景公の元年に、崔氏亡ぶ、是れより先に、崔杼は成と彊との二子有りて、妻死す、因て東郭の女を娶りて子明を生む、東郭の女は、其の前の夫の子無咎と自己の弟偃とを携へ來りて、崔氏を佐く、既にして成は罪有り、崔慶兩相は、急に之を處分し、子明を立て太子と爲す、成は崔邑に退隱せんことを請ふ、崔杼は之を許す、然るに無咎と偃との兩人は之を聽かずして曰く、崔は吾崔氏の本家に領ずべき地なり、之を太子に非るものに授くるは、不可なりと、

【字解】 相、佐くるなり、請二老於崔杼一、老二於崔一に作るを便とす、二相不レ聽、二人不レ聽、の誤りなり、無咎と偃との兩人を指すなり、

成彊怒、告二慶封一、慶封與二崔杼一有レ郤、欲二其敗一也、成彊殺二無咎偃於崔杼家一、家皆奔亡、崔杼怒、無レ人、使二一宦者御一見二慶封一、慶封曰、請爲レ子誅レ之、使下崔杼仇盧蒲嫳攻二崔氏一殺中成彊上、盡滅二崔氏一、崔氏婦

爲己死、己亡、非其私暱、誰敢任之、門開而入、枕公尸而哭、三踊而出、人謂崔杼必殺之、崔杼曰、民之望也、舍之得民、

【講義】晏嬰は崔杼の門外に立ちて曰く、君は社稷の爲めに死すれば、我も之に從ひて死せん、君は社稷の爲めに滅すれば、我も之に從ひて滅せん、然れども君は自己の爲めに死し、自己の爲めに滅すれば、其の私親のものは、之に從はん、其の私親に非るものは、誰か敢て之に從はんやと、既にして崔杼の門開く、晏嬰乃ち入り、公の遺骸に枕を進めて、安臥せしめ、哀哭し三たび踊の禮を行ひて、出で去る、是に於て、或る人は崔杼に告げて曰く、必らず之を殺せと、崔杼曰く、晏嬰は民に令望有り、之を生存せしめて、民心を得るに如かずと、

【字解】暱、親交なり、ヂツと讀む、踊、哀痛の激發して踊る禮なり、舍、赦すなり、社稷、國家なり、

丁丑、崔杼立莊公異母弟杵臼、是爲景公、景公母魯叔孫宣伯女也、景公立、以崔杼爲右相、慶封爲左相、二相恐亂起、乃與國人盟曰、不與崔慶者死、晏子仰天曰、嬰所不獲、唯忠於君利社稷者是從、不肯盟、

【講義】其の月の丁丑の日に、崔杼は莊公の異母弟なる杵臼を立つ、是を景公といふ、景公の母は魯の叔孫宣伯の女なり、景公立ち、崔杼を以て右相と爲し、慶封を左相と爲す、二相は亂の起るを恐れ、乃ち國人と盟ひて曰く、崔慶に從はざるものは死せんと、晏嬰は獨り天を仰ぎて曰く、是れ嬰の從ふ能はざる所なり、嬰は唯君に忠なるものと、社稷に利なるものとに是れ從はんと、遂に崔慶の盟に參加せず、

慶封欲殺晏子、崔杼曰、忠臣也、

に、莒君は齊に來朝す、齊は甲戌の日を以て、莒君を饗應す、崔杼は病と稱して、事を視ず、乙亥の日に、公は崔杼の病を問ひ、其の家に至る、遂に崔杼の妻を呼びて、我に從はしむ、然るに崔杼の妻は、室に入り、崔杼と共に其の戸を閉ぢて出でず、公は之を呼び出さんと欲し、柱を抱きて唱歌す、

【字解】 笞、笞を以て打つ刑なり、宦者、去勢の刑を受けて、宮中に仕ふる侍者なり、莒子、莒の君なり、莒は、今の山東沂州府に在り、

宦者賈擧、遮公從官而入、閉門、崔杼之徒、持兵從中起、公登臺而請解、不許、請盟不許、請自殺於廟、不許、皆曰、君之臣杼疾病、不能聽命、近於公宮、陪臣爭趣有淫者、不知二命、公踰墻、射中公股、公反墜、遂弑之、

【講義】 宮中の侍臣賈擧は、公の從者を遮り止めて、獨り入り其の門を閉づ、崔杼の徒は、兵器を持して殿中より起る、公は臺に登りて、和解を請ふも許されず、盟約を請ふも許されず、宗廟に至り自殺せんことを請ふも許されず、崔杼の徒は皆曰く、君の臣杼は疾重し、君命を聽く能はず、此の邸は公宮に近し、賊徒を警戒す、臣等は君の陪臣なるを以て、爭ひ來り、淫亂の賊徒有るを制するのみ、是れ崔杼の命令に由れり、此の他の命令を奉ずる能はずと、蓋し莊公を以て、淫亂の賊徒と看做し、之を齊君と視ざる如く粧ふなり、是に於て、莊公は逃れんと欲し、墻を踰ゆ、崔杼の徒は、之を射て其の股に中つ、公は墜落して、遂に殺さる、

【字解】 疾病、病の重きなり、陪臣、臣の家に仕ふる臣なり、二命、陪臣が其主より受けたる命令有り、此の命令の外を二命と稱したるなり、

晏嬰立崔杼門外曰、君爲社稷死、則死之、爲社稷亡、則亡之、若

【講義】齊の莊公の三年に、晉の大夫欒盈は出奔し、齊に入る、莊公は之を客として、厚遇す、晏嬰と田文子とは之を諫めたるも、公は聽かず、四年莊公は、欒盈をして竊に其の邑なる曲沃に歸らしめ、以て齊の爲めに內應を爲さしむ、齊は遂に兵を以て、欒盈に從ひ往きて、晉の險要なる太行山に上り、孟門山に入る、然れども欒盈は敗れ、齊兵は纔に晉の朝歌を取りて還る、

【字解】曲沃、今の山西平陽府に在り、朝歌、今の河南衞輝府に在り、間、竊なり、內密なり、

六年、初棠公妻好、棠公死、崔杼取之、莊公通之、數如崔氏、以崔杼之冠賜人、侍者曰不可、崔杼怒、因其伐晉、欲與晉合謀襲齊、而不得間、

【講義】齊の莊公の六年に、崔氏の亂作る、是より先に、齊の棠公の妻美なり、棠公死して、崔杼は其の妻を取る、莊公は之に私通し、屢崔氏に往く、遂に崔杼の冠を取りて他人に賜ふ、侍者曰く、漫りに他人の物を奪ふは不可なりと、然れども公は之を聽かず、崔杼怒り、其の軍を率ゐて晉を伐つに因り、晉と謀を合せて齊を襲はんと欲す、而も未だ其の乘ずべき間隙を得ず、

【字解】好、美なり、棠公、齊の棠邑の長なり、

莊公嘗笞宦者賈擧、賈擧復侍、爲崔杼間公、以報怨、五月莒子朝齊、齊以甲戌饗之、崔杼稱病不視事、乙亥、公問崔杼病、遂從崔杼妻、崔杼妻入室、與崔杼自閉戶不出、公擁柱而歌、

【講義】莊公は嘗て宮中の侍臣賈擧を笞刑に處す、然れども賈擧は赦されて再び公に侍す、因て崔杼の爲めに公を窺ひ、以て怨を報ぜんとす、此の年五月

【講義】齊の靈公の二十八年に、齊は太子に由りて亂を生ず、是れより先に、靈公は魯君の女を娶り、公子光を生む、以て太子と爲す、此の時に、靈公は二妾有り、仲姬といひ、戎姬といふ、戎姬は寵愛せらる、既にして仲姬は子牙を生む、之を戎姬に委託す、戎姬は以て太子と爲さんことを請ふ、靈公許可す、仲姬曰く、不可なり、太子光の立つや、既に諸侯と相列して會盟せり、今に至り、故無く之を廢するは、君必らず之を悔ゆることを有らんと、靈公曰く、是れ我の方寸に在るのみと、遂に太子光を廢し、之を東方の邊鄙に遷し、牙を以て太子と爲し、高厚をして之に傅たらしむ、

【字解】嬖、寵愛せらるゝことなり、傅、輔佐の役なり、

靈公疾、崔杼迎故太子光而立之、是爲莊公、莊公殺戎姬、五月壬辰靈公卒、莊公卽位、執太子牙於句竇之丘、殺之、八月崔杼殺高厚、晉聞齊亂、伐齊至高唐、

【講義】既にして靈公は病重し、崔杼は故の太子光を東鄙より迎へ來りて之を立つ、是を莊公といふ、莊公は戎姬を殺し、前年の廢立に報ゆ、其の年の五月壬辰の日に、靈公卒し、莊公は位に卽く、乃ち太子牙を句竇の丘に幽囚し、遂に之を殺す、其の年の八月に、崔杼は高厚を殺す、晉は齊の亂れたるを聞き、齊を伐ちて高唐に至る、

【字解】句竇、句瀆に同じ、齊の臨菑の都に在る丘名なり、高唐、齊の縣なり、今の山東濟南府に在り、

莊公三年、晉大夫欒盈奔齊、莊公厚客待之、晏嬰田文子諫、公弗聽、四年、齊莊公使欒盈間入晉曲沃爲內應、以兵隨之、上太行、入孟門、欒盈敗、齊兵還、取朝歌、

公九年、晉欒書弑其君厲公、十年晉悼公伐齊、齊令公子光質晉、十九年立子光爲太子、高厚傅之、令會諸侯盟於鐘離、

【講義】齊の頃公の十七年に、公卒す、子靈公環立つ、靈公の九年に晉の欒書は、其の君なる厲公を弑す、十年に晉の悼公は齊を伐つ、齊は公子光をして晉に質たらしむ、十九年に公子光を立て太子と爲す、高厚は之に傅たり、齊侯は太子光をして、諸侯に會見し、楚の鐘離に於て、諸侯と相盟はしむ、

【字解】質、人質なり、鐘離、楚の地なり、今の安徽鳳陽府の東北に在り、

二十七年、晉使中行獻子伐齊、齊師敗、靈公走、入臨菑、晏嬰止靈公、靈公弗從、曰君亦無勇矣、晉兵遂圍臨菑、臨菑城守、不敢出、晉焚郭中而去、

【講義】齊の靈公の二十七年に、晉は中行獻子をして齊を伐たしむ、齊軍は逆へ戰ひて敗れ、靈公は走り、其の首都なる臨菑に入らんとす、齊の首相晏嬰は之を諫め止む、靈公は聽かず、嬰曰く、君も勇無しと、然れども、公は遂に都に還る、晉兵は之を圍み攻む、臨菑善く守り、敢て出でず、晉は臨菑の郭中を焚きて去る、

二十八年、初靈公取魯女、生子光、以爲太子、仲姬戎姬、戎姬嬖、仲姬生子牙、屬之戎姬、戎姬請以爲太子、公許之、仲姬曰、不可、光之立列於諸侯矣、今無故廢之、君必悔之、公曰在我耳、遂東太子光、使高厚傅牙爲太子、

らしむるなり、

對曰、叔子齊君母、齊君母亦猶晉君母、子安置之、且子以義伐、而以暴爲後、其可乎、於是乃許、令反魯衛之侵地、

【講義】齊は對へて曰く、蕭桐叔の女は卽ち齊君の母なり、齊君の母も晉君の母の如し、子は齊君の母を取りて、何處に之を置かんとするか、且つ子は義を以て伐ちながら、暴を以て之を終る、其れ可ならんやと、是に於て晉は之を免し、單に齊に命じて、其の魯衛より侵略したる地を返還せしむ、

【字解】爲後、其の事を終結する意なり、

十一年、晉初置六卿、賞鞌之功、齊頃公朝晉、欲尊王晉景公、晉景公不敢受、乃歸、歸而頃公弛苑囿、薄賦斂、振孤問疾、虛積聚、以救民、民亦大說、厚禮諸侯、竟頃公卒、百姓附、諸侯不犯、

【講義】齊の頃公の十一年に、晉は始めて六人の卿を設置す、前年齊に勝ちたる鞌の戰功を賞し、以て兵制を張りたるなり、是の年に、齊の頃公は、晉に朝禮し、晉の景公を尊びて、王と爲さんと欲す、景公は之を受けず、頃公乃ち歸り、國君遊園の制を寛くし、租稅を薄くし、父母無きものを救ひ、疾病を慰問し、積みたる穀物を散じ、以て民を贍はす、故に民は大に悅服す、頃公は更に禮を諸侯に厚くして、外交を修む、故に頃公の卒するまで、人民附き從ひ、諸侯は來り犯すもの無し、

【字解】六卿、六人の大臣なり、之を六軍團の長とす、天子の六軍を設くるに同じ、苑囿、苑は遊園なり、囿は動物園なり、賦斂、租稅なり、斂は歛に作るべし、

十七年、頃公卒、子靈公環立、靈

臣救魯衞戲之、丑父使頃公下取飲、因得亡脫去、入其軍、

【講義】戰ひて齊軍危急なり、逢丑父は齊侯が晉兵に捕へられんことを恐れ、其の坐處を轉換し、丑父は左に坐して君と爲り、齊侯は右に坐して臣と爲る、既にして齊侯の車は樹木に遮られて止る、晉の司馬韓厥進みて、車前に伏し曰く、敝邑の君は、臣をして魯衞を救はしむ、故に此に戲を奏すと、是の時に、丑父は齊侯に命じ、車を下りて飲料を取らしむ、殆んど臣下を使役する如くす、齊侯は因て亡げ脫し去り、齊の軍中に入るを得たり、

【字解】右、陪乘する臣の席なり、絓、繫るなり、遮り妨げらるゝなり、小將、司馬の官なり、三軍の將に比して、下に在り、寡君、我國の君を他國に對し、謙遜したる稱呼なり、戲、戰を稱する謙辭なり、

晉郤克欲殺丑父、丑父曰、代君死而見僇、後人臣無忠其君者矣、克舍之、丑父遂得亡歸齊、於是晉軍追齊、至馬陵、齊侯請以寶器謝、不聽、必得笑克者蕭桐叔子、令齊東畝、

【講義】晉郤克は齊侯を逸せしを怒り、丑父を殺さんと欲す、丑父曰く、君の死に代りたるものが誅戮せられんか、後日の人臣にして其の君に忠なるもの無きに至らんと、郤克乃ち丑父を放免し、丑父は遂に齊に亡げ歸るを得たり、是に於て、晉軍は齊兵を追ひて馬陵に至る、齊侯は寶器を以て謝せんと請ふ、郤克は之を聽かず、必らず克の跛を嘲笑したる蕭桐叔の女を得て、齊の隴畝を東西の線に改めしめんと要求す、

【字解】僇、戮なり、馬陵、馬陘なり、齊の縣なり、今の山東青州益都縣とす、蕭桐叔子、蕭桐叔の子は、卽ち蕭桐叔といふ人の女子なり、齊侯の太夫人なり、太夫人と稱せざるは、之を鄙みたるなり、東畝、田畝の線路を東西の行と爲し、晉軍の攻め入るに便利な

【講義】既にして齊の公使は晉に至る、郤克は河内に於て、齊の使者四人を執へ、之を殺す、齊の頃公の八年に、晉は齊を伐つ、齊は公子彊を以て、晉に質とす、晉兵乃ち退去す、十年の春に、齊は魯と衞とを伐つ、魯衞兩國の大夫は、晉に往きて援兵を請ふ、皆之を郤克に依賴す、晉は乃ち郤克をして車兵八萬を以て、中軍に將たらしめ、士燮を上軍に將とし、欒書を下軍に將とし、以て魯衞を救ひ、齊を伐つ、

【字解】河内、晉の地なり、今の河南懷慶府河内縣なり、質、人質なり、チと讀む、如、往くなり、車八百乘、車兵八萬人なり、中軍將、元帥なり、中堅の帥なり、上軍下軍、中軍の前後に在り、

六月壬申、與齊侯兵合靡笄下、癸酉、陳于鞌、逢丑父爲齊頃公右、頃公曰、馳之、破晉軍會食、射傷郤克、流血至履、克欲還入壁、其御曰、我始入、再傷、不敢言疾、恐懼士卒、願子忍之、遂復戰、

【講義】其の年の六月壬申の日に、晉軍は齊侯の兵と靡笄山の下に遇ふ、癸酉の日鞌に陣す、齊の大夫逢丑父は、頃公の車に陪乘して、公の右に侍す、公曰く、疾く之を驅れ、我は晉軍を破りて、後に會食せんと、既にして齊の箭は、晉の郤克に中る、血流れて履に至る、郤克は還りて、陣營の壁に入らんと欲す、其の車の御者曰く、我始めて此の戰地に入り、既に再び負傷す、然れども敢て疾むと言はず、士卒を畏懼せしめんことを患ふ、故に痛苦を忍びて此に在り、願くは子も之を耐忍せよと、遂に復進み戰ふ、

【字解】靡笄、齊の山なり、今の山東濟南府歷城縣の南に在り、鞌、齊の地なり、今の山東泰安府平陰縣の東に在り、

戰齊急、丑父恐齊侯得、乃易處、頃公爲右、車絓於木而止、晉小將韓厥、伏齊侯車前、曰、寡君使

なる王子城父は、之を攻め殺して、齊の北門の外に埋む、此の年に、晉の趙穿は其の君なる靈公を弑す、十年に、惠公卒す、子頃公無野立つ、是れより先に、崔杼は惠公に寵遇せらる、故に惠公の卒するや、齊の大夫なる高國の兩家は、崔杼が勢を振ふを畏れて、之を逐ふ、崔杼は衞に奔り入る、

【字解】長翟、長狄なり、北方の軀幹長大なる夷狄なり、偪、逼るなり、權勢を弄することなり、

頃公元年、楚莊王彊伐陳、二年圍鄭、鄭伯降、已復國鄭伯、六年春、晉使郤克於齊、齊使夫人帷中而觀之、郤克上、夫人笑之、郤克曰、不是報、不復涉河、歸請伐齊、晉侯弗許、

【講義】齊の頃公の元年に、楚の莊王彊は陳を伐つ、二年に、楚王は更に鄭を圍む、鄭伯降參す、既にして楚王は鄭伯を其の國に復歸せしむ、六年の春に、晉は其の大夫郤克を公使として齊に赴かしむ、齊は太夫人をして帷中より之を觀覽せしむ、郤克は跛にして階を上る、太夫人嘲笑す、郤克怒り曰く、此の怨を報せざれば、再び河を涉り東行する能はずと、乃ち歸りて齊を伐たんと請ふ、晉侯許可せず、

【字解】郤克上、郤克は跛にして階を上る、其の狀奇なり、夫人、太夫人を略稱したるのみ、左傳には婦人に作る、

齊使至晉、郤克執齊使者四人河內、殺之、八年晉伐齊、齊以公子彊質晉、晉兵去、十年春、齊伐魯衞、魯衞大夫如晉請師、皆因郤克、晉使郤克以車八百乘、爲中軍將、士燮將上軍、欒書將下軍、以救魯衞、伐齊、

り仕へしめ、庸職をして車に侍し乘らしむ、

【字解】僕、御車の職なり、驂乘、陪乘なり、

五月、懿公游於申池、二人浴戲、職曰、斷足子、戎曰、奪妻者、二人俱病此言、乃怨、謀與公游竹中、二人弑懿公車上、棄竹中而亡去、

【講義】此の年の五月に、懿公は申池に遊ぶ、丙戎と庸職との兩人は、公に從ひ來り浴して戲る、職は戎を呼び曰く、足を斷られたる者の子よと、戎は職を呼びて曰く、妻を奪はれたるものよと、兩人遂に此の言を病みて、公を怨む、乃ち謀りて、公と竹藪の中に遊び、兩人相依りて公を車上に弑し、之を竹藪に棄て、亡げ去る、

【字解】申池、齊の竹林廣き池沼なり、今の山東青州臨淄縣の西に在り、

懿公之立、驕、民不附、齊人廢其子、而迎公子元於衞、立之、是爲惠公、惠公桓公子也、其母衞女、曰少衞姬、避齊亂、故在衞、

【講義】初め懿公の立つや、甚だ驕慢なり、人心は之に服せず、故に懿公の殺さるるときに、齊人は其の子を廢して、公子元を衞より迎へ、齊君と爲す、是を惠公といふ、惠公は桓公の子なり、其の母は、衞の女なり、少衞姬といふ、齊の亂を避く、故に衞に在り、

惠公二年、長翟來、王子城父、攻殺之、埋之於北門、晉趙穿弑其君靈公、十年、惠公卒、子頃公無野立、初崔杼有寵於惠公、惠公卒、高國畏其偪也、逐之、崔杼奔衞、

【講義】齊の惠公の二年に、長狄來り侵す、齊の大夫

に在り、晉の文公が霸業を成したる大戰の地なり、殺、山の名なり、今の河南永寧縣の北に在り、險塞なり、

十九年五月、昭公卒、子舍立、爲齊君、舍之母無寵於昭公、國人莫畏、昭公之弟商人、以桓公死、爭立而不得、陰交賢士、拊愛百姓、百姓說、及昭公卒、子舍立、孤弱、卽與衆、十月卽墓上弒齊君舍、而商人自立、是爲懿公、懿公桓公子也、其母曰密姬、

【講義】齊の昭公の十九年五月に、昭公卒す、子舍立ちて齊君と爲る、舍の母は昭公に寵愛せられず、故に國人は新君を畏れず、是より先に、昭公の弟商人は、桓公の死を以て、齊君と爲るを爭へども、立つを得ず、是に於て、竊に賢士に交り、人民を撫で愛す、人民皆悅ぶ、既にして昭公卒し、子舍立つ、舍は孤弱なり、商人乃ち其の徒を率ゐて起ち、十月を以て、昭公の墓側に齊君舍を弒す、商人自立す、是を懿公といふ、懿公は桓公の子なり、其の母を密姬といふ、

【字解】拊愛、撫で愛するなり、拊は親む貌なり、說、悅ぶなり、

懿公四年春、初懿公爲公子時、與丙戎之父獵、爭獲不勝、及卽位、斷丙戎父足、而使丙戎僕、庸職之妻好、公內之宮、使庸職驂乘、

【講義】齊の懿公の四年夏に、懿公死す、是れより先に、懿公が公子たる時に、丙戎の父と共に遊獵し、其の獲たる禽獸を爭ひて勝たず、故に位に卽くに及び、丙戎の父を刑し、其の足を斷り、丙戎をして御車の役を執らしむ、庸職の妻美なり、公は其の妻を宮中に入

五月宋敗齊四公子師而立太子昭、是爲齊孝公、宋以桓公與管仲屬之太子故來征之、以亂故八月乃葬齊桓公、

【講義】其の年の五月に、宋軍は齊の四公子の兵を破り、齊の太子昭を立つ、是を孝公といふ、蓋し宋は、桓公と管仲とが嘗て太子昭を委託したるを以て、來つて四公子を征したるなり、齊は其の亂れたるを以て、八月に至り、桓公を葬るを得たり、

六年春、齊伐宋、以其不同盟于齊也、夏宋襄公卒、七年晉文公立、十年孝公卒、孝公弟潘、因衞公子開方、殺孝公子而立潘、是爲昭公、昭公桓公子也、其母曰葛嬴、

【講義】齊の孝公の六年春に、齊は宋を伐つ、是れ宋が齊に同盟せず、自から霸道を行はんと謀りたるを以てなり、其の年の夏に、宋の襄公卒す、齊の孝公の七年に、晉の文公立つ、十年に孝公卒す、孝公の弟潘は、齊の大夫たる衞の公子開方に因り、孝公の子を殺して立つ、是を昭公といふ、昭公は桓公の子なり、其の母を葛嬴といふ、

昭公元年、晉文公敗楚於城濮、而會諸侯踐土、朝周、天子使晉稱伯、六年翟侵齊、晉文公卒、秦兵敗于殽、十二年秦穆公卒、

【講義】齊の昭公の元年に、晉の文公は楚軍を衞の城濮に敗績せしむ、因て諸侯を鄭の踐土に會し、之を周に參朝せしむ、天子は晉をして霸を稱せしむ、六年に狄は齊を侵す、晉の文公卒す、秦兵は殽に於て、晉軍と戰ひ敗績す、十二年に、秦の穆公卒す、

【字解】城濮、衞の地なり、今の山東曹州府濮州の南

桓公卒、遂相攻、以故宮中空、莫敢棺、桓公尸在牀上六十七日、尸蟲出于戶、

【講義】 蓋し桓公の病中に於て、雍以外の五公子は、各自に黨を立て丶、君たるを爭へり、故に公の卒するに及び、遂に起ちて相攻む、是を以て宮中空虛と爲る、敢て公を棺にするもの無し、公の尸は牀上に橫る六十七日なり、尸より蟲生じて、戶を出づるに至る、

十二月乙亥、無詭立、乃棺赴、辛巳夜斂殯、桓公十有餘子、要其後立者五人、無詭立三月死、無謚、次孝公、次昭公、次懿公、次惠公、

【講義】 其の年の十二月乙亥の日に、公子無詭立ちて君と爲る、乃ち桓公を棺にし、其の死を發表し、辛巳の夜に、之を斂め殯す、蓋し桓公には十餘子有り、要するに其の後に立つもの五人なり、無詭は立つ三月にして死す、謚無し、次は孝公立つ、次は昭公立つ、次は懿公立つ、次は惠公立つ、

【字解】 赴、告ぐるなり、其の死を發表するなり、斂殯、尸を收めて其の棺を祭るなり、カリモガリと訓ず、

孝公元年三月、宋襄公率諸侯兵、送齊太子昭而伐齊、齊人恐、殺其君無詭、齊人將立太子昭、四公子之徒、攻太子、太子走宋、宋遂與齊人四公子戰、

【講義】 齊の孝公の元年三月に、宋の襄公は諸侯の兵を率ゐて、齊の太子昭を送り、齊を伐つ、齊人恐れ、其の君たる無詭を殺し、太子昭を立てんとす、四公子の徒は、太子を攻む、太子は宋に走る、宋は遂に齊人四公子と戰ふ、

衛姫生無詭、少衛姫生惠公元、鄭姫生孝公昭、葛嬴生昭公潘、密姫生懿公商人、宋華子生公子雍、桓公與管仲屬孝公於宋襄公、以爲太子、雍巫有寵於衛共姫、因宦者豎刁以厚獻於桓公、亦有寵、桓公許之立無詭、管仲卒、五公子皆求立、

【講義】齊の桓公の四十三年に、齊の五公子相爭ひて立つを求む、是より先き桓公の夫人三有り、王姫と曰ひ、徐姫と曰ひ、蔡姫と曰ふ、皆子無し、桓公は婦女を好み、内寵多し、夫人の如きもの六人有り、長衛姫は公子無詭を生み、少衛姫は惠公元を生み、鄭姫は孝公昭を生み、葛嬴は昭公潘を生み、密姫は懿公商人を生み、宋の華子は公子雍を生む、桓公は管仲と議して、孝公昭を宋の襄公に委託し、之を齊の太子と爲す、易牙は長衛姫に寵幸せらる、因て宦者豎刁に就き、厚く物を桓公に獻上し、長衛姫も公の寵愛を得たり、是に於て、桓公は長衛姫の生みたる公子無詭を立てゝ、太子と爲すことを許せり、是れ管仲の死後に、五公子の立つを爭ふに至れる所以なり、

【字解】雍巫、易牙なり、雍は饔なり、膳部を掌る役人を稱す、巫は名なり、易牙は、字なり、衛共姫、衛恭姫なり、長衛姫を指す、長は姉なり、少姫に對していふ、恭は諡なり、五公子、雍の外の五人なり、

冬十月乙亥、齊桓公卒、易牙入、與豎刁因内寵殺群吏而立公子無詭爲君、太子昭奔宋、

【講義】其の年の冬十月乙亥の日に、齊の桓公卒す、易牙乃ち宮に入り、豎刁と共に長衛姫等の婦女に因り、反對の群吏を殺して、公子無詭を立て、齊君と爲す、是に於て、現在の太子たる孝公昭は宋に逃る、

桓公病、五公子各樹黨爭立、及

管仲病、桓公問曰、群臣誰可相者、管仲曰、知臣莫如君、公曰、易牙如何、對曰、殺子以適君、非人情不可、公曰、開方如何、對曰、倍親以適君、非人情難近、公曰、豎刁如何、對曰、自宮以適君、非人情難親、管仲死、而桓公不用管仲言、卒近用三子、三子專權、

【講義】管仲の病むときに、桓公問ひ曰く、群臣の中に於て、誰か宰相とすべきものぞと、管仲曰く、臣を知ることは君に勝るもの無し、公曰く、易牙は如何、仲曰く、易牙は其の子を殺して羹と爲し、之を獻じて君の意に適せしむ、是れ人情に非ず、不可なり、公曰く、開方は如何、仲曰く、開方は衞の公子なるに、其の親に背きて君に事ふ、是れ人情に非ず、近づけ難し、公曰く、豎刁は如何、仲曰く、豎刁は自から宮刑を施し、以て宮中に入り、君に暱むを得たり、是れ人情に非ず、親み難し、既にして管仲死す、桓公は管仲の言を用ひず、竟に三子を近け用ふ、三子權勢を專にするに至る、

【字解】倍、背くなり、宮、肉刑の一にして、去勢することなり、卒、竟なり、

四十二年、戎伐周、周告急於齊、齊令諸侯各發卒戍周、是歲晉公子重耳來、桓公妻之、

【講義】齊の桓公の四十二年に、戎は周を伐つ、周は急難を齊に告ぐ、齊は諸侯をして、各國より其の兵卒を發し、周を戍らしむ、是の年に、晉の公子重耳は齊に來る、桓公は其の女を以て、重耳に配す、

四十三年、初齊桓公之夫人三、曰王姬徐姬蔡姬、皆無子、桓公好內、多內寵、如夫人者六人、長

和の會を爲し、總て九たび諸侯を合せ、一たび周の襄王の位を定めて、天下を匡す、昔時夏殷周の三王が、天命を受けたるも、何を以て我の此の盛事に異ならんや、吾は泰山に封じて天を祭り、梁父に禪して山川を祭り、以て我の盛德を記せんと欲すと、管仲固く之を諫むるも用ひられず、因て桓公に說きて曰く、遠方より珍怪の物至りて、後に封禪するを得べしと、桓公乃ち止む、

【字解】 寡人、諸侯の自から稱する謙辭なり、山戎、離枝、孤竹、北狄の三國なり、離枝は令支に同じ、大夏、西戎の國なり、流沙、沙漠の地なり、束馬懸車、馬も車も用ひず、之を運ぶなり、兵車、戰時なり、乘車、平時なり、封、名山を封ひ、天を祭るなり、禪、地を祓ひ、山川を祭るなり、

三十八年、周襄王弟帶、與戎翟合謀伐周、齊使管仲平戎於周、周欲以上卿禮管仲、管仲頓首曰、臣陪臣、安敢、三讓、乃受下卿禮、以見、

【講義】 齊の桓公の三十八年に、周の襄王の弟帶は戎狄と謀を合せて、周を伐つ、齊は管仲をして周を援け、戎を平げしむ、周は上卿を以て管仲に禮せんと欲す、管仲頓首して曰く、臣は陪臣なり、何ぞ敢てせんと、三たび辭讓し、遂に下卿の禮を受け、以て謁見す、

【字解】 翟、狄なり、陪臣、臣の家の臣なり、

三十九年、周襄王弟帶來奔齊、齊使仲孫請王爲帶謝、襄王怒弗聽、四十一年、秦穆公虜晉惠公、復歸之、是歲管仲隰朋皆卒、

【講義】 齊の桓公の三十九年に、周の襄王の弟帶は、逃れて齊に入る、齊は仲孫を公使として、周に赴き、襄王に請ひ、帶の爲めに謝せしむ、襄王怒りて聽かず、四十一年に、秦の穆公は晉の惠公を虜にす、既にして之を歸國せしむ、是の年に、管仲、隰朋皆卒す、

西平陽府に在り、

是時周室微、唯齊楚晉爲彊、晉初與會、獻公死、國內亂、秦穆公辟遠、不與中國會盟、楚成王初收荊蠻有之、夷狄自置、唯獨齊爲中國會盟、而桓公能宣其德、故諸侯賓會、

【講義】是の時に當り、周の王室衰微に赴き、齊楚秦晉の四國强大と爲る、晉は初め會盟に與りしも、獻公死して國內亂れたり、秦の穆公は僻遠の地に在りて、中國の會盟に與らず、楚の成王は始めて荊蠻の地を收めて、之を領有したるも、自から夷狄を以て居り、天下唯獨り齊が中國の會盟を爲すのみ、而して桓公は能く其德を宣べ布く、故に諸侯は之に從ひ會同す、

【字解】彊、强なり、賓、從ふなり、

於是、桓公稱曰、寡人南伐至召陵、望熊山、北伐山戎離枝孤竹、西伐大夏、涉流沙、束馬懸車、登太行、至卑耳山而還、諸侯莫違寡人、寡人兵車之會三、乘車之會六、九合諸侯、一匡天下、昔三代受命、有何以異於此乎、吾欲封泰山禪梁父、管仲固諫、不聽、乃說桓公以遠方珍恠物至乃得封、桓公乃止、

【講義】是に於て、桓公は自から得色有り、稱して曰く、我は南伐して楚の召陵に至り、熊山を望み、北伐して山戎、離枝、孤竹を制し、西伐して大夏を破り、流沙を涉り、馬を束ねて牽き、車を懸けて運び、太行の險岨に登り、卑耳山に至りて還る、諸侯は我の命令に違ふもの無し、我は三たび兵馬の會を爲し、六たび平

【講義】齊の桓公の三十五年夏に、桓公は諸侯を葵丘に會す、周の襄王は太宰の孔をして、桓公に物を賜はしむ、其の物は文王武王を祭りたる肉と、朱塗の弓矢と、諸侯參朝の大車と是なり、襄王は特に命じて、桓公に下拜の禮を執ること無からしむ、桓公は之に從はんと欲す、管仲曰く、不可なりと、桓公乃ち堂を下り、拜禮して賜を受く、

【字解】文武、文王武王なり、胙、祭肉なり、彤、赤く塗りたるものなり、大路、大輅なり、朝廷に參覲するときの車なり、葵丘、兩地有り、一は齊に在り、一は晉に在り、此の會盟の地は、晉の葵丘なり、今の河南歸德府に屬す、

秋、復會諸侯於葵丘、益有驕色、周使宰孔會、諸侯頗有叛者、晉侯病後、遇宰孔、宰孔曰、齊侯驕矣、第無行、從之、

【講義】其年の秋、再び諸侯を葵丘に會す、桓公益、驕傲の色有り、周は太宰の孔をして參會せしむ、諸侯は頗る桓公に叛くもの有り、晉侯は病有りて會期に後れ、途に周の太宰孔に遇ふ、孔曰く、齊侯は驕傲なり、畏るに足らず、君唯行く勿れと、晉侯は之に從ひ、途中より還り去る、

是歲晉獻公卒、里克殺奚齊悼子、秦穆公以夫人入公子夷吾、爲晉君、桓公於是討晉亂、至高梁、使隰朋立晉君還、

【講義】是の歲に、晉の獻公卒す、晉の大夫里克は、晉の公子なる奚齊と卓子とを殺す、秦の穆公の夫人は晉の獻公の女にして、晉の公子夷吾の姊なり、故に穆公は其の夫人の緣故を以て、夷吾を援けて晉に入らしめ、晉君と爲す、齊の桓公も、是に於て晉の亂を討じ、高梁に至り、其の大夫隰朋をして夷吾を立てしめて還る、

【字解】悼子、卓子なり、高梁、晉の地なり、今の山

楚王使屈完將兵扞齊、齊師退、次召陵、

【講義】 楚王曰く、包茅の貢入せざる事は、實に之れ有り、寡人の罪なり、敢て供給せざらんや、必らず上納すべし、然れども、周の昭王の出遊して還らざるは、楚の罪に非ず、君其れ之を水濱の砂石に問へと、是に於て、齊軍は進みて、陘の險要に露營す、其の年の夏に、楚王は其の大夫屈完をして、兵に將とし齊を防がしむ、齊軍は退きて召陵に露次す、

【字解】 寡人、諸侯の自身を稱する謙辭なり、共、供なり、供給なり、陘、楚の險要の地なり、今の開封府新鄭縣の南に在り、召陵、陘の北に在り、扞、防ぐなり、

桓公矜屈完以其衆、屈完曰、君以道則可、若不則楚方城以爲城、江漢以爲溝、君安能進乎、乃與屈完盟而去、過陳、陳袁濤塗詐齊、令出東方、覺、秋齊伐陳、是歲晉殺太子申生、

【講義】 桓公の屈完に誇示するに其の大軍を以てす、屈完曰く、君は道を以てすれば可なり、若しも道を以てせざるときは、楚も力を以て相抗せん、楚は方城の連山を以て城と爲し、江漢の巨水を以て溝と爲さん、要害は堅固なり、君何ぞ能く進まんやと、桓公は乃ち兵を收め、屈完と盟ひて退き去る、歸途に陳を通過す、陳の大夫袁濤塗は齊を詐り、齊軍をして東方の道に出でしめんと謀る、其の事發覺す、其の年の秋に、齊は陳を伐つ、是の年に、晉は太子申生を殺す、

【字解】 矜、誇るなり、方城、山の名なり、南北に連る險要なり、袁濤塗、左傳の僖公四年に詳なり、

三十五年夏、會諸侯于葵丘、周襄王使宰孔賜桓公文武胙彤弓矢大路、命無拜、桓公欲許之、管仲曰、不可、乃下拜受賜、

三十年春、齊桓公率諸侯伐蔡、蔡潰、遂伐楚、楚成王興師、問曰、何故涉吾地、

【講義】 齊の桓公の三十年に、桓公は諸侯を率ゐて蔡を伐つ、蔡は敗走す、齊は遂に楚を伐つ、楚の成王は軍を興し、齊を防ぎ、問ひて曰く、何の故に吾地を侵すと、

【字解】 潰、兵卒が上官を棄てゝ敗走するなり、何故、左傳の僖公四年に詳なり、

管仲對曰、昔召康公命我先君太公曰、五侯九伯、若實征之、以夾輔周室、賜我先君履、東至海、西至河、南至穆陵、北至無棣、楚貢包茅不入、王祭不共、是以來責、昭王南征不復、是以來問、

【講義】 管仲乃ち齊君に代り對へて曰く、昔時周の召康公は、天子の命を我先君太公に傳へて曰く、天下の諸侯は總て汝の之を征するに任す、以て周の王室を輔佐せよと、此の命に副へて、我先君太公に其の履むべき地域を許し賜ふ、曰く、東は海に至るまで、西は河に至るまで、南は楚の邊疆なる穆陵に至るまで、北は遼西の無棣に至るまでと、故に四方の征伐は、齊の公務なり、今や楚の貢獻すべき包茅は周廟に入らず、王の祭の物は供はらず、是を以て來り責む、周の昭王は南征して還らず、是を以て來り問ふと、

【字解】 先君太公、齊の始祖なり、五侯九伯、五等の爵及び九州の牧なり、天下の諸侯なり、若、汝なり、齊の始祖を指すなり、夾輔、輔佐なり、夾は左右より扶持する貌なり、履、足跡の及ぶ所なり、包茅、束ねたる茅なり、祭儀に酒を灌ぐものなり、共、供へるなり、

楚王曰、貢之不入、有之、寡人罪也、敢不共乎、昭王之出不復、君其問之水濱、齊師進次于陘、夏

に命じて、其の國祖たる召公の政道を修め行はしめ、其の貢職を周の王室に獻納すること、成康兩王の時の如くせしむ、諸侯は之を聞きて、皆齊に從ふに至る、

二十七年、魯湣公母曰哀姜、桓公女弟也、哀姜淫於魯公子慶父、慶父弑湣公、哀姜欲立慶父、魯人更立釐公、桓公召哀姜殺之、

【講義】齊の桓公の二十七年に、魯の湣公の母たる哀姜は、魯の公子慶父に淫し通ず、慶父は湣公を殺す、哀姜は慶父を立てんと欲す、魯人は更に釐公を立つ、哀姜は桓公の妹なり、故に桓公は哀姜を召して之を殺せり、

【字解】湣公、閔公なり、更、更なり、釐公、僖公なり、

二十八年、衞文公有狄亂、告急於齊、齊率諸侯城楚丘而立衞君、二十九年、桓公與夫人蔡姬戲船中、蔡姬習水、蕩公、公懼、止之不止、出船怒歸蔡姬、弗絕、蔡亦怒嫁其女、桓公聞而怒、興師往伐、

【講義】齊の桓公の二十八年に、衞の文公は狄の亂に遭ひ、急難を齊に告ぐ、齊は諸侯を率ゐて、楚丘に城き、以て衞の君を定む、二十九年に、桓公は其の夫人たる蔡姬と共に船中に戲る、蔡姬は水に習熟す、故に船を搖して公を蕩す、公懼れて之を止む、蔡姬は止めず、公は船を出でて怒り、蔡姬を歸す、未だ其の緣を絕たず、蔡も怒りて蔡姬を他國に嫁す、桓公は之を聞きて更に怒り、軍を興し往きて伐つ、

【字解】狄亂、衞康叔世家に詳なり、蕩、搖り撼すなり、

於是始霸焉、十四年陳厲公子完號敬仲、來奔齊、齊桓公欲以爲卿、讓、於是以爲工正、田成子常之祖也、

【講義】 齊の桓公の七年に、諸侯は甄に於て桓公に會す、桓公は始めて霸業を成したり、十四年陳の厲公の子にして名を完といひ敬仲と號するもの、出奔して齊に入る、桓公は之を擧げて卿と爲さんと欲す、敬仲辭し讓る、因て工正と爲す、是れ田成子常の祖なり、

【字解】 甄、衞の鄄城なり、今の山東曹州府濮州の東に在り、霸、諸侯の長なり、工正、百工の長官なり、田成子常、田敬仲世家に詳なり、

二十三年、山戎伐燕、燕告急於齊、齊桓公救燕、遂伐山戎、至于孤竹而還、燕莊公遂送桓公、入齊境、

【講義】 齊の桓公の二十三年に、山戎は燕を伐つ、燕は急難を齊に告ぐ、桓公乃ち燕を救ひ、遂に山戎を伐ち、孤竹に至りて還る、燕の莊公は桓公を送り、齊の國境に入る、

【字解】 山戎、北狄なり、孤竹、今の直隸順天昌平州に在り、

桓公曰、非天子、諸侯相送不出境、吾不可以無禮於燕、於是分溝、割燕君所至與燕、命燕君復修召公之政、納貢于周、如成康之時、諸侯聞之、皆從齊、

【講義】 桓公曰く、天子を送るに非ずして諸侯の相送るときは、其の國境を出でず、今や燕君は我を送りて、其の境を出づ、吾は燕に禮無かるべからずと、乃ち河溝を分ち、燕君の至る所を割きて燕に與へ、燕君

邑以平、桓公許、與魯會柯而盟、

【講義】齊の桓公の二年、郯を伐ち、之を滅す、郯君は莒に奔る、是より先に、桓公の出で亡げたる時、郯を過ぎたるも、郯は禮無し、故に之を伐つ、五年に魯を伐つ、魯の大將の本陣敗れたり、魯の莊公は遂縣を獻じ、以て平和を定めんと請ふ、桓公許容し、魯と共に柯の地に會して盟はんとす、

【字解】郯、今の山東沂州郯城縣なり、莒、前節に在り、遂、齊に近き魯邑なり、柯、遂に近き地なり、

魯將盟、曹沫以匕首劫桓公於壇上曰、反魯之侵地、桓公許之、已而曹沫去匕首、北面就臣位、

【講義】魯は盟はんとして未だ盟はず、魯の使臣曹沫は、短劍を以て壇上に劫し、曰く、齊の侵略したる地を魯に返せと、桓公許諾す、既にして曹沫は、短劍を去て北面し、臣の席に就く、

【字解】匕首、短劍なり、侵地、侵して取りたる地なり、北面、臣の席なり、

桓公後悔、欲無與魯地而殺曹沫、管仲曰、夫劫許之、而倍信殺之、愈一小快耳、而棄信於諸侯、失天下之援、不可、於是遂與曹沫三敗所亡地於魯、諸侯聞之、皆信齊而欲附焉、

【講義】會散じて後に、桓公悔恨し、魯に地を與ふること無からんと欲し、且つ曹沫を殺さんと欲す、管仲曰く、夫れ劫かされて之を許し、信に背きて之を殺す、是れ一小快を取るのみ、信を諸侯に棄て、天下の援を失ふ、不可なりと、遂に曹沫が三戰三敗して亡ひたる地を、魯に與ふ、諸侯傳聞して、皆齊を信じ、之に附かんと欲す、

【字解】倍、背くなり、愈、進るなり、取ることなり、

七年、諸侯會桓公於甄、而桓公

と欲せば、卽ち高傒と牙とにして足る、然れども霸王たらんと欲せば、管夷吾に非ざれば不可なり、夷吾の居る所は、其國重し、失ふべからずと、桓公聽從す、

【字解】且、猶なり、更なり、霸王、周本紀に在り、

乃詳爲召管仲欲甘心實欲用之、管仲知之、故請往、鮑叔牙迎受管仲、及堂阜而脫桎梏、齋祓而見桓公、桓公厚禮、以爲大夫、任政、

【講義】是に於て佯りて管仲を召し、之を殺し滿足せんと欲するが如く粧ひ、其實は之を用ひんと欲す、管仲之を知る、故に請ひて往く、鮑叔牙は迎へて管仲を受け、堂阜に至りて、其桎梏を釋き放し、身を淸め禍を祓ひて、桓公に見えしむ、桓公乃ち禮を厚くして、之を大夫と爲し、國政に任ぜしむ、

【字解】甘心、前節に在り、堂阜、齊の國都に近き地なり、桎梏、手足の械なり、齋祓、身を淸め禍を祓ふなり、詳、佯なり、

桓公既得管仲、與鮑叔隰朋高傒、修齊國政、連五家之兵、設輕重魚鹽之利、以贍貧窮、祿賢能、齊人皆說、

【講義】桓公は既に管仲を得て、鮑叔、隰朋、高傒と共に、齊國の政事を整へ、新制の兵團を連ね、物價高低の取締を設け、魚を捕へ鹽を煮る法令を布き、以て其の利を制し、貧窮を救ひ贍し、賢能に祿を授け、因て齊人を悅服せしめたり、

【字解】五家、管仲の新制なり、五家を軌とし、十軌を里とし、四里を連とし、十連を卿とす、蓋し以て軍令に便するなり、輕重、物價の高低なり、

二年、伐滅郯、郯子奔莒、初桓公亡時過郯、郯無禮、故伐之、五年伐魯、魯將師敗、魯莊公請獻遂

管仲を誤らしめ、既にして荷物車に載せられ、馳せ行く、是の時に當り、齊の都には高國兩大夫の內應する有り、故に桓公は先づ入り立つを得たり、乃ち兵を發し魯を距ぐ、此の年の秋に、魯と乾時に戰ふ、魯兵敗走す、齊兵は魯の歸道を閉塞す、

【字解】溫車、轀輬車なり、死骸を載せる車、或は荷物車なり、轀輬は溫涼に同じ、其の窓を閉づれば溫となり、開けば涼となる、以て物の腐敗を防ぐなり、掩絕、擁して通行を絕つなり、

齊遺魯書曰、子糾兄弟、弗忍誅、請魯自殺之、召忽管仲讐也、請得而甘心醢之、不然、將圍魯、魯人患之、遂殺子糾於笙瀆、召忽自殺、管仲請囚、

【講義】齊は魯に書を遺りて曰く、子糾は兄弟なり、之を誅するに忍びず、請ふ魯自から之を殺せ、召忽管仲は讐なり、請ふ獲て我の意の儘に之を醢にせん、然らざるときは、魯を圍み攻めんと、魯人は之を患害とし、遂に子糾を笙瀆に殺せり、召忽は自殺し、管仲は囚はれんことを請へり、

【字解】甘心、我の意の如く行ひて滿足することなり、醢、肉醬なり、笙瀆、魯の地なり、

桓公之立、發兵攻魯、心欲殺管仲、鮑叔牙曰、臣幸得從君、君竟以立、君之尊臣、無以增君、君將治齊、卽高傒與叔牙足也、君且欲霸王、非管夷吾不可、夷吾所居國、國重、不可失也、於是、桓公從之、

【講義】桓公の立つや兵を發し魯を攻め、心に期して管仲を殺さんと欲す、鮑叔牙曰く、臣幸に君に從ふを得たり、君は竟に以て立つ、今や君は臣を尊寵するも、以て君の威德を增すに足らず、君は齊を治めん

【字解】糾、小白の庶兄なり、莒、齊の東境なり、今の山東沂州府莒州なり、

小白母、衛女也、有寵於釐公、小白自少好善大夫高傒、及雍林人殺無知、議立君、高國先陰召小白於莒、

【講義】小白の母は、衛の女なり、齊の釐公に寵愛せられたり、小白は少時より齊の大夫高傒に親み深し、故に雍林の人が無知を殺すに及び、齊廷は君を立つるを議し、高國兩大夫は先づ陰に小白を莒より迎ふ、

魯聞無知死、亦發兵、送公子糾、而使管仲別將兵遮莒道、射中小白帶鉤、小白佯死、管仲使人馳報魯、魯送糾者行益遲、六日至齊、則小白已入、高傒立之、是爲桓公、

【講義】魯は無知死せりと聞きて、兵を發し、公子糾を送る、別に管仲をして兵に將とし、莒の道を遮らしむ、管仲は射て小白の帶鉤に中つ、小白は佯りて死したる如くす、管仲乃ち人をして馳せ、之を魯に報ぜしむ、是に於て、魯の糾を送るものは安心して、行くこと益遲し、六日を經て齊に至る、此の時に小白は既に先づ入り、高傒は之を立つ、是を桓公といふ、

【字解】鉤帶、帶を束める金具なり、佯、僞なり、

桓公之中鉤、佯死、以誤管仲、已而載温車中、馳行、亦有高國內應、故得先入立、發兵距魯、秋與魯戰於乾時、魯兵敗走、齊兵掩、絕魯歸道、

【講義】桓公の帶鉤に箭を受けたるや、死を佯りて

無知入宮、求公不得、或見人足於戸間、發視乃襄公、遂弑之、而無知自立、爲齊君、

【講義】無知は、乃ち宮中に於て襄公を求め、未だ之を得ず、其の徒の或ものは、人の足を戸の間に見て、之を發き視れば襄公なり、遂に之を弑す、而して無知は自立し、齊君と爲る、

桓公元年春、齊君無知、游於雍林、雍林人嘗有怨無知、及其往游、雍林人襲殺無知、告齊大夫曰、無知弑襄公自立、臣謹行誅、唯大夫更立公子之當立者、唯命是聽、

【講義】齊の君たる無知は、齊の桓公の元年春を以て、雍林に遊ぶ、雍林の人は嘗て無知に怨み有り、其の來り遊ぶを視て、無知を襲ひ殺し、齊の大夫に告げて曰く、無知は襄公を弑して自立す、臣謹みて誅を行ふ、唯願ふ大夫が更に公子の立つべきものを立てゝ、齊の君と爲さんことを、唯其の命のまゝに、臣は之を聽かんと、

【字解】雍林、齊の地なり、更、更なり、

初襄公之醉殺魯桓公、通其夫人、殺誅數不當、淫於婦人、數欺大臣、群弟恐禍及、故次弟糾奔魯、其母魯女也、管仲召忽傅之、次弟小白奔莒、鮑叔傅之、

【講義】是より先き、襄公の魯君を醉殺し、其の夫人に密通するや、人を誅殺すること數、其の罪に適當せず、婦女に荒淫し、大臣を欺くこと屢なり、群弟は禍の及び至るを恐る、故に其の次の弟糾は魯に奔る、其の母は魯の女なり、管仲召忽の兩人は之に傅たり、其の次の弟小白は莒に奔る、鮑叔は之に傅たり、

【講義】 連稱には從妹有り、襄公の宮中に在り、而も寵を得ず、連稱は此の女をして、公の間隙を窺はしめて曰く、此の事を成し遂げたるときは、汝を推擧して、無知の夫人と爲すべしと、此の年の冬十二月に、襄公は姑棼に遊び、遂に沛丘に獵す、彘を見る、蓋し妖怪なり、公の眼にも豕と見ゆるも、他人の眼には、曩に殺されたる彭生と見ゆ、故に從者曰く、是れ彭生なりと、公怒り之を射る、彘は人の如く起立して啼泣す、公懼れ車より墜ちて、足を傷ひ屨を失ふ、遂に宮に還りて、屨を掌る茀といふものを罪とし、之を鞭つ三百に及ぶ、茀退き出づ、

【字解】 姑棼、齊の都に近き地なり、今の山東青州博興縣に在り、沛丘、貝丘に同じ、姑棼の近地なり、

而無知連稱管至父等、聞公傷、乃遂率其衆襲宮、逢主屨茀、茀曰、且無入驚宮、驚宮未易入也、無知不信、茀示之創、乃信之、待宮外、令茀先入、

【講義】 是の時に當り、無知、連稱、管至父等は、襄公の負傷を聞き、遂に其徒を率ゐて、公宮を襲ひ、途に茀に逢ふ、茀曰く、暫時襲入する勿れ、宮中を驚擾する勿れ、宮を驚すときは入るに難しと、無知は之を信せず茀、は其の鞭たれたる創を示す、無知乃ち信じ、姑らく宮外に待ち、茀をして先づ入らしむ、

【字解】 而、其の間にといふ意なり、主屨、前節に在り、

茀先入、卽匿襄公戶間、良久、無知等恐、遂入宮、茀反與宮中及公之幸臣、攻無知等、不勝皆死、

【講義】 茀先づ入る、卽ち襄公を戶の間に匿し、稍久しく出でず、無知等恐れ、遂に宮中に亂入す、茀は却て宮中及び襄公寵愛の臣と共に起つて、無知等を攻め、其の勝を得ず、之に死せり、

【字解】 良、稍なり、幸臣、寵愛の臣なり、

【講義】魯の桓公は、夫人の私通を知り之を怒る、夫人は之を齊の襄公に告ぐ、襄公乃ち桓公と宴飮し、桓公を酔はしめ、彭生といふ力強き人をして、桓公を車に抱き上げ、之を拉ぎ殺さしむ、魯人は之を譲む、齊は彭生を殺して魯に謝す、

【字解】拉、拉ぐなり、胸を折るなり、桓公下車則死矣、此の二句は、傍人より觀たる貌を寫すなり、車上にて既に殺されたるも、傍人は之を知らず、故に車より下れば既に死せりといふなり、譲、責むるなり、

八年伐紀、紀遷去其邑、十二年、初襄公使連稱管至父戍葵丘、瓜時而往、及瓜而代、往戍一歲、卒瓜時、而公弗爲發代、或爲請代、公弗許、故此二人怒、因公孫無知謀作亂、連稱有從妹在公宮、無寵、使之間襄公、曰、事成以女爲無知夫人、冬十二月、襄公游姑棼、遂獵沛丘、見彘、從者曰、彭生、公怒射之、彘人立而啼、公懼墜車、傷足失屨、反而鞭主屨者茀三百、茀出宮、

【講義】襄公の八年に、紀を伐つ、紀は遷りて其の都邑を去る、十二年に、公孫無知の亂作る、是より先に、襄公は連稱と管至父とをして、葵丘を戍らしむ、今年の七月に往き、來年の七月に代ることとす、兩人往き戍る一歲にして、七月を畢るも、公は後任者を發遣せず、或る人は之を請ふも、公は許さず、故に兩人怒りて、公孫無知に因り亂を謀る、

【字解】紀、齊に近き小國なり、今の山東青州府地方なり、葵丘、齊の地なり、臨菑に近し、瓜時、七月なり、

三十二年、釐公同母弟夷仲年死、其子曰公孫無知、釐公愛之、令其秩服奉養比太子、三十三年釐公卒、太子諸兒立、是爲襄公、

【講義】 釐公の三十二年、其の同母弟なる夷仲年死す、遺子有り、公孫無知と曰ふ、釐公は之を愛し、其の俸祿も、服飾も、資給も、總て太子と均しからしむ、三十三年に、釐公卒し、太子諸兒立つ、是を襄公と曰ふ、

襄公元年、始爲太子時、嘗與無知鬪、及立、絀無知秩服、無知怨、四年、魯桓公與夫人如齊、齊襄公故嘗私通魯夫人、魯夫人者襄公女弟也、自釐公時、嫁爲魯桓公婦、及桓公來、而襄公復通焉、

【講義】 襄公の元年に、公孫無知の俸祿服飾を引下ぐ、蓋し襄公は太子たる時に、嘗て無知と爭鬪せり、因て位に卽くに及び、無知を排斥したるなり、無知は之を怨む、襄公の四年に、魯の桓公は、夫人と齊に往く、襄公は本來魯の夫人に私通せり、蓋し夫人は、襄公の妹なり、釐公の時より、既に嫁して魯に在り、今や其の桓公と共に來るに及び、襄公再び私通す、

【字解】 絀、斥くなり、秩服、前節に解説す、

魯桓公知之、怒夫人、夫人以告齊襄公、齊襄公與魯君飮、醉之、使力士彭生抱上魯君車、因拉殺魯桓公、桓公下車則死矣、魯人以爲讓、而齊襄公殺彭生、以謝魯、

七十人、文公十二年卒、子成公脫立、

【講義】厲公暴虐なり、故の胡公の子復歸して、齊の都に入る、齊人は之を立てんと欲し、胡公の子と共に謀りて、厲公を攻殺せり、然れども此の亂に、胡公の子も死したるを以て、齊人は厲公の子赤を立て君と爲す、是を文公と曰ふ、文公は厲公を殺したる七十人の者を誅戮し、十二年にして卒去す、子成公脫立つ、

成公九年卒、子莊公購立、莊公二十四年、犬戎殺幽王、周東徙雒、秦始列爲諸侯、五十六年、晉弑其君昭侯、六十四年莊公卒、子釐公祿甫立、

【講義】成公は九年にして卒し、子莊公購立つ、莊公の二十四年に、犬戎は周の幽王を殺し、周は東に遷りて雒に都す、此の時に當り、秦は始めて周の諸侯に列せり、莊公の五十六年に、晉は其の君昭侯を弑す、六十四年に莊公卒し、子釐公祿甫立つ、

【字解】雒、洛に同じ、周の東遷後の都なり、今の河南洛陽なり、犬戎、周の本紀に在り、

釐公九年、魯隱公初立、十九年、魯桓公弑其兄隱公、而自立爲君、二十五年、北戎伐齊、鄭使太子忽來救齊、齊欲妻之、忽曰、鄭小齊大、非我敵、遂辭之、

【講義】釐公の九年に、魯の隱公初めて立つ、十九年に、魯の桓公は其の兄隱公を弑して、自立し君と爲る、二十五年に、北戎は齊を侵す、鄭は太子忽をして齊を救はしむ、齊は其の公女を以て、鄭の太子に配せんと欲す、鄭の太子曰く、鄭は小國なり、齊は大國なり、我の配偶に非ずと、遂に之を辭す、

【字解】敵、相當の配偶なり、强弱の度の均しきをいふ、

胡公徙都薄姑、而當周夷王之時、哀公之同母少弟山、怨胡公、乃與其黨、率營丘人、襲攻殺胡公、而自立、是爲獻公、

【講義】 胡公は齊の都を薄姑に遷す、既にして周の夷王の時に當り、哀公の同母弟にして末に生れたる山といふものは、其の異母兄なる胡公を怨み、其の黨と共に營丘の人民を率ゐ、胡公を襲殺して、自から齊侯と爲る、是を獻公と曰ふ、

獻公元年、盡逐胡公子、因徙薄姑都、治臨菑、九年獻公卒、子武公壽立、

【講義】 獻公の元年に、盡く胡公の子を放逐し、都を薄姑より臨菑に遷し、國を治す、九年にして獻公卒し、子武公壽立つ、

【字解】 薄姑、今の山東青州博興縣の東北に在り、臨菑、齊の永久の都なり、薄姑に近し、

武公九年、周厲王出奔居彘、十年王室亂、大臣行政、號曰共和、二十四年、周宣王初立、二十六年武公卒、子厲公無忌立、

【講義】 武公の九年に、周の厲王は、其都より出奔し彘に居る、武公の十年に、周の王室亂れて、大臣は政を行ひ、號して共和政事と曰ふ、武公の二十四年に、周の宣王始めて立ち、二十六年に武公卒去し、子厲公無忌立つ、

【字解】 彘、周の屬邑なり、今の山西霍州に在り、

厲公暴虐、故胡公子復入齊、齊人欲立之、乃與攻殺厲公、胡公子亦戰死、齊人乃立厲公子赤爲君、是爲文公、而誅殺厲公者

營丘を爭ふ、蓋し營丘は萊の邊疆に接す、萊は夷なり、殷紂の亂に會ひて、周は初めて王業を成し、未だ遠方を集むる能はず、是を以て、萊侯は呂尙と爭ふに及べり、既にして呂尙は萊に勝ち政を修め、民の俗に因り、民の禮を簡にし、商工の業を通じ、魚鹽の利を便にし、人民多く齊に歸す、齊は大國と爲るに至る、

及周成王少時、管蔡作亂、淮夷畔周、乃使召康公命太公曰、東至海、西至河、南至穆陵、北至無棣、五侯九伯、實得征之、齊由此、得征伐、爲大國、都營丘、蓋太公之卒百有餘年、

【講義】周の成王の少き時に及び、管蔡の兩國は亂を作し、淮上の夷は周に畔く、是に於て成王は召康公をして、齊の太公に命ぜしめて曰く、東は海に至るまで、西は河に至るまで、南は楚の邊疆なる穆陵に至るまで、北は遼西の無棣に至るまで、公侯伯子男なる五等の諸侯九州の牧伯等は、齊に於て之を征伐するを得しむと、此の命令に由り、諸侯を征伐することを得て、大國と爲り、營丘に都す、蓋し呂尙は百餘歳にして卒去せり、

【字解】管蔡、管蔡の世家に詳なり、召康公、燕の始祖召公なり、五侯九伯、天下の諸侯を概稱す、百有餘年、太公の年齡百歳を超えたるをいふなり、營丘、今の山東青州昌樂縣の南に在り、

子丁公呂伋立、丁公卒、子乙公得立、乙公卒、子癸公慈母立、癸公卒、子哀公不辰立、哀公時、紀侯譖之周、周烹哀公、而立其弟靜、是爲胡公、

【講義】太公卒して、子丁公呂伋立ち、乙公癸公を經て、哀公に至る、紀侯は哀公を讒訴す、周王は哀公を烹殺して、其の弟靜を齊侯とす、是を胡公と曰ふ、

を發し施し、以て貧民を振救し、比干の墓を封ひて祭り、箕子を囚より釋き免し、九鼎を遷して、之を周の都に置き、周の德政を修め行ひ、天下の公衆と共に、萬機を更め始む、總て此の成功は、呂尙の謀が其の多きを占む、

【字解】社、國土の神を祀る所なり、群公、諸侯なり、明水、月中の水なり、鏡を以て月を受け、其の露を取るなり、衞康叔、衞の世家に詳なり、平、幣なり、師尙父、呂尙なり、策祝、竹の札に書きて、祭文を奏上するなり、九鼎、夏の禹王が、九州卽ち全國より金屬を聚めて鑄たる九個の寶鼎なり、

於是、武王已平商、而王天下、封師尙父於齊營丘、東就國、道宿行遲、逆旅之人曰、吾聞時難得而易失、客寢甚安、殆非就國者也、太公聞之、夜衣而行、犂明至國、

【講義】是に於て、武王は既に殷を平定して、天下に君臨す、乃ち呂尙を齊の營丘に封ず、呂尙は東行して其の封土に就かんとす、途中に宿して行くこと遲し、旅舍の人曰く、吾聞く、時機の得るに難くして失ふに易しと、然るに客の寢ぬること甚だ安靜なり、殆ど國に就くものに非ずと、呂尙は之を聞き、夜中に衣を整へて行き、早朝に營丘に至れり、

【字解】商、殷なり、師尙父、呂尙なり、逆旅、旅舍なり、犂明、黎明なり、早朝なり、營丘、今の山東靑州昌樂縣の南に在り、

萊侯來伐、與之爭營丘、營丘邊萊、萊人夷也、會紂之亂、而周初定、未能集遠方、是以與太公爭國、太公至國、修政因其俗、簡其禮、通商工之業、便魚鹽之利、而人民多歸齊、齊爲大國、

【講義】是の時に當り、萊侯來り伐つ、呂尙は萊侯と

武王將伐紂、卜龜兆、不吉、風雨暴至、群公盡懼、唯太公彊之勸武王、武王於是遂行、

【講義】其の後二年にして、紂王は王子の比干を殺し、箕子を囚ふ、比干箕子は皆殷の忠良なり、武王は紂王を伐たんと欲す、龜を灼きて之を卜す、其の兆の文は、不吉を見る、風雨も暴に起る、群后盡く懼る、獨り呂尚は之を強ひて、武王の出陣を勸む、武王遂に行く、

【字解】群公、群后なり、諸侯なり、彊、强なり、

十一年正月甲子、誓於牧野、伐商紂、紂師敗績、紂反走、登鹿臺、遂追斬紂、

【講義】周の武王の十一年正月甲子の日に、武王は軍を進めて牧野に至り、諸侯に誓ひ、殷紂を伐ち、殷兵大敗す、紂王は退却して走り、鹿臺に登る、周軍追撃して、遂に紂王を斬る、

【字解】商、殷なり、敗績、大敗なり、鹿臺、殷の本紀に詳なり、

明日、武王立于社、群公奉明水、衞康叔封布采席、師尙父牽牲、史佚策祝、以告神討紂之罪、散鹿臺之錢、發鉅橋之粟、以振貧民、封比干墓、釋箕子囚、遷九鼎、修周政、與天下更始、師尙父謀居多、

【講義】大捷の明日に、武王は殷の社に立ち、其の土神を祭る、諸侯は鏡を以て、月の水を取り之を奉ず、衞康叔は社の前を封ひて、幣を供へ席を布く、呂尙は牲を牽く、史佚は策書を讀み、祭文を奏し、以て神に向ひ、紂王の罪を討じたることを告ぐ、斯くして鹿臺の庫より貯藏の錢を出し散じ、鉅橋の倉より堆積の穀

分は周に歸すと、蓋し此の成功は、呂尙の謀計、其の多きを占む、

【字解】受命、天命を受けて、天下に君臨すること、虞、芮、崇、密須、大夷、五國なり、周の本紀に詳なり、文王、西伯なり、豐、周の古都なり、今の陝西西安鄠縣の東に在り、

文王崩、武王卽位、九年、欲修文王業、東伐以觀諸侯集否、師行、師尙父、左杖黃鉞、右把白旄、以誓曰、蒼兕蒼兕、總爾衆庶與爾舟楫、後至者斬、遂至盟津、

【講義】西伯死して、武王は位に卽く、九年にして、西伯の業を修め、東征し諸侯の集るや否やを察せんと欲す、周軍進行す、呂尙は左手に黃鉞を杖き、右手に白旄を把り、誓ひて曰く、蒼兕蒼兕、汝の衆兵と、汝の舟楫とを總べよ、後れ至るものは斬るべしと、遂に河南の孟津に至る、

【字解】文王、西伯なり、師尙父、呂尙なり、師とし尙び、父とする意にて、尊稱なり、黃鉞、黃金を以て飾りたる大斧なり、旄、指揮する小旗なり、黃を以て、王德を表し、白を持て、兵氣を表す、左に鉞を執るは人を斬らざるを示す、蒼兕、舟を掌る官名なり、水中の怪獸に擬したる名なり、蒼兕を連呼したるは、舟官を警め、河を渡らんとするなり、盟津、孟津に同じ、今の河南の孟津なり、

諸侯不期而會者、八百諸侯、諸侯皆曰、紂可伐也、武王曰未可、還師、與太公作此太誓、

【講義】是の時に當り、諸侯は期約せざるも、來會したるもの八百諸侯有り、皆曰く、紂は之を伐つべしと、武王曰く、未だ可ならずと、乃ち師を還す、因て呂尙と共に此の太誓の篇を作る、

【字解】太誓、尙書に載せたる泰誓の文なり、

居二年、紂殺王子比干、囚箕子、

以事周、雖異、然要之爲文武師、

【講義】或は曰く、呂尙は處士なり、海濱に隱る、周の西伯が羑里に拘はれたる時に、周の重臣たる散宜生と閎夭とは、素より呂尙を知りて之を招く、呂尙曰く、吾は西伯の賢にして、善く老人を養ふを聞く、何ぞ往かざらんやと、遂に西伯の臣と爲る、是に於て散宜生閎夭呂尙の三人は、西伯の爲めに相謀りて、美女奇物を求めて、之を紂王に獻じ、以て西伯の罪を贖ひ、西伯は是に由りて、羑里を出で、周に歸るを得たりと、斯の如くして、呂尙が周に事へし所以を言ふは、諸說相異なり、然れども之を要するに、周に入りて文武の師たり、

【字解】處士、學問有れども、仕官せずして家に居る人なり、羑里、周の本紀に詳し、盍、何不の兩字を一にしたるものと見るべし、

周西伯昌之脫羑里歸、與呂尙陰謀修德、以傾商政、其事多兵權與奇計、故後世之言兵及周之陰權、皆宗太公爲本謀、

【講義】周の西伯の羑里より脫して歸るや、呂尙と陰密の相談を爲し、德行を修めて、殷紂の政權を傾くるを謀れり、其の事は、兵權を張ること、奇計を運らすことを多しとす、故に、後世の兵事、及び周の陰謀と權術とを言ふものは、皆呂尙を本宗を爲し、首謀と爲す、

【字解】昌、西伯の名なり、陰權、陰密の權術、

周西伯政平、及斷虞芮之訟、而詩人稱西伯受命曰文王、伐崇、密須、犬夷、大作豐邑、天下三分、其二歸周者、太公之謀計居多、

【講義】周の西伯、政道の平なるに由り、虞芮兩國の民を感化して、其の訴訟を棄てしむるに及び、詩人は西伯を稱して、天命を受けたる君と尊び、其の德化を述べて曰く、文王は崇と密須と犬夷とを伐ちて、大に豐の都を作り、之に居る、天下は三分せられ、其の二

灼きて、其の甲の割れたる筋を視て、吉凶を判す、彲、螭なり、角無き龍なり、羆、大熊なり、霸、諸侯の長なり、西伯、周の本紀に詳解す、

於是、周西伯獵、果遇太公於渭之陽、與語大說、曰、自吾先君太公曰、當有聖人適周、周以興、子眞是邪、吾太公望子久矣、故號之曰太公望、載已俱歸、立爲師、

【講義】是に於て、周の西伯、果して呂尙に渭水の北岸に遇ふ、與に語り大に悅ぶ、西伯曰く、吾亡父太公の時より言ひ傳へて、聖人の周に赴くもの有り、周は此の聖人に由りて隆興すべしと云へり、子は眞に此の謂はゆる聖人ならんか、吾太公は子を望むこと久しと、故に之を尊稱して、太公望と曰ふ、乃ち車に載せて、既に俱に歸り、之を立てゝ師と爲す、

【字解】果、卜者の言の如くと遂にといふ意なり、陽、河の北岸なり、說、悅ぶなり、先君、亡父なり、適、赴くなり、號、尊びて呼ぶなり、

或曰、太公博聞、嘗事紂、紂無道、去之、游說諸侯、無所遇、而卒西歸周西伯、

【講義】或は曰く、呂尙は博聞の士なり、嘗て殷の紂王に事へしも、紂王の無道なるに由り、官を辭し去りて、諸侯に遊說し、知遇を得ず、終に西行して、周の西伯に歸依すと、

【字解】博聞、達識なり、遇、知遇なり、卒、終なり、

或曰、呂尙處士、隱海濱、周西伯拘羑里、散宜生閎夭、素知而招呂尙、呂尙亦曰、吾聞西伯賢、又善養老、盍往焉、三人者爲西伯求美女奇物、獻之於紂、以贖西伯、西伯得以出反國、言呂尙所

祖嘗爲四嶽、佐禹平水土、甚有功、虞夏之際、封於呂、或封於申、姓姜氏、

【講義】太公望呂尙は、東海上の人なり、其の先祖は、嘗て四嶽と爲り、禹を佐けて水土を治め、大功有り、虞舜夏禹の時代に、呂に封ぜられ、或は申に封ぜらる、姓は姜氏なり、

【字解】太公望、雅號の如きものなり、下の節に詳解有り、呂尙、姜牙なり、姜は姓なり、牙は名なり、呂は其の封土の稱なり、尙は字なり、他人より呼ぶときの名なり、東海上、今の山東の海邊なり、四嶽、四岳に同じ、堯舜時代の大臣なり、官名なり、呂、今の河南南陽に在り、申、呂に近き邑なり、

夏商之時、申呂或封枝庶、子孫或爲庶人、尙其後苗裔也、本姓姜氏、從其封姓、故曰呂尙、

【講義】夏殷の兩時代中に於て、申呂の兩地より出でたる姜氏は、其の支族も封土を賜ひたること有り、其の子孫、或は普通の民に零落したり、呂尙は其の後裔なり、本姓は姜氏なるも、其の封土に從ひて、之を姓とす、故に呂尙といふ、

【字解】枝庶、側室の子にて、支族なり、庶人、平民なり、苗裔、子孫なり、

呂尙、蓋嘗窮困、年老矣、以漁釣奸周西伯、西伯將出獵、卜之、曰、所獲、非龍非彲、非虎非羆、所獲、霸王之輔、

【講義】呂尙は、蓋し嘗て窮困して年老いたり、漁釣して周に入り、其の國主たる西伯の知遇を求む、西伯は獵せんとして、其の吉凶を龜卜に問ふ、其の兆に曰く、其の獲る所は、龍に非ず彲に非ず、虎に非ず羆に非ず、霸王の輔佐と爲るべきものを獲べしと、

【字解】奸、求むるなり、知遇を求むること、卜、龜を

之言、自令陷此、遂自剄死、越王滅吳、誅太宰嚭、以爲不忠、而歸、

【講義】越王句踐は、吳王夫差を甬東に遷さんと欲す、且つ之に百家の邑を與へんと欲す、吳王辭謝して曰く、余は老いたり、君王に事ふる能はず、余は伍子胥の言を用ひず、越を存して自から此の禍に陷らしめたるを悔ゆと、遂に自殺す、越王は吳を滅し、太宰嚭を誅す、之を不忠と認めたるなり、斯くして吳を領有し、凱旋す、

【字解】甬東、越の東鄙なる甬江の東に在り、地名なり、孤、諸侯の自分を指す謙稱なり、剄、刎なり、

太史公曰、孔子言、太伯可謂至德矣、三以天下讓、民無得而稱焉、余讀春秋古文、乃知中國之虞與荊蠻句吳兄弟也、延陵季子之仁、心慕義無窮、見微而知清濁、嗚呼又何其閎覽博物君子也、

【講義】太史公曰く、孔子言ふ、太伯は至極の德と謂ふべし、三たび天下を以て其の弟に讓りたるも、之を世間に公言せず、故に民は其の德行を傳說すること無しと、余は春秋の古文を讀みて、乃ち中國の虞と、荊蠻の吳と、本來兄弟の國なるを知る、太伯は長兄にして、周に君臨せず、遠く夷の地に隱る、以て其の至德を見るべし、延陵の季子は、仁心殊に深し、義を慕ひて窮り無し、事の微細なるを見て、其の清濁の分る所を知る、嗚呼何ぞ其れ博覽なるや、蓋し博物の君子なり、

【字解】春秋、春秋の經を稱す、閎、博きなり、

齊太公世家第二

太公望呂尙者、東海上人、其先

【字解】長、盟の席に於て第一に血を歃るものなり、姫、周の王の姓なり、

呉王已盟、與晉別、欲伐宋、太宰嚭曰、可勝而不能居也、乃引兵歸國、國亡太子、內空、王居外久、士皆罷敝、於是乃使厚幣、以與越平、

【講義】呉王は既に盟を畢りて、定公と別れ、宋を伐たんと欲す、太宰嚭曰く、宋を攻めて勝つを得べし、然れども、我軍は久しく居る能はずと、呉王乃ち兵を引きて歸る、是の時に當り、呉は太子を亡ひ、國內空虛なり、王は國外に在ること久し、士は疲敝して、用を成さず、乃ち使を發し、幣物を厚くして、越と平和を爲す、

【字解】罷、疲なり、幣、贈り物なり、

十五年、齊田常殺簡公、十八年、越益彊、越王句踐率兵、使伐敗呉師於笠澤、楚滅陳、二十年、越王句踐復伐呉、二十一年、遂圍呉、二十三年十一月、丁卯越敗呉、

【講義】呉王夫差の十五年に、齊の田常は簡公を殺す、十八年に、越益强し、句踐は兵を率ゐて出で、其の將をして呉軍を笠澤に敗らしむ、此の年に、楚は陳を滅す、二十年に、越王復呉を伐つ、二十一年に、呉の首都を圍む、二十三年十一月丁卯の日に、遂に呉を敗る、

【字解】笠澤、呉の太湖附近の地なり、陳、其の世家の篇に詳解す、

越王句踐、欲遷呉王夫差於甬東、予百家居之、呉王曰、孤老矣、不能事君王也、吾悔不用子胥

十三年、吳召魯衞之君、會於橐皐、十四年春、吳王北會諸侯於黃池、欲霸中國以全周室、

【講義】吳王夫差の十三年に、吳は魯衞の君を召し、橐皐に會す、十四年春、吳王は北征し、諸侯を黃池に會す、蓋し霸業を中國に成し、以て周の王室を安全にせんと欲するなり、

【字解】橐皐、魯の屬領なり、今の安徽廬州府巢縣西北に在り、黃池、一に黃溝とも稱す、今の河南杞縣の西に在り、霸、諸侯の長と爲りて、號令するものなり、

六月戊子、越王句踐伐吳、乙酉、越五千人與吳戰、丙戌、虜吳太子友、丁亥、入吳、吳人告敗于王夫差、夫差惡其聞也、或泄其語、吳王怒、斬七人於幕下、

【講義】其の歲の六月戊子の日に、越王句踐は吳を伐つ、乙酉の日に、越は五千人を以て、吳と戰ふ、丙戌の日に、吳の太子友を虜にす、丁亥の日に、越軍は遂に吳の都に入る、吳人は敗を夫差に告ぐ、夫差は正に中國會盟の地に在り、此の敗報の世間に聞ゆるを恐る、或る人は其の事を漏す、夫差怒り、其の漏洩者七人を幕下に誅殺せり、

七月辛丑、吳王與晉定公爭長、吳王曰、於周室我爲長、晉定公曰、於姬姓我爲伯、趙鞅怒將伐吳、乃長晉定公、

【講義】其の年の七月辛丑の日に、吳王は晉の定公と會盟の長を爭ふ、吳王曰く、周の王室に於て、我は兄の家たり、故に長たりと、定公曰く、周の同姓に於て、吳は子爵たるも、我は伯爵たりと、晉の趙鞅怒り、吳を伐たんと欲す、因て定公を長とし、先づ盟の血を歃らしむ、

き瘠地の如し、之を用ふるに所無し、且つ般の盤庚の誥に曰く、道に背くものは之を伐つべし、存在せしむる勿れと、是れ殷國の興隆したる所以なり、

【字解】 誥、上より下に向ひ、敎へ示す辭なり、顚越、顚墜なり、道に背く亂行なり、遺、生存なり、商、殷國なり、

吳王不聽、使子胥於齊、子胥屬其子於齊鮑氏、還報吳王、吳王聞之、大怒、賜子胥屬鏤之劍、以死、

【講義】 然れども、吳王は子胥の越を伐つ意見を用ひず、子胥を使節として齊に赴かしむ、子胥は其の子を伴ひ行きて、之を齊の權臣たる鮑氏に委託し、還つて使命を復申す、吳王は子胥の爲す所を聞きて大に怒り、之に屬鏤の劍を賜ひ以て死せしむ、

【字解】 屬鏤、利劍の名なり、屬は钃に通ず、刺すなり、鏤は鋼鐵なり、利く鋭き劍といふことなり、

將死、曰、樹吾墓上以梓、令可爲器、抉吾眼、置之吳東門、以觀越之滅吳也、

【講義】 伍子胥は自殺するに臨み、人に告げて曰く、吾の墓上には梓を植ゑよ、以て棺の材と爲るを致せよ、吾眼を抉り取りて、之を吳の東門に置けよ、吾は以て越軍の來りて吳を滅するを觀るべしと、

【字解】 梓、アカメカシハと讀む、檜或は櫝の類なり、棺に造る材なり、之を樹うるは、吳王の死を期して、棺の材を備へ置くなり、

齊鮑氏弑齊悼公、吳王聞之、哭於軍門外三日、乃從海上攻齊、齊人敗吳、吳王乃引兵歸、

【講義】 齊の鮑氏は、其の君悼公を弑す、吳王は之を聞き、軍門の外に哭する三日にして、海上より齊を攻め、我軍敗る、乃ち兵を引きて歸る、

季康子使子貢以周禮說太宰嚭、乃得止、因畱略地於齊魯之南、

【講義】然れども、吳王夫差は子胥の諫を聽かず、遂に北征して齊を伐ち、艾陵に戰ひ、齊を破りて繒縣に至り、魯の哀公を召して、百牢の大饗を徵求す、更に魯の重臣季康子を召す、季康子は子貢を使として、周禮を述べ、吳の太宰伯嚭に辭謝して、赴かざるを得たり、夫差は是等の事に因りて留り、地を齊魯の南疆に侵略するに至れり、

【字解】艾陵、齊の地なり、繒、魯の地なり、今の琅邪の繒縣なり、百牢、大饗なり、牢は牛羊豕なり、周禮に依れば、天子十二牢、公九牢、伯七牢、男五牢とす、吳が百牢を徵求するは暴慢なり、此の二節は、左傳の哀公七年に詳なり、

九年、爲騶伐魯至、與魯盟、乃去、十年、因伐齊而歸、十一年、復北伐齊、越王句踐、率其衆以朝吳、厚獻遺之、吳王喜、

【講義】吳王夫差の九年に、夫差は騶國の爲めに魯を伐ち、魯に入り盟ひて去る、十年に、魯の盟に因り、齊を伐ちて歸る、十一年に、復北征して齊を伐つ、越王句踐、其の民衆を率ゐて、吳に入朝し、厚く獻上物を呈す、吳王滿悅す、

【字解】騶、邾なり、邾は後に鄒に改む、鄒を騶とも書す、騶をチユと讀むも可なり、今の山東兗州府鄒縣なり、

唯子胥懼曰、是棄吳也、諫曰、越在腹心、今得志於齊、猶石田無所用、且盤庚之誥、有顚越勿遺、商之以興、

【講義】獨り伍子胥は越の厚贈を懼れて曰く、是れ吳を棄て亡すなり、乃ち吳王を諫めて曰く、越は腹心の疾患に在り、今や吾君は志を齊に得るも、是れ石多

【講義】伍子胥更に其の說を續けて曰く、今や吳は有過氏の彊大なるに及ばず、而も越は少康の國よりも大なり、今此の勝に因りて越を滅せず、更に之を寬容せんとす、是れ吳に取りて難事に非ずや、且つ越王句踐は、其の性質能く辛苦す、今に於て誅滅せざるときは、後日必らず之を悔恨せんと、

吳王不聽、聽太宰嚭、卒許越平、與盟而罷兵去、

【講義】然れども、吳王夫差は、伍子胥の諫を聽かず、首相伯嚭の說を用ひて、終に越に平和を許し、相與に盟ひて兵を罷め、退去せり、

七年、吳王夫差、聞齊景公死、而大臣爭寵、新君弱、乃興師、北伐齊、

【講義】吳王夫差の七年に、夫差は齊の景公死して、大臣權寵を爭ひ、新君尚幼少なりと聞く、乃ち軍を興し、北に進みて齊を伐つ、

【字解】寵、君の恩寵に依りて權を振ふなり、弱、幼少なり、

子胥諫曰、越王句踐、食不重味、衣不重采、弔死問疾、且欲有所用其衆、此人不死、必爲吳患、今越在腹心疾、而王不先、而務齊、不亦謬乎、

【講義】伍子胥諫めて曰く、今や越王句踐は、食に味を重ねず、衣に采を重ねず、身は儉素を守り、人に向ひては、死者を弔ひ、病者を慰問し、且つ其民を用ふる所有らんと欲す、此の越王にして死せざるときは、必らず吳の患害と爲らん、今や越は吳の腹心の疾病たり、而るに吾君は先に越を圖らずして、齊を務む、是れ謬に非ずやと、

吳王不聽、遂北伐齊、敗齊師於艾陵、至繒、召魯哀公而徵百牢、

以伐斟尋、滅夏后帝相、帝相之妃后緡方娠、逃於有仍、而生少康、少康爲有仍牧正、

【講義】伍子胥諫めて曰く、古昔夏后氏の世に、斟灌と斟尋とは夏后の同姓なり、有過氏は斟灌を殺し、斟尋を伐ち、遂に夏后の帝相を滅す、帝相の妃なる后緡は妊娠中なり、因て其の生家なる有仍に逃れ、少康を生む、少康長じて有仍國の牧民長官と爲る、

【字解】牧正、牧民の長なり、民政長官なり、

有過又欲殺少康、少康奔有虞、有虞思夏德、於是妻之以二女、而邑之於綸、有田一成、有衆一旅、後遂收夏衆、撫其官職、使人誘之、遂滅有過氏、復禹之績、祀夏配天、不失舊物、

【講義】伍子胥尙進み說いて曰く、有過氏更に少康を殺さんと欲す、少康は有虞氏に奔る、有虞氏は夏后の德を思ひ、其の女二人を以て少康の妻と爲し、其の領地の中より綸の邑を割きて、之を少康に與ふ、是に於て少康は、田十里四方あり、兵五百人有り、後遂に夏后の遺民を收合し、其故の官職を整へて、之を舊臣に授け、人をして有過氏を誘せしめて、之を誅滅し、高祖禹王の功績を恢復し、夏后の宗廟を祀り、其の身は天命を受けて、天子と爲り、夏后の舊物たる領地萬端を保有するを得たり、

【字解】有虞、帝舜の後裔なり、今の河南歸德府虞城縣なり、成、田十里四方なり、旅、五百人なり、配天、天命を受けて天子と爲るなり、

今吳不如有過之彊、而句踐大於少康、今不因此而滅之、又將寬之、不亦難乎、且句踐爲人能辛苦、今不滅、後必悔之、

闔廬使立太子夫差、謂曰、爾而忘句踐殺汝父乎、對曰、不敢、三年乃報越、

【講義】闔廬は死に臨み、太子夫差を立て君と爲らしめ、之に告げて曰く、爾よ、汝は句踐が汝の父を殺せしを忘れたるかと、夫差對へて曰く、敢て忘れず、三年を過ぎずして、乃ち越に報復せんと、

【字解】爾、汝なり、而、汝なり、汝汝を連呼したるは、意の迫りたるを寫すなり、左傳は、夫差而の三字に作る、亦同義なり、

王夫差元年、以大夫伯嚭爲太宰、習戰射、常以報越爲志、二年、吳王悉精兵以伐越、敗之夫椒、報姑蘇也、

【講義】吳王夫差の元年に、大夫伯嚭を以て太宰と爲し、戰射を練習し、越に報復するを以て志と爲す、二年に、夫差は精兵を悉して越を伐ち、之を夫椒に破る、姑蘇の役に報いたるなり、

【字解】大夫、重職なり、太宰、首相なり、夫椒、越の地なり、姑蘇、前節に在り、

越王句踐、乃以甲兵五千人、棲於會稽、使大夫種因吳太宰嚭而行成、請委國爲臣妾、吳王將許之、

【講義】越王句踐、乃ち武裝の卒五千人を率ゐて、會稽山に屏居し、越の大夫種を特使として、吳の首相伯嚭に賴み、平和を請はしめ、其の國を吳に委せ、其の身を吳の臣とし、其の妻を吳の妾と爲さん ことを願ひ出づ、吳王は之を許さんとす、

【字解】棲、鳥の林に在る如く屏居するなり、會稽、越の山なり、今の浙江紹興府會稽縣の東南に在り、成、平和なり、

伍子胥諫曰、昔有過氏、殺斟灌、

て郢に復るを得たり、因て夫槩を封じて、堂谿の地を與ふ、其の子孫は堂谿氏と爲る、

【字解】交、秦は西より、越は東より、前後相挾みて、吳兵を攻む、其の交代して擊つをいふ、堂谿、楚の屬邑なり、今の河南汝寧府遂平縣の西に在り、

十一年、吳王使太子夫差伐楚取番、楚恐而去郢、徙都、十五年、孔子相魯、

【講義】吳王闔廬の十一年に、闔廬は太子夫差をして楚を伐たしめ番を取る、楚は恐れて其の首都を郢より鄀に遷す、十五年に、孔子は魯に宰相たり、

【字解】番、左傳には潘に作る、同地なり、楚の屬邑なり、鄀、今の湖北襄陽府宜城縣の東南に在り、

十九年夏、吳伐越、越王句踐迎擊之檇李、越使死士挑戰、三行造吳師、呼自剄、吳師觀之、越因伐吳、敗之姑蘇、傷吳王闔廬指、軍却七里、吳王病傷而死、

【講義】吳王闔廬の十九年夏、吳は越を伐つ、越王句踐は、吳軍を檇李に逆擊す、吳は備を堅くして動かず、是に於て越は奇計を運らし、決死の士三列を出し、挑戰せしむ、其の三列の死士は、前列が先づ往き、中列及び後列は相次ぎて往き、吳軍の前に到り、自から吳軍に謝する事を大聲し、吾手を以て吾頸を刎ぬ、自殺すること演藝の如し、吳の衆は怪みて之を視る、越は此の隙に乘じ、吳軍を伐ち、大に之を破り、追ひて姑蘇に至る、吳王闔廬は、此の激戰に指を傷ひ、軍の退却すること七里にして、傷を病み死せり、

【字解】檇李、スキリと讀む、吳の邑なり、今の浙江嘉興府嘉興縣の南に在り、吳の來侵を聞きて越より進み入り、此の地に會戰したるなり、挑、誘ひ出すなり、三行、三列なり、每列に死士數人有り、剄、刎なり、姑蘇、吳の王城の地なり、今の江蘇蘇州府吳縣に在り、

鄖、鄖公弟欲弒昭王、昭王與鄖公奔隨、而吳兵遂入郢、子胥伯嚭鞭平王之尸、以報父讎、

【講義】是に於て、闔廬は勝に乘じて兵を縱ち追擊し、楚の首都なる郢に至るまでに五戰し、楚は五敗す、楚の昭王は逃げて、郢を出で鄖に奔る、鄖公の弟は昭王を弒せんと欲す、昭王は鄖公と共に隨に奔る、而して吳兵は遂は郢に入る、子胥伯嚭は、楚の平王の墓を發き、其の屍を出し、之を鞭ち、以て子胥が父の讐に報復せり、

【字解】比、迨ぶなり、迄なり、鄖、楚の屬縣なり、今の湖北鄖陽府鄖縣なり、隨、楚の屬國なり、今の湖北德安府隨州なり、

十年春、越聞吳王之在郢國空、乃伐吳、吳使別兵擊越、楚告急秦、秦遣兵救楚、擊吳、吳師敗、

【講義】吳王闔廬の十年春、越は吳王の楚に在りて其の國の空虛なるを聞き、乃ち吳を伐つ、吳は兵を分ちて越を擊たしむ、楚は使を走せて危急を秦に告ぐ、秦は兵を遣り楚を救ひ吳を擊つ、吳の軍は敗れたり、

闔廬弟夫槩、見秦越交敗吳、吳王留楚不去、夫槩亡歸吳、而自立爲吳王、闔廬聞之、乃引兵歸、攻夫槩、夫槩敗奔楚、楚昭王乃得以九月復入郢、而封夫槩於堂谿、爲堂谿氏、

【講義】闔廬の弟なる夫槩は、秦と越とが東西より吳を破り、吳王が楚に留り去らざるを見て、乃ち楚より逃げて吳に歸り、自立して吳王と爲る、闔廬は之を聞き、乃ち兵を引き歸り、夫槩を攻めて之を破る、夫槩走りて楚に入る、楚の昭王乃ち其の年の九月を以

巣縣なり、

九年、呉王闔廬謂伍子胥孫武曰、始子之言、郢未可入、今果如何、二子對曰、楚將子常貪、而唐蔡皆怨之、王必欲大伐、必得唐蔡乃可、闔廬從之、悉興師、與唐蔡西伐楚、至於漢水、楚亦發兵拒呉、夾水陳、

【講義】呉王闔廬の九年に、闔廬は伍子胥孫武に謂ひて曰く、曩に子は楚の首都未だ入るべからずと言へり、今果して如何、兩人對へて曰く、楚の將軍子常は貪ること甚し、唐蔡の兩國は皆子常を怨む、故に王必らず大に楚を伐たんとは欲せば、必ず唐蔡の同意を得て、然る後に可なりと、闔廬其の計を用ひ、唐蔡と聯合して西に進み、楚を伐ち漢水に至る、楚も兵を發して呉を拒ぎ、水を挾みて對陳す、

【字解】郢、楚の首都なり、唐、今の湖廣德安府唐城鎭なり、蔡、時代に依り其の地を異にす、管蔡世家に詳錄す、

呉王闔廬弟夫槩、欲戰、闔廬弗許、夫槩曰、王已屬臣兵、兵以利爲上、尚何待焉、遂以其部五千人、襲冒楚、楚兵大敗走、

【講義】闔廬の弟夫槩は戰はんと欲す、闔廬は許さず、夫槩曰く、王は既に臣に兵を屬せり、兵は利を以て上と爲す、今や戰に利有るを知る、尚何を待たんと、遂に其の部屬の五千人を率ゐて、楚を襲擊す、楚兵は大に敗走す、

【字解】襲冒、襲ひ擊つなり、冒は犯す意と見るべし、

於是、呉王遂縱兵追之、比至郢、五戰、楚五敗、楚昭王亡出郢奔

吳公子燭庸蓋餘二人、將兵遇圍於楚者、聞公子光弒王僚自立、乃以其兵降楚、楚封之於舒、

【講義】　吳の燭庸蓋餘の兩公子は、曩に兵を率ゐて楚を伐ち、楚軍に圍まれて歸るを得ず、今や公子光が王僚を弑して自立すと聞き、其の兵を收めて楚に降る、楚は之を封じて、其の屬邑の舒を與ふ、

王闔廬元年、擧伍子胥爲行人、而與謀國事、楚誅伯州犂、其孫伯嚭、亡奔吳、吳以爲大夫、三年吳王闔廬與子胥伯嚭、將兵伐楚、拔舒、殺吳亡將二公子、光謀欲入郢、將軍孫武曰、民勞未可、待之、

【講義】　吳王闔廬の元年に、伍子胥を擧げて外交官と爲し、與に國事を謀議す、楚は權臣伯州犂を殺し、其の孫なる伯嚭は逃れて吳に入る、吳は之を用ひて大夫と爲す、三年に闔廬は子胥伯嚭と共に、兵を率ゐて楚を伐ち、其の屬邑なる舒を取り、曩に吳より亡げたる將軍蓋餘燭庸の兩公子を殺す、闔廬は謀りて楚の首都なる郢に入らんと欲す、吳の將軍孫武曰く、民勞る、未だ可ならず、請ふ姑く之を待てと、

【字解】　行人、外交官なり、

四年、伐楚取六與灊、五年伐越敗之、六年楚使子常囊瓦伐吳、迎而擊之、大敗楚軍於豫章、取楚之居巢而還、

【講義】　吳王闔廬の四年に、楚を伐ち六と灊との兩縣を取る、五年に、越を伐ち之を破る、六年に、楚は子常、囊瓦の兩將をして吳を伐たしむ、吳之を逆擊し、大に楚軍を豫章に破り、楚の居巢を取りて還る、

【字解】　豫章、今の南江なり、居巢、今の安徽の廬州

廬、

【講義】 此年の四月丙子の日に、公子光は武裝したる士卒を地下室に伏せ備へ、王僚に請ひて來り飲ましむ、王僚乃ち兵隊を通路に整列せしめ、王宮より光の家に至る、門階戸席は、皆王僚の親近なる者を以て滿たされ、其の人は各雙刃の長劍を持して、王僚の坐席を挾み守る、公子光は佯りて足疾有りといひ、地下室に隱る、乃ち專諸をして短劍を炙りたる魚の中に潛め、以て食を進めしむ、專諸は直に其の短劍を執りて、王僚を刺す、左右の鈹を持したるものより、胸を刺されて、兩鈹は專諸を貫きたるも屈せず、遂に王僚を殺せり、公子光代り立ち王と爲る、是を吳王闔廬とす、

【字解】 窟室、地下室なり、謁、請ふなり、夾持、左右の兩人相挾みて持つなり、本邦の槍襖といふものゝ如し、左傳の昭公二十七年に詳なり、詳、佯なり、專諸、左傳の鱄設諸と同一人なり、匕首、劍の短く鋭きものなり、鈹、雙刃の長く鋭きものなり、匈、胸なり、

闔廬乃以專諸子爲卿、季子至、曰、苟先君無廢祀、民人無廢主、社稷有奉、乃吾君也、吾敢誰怨乎、哀死事生、以待天命、非我生亂、立者從之、先人之道也、復命、哭僚墓、復位而待、

【講義】 闔廬乃ち專諸の功を旌し、其の子を舉げて卿とす、季札歸り至る、闔廬を譏らずして曰く、苟くも先君に對して祭祀を廢せず、民人は國主を廢せず、國土の神に就きては、奉祠する所有り、此の如くなれば、闔廬は吾君なり、吾敢て誰をか怨まん、死者を哀み、生者に事へて、天命を待たんのみ、我は亂を生ずるに非ず、立ちて君たるもの有るときは之に従ふ、先君の道なりと、乃ち使節として外國に赴きたる要務を復命し、王僚の墓に哭し、自分の位置に復りて、君命を待つ、

【字解】 社稷、其の國土の神を祭ることなり、國家の意となる、先人、先君の如し、死去したる父祖なり、

字義相似たるを以て通じ用ふ、六灊、廬江の兩縣の名
なり、灊は潛とも書す、

於是、呉公子光曰、此時不可失、
也、告專諸曰、不索何獲、我眞王
嗣、當立、吾欲求之、季子雖至、不
吾廢也、專諸曰、王僚可殺也、母
老子弱、而兩公子將兵攻楚、楚
絶其路、方今呉外困於楚、而內
空、無骨鯁之臣、是無奈我何、光
曰、我身子之身也、

【講義】是に於て、呉の公子光曰く、此の時機は失ふ
べからずと、乃ち專諸に告げて曰く、索めざる時は
何をか獲ん、吾は眞に王の嗣子なり、吾は王位を求め
んと欲す、吾は位に卽けば、季子還ると雖も、吾を廢
せずと、專諸曰く、王僚は吾手を以て殺すを得べし、
然れども吾は母老いたり、子幼なり、且つ蓋餘燭庸兩
公子は、兵を將ゐて楚を攻め、楚軍に歸路を絶たれた
り、今や呉は外に於て楚に困められ、內に於て空虛な
り、骨鯁柱石の重臣無し、我は王僚を殺すも、我を奈
何にせんと、光曰く、光の身は專諸の身なり、我は必
らず子を保護すべしと、

【字解】弱、幼なり、骨鯁、剛直なり、柱石といふが如
し、堅實忠良の貌なり、

四月丙子、光伏甲士於窟室、而
謁王僚飮、王僚使兵陳於道、自
王宮至光之家、門階戶席、皆王
僚之親也、人夾持鈹、公子光詳
爲足疾、入于窟室、使專諸置匕
首於炙魚之中以進食、手匕首、
刺王僚、鈹交於胸、遂殺王僚、公
子光竟代立爲王、是爲吳王闔

稱するは、其の官廳の在る所を指す、故に城といふが如し、

伍子胥之初犇吳、說吳王僚、以伐楚之利、公子光曰、胥之父兄爲僇於楚、欲自報其仇耳、未見其利、於是伍員知光有他志、乃求勇士專諸、見之光、光喜、乃客伍子胥、子胥退而耕於野、以待專諸之事、

【講義】伍子胥の始めて吳に入るや、王僚に說くに、楚を伐つことの利なるを以てす、公子光曰く、子胥の父兄は楚に誅戮せられたり、因て自分に其の仇を報ぜんと欲するのみ、楚を伐つことは、未だ其の利なるを見ずと、是に於て、子胥は光に謀叛の志有るを知る、乃ち勇士專諸といふものを求め、之を光に見えしむ、光喜びて之を用ひ、子胥を客分として禮遇す、子胥乃ち退きて野人と爲り耕作し、以て專諸の事を成すを待つ、

【字解】犇、奔るなり、僇、戮に同じ、誅死なり、伍員、員は子胥の名なり、

十二年冬、楚平王卒、十三年春、吳欲因楚喪而伐之、使公子蓋餘燭庸以兵圍楚之六灊、使季札於晉、以觀諸侯之變、楚發兵、絕吳兵後、吳兵不得還、

【講義】吳王僚の十二年冬に、楚の平王卒し、十三年春に、吳は楚の喪に因りて、之を伐たんと欲す、乃ち蓋餘と燭庸との兩公子をして兵を率ゐ、楚の六灊兩城を圍ましめ、更に季札を晉に派遣し、以て諸侯の强弱事變を觀察せしむ、是の時に、楚は兵を發して吳兵の後を絕ち、吳兵は還るを得ず、兩公子は窮地に陷る、

【字解】蓋餘、左傳の掩餘と同一人なり、掩も蓋とは

賢士、欲以襲王僚、

【講義】呉王僚の二年に、公子光は楚を伐ち、敗走して呉王の舟を亡ひ、乃ち懼れて楚を襲ひ、呉王の舟を獲て還る、五年に、楚の亡臣伍子胥は、身を呉に投ず、公子光は伍子胥を引きて客とす、公子光は呉王諸樊の子なり、常に謂ふ、吾父の兄弟四人相傳へて、季札に至るべき豫定なり、其の初めに季札は國を受けず、吾父先づ立てり、季札に傳へざるときは、吾の立つを當然とすと、乃ち陰密に賢士を招き納れ、王僚を襲はんと欲す、

八年、呉使公子光伐楚、敗楚師、迎楚故太子建母於居巢、以歸、因北伐、敗陳蔡之師、

【講義】呉王僚の八年に、呉は公子光をして楚を伐たしめ楚兵を破る、遂に楚の故の太子建の母を居巢より迎へ取りて歸る、因て北伐して、陳蔡兩國の軍を破る、

【講義】太子建、楚の世家に詳解あり、

九年、公子光伐楚、拔居巢鍾離、初楚邊邑卑梁氏之處女、與呉邊邑之女爭桑、二女家怒相滅、兩國邊邑長聞之、怒而相攻、滅呉之邊邑、呉王怒、故遂伐楚、取兩都而去、

【講義】呉王僚の九年に、公子光は楚を伐ち、居巢と鍾離との兩都を拔く、是より以前に、楚の東邊の縣なる卑梁氏の處女と、呉の西邊の縣の女と、桑の葉を摘むことに就きて、爭端を開き、兩女の家族は、互に怒りて相滅す、呉楚兩國の邊縣の長官も、之を聞き怒りて相攻め、遂に呉の邊縣を滅す、呉王は之を怒る、故に楚を伐ち、居巢と鍾離とを取りて去る、

【字解】邑、縣なり、都、城なり、都邑と連稱して、邑よりも大なるを都とするは通例なれども、邑を都と

復來伐、次於乾谿、楚師敗走、

【講義】呉王餘祭の七年に、楚の公子圍は、其の王夾敖を弑して代り立つ、是を靈王とす、十年に、靈王は諸侯を會して、呉の朱方縣を伐ち、其の縣を領じたる齊の慶封を誅殺せり、呉も楚を攻めて、三縣を取り去る、十一年に、楚は呉を伐ち雩婁に至る、十二年に、楚は復來り伐ち、其の東境の乾谿に次る、楚師敗走す、

十七年、王餘祭卒、弟餘昧立、王餘昧二年、楚公子弃疾弑其君靈王代立、焉四年王餘昧卒、欲授弟季札、季札讓逃去、

【講義】呉王餘祭の十七年に、餘祭卒去し、弟餘昧立つ、呉王餘昧の二年に、楚の公子弃疾は其の君靈王を弑し代り立つ、四年に餘昧卒去し、國を弟季札に授けんと欲す、季札は之を讓りて逃れ去る、

於是、呉人曰、先王有命、兄卒、弟代立、必致季子、季子今逃位、則王餘昧後立、今卒、其子當代、乃立王餘昧之子僚爲王、

【講義】是に於て、呉人皆曰く、先王は遺命して、兄死すれば弟代り立ち、必らず國を季札に致せと云へり、然るに季札は位を逃れたり、餘昧は後に立ちて卒去せり、其の子は代り立つべしと、乃ち餘昧の子僚を立て呉王とす、

王僚二年、公子光伐楚、敗而亡王舟、光懼、襲楚、復得王舟而還、五年、楚之亡臣伍子胥來奔、公子光客之、公子光者、王諸樊之子也、常以爲吾父兄弟四人、當傳至季子、季子卽不受國、光父先立、卽不傳季子、光當立、陰納

必思自免於難、

【講義】季札は晉に適き趙文子韓宣子魏獻子に說きて曰く、晉國の政權は其れ三家に歸せんかと、其の去るに臨み、晉の名臣叔向に謂ひて曰く、吾子其れ勉めよ、晉國は君侈りて賢良多し、大夫は皆富む、其の國政は韓魏趙の三家に歸せんとす、吾子は剛直なり、曲に從ふ能はず、必らず自から災難より免る道を思ふべし、然らざれば危しと、

【字解】萃、聚るなり、政事萬機の聚り歸する意なり、

季札之初使北、過徐君、徐君好季札劍、口弗敢言、季札心知之、爲使上國、未獻、還至徐、徐君已死、於是乃解其寶劍、繫之徐君冢樹而去、從者曰、徐君已死、尚誰予乎、季子曰、不然、始吾心已許之、豈以死倍吾心哉、

【講義】季札の初め使するときに、北して徐國を過す、徐の君は季札の劍を好み、未だ之を言はず、季札は心に之を知る、然れども天子の都近き國國に使する途中なるを以て、其劍を贈らず、使事を畢りて還り、徐に至れば、徐君は既に死せり、是に於て、劍を解き、之を徐君の冢の樹に繫けて去る、其の從者曰く、徐君は死せり、尙誰に與ふるかと、季札曰く、然らず、吾の心は始めに與ふることを許せり、徐君は死せりと雖も、何ぞ吾心の許す所に背くべけんやと、

【字解】徐、江蘇徐州なり、上國、天子の都に近き諸國なり、中國、或は上方なり、倍、背くなり、

七年、楚公子圍弑其王夾敖而代立、是爲靈王、十年楚靈王會諸侯、而以伐吳之朱方、以誅齊慶封、吳亦攻楚、取三邑而去、十一年楚伐吳、至雩婁、十二年、楚

と、

去鄭適衞、說蘧瑗、史狗、史鰌、公子荊、公叔發、公子朝、曰、衞多君子、未有患也、

【講義】季札は鄭を去り衞に適く、衞の名臣蘧瑗、史狗、史鰌、公子荊、公叔發、公子朝に說きて、曰く、衞は君子多し、未だ患難有らずと、

自衞如晉、將舍於宿、聞鐘聲曰、異哉、吾聞之、辯而不德、必加于戮、夫子獲罪於君、以在此、懼猶不足、而又可以畔乎、夫子之在此、猶燕之巢于幕也、君在殯、而可以樂乎、遂去之、文子聞之、終身不聽琴瑟、

【講義】季札は衞より晉に赴かんとす、途中に宿す、衞の權臣孫文子の領地たる戚の縣なり、忽ち音樂の鐘聲を聞く、季札曰く、異なるかな、吾聞く、辯舌有りて、德行有らざる時は、必らず刑戮に加へらると、今や孫文子は罪を君に獲て、此の縣に在り、恐懼して愼むも猶足らず、而も又以て畔くべけんや、孫文子の此に在るは、燕が其の巢を出で幕に巢ふが如し、甚だ危し、衞君に薨去して假葬中に在り、其の臣たるもの、豈に音樂に娛むべけんやと、遂に去る、孫文子は之を聞きて、終身琴瑟を聽かず、

【字解】如、赴くなり、宿、戚の音に通ず、戚と見て可なり、戚縣に舍る意なり、夫子、尊稱なり、殯、カリモガリと訓ず、遺體を棺に收めて未だ葬らざるもの、瑟、琴に似て十九絃或は二十七絃の樂器なり、

適晉、說趙文子、韓宣子、魏獻子、曰、晉國其萃於三家乎、將去、謂叔向曰、吾子勉之、君侈而多良、大夫皆富、政將在三家、吾子直、

【講義】季札は更に夏禹の舞曲なる大夏の舞を觀る、曰く、身から勤めて民を治め而も之を德と謂はず、禹王の如き德有るものに非んば、誰か能く之に及ばんと、互に帝舜の舞曲なる招箾の舞を觀る、曰く、德至れるかな大なり、天の覆はざる無きが如く、地の載せざる無きが如し、甚だ盛德のものと雖も、以て此上に加ふる能はず、舞を觀ることは是にて絕頂なり、若し此の他の舞樂有るも、吾は此の外に觀ることを敢へてせずと、

【字解】燾、幬ふなり、覆ふこと、觀止、觀ることの最上なり、極度なり、

去魯、遂使齊、說晏平仲曰、子速納邑與政、無邑無政、乃免於難、齊國之政、將有所歸、未得所歸、難未息也、故晏子因陳桓子、以納政與邑、是以免於欒高之難、

【講義】斯くして、季札は魯を去り、遂に齊に使す、乃ち齊の相公たる晏平仲に說きて、曰く、子は速に其の領地と政權とを返上せよ、然るときは、災難より免るべし、齊國の政は、歸依する所有らんとす、其の歸依する所を得ざる間に於ては、災難未だ終止せずと、故に晏子は陳桓子に因り、其の領地と政權とを返上せり、是を以て、欒施高彊の亂に於ける災難より免れたり、

【字解】邑、縣なり、領地なり、納、君に返上するなり、

去齊、使於鄭、見子產、如舊交、謂子產曰、鄭之執政侈、難將至矣、政必及子、子爲政、愼以禮、不然、鄭國將敗、

【講義】季札は齊を去り鄭に使す、鄭の賢臣子產に面會す、一見して舊交の如し、子產に謂ひて曰く、鄭の政權を執るもの侈る、故に災難は至らんとす、政權は必らず子に歸せん、子は政を爲さば、愼みて禮を行へ、然らずんば上下は序を失ひ、鄭國は敗れんとす

有序、盛德之所同也、

【講義】更に頌を歌はしむ、季札曰く、中和の道は、備り至れるかな、直なるも倨らず、曲なるも詘まず、近きも偪らず、遠きも攜はず、遷るも淫荒ならず、復るも嫌厭せず、哀むも愁へず、樂むも荒まず、用ふるも匱しからず、廣きも宣べず、施すも費さず、取るも貪らず、處るも底まらず、行くも流れず、宮商角徵羽の五聲和同し、八方の風氣平均す、節するに法度有り、守るに秩序有り、殷周の盛德相同じき所有るを見るなりと、

【字解】頌、國君の德を神明に告ぐる歌なり、周頌魯頌商頌等是なり、倨、傲るなり、偪、逼るなり、攜、貳ひ背くなり、匱、乏しきなり、底、止るなり、

見舞象箾南籥者、曰、美哉猶有憾、見舞大武、曰、美哉周之盛也、其若此乎、見舞韶護者、曰、聖人之弘也、猶有慙德、聖人之難也、

【講義】列國の風を寫したる音樂を聽き畢りて、季札は文王の舞曲なる象箾と南籥との舞を觀る、曰く、美なるかな、文德興起す、然れども未だ廣く施さず、憾み有りと、更に武王の舞曲なる大武の舞を觀る、曰く、美なるかな、周道の盛なること、其れ此の如きかと、更に殷湯の舞曲なる韶護の舞を觀る、曰く、是れ弘大なるなり、然れども征伐して功を成す、德化に慙づる有り、聖人の世に處する難きなり、

【字解】象箾南籥、箾は簫なり、簫を吹きて象の曲を舞ひ、籥に和して南の曲を舞ふなり、韶護、韶濩なり、

見舞大夏、曰、美哉勤而不德、非禹其誰能及之、見舞招箾、曰、德至矣哉、大矣、如天之無不幬也、如地之無不載也、雖甚盛德、無以加矣、觀止矣、若有他樂、吾不敢觀、

處より發端す、故に其の樂に中原廣大の音有り、渢渢、廣大なる貌なり、婉美にして約なり、盟主、諸侯會盟の主權を執るものなり、魏は周の殷に代るに當り、周の同姓を封じたる小國なり、戰國の魏と異なり、故に德を行へば大なるを得べしといふなり、唐、晉國なり、古昔唐堯の都なり、令德、淑德なり、高德なり、

歌陳、曰、國無主、其能久乎、自鄶以下無譏焉、歌小雅、曰、美哉思而不貳、怨而不言、其周德之衰乎、猶有先生之遺民也、歌大雅、曰、廣哉熙熙乎、曲而有直體、其文王之德乎、

【講義】更に陳の篇を歌はしむ、季札曰く、民風荒淫にして、國に主無きが如し、其れ能く久しからんやと、更に鄶より以下の諸篇を歌はしむ、季札は鄶曹諸國の小弱にして、論ずるに足らざるを以て、刺譏する所無し、更に小雅を歌はしむ、季札曰く、美なるかな、民は文武の兩王を思ひて貳叛せず、然れども怨むこと有るも、之を言はず、其れ周德の小にして未だ大ならざるか、中原には猶殷の先王の遺民有りて、未だ周德に化せざるなりと、更に大雅を歌はしむ、季札曰く、廣いかな熙熙として和樂す、婉曲にして剛直の體有り、其れ文王の盛德かと、

【字解】鄶、檜なり檜曹兩國は小弱なり、小雅、大雅と共に周德を稱揚す、小大の兩字は、政事の小大に由る、

歌頌、曰、至矣哉、直而不倨、曲而不詘、近而不偪、遠而不攜、遷而不淫、復而不厭、哀而不愁、樂而不荒、用而不匱、廣而不宣、施而不費、取而不貪、處而不底、行而不流、五聲和、八風平、節有度、守

其先亡乎、歌齊、曰、美哉泱泱乎、大風也哉、表東海者、其太公乎、國未可量也、歌豳、曰、美哉蕩蕩乎、樂而不淫、其周公之東乎、

【講義】更に鄭の篇を歌はしむ、季札曰く、其の民風の細弱なること甚し、民は存在に堪へず、是れ先づ亡びんかと、更に齊の篇を歌はしむ、季札曰く、美なるかな、深くして盛なり、大風なるかな、東海に表式するものは、其れ太公望か、其の國の前途は、未だ量るべからず、或は更に興らんかと、更に豳の篇を歌はしむ、季札曰く美なるかな和にして大なり、樂みて荒淫せず、其れ周公の東征して、亂を鎭するかと、

【字解】泱泱、深大にして雄盛なる貌なり、豳、周の古都なり、今の陝西邠州なり、蕩蕩、廣大にして和樂する意なり、淫、亂なり、

歌秦、曰、此之謂夏聲、夫能夏則大、大之至也、其周之舊乎、歌魏、曰、美哉渢渢乎、大而婉、儉而易行、以德輔此、則盟主也、歌唐、曰、思深哉、其有陶唐氏之遺風乎、不然何憂之遠也、非令德之後、誰能若是、

【講義】更に秦の篇を歌はしむ、季札曰く、此れを夏聲と曰ふ、夫れ夏なれば大なり。中國の音なり、故に大の至りなり、其れ周の舊風かと、更に魏を歌はしむ、季札曰く、美なるかな渢渢たり、廣大にして婉約なり、節儉にして行ひ易し、德を以て此れを輔くるときは、盟主と爲るを得んと、更に唐を歌はしむ、季札曰く、思ひ深いかな、其れ陶唐氏の遺風有るか、然らざれば、何ぞ其の憂ふることの遠きや、高德の後裔にあらざるときは、誰れか能く是の如くならんかと、

【字解】夏、大なり、中國即ち支那の中原本部を夏と稱す、秦の地は、周の舊域なり、周の文事武備は、皆此

今の江蘇鎭江府丹陽縣の南に在り、

王餘祭三年、齊相慶封有罪、自齊來犇吳、吳予慶封朱方之縣、以爲奉邑、以女妻之、富於在齊、

【講義】吳王の餘祭の三年に、齊の宰相たる慶封は罪有りて、吳に逃れ入る、吳は之に朱方縣を與へて、費用を支給する地とす、且つ吳王の女を以て之に婚す、慶封は齊に在りし時よりも富みたり、

【字解】朱方、今の江蘇鎭江の丹徒縣なり、奉邑、費用を支給する領域なり、

四年、吳使季札聘於魯、請觀周樂、爲歌周南召南、曰、美哉始基之矣、猶未也、然勤而不怨、歌邶鄘衛、曰、美哉淵乎、憂而不困者也、吾聞衛康叔武公之德如是、是其衛風乎、歌王、曰、美哉思而不懼、其周之東乎、

【講義】吳王餘祭の四年に、吳は季札を公使として、魯を訪はしめ、周の音樂を觀んと請ふ、魯君は伶人に命じて、周南召南の兩篇を歌はしむ、季札曰く、美なるかな、始めて王室の基を成せり、猶未だ完からず、然れども勤めて怨まずと、更に邶鄘衛の三篇を歌はしむ、季札曰く、美なるかな深し、憂へて困まざるものなり、吾聞く衛の康叔と武公との德は、是の如しと、此の詩は、其れ衛風ならんかと、更に王の篇を歌はしむ、季札曰く、美なるかな、思ひて懼れず、其れ周の都を東に遷すものかと、

【字解】聘、公使の來朝して禮するをいふ、周南召南、詩經の詩題なり、以下の歌ふ所は皆此の例なり、邶鄘衛、三國にして、謂はゆる周の殷に對する管蔡霍三監の國なり、此の三國は、後に衛の一國となる、康叔、衛の始祖なり、

歌鄭、曰、其細已甚、民不堪也、是

國非吾節也、札雖不材、願附於子臧之義、吳人固立季札、季札棄其室而耕、乃舍之、

【講義】 吳王諸樊の元年に、諸樊は既に喪を畢りて、攝政を罷め、王位を季札に讓らんとす、季札は辭退して曰く、曹の宣公の卒去して、新君の立つに當り、諸侯も曹人も、皆均しく新君を不義なりと視て、之を排し、子臧を立てんと謀る、子臧は之を辭し去り、新君の地位を危くせず、故に君子は之を稱揚して、能く節義を守るものと曰へり、夫れ君は長子なり、義に於て嗣たるべし、誰か敢て君を犯さんや、國を領ずるは吾の節に非ず、札は不材なりと雖も、願はくは子臧の義に就かんと、然れども吳人は此の說を聽かず、固く季札を推戴して、君と爲さんとす、季札は其の家室を棄て野に下り、耕作す、吳人乃ち季札の意を容れたり、

【字解】 成、其の業を仕遂るなり、曹の新君を成し遂げしむるなり、君義嗣、君は諸樊を指す、義嗣は正統の嗣子なり、

秋、吳伐楚、楚敗我師、四年晉平公初立、十三年王諸樊卒、有命授弟餘祭、欲傳以次、必致國於季札而止、以稱先王壽夢之意、且嘉季札之義、兄弟皆欲致國令以漸至焉、季札封於延陵、故號曰延陵季子、

【講義】 其の年の秋に於て、吳は楚を伐ち、楚は吳軍を破る、諸樊の四年に、晉の平公初めて立ち、諸樊は位に在る十三年にして卒去す、遺命して國を弟の餘祭に授け、順次に弟に傳へ、必らず季札を吳王と爲して、先王壽夢の意に稱へんと欲す、且つ兄弟皆季札の節義を嘉し、國を讓り、漸次に主權を授けて、季札に至らしめんと欲す、季札は延陵を封土として與へらる、故に延陵の季子と號す、

【字解】 致、授與することなり、延陵、吳の屬邑なり、

使吳、教吳用兵乘車、令其子爲吳行人、吳於是始通於中國、吳伐楚、十六年楚共王伐吳、至衡山、

【講義】 吳王たる壽夢が、卽位の第二年に當り、楚國の大夫にて申公たる巫臣は、楚の將軍子反を怨むこと有り、出奔して晉に入り、晉の命を受けて吳に使し、吳人に敎ふるに兵を用ふると、及び車に乘るとを以てす、且つ其の子を吳に仕へしめ、外交の官職を執らしむ、吳は是に始めて中國に通ず、既にして吳は楚を伐つ、壽夢の十六年に、楚の共王は吳を伐ち、衡山に至る、

【字解】 亡大夫、其の出奔の時は大夫なり、後に之を稱して亡大夫といふのみ、大夫は諸侯の重臣なり、犇、奔るなり、行人、外交官なり、

二十五年王壽夢卒、壽夢有子四人、長曰諸樊、次曰餘祭、次曰餘昧、次曰季札、季札賢、而壽夢欲立之、季札讓不可、於是乃立長子諸樊、攝行事當國、

【講義】 吳王壽夢は、卽位の第二十五年に卒去し、諸樊、餘祭、餘昧、季札の四子あり、末子の季札は賢なり、壽夢は之を嗣と爲さんと欲せしも、季札は辭退せり、因て長子の諸樊を立て、假りに國事を執り行ひ、國に君臨せしむ、

【字解】 攝行、假りに執行するなり、國主の病中、或は喪中に於て、攝政する意なり、

王諸樊元年、諸樊已除喪、讓位季札、季札謝曰、曹宣公之卒也、諸侯與曹人不義曹君、將立子臧、子臧去之、以成曹君、君子曰、能守節矣、君義嗣、誰敢干君、有

夷卒、子餘橋疑吾立、餘橋疑吾卒、子柯盧立、柯盧卒、子周繇立、周繇卒、子屈羽立、屈羽卒、子夷吾立、夷吾卒、子禽處立、禽處卒、子轉立、轉卒、子頗高立、頗高卒、子句卑立、

【講義】周章より熊遂、柯相、彊鳩夷、餘橋疑吾、柯盧、周繇、屈羽、夷吾、禽處、轉、頗高を經て、句卑に至る、

是時、晉獻公滅周北虞公、以開晉伐虢也、句卑卒、子去齊立、去齊卒、子壽夢立、壽夢立而吳始益大、稱王、自太伯作吳五世、而武王克殷、封其後爲二、其一虞在中國、其一吳在夷蠻、十二世、而晉滅中國之虞、中國之虞滅、二世而夷蠻之吳興、大凡從太伯至壽夢、十九世、

【講義】是の時に、晉の獻公は、周北の虞公を滅せり、是れ虞公が晉の爲めに軍隊の通路を開きて、其の虢國を伐つに便ならしめ、遂に自から晉兵を速くに至れるなり、句卑より去齊を經て、壽夢に至り、吳は始めて大國と爲り、王と稱す、是より先き、太伯が吳國を建てゝ五世に及ぶ時に、周武は殷紂に代りて、天子と爲り、太伯の後裔を二國に封じ、其一を虞と稱し、中國に在り、其の一を吳と稱し、夷蠻に在り、十二世を經て、晉は虞を滅し、後二世にして吳興る、故に太伯より壽夢に至る、凡そ十九世なり、

王壽夢二年、楚之亡大夫申公巫臣、怨楚將子反而犇晉、自晉

立ちて、文王となる、

【字解】 犇、奔るなり、荊蠻、南方の夷地を總稱す、吳楚一帶を指していふなり、文身斷髮、夷の風俗なり、文は刺青の類にて、皮膚を飾るなり、

太伯之犇荊蠻、自號勾吳、荊蠻義之、從而歸之千餘家、立爲吳太伯、太伯卒、無子、弟仲雍立、是爲吳仲雍、仲雍卒、子季簡立、季簡卒、子叔達立、叔達卒、子周章立、是時周武王克殷、求太伯仲雍之後、得周章、周章已君吳、因而封之、乃封周章弟虞仲於周之北故夏虛、是爲虞仲、列爲諸侯、

【講義】 太伯の東南に走るや、遂に居る所を勾吳と號して、國を成せり、東南の夷は、其の義に感じて、之に歸依するもの千餘家有り、太伯は其の主と爲りて、吳の太伯と稱せらる、其の後に仲雍季簡叔達を經て、周章に至る、是の時に姬周の武王は、殷を伐ちて、中國に君臨す、乃ち太伯仲雍の後裔を求めて、周章を得たり、周章は既に吳に君たる以て、之を封じて、其の地の主と定め、更に周章の弟虞仲を、周の北方なる昔時夏王の城墟に封じ、其の地の王と爲す、是を虞國と稱す、列して諸侯たり、

【字解】 犇荊蠻、前節に說明す、勾吳、吳といふに同じ、夷音に於て、吳を發聲するに勾の音を冠するなり、越を於越と稱するが如し、克、敵を伐ち、其の渠魁を獲たるなり、虞仲、名に非ず、虞は國名なり、仲は第二子の稱なり、故夏虛、昔時夏王の城墟なり、故は昔なり、虛は墟なり、封、領地を定めて、其の王を建つるなり、

周章卒、子熊遂立、熊遂卒、子柯相立、柯相卒、子彊鳩夷立、彊鳩

史記國字解第三卷

晩香　菊地三九郎講述

呉太伯世家第一

呉太伯、太伯弟仲雍、皆周太王之子、而王季歴之兄也、季歴賢、而有聖子昌、太王欲立季歴以及昌、

【講義】呉國の始祖を太伯といふ、蓋し姫周の太王に三子あり、長を太伯といひ、次を仲雍といひ、季を季歴といふ、三子皆賢なれども、季歴は最も優れたり、季歴に子有り、昌といふ、生れて聖人たる可き瑞兆有り、太王乃ち季歴を立てゝ嗣子と爲し、以て昌に傳承せしめんと欲す、

【字解】呉、支那南方の國名なり、今の江蘇蘇州とす、太伯、名に非ず、長子なるを以て、尊稱したるのみ、仲雍、次子なるを以て、仲の字を附す、雍は名なり、本紀に虞仲と稱するも同一人なり、王季歴、末子なるを以て、季と稱す、歴は名なり、歴は姫周の正統を嗣ぎたるを以て、王の字を冠したるなり、

於是、太伯仲雍二人、乃犇荊蠻、文身斷髮、示不可用、以避季歴、季歴果立、是爲王季、而昌爲文王、

【講義】太伯と仲雍とは、太王の此の志有るを察して、東南の遠き夷の地へ走り去り、皮膚に入墨し、頭髮を斷り、夷俗の風と爲り、周の王家に用ふべき資格無きを示し、以て其の家國を弟の季歴に讓りたり、季歴は遂に太王に嗣ぎて、王季と稱せられ、其の後に昌

史記國字解第三卷　目錄

吳太伯世家第一……一
齊太公世家第二……二九
魯周公世家第三……八四
燕召公世家第四……一三六
管蔡世家第五……一四三
曹叔世家 附……一五四
陳杞世家第六……一五九
陳……一五九
杞……一七一
衞康叔世家第七……一七五
宋微子世家第八……一九九
晉世家第九……二三三
楚世家第十……三三三
越世家第十一……四〇二
鄭世家第十二……四三〇

（目錄終）

DS
748
S745
1919
v.3

第三巻

世家上

呉太伯世家第一より
鄭世家第十二に至る

菊池晩香講述

LIBRARY
NOV 7 1971

史記國字解

三

DS 748 S745 1919 v.3

Ssŭ-ma, Ch'ien
Shiki kokujikai

East Asia

PLEASE DO NOT REMOVE
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY

史記國字解